

授業科目名	成蹊基礎演習 1 / 大学での学びとキャリアを考える				
担当教員名	阿部緑・稲垣貴士・内海涼子・加藤博文・福本章・由良泰人				
学年・コース等	1年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義＋演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

【有意義な大学生活を送るために】
「桃李成蹊」という建学の精神をしっかりと理解し、これからはじまる大阪成蹊大学での4年間の学びと生活をスムーズにスタートさせることがこの授業の目標です。大学では、受け身の姿勢で指示を待つのではなく、自らの意思で計画し、考え、行動するという能動的・積極的な態度が求められます。未来を見据えた充実した有意義な大学生活を送るために、大学生として一人一人の個性に応じた生活と学習の基本態度を身につけ、相手の立場に立って物事を考え、行動できる人間に成長しましょう。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1. 幅広い教養やスキル	基礎的なアカデミックスキル、スチューデントスキルを身につける	ノートテイキング、情報収集の方法、情報リテラシーなどに関する基礎的な知識やスキルを身につける
2．DP1. 幅広い教養やスキル	大学生にふさわしい社会知識の修得	時事問題を理解し、考えるために必要な基礎的な語彙や知識を身につける
汎用的な力		
1．DP5. 計画・立案力		将来の目標を設定し、日々の活動計画を立てる。また、定期的に計画を見直す。
2．DP6. 行動・実践		大学生としての日々の学習習慣・生活習慣を確立する
3．DP10. 忠恕の心		建学の精神を理解し、大学生にふさわしいマナーを身につける

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
シャトルシート	： 毎回記入するシャトルシートへの内容により評価する。授業への取り組み状況、理解度から評価する。
課題（提出物）	： 時事ワークシート等の提出状況から評価する。
授業内小テスト	： 授業内で配布する朝日新聞時事ワークシート（実践ことば力）から出題し、日々の学修の成果を評価する（中間と期末の2回を予定する）
最終レポート	： 15回の授業終了後、学びの総まとめとしてレポートを課す。評価の視点として、授業の理解度、課題設定としての行動計画を明らかにしている点を中心に評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

『大学生生活ナビ』小川芳明監修、玉川大学コア・FYE教育センター編、玉川大学出版部
『大学生からのスタディ・スキルズ』（第3版）学習技術研究会編著、くろしお出版

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

全員が一つの教室で授業を受ける日とクラスに分かれて授業を受ける日があるので注意すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項： 内海涼子：金曜3限 南館3F 研究室2
稲垣貴士：水曜5限 南館2F 情報デザイン研究室
由良泰人：月曜4限 南館2F 情報デザイン研究室
福本章：水曜3限 南館2F 情報デザイン研究室
加藤博文：初日授業にて連絡、南館2F 情報デザイン研究室
阿部 緑：初日授業にて連絡、美術アトリエ棟

授業計画

第1回

大学での学びとは？

高校と大学との違いについて考えます。
また、タイムマネジメントの重要性について理解を深めます。
年間目標を考え、週間計画を立てます。

朝日新聞時事ワークシート「実践ことば力」35・36

授業外学修課題にかかる目安の時間

4時間

第2回	建学の精神と学園内マナー 映像教材を視聴し、グループでの議論を通して学園内マナーについて検討します。また、学園内マナーと関連させて、建学の精神と本学の行動指針について学びます。	朝日新聞時事ワークシート「実践ことば力」37・38	4時間
第3回	グループワークの作法 映像教材を視聴し、グループでの議論を通してグループワークの作法について検討します。また、グループワークの作法と関連させて、建学の精神と本学の行動指針について学びます。	朝日新聞時事ワークシート「実践ことば力」39・40	4時間
第4回	ノートの取り方 大学での学びにおけるノートテイキングの重要性を理解します。具体的にノートを取る実践練習を行います。	朝日新聞時事ワークシート「実践ことば力」41・42	4時間
第5回	大学図書館の活用（合同） 大学図書館の特徴と活用の仕方について学びます。	朝日新聞時事ワークシート「実践ことば力」43・44	4時間
第6回	キャリアについて考える（1）「自己を理解する」（合同） 特別講師 ゲスト講師による連続レクチャー 「楽しく働ける！結果が出る！強みを活かして生きていく方法自己理解編」 ～楽しい自己分析でジブンの強みを知る授業～	朝日新聞時事ワークシート「実践ことば力」45・46	4時間
第7回	キャリアについて考える（2）「協働する力」（合同） 特別講師 ゲスト講師による連続レクチャー 「楽しく働ける！結果が出る！強みを活かして生きていく方法協働編」 ～自己表現とコミュニケーション、伝えあう喜びを知る授業～	朝日新聞時事ワークシート「実践ことば力」47・48	4時間
第8回	実践ことば力習熟度チェック+振り返り+有権者としての心構えについて（合同） 「実践ことば力」の習熟度をチェックします（中間）。これまでの授業全体を振り返り、目標の達成度を確認します。18歳選挙権の導入について学び、有権者として政治に参加する自覚を養いましょう。	朝日新聞時事ワークシート「実践ことば力」既習部分の復習	4時間
第9回	リテラシーとコンピテンシー（PROGテスト解説） 4月入学時に受験したPROGテストの結果の解説を聞き、自己を捉え直します。	朝日新聞時事ワークシート「実践ことば力」49・50	4時間
第10回	食と健康（合同） マネジメント学部伴先生から健康を保つために必要な「食」に関する実践的な知識を学びます。	朝日新聞時事ワークシート「実践ことば力」1・2	4時間
第11回	メディアリテラシー（合同） インターネットやSNSの危険性を知り、メディアを適切に活用する方法を学びます。	朝日新聞時事ワークシート「実践ことば力」3・4	4時間
第12回	レポートの書き方・テストの受け方（合同） テストの受け方やレポートの書き方について概要を学びます。また、レポートを作成したり、作品を制作したりするうえで重要な「研究倫理」の基本について学びます。	朝日新聞時事ワークシート「実践ことば力」5・6	4時間
第13回	働くことの意味を知る（1）（合同） OBやOGなど、社会で働く若者の実際の声を聴きます。	朝日新聞時事ワークシート「実践ことば力」7・8	4時間
第14回	働くことの意味を知る（2）（合同） OBやOGなど、社会で働く若者の実際の声を聴きます。	朝日新聞時事ワークシート「実践ことば力」総復習	4時間
第15回	実践ことば力習熟度チェックと振り返り（合同） 「実践ことば力」の習熟度をチェックします（期末）。また、授業全体を振り返り、目標の達成度を確認します。	ポートフォリオによって授業全体を振り返る	4時間

授業科目名	成蹊基礎演習 1 / 大学での学びとキャリアを考える				
担当教員名	中井秀樹・鍛冶致・山崎哲弘・伊藤由紀子・古川拓也・柴沼真・村田正夫・胡山 喬・国枝よしみ・中野毅・西釜義勝				
学年・コース等	1年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義＋演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

本科目は充実した大学生活をスムーズにスタートさせるための科目です。本学の教育理念を踏まえて4年間の学びを見通すとともに、自らの意思で計画し、考え、行動するという能動的態度、ならびに大学生として一人一人の個性に応じた生活と学習の基本態度を身につけることを目指します。
また、各自が選んだ専門分野について深く学ぶと共に、社会に自覚的に賢く参画していくことの意義も考えます。さらに、大学生活と社会生活、どちらの学びにも大切になるコミュニケーションの作法を習得することも目指します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1. 幅広い教養やスキル	基礎的なアカデミックスキル、スチューデントスキルを身につける	ノートテイキング、情報収集の方法、情報リテラシーなどに関する基礎的な知識やスキルを身につける
2．DP1. 幅広い教養やスキル	大学生にふさわしい社会知識の修得	時事問題を理解し、考えるために必要な基礎的な語彙や知識を身につける
汎用的な力		
1．DP5. 計画・立案力		将来の目標を設定し、日々の活動計画を立てる。また、定期的に計画を見直す
2．DP6. 行動・実践		大学生としての日々の学習習慣・生活習慣を確立する
3．DP10. 忠恕の心		建学の精神を理解し、大学生にふさわしいマナーを身につける

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

平常点	50%	：主にシャトルシートへの記入内容によって授業の理解度や実践へとむけた行動設計などを評価する
提出物	40%	：ワークシート等の提出状況によって評価する
試験（レポート）	10%	：学期末に課すレポートの内容によって評価する

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

『大学生生活ナビ』小川芳明監修、玉川大学コア・FYE教育センター編、玉川大学出版部
『大学生からのスタディ・スキルズ』（第3版）学習技術研究会編著、くろしお出版

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。
取り組み課題に応じて教室変更等があるため、連絡には注意を払うこと。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	水曜3限
場所：	西館3階研究室
備考・注意事項：	各担当教員のオフィスアワーは、初回授業で発表する。初回以前に相談したい場合は下記参照。 中井：水曜3限 西館3階研究室

授業計画

回数	内容	資料	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	大阪成蹊大学における「学び」について、研究者倫理について 建学の精神と授業マナーを確認し、本科目の目的と全体的な計画を知り、大学での学びに参加するという方向性を明確にします。また、高大移行期を生きる自分自身を見つめる課題について理解します。 また、学問を追及するもとして基本的な研究倫理についての説明を行う。	朝日新聞時事ワークシート「実践ことば力」	4時間
第2回	タイムマネジメントとスケジュール管理 大学生活を充実したものにするため、年間目標を立てます。各自の目標をグループ、クラスで交流します。	朝日新聞時事ワークシート「実践ことば力」	4時間
第3回	ノートの取り方 大学の講義でのノートの取り方を講義と演習形式で学びます。また、レポートの基礎となる、事実と意見の区別を学びます。	朝日新聞時事ワークシート「実践ことば力」	4時間

第4回	情報収集と大学図書館の活用 大学図書館の特徴と活用の仕方について学びます。 また、適切な文献参照の方法についても学びます。	朝日新聞時事ワークシート「実践ことば力」、大学図書館で本を借りる	4時間
第5回	グループワークの作法 映像教材を視聴し、グループでの議論を通してグループワークの作法について検討します。また、グループワークの作法と関連させて、建学の精神と本学の行動指針について学びます。	朝日新聞時事ワークシート「実践ことば力」	4時間
第6回	大学生活を見つめなおす ビデオ教材を用いて、大学生活で気を付けるべきことを考えます。また、SNSに関する注意点についても学びます。	朝日新聞時事ワークシート「実践ことば力」	4時間
第7回	建学の精神と人間力 本学理事長・総長による講演 講演者に対する質問を考えるグループワークも行います。	朝日新聞時事ワークシート「実践ことば力」	4時間
第8回	主権者としての自分とパーソナル・ブランド 主権者としての自分について考えるとともに、自分自身をブランドとして考えマネジメントする、パーソナル・ブランド・マネジメントの考え方について学びます。	朝日新聞時事ワークシート「実践ことば力」	4時間
第9回	リテラシーとコンピテンシー（PROGテスト解説） 4月入学時に受験したPROGテストの結果の解説を聞き、自己を捉え直します。	朝日新聞時事ワークシート「実践ことば力」	4時間
第10回	食と健康 生活の基本となる食と健康について学び、自分の生活を見つめなおします。 また、お酒やたばこ、薬物についても学習し、自己の健康について考えます。	朝日新聞時事ワークシート「実践ことば力」	4時間
第11回	リスク管理 カード社会・ネット通販・キャッチセールスなど、若者を狙っています。賢い消費者としてどのようなことに気を付けなければならないのかを考えます。	朝日新聞時事ワークシート「実践ことば力」	4時間
第12回	学習者としての責任の理解 大学生は研究の初心者であり、研究者としての責任や役割についてを考えます。	朝日新聞時事ワークシート「実践ことば力」	4時間
第13回	情報活用における危機管理について ソーシャルメディアの活用など便利な社会における落とし穴について解説し、自律・自製の重要性とともに、情報メディア活用における危険性についての理解を深めます。	朝日新聞時事ワークシート「実践ことば力」	4時間
第14回	大学での成績評価基準の説明と準備 初めての学期末を迎えるにあたって、再度大学における成績評価基準などについての解説を行う。特に、定期試験受験における注意点などの確認を行います。	朝日新聞時事ワークシート「実践ことば力」	4時間
第15回	授業のまとめ 大学生活の最初の半年間について、総合的に振り返り、評価するとともに、今後に向けての目標設定を行います。	ポートフォリオによって授業全体を振り返る	4時間

授業科目名	成蹊基礎演習 1 / 大学での学びとキャリアを考える				
担当教員名	橋本隆公・川島裕子・赤沢真世・吉次豊見・松阪崇久・臼井達矢・佐々木緑				
学年・コース等	1年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義＋演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	幼稚園・小学校教員経験あり（橋本隆公・吉次豊見）（全15回）				

授業概要

本科目は充実した大学生活をスムーズにスタートさせるための科目です。本学の教育理念を踏まえて4年間の学びを見通すとともに、自らの意思で計画し、考え、行動するという能動的態度、ならびに大学生として一人一人の個性に応じた生活と学習の基本態度を身につけることを目指します。また、各自が選んだ専門分野について深く学ぶと共に、社会に自覚的に賢く参画していくことの意義も考えます。さらに、大学生活と社会生活、どちらの学びにも大切になるコミュニケーションの作法を習得することも目指します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1. 幅広い教養やスキル	基礎的なアカデミックスキル、スチューデントスキルを身につける	ノートテイキング、情報収集の方法、情報リテラシーなどに関する基礎的な知識やスキルを身につける
2．DP1. 幅広い教養やスキル	大学生にふさわしい社会知識の修得	時事問題を理解し、考えるために必要な基礎的な語彙や知識を身につける
汎用的な力		
1．DP5. 計画・立案力		将来の目標を設定し、日々の活動計画を立てる。また、定期的に計画を見直す
2．DP6. 行動・実践		大学生としての日々の学習習慣・生活習慣を確立する
3．DP10. 忠恕の心		建学の精神を理解し、大学生にふさわしいマナーを身につける

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

平常点	50%	：主にシャトルシートへの記入内容によって授業の理解度や実践へとむけた行動設計などを評価する
課題	30%	：ワークシート等の提出内容によって評価する
期末レポート	20%	：この科目で学んだことや自分自身が興味や関心をもっている保育・教育に関する課題について考察し、今後の展望を持つことができているかをもとに評価する

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

『大学生生活ナビ』小川芳明監修、玉川大学コア・FYE教育センター編、玉川大学出版部
『大学生からのスタディ・スキルズ』（第3版）学習技術研究会編著、くろしお出版

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。全員が一つの教室で授業を受ける日とクラスに分かれて授業を受ける日があるので注意すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 担当教員ごとに異なります。
場所： 担当教員ごとに異なります。
備考・注意事項： 第1回の授業時に詳細を伝えます。

授業計画

回	内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	大阪成蹊大学における「学び」について 建学の精神と授業マナーを確認し、本科目の目的と全体的な計画を知り、大学での学びに参加するという方向性を明確にします。また、高大移行期を生きる自分自身を見つめる課題について理解します。	4時間
第2回	タイムマネジメントとスケジュール管理 大学生活を充実したものにするため、年間目標を立てます。各自の目標をグループ、クラスで交流します。	4時間
第3回	ノートの取り方と大学での評価方法について 大学の講義でのノートの取り方を学びます。また、ループブックなど大学での評価方法について学び、試験や課題への向かい方を考えます。	4時間

第4回	情報倫理・研究倫理と大学図書館の活用 情報倫理と研究倫理の基本を学びます。また、大学図書館の特徴と活用の仕方について学びます。	情報倫理・研究倫理についての振り返り。図書館を活用する（図書館の蔵書の中から、本を借りて読み、返却する）。	4時間
第5回	グループワークの作法 ビデオ教材を用いて、グループワークについて実践的に学びます。	グループワークについての振り返り。	4時間
第6回	大学生活を見つめなおす、パーソナル・ブランド ビデオ教材を用いて、大学生活で気を付けるべきことを考えます。また、SNSに関する注意点についても学びます。さらに、主権者としての自分について考えるとともに、自分自身をブランドとして考えマネジメントする、パーソナル・ブランド・マネジメントの考え方について学びます。	授業内容を参考に日々の生活で実践する。	4時間
第7回	建学の精神と人間力 本学理事長・総長による講演。講演者に対する質問を考えるグループワークも行います。	講演内容についての振り返り。	4時間
第8回	先輩の話に学ぶ 本学部の先輩の体験について聞き、今後の大学生活に役立てます。	先輩の話についての振り返り。	4時間
第9回	リテラシーとコンピテンシー（PROGテスト解説） 4月入学時に受験したPROGテストの結果の解説を聞き、自己を捉え直します。	PROG結果から見た自己分析に関する自己評価	4時間
第10回	働くことの意味を知る（1） 教育・保育職の魅力と、就職までの道、そのための方法について学びます。	授業内容をふまえて、キャリアを考える。 (感想)	4時間
第11回	働くことの意味を知る（2） 教育・保育職の魅力と、就職までの道、そのための方法について学びます。	授業内容をふまえて、キャリアを考える。 (感想)	4時間
第12回	働くことの意味を知る（3） 教育職・保育職に限らず、教育学部での学びが生きる職業について学びます。	授業内容をふまえて、キャリアを考える。 (感想)	4時間
第13回	プレゼンテーションの構想・作成（1） この科目で学んだことと、自分自身が興味や関心をもっている保育・教育について、掛け合わせた保育・教育時事に関してまとめ、プレゼンテーションを作成する。	プレゼンテーションの構想・作成の続き	4時間
第14回	プレゼンテーションの構想・作成（2） 前回作成したプレゼンテーションを用いて、この科目で学んだことと、自分自身が興味や関心をもっている保育・教育について、掛け合わせた保育・教育時事に関して発信することを通して、振り返る。	プレゼンテーションの発表・振り返りを通じた改善	4時間
第15回	半年間の振り返り 大学生活の最初の半年間について、総合的に振り返り、評価するとともに、今後に向けての目標設定を行います。	ポートフォリオによって授業全体を振り返る	4時間

授業科目名	成蹊基礎演習 2				
担当教員名	中井秀樹、鍛冶致、山崎哲弘、伊藤由紀子、古川拓也、柴沼真、村田正夫、胡山喬、国枝よしみ、中野毅、西釜義勝				
学年・コース等	1年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義＋演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

1年後期の初年次科目（必修）として設定される本授業は、大学での学びの基礎となる「協働とコミュニケーション」の作法について学ぶことを目的としています。前期の「成蹊基礎演習1」において学んだ「協働学修の作法」や「自己理解・他者理解」について、ここでは「演劇的手法」を用いた参加型ワークショップ形式の実践を通じてより身体的に体験し、それらの認識を深めていきます。最終的には、授業全体の学びをもとに、自己の教育への思いを育て、将来へのビジョンを明確にすることを目指します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- DP2. 専門的知識・技能、職業理解
- DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的内容：

「協働的な学び」「聴くこと・伝えること」「自己理解・他者理解」に関する理解。

「協働的な学び」「聴くこと・伝えること」「自己理解・他者理解」に関する技能の実践への応用

目標：

授業内の活動への参加をもとに、「協働的な学び」「聴くこと・伝えること」「自己理解・他者理解」に関する基本的な技能を身につける。

授業内に習得した「協働的な学び」「聴くこと・伝えること」「自己理解・他者理解」についての技能を、自分のキャリアと関連する具体的な実践へ応用することができる。

汎用的な力

- DP4. 課題発見
- DP6. 行動・実践
- DP8. 意思疎通

授業での経験を通して、「協働的な学び」「聴くこと・伝えること」「自己理解・他者理解」についての自分の課題を発見・検討することができる。

各活動や課題に対して、他者と協働しながら積極的かつ思慮深く参加することができる。

ペアワークやグループワークに取組むにあたり、他者と対話しながら相互に意思疎通をはかり進めることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業への参加	30%	： 授業への参加意欲や学びあいの姿勢について評価する。また、活動を通じた自らの課題の発見・検討のあり方について評価する。
ワークシート	40%	： 授業ごとに提出するふりかえりシートを、授業での学びの内容について深く分析・考察できているかという点から評価する。
期末レポート	30%	： 15回の活動を通して得た経験から、大学生活における今後の目標設定と行動計画を作成したものを評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 備考参照

場所： 各教員研究室

備考・注意事項： 初回授業にてアナウンスを行いますので、各教員の説明を確認してください。
統括、とりまとめ 中井：nakai-hi@osaka-seikei.ac.jp
担当教員はアドバイザー教員になりますので、当該科目以外でも相談を行ってください。

授業計画

第1回

オリエンテーションとアイスブレイク

オリエンテーションを通して、授業の目的、授業計画、参加の仕方、課題等について理解する。仲間づくり・チームづくりを行う。特に、自分について語ったり、自分の中のイメージを表現し共有することを学ぶ。また、他者の話を受容的に聴くことや他者を理解することの基礎を体験する。

授業での学びについて振り返りシートに記述する。

授業外学修課題にかかる目安の時間

4時間

第2回	協働体験 相手にきちんと伝えることや他者への応答について学ぶ。また、他者のことを配慮しながら行動することや集団で協働して目標を達成することを学ぶ。	授業での学びについて振り返りシートに記述する。	4時間
第3回	協働の大切さについて 他者とイメージを協働で表現することを通し、他者との協働について学ぶ。これまでのワークの体験を省察し、協働について認識を深めるとともにその大切さを学ぶ。	授業での学びについて振り返りシートに記述する。	4時間
第4回	伝えること・聞くこと 自分の声に思いをのせることや他者を意識して声を発することについて学ぶ。また、他者の声や呼びかけを受けとめることについて学ぶ。さらに、他者との協働的会話のあり方について学ぶ。	授業での学びについて振り返りシートに記述する。「わたしの大切なもの」をテーマに語りの準備をする。	4時間
第5回	コミュニケーション実践①：わたしの物語 「わたしの大切なもの」の話を共有することで、自分の思いを他者へ伝えることを学ぶとともに自己理解を深める。また、他者の話を深く聴くことを通し、他者理解に関する認識を深める。さらに活動を通し、個の多様性を認識する。	授業での学びについて振り返りシートに記述する。	4時間
第6回	コミュニケーション実践②：台本作りとリハーサル グループで劇をつくり、それを協働で表現することを通してチームワークのあり方やその大切さを学ぶ。	授業での学びについて振り返りシートに記述する。グループ発表の準備を行う。	4時間
第7回	コミュニケーション実践③：発表会 グループごとに劇発表を行う。それらの体験を省察し、チームワークの大切さを学ぶ。	授業での学びについて振り返りシートに記述する。	4時間
第8回	グループ活動①趣旨説明とグループ編成、個人目標設定 グループ活動の趣旨説明と活動目的の説明を行い、グループ編成と各々の役割と目標、グループの目標についての設定を行う。グループ活動では、各ゼミで5名程度のグループを編成し、アンケート調査&報告(仮)を実施する。	各グループの調査内容についての意見をまとめる	4時間
第9回	グループ活動②活動計画・活動テーマの決定 グループ毎の調査目的と調査方法、グループ活動期間(授業外活動を含む)の活動計画についての設定を行い、グループ間の連絡方法の確認を行う	グループで連絡を取り合いながら、個々の活動を実施していく	4時間
第10回	グループ活動③調査活動準備 アンケート調査内容についての質問項目を検討し、それぞれの質問内容(選択肢の設定等)を行う。調査項目の過不足化、質問間の関連性などの精査し、質問項目を決定する	グループで連絡を取り合いながら、個々の活動を実施していく	4時間
第11回	グループ活動④調査実施 作成したアンケート調査票を基に、アンケート調査を実施する	グループで連絡を取り合いながら、個々の活動を実施していく	4時間
第12回	グループ活動⑤調査結果のまとめ、報告資料の作成、発表準備 アンケート調査結果についてのまとめと分析を行い、報告資料の作成及び資料を用いた発表の準備を行う	グループで連絡を取り合いながら、個々の活動を実施していく	4時間
第13回	グループ活動⑥調査結果報告と改善活動 小グループでの調査報告を行う、相互評価を行い発表資料及び発表方法の向上のための意見交換を行う	グループで連絡を取り合いながら、個々の活動を実施していく	4時間
第14回	グループ活動⑦調査報告(本番) 複数クラス共同による発表会を実施し、相互評価を行う	発表における成果と課題を自他の比較から行う	4時間
第15回	まとめ 演劇的手法による学習、グループ活動における自己の学習成果についてのふりかえりを行うと同時に、活動のまとめを行う	グループの調査結果から個別の報告レポートの作成を行う	4時間

授業科目名	成蹊基礎演習 2				
担当教員名	石井理之、桐原一史、津田やよい、由良泰人、山中コ〜ジ、福本章、野山知子、石田直美				
学年・コース等	1年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義＋演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	福本：25年（営業管理、総務人事、経営企画、組織開発）				

授業概要

本科目は、大学における協働的学びの基礎をつくります。まず、参加型ワークショップ形式で、聴くこと・伝えることについての作法・技術を学び、併せて自己理解・他者理解を深めます。次に、これらの学びを応用しながら、PBL (Project-Based Learning)：課題解決型学修などに求められる役割理解、連携行動、総合理解といった能力を醸成します。その結果として、物事の本質を理解する能力、あるいは自己効力感といったコンピテンシーへと繋がる人間力教育の礎となることを目指します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解
- 2 . DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

汎用的な力

- 1 . DP4. 課題発見
- 2 . DP6. 行動・実践
- 3 . DP8. 意思疎通

具体的内容：

「協働的な学び」「働くこと・伝えること」「自己理解・他者理解」に関する技能
協働的な学びから、情報を共有し、信頼関係を構築する、参加型ワークショップを実践していく。

目標：

協働的な学びより、役割理解、連携行動、情報共有、相互支援をすることができる。
多様性を理解し、気配り、共感して受容する素養を育み、社会生活を営むにたる親和力を身に付けている。

協働学修を通して、情報収集、情報共有のプロセスを経ることで物事の本質を理解し、課題を発見する素養を身につけている。

参加型ワークショップを通し、実践して行動する素養を育み、その結果として修正、調整力といった次へと繋がる能力を身につけている。

ペアワーク、グループワークを通し、共感、受容といった対人基礎力を育み、意思疎通を図ることができる親和力を身に付けている。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
毎回提出する振り返りシート 50%	： 参加型ワークショップが主体となるため、時間内の学び、課題、今後に活かせる事を中心として振り返るを行い、内容を評価する。
成果発表(プレゼン・ミニプレゼン) 15%	： 学修成果を発揮する機会として、プレゼンテーション、及びミニプレゼンの機会がある。プレゼンテーションのルーブリックに則り評価する。
中間レポート 15%	： 中間地点での学修成果としてレポートを課す。授業における養うべき素養に沿う内容であることを基準とし、その中に独自の見解で所見の展開があれば加点項目とする。
最終レポート 20%	： 最終レポートを課す。授業での学びの視点と、2年生以降の学生生活における目標設定と行動計画を作成する。授業目的に沿って記載されている事を基準とし、独自の視点での深い考察があれば加点項目とする。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

「組織の成果に直結する問題解決法ソリューションフォーカス」ポール・Z・ジャクソン・マカーゴ著：青木安輝（訳）ダイヤモンド社。
「入門チーム・ビルディング」小林恵智（著）、PHP出版。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項： 石井理之：授業初日に連絡、南館2F情報デザイン研究室
桐原一史：授業初日に連絡、南館3F 研究室
津田やよい：授業初日に連絡、アトリエ棟 研究室
福本章：水曜3限 南館2F情報デザイン研究室
由良泰人：授業初日に連絡、南館2F情報デザイン研究室
山中コ〜ジ：授業初日に連絡、東館2F研究室
野山知子：授業初日に連絡
石田直美：授業初日に連絡、で連絡

授業計画

：

：

：授業外学修課題にかかるとかかる目安の時間

第1回	オリエンテーションとアイスブレイク オリエンテーションを通して、授業の目的、授業計画、参加の仕方、課題等について理解する。 仲間づくり・チームづくりを行う。特に、自分について語ったり、自分の中のイメージを表現し共有することを学ぶ。また、他者の話を受容的に聴くことや他者を理解することの基礎を体験する。	授業での学びについて振り返りシートに記述する。	4時間
第2回	協働体験 相手にきちんと伝えることや他者への応答について学ぶ。また、他者のことを配慮しながら行動することや集団で協働して目標を達成することを学ぶ。	授業での学びについて振り返りシートに記述する。	4時間
第3回	協働の大切さについて 他者とイメージを協働で表現することを通し、他者との協働について学ぶ。 これまでのワークの体験を省察し、協働について認識を深めるとともにその大切さを学ぶ。	授業での学びについて振り返りシートに記述する。	4時間
第4回	伝えること・聞くこと 自分の声に思いをのせることや他者を意識して声を発することについて学ぶ。また、他者の声や呼びかけを受けとめることについて学ぶ。さらに、他者との協働的会話のあり方について学ぶ。	授業での学びについて振り返りシートに記述する。「わたしの大切なもの」をテーマとする語りの準備をする。	4時間
第5回	コミュニケーション実践①：わたしの物語 「わたしの大切なもの」の話を共有することで、自分の思いを他者へ伝えることを学ぶとともに自己理解を深める。また、他者の話を深く聴くことを通し、他者理解に関する認識を深める。さらに活動を通し、個の多様性を認識する。	授業での学びについて振り返りシートに記述する。	4時間
第6回	コミュニケーション実践②：台本作りとリハーサル グループで劇をつくり、それを協働で表現することを通してチームワークのあり方やその大切さを学ぶ。	授業での学びについて振り返りシートに記述する。グループ発表の準備を行う。	4時間
第7回	コミュニケーション実践③：発表会 グループごとに劇発表を行う。体験を省察し、チームワークの大切さを学ぶ。 ・個人ワーク ・グループワーク ・発表 ・情報共有と、今後の課題（目標）設定	授業での学びについて振り返りシートに記述する。	4時間
第8回	聴き方と話し方 ・2種類のコミュニケーションの理解。 ・コミュニケーションの「伝え方」と「聴き方」のポイント。 ・グループワークと配布資料の理解（上手に伝えるポイント・上手に聴くポイント）。	コミュニケーションの重要性について、「伝え方」と「聴き方」のポイントを整理する。	4時間
第9回	ブレインストーミング ・グループワーク（企業の採用パンフレットの考察から就職の基本用語に触れる） ・魅力的な採用パンフレットを考える。 ・チーム編成 → 役割分担 ・アイデア出し（ブレインストーミング） ・行動計画を立てる（スケジュール・各自の連絡・情報収集）	採用パンフレットを製作するための情報収集を行う。	4時間
第10回	アサーショントレーニング ・3種類のコミュニケーションの体験（ペアワーク）。 ・言葉以外のコミュニケーションを学ぶ。 ・アサーショントレーニング。 ・振り返り（上手くいったこと、上手くいかなかったこと、これから活かすこと）。	アサーショントレーニングで実践したことを、生活の中でも実践する。	4時間
第11回	仕事に必要な情報収集 ・グループワーク（魅力的感じる情報とは何か）。 ・情報のリストアップ（インターネットネット、書籍、人、その他）。 ・グループでの製作物のコンセプトを考える。	採用パンフレットを製作するために必要な専門知識の中で、理解できない事柄やキーワードを収集する。	4時間
第12回	仕事とは？・社会人をイメージする ・社会人に求められるものを考える。 ・なぜ働くのか、働くことの意義。 ・自分のパンフレットを作ろう（何を作るか、どんな情報を載せるのか？）。 ・多様化する働き方を考える。 ・雇用形態を知る（採用パンフレットを制作した知識を活用し情報の共有）。 ・将来自分がやってみたい仕事について調べる。	授業で学んだ専門知識をパンフレット作製にどう活かすのか考える。	4時間
第13回	協働するプレゼンテーションの準備 ・準備をするポイントの確認（行動計画と役割分担）。 ・プレゼンのストーリー構築。 ・PREP法。 ・グループワークと振り返り。 ・本番当日のポイントの確認。 ・プレゼンのストーリーの最終確認。	採用パンフレットの完成へ向けて、業務の分担をし作業を進める。	4時間
第14回	協働するプレゼンテーションの実践 ・チームワーク（役割分担）。 ・プレゼンテーションを御互いに聴き、相互評価（良かった点・改善点）。 ・ルーブリックを活用し相互評価を行う。 ・振り返り（PDCA）。	プレゼンテーションの振り返りを行ない、今後の自身の役割について、さらに考察する。	4時間
第15回	振り返り：総括 ・協働とコミュニケーションについての振り返り。 ・PDCAを意識した行動計画書の作成。 ・行動計画書に則った目標を遂行する（学生生活でやりたいこと（2年生～3年生～4年生））。	授業における振り返りを行なうと同時に、自身の大学生活における目標を達成するための行動計画について熟慮する。	4時間

授業科目名	成蹊基礎演習 2				
担当教員名	赤沢真世、福岡亮治、丸野亨、石田貴子、川島裕子、村田観弥、熊野陽人、服部敬一、米田薫				
学年・コース等	1年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義＋演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

1年後期の初年次科目（必修）として設定される本授業は、大学での学びの基礎となる「協働とコミュニケーション」の作法について学ぶことを目的としています。前期の「成蹊基礎演習1」において学んだ「協働学修の作法」や「自己理解・他者理解」について、ここでは「演劇的手法」を用いた参加型ワークショップ形式の実践を通じてより身体的に体験し、それらの認識を深めていきます。また、その後、学校・園での実地体験を行い、学校・園における現状を理解するとともに自らのキャリアについて展望することを目指します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

「協働的な学び」「聴くこと・伝えること」「自己理解・他者理解」に関する理解。教育実践の分析および自己のキャリア構想。

目標：

授業での活動をもとに、「協働的な学び」「聴くこと・伝えること」「自己理解・他者理解」についての理解を深める。日常の教育実践を客観的に捉えるとともに教育を志す者として、自分のあり方を考えることができる。

- 2 . DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

「協働的な学び」「聴くこと・伝えること」「自己理解・他者理解」に関する技能の応用。

「協働的な学び」「聴くこと・伝えること」「自己理解・他者理解」についての技能を具体的な実践の中で応用することができる。

汎用的な力

- 1 . DP4. 課題発見

「協働的な学び」「聴くこと・伝えること」「自己理解・他者理解」についての自分の課題を発見・検討することができる。フィールドワークで体験した事柄から、探求したいテーマを見つけることができる。

- 2 . DP6. 行動・実践

各活動や課題に対して、他者と協働しながら積極的かつ思慮深く参加することができる。

- 3 . DP8. 意思疎通

ペアワークやグループワークに取組むにあたり、他者と対話しながら相互に意思疎通をはかり進めることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り（振り返りシート、チャトルシートなど）
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）
- ・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業への参加	30%	: 授業への参加意欲や学びあいの姿勢および課題への取組みを評価する。
ワークシート	40%	: ふりかえりシートや校・園見学での観察記録等を、授業における学びの内容について深く分析・考察できているかという点から評価する。
期末レポート	30%	: 授業での学びや校・園見学を省察し、自分の課題を分析・考察するとともに学校・園についての理解を深め、自己のキャリアを展望できているかという点について評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本授業は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 各教員によって異なる

場所： 各教員によって異なる

備考・注意事項： 第1回目の授業時に詳細を周知する。

授業計画

第1回 **オリエンテーションとアイスブレイク**

授業での学びについて振り返りシートに記述する。

授業外学修課題にかかる目安の時間

4時間

	オリエンテーションを通して、授業の目的、授業計画、参加の仕方、課題等について理解する。仲間づくり・チームづくりを行う。特に、自分について語ったり、自分の中のイメージを表現し共有することを学ぶ。また、他者の話を受容的に聴くことや他者を理解することの基礎を体験する。		
第2回	協働体験 相手にきちんと伝えることや他者への応答について学ぶ。また、他者のことを配慮しながら行動することや集団で協働して目標を達成することを学ぶ。	授業での学びについて振り返りシートに記述する。	4時間
第3回	協働の大切さについて 他者とイメージを協働で表現することを通し、他者との協働について学ぶ。これまでのワークの体験を省察し、協働について認識を深めるとともにその大切さを学ぶ。	授業での学びについて振り返りシートに記述する。	4時間
第4回	伝えること・聞くこと 自分の声に思いをのせることや他者を意識して声を発することについて学ぶ。また、他者の声や呼びかけを受けとめることについて学ぶ。さらに、他者との協働的会話のあり方について学ぶ。	授業での学びについて振り返りシートに記述する。「わたしの大切なもの」をテーマとする語りの準備をする。	4時間
第5回	コミュニケーション実践①：わたしの物語 「わたしの大切なもの」の話を共有することで、自分の思いを他者へ伝えることを学ぶとともに自己理解を深める。また、他者の話を深く聴くことを通し、他者理解に関する認識を深める。さらに活動を通し、個の多様性を認識する。	授業での学びについて振り返りシートに記述する。	4時間
第6回	コミュニケーション実践②：台本作りとリハーサル グループで劇をつくり、それを協働で表現することを通してチームワークのあり方やその大切さを学ぶ。	授業での学びについて振り返りシートに記述する。グループ発表の準備を行う。	4時間
第7回	コミュニケーション実践③：発表会 グループごとに劇発表を行う。それらの体験を省察し、チームワークの大切さを学ぶ。	授業での学びについて振り返りシートに記述する。	4時間
第8回	校・園見学の課題づくり 「協働的な学び」「聴くこと・伝えること」「自己理解・他者理解」という視点を中心に、これまでの授業での学びや自身の経験を振り返り、教育への思いや自己の教育観を交流する。その上で学校・園見学の観察の視点を明確にする。	観察の視点に沿って、具体的な見学計画を作成する。	4時間
第9回	校・園見学の事前準備 学校・園見学の実施計画や留意点など、学校・園見学の流れを理解する。また、観察の手法や記録の取り方について学ぶ。	ネット等で見学校・園の情報を入手し、事前学習を行う。	4時間
第10回	校・園見学① 1つ目の校・園見学を実施し、計画に沿って参観、観察する。	参観、観察結果を簡潔にまとめる。	4時間
第11回	校・園見学② 前回の見学の省察を踏まえ、2つ目の校・園見学を実施し、計画に沿って参観、観察する。	参観、観察結果を簡潔にまとめる。	4時間
第12回	校・園見学の省察と見学成果の交流 校・園見学で得た知見と考察をまとめる。見学成果の交流を行う。	見学成果の交流を踏まえて、自らの体験を考察する。	4時間
第13回	発表準備 校・園見学を省察し、授業前半で学んだ「協働的な学び・聴くこと・伝えること」についての作法・技術を活用しながら、グループでプレゼンテーションの準備を行う。	グループプレゼンテーションの構想・準備の続きを行う。	4時間
第14回	発表・交流 クラス内で校・園見学での学びについてプレゼンテーション・交流を行う。それらを通して、学校・園についての理解を深める。	プレゼンテーション・交流を振り返り、学校・園についての学びを深める。	4時間
第15回	まとめ 校・園見学についてのプレゼンテーション・交流を振り返り、自己のキャリアを構想する。講義全体のまとめを行う。	これまでの学びを振り返り、期末レポートを作成する。	4時間

授業科目名	スタディスキルズ1／日本語コミュニケーション1				
担当教員名	稲垣貴士・内海涼子・大手裕子・福本章・加藤隆文・野山知子・辻村 みゆき				
学年・コース等	1年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義＋演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	福本：25年（営業管理、総務人事、経営企画、組織開発）				

授業概要

大学では、専門分野について深く学ぶとともに、市民として社会に自覚的に賢く参画する力を育てることも大切です。本科目は、大学と社会のどちらでも必要なコミュニケーション作法の習得をめざします。まず、コミュニケーションのツールとして、社会人として通用する電子メールの書き方、PCによるレポートやプレゼンテーション資料の作成技法など学びます。また、他者の意見や考えを理解し、自分の意見や主張を的確に伝えるられるように、資料の収集方法とそれらの評価方法、引用方法、論理的な文章構築法を実践的に学びます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1. 幅広い教養やスキル	話すこと、聴くこと、読むこと、書くことの作法を学ぶ	1500字程度のレポートを正しい作法で執筆できる。PPTを使って5分程度のプレゼンテーションができる。
2．DP1. 幅広い教養やスキル	語彙力と読解力	短文を精読し、その内容を正確に理解し、またその要旨を的確にまとめることができる。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		社会の問題に目を向け、多様な意見や資料を収集し、自分で考え、主張を伝えることができる。
2．DP8. 意思疎通		社会の問題に関して、自分の「意見」を整理してわかりやすく口頭発表したり、レポートとしてまとめたりすることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を行わない。
レポートとプレゼンテーションについては、評価の基準と観点を示す表（ルーブリック）を配布する。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
平常点 30%	： 毎回のシャトルシートおよびワークシート等の取り組み状況、授業への参加度（グループでの話し合いへの参加状況、発言など）、授業外での準備状況などに基づき評価する。
授業内課題 40%	： プレゼンテーション、及びレポートについて聴衆/自己評価を踏まえ、以下の観点で評価。 ①プレゼンテーションでの内容、話し方、効果的な資料。 ②レポートの形式、わかりやすさ、論理的構成員。
小テスト（語彙力・読解力） 20%	： 語彙、読む、聞く、書くの4分野から日本語を使いこなす力を測定。
最終レポート 10%	： 15回の授業終了後に授業のまとめとして、最終レポートを提出、ルーブリックの基準に則り評価。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

なし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

遅刻厳禁。提出物は期限をまもる。
他者と協力して気持ちよく学べるよう努力すること。
欠席してしまった場合、次回までに、担当教員等から課題をうけとり、指示を受けること。
プレゼンテーションの日は絶対に遅刻せず、必ず出席すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項： 加藤クラス：初日授業にて連絡、南館2F 情報デザイン研究室
大手クラス：火曜日3時間目（美術研究室）その他の時間はメールで受け付けます。（ote@osaka-seikei.ac.jp）
内海クラス：火曜日3、4、5限目 南館3F 研究室2
福本クラス：月曜日4限 南館2F 情報デザイン研究室
稲垣クラス：水曜日5限 南館2F 情報デザイン研究室
野山クラス：授業開始時に連絡

授業計画

：

：授業外学修課題にかかるとかかる目安の時間

第1回	オリエンテーション、大学ネットワークの活用。 大学での学びに必要な日本語力について。 大学ホームページの活用、モバイルキャンパスなどの確認。 大学ポータルからの連絡が自分のメールに転送されるよう設定。	朝日新聞時事ワークシート35, 36。要約ドリル1。	2時間
第2回	電子メールのスキルとマナー 課題1 大学Gメールの使い方。 大学・仕事での電子メールの適切な書き方。 課題1の説明。配布資料有。	課題1のテーマを考え、資料をさがす。時事ワークシート37, 38。要約ドリル2。	4時間
第3回	課題2の準備2. 資料の集め方. 著作権. Microsoft Wordを使ったレポートの書き方。 課題1のための問題の発見（身近な問題で、かつ客観的な資料が提示できる論題）。 資料を集める方法と、引用元、参照資料の確認方法、著作権侵害、盗作を回避する必要性について。	朝日新聞時事ワークシート39, 40。要約ドリル3。	4時間
第4回	課題1の準備3. 発表内容を整える Microsoft Wordによる文書作成、論理的な内容の構築方法について学ぶ。 Microsoft PowerPointによる口頭発表用スライドの作成方法。	時事ワークシート41, 42。要約ドリル4。	4時間
第5回	発表1の準備4 効果的なプレゼンテーションについて学ぶ プレゼンテーションのマナー 聴衆の理解を深めるためのパワーポイントの効果的な使い方。 話す力：公的な状況での言葉遣い：敬語と謙譲語	プレゼンテーションのスライドみなおし、練習。時事ワークシート43, 44。要約ドリル5。	4時間
第6回	プレゼンテーション1 パワーポイントを使った口頭発表。 他者の意見を聞き、自分の意見を述べる。聴衆を説得、納得させる発表をめざす。 プレゼンテーションのルーブリックをもとに、クラスメンバーで相互評価票に記入する。 発表をよく聞き、内容に関する質問を各自考える。	時事ワークシート45, 46。レポート執筆の準備。	4時間
第7回	課題1のレポートの執筆 口頭発表の内容を大学でのレポート形式にまとめる（1000字程度） 口頭発表のときに受けた質問や、内容や構成について指摘された点について再考し、レポートの内容をまとめ直す。 脚注の挿入方法。引用元、参照資料を正しい方法で記載する。	レポート執筆。時事ワークシートの復習（35-46）。	6時間
第8回	課題2の準備1. 大学でのレポートの書き方。読解力小テスト 大学でのレポートの書き方について学ぶ。資料配付 課題2のレポートの論題の選び方、と資料の探し方。 情報、発信者の評価方法。孫引きにならないために。	課題2のレポートテーマを探す。時事ワークシート47, 48。	4時間
第9回	課題2の準備2. 適切な日本語で書く 適切な日本語（敬語。らぬき言葉、さ入れ言葉。レポートや論文での接続詞） 資料配付。 各自レポートで取りあげる資料を集め、整理し、自分の発表内容を論理的に構築する。	課題2の発表内容をまとめる。時事ワークシート49, 50。要約ドリル6。	4時間
第10回	課題2の準備-3. 情報の評価と引用の方法 情報の整理、構成転載・引用記載方法（資料配付） テーマ内容、使われている用語、背景など、まず自分が十分に理解するように調べる。そのうえで、聞き手・読み手につたわる言葉をもちいて説明できるようにする。 インターネットを利用する場合、情報を最初に発信した人は誰か？どのような根拠や事実にもとづいて発信されている情報か？それは、本当に信頼できるのか、充分留意すること。	課題2の発表内容を吟味する。時事ワークシート1, 2。要約ドリル7。	4時間
第11回	発表2の準備4 説得力のある発表を準備する。 3分に収まる口頭発表の読み原稿（1000字程度）と、パワーポイントを作成させる。 客観的な根拠にもとづき相手を説得できる、「伝わる」発表をめざす。	プレゼンのルーブリックにそって口頭発表原稿を作成させ、練習する。時事ワークシート3, 4。	4時間
第12回	プレゼンテーション2 プレゼンテーション（1人3分） プレゼンテーションのルーブリックをもとに、相互評価票に記入する。 発表者に対して、内容に対する質問、発表のパフォーマンスについてのコメントを述べる。	レポート執筆準備。時事ワークシート5, 6。	4時間
第13回	課題2のレポート執筆1 レポートのルーブリックにしたがって、レポートの構成と形式を整える。 （A4 2枚 本文が1600~2000字程度）	レポートの執筆。時事ワークシート7, 8。要約ドリル26。	4時間
第14回	課題2のレポートの執筆2. 推敲・校正 脚注のチェック。引用、参照資料の正確な入力。 論理性の確認。接続詞、段落構成、文の長さ、主語述語の対応、文体は適切か。 *夏休み課題【読書感想文：1600~2400文字、Word, A4横書（1行40字;1頁40行）, MS明朝体, 11ポイント】の説明と準備。	レポートの推敲。時事ワークシート9, 10と47-8の復習。読書感想文の本の選択。	4時間
第15回	課題2のレポートの執筆3. 授業のまとめ 読解力小テスト2 論理的に筋道がとおった主張になっているか再考する。 内容と形式（見た目）の両方が整っているか。 誤字や脱字、表記のゆれ、文の長さなど、チェック。 *夏休み課題【読書感想文：1600~2400文字、Word, A4横書（40字×40行）, MS明朝体, 11ポイント】の準備。	レポートの最終チェック。課題の総復習。読書感想文【1600~2400文字; Word; A4横書（40字×40行）; MS明朝体; 11ポイント】	4時間

授業科目名	スタディスキルズ1／日本語コミュニケーション1（留学生）				
担当教員名	鍛治 致				
学年・コース等	1年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義+演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

大学生として自己紹介をしたり感想やコメントを述べ合ったりするための力を養成する。また、様々な問題について自分の頭で考え、自分なりの意見を口頭で表現する力を養成する。合わせて、演習形式も取り入れて日本語能力試験N1合格を目指す。N1合格に必要なのは聴解力と読解力だが、本学では聴解力が合格ラインに達していない受験者は少ないので本講義では読解力の養成に重点をおく。また、読解力の獲得で重要なのは、思考力、「一般知識」、文字・語彙・文法の知識の獲得だが、本講義では思考力の獲得を重視する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

日本語を受信する力および発信する力

目標：

学生生活に必要な日本語を理解するとともに使用することができる。

汎用的な力

- DP8. 意思疎通

話者や筆者の意図を正確に理解した上で、自己の意図が相手に正確に伝わるようなスピーチを行うことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。

成績評価の方法・評価の割合

評価の方法	評価の割合	評価の基準
スピーチ	30%	： 発表内容が聴衆の興味をひくものであったか（10点）、流暢かつ正確に日本語が話せたか（10点）、聴衆の反応を確認しながら大きな声で堂々と発表できたか（10点）の観点から30点満点で評価する。
自習ノート	25%	： 毎週4ページ以上学習しているか、辞書や参考書を活用しているか、自己の目標や興味に合わせて自主的に課題を設定し取り組んでいるか等の観点から5回×5点/回=25点満点で評価する。
毎回の授業への取り組み状況	35%	： ワークシートを用いながら各回授業への積極的参加や授業態度を独自のルーブリックを基に総合的に評価する。
試験（レポート）	10%	： 15回の授業で学んだことを独自の視点から整理・要約した上で、そのうち最も興味を持ったテーマを一つ設定して調べ、整理・要約し、考察し、結論を導き出す（1600字）。独創性5点+形式5点=合計10点で評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特に指定しません。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。授業中に誤答の訂正をしてもらうことがあるので、必ず赤ペンを持参すること（蛍光ペン等のマーカーは不可）。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 木曜14:30～16:10
場所： 鍛冶研究室（西館2階）

授業計画

第1回 **オリエンテーション：日本語の力（聴いたり話したりする力）を伸ばす方法とは**

みなさんは日本語を聴いたり話したりするのが得意ですか。日本語を聴いたり話したりする力を伸ばすため日頃どのような努力をしていますか。学習方法を互いに共有することを通じて自分の学習方法を見直し、前期の学習計画を立ててみましょう。

A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：指示詞・疑問詞（コソアド）。

授業外学修課題にかかる目安の時間

4時間

第2回	<p>人間の推測する能力について書かれた文章を読む</p> <p>「一を聞いて十を知る」ということばを知っていますか、これは子貢が顔回の賢さを評したことです（「論語」公治長）。今回は人間の推測する能力について書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。</p>	<p>A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：名詞と名詞を結ぶ助詞（並列助詞と「の」）。</p>	4時間
第3回	<p>山道の歩き方について書かれた文章を読む</p> <p>みなさんは日頃どのように歩いているでしょうか、人は天候やシチュエーションに応じて歩き方を変えています。今回は山道の歩き方について書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。</p>	<p>A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：時間を表す表現（テンス・完了）。</p>	4時間
第4回	<p>芸術と社会について書かれた文章を読む</p> <p>芸術作品も、またそれを理解しようとする我々も、ある特定の時間や空間（すなわち社会のあり方）から制約を受けています。今回は芸術と社会について書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。</p>	<p>A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：変化を表す表現。</p>	4時間
第5回	<p>ヒゲの歴史について書かれた文章を読む</p> <p>人前で顔をさらすというのは実は大変危険な行為です。心の動きが顔に表れるからです。でも西洋ではある時代からヒゲをそり積極的に顔をさらすようになりました。今回はヒゲの歴史について書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。</p>	<p>A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：引用（と・ように）。</p>	4時間
第6回	<p>思考と表現について書かれた文章を読む</p> <p>「沈黙は金、雄弁は銀」という言葉を聞いたことはありますか。でも本当にそうなのでしょうか。今回は思考と表現について書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。</p>	<p>A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：授受の表現（あげる・くれる・もらう）。</p>	4時間
第7回	<p>学校教育と記憶術について書かれた文章を読む</p> <p>近年の学校では物事を効率よく記憶する方法をあまり教えてくれません。なぜだと思いますか。今回は学校教育と記憶術について書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。</p>	<p>A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：話し手の気持ちを表す表現（判断）。</p>	4時間
第8回	<p>効果的なコミュニケーション方法について書かれた文章を読む</p> <p>「大声で話されている話」と「小声で話されている話」——みなさんはどちらの話に耳を傾けますか。今回は効果的なコミュニケーション方法について書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。</p>	<p>A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：話し手の気持ちを表す表現（命令・依頼・勧誘）。</p>	4時間
第9回	<p>絵巻物が時間をどう表象しているかについて書かれた文章を読む</p> <p>絵巻物の実物を見たことのある人は少ないと思いますが、とりあえずコマ割りのない漫画のようなものだと考えて下さい。今回は絵巻物が時間をどう表象しているかについて書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。</p>	<p>A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：話し手の気持ちを表す表現（終助詞）。</p>	4時間
第10回	<p>絵画展の楽しみ方について書かれた文章を読む</p> <p>みなさんは絵画展に行ったことがありますか。一人で行ききましたか、二人で行きましたか。絵画展に一人で行くことの利点はいったい何だと思いますか。今回は絵画展の楽しみ方について書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。</p>	<p>A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：埋め込みの表現。</p>	4時間
第11回	<p>スピーチのテーマを選ぶ</p> <p>内容——何を話すか——はスピーチの善し悪しを左右する大切な要素の一つです。みなさんには、まず与えられたテーマに沿って「ネタ出し」をしてもらいますが、話題として選んでいいのはそのうちの1つか2つ。広く浅く論じるのではなく、狭く深く論じてください。</p>	<p>自分が選んだテーマでどのようなスピーチができそうか、スピーチの構成を考えてみてください。</p>	4時間
第12回	<p>スピーチの構成を考える</p> <p>起承転結ということばを知っていますか、特に大切なのは起の部分——つかみ、導入——です。ここに魅力がないと聴衆はスピーチに耳を貸してくれないと思います。また、結の部分——オチ——も大切ですが、実は結が生きるかどうかは転次第。意外性があり、かつ「早くオチが聞きたい」と思わせるような転を心がけてください。</p>	<p>自分が考えたスピーチの構成に沿って、実際にスピーチ原稿を書いてみてください。</p>	4時間
第13回	<p>スピーチのやり方を知る</p> <p>どんなにうまく原稿が書いても上手に発表できなければスピーチの魅力は半減してしまいます。ではスピーチを上手に行うためにはどんなことを心がけたらいいでしょうか。みなさんの周りにスピーチが上手な人はいますか。スピーチが上手な人をテレビで見たことはありますか。みんなで話し合ってみましょう。</p>	<p>自分が書いたスピーチ原稿を暗記してください。</p>	4時間
第14回	<p>スピーチの練習をする</p>	<p>スピーチを練習してください。自分が伝えたいことが聞き手にきちんと伝わるよう、十分に練習してください。</p>	4時間

実際にスピーチの練習をしてみましょう。伝えたいことは聴衆に伝わるでしょうか。伝わらないとしたら、どこに問題があるのでしょうか。内容でしょうか、構成でしょうか、発音でしょうか、声量でしょうか……。詳しく検討してみましょう。

第15回

スピーチを互いに評価する

これまで4回にわたり準備してきたスピーチを受講生全員に発表してもらいます。評価のポイントは、内容、発音、声量、暗記等です。

誰のスピーチが良かったと思いますか。その理由は何ですか。自分のスピーチにはどのような課題があると思いますか。A4版ノート（ルーズリーフ不可）にまとめてください。

4時間

授業科目名	スタディスキルズ1／日本語コミュニケーション1				
担当教員名	鍛冶致・岡田功・島雅則・中野毅・浅野法子・佐伯暁子・瀬戸祐規・能登邦之				
学年・コース等	1年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義＋演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	岡田；新聞記者として長年、経済問題などの記事、コラムを執筆してきた。（全15回）				

授業概要

本科目では、大学や社会で学び続けるために必要なスキルや能力、とくにコミュニケーション作法の習得をめざします。まず、コミュニケーションのツールとして、社会人として通用する電子メールの書き方、PCによるレポートやプレゼンテーション資料の作成技法など学びます。また、他者の意見や考えを聴き取り理解し、自分の意見や主張を的確に伝えるための「型」を学びます。さらに、資料の収集方法とそれらの評価方法、引用方法、論理的な文章構築法を実践的に学びます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1. 幅広い教養やスキル	日本語・表す力に関する知識、ものの見方や考え方	1500字程度のレポートを正しい作法で執筆できる。パワーポイントを使って3分程度のプレゼンテーションができる。
2．DP1. 幅広い教養やスキル	語彙力と読解力	資料を正しく読み解いて理解・吸収した上で、適切かつ効果的な語彙を用いて持論を展開することができる。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		社会の問題に目を向け、多様な意見や資料を収集し、自分で考え、主張を伝えることができる。
2．DP8. 意思疎通		社会の問題に関して、自分の「意見」を整理してわかりやすく口頭発表したり、レポートとしてまとめたりすることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り（振り返りシート、チャトルシートなど）
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

平常点	35%	ワークシートの取り組み状況、授業への参加度（グループでの話し合いへの参加状況、発言など）、準備状況などに基づき評価する。
授業内課題	35%	プレゼンテーションおよびレポートについて聴衆/自己評価を踏まえ、以下の観点で評価。①プレゼンテーションでの内容、話し方、効果的な資料 ②レポートの形式、わかりやすさ、論理的構成力
授業外課題	20%	文字表現力および文章作成力を鍛えるための授業外課題の取り組みについて、①期限が守れているか、②正確に書けているか、③主体的に取り組んでいるかに基づき評価する。
試験（レポート）	10%	15回の授業で学んだことを独自の視点から整理・要約した上で、そのうち最も興味を持ったテーマを一つ設定して調べ、整理・要約し、考察し、結論を導き出す（1600字）。独創性5点＋形式5点＝合計10点で評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
丸山顯徳	『キャリアアップ国語表現法（十八訂版）』	嵯峨野書院	2018年

参考文献等

参考文献などは授業中に紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。遅刻厳禁。提出物は期限を守ること。他者と協力して気持ちよく学べるよう努力すること。欠席してしまった場合、次回までに、担当教員等から課題をうけとり、指示をうけること。プレゼンテーションの日は絶対に遅刻せず、必ず出席すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 下記を参照してください。
場所： 下記を参照してください。

備考・注意事項： 鍛治致：木曜日14:40～16:10、個人研究室（西館2階）にて実施します。
 岡田功：水曜日13:00～14:30、個人研究室にて実施します。
 島雅則：金曜日13:00～14:30、個人研究室（西館2階）にて実施します。
 中野毅：金曜日13:00～14:30、個人研究室（西館4階）にて実施します。
 浅野法子：水曜日13:00～14:00、個人研究室（西館5階）にて実施します。
 佐伯暁子：月曜日14:40～16:10、個人研究室（西館5階）にて実施します。
 瀬戸祐規：授業開始前後に授業教室にて実施します。
 能登邦之：授業開始前後に授業教室にて実施します。

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	課題1の1. 大学ネットワークの活用。 大学での学びに必要な日本語力について。大学ホームページの活用、モバイルキャンパスなどの確認。大学ポータルからの連絡が自分のメールに転送されるよう設定。	4時間
第2回	課題1の2. 電子メールのスキルとマナー。 大学Gメールの使い方。大学・仕事での電子メールの適切な書き方。	4時間
第3回	課題1の3. 資料の集め方。著作権。 マイクロソフト・ワードを使ったレポートの書き方。課題1のための問題の発見（身近な問題で、かつ客観的な資料が提示できる論題）。資料を集める方法、引用元や参照資料の確認方法、著作権の侵害や盗作を回避する必要性について。	4時間
第4回	課題1の4. 発表内容を整える。 マイクロソフト・ワードによる文書作成、論理的な内容の構築方法。マイクロソフト・パワーポイントによる口頭発表用スライドの作成方法。	4時間
第5回	課題1の5. 効果的なプレゼンテーション。 プレゼンテーションのマナー、聴衆の理解を深めるためのパワーポイントの効果的な使い方。話す力（公的な状況での言葉遣い、敬語と謙譲語）。	4時間
第6回	課題1のプレゼンテーション。 パワーポイントを使った口頭発表。他者の意見を聞き、自分の意見を述べる。聴衆を説得、納得させる発表をめざす。プレゼンテーションのルーブリックをもとに、クラスメンバーで相互評価票に記入する。発表をよく聞き、内容に関する質問を各自考える。	4時間
第7回	課題1のレポートの執筆。 口頭発表の内容を大学でのレポート形式にまとめる。口頭発表のときに受けた質問や、内容や構成について指摘された点について再考し、レポートの内容をまとめ直す。脚注の挿入方法。引用元、参照資料を正しい方法で記載する。	4時間
第8回	課題2の1. 大学でのレポートの書き方。 大学でのレポートの書き方について学ぶ。課題2のレポートの論題の選び方と資料の探し方。情報発信者の評価方法。孫引きにならないために。	4時間
第9回	課題2の2. 適切な日本語で書く。 適切な日本語（敬語、ら抜き言葉、さ入れ言葉。レポートや論文での接続詞）。各自レポートで取りあげる資料を集め、整理し、自分の発表内容を論理的に構築する。	4時間
第10回	課題2の3. 情報の評価と引用の方法。 情報の整理と構成、転載と引用の記載方法。テーマ、内容、用語、背景など、まず自分が十分に理解できるように調べる。そのうえで、聞き手・読み手に伝わる言葉もちいて説明できるようにする。インターネットを利用する場合、情報を最初に発信した人は誰か、どのような根拠や事実にもとづいて発信されている情報か、本当に信頼できるのか、充分留意すること。	4時間
第11回	課題2の4. 説得力のある発表を準備する。 口頭発表の読み原稿と、パワーポイントを完成させる。客観的な根拠にもとづき相手を説得できる「伝わる」発表をめざす。	4時間
第12回	課題2のプレゼンテーション。 プレゼンテーション。プレゼンテーションのルーブリックをもとに、相互評価票に記入する。発表者に対して、内容に対する質問、発表のパフォーマンスについてのコメントを述べる。	4時間
第13回	課題2のレポート執筆1. 構成・執筆。 レポートのルーブリックにしたがって、レポートの構成と形式を整える。	4時間
第14回	課題2のレポート執筆2. 推敲。 脚注のチェック。引用、参照資料の正確な入力。論理性の確認。接続詞、段落構成、文の長さ、主語述語の対応、文体は適切か。	4時間
第15回	課題2のレポート執筆3. 校正。 論理的に筋道がとおった主張になっているか再考する。内容と形式（見た目）の両方が整っているか。誤字や脱字、表記のゆれ、文の長さなどをチェック。授業の振り返り。半年の学習を振り返り、「まとめ」をします。	4時間

授業科目名	スタディスキルズ1／日本語コミュニケーション1				
担当教員名	鈴木勇・羽野ゆつ子・松田修・辻村敬三・丸野亨・山本智也・片山美穂・寶學淳郎・山本はるか				
学年・コース等	1年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義＋演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

大学では、専門分野について深く学ぶとともに、市民として社会に自覚的に賢く参画する力を育てることも大切です。本科目は、大学と社会のどちらでも必要なコミュニケーション作法の習得をめざします。まず、コミュニケーションのツールとして、社会人として通用する電子メールの書き方、PCによるレポートやプレゼンテーション資料の作成技法など学びます。また、他者の意見や考えを理解し、自分の意見や主張を的確に伝えるられるように、資料の収集方法とそれらの評価方法、引用方法、論理的な文章構築方を実践的に学びます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1. 幅広い教養やスキル	話すこと、聴くこと、読むこと、書くことの作法を学ぶ	2000字程度のレポートを正しい作法で執筆できる。パワーポイントを使って5分程度のプレゼンテーションができる。
2．DP1. 幅広い教養やスキル	語彙力と読解力	短文を精読し、その内容を正確に理解し、またその要旨を的確にまとめることができる。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		社会の問題に目を向け、多様な意見や資料を収集し、自分で考え、主張を伝えることができる。
2．DP8. 意思疎通		社会の問題に関して、自分の「意見」を整理してわかりやすく口頭発表したり、レポートとしてまとめたりすることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。
レポートとプレゼンテーションについては、評価の基準と観点を示す表(ルーブリック)を配布する。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

平常点	20%	： 毎回のシャトルシートおよびワークシート等の取り組み状況、授業への参加度（グループでの話し合いへの参加状況、発言など）、授業外での準備状況などに基づき評価する。
授業内課題	50%	： 2回のプレゼンテーション、2回のレポートについて聴衆/自己評価を踏まえ、以下の観点で評価。 ①プレゼンテーションでの内容、話し方、効果的な資料 ②レポートの形式、わかりやすさ、論理的構成力
小テスト	20%	： 語彙力や文章を読み取りの力をはかる授業内小テスト2回の成績。
期末レポート	10%	： 授業全体の振り返り。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

なし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

遅刻厳禁。提出物は期限を守ること。
他者と協力して気持ちよく学べるよう努力すること。
欠席してしまった場合、次回までに、担当教員等から課題をうけとり、指示を受けること。
プレゼンテーションの日は遅刻せず、出席すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項： 片山クラス：初回授業時に紹介
鈴木クラス：初回授業時に紹介
辻村クラス：初回授業時に紹介
羽野クラス：水・木・金の昼休み（12:20～12:50） 研究室（中央館2階研究室80）
寶學クラス：初回授業時に紹介
松田クラス：初回授業時に紹介
丸野クラス：初回授業時に紹介
山本はるかクラス：初回授業時に紹介
山本智也クラス：初回授業時に紹介

授業計画		授業外学修課題にかかると自らの時間	
第1回	オリエンテーション：科目の主旨、授業計画 科目の主旨と授業計画を理解する。 入学前課題を提出し、ふりかえりを行う。 2つの課題を理解する。 大学ホームページの活用、モバイルキャンパスなどを確認する。 大学ポータルからの連絡が自分のメールに転送されるよう設定する。	朝日新聞時事ワークシート。要約ドリル。発表1の構想。	2時間
第2回	電子メールのスキルとマナー、プレゼンテーションとは 大学Gメールの使い方 大学・仕事での電子メールの適切な書き方 効果的なプレゼンテーションについて プレゼンテーションのマナー、話し方 聴衆の理解を深めるためのパワーポイントの効果的な使い方。	課題2のテーマを考え、資料をさがす。時事ワークシート37, 38。要約ドリル2。	4時間
第3回	課題2の準備 研究倫理について Microsoft Wordを使ったレポートの書き方。 課題2のための問題の発見（身近な問題で、かつ客観的な資料が提示できる論題） 研究倫理について（資料を集める方法と、引用元、参照資料の確認方法、著作権侵害、盗作を回避する必要性など）	時事ワークシート。要約ドリル。課題1のプレゼン準備。	4時間
第4回	課題1のプレゼンテーション（前半） 課題1のパワーポイントを使った口頭発表 他者の意見を聞き、自分の意見を述べる。聴衆を説得、納得させる発表をめざす。 プレゼンテーションのルーブリックをもとに、クラスメンバーで相互評価票に記入する。 発表をよく聞き、内容に関する質問を各自考える。	時事ワークシート。要約ドリル。課題1のプレゼン準備	4時間
第5回	課題1のプレゼンテーション（後半） 課題1のパワーポイントを使った口頭発表 他者の意見を聞き、自分の意見を述べる。聴衆を説得、納得させる発表をめざす。 プレゼンテーションのルーブリックをもとに、クラスメンバーで相互評価票に記入する。 発表をよく聞き、内容に関する質問を各自考える。	時事ワークシート。要約ドリル。プレゼンのふりかえり。	4時間
第6回	課題1のレポートの執筆 課題1の口頭発表の内容を大学でのレポート形式にまとめる（1000字程度） 口頭発表のときに受けた質問や、内容や構成について指摘された点について再考し、レポートの内容をまとめ直す。 脚注の挿入方法。引用元、参照資料を正しい方法で記載する。	時事ワークシート。要約ドリル レポート執筆の準備。	4時間
第7回	課題2の準備（1） レポートの構想 語彙力・読解力小テスト1 大学でのレポートの書き方について学ぶ。資料配付 情報、発信者の評価方法。孫引きにならないために。 適切な日本語（敬語、らぬき言葉、さ入れ言葉。レポートや論文での接続詞） 資料配付	課題2のレポート構想。時事ワークシートの復習。	6時間
第8回	課題2の準備（2） 情報の評価と引用の方法 小テスト1 情報の整理、構成転載・引用記載方法（資料配付） テーマ内容、使われている用語、背景など、まず自分が十分に理解するように調べる。そのうえで、聞き手・読み手につたわる言葉をもちいて説明できるようにする。 インターネットを利用する場合、情報を最初に発信した人は誰か？どのような根拠や事実にもとづいて発信されている情報か？それは、本当に信頼できるのか、充分留意すること。 各自レポートで取りあげる資料を集め、整理し、自分の発表内容を論理的に構築する。 時事ワークシート小テスト	課題2の発表内容をまとめる。時事ワークシート。要約ドリル。中間テストふりかえり。	4時間
第9回	発表2の準備（3） 説得力のある発表を準備する。 5分に収まる口頭発表の読み原稿（1000字程度）と、パワーポイントを完成させる。 客観的な根拠にもとづき相手を説得できる、「伝わる」発表をめざす。	プレゼンのルーブリックにそって口頭発表原稿を完成させ、練習する。時事ワークシート。要約ドリル。	4時間
第10回	課題2のプレゼンテーション（1） プレゼンテーション（1人5分） プレゼンテーションのルーブリックをもとに、相互評価票に記入する。 発表者に対して、内容に対する質問、発表のパフォーマンスについてのコメントを述べる。	課題2の発表内容を吟味する。時事ワークシート。要約ドリル。	4時間
第11回	課題2のプレゼンテーション（2） プレゼンテーション（1人5分） プレゼンテーションのルーブリックをもとに、相互評価票に記入する。 発表者に対して、内容に対する質問、発表のパフォーマンスについてのコメントを述べる。	課題2の発表内容を吟味する。時事ワークシート。要約ドリル。	4時間
第12回	課題2のプレゼンテーション（3） プレゼンテーション（1人5分） プレゼンテーションのルーブリックをもとに、相互評価票に記入する。 発表者に対して、内容に対する質問、発表のパフォーマンスについてのコメントを述べる。	レポート執筆準備。時事ワークシート。要約ドリル。レポート作成に向けたプレゼンのふりかえり	4時間
第13回	課題2のレポート執筆（1） 下書きの完成 レポートのルーブリックにしたがって、レポートの構成と形式を整える。 （A4 2枚 本文が1600～2000字程度）	レポートの執筆。時事ワークシートの復習。	4時間
第14回	課題2のレポートの執筆（2） 推敲・校正、小テスト2 脚注のチェック。引用、参照資料の正確な入力。 論理性的の確認。接続詞、段落構成、文の長さ、主語述語の対応、文体は適切か 時事ワークシート小テスト2	レポートの推敲。期末テストのふりかえり。	4時間
第15回	課題2のレポートの執筆（3） 授業のまとめ 論理的に筋道がとおった主張になっているか再考する。 内容と形式（見た目）の両方が整っているか。 誤字や脱字、表記のゆれ、文の長さなど、チェック。	レポートの最終チェック。課題の総復習。	4時間

授業科目名	スタディスキルズ2／日本語コミュニケーション2				
担当教員名	福本章・稲垣貴士・内海涼子・加藤博文・宇埜直子・辻村 みゆき				
学年・コース等	1年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義＋演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	福本：25年（営業管理、総務人事、経営企画、組織開発）				

授業概要

大学生として、また社会人として必要な日本語運用能力を伸ばす授業です。とくに大学生として自分の考えを論理的に主張できるレポート作成とプレゼンテーションが中心的課題です。適切な情報を探し、情報の評価を十分に行うこと、それらを正しいルールに従って引用する方法などを習得します。様々なメディアやソースから、具体的な事実の裏付けがない、根拠の薄い情報や、情報源から（無断）転載されている無責任な情報などを見分け、事実に近い情報や真摯な主張を見つけ、自分で分析、思索する力を養います。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1. 幅広い教養やスキル	日本語の運用能力。	自分の主張を、5分程度のプレゼンテーション、および2000字程度のレポートで論理的に発表できる。
2．DP1. 幅広い教養やスキル	語彙力と読解力	短文を精読し、その内容を正確に理解し、またその要旨を的確にまとめることができる。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		社会で起こっている問題に目を向け、適切な情報を収集し、自分の考えを示すことができる。
2．DP8. 意思疎通		社会の問題に関して、自分の「意見」を整理してわかりやすく口頭発表したり、レポートとしてまとめたりすることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

図書館「読書感想文およびポップ」（課題提出）	10%	夏休みの課題として課した「読書感想文」の提出をもって一律の加点とする。内容により、5段階で評価し優劣において差異を設ける。また、課題の「書籍紹介ポップ」は、提出を持って加点する。
プレゼンテーション	20%	研究内容のプレゼンテーションを実施する。プレゼンテーションは、ルーブリックに従って評価する。また、パワーポイントによるプレゼン資料を提出する。
レポート（論文）	20%	最終課題として所定の書式に則り、2000字程度のレポートを提出する。ルーブリックに従って評価する。
課題（1000文字要約・時事ワーク、等）	25%	①毎回の課題提出による評点（1000文字要約：全8回の提出）。 ②天声人語「漢字」の課題提出による評価。 ③シャトルシート等から確認する授業への取り組み姿勢への加点。
日本語運用能力テスト	10%	大学生として必要な学術語彙、日本語運用能力を測る検定より加点。（15回授業が終了した後に実施）
語彙・読解力 小テスト（2回）	15%	中間と期末に実施する語彙力と読解力をはかる小テストより評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

なし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項： 内海クラス：火曜3限 南館3F第2研究室
加藤クラス：初日授業にて連絡 南館2F情報デザイン研究室
稲垣クラス：水曜5限 南館2F情報デザイン研究室
福本クラス：水曜3限 南館2F情報デザイン研究室
宇埜クラス：水曜12：30 - 13：00 非常勤講師室

授業計画			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	オリエンテーション：目標設定 <ul style="list-style-type: none"> ・課題の設定とスケジュールの確認。 ・前期「スタデイスキルズ1」で作成したプレゼン及び、レポートの内容の確認と振り返りの実施。 ・課題を明確にし、後期の授業へ向けた目標設定。 【演習と課題】 <ul style="list-style-type: none"> ①夏休み課題「読書感想文」の提出（受付）と修正まで ②読み・書き：時事ワークシート「天声人語漢字」11-12回（授業時間初めにペアワークにて読み合わせ：声出し） ③100文字要約ドリル演習（第15回） ＊①～③の番号を優先順位とし、時間内に出来ない演習を課題とする。	プレゼン及びレポートのテーマを考える。未完成な①～③の課題の完遂。「天声人語漢字」「100文字要約ドリル演習」は次回提出し評価の対象とする。	4時間
第2回	社会で求められる日本語運用能力 <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンレポート（論文）のテーマについての考察。（i, ディベートで扱われる題材の考察、ii, 就職試験でのグループワークで取り上げられるテーマの考察、iii, NHKクローズアップ現代などで取り上げられている題材の考察、iv, ニュースで取り上げられる時事問題からの考察、v, その他） ・図書館：POPコンテスト概要説明（課題の提示）→書籍紹介POPを課題とする指示（締め切り10/31予定） 【演習と課題】 <ul style="list-style-type: none"> ①全学共通：社会人になっても恥をかかないための言葉遣いテスト（第1回）回答→解説→理解まで ②読み・書き：時事ワークシート「天声人語漢字」13-14回（授業時間初めにペアワークにて読み合わせ：声出し） ③100文字要約ドリル演習（第16回） ＊①～③の番号を優先順位とし、時間内に出来ない演習を課題とする。 ＊未提出の読書感想文は第2回授業を最終提出締め切りとし、評価への加点項目とする。	授業内容の復習とレポート内容の論点整理。未完成な①～③の課題の完遂。「天声人語漢字」「100文字要約ドリル演習」は次回提出し評価の対象とする。	4時間
第3回	論点整理と論文作成のための確認事項の整理 <ul style="list-style-type: none"> ・前期「スタデイスキルズ1」で学修した「十字モデル」による作業シートへのテーマの落とし込み。 ・後期「スタデイスキルズ2」のポイントとして、（i, 反論～論駁を明確にすること（起承転結の「転」の明確化）。（ii, 参考資料、引用文献、を5点以上掲げること）。（iii, 図・グラフなど出典を明らかにし、レポートへの参考資料（図表など）として引用することへのチャレンジ）。 ・課題設定と確認、作業まで。 【演習と課題】 <ul style="list-style-type: none"> ①全学共通：社会人になっても恥をかかないための言葉遣いテスト（第2回）回答→解説→理解まで ②読み・書き：時事ワークシート「天声人語漢字」15-16回（授業時間初めにペアワークにて読み合わせ：声出し） ③100文字要約ドリル演習（第17回） ＊①～③の番号を優先順位とし、時間内に出来ない演習を課題とする。	十字モデル作業シートへのテーマの入力の完遂。「天声人語漢字」「100文字要約ドリル演習」は次回提出し評価の対象とする。	4時間
第4回	原稿作成（プレゼン及びレポート）情報収集 <ul style="list-style-type: none"> ・十字モデルの内容を、パワーポイントへ落とし込む作業開始。 ・発表（プレゼンテーション）用の原稿と、論文・レポート原稿の区別の明確化の理解。 ・プレゼンテーションの評価ポイントの共有（ループリックの内容共有；評価ポイントの解説と理解）。 【演習と課題】 <ul style="list-style-type: none"> ①全学共通：社会人になっても恥をかかないための言葉遣いテスト（第3回）回答→解説→理解まで ②読み・書き：時事ワークシート「天声人語漢字」17-18回（授業時間初めにペアワークにて読み合わせ：声出し） ③100文字要約ドリル演習（第18回） ＊①～③の番号を優先順位とし、時間内に出来ない演習を課題とする。	パワーポイントの原稿作成継続。未完成な①～③の課題の完遂。「天声人語漢字」「100文字要約ドリル演習」は次回提出し評価の対象とする。	4時間
第5回	原稿作成（プレゼン用パワーポイント資料・原稿の整理） <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーション（3分～5分）のパワポイント資料の作成まで。 ・プレゼン用原稿（800文字～1200文字程度）の作成と発表の準備。 ・ループリックよりプレゼンの評価ポイントの理解から練習まで。 【演習と課題】 <ul style="list-style-type: none"> ①全学共通：社会人になっても恥をかかないための言葉遣いテスト（第4回）回答→解説→理解まで ②読み・書き：時事ワークシート「天声人語漢字」19-20回（授業時間初めにペアワークにて読み合わせ：声出し） ③100文字要約ドリル演習（第19回） ＊①～③の番号を優先順位とし、時間内に出来ない演習を課題とする。	パワーポイントの原稿作成継続。未完成な①～③の課題の完遂。「天声人語漢字」「100文字要約ドリル演習」は次回提出し評価の対象とする。	4時間
第6回	プレゼンテーション準備（原稿推敲） <ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイント資料としての最終確認。 ・プレゼン用原稿と、レポート（論文）用原稿の区別の確認。 ・大学生としての論理的文章の構築について確認。 ・発表へ向けて（質疑応答を含め、可能な限りの）個別対応を実施。 【演習と課題】 <ul style="list-style-type: none"> ①全学共通：社会人になっても恥をかかないための言葉遣いテスト（第5回）回答→解説→理解まで ②読み・書き：時事ワークシート「天声人語漢字」21-22回（授業時間初めにペアワークにて読み合わせ：声出し） ＊①②の番号を優先順位とし、時間内に出来ない演習を課題とする。	第1回～6回の演習と課題について復習。「天声人語漢字」は次回提出し評価の対象とする。	4時間
第7回	日本語運用能力（中間まとめ） <ul style="list-style-type: none"> ・書く力、読む力の向上に関するまとめとして小テスト（30分程度）を実施。（テスト範囲） <ul style="list-style-type: none"> ①読み・書き：時事ワークシート「天声人語漢字」11-22回（全12回より） ②100文字要約ドリル演習（第11～19回）を踏まえ、同様の問題（類似問題を予定する） ・レポート（論文）執筆開始（2000文字以上）cf, 前期「スタデイスキルズ1」では1500文字程度。 	小テストの間違い箇所の復習。	4時間
第8回	第1回プレゼンテーション	プレゼン実施により表出した課題と改善事項を明らかにし自身の課題を設定。「天声人語漢字」は次回提出し評価の対象とする。	4時間

	<p>【5～8名程度を予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1人あたりプレゼン（3～5分程度） ・1人あたりループリックの作業時間（1～3分程度） ・1人あたり質疑応答+教員コメント（1～10分程度） <p>*大学生としての論理的文章をアウトプットする場として意識して取り組む。</p> <p>身に付けた「書く力」を「話す力」へと変換する「学修成果を発揮する機会」として意識すること。</p> <p>発表者は前期に発表した自分と、今期の自分の「成長した点」「改善した点」を明確にして臨むこと。</p> <p>【演習と課題】</p> <p>①読み・書き：時事ワークシート「天声人語漢字」23-24回（授業時間初めにペアワークにて読み合わせ：声出し）</p>		
第9回	<p>第2回プレゼンテーション</p> <p>【5～8名程度を予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1人あたりプレゼン（3～5分程度） ・1人あたりループリックの作業時間（1～3分程度） ・1人あたり質疑応答+教員コメント（1～10分程度） <p>*発表者は、第1回プレゼンにおいて、明らかになった課題を意識し、自身のプレゼンに取り入れること。</p> <p>（後になればなる程、様々な課題あるいは改善点が明らかになることを自覚し自身のプレゼンに臨む意識）</p> <p>【演習と課題】</p> <p>①読み・書き：時事ワークシート「天声人語漢字」25-26回（授業時間初めにペアワークにて読み合わせ：声出し）</p>	<p>プレゼン実施により表出した課題と改善事項を明らかにし自身の課題を設定。「天声人語漢字」次回提出し評価の対象とする。</p>	4時間
第10回	<p>第3回プレゼンテーション</p> <p>【5～8名程度を予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1人あたりプレゼン（3～5分程度） ・1人あたりループリックの作業時間（1～3分程度） ・1人あたり質疑応答+教員コメント（1～10分程度） <p>*発表者は、第1回、2回プレゼンにおいて、明らかになった課題を意識し、自身のプレゼンに取り入れること。</p> <p>（後になればなる程、様々な課題あるいは改善点が明らかになるため、発表者は、その点を意識して臨むことはもとより、前期に発表した自分と、今期の自分の「成長した点」「改善した点」を明確にして臨むこと）</p> <p>【演習と課題】</p> <p>①読み・書き：時事ワークシート「天声人語漢字」25-26回（授業時間初めにペアワークにて読み合わせ：声出し）</p>	<p>プレゼンを振り返り、レポート原稿作成へと活かす点を考え作業を開始すること。「天声人語漢字」は次回提出し評価の対象とする。</p>	4時間
第11回	<p>レポート（論文）執筆：（第4回プレゼンテーションの予備回として想定）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼン未実施者のある場合、優先し実施（ループリック評価、振り返り）。 ・随時、レポートへの作成作業への移行。 <p>【演習と課題】</p> <p>①読み・書き：時事ワークシート「天声人語漢字」27-28回（授業時間初めにペアワークにて読み合わせ：声出し）</p> <p>②100文字要約ドリル演習（第20回）</p> <p>*①②の番号を優先順位とし、時間内に出来ない演習を課題とする。</p>	<p>課題を明確にし、レポート（論文）作成。「天声人語漢字」「100文字要約ドリル演習」は次回提出し評価の対象とする。</p>	4時間
第12回	<p>レポート（論文）作法の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・論題の選び方、情報の整理、転載、引用の確認と記載方法、テーマ、論文の背景、内容、用語の使用など、再度確認。 ・パワーポイントでの資料を生かしたデータ、図表の活用と出典の確認。 ・適切な日本語表現の確認。 ・レポート（論文）のループリックによる評価基準の明確化。 <p>【演習と課題】</p> <p>①読み・書き：時事ワークシート「天声人語漢字」29-30回（授業時間初めにペアワークにて読み合わせ：声出し）</p> <p>②100文字要約ドリル演習（第21回）</p> <p>*①②の番号を優先順位とし、時間内に出来ない演習を課題とする。</p>	<p>課題を明確にし、レポート（論文）作成・修正。「天声人語漢字」「100文字要約ドリル演習」は次回提出し評価の対象とする。</p>	4時間
第13回	<p>レポート（論文）構成・執筆</p> <ul style="list-style-type: none"> ・脚注のチェック、引用、参照資料、等の正確な入力。 ・レポート（論文）内容の論理性の確認。 ・接続詞、段落構成、文の長さ、主語述語の対応、文体の統一性、また適切な使用かの確認。 <p>【演習と課題】</p> <p>①読み・書き：時事ワークシート「天声人語漢字」31-32回（授業時間初めにペアワークにて読み合わせ：声出し）</p> <p>②100文字要約ドリル演習（第22回）</p> <p>*①②の番号を優先順位とし、時間内に出来ない演習を課題とする。</p>	<p>レポート（論文）作成・校正。「天声人語漢字」「100文字要約ドリル演習」は次回提出し評価の対象とする。</p>	4時間
第14回	<p>レポート（論文）推敲・校正。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・論理的に筋道が通った主張となっているか再考する。 ・内容と形式、見た目の両方が整っているか最終確認。 ・誤字脱字、表記のゆれ、文節の長さなどのチェック。 ・授業を通しての振り返り。 ・可能な限り、質疑応答も含め個別対応での指導も実施。 <p>【演習と課題】</p> <p>①読み・書き：時事ワークシート「天声人語漢字」33-34回（授業時間初めにペアワークにて読み合わせ：声出し）</p>	<p>レポート（論文）作成・校正。「天声人語漢字」23-34回、100文字要約ドリル、言葉遣いテスト（第1～5回）の復習。</p>	4時間
第15回	<p>大学生としての日本語運用能力：振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レポート（論文）の最終校正を終え提出まで。 ・レポート作成のループリックに従って照合し、提出に足るレベルを持って完成とする。 ・書く力、読む力の向上に関するまともとして小テスト（40分程度）を実施。 <p>（確認テスト範囲）</p> <p>①読み・書き：時事ワークシート「天声人語漢字」23-34回（全12回より）</p> <p>②100文字要約ドリル演習（第20～22回）を踏まえ、同様の問題（類似問題を予定する）</p> <p>③社会人になっても恥をかかないための言葉遣いテスト（第1～5回）のまとも</p>	<p>日本語運用能力テストの試験勉強を行う。</p>	4時間
第16回	<p>日本語運用能力テスト（Z会）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全クラスで日本語運用能力テストを実施。前期「スタデイスキルズ1」から後期「スタデイスキルズ2」を一年間受講し、大学生に求められる日本語運用能力が、どの程度向上したかをアセスメントとして測定するもの（入学式直後に受験した試験と同種のものを実施し成果を測定する）。 ・「読む、書く、話す、聞く」からなるコミュニケーションの基盤となる能力は、就職活動や社会人として求められる能力であり、以降の大学生活で修得すべき学士力の醸成に寄与する学修であると期待する。 		4時間

授業科目名	スタディスキルズ2／日本語コミュニケーション2（留学生）				
担当教員名	鍛冶致				
学年・コース等	1年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義＋演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

本科目では、大学や社会で学び続けるために必要なスキルや能力を学びます。とくに大学生として自分の考えを論理的に主張できるレポート作成とプレゼンテーションが中心的課題です。適切な情報を探し、情報の評価を十分に行うこと、それらを正しいルールに従って引用する方法などを習得します。様々なメディアやソースから、具体的な事実の裏付けがない、根拠の薄い情報や、情報源から（無断）転載されている無責任な情報などを見分け、事実に近い情報や真摯な主張を見つけ、自分で分析、思索する力を養います。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル
- 2 . DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

- 日本語の運用能力。
語彙力と読解力。

目標：

- 自分の主張を、5分程度のプレゼンテーション、および2000字程度のレポートで論理的に発表できる。
短文を精読し、その内容を正確に理解し、またその要旨を的確にまとめることができる。
話者や筆者の意図を正確に理解した上で、自己の意図が相手に正確に伝わるような小論文を書くことができる。

汎用的な力

- 1 . DP8. 意思疎通

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

小論文	30%	： 他者の意見が正しく引用されているか（10点）、日本語が正しく書けているか（10点）、他者の意見に対する自分の主張が明確に述べられているか（10点）という観点から30点満点で評価する。
自習ノート	25%	： 毎週4ページ以上学習しているか、辞書や参考書を活用しているか、自己の目標や興味に合わせて自主的に課題を設定し取り組んでいるか等の観点から5回×5点/回＝25点満点で評価する。
毎回の授業への取り組み状況	35%	： ワークシートを用いながら各回授業への積極的参加や授業態度を独自のルーブリックを基に総合的に評価する。
試験（レポート）	10%	： 15回の授業で学んだことを独自の視点から整理・要約した上で、そのうち最も興味を持ったテーマを一つ設定して調べ、整理・要約し、考察し、結論を導き出す（1600字）。独創性5点＋形式5点＝合計10点で評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特に指定しません。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。授業中に誤答の訂正をしてもらうことがあるので、必ず赤ペンを持参すること（蛍光ペン等のマーカーは不可）。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 木曜14:30～16:10
場所： 鍛冶研究室（西館2階）

授業計画

第1回

オリエンテーション：日本語の力（読んだり書いたりする力）を伸ばす方法とは

みなさんは日本語を読んだり書いたりするのが得意ですか、日本語を読んだり書いたりする力を伸ばすため日頃どのような努力をしていますか。学習方法を互いに共有することを通じて自分の学習方法を見直し、前期の学習計画を立ててみましょう。

A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：複文と接続詞（「～て」・付帯状況・並列などの表現）。

授業外学修課題にかかる目安の時間

4時間

第2回	<p>経済学について書かれた文章を読む</p> <p>経済学が前提とする人間は合理的かつ利己的で行動力もある「強い個人」です。でも、そんな人間、実際にはいません。今回は経済学について書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。</p>	<p>A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：複文と接続詞（逆接）。</p>	4時間
第3回	<p>規定について書かれた文章を読む</p> <p>みなさんは規定をじっくり読んだことがありますか。規定にはものごとを処理するための手順が必要かつ十分な分量で明確に書かれており、日本語学習者にとっては最良の教材です。今回は規定について書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。</p>	<p>A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：「は」と「が」。</p>	4時間
第4回	<p>クリティカル・シンキングについて書かれた文章を読む</p> <p>みなさんは「クリティカル・シンキング」ということばを聞いたことがありますか。今回はクリティカル・シンキングの必要性を示したある心理学の実験について書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。</p>	<p>A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：疑問文の種類と文末形式。</p>	4時間
第5回	<p>動機づけについて書かれた文章を読む</p> <p>動機には内的なもの外的なものがありますが、内的な動機だけであることを継続していけるかといえば、実はそうではありません。今回は「動機づけ」について書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。</p>	<p>A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：様々な構文（は…が構文・強調構文）。</p>	4時間
第6回	<p>茶道について書かれた文章を読む</p> <p>みなさんは日本の茶道を体験したことがありますか。日本の茶道と中国の茶道の違いが説明できますか。今回は茶道について書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。</p>	<p>A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：文体（デスマス体・デアル体）。</p>	4時間
第7回	<p>ボランティアについて書かれた文章を読む</p> <p>みなさんはボランティア活動に参加したことはありますか。ボランティアとは何ですか。みなさんならどのように定義しますか。今回はボランティアについて書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。</p>	<p>A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：品詞。</p>	4時間
第8回	<p>反省について書かれた文章を読む</p> <p>物事がうまくいかなかったとき、私たちは反省します。でも物事がうまくいったときにも反省しなければなりません。なぜでしょうか。今回は反省について書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。</p>	<p>A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：名詞（文）。</p>	4時間
第9回	<p>良い専門書の条件について書かれた文章を読む</p> <p>「自分が知っていることを知っていることとして、自分の知らないことは知らないこととしなさい。これが知るということである」とは孔子の言葉ですが、今回は良い専門書の条件について書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。</p>	<p>A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：形容詞。</p>	4時間
第10回	<p>美術品の修復について書かれた文章を読む</p> <p>美術品の修復作業で大変なのは、前回修復した部分を除去する作業なんだそうです。では、修復作業で大切なことは何か、分かりますか。今回は美術品の修復について書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。</p>	<p>A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：数量詞。</p>	4時間
第11回	<p>身近な問題について自分の意見を書いてみよう</p> <p>みなさんは賛否両論ということばを知っていますか。今回はそのような議題を取りあげ、賛成か反対かみなさんに考えてもらいます。まずは賛成か反対か自分の意見をはっきりさせようとして、なぜ賛成/反対なのか、その理由を文章にまとめてみましょう。</p>	<p>自分が選んだテーマでどのような小論文が書けそうか、小論文の構成を考えてみてください。</p>	4時間
第12回	<p>他人の意見を読み、それらを要約・整理してみよう</p> <p>賛成する人には賛成する理由が、反対する人には反対する理由があります。まずは様々な立場の人たちが書いた文章を集めて読み、なぜその人たちが賛成・反対しているのか、それらの理由を要約したり整理したりしながら分析してみましょう。</p>	<p>自分はどの人の意見に賛成で、どの人の意見に反対なのか、その理由をそれぞれ考えてみてください。</p>	4時間
第13回	<p>他人の意見を引用する作法について学ぼう</p> <p>「自分の意見を述べるだけ」「他の人が書いた文章を書き写すだけ」なら高校生にだってできます。大学生のみなさんは、他人の意見を自分の意見と区別した上で、誰がいつどこでそう言っていたのか出典を示さなければなりません。引用の作法について学習しましょう。</p>	<p>自分が考えた小論文の構成に沿って、また他の人の意見を引用しつつ、実際に小論文を書いてみてください。</p>	4時間
第14回	<p>他人の意見を引用しつつ自説を展開してみよう</p> <p>前回学習した作法に従いつつ、他人の意見を引用し、それらに賛同したり反論したりしながら、自分の意見を主張してみましょう。他人の意見を引用することにより、自分の文章はどのように変わるでしょうか。</p>	<p>小論文を校正してください。自分が伝えたいことが読み手にきちんと伝わるよう、きちんと校正してください。</p>	4時間

第15回

自説を小論文にまとめてみよう

これまで4回にわたり準備してきた小論文を完成させ、提出してもらいます。評価のポイントは、賛成なら賛成の、反対なら反対の理由がきちんと書かれているか、引用の作法が守られているか、自分とは逆の意見に対する反論がきちんと書かれているか等です。みなさんの健闘を期待します。

誰の小論文が良かったと思いますか。その理由は何ですか。自分の小論文にはどのような課題があると思いますか。A4版ノート（ルーズリーフ不可）にまとめてください。

4時間

授業科目名	スタディスキルズ2／日本語コミュニケーション2				
担当教員名	鍛冶致・岡田功・島雅則・中野毅・井関和恵・浅野法子・佐伯暁子・瀬戸祐規・能登邦之				
学年・コース等	1年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義＋演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	岡田：新聞記者として長年、経済問題などの記事、コラムを執筆してきた。（全15回）				

授業概要

本科目では、大学や社会で学び続けるために必要なスキルや能力を学びます。とくに大学生として自分の考えを論理的に主張できるレポート作成とプレゼンテーションが中心的課題です。適切な情報を探し、情報の評価を十分に行うこと、それらを正しいルールに従って引用する方法などを習得します。様々なメディアやソースから、具体的な事実の裏付けがない、根拠の薄い情報や、情報源から（無断）転載されている無責任な情報などを見分け、事実に近い情報や真摯な主張を見つけ、自分で分析、思索する力を養います。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1. 幅広い教養やスキル	日本語の運用能力。	自分の主張を、5分程度のプレゼンテーション、および2000字程度のレポートで論理的かつ効果的に発表できる。
2．DP1. 幅広い教養やスキル	語彙力と読解力。	幅広い資料を正しく読み解いて理解・吸収した上で、適切かつ効果的な語彙を駆使して持論を展開するとともに予想される反論に反駁し、相手を説得することができる。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		社会で起こっている問題に目を向け、適切な情報を収集し、自分の考えを示すことができる。
2．DP8. 意思疎通		社会の問題に関して、自分の「意見」を整理してわかりやすく口頭発表したり、レポートとしてまとめたりすることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

平常点	35%	ワークシート等の取り組み状況、授業への参加度（グループでの話し合いへの参加状況、発言など）、準備状況などに基つき評価する。
授業内課題	35%	プレゼンテーションおよびレポートについて聴衆/自己評価を踏まえ、以下の観点で評価。①プレゼンテーションでの内容、話し方、効果的な資料 ②レポートの形式、わかりやすさ、論理的構成力
授業外課題	20%	文章実践力および交互表現力を鍛えるための授業外課題の取り組みについて、①期限が守れているか、②正確に書けているか、③主体的に取り組んでいるかに基つき評価する。
試験（レポート）	10%	15回の授業で学んだことを独自の視点から整理・要約した上で、そのうち最も興味を持ったテーマを一つ設定して調べ、整理・要約し、考察し、結論を導き出す（1600字）。独創性5点＋形式5点＝合計10点で評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
丸山顯徳	『キャリアアップ国語表現法（十八訂版）』	嵯峨野書院	2018年

参考文献等

参考文献などは授業中に紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。遅刻厳禁。提出物は期限を守ること。他者と協力して気持ちよく学べるよう努力すること。欠席してしまった場合、次回までに、担当教員等から課題をうけとり、指示を受けること。プレゼンテーションの日は絶対に遅刻せず、必ず出席すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	下記を参照してください。
場所：	下記を参照してください。

備考・注意事項： 鍛治致：木曜日14:40～16:10、個人研究室（西館2階）にて実施します。
岡田功：水曜日13:00～14:30、個人研究室にて実施します。
島雅則：木曜日14:40～16:10、個人研究室（西館2階）にて実施します。
中野毅：金曜日13:00～14:30、個人研究室（西館4階）にて実施します。
浅野法子：水曜日13:00～14:00、個人研究室（西館5階）にて実施します。
佐伯暁子：火曜日14:40～16:10、個人研究室（西館5階）にて実施します。
瀬戸祐規：授業開始前後に授業教室にて実施します。
能登邦之：授業開始前後に授業教室にて実施します。
井関和恵：授業開始前後に授業教室にて実施します。

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	課題1の1。社会で求められる日本語運用能力。 テーマの探し方、発表スケジュールなど。前期に作成したプレゼン資料とレポートの確認。インターネットを用いて、課題1で取り上げる社会的な問題を探す。	教科書の第16課。 4時間
第2回	課題1の2。資料の整理。／日本語運用能力を高めよう①。若者言葉の問題点。 各自探してきた課題1の発表テーマ候補について、関連情報や、異なる見解などを探して、整理検討し、発表のテーマとして相応しいか吟味する。選んだテーマについて、自分の考えをまとめ、問題の背景、賛否の立場や解決方法、根拠、それを指示する具体的事実、想定される反論とそれに対する反駁、異なる意見にも耳を傾けたうえで最終提言という構成に整理する。 ／①若者言葉をビジネスの場に相応しい言い方に直す練習をする。	教科書の第17課。 4時間
第3回	課題1の3。主張を組み立てる。／日本語運用能力を高めよう②。意味を間違えやすい敬語。 自分の意見を論理的な構成で主張し、聞く人や読む人を説得できる文章に組み立てる。根拠に対して自分の体験や事実、または有効な統計資料などで裏付ける。／②敬語について、若者の間で意味が正しく理解されていないものを中心に学ぶ。	教科書の第18課。 4時間
第4回	課題1の4。論点の検証。／日本語運用能力を高めよう③。使い方を間違えやすい敬語。 想定される反論の全てに対して、論駁、論破できているか。また、異なる意見の人も納得させられる最終提言ができているか、チェック。／③敬語について、若者の間で間違えて使われてしまいがちなものを中心に学ぶ。	教科書の第19課。 4時間
第5回	課題1の5。原稿作成、パワーポイント・配付資料の準備。／日本語運用能力を高めよう④。意味や使い方を間違えやすい慣用語。 口頭発表原稿の作成と発表の準備。プレゼンテーションのループリックのそれぞれの観点を十分に満たしているか検討し、充足させる。／④慣用語について、使い方を間違えると相手に失礼にあたるものを中心に学ぶ。	教科書の第20課。 4時間
第6回	課題1のプレゼンテーション（前半グループ）。／日本語運用能力を高めよう⑤。バイト敬語の問題点。 各自の発表を聴いて、プレゼンテーションのループリックをもとに評価し、コメントを記録する。また発表内容に関連する質問をし、発表者は適切な応答を行う。プレゼンテーションの内容を、質問や指摘された点に留意して修正し、レポート形式にまとめる。引用の出典をルールに従って適切に記載すること。 ／⑤バイト敬語をビジネスの場に相応しい言い方に直す練習をする。	教科書の第21課。 4時間
第7回	課題1のプレゼンテーション（後半グループ）。 各自の発表を聴いて、プレゼンテーションのループリックをもとに評価し、コメントを記録する。また発表内容に関連する質問をし、発表者は適切な応答を行う。プレゼンテーションの内容を、質問や指摘された点に留意して修正し、レポート形式にまとめる。引用の出典をルールに従って適切に記載すること。	教科書の第22課。 4時間
第8回	課題2の1。説得力のある論理的文章をレポート形式で書く。 大学生としての論理的文章の構築方法について、各自準備してきた課題2で取り上げるテーマ候補について、それぞれの情報を収集整理し、取り組むテーマを決定する。諸意見の整理。	教科書の第23課。 4時間
第9回	課題2の2。自分の主張を構築する。 収集した情報をもとに自分で考察し、主張を論理的な構成にまとめる。	教科書の第24課。 4時間
第10回	課題2の3。レポート執筆。ミニプレゼンの準備。 「レポートのループリック」に従って、すべての項目を充足するように、レポートを執筆する。小グループで行うミニプレゼンの準備をする。クラスの誰もが理解できるような説明や議論の展開ができるよう準備すること。	教科書の第25課。 4時間
第11回	課題2の4。レポートの推敲。ミニプレゼン。 2～3人のグループで互いにレポート内容を発表。口語でよいので、相手が問題を（その背景を含め）理解し、説得できるよう「伝わる」コミュニケーションをめざす。聴いている人は理解できないところを質問し、主張を鵜呑みにせず反論を試みる。また発表内容や構成について改善アドバイスをすること。レポート全体の構成、主語と述語の対応、接続詞の適正、文の長さなど、きちんとできているか意識して推敲する。	教科書の第26課。 4時間
第12回	課題2の5。プレゼンテーションの準備。 レポートの内容がクラスメート全員に伝わるように口頭で説明する準備をする。参照すべき図や表なども準備し、パワーポイントを完成させる。	教科書の第27課。 4時間
第13回	課題2のプレゼンテーション。 各自の発表を聴いてプレゼンテーションのループリックをもとに評価し、コメントを記録する。また発表内容に関連する質問をし、発表者は適切な応答を行う。プレゼンテーションの内容を、質問や指摘された点に留意して修正し、レポート形式にまとめる。引用の出典をルールに従って適切に記載すること。	教科書の第28課。 4時間
第14回	課題2のレポート執筆1。構成・執筆。 最終的なレポートの推敲と構成。誤字脱字、出典の示し方、文体等、ループリックにしたがってチェックする。	教科書の第29課。 4時間
第15回	課題2のレポート執筆2。推敲・校正。 「レポートのループリック」に従って、すべての項目を充足するように、レポートの最終チェックを行う。授業の振り返り。／日本語運用能力を高めよう①～⑤で学習した内容が身についているかどうかを確認し、復習する。	教科書の第30課。 4時間

授業科目名	スタディスキルズ2／日本語コミュニケーション2／基礎ゼミ I				
担当教員名	鈴木勇、羽野ゆつ子、松田修、芝野淳一、山本はるか、山本智也、片山美穂、寶學淳郎				
学年・コース等	1年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義＋演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

大学生として、研究に必要な文献講読とレビューを行う授業です。とくに、文献を読んだ的確に要約すること、異なる立場からの論考を讀んで多様な視点から考えること、共通の文献を讀み合い意見を交流しあうこと、それらをふまえて、レビューを行うことが中心課題です。共通の文献を讀み合い、情報の評価を十分に行うこと、事実に近い情報や真摯な主張を見つけること、それらをふまえて、自分で分析、思索する力を養います。そして、それらの文献を引用しながら、明らかになっていることと、今後の研究課題をレポートにまとめます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1. 幅広い教養やスキル	日本語の運用能力。	文献のレビューを、5分程度のプレゼンテーション、および2000字程度のレポートで論理的に発表できる。
2．DP1. 幅広い教養やスキル	語彙力と読解力	文章を精読し、その内容を正確に理解し、またその要旨を的確にまとめることができる。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		教育問題に目を向け、適切な情報を収集し、自分の考えを示すことができる。
2．DP8. 意思疎通		教育問題に関して、自分の「意見」を整理してわかりやすく口頭発表したり、レポートとしてまとめたりすることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

平常点	20%	: シャトルシートの記入提出、授業外学習課題の提出、授業への参加度。
課題本要約課題	20%	: 毎回の要約課題の内容を評価する。
文献レビューのプレゼンとレポート	30%	: プレゼンテーションと2000字程度のレポートについて、別途配布するプレゼンおよびレポートのルーブリックに従って評価する。
図書館読書感想文	10%	: 図書館読書コンクールの読書感想文審査基準にもとづき評価する。
小テスト	10%	: 要約ドリルのテスト2回の結果を評価する。
期末レポート	10%	: 授業全体の振り返り。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
本田由紀	・ 社会を結びなおす	・ 岩波書店	・ 2014年

参考文献等

なし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

- ◎読書感想文は、履修前課題として夏休みの宿題とする。詳細は、夏休み前に指示する。
- ◎課題本をテキストとする。詳細は、夏休み前に指示する。

クラスメートと協力し、気持ちのよい学習環境にするよう努力すること。
遅刻欠席厳禁。とくにプレゼンテーションの日には欠席しないこと。
提出物の期限を守ること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	備考欄参照
場所：	備考欄参照

備考・注意事項： 鈴木クラス：初回授業時に案内する。
 芝野クラス：初回授業時に案内する。
 羽野クラス：月・水・木の昼休み（12：20～12:50） 研究室（中央館2階研究室80）
 松田クラス：初回授業時に案内する。
 山本智也クラス：初回授業時に案内する。
 山本はるかクラス：初回授業時に案内する。

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	オリエンテーション：科目の主旨、授業計画 □科目の主旨、授業計画、課題本の説明。本の読み方（三色ボールペンの使い方、構造図の描き方）の解説。 読書感想文の提出。	課題本1冊目の講読・選書開始・要約ドリル 4時間
第2回	課題本講読（1）リーディングの基本スキル 課題本の課題部分の構造図を作成し、要約作成準備を行う。	（1）の要約完成・（2）のレジюме作成・要約ドリル 4時間
第3回	課題本講読（2）要約する（選び取ること・まとめること） 課題本の課題部分の構造図を作成し、要約作成準備を行う。	（2）の要約完成・（3）のレジюме作成・要約ドリル 4時間
第4回	課題本講読（3）第一次資料へのあたり方 課題本の課題部分の構造図を作成し、要約作成準備を行う。	（3）の要約完成・（4）のレジюме作成・要約ドリル 4時間
第5回	課題本講読（4）問いの立て方 課題本の課題部分の構造図を作成し、要約作成準備を行う。	（4）の要約完成・（5）のレジюме作成・要約ドリル 4時間
第6回	課題本講読（5）資料収集の方法 課題本の課題部分の構造図を作成し、要約作成準備を行う。	（5）の要約完成・全章のレジюме作成・要約ドリル 4時間
第7回	課題本講読（6）レポートの構成・小テスト① 事実と意見を区別しながら、課題本全体をレビューする。	課題本全体の要約準備・要約ドリル・選書の講読 4時間
第8回	課題本講読（7）全章レビューの発表 課題本全体のレビューを発表する。選書を発表する。	選書レビュー準備・要約ドリル 4時間
第9回	文献レビューの構想発表準備（1）発表スライドと原稿作成 口頭発表原稿の作成と発表の準備を行う。 プレゼンテーションのループリックのそれぞれの観点を十分に満たしているか検討し、充足させる。 想定される反論の全てに対して、論駁、論破できているか。 異なる意見の人も納得させられる最終提言ができているか。	発表スライドの完成とリハーサル・要約ドリル 4時間
第10回	文献レビューの構想発表（1） 5分程度の口頭発表プレゼンテーションを行う。 相手が問題を背景を含め理解し、説得できるよう「伝わる」コミュニケーションをおこなう。 各自の発表を聴いて、プレゼンテーションのループリックをもとに評価し、コメントを記録する。 聴いている人は、理解できないところを質問し、主張を鵜呑みにせず、反論を試みること。 発表内容や構成について改善アドバイスをすること。	発表リハーサル・レポート作成開始・要約ドリル 4時間
第11回	文献レビューの構想発表（2） 5分程度の口頭発表プレゼンテーションを行う。 相手が問題を背景を含め理解し、説得できるよう「伝わる」コミュニケーションをおこなう。 各自の発表を聴いて、プレゼンテーションのループリックをもとに評価し、コメントを記録する。 聴いている人は、理解できないところを質問し、主張を鵜呑みにせず、反論を試みること。 発表内容や構成について改善アドバイスをすること。	発表リハーサル・レポート作成開始・要約ドリル 4時間
第12回	文献レビューの構想発表（3） 5分程度の口頭発表プレゼンテーションを行う。 相手が問題を背景を含め理解し、説得できるよう「伝わる」コミュニケーションをおこなう。 各自の発表を聴いて、プレゼンテーションのループリックをもとに評価し、コメントを記録する。 聴いている人は、理解できないところを質問し、主張を鵜呑みにせず、反論を試みること。 発表内容や構成について改善アドバイスをすること。	レポート作成開始・要約ドリル 4時間
第13回	文献レビューレポートの作成（1）草稿作成・小テスト② レビューレポートを作成する。	レポートの執筆・要約ドリル 4時間
第14回	文献レビューレポートの作成（2）相互評価・推敲・校正 ループリックを活用して相互に読み合い、推敲、誤字脱字、引用資料の正しい記載、文体等の校正を行う。	レポートの最終推敲と校正 4時間
第15回	大プレゼンテーション・文献レビューレポートの提出 クラス代表のプレゼンテーションを行う。文献レビューレポートを提出する。	全授業の振り返り。レビューの最終チェック。 4時間
第16回		4時間

授業科目名	情報リテラシー 1 (教職履修者)				
担当教員名	松永順子				
学年・コース等	教職	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

この授業ではコンピュータの基礎知識の習得から、Wordによる文書の作成、PowerPointを用いたプレゼンテーション等を行います。また学校現場で必要となるExcelを使用した表計算も行います。Wordでは、画像の取り扱いなど著作物の取り扱いも学習します。PowerPointでは、自分でシナリオを考え、実際に発表を行います。教職履修者のみの受講ですので「教職カルテ」の作成を実際に行い、今後の自身の教職履修科目の記載準備をします。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- DP1. 幅広い教養やスキル
- DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的内容：

Wordでの文書作成、Excelでの表計算やグラフ作成、PowerPointでのプレゼンテーション
PowerPointを使って発表

目標：

Word, Excel, PowerPointの基本操作を身に付け、活用することができる
自分の考えを人に伝えることができる

汎用的な力

- DP5. 計画・立案力
- DP6. 行動・実践
- DP7. 完遂
- DP8. 意思疎通

与えられたテーマに沿って調査、資料収集ができる
収集した資料をまとめ、プレゼンテーションを作成することができる
人前で自分の考えを発表することができる
他者の発表を聞き、講評をすることができる

学外連携学修

無し

授業方法 (アクティブラーニングを促す方法について)

- 課題 (演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- 実験、実技、実習
- 発表 (スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- 実技・実習後、全体に向けてコメントします
- 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を行わない。(規定回数2/3)

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

Word課題	15%	: ビジネス文書やチラシの作成の課題を提出
Excel課題	15%	: 表計算やグラフ作成の課題を提出
PowerPoint課題	15%	: スライド作成と発表、他の発表者に対する質疑応答や講評を評価
理解度	25%	: 毎回授業内作成データ提出、講義内容の理解度を確認
授業姿勢	10%	: 自ら学ぼうとする意欲を評価する。私語や携帯操作、居眠り等、授業内容と関係のないことに関しては禁止。
試験	20%	: 15回の授業終了後に課題を提出

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
富士通エフ・オー・エム株式会社	情報リテラシー 入門編	FOM出版	2010年

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項： 質問には授業の前後に答えます。メールアドレスは matsunaga@g.osaka-seikei.ac.jp です。

授業計画

第1回	パソコンの基本操作、Windows、Word	Windows の操作方法の復習、Word の基本操作の復習	授業外学修課題にかかる目安の時間 4時間
-----	------------------------	--------------------------------	-------------------------

	<p>初心者、中級者に関わらず、本学で使用するパソコンの使用法を説明。Windowsの画面構成、操作方法を学びます。文章を入力するためタイピングの練習も行います。</p> <p>Wordの仕組みを知り、文書入力を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報リテラシー 入門編 (S-1pからS-23p、W-1pからW-3p) Windows編 基本操作 Word編 STEP1 Wordについて 		
第2回	<p>Wordを用いて基本的な文書作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報リテラシー 入門編 (W-4pからW-15p) Word編 STEP2基本的な文書を作成しよう 	文書入力の復習	4時間
第3回	<p>Wordを用いて図や表の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報リテラシー 入門編 (W-16pからW-35p) Word編 STEP3図や表を挿入しよう、STEP4文書を印刷しよう 	図や表の作成の復習	4時間
第4回	<p>Wordを用いて表現力豊かな文書作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報リテラシー 入門編 (W-36pからW-43p) Word編 STEP5表現力をアップする機能を使ってみよう 	表現力豊かな文書作成の復習	4時間
第5回	<p>Wordを用いてビジネス文書の作成、教職カルテの作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報リテラシー 入門編 (W-44pからW-48p) Word編 付録 ビジネス文書の書き方 ・「教職カルテ」の作成 氏名等個人情報入力、教職履修科目を書き進める 	ビジネス文書の書き方の復習、課題に向けての復習	4時間
第6回	<p>Wordを用いて課題作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Word編 課題 Wordを用いて、ビジネス文書やチラシの作成を行います 	文書作成全般の復習	4時間
第7回	<p>Excelを用いて表の作成</p> <p>Excelの仕組みを知り表計算の基本操作を学びます</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報リテラシー 入門編 (E-1pからE-8p) Excel編 STEP1Excelについて、STEP2データを入力しよう 	表作成の基礎操作の復習	4時間
第8回	<p>Excelを用いて表の編集、数式の入力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報リテラシー 入門編 (E-9pからE-30p) Excel編 STEP3表を作成しよう、STEP4表を編集しよう、STEP5表を印刷しよう 	数式の入力の復習	4時間
第9回	<p>Excelを用いてグラフの作成、データベース操作、複数シートの操作</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報リテラシー 入門編 (E-31pからE-41p、E-50pからE-53p) Excel編 STEP6グラフを作成しよう、STEP7データベースを操作しよう、STEP8複数のシートを操作しよう 	グラフ作成、データベース、複数のシート操作の復習	4時間
第10回	<p>Excelを用いて課題作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Excel編 課題 Excelを用いて、表計算やグラフ作成を行います 	表計算の復習	4時間
第11回	<p>PowerPointを用いてプレゼンテーションの作成</p> <p>PowerPointの仕組み、基本操作を学びます</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報リテラシー 入門編 (P-1pからP-29p) PowerPoint編 STEP1 PowerPointについて、STEP2 プレゼンテーションを作成しよう、STEP3 さまざまなオブジェクトを挿入しよう、STEP4プレゼンテーションの構成を変更しよう 	PowerPointの基本操作の復習	4時間
第12回	<p>PowerPointによるプレゼンテーション資料の作成(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報リテラシー 入門編 (P-30pからP-40p) PowerPoint編 STEP5 特殊効果を設定しよう、STEP6 プレゼンテーションを印刷しよう、付録 プレゼンテーションの流れ ・PowerPoint課題制作 テーマ発表、各自制作 	プレゼン資料の作成、課題制作に向けて調査・資料収集	4時間
第13回	<p>PowerPointによるプレゼンテーション資料の作成(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PowerPoint課題制作 テーマ再確認、各自制作、発表時の注意事項 	プレゼンテーションのリハーサル	4時間
第14回	<p>PowerPointによるプレゼンテーションの発表課題(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PowerPoint課題 作成した資料をプロジェクターで投影して、実際にプレゼンテーションを行います。授業の最終まとめです。 	他者の発表を参照し、授業への取り組みを振りかえる	4時間
第15回	<p>PowerPointによるプレゼンテーション資料の発表課題(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PowerPoint課題 作成した資料をプロジェクターで投影して、実際にプレゼンテーションを行います。授業の最終まとめです。 	他者の発表を参照し、授業への取り組みを振りかえる	4時間

授業科目名	情報リテラシー 1				
担当教員名	北邑直己、向井由美子、座古亜紀、岡本有加				
学年・コース等	1年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

この授業では、本学の学びにおいて必要不可欠なコンピュータスキルの基本を身に着けることを目的とする。基本的には、Windowsパソコンの基本操作、インターネット検索の方法、電子メールを使った文書のやり取り、電子メールやSNSでのマナー、及び、ワードプロセッサを使った文書表現、表計算ソフトを使ったデータの分析・整理、プレゼンテーションソフトを使った発表資料の作成のためのMicrosoft Officeのツールハンドリングについて学ぶ。また、表計算技能標準試験3級レベルの表計算技能取得を目指す。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

情報リテラシー

目標：

ワードプロセッサ、電子メール、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの基本的操作ができる。

汎用的な力

- DP6. 行動・実践

独力で、課題に対して正確な表現や、表やグラフを使ってデータ整理・分析ができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とする。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業内でのPC操作修得状況	20%	： 授業内で行う文書作成ソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフト、電子メールの演習課題の完成度をもとに評価する。
授業中の課題達成率	40%	： 文書作成ソフト（20%）、表計算ソフト（20%）の各総合課題で文書表現の正確さ、データ整理の適切さにより評価する。
定期試験（表計算技能標準試験）	40%	： 表計算技能標準試験3級（100点満点）の点数を40%換算（小数点以下四捨五入）した点数により評価する。 （表計算技能標準試験3級の合格基準は70点以上）

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
	イチからしっかり学ぶ! Office基礎と情報モラル Office2013・2010対応【NESS付】	・ noa出版	・ 2010年
	表計算技能標準試験過去問題集	・ noa出版	・ 2015年

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。定期試験日に実施される表計算技能標準試験3級を必ず受験すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業時間前後
場所： 授業実施教室
備考・注意事項： 各クラス、担当講師より授業内で通達する。

授業計画

第1回	オリエンテーション、学内PCの操作	テキストの2から34ページまで読んでくる	授業外学修課題にかかる目安の時間
	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・マウスの操作方法 ・アプリ画面の表示、チャームバー、デスクトップ ・アプリケーションの起動 ・ウィンドウの移動とサイズ変更 ・エクスペローラーの操作 ・ファイルやフォルダーの移動とコピー ・フォルダーの新規作成、保存、削除 ・Gmailの設定、送受信、PCメールのルール 		4時間

第2回	セキュリティと情報モラル <ul style="list-style-type: none"> ・セキュリティとは ・コンピューターウイルス ・スパイウェア、不正アクセス、フィッシング詐欺 ・著作権、知的財産権、個人情報 ・ネチケット、ネットコミュニケーション 	テキストの252から291ページまで読んでくる	4時間
第3回	Word①入力・修正 <ul style="list-style-type: none"> ・Wordの基本操作 ・文書の新規作成、Wordの画面構成、リボンについて ・キーボード配列表、タッチタイピング、ホームポジション ・IMEの設定 ・さまざまな文字の入力と変換 ・文字の修正 ・文書の保存、文書を閉じる、文書を開く ・範囲設定、変換のタイピング、元に戻す 	テキストの35から65ページまで読んでくる。NESSを使用した復習、タイピング練習	4時間
第4回	Word②チラシ作成-1 <ul style="list-style-type: none"> ・書式(書式とは、フォント、中央揃え、フォントサイズ、フォントの色、太字・斜体、下線、インデント、タブ、均等割り付け) ・表の作成(表の構成要素、表の挿入、表の範囲指定、表内のカーソル移動、文字の入力、列幅の変更、セルの結合、表のスタイル、セルの配置、表の配置) 	テキストの66から78ページまで読んでくる。NESSを使用した復習、タイピング練習	4時間
第5回	Word③チラシ作成-2 <ul style="list-style-type: none"> ・ワードアート(ワードアートの挿入、フォントサイズ、文字の塗りつぶし、文字の効果、位置) ・オンライン画像(オンライン画像の挿入、文字列の折り返し) ・図の挿入 ・図形(図形の挿入、文字の入力) ・ページ罫線 ・印刷 	テキストの79から87ページまで読んでくる。NESSを使用した復習、タイピング練習	4時間
第6回	Word④レポート作成 <ul style="list-style-type: none"> ・ページ設定 ・表紙の作成 ・フッター(ページ番号の表示、ページ番号の書式設定) ・図の挿入 ・Excelのグラフの挿入 ・引用 ・図表番号 ・脚注 ・参考文献 ・スタイル ・スペルチェックと文章校正 	テキストの88から104ページまで読んでくる。NESSを使用した復習、タイピング練習	4時間
第7回	Word⑤Word総合課題 Word総合課題を独力で完成する また、完成した課題をe-mailで添付ファイルとして提出	テキストの36から104ページまで復習をしてくる。NESSを使用した復習、タイピング練習	4時間
第8回	Excel①表作成-1 <ul style="list-style-type: none"> ・Excelの起動方法、Excelのスタート画面の構成 ・ブックの新規作成、Excelの画面構成 ・範囲指定 ・終了方法 ・データの入力、訂正、削除 ・フォントの設定(フォント・フォントサイズ、太字・斜体、フォントの色、塗りつぶしの色) 	テキストの106から119ページまで読んでくる。NESSを使用した復習、タイピング練習	4時間
第9回	Excel②表作成-2、計算式-1 <ul style="list-style-type: none"> ・配置の設定(セルを結合して中央揃え、中央揃え、右揃え) ・表示形式の設定(枠区切りスタイル、通貨表示形式、パーセントスタイル、小数点以下の表示桁数を増やす、日付の表示形式の変更) ・罫線 ・行の高さや列の幅の変更 ・ビジネスで使われる計算式 ・数式の入力(数式に使う演算記号、売上金額の計算、累計の計算、達成率の計算、前日比の計算、伸び率の計算、再計算機能) 	テキストの120から140ページまで読んでくる。NESSを使用した復習、タイピング練習	4時間
第10回	Excel③計算式2、関数 <ul style="list-style-type: none"> ・数式のコピー(オートフィルを利用した数式のコピー、複数の数式のコピー、合計の計算) ・相対参照と絶対参照(構成比の計算、絶対参照を使った数式のコピー) ・関数の利用(SUM関数、AVERAGE関数、シートの切り替え、IF関数) 	テキストの140から155ページまで読んでくる。NESSを使用した復習、タイピング練習	4時間
第11回	Excel④グラフ作成 <ul style="list-style-type: none"> ・Excelのグラフ ・グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成) ・グラフの編集 ・複合グラフの作成 	テキストの156から178ページまで読んでくる。NESSを使用した復習、タイピング練習	4時間
第12回	Excel④ページ設定・印刷、Excel総合課題 <ul style="list-style-type: none"> ・印刷イメージの確認 ・改ページプレビュー ・ページ設定 ・Excel総合課題を独力で完成する 	テキストの106から178ページまで読んでくる。NESSを使用した復習、タイピング練習	4時間
第13回	PowerPointの基本操作、表計算技能標準試験対策(過去問題)(1) <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションとは ・PowerPointの起動方法、PowerPointのスタート画面の構成 ・プレゼンテーションの新規作成、画面構成 ・スライドの基本操作 ・表計算技能標準試験の概要について解説 公表練習問題にて手順を確認、理解する。過去問題の演習を行う。 	テキストの180から205、232から233ページまで読んでくる。表計算技能標準試験の問題形式を確認してくる	4時間
第14回	表計算技能標準試験対策(過去問題)(2) 過去問題集を用いての練習。 公表練習問題にて手順を確認、理解する。 過去問題の演習を行う。	試験に向けての練習を行う。指定の過去問題を自宅で実施する。	4時間
第15回	表計算技能標準試験対策(過去問題)(3) 過去問題集を用いての練習。 過去問題の演習を行う。	試験に向けての練習を行う。指定の過去問題を自宅で実施する。	4時間

授業科目名	情報リテラシー 2				
担当教員名	北邑直己、向井由美子、座古亜紀、岡本有加				
学年・コース等	1年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

この授業では、大学での学びにおいて必要不可欠な情報を活用する基本的なスキルを身につけることを目的とする。具体的には、課題解決に必要な情報を収集し、収集した情報を課題解決に向けて適切に加工して解決案を作成する。そして、作成した解決案を分かりやすく伝達するといった一連の活動を、コンピュータとインターネット（ICT）を使って行えるようする。授業では、具体的な演習課題を通して、この一連の情報活用能力を身につける。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP1. 幅広い教養やスキル	アカデミックスキル	解決案を分かりやすく表現した発表資料を作成し、発表ができる。
汎用的な力		
1 . DP4. 課題発見		インターネットを使って必要な情報を適切に収集・選択し、課題を発見し、解決案を論理的に組み立てて表現することができる。
2 . DP8. 意思疎通		グループで円滑な討議を行うことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とする。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業への取り組み状況	20%	： 授業における演習への取り組み姿勢、遅刻状況などで評価する。
授業内での課題達成率	30%	： 情報収集した情報の適切さ、グラフ等による分析の適切さ、内容の論理性を評価する。
総合演習での成果	30%	： 情報収集した情報の適切さ、グラフ等による分析の適切さ、内容の論理性を評価する。グループ課題については、発表資料と発表内容について、わかりやすさと表現の適切さについても評価する。
定期試験（Rasti試験）	20%	： 情報活用力診断テスト「Rasti」試験（2回）の総合点により評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
	考える 伝える 分かち合う 情報活用力 (Rasti2回付)	・ noa出版	・ 2017年

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。授業期間中及び定期試験日に実施される情報活用力診断テスト「Rasti」試験（2回実施）を必ず受験すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	授業時間前後
場所：	授業実施教室
備考・注意事項：	各クラス、担当講師より授業内で通達する。

授業計画

回数	内容	備考	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	オリエンテーション（情報リテラシーⅠの復習） 当該授業の目標、学習内容、評価について確認する。情報リテラシーⅠで学んだWordやPowerPointの利用を思い出し、大学のイベント等を分かりやすく紹介するポスターを独力で作成する。	情報リテラシーⅠで学んだPC操作の苦手な箇所を復習する。	4時間
第2回	情報検索	Rastil回目試験（個別受験）	4時間

	情報収集の役割や価値を理解し、インターネットを活用した情報検索を実践する。また情報の検索方法を理解した上で、各学科・コースに合わせたテーマの現状・問題点について課題を検索し、検証する。		
第3回	情報運用・ファイルデータ管理 情報を運用するにあたって、理解しておくべきファイル・データのセキュリティや取り扱いについて学習する。また情報の運用方法を理解した上で、各学科・コースに合わせたテーマの現状・問題点について課題を実施する。	次回の授業で使用するExcelの基本操作を復習する。	4時間
第4回	数値分析Ⅰ 数値分析の基本的な考え方や観点（比較・変化・構造）を学習する。	授業で学習した数値分析の考え方を理解した上で、Excelの各種操作を復習する。	4時間
第5回	数値分析Ⅱ 表計算ソフトを使ったデータ分析処理方法（集計・グラフ・基本統計量）を学び、実践する。	教育の情報化に関する実態に関して情報収集する。	4時間
第6回	数値分析Ⅲ 教育の情報化に関するデータを用いて、数値分析の実践を繰り返し、数値分析の習得を目指す。	次回の授業で使用するExcelの各種機能を予習する。	4時間
第7回	データベース 表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概念を理解する。またデータベースの概念を理解した上で、各学科・コースに合わせたテーマの現状・問題点について課題を実施する。	次回の授業で学習するインターネットコミュニケーションに関する事例を情報収集する。	4時間
第8回	インターネットコミュニケーション メールの活用方法（CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処など）や掲示板の特性、また利用マナーを理解する。またインターネットコミュニケーションの利用方法を理解した上で、各学科・コースに合わせたテーマの現状・問題点について課題を実施する。	次回の授業で使用するWordの各種機能を予習する。	4時間
第9回	文書表現 情報整理のテクニックを理解し、文書作成の作法やフォーマットを学習する。また正しい文書作成の方法を理解した上で、各学科・コースに合わせたテーマの現状・問題点について、文書作成の課題を実施する。	課題提出に関して、論理的な文書の組み立てになるように見直し、提出する。	4時間
第10回	ビジュアル表現 情報検索及びデータ分析結果など、あらゆる情報を文書で表現する際の効果的なビジュアル表現を学習する。またビジュアル表現の正しい使い方を理解した上で、各学科・コースに合わせたテーマの現状・問題点について課題を実施する。	課題提出に関して、効果的なビジュアル表現を用いた分かりやすい資料を構成し、提出する。	4時間
第11回	プレゼンテーションⅠ（基本） プレゼンテーションの基本を学習する。	第14回目の授業を想定し、プレゼンテーションの練習をする。	4時間
第12回	プレゼンテーションⅡ（資料作成） 効果的なプレゼンテーション資料の作成方法を学習する。	第14回目の授業を想定し、効果的なプレゼンテーション資料を作成する。	4時間
第13回	プレゼンテーションⅢ（グループワーク） 第11回及び第12回で学習した内容をもとに、1グループ10分程度の発表内容及びPowerPointの資料を作成し、発表の練習する。	発表内容を考え、PowerPointの資料を作成し、発表の練習をする。	4時間
第14回	プレゼンテーションⅣ（発表） 第13回で作成したプレゼンテーションの内容を各グループに発表してもらい、それぞれのグループの発表をコメント及び評価する。	次回の総合演習に備えてデータや事例を調査してくる。	4時間
第15回	総括 総合演習として決めたテーマについて、データ分析や分析した結果を裏付ける事例、原因又は理由を調査し、課題を提出する。	総合演習の成果物を決められた日までに完成し、提出する。	4時間

授業科目名	情報リテラシー 1				
担当教員名	向井由美子、岡本有加				
学年・コース等	1年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

この授業では、本学の学びにおいて必要不可欠なコンピュータスキルの基本を身につけることを目的とする。基本的には、Windowsパソコンの基本操作、インターネット検索の方法、電子メールを使った文書のやり取り、電子メールやSNSでのマナー、及び、ワードプロセッサを使った文書表現、表計算ソフトを使ったデータの分析・整理、プレゼンテーションソフトを使った発表資料の作成のためのMicrosoft Officeのツールハンドリングについて学ぶ。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

情報リテラシー

目標：

ワードプロセッサ、電子メール、表計算ソフトやプレゼンテーションソフトの基本的操作ができる。

汎用的な力

- 1 . DP6. 行動・実践

独力で、課題に対して正確な表現や、表やグラフを使ってデータ整理・分析、分かりやすい発表資料の作成ができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 実験、実技、実習
- ・ 問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業への取り組み状況	15%	： PC操作に関するルールを遵守することを標準とし、積極的に学習しようとしているかを評価する。
授業内でのPC操作修得状況	20%	： 文書作成ソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフト、電子メールの演習課題を完成する。
総合課題の完成度	50%	： 文書作成ソフト（25%）、表計算ソフト（25%）の各総合課題で文書表現の正確さ、データ整理の適切さ、発表資料の表現の正確さ、分かりやすさにより評価する。
定期試験	15%	： プレゼンテーションソフトを使用した試験を実施する。

使用教科書

指定する

著者

タイトル

出版社

出版年

- ・ イチからしっかり学ぶ！Office基礎と情報モラル Office2013・2010対応【NESS付】

・ noa出版

・ 2014年

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業時間前後
場所： 授業実施教室

授業計画

回数	内容	テキストのページ	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	オリエンテーション、学内PCの操作 ・オリエンテーション ・マウスの操作方法 ・アプリ画面の表示、チャームバー、デスクトップ ・アプリケーションの起動 ・ウィンドウの移動とサイズ変更 ・エクスペローラーの操作 ・ファイルやフォルダーの移動とコピー ・フォルダーの新規作成、保存、削除 ・Gmailの設定、送受信、PCメールのルール	テキストの2から34ページまで読んでくる	1時間
第2回	セキュリティと情報モラル ・セキュリティとは ・コンピューターウイルス ・スパイウェア、不正アクセス、フィッシング詐欺 ・著作権、知的財産権、個人情報 ・ネチケット、ネットコミュニケーション	テキストの252から291ページまで読んでくる	1時間

第3回	Word① 入力・修正 <ul style="list-style-type: none"> Wordの基本操作 文書の新規作成、Wordの画面構成、リボンについて キーボード配列表、タッチタイピング、ホームポジション IMEの設定 さまざまな文字の入力と変換 文字の修正 文書の保存、文書を閉じる、文書を開く 範囲設定、変換のタイミング、元に戻す 	テキストの35から65ページまで読んでくる	1時間
第4回	Word② テラシ作成-1 <ul style="list-style-type: none"> 書式(書式とは、フォント、中央揃え、フォントサイズ、フォントの色、太字・斜体、下線、インデント、タブ、均等割り付け) 表の作成(表の構成要素、表の挿入、表の範囲指定、表内のカーソル移動、文字の入力、列幅の変更、セルの結合、表のスタイル、セルの配置、表の配置) 	テキストの66から78ページまで読んでくる	4時間
第5回	Word③ テラシ作成-2 <ul style="list-style-type: none"> ワードアート(ワードアートの挿入、フォントサイズ、文字の塗りつぶし、文字の効果、位置) オンライン画像(オンライン画像の挿入、文字列の折り返し) 図の挿入 図形(図形の挿入、文字の入力) ページ罫線 印刷 	テキストの79から87ページまで読んでくる	1時間
第6回	Word④ レポート作成 <ul style="list-style-type: none"> ページ設定 表紙の作成 フッター(ページ番号の表示、ページ番号の書式設定) 図の挿入 Excelのグラフの挿入 引用 図表番号 脚注 参考文献 スタイル スペルチェックと文章校正 	テキストの88から104ページまで読んでくる	1時間
第7回	Word⑤ Word総合課題 Word総合課題を独力で完成する また、完成した課題をe-mailで添付ファイルとして提出	テキストの36から104ページまで復習をしてくる	1時間
第8回	Excel① 表作成-1 <ul style="list-style-type: none"> Excelの基本操作 ブックの新規作成、Excelの画面構成 範囲指定 データの入力、訂正、削除 フォントの設定(フォント・フォントサイズ、太字・斜体、フォントの色、塗りつぶしの色) 	テキストの106から119ページまで読んでくる	1時間
第9回	Excel② 表作成-2、計算式-1 <ul style="list-style-type: none"> 配置の設定(セルを結合して中央揃え、中央揃え、右揃え) 表示形式の設定(枠区切りスタイル、通貨表示形式、パーセントスタイル、小数点以下の表示桁数を増やす、日付の表示形式の変更) 罫線 行の高さや列の幅の変更 ビジネスで使われる計算式 数式の入力(数式に使う演算記号、売上金額の計算、累計の計算、達成率の計算、前日比の計算、伸び率の計算、再計算機能) 	テキストの120から140ページまで読んでくる	1時間
第10回	Excel③ 計算式-2、関数 <ul style="list-style-type: none"> 数式のコピー(オートフィルを利用した数式のコピー、複数の数式のコピー、合計の計算) 相対参照と絶対参照(構成比の計算、絶対参照を使った数式のコピー) 関数の利用(SUM関数、AVERAGE関数、シートの切り替え、IF関数) 	テキストの140から155ページまで読んでくる	1時間
第11回	Excel④ グラフ作成 <ul style="list-style-type: none"> Excelのグラフ グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成) グラフの編集 複合グラフの作成 	テキストの156から178ページまで読んでくる	1時間
第12回	Excel⑤ ページ設定・印刷、Excel総復習 <ul style="list-style-type: none"> 印刷イメージの確認 改ページプレビュー ページ設定 Excel総復習 	テキストの106から178ページまで読んでくる	1時間
第13回	Excel総合課題、PowerPoint① プレゼンテーションの基本操作 <ul style="list-style-type: none"> Excel総合課題を独力で完成する <ul style="list-style-type: none"> プレゼンテーションとは PowerPointの起動方法、PowerPointのスタート画面の構成 プレゼンテーションの新規作成、画面構成 スライドのサイズを変更、スライドのデザインを選ぶ 文字の入力(タイトルの入力、サブタイトルの入力) 	テキストの180から205ページまで読んでくる	1時間
第14回	PowerPoint② スライド作成・編集-1 <ul style="list-style-type: none"> スライドの作成 ワードアート(ワードアートの挿入、ワードアートの編集、ブレースホルダーの削除) SmartArt(SmartArtの挿入、文字の入力、色とスタイルの変更) オンライン画像 Excelの表とグラフの挿入 図形の作成 	テキストの206から223ページまで読んでくる	1時間
第15回	PowerPoint③ スライド作成・編集-2 <ul style="list-style-type: none"> 画面切り替え効果 アニメーション効果(文字に効果を付ける、SmartArtに効果を付ける、図形に効果を付ける、順序の変更) スライドショーの実行 PowerPoint総復習 	テキストの188から250ページまで読んでくる	1時間

授業科目名	情報リテラシー 2				
担当教員名	岡本有加				
学年・コース等	1年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

この授業では、大学での学びにおいて必要不可欠な情報を活用する基本的なスキルを身につけることを目的とする。具体的には、課題解決に必要な情報を収集し、収集した情報を課題解決に向けて適切に加工して解決案を作成する。そして、作成した解決案を分かりやすく伝達するといった一連の活動を、コンピュータとインターネット（ICT）を使って行えるようする。授業では、具体的な演習課題を通して、この一連の情報活用能力を身につける。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

アカデミックスキル

目標：

解決案を分かりやすく表現した発表資料を作成し、発表ができる。

汎用的な力

- 1 . DP4. 課題発見
- 2 . DP8. 意思疎通

インターネットを使って必要な情報を適切に収集・選択し、課題を発見し、解決案を論理的に組み立てて表現することができる。

グループで円滑な討議を行うことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 実験、実技、実習
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ 課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実習や実技に対して個別にコメントします
- ・ 実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業への取り組み状況	20%	： 授業における演習への取り組み姿勢、遅刻状況などで評価する。
授業内での課題達成率	30%	： 情報収集した情報の適切さ、グラフ等による分析の適切さ、内容の論理性を評価する。
総合演習での成果	30%	： 情報収集した情報の適切さ、グラフ等による分析の適切さ、内容の論理性を評価する。グループ課題については、発表資料と発表内容について、わかりやすさと表現の適切さについても評価する。
定期試験（Rasti試験）	20%	： 情報活用力診断テスト「Rasti」試験（2回）の総合点により評価する。

使用教科書

指定する

著者

タイトル

出版社

出版年

- ・ 考える 伝える 分かちあう 情報活用力 (Rasti2回付) ・ noa出版 ・ 2017年

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。授業期間中及び定期試験日に実施される情報活用力診断テスト「Rasti」試験（2回実施）を必ず受験すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業開始前後
場所： 授業実施教室

授業計画

回数	内容	情報リテラシー I で学んだPC操作の苦手な箇所を復習する。	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	オリエンテーション（情報リテラシー I の復習） 当該授業の目標、学習内容、課題の回数と日程、評価などについてのガイダンス。学内環境の確認と使用ドライブフォルダの確認。情報リテラシー I で学んだWordやPowerPointの利用を思い出し、Wordで文書作成・提出。次回提出となる課題のアナウンス。	情報リテラシー I で学んだPC操作の苦手な箇所を復習する。	4時間
第2回	情報検索	・ Rastil回目試験（個別受験）	4時間

	情報収集の役割や価値を理解し、インターネットを活用した情報検索について学習。前期学習したWordのビジュアル表現の機能を復習し、ブラウザの検索方法を学習した上で、実際の教育現場における学校行事に関するイベントチラシ作成の課題を作成・提出する。		
第3回	情報運用・ファイルデータ管理 学内のインターネット環境を含めたファイル・データのセキュリティや取り扱いについて学習する。また情報の運用方法を理解した上で、実際の教育現場を想定し、情報運用に関する課題を実施する。	次回の授業で使用するExcelの基本操作を復習する。	4時間
第4回	数値分析Ⅰ 数値分析の基本的な考え方や観点（比較・変化・構造）をテキストに準じて学習する。	授業で学習した数値分析の考え方を理解した上で、Excelの各種操作を復習する。	4時間
第5回	数値分析Ⅱ 表計算ソフトを使ったデータ分析処理方法（集計・グラフ・基本統計量）を学び、実践する。	次回の授業で使用するExcelの各種機能を予習する。	4時間
第6回	数値分析Ⅲ 教育の情報化に関するデータを用いて、数値分析の実践を繰り返し、数値分析の習得を目指す。	次回の授業で使用するExcelの各種機能を予習する。	4時間
第7回	データベース 表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概念を理解する。またデータベースの概念を理解した上で、実際の教育現場を想定し、課題を実施する。	次回の授業で学習するインターネットコミュニケーションに関する事例を情報収集する。	4時間
第8回	インターネットコミュニケーション テキストに準じてメールの活用方法（CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処など）や掲示板の特性、また利用マナーなどの解説。インターネットコミュニケーションの利用方法を理解した上で、実際の教育現場を想定し、課題を実施する。	次回の授業で使用するWordの各種機能を予習する。	4時間
第9回	文書表現 情報整理のテクニックを理解し、文書作成の作法やフォーマットを学習する。また正しい文書作成の方法を理解した上で、実際の教育現場を想定し、文書作成の課題を実施する。	課題提出に関して、論理的な文書の組み立てになるように見直し提出する。	4時間
第10回	ビジュアル表現 情報検索及びデータ分析結果など、あらゆる情報を文書で表現する際の効果的なビジュアル表現を学習する。またビジュアル表現の正しい使い方を理解した上で、実際の教育現場を想定し、課題を実施する。	課題提出に関して、効果的なビジュアル表現を用いた分かりやすい資料を構成し提出する。	4時間
第11回	プレゼンテーションⅠ（基本） 課題内容をふまえて、プレゼンテーションの基本を学習する。	第14回目の授業を想定し、プレゼンテーションの練習をする。	4時間
第12回	プレゼンテーションⅡ（資料作成とグループワーク） 効果的なプレゼンテーション資料の作成方法を学習する。実際にグループで役割分担などを行い、作成を開始する。	第14回目の授業を想定し、効果的なプレゼンテーション資料を作成する。	4時間
第13回	プレゼンテーションⅢ（グループワーク） 第11回及び第12回で学習した内容をもとに、1グループ10分程度の発表内容及びPowerPointの資料を作成し、発表の練習する。	発表内容を考え、PowerPointの資料を作成し、発表の練習をする。	4時間
第14回	プレゼンテーションⅣ（発表） 第13回で作成したプレゼンテーションの内容を各グループに発表してもらい、それぞれのグループの発表を評価表にて、評価。質疑応答など。	次回の総合演習に備えてデータや事例を調査してくる。	4時間
第15回	総括 14回目のグループ発表の総括。総合演習として決めたテーマについて、データ分析や分析した結果を裏付ける事例、原因又は理由を調査し、課題を提出する。	総合演習の成果物を決められた日までに完成し、提出する。	4時間

授業科目名	情報リテラシー 3				
担当教員名	小川智亮、浅井 康、谷口弘師、藤居大樹、穂積幸弘				
学年・コース等	1年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

【画像メディア表現の実習 [Photoshopクリエイター能力認定試験スタンダード][Illustratorクリエイター能力認定試験スタンダード]合格を目指した授業】
画像メディア制作において、代表的アプリケーションソフトであるAdobe PhotoshopとAdobe Illustratorの基本操作と活用を実習形式で修得する。具体的には、画像メディア制作において自分のイメージや考えをまとめ形にできるような効果効率的なアプリケーション操作とPC操作の習得を目標とする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	Adobe PhotoshopとAdobe Illustratorの基本操作修得。	Adobe PhotoshopとAdobe Illustratorを使用し、自分のイメージを的確に表現出来る。
汎用的な力		
1 . DP7. 完遂		課題の意図を深く理解し、集中して制作に取り組む力を身に付けることで、質の高い成果物を制作できるスキルと、幅広いデザイン展開に対応出来る。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実習や実技に対して個別にコメントします
- ・ 実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。
原則3分の2以上出席した場合のみ成績評価の対象となる

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

試験（15回の授業外で実施する）	40%	： ソフトの基本操作技術の習熟度「理解度」「正確性」「習熟度」について評価する。
提出物	40%	： 「探究性」「正確性」「完成度」について評価する。
受講姿勢	20%	： 「締め切りの厳守」「聴く姿勢」「作業への集中度合い」を評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
ウィネット	・ Photoshopクイックマスター CC Windows_Macintosh	・ 株式会社ウィネット	・ 2017年
ウィネット	・ Illustratorクイックマスター CC Windows_Macintosh	・ 株式会社ウィネット	・ 2017年

参考文献等

Photoshopクリエイター能力認定試験問題集（CC/CC2014/CC2015/CC2015.3/CC2017対応）貸出対応 サーティファイ
Illustratorクリエイター能力認定試験問題集（CC/CC2014/CC2015/CC2015.3/CC2017対応）貸出対応 サーティファイ

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回2時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことはもちろん、毎回の授業内容が理解できるまで復習に取り組み、かつ次回の授業に向けての予習も行う必要がある。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	授業の前後の時間帯
場所：	授業が行われる教室
備考・注意事項：	授業の前後で質問等に応じます。

授業計画

第1回	PC基礎 Photoshop-1 ビットマップ画像メディア表現の基本操作	本回の復習。Photoshopテキスト 序章、第1部Chapter1基本操作、Chapter2選択範囲の作成、Chapter3画像の移動と変形、Chapter4カラーモードと色調補正を予習しておくこと。	授業外学修課題にかかる目安の時間 2時間
	パソコンの基本操作・文字入力・Photoshopの作業エリア・選択ツールと選択・選択範囲の読み込み		
第2回	Photoshop-2 ビットマップ画像メディア表現の基本操作	本回の復習。Photoshopテキスト 第1部Chapter5ペイント、Chapter6レイヤー操作を予習しておくこと。	2時間
	画像解像度・トリミング・画像のコピーとペースト・変形・カラーモード・色調補正		
第3回	Photoshop-3 ビットマップ画像メディア表現の基本操作	本回の復習。Photoshopテキスト 第1部Chapter7パスとシェイプ、Chapter8テキストを予習しておくこと。	2時間

	ペイント系のツール・レタッチ系のツール・レイヤーとレイヤーパネル・調整レイヤー		
第4回	Photoshop-4 ビットマップ画像メディア表現の基本操作と問題演習 バスの作成と編集・シェイプとカスタムシェイプ・文字ツール・テキストブロック・文字マスクツール 『Photoshopクリエイター【スタンダード】』問題演習	本回の復習。Photoshopテキスト 第1部Chapter9フィルター、Chapter10画像の入出力を予習しておくこと。 「Photoshopクリエイター問題集」スタンダード模擬問題1を予習しておく。	2時間
第5回	Photoshop-5 問題演習 フィルターの概要と使用・さまざまなファイル形式 『Photoshopクリエイター【スタンダード】』問題演習	本回の復習。「Photoshopクリエイター問題集」スタンダード模擬問題2を予習しておく。	2時間
第6回	Photoshop-6 『Photoshopクリエイター【スタンダード】』習熟度中間確認 指示書に沿った制作プロセスの修得 『Photoshopクリエイター【スタンダード】』問題演習	本回の復習。「Photoshopクリエイター問題集」スタンダード模擬問題1を復習する。	2時間
第7回	Photoshop-7 Photoshop総復習 計画性を持った制作プロセスの修得 『Photoshopクリエイター【スタンダード】』問題演習	本回の復習。「Photoshopクリエイター問題集」スタンダード模擬問題2を復習する。	2時間
第8回	Photoshop-8 Photoshop総復習 作業効率を意識した制作プロセスの修得 『Photoshopクリエイター【スタンダード】』問題演習	本回の復習。Illustratorテキスト 序章、第1部Chapter1基本操作、Chapter2オブジェクトの基本操作、Chapter3バスの描画、Chapter4カラー、Chapter5オブジェクトの編集設定を予習しておくこと。	2時間
第9回	Illustrator-1 ベクター画像メディア表現の基本操作 作業エリア・塗りと線・オブジェクトの描画・編集操作・バスの編集とペンツール・カラー設定・グラデーション・レイヤーとレイヤーパネル・変形	本回の復習。Illustratorテキスト、Chapter6文字を予習しておくこと。	2時間
第10回	Illustrator-2 ベクター画像メディア表現の基本操作と問題演習 文字ツール・エリア内文字・バス上文字・文字パネル・段落パネル・トラッキングとカーニング・文字マスクツール	本回の復習。「Illustratorクリエイター問題集」スタンダード模擬問題1を予習しておく。	2時間
第11回	Illustrator-3 問題演習 指示書に沿った制作プロセスを修得する。 『Illustratorクリエイター【スタンダード】』問題演習	本回の復習。「Illustratorクリエイター問題集」スタンダード模擬問題2を予習しておく。	2時間
第12回	Illustrator-4 『Illustratorクリエイター【スタンダード】』習熟度中間確認 計画性を持った制作プロセスを修得する。 『Illustratorクリエイター【スタンダード】』問題演習	本回の復習。「Illustratorクリエイター問題集」スタンダード模擬問題1を復習する。	2時間
第13回	Illustrator-5 Illustrator総復習 指示書に沿った制作プロセスを修得する。 『Illustratorクリエイター【スタンダード】』問題演習	本回の復習。「Illustratorクリエイター問題集」スタンダード模擬問題2を復習する。	2時間
第14回	Illustrator-6 『Illustratorクリエイター【スタンダード】』習熟度確認 計画性を持った制作プロセスを修得する。 『Illustratorクリエイター【スタンダード】』問題演習	本回の復習。「Illustratorクリエイター問題集」スタンダード模擬問題を復習する。	2時間
第15回	Illustrator-7 『Illustratorクリエイター【スタンダード】』習熟度確認 作業効率を意識した制作プロセスを修得する。 『Illustratorクリエイター【スタンダード】』問題演習	本回の復習。	2時間

授業科目名	英語演習 I (マネジメント・芸術)				
担当教員名	伊藤由紀子・山本紀美子・竹野内倫子・宇和里織・松山加奈子				
学年・コース等	1年	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

本授業は、英語で他者とコミュニケーションをとるために、総合的な4技能（リスニング、リーディング、スピーキング、ライティング）を向上させることを目的とします。テーマについての知識や語彙だけでなく、英文から情報を読み取る・聞き取るスキルや、わかりやすく伝えるための文法や文章構成などについても学びます。「使える英語」の習得を目指して、場面に応じた会話練習や、英語でのスピーチ、プレゼンテーション、文章作成などに取り組みます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

汎用的な力

- 1 . DP8. 意思疎通
- 2 . DP10. 忠恕の心

具体的内容：

他者とコミュニケーションを取るための英語力

目標：

4技能を用いて、英語で情報の発信・受信ができる。

英語で他者との意思疎通ができる。

ペア、グループワークにおいて、他者を尊重しながら、自らの役割を遂行することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実習や実技に対して個別にコメントします
- ・ 実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。
語学の習得には継続した学習が大切です。
欠席した場合は各自で課題等を教員に確認してください。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

プレゼンテーション等のパフォーマンス課題	50%	授業内に実施するパフォーマンス課題（学生が英語でアウトプットするもの）について、内容、発音、発表態度、積極的に参加できたか等を総合的に評価します。
授業課題、積極的な授業活動への参加	25%	授業内および宿題として出された課題について、内容、分量等を評価します。
定期試験	25%	15回の授業で学んだ、テキストや言語活動の内容に関して出題される試験の結果で評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
Ken Wilson	SMART CHOICE THIRD EDITION MULTI-PACK 1A	OXFORD UNIVERSITY PRESS	2016年

参考文献等

授業で指示します。

履修上の注意・備考・メッセージ

- ・ 教科書、ノート、辞書を持参すること。
- ・ 授業には、積極的・意欲的に取り組むこと。
- ・ 携帯電話、スマートフォンは指示した時以外は使用を禁じます。
- ・ 授業は予習を前提として行われます。また、授業後は丁寧に復習しておいてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 伊藤 木曜4限・山本 月曜1限

場所： 授業教室・研究室

備考・注意事項： 質問等は本授業の前後、またはメールでも構いません。件名に学籍番号、氏名を記入してください。
伊藤 itoh-yu(アットマーク)osaka-seikei.ac.jp
山本 yamamoto_k(アットマーク)osaka-seikei.ac.jp
竹野内・宇和・松山は授業の前後に教室で対応します。

授業計画

第1回

オリエンテーション コミュニケーション活動

- ・ 授業の進め方
- ・ 授業の準備物、課題等について説明します
- この授業を受講する者は必ず当オリエンテーションに出席すること
- ・ コミュニケーション活動
- ・ テキスト Useful Classroom Language

- ・ コミュニケーション活動の復習・課題に対する学習

授業外学修課題にかかる目安の時間

2時間

第2回	UNIT 1 Nice to meet you! "Conversation & Language Practice 1" ・テキスト Conversation and Language Practice: Self-introduction ・ペアワーク、グループワーク	・UNIT1の復習 ・課題に対する学習	2時間
第3回	UNIT 1 Nice to meet you! "Conversation & Language Practice 2" ・テキスト Conversation and Language Practice: Self-introduction ・自己紹介スピーチ（1人ずつ2-3分程度のスピーチを行う）の準備 ・Listening活動 ・Writing活動	・UNIT1の復習 ・自己紹介スピーチの準備	2時間
第4回	UNIT 1 Nice to meet you! "Reading & Speaking" ・テキスト Reading and Speaking: An article about Emma Stone ・自己紹介スピーチ（1人ずつ2-3分程度のスピーチを行う）の準備 ・Writing活動	・UNIT1の復習 ・自己紹介スピーチの準備	2時間
第5回	UNIT 1 Nice to mee you! パフォーマンス課題 ・UNIT1のテーマ、Self-introductionに関連したパフォーマンス活動を行う（自己紹介スピーチ） ・発表後には簡単な質疑応答を行う ・相互評価と振り返り（他者からの評価を参考にし、自己評価を行い、今後の改善点を考える）	・UNIT1の復習 ・課題に対する学習	2時間
第6回	UNIT 2 What do you do? "Vocabulary & Conversation" ・テキスト Vocabulary and Conversation: jobs ・ペアワーク、グループワーク	・UNIT1の復習 ・課題に対する学習	2時間
第7回	UNIT 2 What do you do? "Language Practice & Listening" ・テキスト Language Practice and Listening: About jobs and where they live ・UNIT2のテーマ、jobsに関連したパフォーマンス課題の準備 ・Writing活動	・UNIT2の復習 ・UNIT2のパフォーマンス課題の準備	2時間
第8回	UNIT 2 What do you do? "Reading & Speaking" ・テキスト Reading and Speaking: An interview with a student ・UNIT2のテーマ、jobsに関連したパフォーマンス課題の準備 ・Writing活動	・UNIT2の復習 ・UNIT2のパフォーマンス課題の準備	2時間
第9回	UNIT2 What do you do? パフォーマンス課題 ・UNIT2のテーマ、jobsに関連したパフォーマンス活動を行う ・発表後には簡単な質疑応答を行う ・相互評価と振り返り（他者からの評価を参考にし、自己評価を行い、今後の改善点を考える）	・UNIT2の復習 ・課題に対する学習	2時間
第10回	UNIT 3 Do you like spicy food? "Vocabulary & Conversation" ・テキスト Vocabulary and Conversation: Food and Drink ・ペアワーク、グループワーク	・UNIT3の復習 ・課題に対する学習	2時間
第11回	UNIT 3 Do you like spicy food? "Language Practice & Listening" ・テキスト Language Practice and Listening: Ordering in restaurants ・UNIT3のテーマFood and Drinkに関連したパフォーマンス課題の準備 ・Writing活動	・UNIT3の復習 ・UNIT3のパフォーマンス課題の準備	2時間
第12回	UNIT 3 Do you like spicy food? "Reading & Speaking" ・テキスト Reading and Speaking: An article on street food in Seoul and Sunday brunch in San Francisco ・UNIT3のテーマ、Food and Drinkに関連したパフォーマンス課題の準備 ・Writing活動	・UNIT3の復習 ・UNIT3のパフォーマンス課題の準備	2時間
第13回	Unit 3 Do you like spicy food? パフォーマンス課題 ・UNIT3のテーマFood and Drinkに関連したパフォーマンスを行う ・発表後には簡単な質疑応答を行う ・相互評価と振り返り（他グループからの評価を参考にし、自己評価を行い、今後の改善点を考える）	・UNIT3の復習 ・課題に対する学習	2時間
第14回	UNIT1-3 Review "Conversation & Reading" ・テキスト Conversation and Reading: City Spotlight: Meet New York's best new chef! ・ペアワーク、グループディスカッション	・授業の復習 ・期末試験に向けての学習	2時間
第15回	学期の復習と振り返り ・テキスト Review and Check Units 1-3 ・学期の総復習と問題演習により、学習の到達度を確認 ・定期試験に向けての課題の指示	・英語演習 I 全体の復習 ・期末試験に向けての学習	2時間

授業科目名	英語演習 1 (マネ・芸3年以上)				
担当教員名	伊藤由紀子・山本紀美子・竹野内倫子・宇和里織・松山加奈子				
学年・コース等	3～4年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

本授業は、英語で他者とコミュニケーションをとるために、総合的な4技能（リスニング、リーディング、スピーキング、ライティング）を向上させることを目的とします。テーマについての知識や語彙だけでなく、英文から情報を読み取る・聞き取るスキルや、わかりやすく伝えるための文法や文章構成などについても学びます。「使える英語」の習得を目指して、場面に応じた会話練習や、英語でのスピーチ、プレゼンテーション、文章作成などに取り組みます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

汎用的な力

- 1 . DP8. 意思疎通
- 2 . DP10. 忠恕の心

具体的内容：

他者とコミュニケーションを取るための英語力

目標：

4技能を用いて、英語で情報の発信・受信ができる。

英語で他者との意思疎通ができる。

ペア、グループワークにおいて、他者を尊重しながら、自らの役割を遂行することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実習や実技に対して個別にコメントします
- ・ 実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。
語学の習得には継続した学習が大切です。
欠席した場合は各自で課題等を教員に確認してください。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

プレゼンテーション等のパフォーマンス課題	50%	授業内に実施するパフォーマンス課題（学生が英語でアウトプットするもの）について、内容、発音、発表態度、積極的に参加できたか等を総合的に評価します。
授業課題、積極的な授業活動への参加	25%	授業内および宿題として出された課題について、内容、分量等を評価します。
定期試験	25%	15回の授業で学んだ、テキストや言語活動の内容に関して出題される試験の結果で評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
Ken Wilson	SMART CHOICE THIRD EDITION MULTI-PACK 1A	OXFORD UNIVERSITY PRESS	2016年

参考文献等

授業で指示します。

履修上の注意・備考・メッセージ

- ・ 教科書、ノート、辞書を持参すること。
- ・ 授業には、積極的・意欲的に取り組むこと。
- ・ 携帯電話、スマートフォンは指示した時以外は使用を禁じます。
- ・ 授業は予習を前提として行われます。また、授業後は丁寧に復習しておいてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 伊藤 木曜4限・山本 月曜1限

場所： 授業教室・研究室

備考・注意事項： 質問等は本授業の前後、またはメールでも構いません。件名に学籍番号、氏名を記入してください。
伊藤 itoh-yu(アットマーク)osaka-seikei.ac.jp
山本 yamamoto_k(アットマーク)osaka-seikei.ac.jp
竹野内・宇和・松山は授業の前後に教室に対応します。

授業計画

第1回

オリエンテーション コミュニケーション活動

- ・ 授業の進め方
- ・ 授業の準備物、課題等について説明します
- この授業を受講する者は必ず当オリエンテーションに出席すること
- ・ コミュニケーション活動
- ・ テキスト Useful Classroom Language

・ コミュニケーション活動の復習 ・ 課題に対する学習

授業外学修課題にかかる目安の時間

4時間

第2回	UNIT 1 Nice to meet you! "Conversation & Language Practice 1" ・テキスト Conversation and Language Practice: Self-introduction ・ペアワーク、グループワーク	・UNIT1の復習 ・課題に対する学習	4時間
第3回	UNIT 1 Nice to meet you! "Conversation & Language Practice 2" ・テキスト Conversation and Language Practice: Self-introduction ・自己紹介スピーチ（1人ずつ2-3分程度のスピーチを行う）の準備 ・Listening活動 ・Writing活動	・UNIT1の復習 ・自己紹介スピーチの準備	4時間
第4回	UNIT 1 Nice to meet you! "Reading & Speaking" ・テキスト Reading and Speaking: An article about Emma Stone ・自己紹介スピーチ（1人ずつ2-3分程度のスピーチを行う）の準備 ・Writing活動	・UNIT1の復習 ・自己紹介スピーチの準備	4時間
第5回	UNIT 1 Nice to mee you! パフォーマンス課題 ・UNIT1 のテーマ、Self-introductionに関連したパフォーマンス活動を行う（自己紹介スピーチ） ・発表後には簡単な質疑応答を行う ・相互評価と振り返り（他者からの評価を参考にし、自己評価を行い、今後の改善点を考える）	・UNIT1の復習 ・課題に対する学習	4時間
第6回	UNIT 2 What do you do? "Vocabulary & Conversation" ・テキスト Vocabulary and Conversation: jobs ・ペアワーク、グループワーク	・UNIT1の復習 ・課題に対する学習	4時間
第7回	UNIT 2 What do you do? "Language Practice & Listening" ・テキスト Language Practice and Listening: About jobs and where they live ・UNIT2のテーマ、jobsに関連したパフォーマンス課題の準備 ・Writing活動	・UNIT2の復習 ・UNIT2のパフォーマンス課題の準備	4時間
第8回	UNIT 2 What do you do? "Reading & Speaking" ・テキスト Reading and Speaking: An interview with a student ・UNIT2のテーマ、jobsに関連したパフォーマンス課題の準備 ・Writing活動	・UNIT2の復習 ・UNIT2のパフォーマンス課題の準備	4時間
第9回	UNIT2 What do you do? パフォーマンス課題 ・UNIT2のテーマ、jobsに関連したパフォーマンス活動を行う ・発表後には簡単な質疑応答を行う ・相互評価と振り返り（他者からの評価を参考にし、自己評価を行い、今後の改善点を考える）	・UNIT2の復習 ・課題に対する学習	4時間
第10回	UNIT 3 Do you like spicy food? "Vocabulary & Conversation" ・テキスト Vocabulary and Conversation: Food and Drink ・ペアワーク、グループワーク	・UNIT3の復習 ・課題に対する学習	4時間
第11回	UNIT 3 Do you like spicy food? "Language Practice & Listening" ・テキスト Language Practice and Listening: Ordering in restaurants ・UNIT3のテーマFood and Drinkに関連したパフォーマンス課題の準備 ・Writing活動	・UNIT3の復習 ・UNIT3のパフォーマンス課題の準備	4時間
第12回	UNIT 3 Do you like spicy food? "Reading & Speaking" ・テキスト Reading and Speaking: An article on street food in Seoul and Sunday brunch in San Francisco ・UNIT3のテーマ、Food and Drinkに関連したパフォーマンス課題の準備 ・Writing活動	・UNIT3の復習 ・UNIT3のパフォーマンス課題の準備	4時間
第13回	Unit 3 Do you like spicy food? パフォーマンス課題 ・UNIT3のテーマFood and Drinkに関連したパフォーマンスを行う ・発表後には簡単な質疑応答を行う ・相互評価と振り返り（他グループからの評価を参考にし、自己評価を行い、今後の改善点を考える）	・UNIT3の復習 ・課題に対する学習	4時間
第14回	UNIT1-3 Review "Conversation & Reading" ・テキスト Conversation and Reading: City Spotlight: Meet New York's best new chef! ・ペアワーク、グループディスカッション	・授業の復習 ・期末試験に向けての学習	4時間
第15回	学期の復習と振り返り ・テキスト Review and Check Units 1-3 ・学期の総復習と問題演習により、学習の到達度を確認 ・定期試験に向けての課題の指示	・英語演習 I 全体の復習 ・期末試験に向けての学習	4時間

授業科目名	英語演習Ⅱ（マネジメント・芸術）				
担当教員名	伊藤由紀子・山本紀美子・竹野内倫子・宇和里織・竹内ニコール				
学年・コース等	1年	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

本授業は、英語で他者とコミュニケーションをとるために、総合的な4技能（リスニング、リーディング、スピーキング、ライティング）を向上させることを目的とします。テーマについての知識や語彙だけでなく、英文から情報を読み取る・聞き取るスキルや、わかりやすく伝えるための文法や文章構成などについても学びます。「使える英語」の習得を目指して、場面に応じた会話練習や、英語でのスピーチ、プレゼンテーション、文章作成などに取り組みます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP1. 幅広い教養やスキル

汎用的な力

1. DP8. 意思疎通
2. DP10. 忠恕の心

具体的内容：

他者とコミュニケーションを取るための英語力

目標：

4技能を用いて、英語で情報の発信・受信ができる。

英語で他者との意思疎通ができる。

ペア、グループワークにおいて、他者を尊重しながら、自らの役割を遂行することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・ 協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・ 発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実習や実技に対して個別にコメントします
- ・ 実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。
語学の習得には継続した学習が大切です。
欠席した場合は各自で課題等を教員に確認してください。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

プレゼンテーション等のパフォーマンス課題	50%	授業内に実施するパフォーマンス課題（学生が英語でアウトプットするもの）について、内容、発音、発表態度、積極的に参加できたか等を総合的に評価します。
授業課題、積極的な授業活動への参加	25%	授業内および宿題として出された課題について、内容、分量等を評価します。
定期試験	25%	15回の授業で学んだ、テキストや言語活動の内容に関して出題される筆記試験の結果で評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
Ken Wilson	SMART CHOICE THIRD EDITION MULTI-PACK 1A	OXFORD UNIVERSITY PRESS	2016年

参考文献等

授業で指示します。

履修上の注意・備考・メッセージ

- ・ 教科書、ノート、辞書を持参すること。
- ・ 授業には、積極的・意欲的に取り組むこと。
- ・ 携帯電話、スマートフォンは指示した時以外は使用を禁じます。
- ・ 授業は予習を前提として行われます。また、授業後は丁寧に復習しておいてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 伊藤 木曜4限・山本 月曜1限

場所： 授業教室・研究室

備考・注意事項： 質問等は本授業の前後、またはメールでも構いません。件名に学籍番号、氏名を記入してください。
伊藤 itoh-yu(アットマーク)osaka-seikei.ac.jp
山本 yamamoto_k(アットマーク)osaka-seikei.ac.jp
竹野内・宇和・竹内は授業の前後に教室で対応します。

授業計画

回	内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	オリエンテーション コミュニケーション活動 ・ 授業の進め方 ・ 授業の準備物、課題等について説明します。 この授業を受講する者は必ず当オリエンテーションに出席すること。 ・ コミュニケーション活動	2時間
第2回	UNIT4 How often do you do yoga? "Vocabulary & Conversation"	2時間

	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト Vocabulary and Conversation: Sports and Exercise ・ペアワーク、グループワーク 		
第3回	UNIT4 How often do you do yoga? "Language Practice & Listening" <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト Reading and Speaking: An article on NBA basketball players and their training ・Unit 4のテーマSports and Exerciseに関連したパフォーマンス課題の準備 ・Writing活動 	・復習 ・UNIT4のパフォーマンス課題の準備	2時間
第4回	UNIT 4 How often do you do yoga? "Reading & Speaking" <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト Reading and Speaking:An article on NBA basketball players and their training ・UNIT4のテーマ、Sports and Exercise に関連したパフォーマンス課題の準備 ・Writing活動 	・UNIT4の復習 ・UNIT4のパフォーマンス課題の準備	2時間
第5回	UNIT4 How often do you do yoga? パフォーマンス課題 <ul style="list-style-type: none"> ・UNIT4 のテーマ、Sports and Exerciseに関連したパフォーマンスを行う ・発表後には簡単な質疑応答を行う ・相互評価と振り返り（他者からの評価を参考にし、自己評価を行い、今後の改善点を考える） 	・UNIT4の復習 ・課題に対する学習	2時間
第6回	UNIT5 What are you watching? "Vocabulary & Conversation" <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト Vocabulary and Conversation: Everyday activities ・ペアワーク、グループワーク 	・UNIT5の復習 ・課題に対する学習	2時間
第7回	UNIT5 What are you watching? "Language Practice & Listening" <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト Language Practice and Listening: Phone conversations about what people are doing right now ・UNIT5のテーマ、Everyday activitiesに関連したパフォーマンス課題の準備 ・Writing活動 	・UNIT5の復習 ・UNIT5のパフォーマンス課題の準備	2時間
第8回	UNIT5 What are you watching? "Reading & Speaking" <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト Reading and Speaking: An survey on cell phone manners ・UNIT5のテーマ、Everyday activitiesに関連したパフォーマンス課題の準備 ・Writing活動 	・UNIT5の復習 ・UNIT5のパフォーマンス課題の準備	2時間
第9回	UNIT5 What are you watching? パフォーマンス課題 <ul style="list-style-type: none"> ・UNIT5のテーマ、Everyday activitiesに関連したパフォーマンス活動を行う ・発表後には簡単な質疑応答を行う ・相互評価と振り返り（他者からの評価を参考にし、自己評価を行い、今後の改善点を考える） 	・UNIT5の復習 ・課題に対する学習	2時間
第10回	UNIT6 Where were you yesterday? "Vocabulary & Conversation" <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト Vocabluary and Conversation: Problems ・ペアワーク、グループワーク 	・UNIT6の復習 ・課題に対する学習	2時間
第11回	UNIT6 Where were you yesterday? "Language Practice & Listening" <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト Language Practice and Listening: People talking about why they were late ・UNIT6のテーマ、Problemsに関連したパフォーマンス課題の準備 ・Writing活動 	・UNIT6の復習 ・UNIT6のパフォーマンス課題の準備	2時間
第12回	UNIT6 Where were you yesterday? "Reading & Speaking" <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト Reading and Speaking: An article about tribute bands ・UNIT6のテーマ、Problemsに関連したパフォーマンス課題の準備 ・Writing活動 	・UNIT6の復習 ・UNIT6のパフォーマンス課題の準備	2時間
第13回	UNIT6 Where were you yesterday? パフォーマンス課題 <ul style="list-style-type: none"> ・UNIT6のテーマ、Problemsに関連したパフォーマンスを行う ・発表後には簡単な質疑応答を行う ・相互評価と振り返り（他グループからの評価を参考にし、自己評価を行い、今後の改善点を考える） 	・UNIT6の復習 ・課題に対する学習	2時間
第14回	UNIT4-6 Review "Conversation & Reading" <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト Conversation and Reading: A friend making exercise to another ・ペアワーク、グループディスカッション 	・授業の復習 ・期末試験に向けての学習	2時間
第15回	学期の復習と振り返り <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト Review and Check Units 4-6 ・学期の総復習と問題演習により、学習の到達度を確認 ・定期試験に向けての課題の指示 	・英語演習 II 全体の復習 ・期末試験に向けての学習	2時間

授業科目名	英語演習 2 (マネ・芸3年以上)				
担当教員名	伊藤由紀子・山本紀美子・竹野内倫子・宇和里織・竹内ニコール				
学年・コース等	3～4年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

本授業は、英語で他者とコミュニケーションをとるために、総合的な4技能（リスニング、リーディング、スピーキング、ライティング）を向上させることを目的とします。テーマについての知識や語彙だけでなく、英文から情報を読み取る・聞き取るスキルや、わかりやすく伝えるための文法や文章構成などについても学びます。「使える英語」の習得を目指して、場面に応じた会話練習や、英語でのスピーチ、プレゼンテーション、文章作成などに取り組みます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

汎用的な力

- 1 . DP8. 意思疎通
- 2 . DP10. 忠恕の心

具体的内容：

他者とコミュニケーションを取るための英語力

目標：

4技能を用いて、英語で情報の発信・受信ができる。

英語で他者との意思疎通ができる。

ペア、グループワークにおいて、他者を尊重しながら、自らの役割を遂行することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実習や実技に対して個別にコメントします
- ・ 実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。
語学の習得には継続した学習が大切です。
欠席した場合は各自で課題等を教員に確認してください。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

プレゼンテーション等のパフォーマンス課題	50%	授業内に実施するパフォーマンス課題（学生が英語でアウトプットするもの）について、内容、発音、発表態度、積極的に参加できたか等を総合的に評価します。
授業課題、積極的な授業活動への参加	25%	授業内および宿題として出された課題について、内容、分量等を評価します。
定期試験	25%	15回の授業で学んだ、テキストや言語活動の内容に関して出題される筆記試験の結果で評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
Ken Wilson	SMART CHOICE THIRD EDITION MULTI-PACK 1A	OXFORD UNIVERSITY PRESS	2016年

参考文献等

授業で指示します。

履修上の注意・備考・メッセージ

- ・ 教科書、ノート、辞書を持参すること。
- ・ 授業には、積極的・意欲的に取り組むこと。
- ・ 携帯電話、スマートフォンは指示した時以外は使用を禁じます。
- ・ 授業は予習を前提として行われます。また、授業後は丁寧に復習しておいてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 伊藤 木曜4限・山本 月曜1限

場所： 授業教室・研究室

備考・注意事項： 質問等は本授業の前後、またはメールでも構いません。件名に学籍番号、氏名を記入してください。
伊藤 itoh-yu(アットマーク)osaka-seikei.ac.jp
山本 yamamoto_k(アットマーク)osaka-seikei.ac.jp
竹野内・宇和・竹内は授業の前後に教室で対応します。

授業計画

回	内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	オリエンテーション コミュニケーション活動 ・ 授業の進め方 ・ 授業の準備物、課題等について説明します。 この授業を受講する者は必ず当オリエンテーションに出席すること。 ・ コミュニケーション活動	4時間
第2回	UNIT4 How often do you do yoga? "Vocabulary & Conversation"	4時間

	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト Vocabulary and Conversation: Sports and Exercise ・ペアワーク、グループワーク 		
第3回	UNIT4 How often do you do yoga? "Language Practice & Listening" <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト Reading and Speaking: An article on NBA basketball players and their training ・Unit 4のテーマSports and Exerciseに関連したパフォーマンス課題の準備 ・Writing活動 	・復習 ・UNIT4のパフォーマンス課題の準備	4時間
第4回	UNIT 4 How often do you do yoga? "Reading & Speaking" <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト Reading and Speaking:An article on NBA basketball players and their training ・UNIT4のテーマ、Sports and Exercise に関連したパフォーマンス課題の準備 ・Writing活動 	・UNIT4の復習 ・UNIT4のパフォーマンス課題の準備	4時間
第5回	UNIT4 How often do you do yoga? パフォーマンス課題 <ul style="list-style-type: none"> ・UNIT4 のテーマ、Sports and Exerciseに関連したパフォーマンスを行う ・発表後には簡単な質疑応答を行う ・相互評価と振り返り（他者からの評価を参考にし、自己評価を行い、今後の改善点を考える） 	・UNIT4の復習 ・課題に対する学習	4時間
第6回	UNIT5 What are you watching? "Vocabulary & Conversation" <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト Vocabulary and Conversation: Everyday activities ・ペアワーク、グループワーク 	・UNIT5の復習 ・課題に対する学習	4時間
第7回	UNIT5 What are you watching? "Language Practice & Listening" <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト Language Practice and Listening: Phone conversations about what people are doing right now ・UNIT5のテーマ、Everyday activitiesに関連したパフォーマンス課題の準備 ・Writing活動 	・UNIT5の復習 ・UNIT5のパフォーマンス課題の準備	4時間
第8回	UNIT5 What are you watching? "Reading & Speaking" <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト Reading and Speaking: An survey on cell phone manners ・UNIT5のテーマ、Everyday activitiesに関連したパフォーマンス課題の準備 ・Writing活動 	・UNIT5の復習 ・UNIT5のパフォーマンス課題の準備	4時間
第9回	UNIT5 What are you watching? パフォーマンス課題 <ul style="list-style-type: none"> ・UNIT5のテーマ、Everyday activitiesに関連したパフォーマンス活動を行う ・発表後には簡単な質疑応答を行う ・相互評価と振り返り（他者からの評価を参考にし、自己評価を行い、今後の改善点を考える） 	・UNIT5の復習 ・課題に対する学習	4時間
第10回	UNIT6 Where were you yesterday? "Vocabulary & Conversation" <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト Vocabluary and Conversation: Problems ・ペアワーク、グループワーク 	・UNIT6の復習 ・課題に対する学習	4時間
第11回	UNIT6 Where were you yesterday? "Language Practice & Listening" <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト Language Practice and Listening: People talking about why they were late ・UNIT6のテーマ、Problemsに関連したパフォーマンス課題の準備 ・Writing活動 	・UNIT6の復習 ・UNIT6のパフォーマンス課題の準備	4時間
第12回	UNIT6 Where were you yesterday? "Reading & Speaking" <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト Reading and Speaking: An article about tribute bands ・UNIT6のテーマ、Problemsに関連したパフォーマンス課題の準備 ・Writing活動 	・UNIT6の復習 ・UNIT6のパフォーマンス課題の準備	4時間
第13回	UNIT6 Where were you yesterday? パフォーマンス課題 <ul style="list-style-type: none"> ・UNIT6のテーマ、Problemsに関連したパフォーマンスを行う ・発表後には簡単な質疑応答を行う ・相互評価と振り返り（他グループからの評価を参考にし、自己評価を行い、今後の改善点を考える） 	・UNIT6の復習 ・課題に対する学習	4時間
第14回	UNIT4-6 Review "Conversation & Reading" <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト Conversation and Reading: A friend making exercise to another ・ペアワーク、グループディスカッション 	・授業の復習 ・期末試験に向けての学習	4時間
第15回	学期の復習と振り返り <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト Review and Check Units 4-6 ・学期の総復習と問題演習により、学習の到達度を確認 ・定期試験に向けての課題の指示 	・英語演習 II 全体の復習 ・期末試験に向けての学習	4時間

授業科目名	英語演習3（マネ・芸3年以上）				
担当教員名	山本紀美子・泉谷律子・荒木ゆき				
学年・コース等	3～4年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

本授業は、英語で他者とコミュニケーションをとるために、総合的な4技能（リスニング、リーディング、スピーキング、ライティング）を向上させることを目的とします。テーマについての知識や語彙だけでなく、英文から情報を読み取る・聞き取るスキルや、わかりやすく伝えるための文法や文章構成などについても学びます。「使える英語」の習得を目指して、場面に応じた会話練習や、英語でのスピーチ、プレゼンテーション、文章作成などに取り組みます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1. 幅広い教養やスキル	他者とコミュニケーションを取るための英語力	4技能を用いて、英語で情報の発信・受信ができる。
汎用的な力		英語で他者との意思疎通ができる。
1．DP8. 意思疎通		ペア、グループワークにおいて、他者を尊重しながら、自らの役割を遂行することができる。
2．DP10. 忠恕の心		

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。
語学の習得には継続した学習が大切です。
欠席した場合は各自で課題等を教員に確認してください。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

プレゼンテーション等のパフォーマンス課題	50%	授業内に実施するパフォーマンス課題（学生が英語でアウトプットするもの）について、内容、発音、発表態度、積極的に参加できたか等を総合的に評価します。
授業課題、積極的な授業活動への参加	25%	授業内および宿題として出された課題について、内容、分量等を評価します。
定期試験	25%	15回の授業で学んだ、テキストや言語活動の内容に関して出題される試験の結果で評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
Ken Wilson	SMART CHOICE THIRD EDITION MULTI-PACK 1B	OXFORD UNIVERSITY PRESS	2016年

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

- ・教科書、ノート、辞書を持参すること。
- ・授業には、積極的・意欲的に取り組むこと。
- ・携帯電話、スマートフォンは指示した時以外は使用を禁じます。
- ・授業は予習を前提として行われます。また、授業後は丁寧に復習しておいてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	山本 月曜1限
場所：	授業教室・研究室
備考・注意事項：	質問等は本授業の前後、またはメールでも構いません。件名に学籍番号、氏名を記入してください。 山本 yamamoto_k(アットマーク)osaka-seikei.ac.jp 泉谷・荒木は授業の前後に教室で対応します。

授業計画

回	授業内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	オリエンテーション コミュニケーション活動 ・授業の進め方 ・授業の準備物、課題等について説明します。 この授業を受講する者は必ず当オリエンテーションに参加すること。 ・コミュニケーション活動 ・テキスト Useful Classroom Language	4時間
第2回	UNIT7 Which one is cheaper? "Vocabulary & Conversation"	4時間

	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト Vocabulary and Conversation: Clothing ・ペアワーク、グループワーク 		
第3回	UNIT7 Which one is cheaper? "Language practice and listening" <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト Language practice and listening: People shopping for clothes ・UNIT7のテーマ、Clothingに関連したパフォーマンス課題の準備 	<ul style="list-style-type: none"> ・UNIT7の復習・UNIT7のパフォーマンス課題の準備 	4時間
第4回	UNIT7 Which one is cheaper? "Reading and Speaking" <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト Reading and Speaking: An article about shopping around the world ・UNIT7のテーマ、clothingに関連したパフォーマンス課題の準備 	<ul style="list-style-type: none"> ・UNIT7の復習・UNIT7のパフォーマンス課題の準備 	4時間
第5回	UNIT7 Which one is cheaper? パフォーマンス課題 <ul style="list-style-type: none"> ・UNIT7のテーマ、clothingに関連したパフォーマンス活動を行う ・発表後には簡単な質疑応答を行う ・相互評価と振り返り（他者からの評価を参考にし、自己評価を行い、今後の改善点を考える） 	<ul style="list-style-type: none"> ・UNIT7の復習・課題に対する学習 	4時間
第6回	UNIT8 What is she like? "Vocabulary & Conversation" <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト Vocabulary and Conversation: Appearance and personality ・ペアワーク、グループワーク 	<ul style="list-style-type: none"> ・UNIT8の復習・課題に対する学習 	4時間
第7回	UNIT8 What is she like? "Language practice and listening" <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト Language practice and listening: People describing themselves and others ・UNIT8のテーマ、Appearance and personalityに関連したパフォーマンス課題の準備 	<ul style="list-style-type: none"> ・UNIT8の復習・UNIT8のパフォーマンス課題の準備 	4時間
第8回	UNIT8 What is she like? "Reading and Speaking" <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト Reading and Speaking: An article about best friends ・UNIT8のテーマ、Appearance and personalityに関連したパフォーマンス課題の準備 	<ul style="list-style-type: none"> ・UNIT8の復習・UNIT8のパフォーマンス課題の準備 	4時間
第9回	UNIT8 What is she like? パフォーマンス課題 <ul style="list-style-type: none"> ・UNIT8のテーマ、Appearance and personalityに関連したパフォーマンス活動を行う ・発表後には簡単な質疑応答を行う ・相互評価と振り返り（他者からの評価を参考にし、自己評価を行い、今後の改善点を考える） 	<ul style="list-style-type: none"> ・UNIT8の復習・課題に対する学習 	4時間
第10回	UNIT9 What can you do there? "Vocabulary & Conversation" <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト Vocabulary and Conversation: Local attractions ・ペアワーク、グループワーク 	<ul style="list-style-type: none"> ・UNIT9の復習・課題に対する学習 	4時間
第11回	UNIT9 What can you do there? "Language practice and listening" <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト Language practice and listening: People talking about things for visitors to do in their cities ・UNIT9のテーマ、Local attractionsに関連したパフォーマンス課題の準備 	<ul style="list-style-type: none"> ・UNIT9の復習・UNIT9のパフォーマンス課題の準備 	4時間
第12回	UNIT9 What can you do there? "Reading and Speaking" <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト Reading and Speaking: Advice and information on sightseeing in Istanbul ・UNIT9のテーマ、Local attractionsに関連したパフォーマンス課題の準備 	<ul style="list-style-type: none"> ・UNIT9の復習・UNIT9のパフォーマンス課題の準備 	4時間
第13回	UNIT9 What can you do there? パフォーマンス課題 <ul style="list-style-type: none"> ・UNIT9のテーマ、Local attractionsに関連したパフォーマンス活動を行う ・発表後には簡単な質疑応答を行う ・相互評価と振り返り（他者からの評価を参考にし、自己評価を行い、今後の改善点を考える） 	<ul style="list-style-type: none"> ・UNIT9の復習・課題に対する学習 	4時間
第14回	UNIT 7-9 Review <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト Conversation and Reading: World of Contact ・ペアワーク、グループディスカッション 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の復習・期末試験に向けての学習 	4時間
第15回	学期の復習と振り返り <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト Review and check UNITS7-9 ・学期の総復習と問題演習により、学習の到達度を確認 ・定期試験に向けての課題の指示 	<ul style="list-style-type: none"> ・英語演習Ⅲ全体の復習・期末試験に向けての学習 	4時間

授業科目名	英語演習Ⅲ（マネジメント・芸術）				
担当教員名	山本紀美子・泉谷律子・荒木ゆき				
学年・コース等	2年	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

本授業は、英語で他者とコミュニケーションをとるために、総合的な4技能（リスニング、リーディング、スピーキング、ライティング）を向上させることを目的とします。テーマについての知識や語彙だけでなく、英文から情報を読み取る・聞き取るスキルや、わかりやすく伝えるための文法や文章構成などについても学びます。「使える英語」の習得を目指して、場面に応じた会話練習や、英語でのスピーチ、プレゼンテーション、文章作成などに取り組みます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1. 幅広い教養やスキル	他者とコミュニケーションを取るための英語力	4技能を用いて、英語で情報の発信・受信ができる。
汎用的な力		英語で他者との意思疎通ができる。
1．DP8. 意思疎通		ペア、グループワークにおいて、他者を尊重しながら、自らの役割を遂行することができる。
2．DP10. 忠恕の心		

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。
語学の習得には継続した学習が大切です。
欠席した場合は各自で課題等を教員に確認してください。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

プレゼンテーション等のパフォーマンス課題	50%	授業内に実施するパフォーマンス課題（学生が英語でアウトプットするもの）について、内容、発音、発表態度、積極的に参加できたか等を総合的に評価します。
授業課題、積極的な授業活動への参加	25%	授業内および宿題として出された課題について、内容、分量等を評価します。
定期試験	25%	15回の授業で学んだ、テキストや言語活動の内容に関して出題される試験の結果で評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
Ken Wilson	SMART CHOICE THIRD EDITION MULTI-PACK 1B	OXFORD UNIVERSITY PRESS	2016年

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

- ・教科書、ノート、辞書を持参すること。
- ・授業には、積極的・意欲的に取り組むこと。
- ・携帯電話、スマートフォンは指示した時以外は使用を禁じます。
- ・授業は予習を前提として行われます。また、授業後は丁寧に復習しておいてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	山本 月曜1限
場所：	授業教室・研究室
備考・注意事項：	質問等は本授業の前後、またはメールでも構いません。件名に学籍番号、氏名を記入してください。 山本 yamamoto_k(アットマーク)osaka-seikei.ac.jp 泉谷・荒木は授業の前後に教室で対応します。

授業計画

回	授業内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	オリエンテーション コミュニケーション活動 ・授業の進め方 ・授業の準備物、課題等について説明します。 この授業を受講する者は必ず当オリエンテーションに参加すること。 ・コミュニケーション活動 ・テキスト Useful Classroom Language	2時間
第2回	UNIT7 Which one is cheaper? "Vocabulary & Conversation"	2時間

	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト Vocabulary and Conversation: Clothing ・ペアワーク、グループワーク 		
第3回	UNIT7 Which one is cheaper? "Language practice and listening" <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト Language practice and listening: People shopping for clothes ・UNIT7のテーマ、Clothingに関連したパフォーマンス課題の準備 	<ul style="list-style-type: none"> ・UNIT7の復習・UNIT7のパフォーマンス課題の準備 	2時間
第4回	UNIT7 Which one is cheaper? "Reading and Speaking" <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト Reading and Speaking: An article about shopping around the world ・UNIT7のテーマ、clothingに関連したパフォーマンス課題の準備 	<ul style="list-style-type: none"> ・UNIT7の復習・UNIT7のパフォーマンス課題の準備 	2時間
第5回	UNIT7 Which one is cheaper? パフォーマンス課題 <ul style="list-style-type: none"> ・UNIT7のテーマ、clothingに関連したパフォーマンス活動を行う ・発表後には簡単な質疑応答を行う ・相互評価と振り返り（他者からの評価を参考にし、自己評価を行い、今後の改善点を考える） 	<ul style="list-style-type: none"> ・UNIT7の復習・課題に対する学習 	2時間
第6回	UNIT8 What is she like? "Vocabulary & Conversation" <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト Vocabulary and Conversation: Appearance and personality ・ペアワーク、グループワーク 	<ul style="list-style-type: none"> ・UNIT8の復習・課題に対する学習 	2時間
第7回	UNIT8 What is she like? "Language practice and listening" <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト Language practice and listening: People describing themselves and others ・UNIT8のテーマ、Appearance and personalityに関連したパフォーマンス課題の準備 	<ul style="list-style-type: none"> ・UNIT8の復習・UNIT8のパフォーマンス課題の準備 	2時間
第8回	UNIT8 What is she like? "Reading and Speaking" <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト Reading and Speaking: An article about best friends ・UNIT8のテーマ、Appearance and personalityに関連したパフォーマンス課題の準備 	<ul style="list-style-type: none"> ・UNIT8の復習・UNIT8のパフォーマンス課題の準備 	2時間
第9回	UNIT8 What is she like? パフォーマンス課題 <ul style="list-style-type: none"> ・UNIT8のテーマ、Appearance and personalityに関連したパフォーマンス活動を行う ・発表後には簡単な質疑応答を行う ・相互評価と振り返り（他者からの評価を参考にし、自己評価を行い、今後の改善点を考える） 	<ul style="list-style-type: none"> ・UNIT8の復習・課題に対する学習 	2時間
第10回	UNIT9 What can you do there? "Vocabulary & Conversation" <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト Vocabulary and Conversation: Local attractions ・ペアワーク、グループワーク 	<ul style="list-style-type: none"> ・UNIT9の復習・課題に対する学習 	2時間
第11回	UNIT9 What can you do there? "Language practice and listening" <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト Language practice and listening: People talking about things for visitors to do in their cities ・UNIT9のテーマ、Local attractionsに関連したパフォーマンス課題の準備 	<ul style="list-style-type: none"> ・UNIT9の復習・UNIT9のパフォーマンス課題の準備 	2時間
第12回	UNIT9 What can you do there? "Reading and Speaking" <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト Reading and Speaking: Advice and information on sightseeing in Istanbul ・UNIT9のテーマ、Local attractionsに関連したパフォーマンス課題の準備 	<ul style="list-style-type: none"> ・UNIT9の復習・UNIT9のパフォーマンス課題の準備 	2時間
第13回	UNIT9 What can you do there? パフォーマンス課題 <ul style="list-style-type: none"> ・UNIT9のテーマ、Local attractionsに関連したパフォーマンス活動を行う ・発表後には簡単な質疑応答を行う ・相互評価と振り返り（他者からの評価を参考にし、自己評価を行い、今後の改善点を考える） 	<ul style="list-style-type: none"> ・UNIT9の復習・課題に対する学習 	2時間
第14回	UNIT 7-9 Review <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト Conversation and Reading: World of Contact ・ペアワーク、グループディスカッション 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の復習・期末試験に向けての学習 	2時間
第15回	学期の復習と振り返り <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト Review and check UNITS7-9 ・学期の総復習と問題演習により、学習の到達度を確認 ・定期試験に向けての課題の指示 	<ul style="list-style-type: none"> ・英語演習Ⅲ全体の復習・期末試験に向けての学習 	2時間

授業科目名	英語演習 4 (マネ・芸3年以上)				
担当教員名	山本紀美子・泉谷律子・荒木ゆき				
学年・コース等	3～4年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

本授業は、英語で他者とコミュニケーションをとるために、総合的な4技能（リスニング、リーディング、スピーキング、ライティング）を向上させることを目的とします。テーマについての知識や語彙だけでなく、英文から情報を読み取る・聞き取るスキルや、わかりやすく伝えるための文法や文章構成などについても学びます。「使える英語」の習得を目指して、場面に応じた会話練習や、英語でのスピーチ、プレゼンテーション、文章作成などに取り組みます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- DP1. 幅広い教養やスキル

汎用的な力

- DP8. 意思疎通
- DP10. 忠恕の心

具体的内容：

他者とコミュニケーションを取るための英語力

目標：

4技能を用いて、英語で情報の発信・受信ができる。

英語で他者との意思疎通ができる。

ペア、グループワークにおいて、他者を尊重しながら、自らの役割を遂行することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。
語学の習得には継続した学習が大切です。
欠席した場合は各自で課題等を教員に確認してください。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

プレゼンテーション等のパフォーマンス課題	50%	授業内に実施するパフォーマンス課題（学生が英語でアウトプットするもの）について、内容、発音、発表態度、積極的に参加できたか等を総合的に評価します。
授業課題、積極的な授業活動への参加	25%	授業内および宿題として出された課題について、内容、分量等を評価します。
定期試験	25%	15回の授業で学んだ、テキストや言語活動の内容に関して出題される試験の結果で評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
Ken Wilson	SMART CHOICE THIRD EDITION MULTI-PACK 1B	OXFORD UNIVERSITY PRESS	2016年

参考文献等

授業中に指示します。

履修上の注意・備考・メッセージ

- ・教科書、ノート、辞書を持参すること。
- ・授業には、積極的・意欲的に取り組むこと。
- ・携帯電話、スマートフォンは指示した時以外は使用を禁じます。
- ・授業は予習を前提として行われます。また、授業後は丁寧に復習しておいてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 山本 月曜1限

場所： 授業教室・研究室

備考・注意事項： 質問等は本授業の前後、またはメールでも構いません。件名に学籍番号、氏名を記入してください。
山本 yamamoto_k(アットマーク)osaka-seikei.ac.jp
泉谷・荒木は授業の前後に教室で対応します。

授業計画

回	授業内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	オリエンテーション、コミュニケーション活動 ・授業の進め方 ・授業の準備物、課題等について説明します この授業を受講する者は必ず当オリエンテーションに出席すること ・コミュニケーション活動	4時間
第2回	UNIT10 Is there a bank near here? "Vocabulary & Conversation"	4時間

	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストVocabulary and Conversation: Places around town ・ペアワーク、グループワーク 		
第3回	UNIT10 Is there a bank near here? "Language Practice & Listening" <ul style="list-style-type: none"> ・テキストLanguage and Listening: People asking a hotel receptionist for suggestions ・UNIT10のテーマ、Places around townに関連したパフォーマンス課題の準備 ・Writing 活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・UNIT10の復習・UNIT10のパフォーマンス課題の準備 	4時間
第4回	UNIT10 Is there a bank near here? "Reading & Speaking" <ul style="list-style-type: none"> ・テキストReading and Speaking: An article about areas to visit in Sydney and vancouver ・UNIT10のテーマ、Places around townに関連したパフォーマンス課題の準備 ・Writing 活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・UNIT10の復習・UNIT10のパフォーマンス課題の準備 	4時間
第5回	UNIT10 Is there a bank near here? パフォーマンス課題 <ul style="list-style-type: none"> ・UNIT10のテーマ、Places around townに関連したパフォーマンス活動を行う ・発表後には簡単な質疑応答を行う ・相互評価と振り返り（他者からの評価を参考にし、自己評価を行い、今後の改善点を考える） 	<ul style="list-style-type: none"> ・UNIT10の復習・課題に対する学習 	4時間
第6回	UNIT11 Did you have a good time? "Vocabulary & Conversation" <ul style="list-style-type: none"> ・テキストVocabulary and Conversation: Vacation activities ・ペアワーク、グループワーク 	<ul style="list-style-type: none"> ・UNIT11の復習・課題に対する学習 	4時間
第7回	UNIT11 Did you have a good time? "Language Practice & Listening" <ul style="list-style-type: none"> ・テキストLanguage Practice and Listening: People talking about things that went wrong on vacation ・UNIT11のテーマ、Vacation activitiesに関連したパフォーマンス課題の準備 ・Writing 活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・UNIT11の復習・UNIT11のパフォーマンス課題の準備 	4時間
第8回	UNIT11 Did you have a good time? "Reading & Speaking" <ul style="list-style-type: none"> ・テキストReading and Speaking: An article about an airplane that is now a hotel ・UNIT11のテーマ、Vacation activitiesに関連したパフォーマンス課題の準備 ・Writing 活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・UNIT11復習・UNIT11のパフォーマンス課題の準備 	4時間
第9回	UNIT11 Did you have a good time? パフォーマンス課題 <ul style="list-style-type: none"> ・UNIT11のテーマ、Vacation activitiesに関連したパフォーマンス活動を行う ・発表後には簡単な質疑応答を行う ・相互評価と振り返り（他者からの評価を参考にし、自己評価を行い、今後の改善点を考える） 	<ul style="list-style-type: none"> ・UNIT11の復習・課題に対する学習 	4時間
第10回	UNIT12 I'm going to go by car "Vocabulary & Conversation" <ul style="list-style-type: none"> ・テキストVocabulary and Conversation:Transportation ・ペアワーク、グループワーク 	<ul style="list-style-type: none"> ・UNIT12の復習・課題に対する学習 	4時間
第11回	UNIT12 I'm going to go by car "Language Practice & Listening" <ul style="list-style-type: none"> ・テキストLanguage Practice and Listening: People talking about environmentally friendly ways to get around town ・UNIT12のテーマ、Transportationに関連したパフォーマンス課題の準備 ・Writing 活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・UNIT12の復習・UNIT12のパフォーマンス課題の準備 	4時間
第12回	UNIT12 I'm going to go by car "Reading & Speaking" <ul style="list-style-type: none"> ・テキストReading and Speaking: A blog post about an amazing race ・UNIT12のテーマ、Transportationに関連したパフォーマンス課題の準備 ・Writing 活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・UNIT12の復習・UNIT12のパフォーマンス課題の準備 	4時間
第13回	UNIT12 I'm going to go by car パフォーマンス課題 <ul style="list-style-type: none"> ・UNIT12のテーマ、Transportationに関連したパフォーマンス活動を行う ・発表後には簡単な質疑応答を行う ・相互評価と振り返り（他者からの評価を参考にし、自己評価を行い、今後の改善点を考える） 	<ul style="list-style-type: none"> ・UNIT12の復習・課題に対する学習 	4時間
第14回	UNIT 10-12 Review "Conversation & Reading" <ul style="list-style-type: none"> ・テキストConversation and Reading: A week in the life of...Jim Conway, rock journalist ・ペアワーク、グループディスカッション 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の復習・期末試験に向けての学習 	4時間
第15回	学期の復習と振り返り <ul style="list-style-type: none"> ・テキストReview and Check Units 10-12 ・学期の総復習と問題演習により、学習の到達度を確認 ・定期試験に向けての課題の指示 	<ul style="list-style-type: none"> ・英語演習IV全体の復習・期末試験に向けての学習 	4時間

授業科目名	英語演習Ⅳ（マネジメント・芸術）				
担当教員名	山本紀美子・泉谷律子・荒木ゆき				
学年・コース等	2年	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

本授業は、英語で他者とコミュニケーションをとるために、総合的な4技能（リスニング、リーディング、スピーキング、ライティング）を向上させることを目的とします。テーマについての知識や語彙だけでなく、英文から情報を読み取る・聞き取るスキルや、わかりやすく伝えるための文法や文章構成などについても学びます。「使える英語」の習得を目指して、場面に応じた会話練習や、英語でのスピーチ、プレゼンテーション、文章作成などに取り組みます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- DP1. 幅広い教養やスキル

汎用的な力

- DP8. 意思疎通
- DP10. 忠恕の心

具体的内容：

他者とコミュニケーションを取るための英語力

目標：

4技能を用いて、英語で情報の発信・受信ができる。

英語で他者との意思疎通ができる。

ペア、グループワークにおいて、他者を尊重しながら、自らの役割を遂行することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。
語学の習得には継続した学習が大切です。
欠席した場合は各自で課題等を教員に確認してください。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

プレゼンテーション等のパフォーマンス課題	50%	授業内に実施するパフォーマンス課題（学生が英語でアウトプットするもの）について、内容、発音、発表態度、積極的に参加できたか等を総合的に評価します。
授業課題、積極的な授業活動への参加	25%	授業内および宿題として出された課題について、内容、分量等を評価します。
定期試験	25%	15回の授業で学んだ、テキストや言語活動の内容に関して出題される試験の結果で評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
Ken Wilson	SMART CHOICE THIRD EDITION MULTI-PACK 1B	OXFORD UNIVERSITY PRESS	2016年

参考文献等

授業中に指示します。

履修上の注意・備考・メッセージ

- ・教科書、ノート、辞書を持参すること。
- ・授業には、積極的・意欲的に取り組むこと。
- ・携帯電話、スマートフォンは指示した時以外は使用を禁じます。
- ・授業は予習を前提として行われます。また、授業後は丁寧に復習しておいてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 山本 月曜1限

場所： 授業教室・研究室

備考・注意事項： 質問等は本授業の前後、またはメールでも構いません。件名に学籍番号、氏名を記入してください。
山本 yamamoto_k(アットマーク)osaka-seikei.ac.jp
泉谷・荒木は授業の前後に教室で対応します。

授業計画

回	授業計画	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	オリエンテーション、コミュニケーション活動 <ul style="list-style-type: none"> ・授業の進め方 ・授業の準備物、課題等について説明します この授業を受講する者は必ず当オリエンテーションに出席すること ・コミュニケーション活動 	・コミュニケーション活動の復習・課題に対する学習 2時間
第2回	UNIT10 Is there a bank near here? "Vocabulary & Conversation"	・UNIT10の復習・課題に対する学習 2時間

	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストVocabulary and Conversation: Places around town ・ペアワーク、グループワーク 		
第3回	UNIT10 Is there a bank near here? "Language Practice & Listening" <ul style="list-style-type: none"> ・テキストLanguage and Listening: People asking a hotel receptionist for suggestions ・UNIT10のテーマ、Places around townに関連したパフォーマンス課題の準備 ・Writing 活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・UNIT10の復習・UNIT10のパフォーマンス課題の準備 	2時間
第4回	UNIT10 Is there a bank near here? "Reading & Speaking" <ul style="list-style-type: none"> ・テキストReading and Speaking: An article about areas to visit in Sydney and vancouver ・UNIT10のテーマ、Places around townに関連したパフォーマンス課題の準備 ・Writing 活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・UNIT10の復習・UNIT10のパフォーマンス課題の準備 	2時間
第5回	UNIT10 Is there a bank near here? パフォーマンス課題 <ul style="list-style-type: none"> ・UNIT10のテーマ、Places around townに関連したパフォーマンス活動を行う ・発表後には簡単な質疑応答を行う ・相互評価と振り返り（他者からの評価を参考にし、自己評価を行い、今後の改善点を考える） 	<ul style="list-style-type: none"> ・UNIT10の復習・課題に対する学習 	2時間
第6回	UNIT11 Did you have a good time? "Vocabulary & Conversation" <ul style="list-style-type: none"> ・テキストVocabulary and Conversation: Vacation activities ・ペアワーク、グループワーク 	<ul style="list-style-type: none"> ・UNIT11の復習・課題に対する学習 	2時間
第7回	UNIT11 Did you have a good time? "Language Practice & Listening" <ul style="list-style-type: none"> ・テキストLanguage Practice and Listening: People talking about things that went wrong on vacation ・UNIT11のテーマ、Vacation activitiesに関連したパフォーマンス課題の準備 ・Writing 活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・UNIT11の復習・UNIT11のパフォーマンス課題の準備 	2時間
第8回	UNIT11 Did you have a good time? "Reading & Speaking" <ul style="list-style-type: none"> ・テキストReading and Speaking: An article about an airplane that is now a hotel ・UNIT11のテーマ、Vacation activitiesに関連したパフォーマンス課題の準備 ・Writing 活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・UNIT11復習・UNIT11のパフォーマンス課題の準備 	2時間
第9回	UNIT11 Did you have a good time? パフォーマンス課題 <ul style="list-style-type: none"> ・UNIT11のテーマ、Vacation activitiesに関連したパフォーマンス活動を行う ・発表後には簡単な質疑応答を行う ・相互評価と振り返り（他者からの評価を参考にし、自己評価を行い、今後の改善点を考える） 	<ul style="list-style-type: none"> ・UNIT11の復習・課題に対する学習 	2時間
第10回	UNIT12 I'm going to go by car "Vocabulary & Conversation" <ul style="list-style-type: none"> ・テキストVocabulary and Conversation:Transportation ・ペアワーク、グループワーク 	<ul style="list-style-type: none"> ・UNIT12の復習・課題に対する学習 	2時間
第11回	UNIT12 I'm going to go by car "Language Practice & Listening" <ul style="list-style-type: none"> ・テキストLanguage Practice and Listening: People talking about environmentally friendly ways to get around town ・UNIT12のテーマ、Transportationに関連したパフォーマンス課題の準備 ・Writing 活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・UNIT12の復習・UNIT12のパフォーマンス課題の準備 	2時間
第12回	UNIT12 I'm going to go by car "Reading & Speaking" <ul style="list-style-type: none"> ・テキストReading and Speaking: A blog post about an amazing race ・UNIT12のテーマ、Transportationに関連したパフォーマンス課題の準備 ・Writing 活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・UNIT12の復習・UNIT12のパフォーマンス課題の準備 	2時間
第13回	UNIT12 I'm going to go by car パフォーマンス課題 <ul style="list-style-type: none"> ・UNIT12のテーマ、Transportationに関連したパフォーマンス活動を行う ・発表後には簡単な質疑応答を行う ・相互評価と振り返り（他者からの評価を参考にし、自己評価を行い、今後の改善点を考える） 	<ul style="list-style-type: none"> ・UNIT12の復習・課題に対する学習 	2時間
第14回	UNIT 10-12 Review "Conversation & Reading" <ul style="list-style-type: none"> ・テキストConversation and Reading: A week in the life of...Jim Conway, rock journalist ・ペアワーク、グループディスカッション 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の復習・期末試験に向けての学習 	2時間
第15回	学期の復習と振り返り <ul style="list-style-type: none"> ・テキストReview and Check Units 10-12 ・学期の総復習と問題演習により、学習の到達度を確認 ・定期試験に向けての課題の指示 	<ul style="list-style-type: none"> ・英語演習IV全体の復習・期末試験に向けての学習 	2時間

授業科目名	英語表現 I				
担当教員名	J・ガーヴィー				
学年・コース等	1年	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

The goal of this course is to speak easy English for communication.
 本授業では、英語で学習を進め4技能総合的な英語能力の育成を目的としています。学生が日常生活で出会うであろう場面、話題などを加味したシラバスを提供し、学生同士、学生と教員が英語を使って伝え合う活動を体験します。学生自身が伝え合うために、今まで学習した英語の知識、表現を利用して伝える方略を学び、スムーズに英語で話すトレーニングを行います。

養うべき力と到達目標

確かな専門性 1 . DP1. 幅広い教養やスキル	具体的内容： 英語運用力	目標： 日常的な話題について英語で相手の意図を理解し、自分の考えや気持ちを伝え合うことができる。
汎用的な力 1 . DP8. 意思疎通		ペア・グループ活動を通じて、他者のことばに耳を傾け、意図を理解するとともに、相手の意図に対して適切に対応することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

受講態度・授業への積極的な参加	50%	授業内における発言の質、量 および担当教員との英語のやりとりを評価の対象とする。毎時間の受講態度、授業への積極的な参加の程度を5段階で評価します。
面接テスト・ファイナルレポート	50%	英語による担当教員との面接テストの内容を、英語の質、話す量、正確性、流暢性の4観点から10段階で評価します。レポートはテーマに沿った内容に関して、英語の質、正確性の観点から10段階で評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

Not mentioned
 特に指定しない

履修上の注意・備考・メッセージ

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	授業の前後
場所：	授業教室
備考・注意事項：	Questions can be written down (in English or Japanese) and put into my post box in the office or given to Kyomuka 質問は紙に書いて、非常勤講師控え室のポストまたは教務課に渡してください。

授業計画

回数	授業内容	授業内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	Introduction to this course What to do and how to pass this course Classroom English この授業のオリエンテーション クラスルームで使用する英語について	Review Classroom English	2時間
第2回	Classroom English How to ask the teacher for help , in English 授業における英語について	Review Classroom English	2時間
第3回	Teacher`s English How to understand the teacher` English and what to do in class クラスルームでの言語活動について	Review teacher`s English	2時間
第4回	Self Introductions Students answer questions about themselves 自分について、様々な質問に答える	Review self introductions	2時間
第5回	Interview Students interview their partner to get information 他者の情報を得るためにインタビュー活動を行う	Review expressions of getting information	2時間
第6回	Family	Review what you have learned in the class	2時間

	Students answer questions about their family 家族について		
第7回	Questions about Family members Students ask questions about family members 家族のメンバーそれぞれについての質問	Review what you have learned in the class	2時間
第8回	Review Quiz A review quiz about lessons 1 to 7 レッスンの復習	Review what you have learned from 1 to 7.	2時間
第9回	Profile How to talk about yourself and your family 自分自身と家族についてのプロフィール作成	Writing your profile	2時間
第10回	Numbers How to use numbers in English 英語の数字について学ぶ	Review numbers	2時間
第11回	Comparisons Compare England and Japan 英国と日本の比較	Writing the comparison between England and Japan	2時間
第12回	Money How to talk about world money: Dollars, Pounds and Euros 世界の通貨について学ぶ: ドル、ポンド、ユーロなど	Review currency	2時間
第13回	Food Talking about food, what food do you like 食べ物について学ぶ	Review expressions about food	2時間
第14回	Pre- Test Quiz A short Pre- Test quiz to remember lessons 1 to 13 レッスン1-13についてのテスト	Review what you have learned from 1 to 13. Preparation of your interview	2時間
第15回	Interview Test and Reflection The test will be 30 questions about you and your family . This is not a paper test so you will have to listen and answer the questions. Final Report. 自分自身と家族についての30の質問 (リスニングテスト) ファイナル・レポート	Final Report	2時間

授業科目名	英語表現 I				
担当教員名	竹内ニコール・松山加奈子				
学年・コース等	1年	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

このコースは、学生に英語でのコミュニケーションに対する経験と自信を与えることを目的としています。学生は様々なテーマについて自分の考えや意見を述べることを学びます。スピーキング、リスニング、リーディング、ライティングの練習が割り当てられ、授業内容に関連するプレゼンテーションがコース全体で3回行われます。大学生の興味や生活に関連するテーマについてのプレゼンテーションを計画し、実行することを通して、このクラスは学生の英語への興味を高めることを目的としています。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

英語運用力

目標：

4技能を用いて、英語で情報の発信・受信ができる。

汎用的な力

- 1 . DP8. 意思疎通

英語で他者との意思疎通ができる。ペア・グループワークにおいて他者を尊重しながら自らの役割を遂行することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実習や実技に対して個別にコメントします
- ・ 実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなす。語学の習得には継続した学習が大切です。欠席した場合、各自で授業内容と課題等を教員に確認する責任があります。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

Positive Participation	20%	： 出席、宿題の完了、授業における積極的な発言、グループワーク、ペアワークによる積極的な態度を評価される。
Presentations	45%	： 3つのプレゼンテーション（各プレゼンテーションにつき15%）は、内容、発音、プレゼンテーションの流れ、グループの協力および個々の努力によって評価される。
Writing	10%	： 2つのライティングの課題（各課題の評価は5%ずつ）は、理解度、文法、および努力度で評価する。
Final Exam	25%	： 授業内で学んだ表現について筆記テストを行う。筆記試験の結果で評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
Marc Helgesen, John Wiltshier, Steven Brown	English Firsthand Access Fifth Edition	Pearson Education	2018年

参考文献等

授業で指示します。

履修上の注意・備考・メッセージ

教科書、ノート、文房具と辞書（または電池辞書）を持参すること。授業には積極的な・意欲的に取り組むこと。携帯電話、スマートフォンは指示したとき以外は使用を禁じます。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業の教室

備考・注意事項： 竹内 質問等は本授業の前後、またはメールでも構いません。件名に学籍番号、氏名を記入してください。
nicoletakeuchi31(アットマーク) gmail.com

松山 授業の前後

授業計画

第1回	Class Orientation and Class Overview, Communication Activity	授業の復習(Unit 2)・課題に関する学習	授業外学修課題にかかる目安の時間 2時間
-----	---	-------------------------	-------------------------

授業科目名	英語表現 I				
担当教員名	日笠ロウエナ				
学年・コース等	1年	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

Students need to talk about various topics such as getting acquainted, daily routines, hometowns, and travel using simple English. Students are expected to participate actively in pairs and group work. They will study basic grammar and will listen to CDs. They will also practice presentation skills and lead activities in a group. ペア、グループにおける会話やリスニング、プレゼンテーションを通して英語を使う。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

英語運用力

目標：

簡単な英語や英語会話を理解し、簡単な英語で身の回りのことを表現できるようになる。最終的には英語が好きになり、楽しく英語を話すことができるようになる。

汎用的な力

- 1 . DP8. 意思疎通

ペア・グループにおいて、自分の意見や思いを英語で表現できるようになる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

Class Participation 授業参加	30%	: 積極的に授業に参加しているかを評価します。
Homework & Written Classwork 課題と作文	20%	: 授業で課された課題および作文について、期限内に提出されたものに限り、内容や分量を総合的に評価します。
Speaking test 口頭テスト	20%	: 口頭テストで、英会話力を総合的に評価します。
Short Quiz & Listening Tasks 小テストと聞取の課題	10%	: 小テストとリスニングテストを評価します。
Final Exam 期末試験	20%	: 授業で学んだ内容に関する問題が中心です。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
Jerry Talandis Jr / Bruno Vannieu	Conversations in Class Third Edition	alma Publishing	2015年

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後
 場所： 授業の教室
 備考・注意事項： 質問等があればいつでも来てください。

授業計画

回数	授業内容	Work Assignment	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	Course Introduction コースの説明 Goals, rules, tasks, grading Textbook: Let's Get Started + Golden Rules ゴール、ルール、課題、成績; 教科書: 始めましょう+ゴールデンルール	Work Assignment: Write a self-introduction 課題: 自己紹介を書く	2時間
第2回	Unit 1 Part 1 Exchanging Basic Information 基本情報の交換 Vocabulary, Conversation (Role play) Listening Practice ロールプレイ	Work Assignment: Memorize a scene with a partner 課題: パートナーと一緒にシーンを覚えて発表する	2時間
第3回	Unit 1 Part 2 Majors, school years, and clubs 専攻科目、学年、クラブ Vocabulary/ Speaking: Interview and report インタビュー	Prepare for next lesson	2時間

第4回	Unit 1 Part 3 Part-time jobs パートタイム Vocabulary : Jobs / Listening practice / Speaking 仕事について	Prepare for next lesson	2時間
第5回	Unit 2 Part 1 Daily Routines 日課 Vocabulary:Daily Routines/ Speaking Practice/ Reading 毎日のルーティンについて	Prepare for next lesson	2時間
第6回	Unit 2 Part 2 Hardest/ easiest days of the week一週間の中で最も忙しい/暇な日 Language practice: Adjectives / Vocabulary/ Speaking 形容詞を使った表現	Prepare for next lesson	2時間
第7回	Unit 2 Part 3 Spending Time 時間の過ごし方 Vocabulary: Adverbs of frequency/ Listening Practice/ Conversation: Open and Closed Questions 頻度を表す福祉を使った表現	Prepare for next lesson	2時間
第8回	Review Units 1 & 2レビュウ / 会話テスト Review key vocabulary & information with a partner / Speaking Test 復習と会話テスト	Prepare for next lesson	2時間
第9回	Unit 3 Part 1 Hometown Attractionsホームタウンの観光名所 Vocabulary/ Speaking /Writing about hometowns ホームタウンについての作文	Work Assignment: Prepare a short speech on hometowns故郷についての短いスピーチを準備する	2時間
第10回	Unit 3 Part 2 Hometown likes and dislikes故郷: 好き嫌い Perform and give feedback / Group work グループワーク	Prepare for next lesson	2時間
第11回	Unit 3 Part 3 Where to live in the future将来住む場所 Speaking : Agreeing +adding nuance , stating a different preference / Listening Practice 将来住む場所について話す	Work Assignment: Mind map about a memorable trip 思い出に残る旅行についてのマインドマップ	2時間
第12回	Unit 4 Part 1 Travel Experiences 旅行体験 Writing : Travel Story / Speaking : Interview & Report 旅行体験を作文する	Review and rewrite	2時間
第13回	Unit 4 Part 2 Future travel plans & ideas将来の旅行計画 Writing/Speaking : Pair work :Future travel ideas and/or plans 将来の旅行計画について	Review and prepare for next lesson	2時間
第14回	Review Units 3 & 4レビュウ Review with a partner / Vocabulary & Dialogs 授業の復習 ペアワーク	Review and study	2時間
第15回	Unit 4 Part 3 Travel Vocabulary List and Dialogs 単語リストと会話	Review and study	2時間
第16回	Final Exam Units 1~4 期末試験 Written Test 筆記試験 Vocabulary & Conversation語彙と会話 60% Reading & Listening Part読解とリスニングテスト 40%		4時間

授業科目名	英語表現Ⅱ				
担当教員名	J・ガーヴィー				
学年・コース等	1年	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

The aim of the course is for basic level English students to progress in English. 本授業では、英語で学習を進め4技能総合的な英語能力の育成を目的としています。学生が日常生活で出会うであろう場面、話題などを加味したシラバスを提供し、学生同士、学生と教員が英語を使って伝え合う活動を体験します。学生自身が伝え合うために、今まで学習した英語の知識、表現を利用して伝える方略を学び、スムーズに英語で話すトレーニングを行います。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

英語運用力

目標：

日常的な話題について英語で相手の意図を理解し、自分の考えや気持ちを伝え合うことができる。

汎用的な力

- DP8. 意思疎通

ペア・グループ活動を通じて、他者のことばに耳を傾け、意図を理解するとともに、相手の意図に対して適切に対応することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- 協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- 発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）

課題や取組に対する評価・振り返り

- 実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合

受講態度・授業への積極的な参加

50%

面接テスト・ファイナルレポート

50%

評価の基準

：授業内における発言の質、量 および担当教員との英語のやりとりを評価の対象とする。毎時間の受講態度、授業への積極的な参加の程度を5段階で評価します。

：英語による担当教員との面接テストの内容を、英語の質、話す量、正確性、流暢性の4観点から10段階で評価します。レポートはテーマに沿った内容に関して、英語の質、正確性の観点から10段階で評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

Not mentioned
特に指定しない

履修上の注意・備考・メッセージ

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
As this is a participation class, students should try to speak English at all times

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業教室

授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	Introduction to this course What to do and how to pass this class Classroom English この授業のオリエンテーション 英語学習について	Review classroom English 2時間
第2回	Classroom English How to ask the teacher for help in your English クラスルームで使用する英語について	Review classroom English 2時間
第3回	Teacher`s English How to understand the teacher`s instructions in class 教員の話す英語について 指導時の英語について	Review teacher`s English 2時間
第4回	Self Introductions Answer a survey about themselves 英語での調査について	Review self introductions 2時間
第5回	Interview Interview partner インタビュー活動について（ペアワーク）	Review some expressions of interviewing 2時間

第6回	Family relationships Talk about family relationships 家族についての質問アクティビティ	Review some expressions of family	2時間
第7回	Family Interview Interview partner about their family and relations 家族や親類についてのインタビュー活動 (ペアワーク)	Review some expressions of interviewing families	2時間
第8回	Review Quiz A short quiz to review lessons 1-7 レッスン1-7のレビューとミニテスト	Review what you have learned from 1 to 7.	2時間
第9回	Resume How to make your resume and what to write レジユメの作成について	Writing your resume	2時間
第10回	Resume Interview interview partner to check and complete a resume ペアワークでのインタビュー活動および、レジユメの作成	Review some expressions for getting information	2時間
第11回	Make a profile Talk about friends and make a profile 自己プロフィールの作成について	Writing profiles of your friends	2時間
第12回	Numbers How to use numbers in the class 授業における「数」の使用について	Review some expressions related to numbers	2時間
第13回	Comparison Compare England and Japan 英国と日本の比較	Writing tthe comparison between England and Japan.	2時間
第14回	Pre- Test Quiz and explanation Review all points in the course 授業で学んだ内容の振り返りとプレテスト	Review what you've learned fro 1 to 13.	2時間
第15回	Interview Test and reflection There will be an interview test of 30 questions .This is not a paper test so students will have to listen and give answers Final Report 面接テスト ファイナルレポート	Preparation of the interview test	2時間

授業科目名	英語表現Ⅱ				
担当教員名	竹内ニコール				
学年・コース等	1年	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

このコースは、学生に英語でのコミュニケーションに対する経験と自信を与えることを目的としています。学生は様々なテーマについて自分の考えや意見を述べることを学びます。スピーキング、リスニング、リーディング、ライティングの練習が割り当てられ、授業内容に関連するプレゼンテーションがコース全体で3回行われます。大学生の興味や生活に関連するテーマについてのプレゼンテーションを計画し、実行することを通して、このクラスは学生の英語への興味を高めることを目的としています。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

英語運用力

目標：

4技能を用いて、英語で情報の発信・受信ができる。

汎用的な力

- DP8. 意思疎通

英語で他者との意思疎通ができる。ペア・グループワークにおいて他者を尊重しながら自らの役割を遂行することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実習や実技に対して個別にコメントします
- ・ 実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなす。語学の習得には継続した学習が大切です。欠席した場合、各自で授業内容と課題等を教員に確認する責任があります。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

Positive Participation	20%	： 出席、宿題の完了、授業における積極的な発言、グループワーク、ペアワークによる積極的な態度を評価される。
Presentations	45%	： 3つのプレゼンテーション（各プレゼンテーションにつき15%）は、内容、発音、プレゼンテーションの流れ、グループの協力および個々の努力によって評価される。
Writing	10%	： 2つのライティングの課題（各課題の評価は5%ずつ）は、理解度、文法、および努力度で評価する。
Final Exam	25%	： 授業内で学んだ表現について筆記テストを行う。筆記試験の結果で評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
Marc Helgesen, John Wiltshier, Steven Brown	English Firsthand Access Fifth Edition	Pearson Education	2018年

参考文献等

授業で指示します。

履修上の注意・備考・メッセージ

教科書、ノート、文房具と辞書（または電池辞書）を持参すること。授業には積極的な・意欲的に取り組むこと。携帯電話、スマートフォンは指示したとき以外は使用を禁じます。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	授業の前後
場所：	授業の教室
備考・注意事項：	質問等は本授業の前後、またはメールでも構いません。件名に学籍番号、氏名を記入してください。 nicoletakeuchi31(アットマーク) gmail.com

授業計画

回	授業内容	授業の復習・課題に関する学習	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	Class Orientation and Class Overview, Communication Activity ・ 授業の進め方 ・ 授業の準備もの、課題等について説明します。 ・ 授業で使われる英語表現 ・ コミュニケーション活動 *この授業を受講する者は必ず出席すること	授業の復習・課題に関する学習	2時間
第2回	Unit 6 That's a Great Shirt! "Vocabulary and Listening"	授業の復習(Unit 6)・ 課題に関する学習	2時間

	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト Vocabulary and Listening: Describing Clothing, My Favorites ・ペアワーク、グループワーク 		
第3回	Unit 6 That's a Great Shirt! "Communication Activity" <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト page 55 May I Help You? コミュニケーション活動: グループワーク ・Unit 6 に関連したパフォーマンス課題の準備 	授業の復習(Unit 6)・パフォーマンス課題の準備	2時間
第4回	Unit 6 That's a Great Shirt! "Reading, Writing and Discussion" <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト page 58, 59 Reading and Discussion ・ライティング課題1 ・Unit 6 に関連したパフォーマンス課題の準備 	ライティング課題1完了する・パフォーマンス課題の準備	2時間
第5回	Unit 6 That's a Great Shirt! Performance 1 <ul style="list-style-type: none"> ・Unit 6 に関するパフォーマンスを行う ピア評価とパフォーマンス内容理解質問 	授業の復習(Unit 6)・ピア評価完了する	2時間
第6回	Unit 7 I Love Weekends! "Vocabulary, Listening and Conversation" <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト Vocabulary, Listening and Conversation: Free-Time Activities, How Often? ・ペアワーク、グループワーク 	授業の復習(Unit 7)・課題に関する学習	2時間
第7回	Unit 7 I Love Weekends! "Communication Activity" <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト page 63, 64 I Often Do That コミュニケーション活動 ・Unit 7 に関連したパフォーマンス課題の準備 	授業の復習(Unit 7)・Unit 7 に関連したパフォーマンス課題の準備	2時間
第8回	Unit 7 I Love Weekends! "Reading and Discussion, Writing" <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト page 66, 67 Reading and Discussion ・ライティング課題2 ・Unit 7 に関連したパフォーマンス課題の準備 	ライティング課題2完了する・パフォーマンス課題の準備	2時間
第9回	Unit 7 I Love Weekends! Performance 2 <ul style="list-style-type: none"> ・Unit 7 に関連氏らパフォーマンスを行う ピア評価とパフォーマンス内容理解質問 	授業の復習(Unit 7)・ピア評価完了する	2時間
第10回	Unit 8 Let's Eat! "Vocabulary, Listening and Conversation" <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト Vocabulary, Listening and Conversation: Food, Let's get some... ・ペアワーク、グループワーク <p>***次の授業までに、教科書の109ページのカードを切って用意してください***</p>	授業の復習(Unit 8)・課題に関する学習、教科書の109ページのカードを切って用意する	2時間
第11回	Unit 8 Let's Eat! "Communication Activity" <p>***用意したカードを忘れずに来てください。***</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト page 71, 72 教えられると教えられない名詞についてコミュニケーション活動 ・パフォーマンス3課題の準備 	授業の復習(Unit 8)・パフォーマンス課題の準備	2時間
第12回	Unit 8 Let's Eat! "Classmate Interviews" <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト page 74, 75 Reading - What Do You Eat? 食品の好みについてクラスメートにインタビューする ・パフォーマンス3課題の準備 	授業の復習(Unit 8)・パフォーマンス課題の準備	2時間
第13回	Unit 8 Let's Eat! Performance 3 <ul style="list-style-type: none"> Performance 3を行う ピア評価とパフォーマンス内容理解質問 	授業の復習(Unit 7)・ピア評価完了する	2時間
第14回	Units 6~8 Review <ul style="list-style-type: none"> 学生はグループでUnit 6~8のレビュー活動を作成する 	授業の復習・定期試験に向けての学習	2時間
第15回	English Expressions II Review <ul style="list-style-type: none"> ・定期試験に向けての復習 ・授業の振り返り 	英語表現IIの復習・定期試験に向けての学習	2時間

授業科目名	英語表現Ⅱ				
担当教員名	日笠ロウエナ				
学年・コース等	1年	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

Students will spend much time in class learning vocabulary and speaking with classmates about everyday life topics, such as free time activities, hobbies, likes and dislikes, and eating out. Students are expected to participate actively in pairs and group work, study and review basic grammar and will listen to CDs. They will also practice presentation skills.

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1 . DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

英語運用力

目標：

4技能に自信を持って流暢かつ正確に英語を使うことができるようになる。

汎用的な力

1 . DP8. 意思疎通

ペア・グループにおいて、自分の意見を的確に相手に伝えることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

Class Participation授業参加	30%	: 積極的に授業に参加しているかを評価します。
Homework and Written Classwork 課題と作文	20%	: 授業で課された課題について、期限内に提出されたものに限り、内容と分量を総合的に評価します。
Speaking Test口頭テスト	20%	: 口頭テストで英会話力を評価します。
Short Quiz & Listening Tasks小テストと聞き取り課題	10%	: 小テストと聞き取りテストを評価します。
Final Exam期末試験	20%	: 授業の内容に関して出題します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
Jerry Talandis Jr/ Bruno Vannieu	Conversations in Class Third Edition	alma Publishing	2015年
with Stephen Richmond /Jean-Luc Azra			年

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後
 場所： 授業の教室
 備考・注意事項： 質問があればいつでも来てください。

授業計画

回数	授業内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	Course Introduction コースの説明 Goals, rules, grading Review Units 1-4 目標、ルール、授業評価など 復習	Read the course syllabus 2時間
第2回	Unit 5 Part 1 Talking about breaks 休暇について話す Vocabulary/Speaking: Group work・Writing グループワーク ライティング	Work Assignment: Prepare a short speech on 'My most memorable holiday'. 課題：「私の最も記憶に残る休日」の短いスピーチを準備する。 2時間
第3回	Unit 5 Part 2 Favorite Free time activities お気に入りのフリータイムアクティビティ Reporting/ Feedback / Speaking / Listening Practice フリータイムアクティビティ	Prepare for next lesson 2時間

第4回	Unit 5 Part 3 Current & future hobbies 現在および将来の趣味 Vocabulary:Hobbies/ Reading: Pair work 趣味について	Work Assignment: Write about ' My favorite kind of music'. 課題: 「私の好きな音楽の種類」について書く。	2時間
第5回	Unit 6 Part 1 Music 音楽 Group work discussion, Listening Practice 音楽についてのディスカッション	Prepare for next lesson	2時間
第6回	Unit 6 Part 2 Movies 映画 Vocabulary: Kinds of movies/ Writing 映画についてのライティング	Work Assignment: Prepare a short presentation on a movie scene analysis/ TV or game 課題: 映画シーンの分析/テレビやゲームで短いプレゼンテーションを準備する	2時間
第7回	Unit 6 Part 3 TV, reading and games テレビ、読書、ゲーム Presentation & feedback / Speaking プレゼンテーション	Prepare for next lesson	2時間
第8回	Review Units 5-6 復習 Review Quiz/ Speaking Test 授業の復習とスピーキングテスト	Prepare for next lesson	2時間
第9回	Unit 7 Part 1 Recent meals 最近の食事 Vocabulary: Food / Role Play 食事についてのロールプレイ	Prepare for next lesson	2時間
第10回	Unit 7 Part 2 Likes & dislikes 好き嫌い Vocabulary/ Group work/ Listening Practice 好き嫌いについてのグループ活動	Prepare for next lesson	2時間
第11回	Unit 7 Part 3 Exotic foods & eating outエキゾチックな食べ物と外食 Vocabulary/ Role Play: Perform and give feedback 食べ物についてのロールプレイ	Work Assignment: Work in groups; prepare a short drama (life in five years) グループで短いドラマを準備する (5年後の生活)	2時間
第12回	Unit 8 Part 1 Imagining life in five years5年後で人生を想像する Language Practice / Reading ・Pair work リーディング ペアワーク	Prepare for next lesson +E61	2時間
第13回	Unit 8 Part 3 Dream jobs 夢の仕事 About Dream jobs 夢の仕事についての活動	Short drama presentation (Perform and give feedback) ショートドラマプレゼンテーション (演奏とフィードバック)	2時間
第14回	Review Units 7-8 復習 Review Quiz 復習クイズ	Review what you have learned	2時間
第15回	Review 授業全体の復習 Review what you have learned. Study for the final exam. 授業の復習と期末試験に向けての学習	Study for the final exam.	4時間
第16回	Final Exam Units 5~8期末試験 Written Test 筆記試験 Vocabulary & Conversation 語彙と会話 60% Reading & Listening Part 読解とリスニング 40%		時間

授業科目名	中国語入門 1				
担当教員名	鄭恵芳				
学年・コース等	2～4年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

初心者にとって、中国語の学習は文法を理解した上で、一字一字の発音を正確に練習することによって、中国語の美しい音色を体得し、その上、コミュニケーションの喜びを覚えます。それをするには、学びながら身近にいる中国人留学生に声をかけてみてはどうでしょうか。簡単な会話を通じて、中国語を学ぶ楽しさが増えます。「言葉は文化交流の第一歩」ですから。この授業は、はじめて中国語を学ぶには「分かりやすく覚えやすい」初級レベルの中国語会話が中心の授業です。学習効果を高めるため事前予習が必要です。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1. 幅広い教養やスキル	語学力を高めていくこと	語学力を高めることによりについて、視野を広げることができる
2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	専門的知識を広げるには、様々な側面的知識をもつことが重要です。語学力を高めることで、各国の人々と交流し知識を獲得できるようにする	語学力を高め、かつ各国の人々との交流ができる
汎用的な力		
1．DP6. 行動・実践		積極性および創造力を養う
2．DP8. 意思疎通		よりよい社会性とコミュニケーション力をもつことができる
3．DP7. 完遂		何事も本気かつ誠実に取り組む力を養う

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業参加度	40%	： 授業態度：教師の指示に従い、積極的に活動をする。グループ、ペアで協力しながら活動するなどの項目において、5段階で評価する。
授業内テストおよび課題の提出	30%	： 授業内テスト：毎回授業のあとに行う10問の小テスト。 課題提出：指示された範囲の教科書内のスキットを書き写す。
中間試験（2回）および期末試験	30%	： 中間試験：復習するために筆記試験（100点満点）＋自己紹介の発表 期末試験：所定した範囲の筆記試験（100点満点）＋各課の本文の読み（発音なしで）

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
本間史・孟広学	中国語ポイント55	白水社	2011年

参考文献等

授業中に配る

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学習が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	初回授業で案内します
場所：	初回授業で案内します

授業計画

回	内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	中国語のアプローチ（中国概要） 中国語を学ぶには、まず近代の中国の変化と発展を知る必要があります。さらに、日本の漢字と違ういわゆる「簡体字」は今、中国では一般的に使われていることや同じ漢字でも日本と意味がまったく違うことを勉強します	1時間
第2回	発音篇 I 母音の仕組み&練習	2時間

	<p>1. 日本と違って漢字の一字一字には「抑揚頓挫」(高さ)があります。文章で読むと自然にイントネーションが作られて、まるでメロディーのように美しく感じられます。最初は少し不慣れかもしれませんが、歌の練習のように回を重ねていけば結構楽しいリズムが出てきます。 「何事も最初のひと踏ん張り！」が大事です。</p> <p>2. 授業内テスト</p>		
第3回	<p>発音篇Ⅱ 母音と声調の組み合わせ</p> <p>1. 37の母音を声調の高さをのせて発音練習しながら単独で使える母音の単語も一緒に練習します。そのほか、発音に関するルールを紹介し、そのルールのもとに正しい発音を練習して覚えていきます。</p> <p>2. 授業内テスト</p>	授業した内容を復習と発音ルールを暗記する	3時間
第4回	<p>発音篇Ⅲ 子音の練習と母音との組み合わせ</p> <p>1. 日本語は50の母音しかありませんが一つひとつの母音は単独に言葉で使えます。 中国語の発音の中、37個の母音(単独で使える)と21個の子音が存在しています。 子音は単独には使えませんが、子音は必ず母音と一緒に組み合わせして文字になります。 子音を紹介したあとは繰り返し発音練習をして、さらに普段使っている言葉も練習します。 簡単な家族の呼びかけ(家族表)も一緒に練習します。</p> <p>2. 次回の復習テストのために艾葉、発音ルールと家族表、子音一覧、P.11~P.13を暗記</p> <p>3. 授業内テスト</p>	次回の復習テストのために概要、発音ルールと家族表と子音一覧を暗記	4時間
第5回	<p>復習テスト / 第1課 名詞述語文の解説</p> <p>1. 復習テスト(テスト範囲:概要・発音ルール・家族表・子音一覧・P.11~13)</p> <p>2. 発音ルールが覚えられなければ、正しく美しく中国語を発音できませんので、必ず覚えましょう。 試験後、第1課P.14~15の名詞文の文型を解説しながら発音練習します。</p>	授業した内容を復習してチャレンジ1P.16を書いてみよう	4時間
第6回	<p>第1課スキット「初めまして」</p> <p>1. 名詞文の特徴や使い方を復習しながら、文型を使って置き換え練習していきます。</p> <p>2. 会話文を練習⇒隣同士とロールプレイ練習。</p> <p>3. 授業内テスト</p>	次回課題を提出(第1課P.14~17書き写す)	4時間
第7回	<p>第2課 動詞述語文の解説</p> <p>1. ご飯を食べる、コーヒーを飲む…動詞述語文 2. あれは辞書ではありません…指示代名詞文 3. これは誰の本ですか…疑問詞文 4. これは父のメガネです…所有を表す「的」を解説&練習。 初歩的中国語文法は案外と日本語に似ているが、発音は別だと実感!</p> <p>5. 授業内テスト</p>	授業内容を復習してチャレンジ1(P.20)を書いてみよう。	4時間
第8回	<p>第2課 あなたは何が好きですか</p> <p>1. 動詞文の特徴や使い方を復習しながら、文型を使って置き換え練習していきます。</p> <p>2. 会話文を練習⇒学生二人でロールプレイします。</p> <p>3. 授業内テスト</p>	次回の課題提出(第2課P.18~21を書き写す。)	4時間
第9回	<p>「自己紹介」の練習&第3課 形容詞述語文</p> <p>1. 自己紹介のモデル文章を学び、実際自分の自己紹介を講師と一緒に繰り返し練習します。</p> <p>2. 彼は忙しい、今日はたいへん暑いです..形容詞述語文 3. 彼は時間がない、私はパソコンを持っている..所有の表現を解説&練習</p> <p>4. 授業内テスト *次回は中間試験(1)を行います。(範囲:P.11~P.22+自己紹介の発表)</p>	次回に中間試験(1)のために所定範囲をテスト勉強	4時間
第10回	<p>中間試験(1)&第3課「今日は忙しいですか」</p> <p>1. 中間試験(1)…筆記試験+自己紹介の発表(範囲は第9回授業内容に参照)</p> <p>2. 今まで学んだ中国語の様々な述語文やセンテンス内の構造助詞の仕組みの理解度をチェックしながら第3課の会話を練習⇒学生二人でロールプレイします。</p>	次回の課題提出(第3課P.22~25を書き写す)	4時間
第11回	<p>おさらい&第4課 場所詞・さまざまな疑問詞</p> <p>1. 今まで習ったところを見直しして、積極的にロールプレイをします。</p> <p>2. 第4課の文型を解説&置き換え練習⇒学生参加(文型にそって言葉を置き換えていく)</p> <p>3. 授業内テスト</p>	授業した内容を復習する&P.28チャレンジを書いてみよう	4時間
第12回	<p>第4課「あなたはどこに住んでいる？」</p> <p>1. 第4課スキットの会話を練習⇒学生二人でロールプレイします。</p> <p>2. P.28チャレンジ4を授業内で書いてみよう&語句のリスニング練習</p> <p>3. 授業内テスト</p> <p>4. 次回は中間試験(2)を行います。筆記試験+リスニング</p>	次回の課題提出(第4課P.26~29を書き写す)	4時間
第13回	<p>中間試験(2)&第5課 助動詞と応用</p> <p>1. 中間試験(筆記試験+語句の聞き取り)</p> <p>2. 第5課 数の発音&数える時の言い方、文型の置き換え練習⇒学生参加ロールプレイ</p> <p>3. 数量の疑問詞疑問文を練習</p>	授業内容を復習する&P.32チャレンジを書いてみよう	4時間
第14回	<p>第5課「電子辞書はいくらですか」 / 総復習</p> <p>1. 第5課スキットの会話文を練習&学生二人でロールプレイします。</p> <p>2. 中国語の基本文型(肯定文、否定文、形容詞、さまざまな疑問文など)を復習しながら置き換えの練習をします。</p> <p>3. リスニング練習</p>	総復習	4時間
第15回	<p>期末総まとめ&発表(各種スキットの会話文を読むおよび学習成果と課題の提出)</p> <p>各種スキットの会話文を発音なしで読ませ、学習の成果と課題をフィードバックすることにより、学生に今後の学習計画を考える機会を与える。</p>	常に復習しておくこと	4時間

授業科目名	中国語入門 1				
担当教員名	劉燕子				
学年・コース等	2～4年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

この授業で勉強する中国語は北京語を基礎とした普通語と呼ばれる共通語です。国際化とともに中国の歴史、文化、観光に触れる機会も多くなります。中国語は漢字を使うことで日本語と共通し、他の外国語より親しみやすいです。中高校で学んだ漢詩などと「比較対照」しながら、これまでの知識を有効に活用します。発音が違うので「ピンイン」というローマ字表記を用います。「声調」という音の高低によって意味を区別します。文字を見、音を聞き複数のルートでよりよく記憶に残らせる視覚と聴覚を組み合わせた相乗効果で学習を進めます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	中国語の初級レベルの語学力	中国語で挨拶、名前や道を尋ねる、買い物をするなどに必要な基礎的な会話と読み書き計算の実践力を養う
汎用的な力		教養としての異文化理解、異文化コミュニケーション
1．DP8. 意思疎通		異文化を通して自国と自分自身を振り返り、理解を深める自己形成
2．DP6. 行動・実践		

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・ 発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ その他(以下に概要を記述)
授業中の質問、教科書の練習、トレーニングの回答に即してコメントします。

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

成績評価の方法・評価の割合

成績評価の方法	評価の基準
授業でのワーク	： 音読、書写、練習やトレーニングに積極的に取り組んでいるか、指導を的確に理解しているかを評価します。
中間の小テスト	30%
期末の小テスト	40%

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
佐藤晴彦監修、徐送迎著	・ たのしくできる We Can! 中国語 初級 改訂版	・ 朝日出版社	・ 2016年

参考文献等

相原茂、石田知子、戸沼市子 共著 『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書』新訂版、同学社、2016年

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回2時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業終了後やメールで質問を受け付けます。
場所： 教室、及びYanzi@mta.biglobe.ne.jp

授業計画

回数	中国語の発音（1）	中国語の発音（2）	中国語の発音（3）	中国語の発音（4）	中国語の語彙と文法（1）	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	中国語の発音（1） 日本の漢字と中国語の簡体字の比較、ピンイン、声調（四声）の初歩的理解	中国語の発音（2） 軽声、短母音、子音の基礎的理解と活用	中国語の発音（3） 複母音、鼻母音の基礎的理解と活用	中国語の発音（4） 声調の変化などの基礎的理解と活用	中国語の語彙と文法（1） 挨拶、人称代名詞、疑問文など	4時間
第2回						4時間
第3回						4時間
第4回						4時間
第5回						4時間

第6回	語彙と文法（2） 中国語の基本的な語順、省略疑問文など	教科書の第二課を復習する	4時間
第7回	語彙と文法（3） 疑問詞疑問文、動詞「在」など	教科書の第三課を復習する	4時間
第8回	語彙と文法（4）中間の総復習、到達度の評価 所有を表す「有」、連動文など、これまでの総復習と中間の小テストおよび解説	教科書の第四課までを復習する	4時間
第9回	語彙と文法（5） 形容詞述語文など	教科書の第五課を復習する	4時間
第10回	語彙と文法（6） 存在を表す「有」、数量詞など	教科書の第六課を復習する	4時間
第11回	語彙と文法（7） 指示代名詞、名詞述語文など	教科書の第七課を復習する	4時間
第12回	語彙と文法（8） 語気助詞、比較文など	教科書の第八課を復習する	4時間
第13回	語彙と文法（9） 介詞、反復疑問文など	教科書の第九、十課を復習する	4時間
第14回	語彙と文法（10） 動態助詞、否定を表す副詞、助動詞、動詞の重ね型など	教科書の第十、十一課を復習する	4時間
第15回	授業の総復習 授業の総復習と到達度の最終的なチェック	教科書の発音編と本文編の第十一課までの総復習と再確認	4時間

授業科目名	中国語入門2				
担当教員名	鄭恵芳				
学年・コース等	2～4年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

前期までに中国語（1）を習得済みであること。
「相手を知ることこそが共存共栄の第一歩」。
13億の人口をもつ中国と中国以外の中国語圏の人々とのコミュニケーションを通じて、互いに手を取り共存共栄が実現できます。
この授業の最初の4回は、以前習った中国語の発音や発音に関する様々なルールを確認しながら練習し、第1課から第4課は復習の範囲とし、第5課はより進み、日常会話のレベルアップを目指します。
また、実践できるために、授業内で発表する機会を増やしていきます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- DP1. 幅広い教養やスキル
- DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的内容：

語学力を高めていくこと
専門的知識に関する学術的知識を広げるには、様々な側面的知識をもつことが重要です。語学力を高めることで、各国の人々と交流し知識を獲得できるようにする

目標：

語学力を高める、専門的知識を習得することによりさらに視野を広げることができる
語学力を高め、かつ各国の人々との交流できる

汎用的な力

- DP6. 行動・実践
- DP8. 意思疎通
- DP7. 完遂

積極性および創造力を養う
よりよい社会性とコミュニケーション力をもつことができる
何事も本気かつ誠実に取り組む力を養う

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- 課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- 問答法・コメントを求める
- 協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- 発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）
- シミュレーション型学習（ロールプレイ、ゲーム型学習など）

課題や取組に対する評価・振り返り

- 実習や実技に対して個別にコメントします
- 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業参加度	40%	： 授業態度：教師の指示に従い、積極的に活動をする。グループ、ペアで協力しながら活動するなどの項目において、5段階で評価する
授業内テストおよび課題の提出	30%	： 授業内テスト：毎回授業のあとに行う10問の小テスト 課題提出：指示された範囲のテキストを書き写す。
中間試験（2回）および期末試験	30%	： 中間試験：復習するための筆記試験（100点満点）＋自己紹介の発表 期末試験：指定した範囲の筆記試験（100点満点）＋各課本文の読み（発音なし）

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
本間史・孟広学	中国語ポイント55	白水社	2011年

参考文献等

授業内で配布

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 初回授業で案内します
場所： 初回授業で案内します

授業計画

第1回 発音の復習&練習

学習した内容を復習し、単語部
分（P. 11&P. 13）を次回に発表するの
に暗記。

授業外学修課題に
かかる目安の時間

4時間

	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業前に授業範囲を必ず予習してきてください。 2. 発音ルールを確認しながら声調と組み合わせで積極的に声を出して練習します。 授業範囲：P.8～P.13 3. 授業内テストを行います。 		
第2回	第1課～第2課の復習 <ol style="list-style-type: none"> 1. 全員P.11とP.13を発表します 2. 第1課～第2課の文法、単語、スキットを読み、スキットの内容を自分と入れ替えてペアを組んで発表します。 3. 授業内テストを行います。(出てきた単語の漢字、発音記号と意味を書く) 	次回の課題提出 (P.17とP.21、日本語訳入れ) と第1～第2課のスキットを暗記。	4時間
第3回	第3課の復習 <ol style="list-style-type: none"> 1. 第1課と第2課のスキットを全員暗唱発表 2. 第3課の文法、単語、スキットを読み、スキットの内容を自分と入れ替えてペアを組んで発表します。 3. 授業内テストを行います。(第2回授業と同じ方式です) 	次回の課題提出 (P.24～P.25、スキットは日本語訳入れ) と第3課スキットを暗記。	4時間
第4回	第4課の復習 <ol style="list-style-type: none"> 1. 第3課のスキットを全員暗唱発表 2. 第4課の文法、単語、スキットを読み、スキットの内容を自分と入れ替えてペアを組んで発表します。 3. プリントを配り、「自己紹介」を練習し暗記します。 	次回の復習テストを行います(範囲：第1課～第4課) & 自己紹介を暗記。	4時間
第5回	自己紹介の発表&おさらい <ol style="list-style-type: none"> 1. 「自己紹介」の発表 2. 復習テスト(筆記) 3. これまでの学習内容をおさらいします。 	次回の課題提出 (P.26～P.29、スキットに日本語訳入れ) と第4課スキットを暗記。	4時間
第6回	第5課 「本屋さんで電子辞書を買う」 <ol style="list-style-type: none"> 1. 第4課のスキットを全員暗唱発表 2. 第5課の文法、単語、スキットを解説し、ペアを組んで練習します。 3. 授業内テストを行います。(今回の授業内容を範囲とします) 	次回の課題提出 (P.30～P.34、スキットに日本語訳入れ) と第5課スキットを暗記。	4時間
第7回	第6課 「いつ北京ダックを食べに行きますか？」 <ol style="list-style-type: none"> 1. 第5課のスキットを全員暗唱発表。 2. ポイント21～24を解説してから各例文を置き換え練習します。 3. 授業内テストを行います。 	学習した内容を復習とともに第6課のスキットを予習する。	4時間
第8回	第6課 「いつ北京ダックを食べに行きますか？」 <ol style="list-style-type: none"> 1. 第6課のスキットを全員に音読発表。 2. ペアを組んで練習します。(月日・曜日・時刻) 3. 授業内テストを行います。 	学習した内容を復習とともに第6課のスキットを暗記。	4時間
第9回	自由発表 <ol style="list-style-type: none"> 1. 第6課のスキットを全員暗唱発表。 2. プリント配布(自由発表) 	次回の中間試験のために所定範囲をテスト勉強する	4時間
第10回	中間試験 & 第7課に進む <ol style="list-style-type: none"> 1. 中間試験の結果発表&コメント 2. ポイント25～27を解説してから各例文を置き換え練習します。 	学習した内容を復習とともに第7課のスキットを予習する。	4時間
第11回	第7課 「道をたずねる」 <ol style="list-style-type: none"> 1. 第7課のスキットを全員音読発表します。 2. リスニングの練習(1)最初は単語から。 3. 授業内テストを行います(単語のリスニング) 	P.11、P.13、L.1～L.4のスキットをCDで練習する。	4時間
第12回	リスニングの練習(2) & 対話練習 <ol style="list-style-type: none"> 1. P.11～第4課まで習った単語、ひと言、文章を使ってリスニングの練習をします。 2. 上記の範囲に、新たな会話を想定して互いに対話をします。(習った言葉をしっかり覚えること) 3. 授業内テストを行います(短文のリスニング)。 	L.5～L.7のスキットをCDで練習する	4時間
第13回	リスニングの練習(3) & 対話練習 <ol style="list-style-type: none"> 1. L.5～L.7までに習った単語、ひと言、文章を使ってリスニングの練習をします。 2. 上記の範囲に、新たな会話を想定して互いに対話をします。(習った言葉をしっかり覚えること) 3. 授業内テストを行います(模擬検定試験のリスニング) 	L.8ポイント28～30を予習する。	4時間
第14回	第8課 「レストランにて料理を注文する」 <ol style="list-style-type: none"> 1. ポイント28～30を解説してから各例文を置き換え練習します。 2. スキットを練習します。 3. 期末発表(筆記+L.5～L.8各課スキットの音読)を準備 	次回の期末発表のための総復習をする。	4時間
第15回	期末総まとめ&発表(各種スキットの会話文を読むおよび学習成果と課題の提出) 各種スキットの会話文を発音なしで読ませ、学習の成果と課題をフィードバックとして与え、学生が今後の学習計画を考える機会を与える。	常に復習すること	4時間

授業科目名	フランス語入門 1				
担当教員名	東出加奈子・黒田恵梨子・渋谷直樹				
学年・コース等	3～4年	開講時期	前期/後期	単位数	2
授業形態	演習形式。講義形式での文法事項の説明等もありますが、問題演習や口頭練習が中心になる授業です。				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

はじめてのフランス語をはじめフランス語を学ぶ人を対象とした授業。「クールジャパン」をテーマにした教科書を用い、ビデオを見ながら生きたフランス語を学習します。授業ではフランス語の発音、挨拶の仕方、初歩的な語彙や文法を学習するとともに、簡単な聞き取りや口頭練習なども行います。また随時、プリントやCD、DVDなどを用いて、フランスの文化や歴史、芸術、さらにフランス人の生活についての紹介も行ない、フランス文化についての理解も深めていきます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	語学力：フランス語に関する初歩的な知識を身につける	初歩的な発音、語彙、文法（仏検5級のテストで50点程度）
2．DP1. 幅広い教養やスキル	フランスの社会と文化についての初歩的な知識を身につける	フランスの歴史・地理、日常生活習慣や文化に触れ、国際的な感覚を養う
汎用的な力		
1．DP6. 行動・実践		新たな言語の修得を通じて新しい学びに挑戦する積極的な態度や粘り強い学習習慣を身につける
2．DP8. 意思疎通		外国語修得において言語コミュニケーションスキルを身につけることができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

到達確認前半テスト	30%	： 綴りと発音との関係、基本的な挨拶、基礎的な語彙や文法などを正確に理解し、また表現できるかどうか
到達確認後半テスト	30%	： 綴りと発音との関係、基礎的な語彙や文法などを文字で、また音声で正確に理解し、また表現できるかどうか
授業内的小テストや口頭での演習	20%	： 継続的に予習、復習を重ねて、各回の授業内を着実に身につけているかどうかを筆記および口頭で確認する
期末レポート	20%	： 15回の授業終了後、授業を振り返り、基礎的な文法を理解しているかどうか、レポートにまとめることにより、到達度を確認する

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
藤田裕二	『パリのクール・ジャパン』	朝日出版社	2011年

参考文献等

授業内で必要に応じて適宜指示します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

フランス語は初習の外国語なので、授業に規則的に出席し、また授業外の時間にしっかり復習を行うことが絶対条件となります。フランス語の音に慣れ親しむために、日頃から教科書付属のCDを活用しましょう。また、フランス語の映画や音楽を積極的に見聞きしましょう。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項： 東出担当クラス：水曜4限 研究室（西館2階）
黒田担当クラス：質問等は、授業後に受け付ける。
渋谷担当クラス：質問等は、授業後に受け付ける。

授業計画

第1回	第0課 フランス語の音と文字	教科書pp. 2～5 アルファベットと綴りを覚えてください	授業外学修課題にかかる目安の時間
	授業の説明 フランス語のアルファベットと発音の基本、初歩的なあいさつなどについて学びます。		4時間

第2回	第1課 二人の出会い（第1課・前半） 主語人称代名詞、動詞 être（～です）の活用について学びます。	教科書pp. 6～7の練習問題をしてください	4時間
第3回	第1課 二人の出会い（第1課・後半） 国籍の言い方について学びます。 第1課の練習問題に取り組みます。	第1課 復習用配布プリントで理解を深めてください	4時間
第4回	第2課 自己紹介をする（第2課・前半） 規則動詞の活用、形容詞について学びます。	教科書pp. 10～11の練習問題をしてください	4時間
第5回	第2課 自己紹介をする（第2課・後半） 名前の言い方について学びます。 第2課の練習問題に取り組みます。	第2課 復習用配布プリントで理解を深めてください	4時間
第6回	第3課 好きなものを言う（第3課・前半） 名詞の性・数と定冠詞、疑問文の作り方について学びます。	教科書pp. 14～17の練習問題をしてください	4時間
第7回	第3課 好きなものを言う（第3課・後半） 自分の好みの言い方、聞き方について学びます。 第3課の練習問題に取り組みます。	第3課 復習用配布プリントで理解を深めてください	4時間
第8回	フランス語の性・数について 前半の到達度確認テストと解説 男性名詞・女性名詞による動詞の活用と形容詞の特徴を理解します。学期前半の学習の到達度をワークシート演習により確認します。その解説を聞き、授業全体を振り返ることで、学習内容を確実に身につけます。	前半の復習（教科書P17まで）で理解度を確認してください	4時間
第9回	第4課 これは何ですか？（第4課・前半） 疑問代名詞、不定冠詞と指示代名詞について学びます。	教科書pp. 18～21の練習問題をしてください	4時間
第10回	第4課 これは何ですか？（第4課・後半） 目の前にあるものについて尋ねたり、答えたりする方法について学びます。 第4課の練習問題に取り組みます。	第4課 復習用配布プリントで理解を深めてください	4時間
第11回	第5課 ここはどこ？（第5課・前半） 否定文、疑問副詞について学びます。	教科書pp. 22～25の練習問題をしてください	4時間
第12回	第5課 ここはどこ？（第5課・後半） 場所の尋ね方、位置表現について学びます。 第5課の練習問題に取り組みます。	第5課 復習用配布プリントで理解を深めてください	4時間
第13回	第6課 年齢の話（第6課・前半） 動詞 avoir（持っている）の活用、職業を表す名詞について学びます。	教科書pp. 26～29の練習問題をしてください	4時間
第14回	第6課 年齢の話（第6課・後半） 年齢、職業の言い方について学びます。 フランス語の数字を理解します。	第6課 復習用配布プリントで理解を深めてください	4時間
第15回	後半の到達度確認テストと解説 DVDによる聞き取り演習 学習の到達度を確認します。解説を聞き、授業全体を振り返ることで、学習内容を確実に身につけます。DVDを通して発音と聞き取りの理解度を確認し、リスニング力を高めます。	学期の総復習を行いレポートを作成してください	4時間

授業科目名	フランス語入門2				
担当教員名	東出加奈子				
学年・コース等	3～4年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

初級のフランス語「フランス語入門1」の単位修得者を対象としたクラスです。ビデオ教材も活用しつつフランス語による生きたコミュニケーションのための基礎を固めていきます。授業では、聞き取りや口頭練習なども取り入れ、一歩進んだ語彙、文法などを確実に身につけていきます。実用フランス語技能検定(5級)に合格するレベルを目指します。また随時、プリントやCD、DVDなどを用いて、フランスの文化や歴史、芸術、さらにフランス人の生活についての紹介も行ない、フランス文化についての理解も深めていきます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	語学力：フランス語に関する初歩的な知識を身につける	初歩的な発音、語彙、文法（仏検5級合格程度）
2．DP1. 幅広い教養やスキル	フランスの社会と文化についての初歩的な知識を身につける	フランスの歴史・地理、日常生活習慣や文化に触れ、国際的な感覚を養う
汎用的な力		
1．DP6. 行動・実践		新たな言語の習得を通じて新しい学びに挑戦する積極的な態度や粘り強い学習習慣を身につける
2．DP8. 意思疎通		外国語修得において言語コミュニケーションスキルを身につけることができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
到達度確認前半テスト	： 綴りと発音との関係、基本的な挨拶、基礎的な語彙や文法などを正確に理解し、また表現できるかどうか
30%	
到達度確認後半テスト	： 綴りと発音との関係、基本的な挨拶、基礎的な語彙や文法などを文字で、また音声で正確に理解し、また表現できるかどうか
30%	
授業内の小テストや口頭での演習	： 継続的に予習、復習を重ねて、各回の授業内を着実に身につけているかどうかを筆記および口頭で確認する
20%	
期末レポート	： 15回の授業終了後に授業を振り返り、基礎的な文法を理解しているかどうか、レポートにまとめることにより、到達度を確認する
20%	

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
藤田裕二	『パリのクールジャパン』	朝日出版社	2011年

参考文献等

授業内で必要に応じて適宜指示します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

「フランス語入門1」単位修得者を対象としたクラスです。フランス語の音に慣れ親しむために、日頃から教科書付属のCDを活用しましょう。また、フランス語の映画や音楽を積極的に見聞きしましょう。授業では、最小限必要な文法事項の解説やテキストの訳読も行いますが、可能な限り、発音練習、音声の聞き取り、音読など、口頭での身体的なトレーニングに十分時間を割きたいと思います。継続的な学習によってのみ語学力はアップします。受講者には日常的なフランス語学習を義務づけます。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	水曜4限
場所：	研究室（西館2階）

授業計画

回数	授業内容	教科書pp.	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	Introduction フランス語能力の現状を確認 授業の説明、フランス語能力の現状を確認するフランスの地理、日本語の中のフランス語、発音を確認します。	教科書pp. 3～4の発音練習をしてください	4時間
第2回	第1課 フランス語初歩のおさらい(1) Leçon 1	教科書pp. 7～8の発音練習をしてください	4時間

	Lecon 1 - Je m'appelle Denis 国籍を言う、元気かどうかを聞く、アルファベット、数字 (1~10)を確認します。 自己紹介します。		
第3回	第2課 第6課 フランス語初歩のおさらい (2) Lecon 2・6 Lecon 2 - Tu habites ou 職業、住んでいるところについて言う、数字 (11~20)を確認します。 聞き取りで語彙を学びます。	教科書pp. 11~12の発音練習をしてください	4時間
第4回	第3課 第6課 フランス語初歩のおさらい (3) Lecon 3・6 Lecon 3 - Un panache, s'il vous plait 国籍と否定形、喫茶店の飲み物と食べ物、注文の仕方、数字 (21~30)を確認します。 聞き取りで語彙を学びます。	教科書pp. 15~16、pp. 27~28の発音練習をしてください	4時間
第5回	第4課 第6課 フランス語初歩のおさらい (4) Lecon 4・6 Lecon 4 - Tu as une adresse e-mail ? 身の回りのもの、否定、兄弟、年齢を聞く、数字 (31以上)を確認します。 聞き取りで語彙を学びます。	pp. 27~28の発音練習をしてください	4時間
第6回	第7課 日本料理店に行く (第7課・前半) Lecon 7 - Tu n'as pas faim? 冠詞の種類を理解し、部分冠詞と定冠詞を学びます。	教科書pp. 30~31の練習問題をしてください	4時間
第7回	第7課 日本料理店に行く (第7課・後半) 食べ物と飲み物の語彙を学びます。日本料理店、フランス料理店での会話を練習します。 第7課の練習問題に取り組みます。	第7課 復習用配布プリントで練習問題をしてください	4時間
第8回	フランス旅行を想定した会話 到達度確認前半テスト 口頭表現による会話の達成度を確認します。学期前半の学習の到達度を確認します。その解説を聞き、前半授業を振り返ることで、学習内容を確実に身につけます。	教科書p. 33までの理解度を確認してください	4時間
第9回	第8課 布団が好き Lecon 8 - Ma soeur dort dans un futon. 所有形容詞を学びます。 第8課の練習問題に取り組みます。	教科書pp. 34~36の練習問題をしてください	4時間
第10回	第9課 店で買い物をする (第9課・前半) Lecon 9 - Je voudrais acheter ~. 指示形容詞、名詞の性・数による変化を学びます。	教科書pp. 38~39の練習問題をしてください	4時間
第11回	第9課 店で買い物をする (第9課・後半) 疑問副詞 combien を学びます。 日用品の語彙を学び、買い物の会話を学びます。	第9課 復習用配布プリントで練習問題をしてください	4時間
第12回	第10課 私は行きたい Lecon 10 - Tu ne veux pas y aller? 中世代名詞 y を学びます。月、曜日を学びます。 第10課の練習問題に取り組みます。	教科書pp. 42~44の練習問題をしてください	4時間
第13回	第11課 天候の話 Lecon 11 - Il fait chaud! 非人称構文を学びます。天候、時刻の表現を学びます。 第11課の練習問題に取り組みます。	教科書pp. 46~48の練習問題をしてください	4時間
第14回	第12課 美術館に行く Lecon 12 - C'est magnifique, cet ukiyo-e! 美術館での会話を学びます。色の形容詞を学びます。 第12課の練習問題に取り組みます。	教科書pp. 30~56の発音を練習してください	4時間
第15回	後半の到達度確認テストと解説 フランス語でプレゼンテーション フランス語でプレゼンテーションを行うことにより達成度を確認します。学習の達成度を確認テストにより確認します。解説を聞き、授業全体を振り返ることで、学習内容を確実に身につけます。	学期の総復習を行いレポート作成してください	4時間

授業科目名	韓国語入門 1				
担当教員名	李炫淨				
学年・コース等	2～4年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

本科目では、韓国語を初めて学ぶ学生を対象に、韓国語を読み、書き、聞き、話すための基礎的な運用能力を身につけることを目標とします。まず、文字と発音の学習から始まり、基礎的な語彙と文法の学習へと進みます。口頭での反復練習を中心に、基礎的な会話を学んでいきます。最終的には韓国語であいさつや簡単な自己紹介、旅行などで韓国に行ったとき簡単な会話ができるようになることを目指します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- DP1. 幅広い教養やスキル

汎用的な力

- DP8. 意思疎通

具体的内容：

韓国語の文字であるハングルの読み、書きに関する勉強。

目標：

韓国語の文字であるハングルの読み、書きができるようになる。

韓国語であいさつや簡単な自己紹介ができるようになる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・シミュレーション型学習（ロールプレイ、ゲーム型学習など）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

期末テスト	50%	: 15回行った授業の内容を基にテストを行う。その結果で評価する。
中間テスト	30%	: 教科書の内容を基にテストを行う。その結果で評価する。
課題及び授業態度	20%	: 課題の完成度と授業態度をもって評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
木内明	・ 基礎から学ぶ韓国語講座 初級 改定版	・ 国書刊行会	・ 2013年

参考文献等

特に無し。
韓日・日韓辞書があれば準備すること。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 一回目の授業の時説明します。

場所： 一回目の授業の時説明します。

授業計画

回数	内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	イントロダクション：「韓国語」とは 授業の流れとこれから学ぼうとする言語について説明する。	これから学ぼうとする言語について自分なりに調べて、イメージを持っておく。 2時間
第2回	ハングル文字の仕組み(1) 基本母音と子音勉強する。	授業内容を復習しておく。 2時間
第3回	韓国語の仕組み(2) 複合母音とパッチムについて勉強する。	授業内容を復習しておく。 2時間
第4回	あいさつ表現及び発音の変化 簡単なあいさつ表現及び発音の変化について勉強する。	授業内容を復習しておく。 2時間
第5回	第1課：私は浅井ゆかりです。 日本語「名詞+です」に相当する韓国語表現について勉強する。	授業内容を復習しておく。 2時間
第6回	第2課：出身はソウルですか。 日本語「名詞+ですか」に相当する韓国語「ハムニダ体」表現について勉強する。	授業内容を復習しておく。 2時間
第7回	第3課：図書館ではありません。 日本語「名詞+ではありません」、「名詞+ではありませんか」に相当する韓国語「ハムニダ体」表現について勉強する。	授業内容を復習しておく。 2時間
第8回	第4課：時間がありますか。	授業内容を復習しておく。 2時間

	日本語「あります／ありません」に相当する韓国語「hamnida体」表現について勉強する。		
第9回	第1課～第4課までの復習 第1課～第4課までの総復習をする。	授業内容を復習しておく。	2時間
第10回	第5課：インターネットをしますか。 日本語「～します／しますか」に相当する韓国語「hamnida体」表現について勉強する。	授業内容を復習しておく。	2時間
第11回	第6課：貿易会社で働いています。 日本語「～します／しますか」に相当する韓国語「heyo体」表現について勉強する。	授業内容を復習しておく。	2時間
第12回	第7課：東大門市場に行きます。 「～する」以外の動詞について勉強する。	授業内容を復習しておく。	2時間
第13回	第8課：しょっちゅうスーパーで買います。 用言の「heyo体」について勉強する。	授業内容を復習しておく。	2時間
第14回	第5課～第8課までの復習 第5課～第8課までの総復習をする。	授業内容を復習しておく。	2時間
第15回	前期のまとめ 前期に勉強した内容の復習をする。	期末テストに備えて勉強すること。	2時間

授業科目名	韓国語入門2				
担当教員名	李炫淨				
学年・コース等	2～4年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

この科目は、主に韓国語入門1を履修した学生を対象に、韓国語を読み、書き、聞き、話すための基礎的な運用能力を身につけることを目標とします。まずは文字と発音の学習から始まり、基礎的な語彙と文法の学習へと進みます。口頭での反復練習を中心に、基礎的な会話を学んでいきます。最終的には韓国語であいさつや簡単な自己紹介、旅行などで韓国に行ったとき簡単な会話ができるようになることを目指す。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

韓国語の文字であるハングルの読み、書きに関する勉強。

目標：

韓国語の文字であるハングルの読み、書きができるようになる。

汎用的な力

- DP8. 意思疎通

韓国語であいさつや簡単な自己紹介ができるようになる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- 課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）

課題や取組に対する評価・振り返り

- 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

期末テスト	50%	: 15回行った授業の内容を基にテストを行う。その結果で評価する。
中間テスト	30%	: 教科書の内容を基にテストを行う。その結果で評価する。
課題及び授業態度	20%	: 課題の完成度と授業態度をもって評価する。

使用教科書

指定する

著者

木内明

タイトル

・ 基礎から学ぶ韓国語講座 初級 改定版

出版社

・ 国書刊行会

出版年

・ 2013年

参考文献等

特に無し。
韓日・日韓辞書があれば準備すること。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 一回目の授業の時説明します。

場所： 一回目の授業の時説明します。

授業計画

回	内容	授業内容を復習しておく。	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	前期の復習 前期の「基礎から学ぶ韓国語の講座」の第1課から第8課まで学んだ内容を中心に復習する。	授業内容を復習しておく。	2時間
第2回	第9課：それは1万ウォンです。 漢数字について勉強する。	授業内容を復習しておく。	2時間
第3回	第10課：今何時ですか。 固有数字と時計の読み方について勉強する。	授業内容を復習しておく。	2時間
第4回	第11課：日本語を話されますか。 敬語（尊敬形）について勉強する。	授業内容を復習しておく。	2時間
第5回	第12課：そんなに遠くありません。 用言の否定形について勉強する。	授業内容を復習しておく。	2時間
第6回	第9課～第12課までの復習。 第9課から第12課までの復習をする。	授業内容を復習しておく。	2時間
第7回	第13課：いつ韓国に来ましたか。 用言の過去形について勉強する。	授業内容を復習しておく。	2時間
第8回	第14課：民俗村に一緒に行きましょう。 勧誘表現について勉強する。	授業内容を復習しておく。	2時間
第9回	第15課：パーティーの準備をしています。 用言の現在進行形表現について勉強する。	授業内容を復習しておく。	2時間

第10回	第16課：何も食べませんでした。 可能／不可能表現について勉強する。	授業内容を復習しておく。	2時間
第11回	第13課～第16課までの復習。 第13課から第16課まで復習する。	授業内容を復習しておく。	2時間
第12回	第17課：陶磁器が見たいです。 日本語「～したい」に相当する韓国語表現について勉強する。	授業内容を復習しておく。	2時間
第13回	第18課：写真撮ってもいいですか。 禁止表現について勉強する。	授業内容を復習しておく。	2時間
第14回	第19課：もう行かなければなりませんか。 義務表現について勉強する。	授業内容を復習しておく。	2時間
第15回	第20課：手紙を書きます。 「意志・推量」を表す韓国語表現について勉強した後、前期のまとめをする。	期末テストに備えて勉強すること。	2時間

授業科目名	海外短期語学研修/海外英語研修				
担当教員名	伊藤由紀子				
学年・コース等	1～4年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	公立中学校英語教諭として、その後教育センター研究員として勤務 英語教育、国際理解教育、異文化コミュニケーションの授業提案等に関わる（第1～5、15回）				

授業概要

本授業では、国際体験の中で英語を学びます。多文化国家オーストラリアの語学学校にて短期英語集中コースで、他国からの学生と一緒に学びます。これまでに学校等で学習した英語を、色々な生活場面で活用する体験と異文化間コミュニケーション体験を通して、グローバル社会で必要な互いに理解し、伝え合う態度の育成と、主体的に行動する必要性と自分の行動に責任を持つ意識を高め、自文化、異文化に対する関心を高める機会を提供します。また、他国の文化、生活と比較して、日本文化、生活を対比できる貴重な機会になります。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1. 幅広い教養やスキル	実際のコミュニケーションに関わる英語運用能力	4週間の滞在を通して、英語だけで生活し、相手の話の内容を理解し、適切な対応ができる。また、自分の意思を相手に伝えることができる。
汎用的な力		
1．DP10. 忠恕の心		信頼関係を築くために、人に立場に立って考え、行動することの重要性に気づくことができる。
2．DP6. 行動・実践		主体的に行動し、自分の行動に責任を持つことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）
- ・その他（以下に概要を記述）

オーストラリアの語学学校に4週間通学し、主体的に学び、行動に責任を持つ体験をします。それに向けての事前指導と事後の報告レポート提出、および報告会に必ず参加すること。

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

現地校での成績報告	50%	： 現地校での授業に対して、主体的に責任ある行動で学んだかという観点と、4週間での変化について、10段階で総合的に評価する。
事前指導の提出課題	15%	： 自己紹介文、ホームステイ申込書、研修日誌の目標設定などの内容を質、量で、5段階で評価する。
事後報告レポート・プレゼンテーション	35%	： 事後報告レポートの内容について、質、量について、設定したルーブリックに基づいて、10段階で評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特に指定しない

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、授業内外合わせて90時間の学修が求められる。なお、海外研修中には1日5時間の授業に加えて、平均すると1日あたり4時間の授業外学修を行うこと。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	木曜4限
場所：	伊藤研究室（西館3階）
備考・注意事項：	連絡をとりたい場合はメール（itoh-yu（アットマーク）osaka-seikei.ac.jp）に送付。件名に学籍番号、氏名を記載してください。

授業計画

回数	内容	自己紹介文の第一次原稿の作成	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	オリエンテーション ・語学留学について ・多文化国家オーストラリアについて知る ・オーストラリアでの生活、授業の概観	自己紹介文の第一次原稿の作成	4時間
第2回	異文化を学ぶ ・自己紹介を含め、日本や家族をことを伝える方略を学ぶ ・多文化国家オーストラリアについて詳しく学ぶ	オーストラリアについて様々な視点から調べる	4時間
第3回	ホームステイ家族と仲良くする ・ホームステイの心得 ・自己紹介、家族紹介など互いに伝えたり、たずねたりする	ホームステイ申込み書の作成	4時間
第4回	語学研修を成功させるために#1 ・目標の設定 ・滞在中の研修日誌作成に関する注意事項	研修日誌の出発前課題の完成	4時間

第5回	語学研修を成功させるために#2 ・出発を控えた最終段階での注意事項	研修日誌の出発前課題の完成	4時間
第6回	現地校でのオリエンテーション 受講クラスの決定、受講の注意点、授業予定の連絡等	現地校での課題	4時間
第7回	英語集中訓練 1日5時間の英語集中授業	現地校での課題	4時間
第8回	英語集中訓練 1日5時間の英語集中授業	現地校での課題	4時間
第9回	英語集中訓練 1日5時間の英語集中授業	現地校での課題	4時間
第10回	英語集中訓練 1日5時間の英語集中授業	現地校での課題	4時間
第11回	英語集中訓練 1日5時間の英語集中授業	現地校での課題	4時間
第12回	英語集中訓練 1日5時間の英語集中授業	現地校での課題	4時間
第13回	英語集中訓練 1日5時間の英語集中授業	現地校での課題	4時間
第14回	英語集中訓練 1日5時間の英語集中授業	現地校での課題、研修日誌に基づいた報告レポートの作成、プレゼンテーションの準備	4時間
第15回	研修報告会（プレゼンテーション） 語学研修について、「目標と成果」「新しい自分の発見」の2つのテーマについて、作成した事後報告レポートについて最終報告のプレゼンテーションを行う。	研修日誌に基づいた報告レポートの作成、プレゼンテーション	4時間

授業科目名	General English 1				
担当教員名	坂井純子・ジョンストン				
学年・コース等	1年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

夏期の短期海外研修に向けて、英語コミュニケーションおよび英文読解のしっかりとした基礎力と英語学習習慣を確立することを目指します。授業は週に2回、コースブックと教員が用意する配布プリントを用いて、議論、作文、発表を含む活動や課題に取り組み、日常的な場面でのやり取りと自分自身について伝える英語力を磨きます。実践力を磨き、個々の課題の完成度をあげるために英語教育センターと協力した指導を行います。そのため、週に一回、センターでの個別指導を受けることが求められます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

日常のなかの多様な話題について英語で理解し、応じることができる力

目標：

英語で相手のニーズを理解し適切に反応できる、著者の主張を正しく捉えることができる、また、自分自身や自分の生活について伝えることができる。

汎用的な力

- DP8. 意思疎通

グループやペアでの授業内活動をとおし、相手を尊重したコミュニケーションをとり、互いに学びあうことができる。日常的内容関について英語でのやりとりや意見交換ができる。

- DP7. 完遂

各自の到達目標にむけて、毎週の課題に自分で納得できるレベルまで取り組む。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

成績評価の方法・評価の割合

授業参加（小テスト含む）

評価の基準

： 予習・宿題を含む授業準備が十分になされているか、グループワークに貢献できているか、英語教育センターでの個別指導に積極的に取り組み、そこでの学びを活かしているかという点とその内容から評価します。

30%

課題

： 英語レベルや正確さに加え、ルールに沿ったパフォーマンスが出来ているか、よく練られた内容となっているか、工夫がみられるか、期日が守られているかという点からも評価します。

35%

定期試験

： 授業内容が理解され、きちんと復習されているかどうかという点から評価します。

35%

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
David Bohlke	・ Skilful 1 Reading and Writing, second edition (student book)	・ macmillan	・ 2019年
David Bohlke	・ Skillful Foundation Reading and Writing (student book)	・ macmillan	・ 2016年
Robert Hickling and MisatoUsukura	・ Reading Steps	・ Kinseido	・ 2015年

参考文献等

Pleasure in Reading Aloud and Retelling (Kinseido, 2019)
Essential Grammar in Use (Cambridge)

履修上の注意・備考・メッセージ

- ・本課目は2単位の科目ですので、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。
- ・毎回、宿題（課題）がだされますので、次の授業にはそれを終えたくて参加してください。欠席した場合には、各自でその回の宿題内容をクラスメートや教員に確認してください。
- ・宿題（課題）に加えて、その回の授業内容をきちんと復習することが求められます。
- ・また、授業は予習を前提として行われます。
- ・授業ではテキストと配布プリントを使用します。忘れずにかかわらず持ってきてください。
- ・課題の一部は「英語教育センター」での個別指導を前提としています。個別指導には毎回参加ください。
- ・ルールを守って受講することが求められます。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 初回授業で案内します
場所： 初回授業で案内します

授業計画

第1回 オリエンテーションとUnit 1: Self

次回授業の予習および宿題。個別に取り組み課題（英語教育センターでの活動を含む）

授業外学修課題にかかる目安の時間

4時間

	<p>クラスの進め方、テキストの使い方、評価基準などの確認 各自の到達目標・行動目標 自己紹介 代名詞と基本的な質問文と答え方（1）</p>		
第2回	<p>Unit 2: Family</p> <p>英文の概要を捉える方法 人間描写、家族や友人について紹介 代名詞と基本的な質問文と答え方（2） 個別課題</p>	<p>次回授業の予習および宿題。個別に取り組み課題（英語教育センターでの活動を含む）</p>	4時間
第3回	<p>Unit 3: Character</p> <p>スキミングと文章構造の理解（1） 代名詞と基本的な質問文と答え方（3） 自分のお気に入りを紹介 個別課題</p>	<p>次回授業の予習および宿題。個別に取り組み課題（英語教育センターでの活動を含む）</p>	4時間
第4回	<p>Unit 4: Time</p> <p>スキミングと文章構造の理解（2） 時間表現 疑問詞を用いた質問文と答え方（1） 自分や家族のroutineや週末の過ごし方を紹介 個別課題</p>	<p>次回授業の予習および宿題。個別に取り組み課題（英語教育センターでの活動を含む）</p>	4時間
第5回	<p>Unit 5: Free time</p> <p>スキミングと文章構造の理解（2） 頻度や値段についての表現 疑問詞を用いた質問文と答え方（2） 空いている時間の過ごし方を紹介 個別課題</p>	<p>次回授業の予習および宿題。個別に取り組み課題（英語教育センターでの活動を含む）</p>	4時間
第6回	<p>Unit 6: Stuff</p> <p>メインアイデアと細部の理解（1） 疑問詞を用いた質問文と答え方（3） さまざまな形容詞 物の位置関係を表す方法 個別課題</p>	<p>次回授業の予習および宿題。個別に取り組み課題（英語教育センターでの活動を含む）</p>	4時間
第7回	<p>Unit 7: Buildings and places</p> <p>メインアイデアと細部の理解（2） 頻度をたずねる質問文と答え方 場所や建築物に関する語彙 個別課題</p>	<p>Unit1～7の復習。個別に取り組み課題（英語教育センターでの活動を含む）</p>	4時間
第8回	<p>Review</p> <p>Unit1～7までの復習活動 確認テスト</p>	<p>次回授業の予習。確認テストの復習。個別に取り組み課題（英語教育センターでの活動を含む）</p>	4時間
第9回	<p>Unit 8: Money</p> <p>予測しながら読む（1） 現在進行形を用いたと説明文、質問文と答え方 さまざまな活動や動作および位置に関連した語彙・表現 個別課題</p>	<p>次回授業の予習および宿題。個別に取り組み課題（英語教育センターでの活動を含む）</p>	4時間
第10回	<p>Unit 9: Cities</p> <p>予測しながら読む（2） 助動詞（1） 変化を伝える表現 個別課題</p>	<p>次回授業の予習および宿題。個別に取り組み課題（英語教育センターでの活動を含む）</p>	4時間
第11回	<p>Unit 10: Taste</p> <p>予測しながら読む（3） 助動詞（2） さまざまな形容詞 食事やレストランに関する語彙 個別課題</p>	<p>次回授業の予習および宿題。個別に取り組み課題（英語教育センターでの活動を含む）</p>	4時間
第12回	<p>Unit 11: Culture</p> <p>意見と事実を区別する（1） 未来形を用いた質問文と答え方 現代生活やテクノロジーに関する語彙・表現 レポートの書き方（1） 個別課題</p>	<p>次回授業の準備。個別に取り組み課題（英語教育センターでの活動を含む）</p>	4時間
第13回	<p>Unit 12: Play</p> <p>意見と事実を区別する（2） 過去形を用いた疑問文と答え方 レポートの書き方（2） 健康や運動に関する語彙・表現 個別課題</p>	<p>次回授業の準備（英語教育センターでの活動を含む）</p>	4時間
第14回	<p>Review 2</p> <p>リーディングストラテジーの総復習 レポートの書き方（3） 発表の仕方</p>	<p>次回授業の準備（英語教育センターでの活動を含む）</p>	4時間
第15回	<p>Presentationsとレポートの完成</p> <p>授業と個別課題の内容をベースとしたプレゼンテーション（個人） レポートの完成</p>	<p>期末試験のための準備</p>	4時間

授業科目名	General English 2				
担当教員名	坂井純子・ジョンストン				
学年・コース等	1年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

コースブックを使って日常の幅広いテーマを扱い、英語の4技能を磨きます。授業で読む英文をもとに議論、発表、ライティング課題に取り組み、読解力と効果的に事実や考えを伝える方法を学びます。また、表現の幅を広げ、より難解な英文を理解できるようになるために、より高度な語彙・表現・文構造を学びます。受講者には授業の復習、実践力の向上、課題の完成のために、週に1回、英語教育センターで個別指導を受けることが求められます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

日常的な話題について考えを伝えあう英語力と、

目標：

著者の主張やクラスメートの考えを正しく理解し、新たな視点で物事を考えることができる。また、自分の考えを伝えることができる。

汎用的な力

- 1 . DP8. 意思疎通

グループやペアでの活動をとおり、相手を尊重したコミュニケーションをとり、互いに学びあうことができる。日常生活に関する英語での質問と応答ができる。

- 2 . DP6. 行動・実践

自ら設定した目標の達成のためにどのような態度・行動が必要かを考え主体的に取り組む。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。

成績評価の方法・評価の割合

授業参加

評価の基準

： 予習・宿題を含む授業準備が十分になされているか、グループワークに貢献できているか、英語教育センターでの個別指導に積極的に取り組み、そこでの学びを活かしているかという点とその内容から評価します。

30%

課題

： 英語レベルや正確さに加え、ルールに沿ったパフォーマンスが出来ているか、よく練られた内容となっているか、工夫がみられるか、期日が守られているかという点からも評価します。

35%

定期試験

： 授業内容が理解され、きちんと復習されているかどうかという点から評価します。

35%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業にて案内します

履修上の注意・備考・メッセージ

- 本課目は2単位の科目ですので、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をしてください。
- ・授業は予習を前提として行われます。
 - ・毎回、宿題がだされますので、次の授業にはそれを終えたうえで参加してください。欠席した場合には、各自でその回の宿題内容をクラスメートや教員に確認してください。
 - ・授業ではテキストと配布プリントを使用します。忘れずにかみかみを持ってきてください。
 - ・課題の一部は「英語教育センター」での個別指導を前提としています。個別指導には毎回参加ください。
 - ・ルールを守って受講すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 初回授業で案内します

場所： 初回授業で案内します

授業計画

第1回

オリエンテーションとUnit 1: My interests

クラスの進め方、評価基準などの確認
各自の到達目標・行動目標
興味について述べ合う表現
個別課題

次回授業の予習および宿題。個別に取り組む課題（英語教育センターでの活動を含む）

授業外学修課題にかかる目安の時間

4時間

第2回	Unit 2: Food グラフや数字を理解する練習 (1) to不定詞と動名詞 食生活やフードロスなどに関する表現 個別課題	次回授業の予習および宿題。個別に取り組む課題 (英語教育センターでの活動を含む)	4時間
第3回	Unit 3: Places グラフや数字を理解する練習 (2) 目的をあらわす表現 自分の住む場所や観光地についての表現 個別課題	次回授業の予習および宿題。個別に取り組む課題 (英語教育センターでの活動を含む)	4時間
第4回	Unit 4: Canada 重要な情報と固有名詞などを素早く結びつけて読む練習 (1) 受動態 カナダでの体験を語る表現 個別課題	次回授業の予習および宿題。個別に取り組む課題 (英語教育センターでの活動を含む)	4時間
第5回	Unit 5: Fun 重要な情報と固有名詞などを素早く結びつけて読む練習 (1) 完了形 (1) 観光に関する表現 個別課題	次回授業の予習および宿題。個別に取り組む課題 (英語教育センターでの活動を含む)	4時間
第6回	Unit 6: Extremes 予想を確信に変えるためのスキミング練習 (1) 完了形 (2) 世界の珍しい場所を描写する表現 個別課題	次回授業の予習および宿題。個別に取り組む課題 (英語教育センターでの活動を含む)	4時間
第7回	Unit 7: Plan 予想を確信に変えるためのスキミング練習 (2) 分詞による修飾 履歴書や様々な仕事に関する表現 個別課題	Unit 1~7までの復習。個別に取り組む課題 (英語教育センターでの活動を含む)	4時間
第8回	Review 1 Unit 1~7の復習活動 確認テスト	次回授業の予習。確認テストの復習。個別に取り組む課題 (英語教育センターでの活動を含む)	4時間
第9回	Unit 8: Vision 情報を整理しながら読む練習 (1) 形容詞と副詞 色彩や視覚に関する表現 個別課題	次回授業の予習および宿題。個別に取り組む課題 (英語教育センターでの活動を含む)	4時間
第10回	Unit 9: Celebration 情報を整理しながら読む練習 (2) 比較表現 (1) 祝日、お祭りなどに関する表現 個別課題	次回授業の予習および宿題。個別に取り組む課題 (英語教育センターでの活動を含む)	4時間
第11回	Unit 10: Progress 事実と意見を区別しながら読む練習 (1) 比較表現 (2) 生活の中の進歩や変化を述べる表現 個別課題	次回授業の予習および宿題。個別に取り組む課題 (英語教育センターでの活動を含む)	4時間
第12回	Unit 11: Work 事実と意見を区別しながら読む練習 (2) 関係代名詞 将来や仕事に関する表現 個別課題	次回授業の準備。個別に取り組む課題 (英語教育センターでの活動を含む)	4時間
第13回	Review 2 Unit 1~12の読解練習内容の総復習 効果的なレポートの書き方	次回授業の準備。個別に取り組む課題 (英語教育センターでの活動を含む)	4時間
第14回	Report Submission レポートの完成・提出 プレゼンテーションに向けた準備	次回授業の準備。個別に取り組む課題 (英語教育センターでの活動を含む)	4時間
第15回	Presentations 授業と個別課題の内容をベースとしたプレゼンテーション 振り返り	期末試験に向けた準備	4時間

授業科目名	General English 3				
担当教員名	坂井純子・ジョンストン・ワフネンコ				
学年・コース等	2年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

英語4技能に係る効果的な言語活動や、TOEIC向上も目指し、長期留学のための実力養成の手助けをする。セメスター週2回の授業は、「ツーリズム・イングリッシュ」と、「英語で話す日本の心」の教材を用いて、ロールプレイ、作分、発表を含めた、さまざまな作業をグループワーク中心に進め、クールジャパンのことを英語で分かりやすく伝えるための学習を目的とする。本講座の履修者が自らの弱点、今後努力すべきポイントを、自分で認識・発見する介助と、問題解決のための指導にあてられる。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

マーケティング・マネジメントの理論に基づいて、テーマパーク、ホテル、航空会社、観光地などに関する英語を身につけること。

目標：

ツーリズム・イングリッシュと日本文化に対する理解と応用。

汎用的な力

- 1 . DP8. 意思疎通

グループやペアでの授業内活動をとおり、相手を尊重したコミュニケーションをとり、互いに学びあうことができる。日本文化に関する英語での質問と応答ができる。

- 2 . DP7. 完遂

各自の到達目標にむけて、毎週の課題に自分で納得できるレベルまで取り組む。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実習や実技に対して個別にコメントします
- ・ 実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

成績評価の方法・評価の割合

授業準備（予習、宿題、課題）

評価の基準

： 予習・宿題を含む授業準備が十分になされているか、課題においては工夫がみられるか、期日が守られているか、英語教育センターでの個別指導が反映されているかという点とその内容から評価します。

40%

授業参加

： ペア・グループワークや発表・発言に積極的に取り組んでいるか、英語を使う活動では英語を使っているかという点から評価します。

10%

中間試験

： 授業内容が理解され、きちんと復習されているかどうかという点から評価します。

20%

定期試験

： 前期中に学んだことのまとめの60分程度の最終試験を行います。

30%

使用教科書

指定する

著者

Simon Capper

タイトル

・ This Is Japan: Your Culture, Your Life

出版社

・ Macmillan Language House

出版年

・ 2011年

Iwonna Dubicka & Margaret O'Keefe

・ English for International Tourism 2nd Edition, Pre-Intermediate Level

・ Pearson

・ 2015年

Peter Strutt

・ English for International Tourism 2nd Edition, Intermediate Level

・ Pearson

・ 2015年

参考文献等

Miyuki Kido. (2016). Hospitality English. Sanshusha.

履修上の注意・備考・メッセージ

本課題は2単位の科目ですので、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。

「授業外学習課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をしてください。

- ・ 授業は予習を前提として行われます。
- ・ 毎回、宿題がだされますので、次の授業にはそれを終えたくて参加してください。欠席した場合には、各自でその回の宿題内容をクラスメートや教員に確認してください。
- ・ 授業ではテキストと配布プリントを使用します。忘れずにかかわらず持ってきてください。
- ・ 課題の一部は「英語教育センター」での個別指導を前提としています。個別指導には毎回参加ください。
- ・ ルールを守って受講すること。
- ・ 宿題を毎回すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 初回授業で案内します。

場所： 初回授業で案内します。

授業計画

：

： 授業外学修課題にかかる目安の時間

第1回	オリエンテーション & UNIT 1: WHAT MAKES YOU JAPANESE? KNOWING ME, KNOWING YOU! Introduce yourself to your partner(s). Be ready to tell your partner(s) your name, your major, about your family, your hometown, your part-time job, your hobbies and interests, and your clubs and circles. Remember, always try to give more information.	次回授業の予習および宿題。個別に取り組み課題（英語教育センターでの活動を含む）	4時間
第2回	UNIT 2: MY HOMETOWN What are the most scenic places in Japan? Do you remember where your partner(s) are from? Ask to tell you more about their hometowns.	次回授業の予習および宿題。個別に取り組み課題（英語教育センターでの活動を含む）	4時間
第3回	UNIT 3: JAPANESE FOOD What are your favorite Japanese dishes? Please explain them to me. What's your least favorite Japanese food? Is there any food that you really can't stand? What problems might foreign visitors have with Japanese food?	次回授業の予習および宿題。個別に取り組み課題（英語教育センターでの活動を含む）	4時間
第4回	UNIT 4: MIND YOUR MANNERS! Can you give me an example of good manners in Japan? Can you give me an example of bad manners? What do your parents tell you to do--or not do--at mealtimes?	次回授業の予習および宿題。個別に取り組み課題（英語教育センターでの活動を含む）	4時間
第5回	UNIT 5: EXPLAINING JAPANESE THINGS Do you have a homestay experience in a foreign country? What Japanese souvenirs would be good for a homestay mother or father? What Japanese souvenirs would be good for a young girl or boy?	次回授業の予習および宿題。個別に取り組み課題（英語教育センターでの活動を含む）	4時間
第6回	UNIT 6: THE JAPANESE LANGUAGE What's difficult for foreigners learning Japanese? What's most difficult for Japanese learning English? Why does the Japanese language have three alphabets?	次回授業の予習および宿題。個別に取り組み課題（英語教育センターでの活動を含む）	4時間
第7回	MIDTERM REVIEW① Unit 1～6の復習 個別課題	次回授業の予習および宿題。個別に取り組み課題（英語教育センターでの活動を含む）	4時間
第8回	UNIT 7: VISITING TEMPLES AND SHRINES When do you usually visit temples and shrines? What do you usually do when you arrive at a shrine? What do you when you pray?	次回授業の予習および宿題。個別に取り組み課題（英語教育センターでの活動を含む）	4時間
第9回	UNIT 8: THE TRADITIONAL JAPANESE HOUSE Can you describe a traditional Japanese house? What kind of house would you like to live in, Japanese or Western-style? Why? What's your house like? (Is it old? New? In the countryside or in the city?)	次回授業の予習および宿題。個別に取り組み課題（英語教育センターでの活動を含む）	4時間
第10回	UNIT 9: SPECIAL DAYS AND EVENTS What's your favorite festival or holiday? Why do you like it? Is the New Year important to you? Why, or why not? Can you explain the story behind tanabata and o-bon?	次回授業の予習および宿題。個別に取り組み課題（英語教育センターでの活動を含む）	4時間
第11回	UNIT 10: SCHOOL AND COLLEGE LIFE Who was your best ever teacher, and why did you like him or her? Which did you enjoy most, elementary school, or junior or senior high school? What would you most like to change about your college life?	次回授業の予習および宿題。個別に取り組み課題（英語教育センターでの活動を含む）	4時間
第12回	UNIT 11: FAMOUS JAPANESE PEOPLE Which Japanese people do you think are well known abroad? Which famous Japanese people, living or dead, do you most admire, and why?	次回授業の予習および宿題。個別に取り組み課題（英語教育センターでの活動を含む）	4時間
第13回	UNIT 12: JAPANESE MOVIES AND TV What's your favorite Japanese movie? What's it about? Who's your favorite actor or actress, and why do you like him or her? What's your favorite TV program? What's it about?	次回授業の予習および宿題。個別に取り組み課題（英語教育センターでの活動を含む）	4時間
第14回	MIDTERM REVIEW② Unit 7～12の復習 個別課題	次回授業の準備（英語教育センターでの活動を含む）	4時間
第15回	FINAL PROJECT ファイナルプロジェクトの完成・提出 定期試験に向けた準備	これまでの学習内容を体系図として確認し、全体像と各論に関する関係を確認する	4時間

授業科目名	General English 4				
担当教員名	坂井純子・ジョンストン・ワフネンコ				
学年・コース等	2年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

英語4技能に係る効果的な言語活動や、TOEIC向上も目指し、長期留学のための実力養成の手助けをする。セメスター週2回の授業は、「ツーリズム・イングリッシュ」と、「英語で話す日本の心」の教材を用いて、ロールプレイ、作分、発表を含めた、さまざまな作業をグループワーク中心に進め、クールジャパンのことを英語で分かりやすく伝えるための学習を目的とする。本講座の履修者が自らの弱点、今後努力すべきポイントを、自分で認識・発見する介助と、問題解決のための指導にあてられる。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

マーケティング・マネジメントの理論に基づいて、テーマパーク、ホテル、航空会社、観光地などに関する英語を身につけること。

目標：

ツーリズム・イングリッシュと日本文化に対する理解と応用。

汎用的な力

- 1 . DP8. 意思疎通

グループやペアでの授業内活動をとおり、相手を尊重したコミュニケーションをとり、互いに学びあうことができる。日本文化に関する英語での質問と応答ができる。

- 2 . DP7. 完遂

各自の到達目標にむけて、毎週の課題に自分で納得できるレベルまで取り組む。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実習や実技に対して個別にコメントします
- ・ 実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

成績評価の方法・評価の割合

授業準備（予習、宿題、課題）

評価の基準

： 予習・宿題を含む授業準備が十分になされているか、課題においては工夫がみられるか、期日が守られているか、英語教育センターでの個別指導が反映されているかという点とその内容から評価します。

40%

授業参加

： ペア・グループワークや発表・発言に積極的に取り組んでいるか、英語を使う活動では英語を使っているかという点から評価します。

10%

中間試験

： 授業内容が理解され、きちんと復習されているかどうかという点から評価します。

20%

定期試験

： 前期中に学んだことのまとめの60分程度の最終試験を行います。

30%

使用教科書

指定する

著者

Simon Capper

タイトル

・ This Is Japan: Your Culture, Your Life

出版社

・ Macmillan Language House

出版年

・ 2011年

Iwonna Dubicka & Margaret O'Keefe

・ English for International Tourism 2nd Edition, Pre-Intermediate Level

・ Macmillan Language House

・ 2015年

Peter Strutt

・ English for International Tourism 2nd Edition, Intermediate Level

・ Pearson

・ 2015年

参考文献等

Miyuki Kido. (2016). Hospitality English. Sanshusha.

履修上の注意・備考・メッセージ

本課題は2単位の科目ですので、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。

「授業外学習課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をしてください。

- ・ 授業は予習を前提として行われます。
- ・ 毎回、宿題がだされますので、次の授業にはそれを終えたうえで参加してください。欠席した場合には、各自でその回の宿題内容をクラスメートや教員に確認してください。
- ・ 授業ではテキストと配布プリントを使用します。忘れずにかかわらず持ってきてください。
- ・ 課題の一部は「英語教育センター」での個別指導を前提としています。個別指導には毎回参加ください。
- ・ ルールを守って受講すること。
- ・ 宿題を毎回すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 初回授業で案内します。

場所： 初回授業で案内します。

授業計画

：

： 授業外学修課題にかかる目安の時間

第1回	オリエンテーション & UNIT 1: SELLING DREAMS In this lesson students will: - listen to an interview with someone from the Hawaii Tourism Authority - review and practise different present and past tenses - focus on common travel and tourism words which are both verbs and nouns	次回授業の予習および宿題。個別に取り組む課題（英語教育センターでの活動を含む）	4時間
第2回	UNIT 2: GETTING THERE In this lesson students will: - work with vocabulary around the topic of transport - listen to a conversation about Chinese railways - speak about transport in their country	次回授業の予習および宿題。個別に取り組む課題（英語教育センターでの活動を含む）	4時間
第3回	UNIT 3: ACCOMMODATION In this lesson students will: - read about Spanish accommodation - focus on vocabulary relating to hotel facilities and services - listen to some travelers talking about what they look for in a hotel	次回授業の予習および宿題。個別に取り組む課題（英語教育センターでの活動を含む）	4時間
第4回	UNIT 4: DESTINATIONS In this lesson students will: - read an article about weather conditions and their effect on the travel industry - listen to weather forecasts and focus on vocabulary for describing climate - write about climate in their country	次回授業の予習および宿題。個別に取り組む課題（英語教育センターでの活動を含む）	4時間
第5回	UNIT 5: THINGS TO DO In this lesson students will: - read about things to do in Buenos Aires city - focus on guidebook phrases - talk about tourist attractions and activities in their region	次回授業の予習および宿題。個別に取り組む課題（英語教育センターでの活動を含む）	4時間
第6回	MIDTERM REVIEW & CONSOLIDATION① Unit 1～5, これまでの該当箇所の復習 個別課題	次回授業の予習および宿題。個別に取り組む課題（英語教育センターでの活動を含む）	4時間
第7回	MIDTERM REVIEW & CONSOLIDATION② Unit 1～5, これまでの該当箇所の復習 中間試験に向けた準備 中間試験実践	復習	4時間
第8回	UNIT 6: NICHE TOURISM In this lesson students will: - discuss the differences between niche tourism and mass tourism - listen to a talk about opportunities in niche tourism - read about a developing niche tourism sector in South Africa	次回授業の予習および宿題。個別に取り組む課題（英語教育センターでの活動を含む）	4時間
第9回	UNIT 7: CULTURAL TOURISM In this lesson students will: - discuss what 'culture' means to them - read about cultural tourism - study the use of linking words	次回授業の予習および宿題。個別に取り組む課題（英語教育センターでの活動を含む）	4時間
第10回	UNIT 8: RUNNING A HOTEL In this lesson students will: - read about what running a hotel involves - focus on adjectives with -ing and -ed endings - listen to a hotel manager talk about his job	次回授業の予習および宿題。個別に取り組む課題（英語教育センターでの活動を含む）	4時間
第11回	UNIT 9: CUSTOMER SERVICE In this lesson students will: - listen to people discussing customer service - focus on vocabulary relating to personal qualities - discuss different situations and how customer services could deal with each one	次回授業の予習および宿題。個別に取り組む課題（英語教育センターでの活動を含む）	4時間
第12回	UNIT 10: BUSINESS TRAVEL In this lesson students will: - read an article about changes in business travel - focus on some popular idioms and metaphors - discuss how they would prefer to be rewarded by their employer	次回授業の予習および宿題。個別に取り組む課題（英語教育センターでの活動を含む）	4時間
第13回	MIDTERM REVIEW & CONSOLIDATION③ Unit 6～10, これまでの該当箇所の復習 個別課題	次回授業の予習および宿題。個別に取り組む課題（英語教育センターでの活動を含む）	4時間
第14回	MIDTERM REVIEW & CONSOLIDATION④ Unit 6～10, これまでの該当箇所の復習 レポートの完成・提出 ファイナルプロジェクトに向けた準備	次回授業の準備（英語教育センターでの活動を含む）	4時間
第15回	FINAL PROJECT 授業と個別課題の内容をベースとしたファイナルプロジェクト（個別） 定期試験に向けた準備	これまでの学習内容を体系図として確認し、全体像と各論に関する関係を確認する	4時間

授業科目名	English Communication 1				
担当教員名	又吉弘那・				
学年・コース等	1年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

効果的な4技能を用いて質疑応答ができるコミュニケーション方略を理解して、基本的な日常会話を自発的に進んでコミュニケーションに貢献できる。①日常的なテーマを扱うコースブックを使用。日常的な話題について発表する活動、または、相互のやりとりを通して理解を深め、テーマごとに発言できるように活動、表現に必要な語彙、言い換え、英語の構造に関する理解を深める活動等を行う。②学修の振り返りとして、個々に学修ジャーナルを作成。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

異文化理解や風習について知識を英語で身につける。

目標：

身近な内容が書かれた英文を理解し、英語で自分が深く興味を感じた点について説明できる。

汎用的な力

- 1 . DP8. 意思疎通
- 2 . DP6. 行動・実践
- 3 . DP7. 完遂

ロールプレイでお互いに尊重し合えるように日常生活のコミュニケーションでの質問応答ができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業参加度	30%	: 予習・宿題・課題において評価する。
定期試験	20%	: 定期試験において評価する。
リサーチ	10%	: レポートとスピーチの参考文献がしっかり提示していることを評価します。
プレゼンテーション・スピーチ	20%	: ロールプレイ、発表、ディベート発言を主体的に積極的に取り組んでいて、英語コミュニケーションに貢献できるかを評価します。
ペーパー・レポート	20%	: レポートをしっかり基準にそって書いているかを評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
Eric Williams and August Niederhaus	・ Student Book Blue Print 1	・ Compass Publishing	・ 2017年

参考文献等

Raymond Murphy, William R. Smalzer, 渡辺雅仁・田島祐規子 (2011). 「Basic Grammar in use マーフィーのケンブリッジ英文法 コミュニケーションのための 「使える」実用文法書-練習問題・解答付- (初級編) 新訂版 Cambridge University Press

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」(カナダ研修文集・プレゼンテーション(スピーチ大会)に向けた練習、予選、大会等)に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
・授業は予習を前提として行われます。
・毎週、宿題がだされますので、翌週の授業にはそれを終えたうえで参加してください。欠席した場合には、各自でその週の宿題内容をクラスメートや教員に確認してください。
・授業ではテキストと配布プリントを使用します。忘れずにかかわらず持ってきてください。
・履修科目の終了認定を行うため、15回の授業期間とは別に定めている定期試験期間中、最終的な到達度を評価する試験を実施する。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜日4限
場所： 個人研究室01 (西館2階)

授業計画

回	単元名	内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	第1回：Unit 1 New People	Begin their report by learning to introduce themselves. In the first unit, students learn to introduce themselves and greet the people they're talking to, give basic information about themselves and people they know, and appropriately end a conversation.	4時間
第2回	第2回：Unit 2 Lessons 1-5 The Classroom	The students will continue their report by writing about their immediate surroundings.	4時間

	Students learn to discuss the classroom environment, including physical objects in it as well as some common things outside class that are relevant to them and their classmates.		
第3回	第3回 : Unit 3 About Family Students expand on their ability to talk about life outside the classroom by discussing family, including family members and their appearance.	The students will continue their report by writing about writing about their family members.	4時間
第4回	第4回 : Lessons 1-5 Describing appearance, photos, and information. Students will learn to photos, and information. Students will learn to do interviews in English as well as writing about their family.	The students will continue their report about their interviews.	4時間
第5回	第5回 : Unit 4 School Life This unit teaches students to talk about their own daily school lives as well as those of family members of similar ages, with special focus on students' class-related plans, habits, and schedules.	The students will continue their report on their daily life.	4時間
第6回	第6回 : Lessons 1-5 Students will learn to by summarizing their daily routines and hobbies they enjoy within campus as well as outside of campus.	The students will continue their report on their hobbies.	4時間
第7回	第7回 : Unit 5 Doing Things at School Here students learn to talk more about things they do around campus between classes or after class, including getting from one class to another or finding a place to study.	The students will continue their report on school subjects.	4時間
第8回	第8回 : Lessons 1-5 The students will learn to describe their school subjects including discussing their class schedules including information about the subject as well as the work and the information about the teachers.	The students will continue their report on class schedules and teachers.	4時間
第9回	第9回 : Unit 6 Places on Campus This unit expands on students' ability to talk about unit expands on students' ability to talk about thing they do around campus, both inside and outside about thing they do around campus, both inside and outside, for studying or relaxing.	The students will continue their report on where they go to relax on campus.	4時間
第10回	第10回 : Lessons 1-5 Students will learn to describe buildings, rooms, atmosphere on and off to describe buildings, rooms, atmosphere on and off campus.	The students will continue their report on describing the campus	4時間
第11回	第11回 : Unit 7 Study or Eat? Students have things to do before they leave school. They often need to eat or get books from the library to use at home. Here students learn to talk about some things they do before leaving campus.	The students will continue their report on what they often do before leaving the campus	4時間
第12回	第12回 : Lessons 1-5 Students will talk about cafeteria cuisine, things they buy at the vending shop, and facilities on campus.	The students will continue their report on their wish list for campus	4時間
第13回	第13回 : Unit 8 Away from School After classes and studying are done, students go home. In this unit, they learn to discuss how they get there and things they see on the way, as well as to describe their home and what they do there.	The students continue their report on part-time jobs and after school life.	4時間
第14回	第14回 : Report Submission Students will have to submit their final completed report that they have been continuing from day one. Any last minute revisions can be made during this time. Students must hand in the paper by the end of class. The report margins must be set to 2 centimeters in all four sides. The font is Times New Roman and the size is 12 points. The report must be typed on an A4 typing paper single space with a Cover page. The Cover page must have the student name and the student number typed on the bottom with the Title typed on the top middle section of the page. In addition, the students will be reviewing and preparing for the final exam through verifying with the teacher about their grammar as well as all four skills before the exam during the examination week.	Prepare for the presentation and finish the Outline	4時間
第15回	第15回 : Presentation The students will hand-in their Outline and do their final presentation. The presentation theme is the same final report. The presentation length is 2 minutes to 2 minutes 45 seconds and memorized. The students are expected to use at least 5 gestures in their presentation with eye contact. 15回の授業期間とは別に定めている定期試験期間中、最終的な到達度を評価する試験を実施する。	Finish presentation and hand-in the Outline	4時間

授業科目名	English Communication 2				
担当教員名	又吉弘那・				
学年・コース等	1年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

アカデミックなテーマの講義を聞いてポイントを理解でき、その内容の理解を深めるために4技能を用いて質疑応答ができる①引き続きコースブックを使用。英語を話すために必要な表現、語彙、英語の構造などを学ぶ②社会科学、自然科学、人文科学の話題について講義の視聴覚教材のノートテキング活動、ディスカッション課題についての意見交換活動、理解した内容をペアで確認する活動、表現に必要な英語の構造に関する定着を図る活動等に取り組む

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP1. 幅広い教養やスキル	英語四技能知識を深めること	英語四技能を身につけ、英文を理解し、英語で説明できる
汎用的な力		
1 . DP8. 意思疎通		ロールプレイでお互いに尊重し合えるように英語で質問応答ができる
2 . DP6. 行動・実践		
3 . DP7. 完遂		

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
授業参加度 30%	: 予習・宿題・課題において評価する。
定期試験 20%	: 定期試験において評価する。
リサーチ 10%	: レポートとスピーチの参考文献がしっかり提示していることを評価します。
プレゼンテーション・スピーチ 20%	: ロールプレイ、発表、ディベート発言を主体的に積極的に取り組んでいて、英語コミュニケーションに貢献できるかを評価します。
ペーパー・レポート 20%	: レポートをしっかり基準に沿って書いているかを評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
Eric Williams and Natalie Ryan	Student Book Blue Print 2	Compass Publishing	2017年

参考文献等

Raymond Murphy, William R. Smalzer, 渡辺雅仁・田島祐規子 (2011). 「Basic Grammar in use マーフィーのケンブリッジ英文法 コミュニケーションのための「使える」実用文法書一練習問題・解答付- (初級編) 新訂版 Cambridge University Press

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」(カナダ研修文集・プレゼンテーション(スピーチ大会)に向けた練習、予選、大会等)に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。
・授業は予習を前提として行われます。
・毎週、宿題がだされますので、翌週の授業にはそれを終えたうえで参加してください。欠席した場合には、各自でその週の宿題内容をクラスメートや教員に確認してください。

- ・授業ではテキストと配布プリントを使用します。忘れずにかならず持ってきてください。

履修科目の終了認定を行うため、15回の授業期間とは別に定めている定期試験期間中、最終的な到達度を評価する試験を実施する。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜日4限
場所： 個人研究室01 (西館2階)

授業計画

回	授業内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<p>第1回：Unit 1 New People and Places</p> <p>In this unit, students talk about themselves and other topics and listen as their classmates do so. This includes introductions, greetings, and discussion of where they're from.</p>	4時間
第2回	<p>第2回：Lessons 1-5</p> <p>Students will be asking questions and using the answers to make introductions. Students will write a short paragraph about their hometown.</p>	4時間

第3回	第3回 : Unit 2 Small Talk This unit teaches students to talk about what's happening around them, with topics including weather, jobs, family, English Study, and plans.	Students will continue their report about the topics that were covered in class.	4時間
第4回	第4回 : Lessons 1-5 The students will describe famous people they like while other students guess who they are describing in English (Guessing Game). Students will be asking and giving other students advice in English.	Students will continue their report about their advice to new coming Freshmen students	4時間
第5回	第5回 : Unit 3 Your University & Unit 4 College Life Here students discuss school life, including names and types of schools, basic information about schools and campuses, and school costs.	Students will continue their report about their what they are learning in their majors	4時間
第6回	第6回 : Lessons 1-5 Students will talk about jobs and requirements while discussing their majors and connecting what they are doing now with what they will do in the future.	Students will continue their report about their future vocation	4時間
第7回	第7回 : Unit 5 A New Place Students discuss their homes and commutes. They talk about modes of transportation and how they feel about the commute, looking for and deciding on a new apartment, and feelings about moving.	Students will continue their report about their everyday life	4時間
第8回	第8回 : Lessons 1-5 Students will discuss about daily feeling shifts in their everyday life. They will discuss the their everyday life. The students will spontaneously continue telling an original made up story.	Students will continue their report about their dreams.	4時間
第9回	第9回 : Unit 6 At Home This unit teaches students to talk about their lives at home, including discussions of their place, the surrounding area, and things happening in their personal lives.	Students will continue their report about the best movie they have ever seen	4時間
第10回	第10回 : Lessons 1-5 Students will discuss their best movie they have ever seen after deciding a genre of the movie. The genres are the following: Action, Adventure, Comedy, Suspence, Drama, Epics, Horror, Musical, Science Fiction, Disaster, Westerns, and Fantasy (Disney).	Students will continue their report about their best movie	4時間
第11回	第11回 : Unit 7 Before The Trip Students learn to talk about deciding to go on a trip and how to research, plan, and prepare. They talk a trip and how to research, plan, and prepare. They talk about options for what to do on a trip and learn how to book it.	Students will continue their report about their dream trip	4時間
第12回	第12回 : Lessons 1-5 Students will learn how to do research on the internet to find sources for their report. Students will learn about the horrors of plagerism and why it should not be done.	Students will continue their report about past trip experiences	4時間
第13回	第13回 : Unit 8 At the Airport It's time to go. Students arrive at the airport, get general information on the airport process, look for a check-in counter, go through security, and discuss what to do while waiting at the gate.	Students will continue their report about the subject covered in class	4時間
第14回	第14回 : Report Submission Students will have to submit their final completed report that they have been continuing from day one. Any last minute revisions can be made during this time. Students must hand in the paper by the end of class. The report margins must be set to 2 centimeters in all four sides. The font is Times New Roman and the size is 12 points. The report must be typed on an A4 typing paper single space with a Cover page. The Cover page must have the student name and the student number typed on the bottom with the Title typed on the top middle section of the page. In addition, the students will be reviewing and preparing for the final exam through verifying with the teacher about their grammar as well as all four skills before the exam during the examination week.	Students will complete the report and hand it in	4時間
第15回	第15回 : Presentations The students will hand-in their Outline and do their final presentation. The presentation theme is the same final report. The presentation length is 2 minutes to 2 minutes 45 seconds and memorized. The students are expected to use at least 5 gestures in their presentation with eye contact. 15回の授業期間とは別に定めている定期試験期間中、最終的な到達度を評価する試験を実施する。	Students will most likely be satisfied with their accomplishment after they do their presentations	4時間

授業科目名	English Communication 3				
担当教員名	又吉弘那・シェフリン				
学年・コース等	2年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

中級レベル以上の英語能力を有する学生が対象
 ビジネス英語テキストでの英語による語彙を学び、ビジネスに必要となる基本的な職場でのビジネス英語構造などを学ぶことでTOEICに欠かせないスキルを学ぶ。
 プレゼンテーション、レポート、ディベートに必要な論理的議論を積み重ねることで、積極性を学ぶ
 グループプロジェクト：英語で演劇-アイルランド人作家プラム・ストーリー「ドラキュラ」小説を英語と日本語訳を加えて舞台化（各2年次クラスの合同プロジェクト）活動に取り組む

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

英語四技能知識をより高度に深めること

目標：

論理的議論、読解力、推測力、理解力のTOEICスキルを身に付ける

汎用的な力

- 1 . DP8. 意思疎通
- 2 . DP6. 行動・実践
- 3 . DP7. 完遂

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業参加度	30%	: 予習・宿題・課題において評価する。
定期試験	20%	: 定期試験において評価する。
リサーチ	10%	: レポートとスピーチの参考文献がしっかり提示していることを評価します。
プレゼンテーション・スピーチ	20%	: 発表、ディベート発言、プロジェクト等を主体的に積極的取り組んでいて、英語コミュニケーションに貢献できるかを評価します。
ペーパー・レポート	20%	: レポートをしっかり準備に沿って書いているかを評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
徳田豊	Interactive Business English on DVD	成美堂 (Seibido)	2017年

参考文献等

豊永彰 「英文法ビフォー&アフター 超基礎から応用まで。」普及版 南雲堂 2007年

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
 「授業外学修課題」（グループプロジェクト劇「ドラキュラ」に向けた練習、公演等）に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習すること。
 ・授業予習を前提として行われます。
 ・毎週、宿題が出されますので、翌週の授業にそれを終えたうえで参加してください。欠席した場合には、各自でその週の宿題の内容をクラスメートや教員に確認してください。
 ・授業ではテキストと配布プリントを使用します。忘れずに必ず持ってきてください。
 ・私語が多いなど他の受講者の迷惑になるような行為が見られた場合や他の受講者の英語その他を侮辱するような言動が見られた場合などには、退出いただくことがあります。
 ・履修科目の終了認定を行うため、15回の授業期間とは別に定めている定期試験期間中、最終的な到達度を評価する試験を実施する。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜日の昼休み
 場所： 個人研究室01（西館2階）

授業計画

回	授業内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	Making Contact Students will learn how to invite a business partner through checking schedules and appointments.	4時間
第2回	Getting to Know You Students will learn how to identify, assess, prioritize, and resolve problems.	4時間
第3回	Dining Out Students will continue their report	4時間

	Students will learn how to attend the client with hospitality.		
第4回	Can I Ask Who Is Calling, Please? Students will learn how to resolve miscommunication while learning business protocol.	Students will continue their report	4時間
第5回	Let's Stick to the Schedule Students will learn the importance of getting reconfirmation on all appointments so that miscommunication does not happen. Students will learn to write their resumes in English.	Students will continue their report	4時間
第6回	Tell Us about Yourself Students will learn how to be successful in self-marketing at an interview.	Students will continue their report	4時間
第7回	Could We Meet Next Week? Students will learn to negotiate schedules for making a appointment to have a business meeting.	Students will continue their report	4時間
第8回	Can I Make a Point Here? Students will learn to analyse, explain, and assess data in their presentations in business meetings.	Students will continue their report	4時間
第9回	I'm Not Sure I Agree Students will learn to be assertive while at the same time understanding group mentality of sharing responsibilities, embracing diverse perspectives, and finding solutions.	Students will continue their report	4時間
第10回	Today's Topic Is Students will learn advanced presentations skill for business.	Students will continue their report	4時間
第11回	To Sum Up Students will learn how to coop with being interrupted while they are making a presentation and the importance of grasping the attention of the audience in business.	Students will continue their report	4時間
第12回	Any Questions? Students will learn how to deal with group presentations and this will prepare the students for their group project.	Students will continue their report	4時間
第13回	Making the Offer Students will learn about business negotiation.	Students will continue their report	4時間
第14回	That's My Final Offer (Report Submission) Students will learn about reading contracts, analyzing if the contract is in their best interest, and learn to write business contracts. Students will have to submit their final completed report that they have been continuing from day one. Any last minute revisions can be made during this time. Students must hand in the paper by the end of class. The report margins must be set to 2 centimeters in all four sides. The font is Times New Roman and the size is 12 points. The report must be typed on an A4 typing paper single space with a Cover page. The Cover page must have the student name and the student number typed on the bottom with the Title typed on the top middle section of the page. In addition, the students will be reviewing and preparing for the final exam through verifying with the teacher about their grammar as well as all four skills before the exam during the examination week.	Report Submission (Hand-in Report)	4時間
第15回	Finalizing the Deal (Presentation Due Date) Students learn to finalize a deal through contract confirmations and agreement. The students will hand-in their Outline and do their final presentation. The presentation theme is the same final report. The presentation length is 2 minutes to 2 minutes 45 seconds and memorized. The students are expected to use at least 5 gestures in their presentation with eye contact. 15回の授業期間とは別に定めている定期試験期間中、最終的な到達度を評価する試験を実施する。	Students will present their speech	4時間

授業科目名	English Communication 4				
担当教員名	又吉弘那・シェフリン				
学年・コース等	2年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

1. コースブックを通用。英語を話すために必要な表現、語彙、ビジネス英語の構造などを学ぶ。
2. 時事的話題の読解力、映像理解力、推測力とTOEICに欠かせないスキルを学ぶ。
3. プレゼンテーション、レポート、ディベートに必要な論理的議論を積み重ねることで、積極性を学ぶ
4. グループプロジェクト：英語で演劇—アイルランド人作家ブラム・ストーカー「ドラキュラー」小説を英語と日本語訳を加えて舞台化（各2年次クラスの合同プロジェクト）活動に取り組む

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

英語四技能知識をより高度に深めること

目標：

論理的議論、読解力、推測力、理解力のTOEICスキルを身につける

汎用的な力

- 1 . DP8. 意思疎通
- 2 . DP6. 行動・実践
- 3 . DP7. 完遂

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）
- ・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
授業参加度 30%	: 予習・宿題・課題において評価する。
定期試験 20%	: 定期試験において評価する。
リサーチ 10%	: レポートとスピーチの参考文献がしっかり提示していることを評価します。
プレゼンテーション・スピーチ 20%	: ロールプレイ、発表、ディベート発言を主体的に積極的に取り組んでいて、英語コミュニケーションに貢献できるかを評価します。
ペーパー・レポート 20%	: レポートをしっかりと準備に沿って書いているかを評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
Richey, Rosemary	English for Customer Care	Oxford	2007年

参考文献等

豊永彰「英文法ビフォー&アフター 超基礎から応用まで。」普及版 南雲堂 2007年

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」（グループプロジェクト劇「ドラキュラ」に向けた練習、公演等）に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
 ・授業は予習を前提として行われます。
 ・毎週、宿題がだされまので、翌週の授業にはそれを終えたうえで参加してください。欠席した場合には、各自でその週の宿題内容をクラスメートや教員に確認してください。
 ・授業ではテキストと配布プリントを使用します。忘れずにかかわらず持ってきてください。
 ・履修科目の終了認定を行うため、15回の授業期間とは別に定めている定期試験期間中、最終的な到達度を評価する試験を実施する。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜日の昼休み
 場所： 個人研究室01（西館2階）

授業計画

回数	授業内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	Introduction to Customer Care Students will learn useful phrases for business. Students will be able to understand business as well as customer needs.	4時間
第2回	Face to Face with Customers Students will learn about body language as well as the impression it has on a variety of cultures.	4時間
第3回	The Invisible customer Students will learn phrases to deal with customers in business for better customer service.	4時間
第4回	Company Visit and Trade fair Students will continue their report	4時間

	Students will virtually visiting companies and fairs to learn the business atmosphere and experience a variety of Business English situations.		
第5回	Dealing with Customers on the phone Students will learn to deal with customers on the phone and deal with jotting down information in notes so that they will have a chance to recall the conversation while spontaneously deal with the situation.	Students will continue their report	4時間
第6回	General telephoning Students will learn to be courteous as well as business manners in English.	Students will continue their report	4時間
第7回	Customer Care Insight Students will learn about customer awareness through politeness and TPO.	Students will continue their report	4時間
第8回	Call Centre Success Students will virtually experience a Call Centre and learn tips on how to give the customer a good impression for resolution.	Students will continue their report	4時間
第9回	Troubleshooting in Call Centres Students will learn how to clarify information so that the client can understand.	Students will continue their report	4時間
第10回	Delivering Customer Care Students will learn to write a business letter, while learning the difference between formal and informal phrases.	Students will continue their report	4時間
第11回	The Five Cs of Customer Care Students will learn to organize details, provide extra information, use polite language, and always check the information before hand.	Students will continue their report	4時間
第12回	Case study Students will learn about a Case Study about how to service impatient customers.	Students will continue their report	4時間
第13回	Dealing with Problems and Complaints Students will learn about phrases that express problems and complaints by the customers while learning phrases to help or resolve the complaints.	Students will continue their report	4時間
第14回	Complaint strategies and policies (Report Submission) Students will virtually experience actual complaints and problems so that they will able to respond quickly and effectively in English. Students will have to submit their final completed report that they have been continuing from day one. Any last minute revisions can be made during this time. Students must hand in the paper by the end of class. The report margins must be set to 2 centimeters in all four sides. The font is Times New Roman and the size is 12 points. The report must be typed on an A4 typing paper single space with a Cover page. The Cover page must have the student name and the student number typed on the bottom with the Title typed on the top middle section of the page. In addition, the students will be reviewing and preparing for the final exam through verifying with the teacher about their grammar as well as all four skills before the exam during the examination week.	Report Submission (Hand-in Report)	4時間
第15回	Explaining company policy and Problem-solving steps (Presentation Due Date) Students will learn to study company policies and will be able to quickly explain the policies while solving customer problems. The students will hand-in their Outline and do their final presentation. The presentation theme is the same final report. The presentation length is 2 minutes to 2 minutes 45 seconds and memorized. The students are expected to use at least 5 gestures in their presentation with eye contact. 1 5回の授業期間とは別に定めている定期試験期間中、最終的な到達度を評価する試験を実施する。	Students will present their speech	4時間

授業科目名	日本語演習 1 / 日本語 I 【マネジ・芸】				
担当教員名	鍛冶致				
学年・コース等	1年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

日本語の発音（拍、アクセント、母音の無声化）を中心に学習する。また、演習形式も取り入れて日本語能力試験N1合格を目指す。N1合格に必要なのは聴解力と読解力だが、本学では聴解力が合格ラインに達していない受験者は少ないので本講義では読解力の養成に重点をおく。また、読解力の獲得で重要なのは、思考力、「一般知識」、文字・語彙・文法の知識の獲得だが、本講義では思考力（筆者の意図や主張を丁寧に正確に把握し、筋道を立てて選択肢を吟味する力）の獲得を重視する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

身近な話題について書かれた平易な文章を読んで、その主旨を理解することができる。

目標：

日本語能力試験N1において80点を獲得することを目指す。

汎用的な力

- DP6. 行動・実践

自己の学習過程を第三者的な視点から客観的に評価し、それに基づいて次の課題を積極的に自らに課し、主体的かつ自律的に学習を深めていくことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- 課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- 実験、実技、実習
- 問答法・コメントを求め

課題や取組に対する評価・振り返り

- 実習や実技に対して個別にコメントします
- 実技・実習後、全体に向けてコメントします
- 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

小テストの自己採点	25%	： 正確に採点できているか、誰が見ても分かりやすく採点してあるか、間違いが直してあるか等の観点から5回×5点/回=25点満点で評価する。
自習ノート	25%	： 毎週4ページ以上学習しているか、辞書や参考書を活用しているか、自己の目標や興味に合わせて自主的に課題を設定し取り組んでいるか等の観点から5点/回×5回=25点満点で評価する。
毎回の授業への取り組み状況	40%	： ワークシートを用いながら各回授業への積極的参加や授業態度を独自のルーブリックを基に総合的に評価する。
試験（レポート）	10%	： 15回の授業で学んだことを独自の視点から整理・要約した上で、そのうち最も興味を持ったテーマを一つ設定して調べ、整理・要約し、考察し、結論を導き出す（1600字）。独創性5点+形式5点=合計10点で評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特に指定しません。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。授業中に誤答の訂正をしてもらうことがあるので、必ず赤ペンを持参すること（蛍光ペン等のマーカーは不可）。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 木曜14:30～16:10
場所： 鍛冶研究室（西館2階）

授業計画

第1回 **オリエンテーション：日本語の力を伸ばす方法とは**

みなさんは日本語学校や専門学校でこれまでどのように日本語を勉強してきましたか。今学期はN1を受験しますか。受ける人は何点を目指しますか。受けない人はいつ受けますか。この機会に自分の学習方法を見直し、前期の学習計画を立ててみましょう。

A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：格助詞（対象）。

授業外学修課題にかかる目安の時間

4時間

第2回	<p>親子間の識別能力について書かれた文章を読む</p> <p>赤ちゃんには自分の母親を識別する能力があります。母親にも自分の赤ちゃんを識別する能力があります。では父親には……。今回は親子間の識別能力について書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。</p>	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：格助詞（状況）。	4時間
第3回	<p>上達の法則について書かれた文章を読む</p> <p>スポーツ等の世界では、自分より下のランクの人からも何かを学び取ることができるかどうかが上級者と中級者の境目であるといわれています。いったいなぜでしょうか。今回は上達の法則について書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。</p>	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：並列助詞。	4時間
第4回	<p>新聞購読の国際比較について書かれた文章を読む</p> <p>日刊の新聞が日本ほど購読されている国は世界にほとんどありません。いったいなぜでしょうか。今回は新聞購読の国際比較について書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。</p>	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：時間を表す表現（アスペクト）。	4時間
第5回	<p>人間の感覚について書かれた文章を読む</p> <p>人間には五感があるといわれています。視覚、味覚、触覚……あとの2つがいえますか。いずれにせよ、それらの五感は大きく2つに分類できるそうです。今回は人間の感覚について書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。</p>	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：立場を表す表現（間接的な影響を表す表現）。	4時間
第6回	<p>新しい世界との出会い方について書かれた文章を読む</p> <p>新しい世界と出会うために若者は旅立ちます。みなさんもそうして日本に来たのではないのでしょうか。でもどうですか。新しい世界と出会うことができましたか。今回は新しい世界との出会い方について書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。</p>	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：自動詞と他動詞。	4時間
第7回	<p>ロボットについて書かれた文章を読む</p> <p>溶接ロボットをテレビで見たことがある人は少ないと思います。では清掃ロボットは見たことがありますか。今回はロボットについて書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。</p>	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：可能と難易の表現。	4時間
第8回	<p>案内状について書かれた文章を読む</p> <p>みなさんは日本語で書かれた案内状を見たことがありますか。参加資格、申込方法等の情報をそこから素早く読み取ることが出来ますか。今回は案内状について書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。</p>	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：比較の表現。	4時間
第9回	<p>動物の人口論について書かれた文章を読む</p> <p>シマウマを食べるライオンはシマウマにとって敵です。でもそんなライオンがシマウマの絶滅を防いでいると思ったらみなさんは信じてくれますか。今回は動物の人口論について書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。</p>	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：話し手の気持ちを表す表現（義務・勧め・許可・禁止など）。	4時間
第10回	<p>読書について書かれた文章を読む</p> <p>人はなぜ本を読むのでしょうか。ただ単に面白いからでしょうか。実際そう答える子どもは多いです。でもそれが読書の本当の理由なのでしょうか。今回は読書について書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。</p>	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：話し手の気持ちを表す表現（感嘆・詠嘆、感情の強調など）。	4時間
第11回	<p>日本語の特殊拍（長音・促音・撥音）について</p> <p>英語（えいご）の「い」とエジプトの「エ」の発音が同じだって知ってましたか。また「切って下さい」と「来て下さい」をきちんと区別して発音できますか。「女子」と「上司」の区別はどうでしょう。今回は日本語の特殊拍とその表記について学びます。</p>	長音・促音・撥音がどのように発音・表記されるのか、復習しておこう。	4時間
第12回	<p>アクセントについて</p> <p>「亀を飼う」と「壺を買う」の発音の違い、説明できますか。「切って下さい」と「切手下さい」の違いについてはどうですか。実は「歯が生える」と「葉が生える」の違いも日本語話者ならほとんどの場合聞き分けることができます。今回はアクセントについて学びます。</p>	アクセントの3つの型、アクセント核について、復習しておこう。	4時間
第13回	<p>母音の無声化について</p> <p>口（くち）の「く」と組（くみ）の「く」は発音が異なります。「すみません」の最初の「す」と最後の「す」も実は発音が異なります。では、どのような条件のときにこうした違いが生じるのか、説明できますか。今回は母音の無声化について学びます。</p>	母音の無声化が起こる条件について、復習しておこう。	4時間
第14回	<p>熟語における促音化について</p>	熟語における促音化の原則について、復習しておこう。	4時間

学習の「学」と学校の「学」は発音が異なります。一位の「一」と一致の「一」も発音が異なります。では、どのような条件のときにこうした違いが生じるのか、説明できますか。今回は熟語における促音化について学びます。

第15回

日本語の発音のまとめ

これまで4回にわたり学習してきた日本語の拍とアクセントと母音の無声化について復習します。これらが上手に使いこなせるかが日本人みたいな発音で日本語が話せるかどうかを決める決定的な要素です。しっかり取り組みマスターするようにしましょう。

拍とアクセントと母音の無声化について、復習しておこう。

4時間

授業科目名	日本語演習 2 / 日本語 II 【マネジ・芸】				
担当教員名	鍛冶致				
学年・コース等	1年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

日本語の表記（ひらがな、カタカナ、漢字、ローマ字、算用数字、記号）を中心に学習する。また、演習形式も取り入れて日本語能力試験N1合格を目指す。N1合格に必要なのは聴解力と読解力だが、本学では聴解力が合格ラインに達していない受験者は少ないので本講義では読解力の養成に重点をおく。また、読解力の獲得で重要なのは、思考力、「一般知識」、文字・語彙・文法の知識の獲得だが、本講義では思考力（筆者の意図や主張を丁寧に正確に把握し、筋道を立てて選択肢を吟味する力）の獲得を重視する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

身近な話題について書かれた平易な文章を読んで、その主旨を理解することができる。

目標：

日本語能力試験N1において90点を獲得することを目指す。

汎用的な力

- DP6. 行動・実践

自己の学習過程を第三者的な視点から客観的に評価し、それに基づいて次の課題を積極的に自らに課し、主体的かつ自律的に学習を深めていくことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。

成績評価の方法・評価の割合

小テストの自己採点

25%

自習ノート

25%

毎回の授業への取り組み状況

40%

試験（レポート）

10%

評価の基準

： 正確に採点できているか、誰が見ても分かりやすく採点してあるか、間違いが直してあるか等の観点から5回×5点/回=25点満点で評価する。

： 毎週4ページ以上学習しているか、辞書や参考書を活用しているか、自己の目標や興味に合わせて自主的に課題を設定し取り組んでいるか等の観点から5点/回×5回=25点満点で評価する。

： ワークシートを用いながら各回授業への積極的参加や授業態度を独自のルーブリックを基に総合的に評価する。

： 15回の授業で学んだことを独自の視点から整理・要約した上で、そのうち最も興味を持ったテーマを一つ設定して調べ、整理・要約し、考察し、結論を導き出す（1600字）。独創性5点+形式5点=合計10点で評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特に指定しません。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。授業中に誤答の訂正をしてもらうことがあるので、必ず赤ペンを持参すること（蛍光ペン等のマーカーは不可）。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 木曜14:30～16:10

場所： 鍛冶研究室（西館2階）

授業計画

第1回

オリエンテーション：日本語の力を伸ばす方法とは

夏休み中は何をしましたか。日本語を勉強しましたか。どのくらい勉強しましたか。どのような教材で勉強しましたか。この機会に自分の学習方法を見直し、後期の学習計画を立ててみましょう。

A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：否定と疑問の表現。

授業外学修課題にかかる目安の時間

4時間

第2回	害虫の駆除方法について書かれた文章を読む 農業を営む人々にとって作物に被害をおよぼす害虫は大きな悩みです。害虫駆除の方法には、殺してしまう、寄せ付けないの他にもう一つとても有効な方法があります。今回は害虫の駆除方法について書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：とりたて（主題、対比）。	4時間
第3回	インターネットについて書かれた文章を読む インターネットが普及して異なる価値観をもつ人どうしが交流する機会が増えましたが、そのことによるトラブルも増えています。今回はインターネットについて書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：とりたて（評価）。	4時間
第4回	科学と技術の違いについて書かれた文章を読む よく一口に「科学技術」といいますが、科学と技術には大きな違いがあることを知っていますか。今回は科学と技術の違いについて書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：複文（条件）。	4時間
第5回	思い込みの恐ろしさについて書かれた文章を読む 見たいと思っているものは見えるけど、見たくないと思っていることは見えない—そんな経験、ありませんか。科学者も同じです。今回は思い込みの恐ろしさについて書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：複文（逆接・対比）。	4時間
第6回	イベント参加者募集について書かれた文章を読む みなさんは学内のイベントに参加したことがありますか。募集案内を見て、参加方法、参加費用、集合場所等の情報を素早く読み取ることが出来ますか。今回はイベント参加者募集について書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：複文（時間）。	4時間
第7回	専門書と啓蒙書の違いについて書かれた文章を読む 良い専門書であり良い啓蒙書でもある—そのような本を読んだ経験はありますか。そもそも、そのような本を書ける人なんているのでしょうか。今回は専門書と啓蒙書の違いについて書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：待遇表現。	4時間
第8回	社会人について書かれた文章を読む 「社会人」というのはどういう人たちのことをいうのでしょうか。働いている人のことですか。では無職の老人や無職の資産家は社会人ではないのでしょうか。今回は社会人について書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：省略（名詞句の省略・助詞の省略）。	4時間
第9回	個人と国家について書かれた文章を読む 「個」と「私」はそれぞれ「公」とどのように結びついているのでしょうか。また、どう結びつくべきなのでしょうか。今回は個人と国家について書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：名詞・代名詞。	4時間
第10回	今の時代に求められる能力について書かれた文章を読む パソコンやインターネットが普及したことに伴い記憶力や計算力を高める必要性は減ってきているようです。でも、そういう時代だからこそ高めるべき能力があります。今回は今の時代に求められる能力について書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：漢語。	4時間
第11回	呉音と漢音について 日本語の漢字は読み方がたくさんあって面倒だと思ったことはありませんか。例えば「正直」と「正解」の「正」は読み方が異なります。「人間」と「人物」の「人」も読み方が異なります。なぜ異なるのでしょうか。どのような法則があるのでしょうか。今回は呉音と漢音について学びます。	呉音と漢音について、具体的な事例を集め、分類してみよう。	4時間
第12回	唐宋音と慣用音について 漢字の音読みには呉音と漢音の他に唐宋音と慣用音があります。唐宋音の例としては「南京豆」の「京」や「椅子」の「子」があります。慣用の例としては「成立」の「立」や「洗濯」の「洗」があります。今回は唐宋音と慣用音について学びます。	唐宋音と慣用音について、具体的な事例を集め、分類してみよう。	4時間
第13回	日本語のローマ字表記とキーボード入力について キーボードで「デュアルディスプレイをセットアップする」と入力することができるでしょうか。やってみると意外と難しいものです。手も足も出ないという人もいます。でもこれが打てないと就職したとき絶対困ります。今回は日本語のローマ字表記とキーボード入力について学びます。	「デュ」「ヂ」「ツォ」「ティ」の入力方法について、考えてみよう。	4時間
第14回	書き間違えやすい文字について	書き間違いやすいひらがな、カタカナ、漢字、ローマ字、算用数字、記号にはどのようなものがあるか、リストアップしてみよう。	4時間

みなさんは「ゆ」「ふ」「ん」「が」などの平仮名が正しく書けますか。「角」「収」「写」などの漢字はどうですか。「ン」と「ソ」、「ツ」と「シ」、「ワ」と「ク」、「9」と「g」、「1」と「7」、「b」と「6」の書き分けは……。今回は書き間違いやすい文字について学びます。

第15回

日本語の表記のまとめ

これまで4回にわたり学習してきた漢字、仮名、ローマ字、算用数字、記号の読み方や書き方（入力方法を含む）について復習します。「こんな文章ですら打てないのか」「あなたの字は読めない」といわれないよう、しっかり取り組みマスターするようにしましょう。

漢字の様々な読み方、日本語のローマ字表記、書き間違いやすい文字について、復習しておこう。

4時間

授業科目名	日本語演習3/日本語Ⅲ【マネジ・芸】				
担当教員名	鍛冶致				
学年・コース等	2年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

日本語の文法を中心に学習する。特に、動詞や助動詞について体系的に学習する。また、演習形式も取り入れて日本語能力試験N1合格を目指す。N1合格に必要なのは聴解力と読解力だが、本学では聴解力が合格ラインに達していない受験者は少ないので本講義では読解力の養成に重点をおく。また、読解力の獲得で重要なのは、思考力、「一般知識」、文字・語彙・文法の知識の獲得だが、本講義では思考力（筆者の意図や主張を丁寧に正確に把握し、筋道を立てて選択肢を吟味する力）の獲得を重視する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

馴染みのない話題について書かれたやや複雑な文章を読んで、その論旨の展開や表現の意図を理解することができる。

目標：

日本語能力試験N1において100点を獲得することを目指す。

汎用的な力

- DP6. 行動・実践

自己の学習過程を第三者的な視点から客観的に評価し、それに基づいて次の課題を積極的に自らに課し、主体的かつ自律的に学習を深めていくことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- 課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- 実験、実技、実習
- 問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

- 実習や実技に対して個別にコメントします
- 実技・実習後、全体に向けてコメントします
- 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。

成績評価の方法・評価の割合

小テストの自己採点

25%

自習ノート

25%

毎回の授業への取り組み状況

40%

試験（レポート）

10%

評価の基準

： 正確に採点できているか、誰が見ても分かりやすく採点してあるか、間違いが直してあるか等の観点から5回×5点/回=25点満点で評価する。

： 毎週4ページ以上学習しているか、辞書や参考書を活用しているか、自己の目標や興味に合わせて自主的に課題を設定し取り組んでいるか等の観点から5点/回×5回=25点満点で評価する。

： ワークシートを用いながら各回授業への積極的参加や授業態度を独自のルーブリックを基に総合的に評価する。

： 15回の授業で学んだことを独自の視点から整理・要約した上で、そのうち最も興味を持ったテーマを一つ設定して調べ、整理・要約し、考察し、結論を導き出す（1600字）。独創性5点+形式5点=合計10点で評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特に指定しません。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。授業中に誤答の訂正をしてもらうことがあるので、必ず赤ペンを持参すること（蛍光ペン等のマーカーは不可）。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 木曜14:30～16:10

場所： 鍛冶研究室（西館2階）

授業計画

第1回

オリエンテーション：日本語の力を伸ばす方法とは

春休み中は日本語を勉強しましたか。どのように日本語を勉強しましたか。今学期はN1を受験しますか。受ける人は何点を目指しますか。受けない人はいつ受けますか。この機会に自分の学習方法を見直し、前期の学習計画を立ててみましょう。

A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：格助詞。

授業外学修課題にかかる目安の時間

4時間

第2回	学びについて書かれた文章を読む	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：存在・所有を表す表現。	4時間
	学ぶとはいったいどのような活動のことをいうのでしょうか。知識を得てそれを記憶するのも学びの一つですが、それだけでは深く学んだことにはなりません。今回は学びについて書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。		
第3回	リスクやコストをめぐる動物たちのかけひきについて書かれた文章を読む	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：可能を表す表現。	4時間
	鮮やかな色をした動物には往々にして毒があり、捕食者たちはこれらの動物を食べようとはしません。今回はリスクやコストをめぐる動物たちのかけひきについて書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。		
第4回	免疫について書かれた文章を読む	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：「～ていく・～てくる」。	4時間
	免疫力が高い人は病気になりにくいとわれています。では免疫力を高めるにはどうしたらいいか知っていますか。今回は免疫について書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。		
第5回	二分法的な思考法の危うさについて書かれた文章を読む	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：話し手の気持ちを表す表現（意志・願望）。	4時間
	ダイコトミー（ディコトミー）という言葉を知っていますか。これは何でもかんでも1か0かで考えるデジタルな思考様式のことです。二分法とも呼ばれています。今回は二分法的な思考法の危うさについて書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。		
第6回	最近の言葉の「みだれ」について書かれた文章を読む	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：比較（二つを比較するとき・三つを比較するとき）。	4時間
	「やり・もらい」「やる・あげる・さしあげる」などの学習で悩んだ人は多いと思います。でも実は日本人もそれらを適切に使用しているとはいえません。今回は最近の言葉の「みだれ」について書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。		
第7回	親の役割について書かれた文章を読む	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：名詞修飾。	4時間
	子どもの教育で大切なことはいったい何でしょうか。答えを教えることでしょうか。練習を積ませることでしょうか。上達のコツを教えることでしょうか。今回は親の役割について書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。		
第8回	どうしたら「好きなこと」が長続きするかについて書かれた文章を読む	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：複文と接続詞（時間）。	4時間
	みなさんは何をするのが好きですか。いつ頃どのような経緯でそれが好きになったのか覚えていますか。今回はどうしたら「好きなこと」が長続きするかについて書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。		
第9回	動植物の共生について書かれた文章を読む	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：複文と接続詞（条件）。	4時間
	植物と昆虫がときとして共生関係にあるということはみなさんもご存じだと思います。レンゲソウとミツバチなどがその具体例ですね。今回は動植物の共生について書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。		
第10回	食べ物の好き嫌いについて書かれた文章を読む	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：とりたて助詞。	4時間
	食べ物の好き嫌いには「以前それを食べたら吐いた」等の経験に由来するものがあります。そしてそこには合理的な理由があります。今回は食べ物の好き嫌いについて書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。		
第11回	テンスについて	テンスとは何か、ネットで詳しく調べ、整理してみよう。	4時間
	「朝ごはん食べましたか」に対する返事として正しいのは「1)いいえ、食べませんでした」と「2)いいえ、まだ食べていません」のどちらでしょうか——答えは「状況による」です。では、どのような状況のときは1)が正しくて、どのような状況のときは2)が正しいのでしょうか。今回はテンスについて学びます。		
第12回	アスペクトについて	アスペクトとは何か、ネットで詳しく調べ、整理してみよう。	4時間
	「1)すでに勉強している」と「2)いま勉強している」の「ている」はそれぞれ意味が異なります。では「犬が死んでいる」「犬が吠えている」「雪が降っている」「池が凍っている」の「ている」は、それぞれ1)と2)のどちらに分類されるのでしょうか。今回はアスペクトについて学びます。		
第13回	ヴォイスについて	ヴォイスとは何か、ネットで詳しく調べ、整理してみよう。	4時間
	「その仕事、ぜひ私どもにやらせて下さい」「飲まされるのが嫌だったので先に帰らせてもらった」「いま課長に辞められたらこのプロジェクトは終わりですよ」など、ヴォイスが使いこなせるようになると、表現の幅がぐっと広がります。今回はアスペクトについて学びます。		
第14回	自動詞と他動詞について	自動詞と他動詞のペアを10個以上書き出してみよう。	4時間

「お金がためて、旅行に行きたいです」「お金をもうかって、家を建てました」——どこが変ですね。どこが変だか説明できますか。自動詞と他動詞の使い分けは本当に面倒ですが、これが区別できなようでは日本語ができるようになったとはいえません。今回は自動詞と他動詞について学びます。

第15回

授受動詞について

“He gave me an apple, so I gave him an orange.” を日本語に直すと「彼がリンゴをくれたので、私はミカンをあげた」となりますが、「くれた」と「あげた」の違いは何なのでしょう。なぜ‘gave’が「くれた」と訳されたり「あげた」と訳されたりするのでしょうか。今回は授受動詞について学びます。

「あげる」「もらう」「くれる」の違いについて調べてみよう。

4時間

授業科目名	日本語演習 4 / 日本語Ⅳ【マネジ・芸】				
担当教員名	鍛冶致				
学年・コース等	2年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

日本語の文法を中心に学習する。特に、助詞や形式名詞について体系的に学習する。また、演習形式も取り入れて日本語能力試験N1合格を目指す。N1合格に必要なのは聴解力と読解力だが、本学では聴解力が合格ラインに達していない受験者は少ないので本講義では読解力の養成に重点をおく。また、読解力の獲得で重要なのは、思考力、「一般知識」、文字・語彙・文法の知識の獲得だが、本講義では思考力（筆者の意図や主張を丁寧に正確に把握し、筋道を立てて選択肢を吟味する力）の獲得を重視する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

馴染みのない話題について書かれたやや複雑な文章を読んで、その論旨の展開や表現の意図を理解することができる。

目標：

日本語能力試験N1において110点を獲得することを目指す。

汎用的な力

- DP6. 行動・実践

自己の学習過程を第三者的な視点から客観的に評価し、それに基づいて次の課題を積極的に自らに課し、主体的かつ自律的に学習を深めていくことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- 課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- 実験、実技、実習
- 問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

- 実習や実技に対して個別にコメントします
- 実技・実習後、全体に向けてコメントします
- 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

小テストの自己採点	25%	： 正確に採点できているか、誰が見ても分かりやすく採点してあるか、間違いが直してあるか等の観点から5回×5点/回=25点満点で評価する。
自習ノート	25%	： 毎週4ページ以上学習しているか、辞書や参考書を活用しているか、自己の目標や興味に合わせて自主的に課題を設定し取り組んでいるか等の観点から5点/回×5回=25点満点で評価する。
毎回の授業への取り組み状況	40%	： ワークシートを用いながら各回授業への積極的参加や授業態度を独自のルーブリックを基に総合的に評価する。
試験（レポート）	10%	： 15回の授業で学んだことを独自の視点から整理・要約した上で、そのうち最も興味を持ったテーマを一つ設定して調べ、整理・要約し、考察し、結論を導き出す（1600字）。独創性5点+形式5点=合計10点で評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特に指定しません。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。授業中に誤答の訂正をしてもらうことがあるので、必ず赤ペンを持参すること（蛍光ペン等のマーカーは不可）。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 木曜14:30～16:10
場所： 鍛冶研究室（西館2階）

授業計画

第1回 **オリエンテーション：日本語の力を伸ばす方法とは**

夏休み中は何をしましたか。日本語を勉強しましたか。どのくらい勉強しましたか。どのような教材で勉強しましたか。この機会に自分の学習方法を見直し、後期の学習計画を立ててみましょう。

A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：関連づけ（のだ・のです・のだろう・のかもしれない）。

授業外学修課題にかかる目安の時間

4時間

第2回	読書と想像力について書かれた文章を読む	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：立場を表す表現（ヴォイス：受け身・使役・使役受け身）。	4時間
	この世にも辞書がなかったら、読書はもっと「スリリング」なものになるに違いない。分からない単語や言葉が出てくるからこそ想像力が鍛えられるのだ——今回は読書と想像力について書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。		
第3回	民法について書かれた文章を読む	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：敬語（素材敬語と対者敬語）。	4時間
	経済活動のどの側面に注目するのは、経済学と法学で大きく異なっています。経済学なら需要と供給の変動が価格をどう変動させるかに注目するはずで、では法学は……。今回は民法について書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。		
第4回	都市の魅力について書かれた文章を読む	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：活用（語幹と活用、不規則な活用をする形容詞）。	4時間
	「ストリートライフ」という言葉を聞いたことはありますか。路上で生活するという意味ではありません。単なる景観でもありません。今回は都市の魅力について書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。		
第5回	動物の利他的行動について書かれた文章を読む	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：動詞（方向性・状態性・意志性）。	4時間
	人はみな助け合って生きています。見返りを期待して相手を助けることもあります。では動物はどうでしょうか。今回は動物の利他的行動について書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。		
第6回	二酸化炭素について書かれた文章を読む	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：副詞（陳述副詞・程度副詞・様態副詞）。	4時間
	二酸化炭素が温室効果ガスであることはみなさんも知っているでしょう。では大気中に放出された二酸化炭素がその後どこへ行くか知っていますか。今回は二酸化炭素について書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。		
第7回	家族とプライバシーについて書かれた文章を読む	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。キーワード：接辞（～らしい、～っぽい、～まる・める）。	4時間
	みなさんはどのような間取りの家で育ちましたか。目的や機能別に仕切られた小さな部屋が多い家でしたか。今回は家族とプライバシーについて書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。		
第8回	「ある恐ろしい実験」について書かれた文章を読む	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。格助詞（手段・原因・根拠・情報源）	4時間
	あることが好きだからあることをする——これが内発的な動機による行動です。ではその行動を賞罰と結びつけた場合、いったいどのようなことが起こるのでしょうか。今回は「ある恐ろしい実験」について書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。		
第9回	鳥類の卵について書かれた文章を読む	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。格助詞（複合格助詞）	4時間
	鳥類の卵はどんな色をしていますか。白、茶色、青、緑……。ではそれらの色が何に由来しているか知っていますか。今回は鳥類の卵について書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。		
第10回	第一言語と第二言語について書かれた文章を読む	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。立場を表す表現（直接受け身文と間接受け身文）	4時間
	みなさんの母語（第一言語）は何語ですか。いずれにしても、みなさんの日本語の会話力や読解力が母語の会話力や読解力を上回ることは通常ありえません。今回は第一言語と第二言語について書かれた文章をみんなで読み進めることを通じて読解力の向上を図ります。		
第11回	対象を表す複合格助詞について	「にたいして」「をめぐって」「にかかわる」等について復習しておこう。	4時間
	「日本語は私にたいして難しい言語です」「今日は年金問題をめぐって説明します」——これらの文のどこがどう間違っているか、分かりますか。複合格助詞にはそれが用いられるのにふさわしい条件がありますが、今回は手段などを表す複合格助詞について学びます。		
第12回	手段などを表す複合格助詞について	「によって」「とあって」「によると」「に即して」等について復習しておこう。	4時間
	「寝坊によって授業を休みました」「昼休みとあって道が空いている」——これらの文のどこがどう間違っているか、分かりますか。複合格助詞にはそれが用いられるのにふさわしい条件がありますが、今回は手段などを表す複合格助詞について学びます。		
第13回	状況を表す複合格助詞について	「において」「にわたって」「いかんで」「をとわず」等について復習しておこう。	4時間
	「テストの結果いかんで進学先を決めます」「5月にわたって雨がほとんど降らなかった」——これらの文のどこがどう間違っているか、分かりますか。複合格助詞にはそれが用いられるのにふさわしい条件がありますが、今回は手段などを表す複合格助詞について学びます。		
第14回	形式名詞について	「こと」「もの」「ところ」等の使い方を整理してみよう。	4時間

名詞本来の意味が抽象化されて文法的機能をもつようになった成分を形式名詞といいます。「いま準備しているところです」「もう少しで死ぬところでした」の「ところ」、「よくここで遊んだものだ」「こんなときは素直に礼をいうものだ」の「もの」などがそれに当たります。今回は形式名詞について学びます。

第15回

まとめ：2年間の振り返り

2年間にわたり日本語を学習してきましたが、みなさんの日本語力はどれだけ向上したでしょうか。今回は2年間の学習内容を振り返るとともに、簡単なテストを実施することを通じてみなさんの日本語力がどれだけ向上したのかを検証し、今後2年間の学習計画を立ててもらおうと思います。

大学入学後、自分の日本語力がどれだけ向上したのか確認するとともに、今後の日本語の学習計画を立ててみよう。

4時間

授業科目名	総合日本語				
担当教員名	鍛冶致				
学年・コース等	3・4年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

ビジネスの場面では「もっと安くして下さい」よりも「こう言うのはなんですが、上を説得するには価格がちょっと……」等の主体性を薄めた言い回し（しかも最後まで言い切らない）が好まれるが、ここで言う「上」とは「上司」のことであり、「こう言うのはなんですが」の「なん」は「これはなんですか」の「なん」とは発音が異なる。このように、本講義ではビジネスの場で多用される語彙や言い回しを学ぶ他、発音の矯正を徹底して行う。さらに、基本的な文法事項の復習もするので、日本企業に就職予定の学生はぜひ選択して欲しい。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	ビジネス日本語会話の習得	ビジネスで求められる日本語を理解し、また使用することができる。
汎用的な力		
1．DP7. 完遂		日本語のビジネス対話文（台本）の暗記に挑み、自分に割り振られた役を最後まで演じることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。

成績評価の方法・評価の割合

ビジネス対話文の暗記と実演

評価の基準

： 流暢かつ正確に日本語が話せたか（4回×5点/回=20点）、きちんと暗記していたか（4回×5点/回=20点）、気持ちを込めて演じることができたか（4回×5点/回=20点）という観点から60点満点で評価する。

50%

毎回の授業への取り組み状況

： ワークシートを用いながら各回授業への積極的参加や授業態度を独自のルーブリックを基に総合的に評価する。

40%

試験（レポート）

： 15回の授業で学んだことを独自の視点から整理・要約した上で、そのうち最も興味を持ったテーマを一つ設定して調べ、整理・要約し、考察し、結論を導き出す（1600字）。独創性5点+形式5点=合計10点で評価する。

10%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

『人を動かす！実戦ビジネス日本語会話：上級』／瀬川由美・北村貞幸・紙谷幸子／スリーエーネットワーク／2008年

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。授業中に誤答の訂正をしてもらうことがあるので、必ず赤ペンを持参すること（蛍光ペン等のマーカーは不可）。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 木曜14:30～16:10
場所： 鍛冶研究室（西館2階）

授業計画

回数	授業計画	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<p>アポイントメント（ロールプレイにチャレンジ）</p> <p>電話でお客様と話す場合、表情や身振りでのコミュニケーションができないだけに、丁寧な言葉遣いはもちろん、用件を述べる前に必要な前置きやあいづちがより重要になってきます。今回はそうした表現と戦略を学習します。</p>	<p>A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。ポイント：「電話でのあいさつ」「事情説明→面会の申し入れ」。</p> <p>4時間</p>
第2回	<p>アポイントメント（実践会話）</p>	<p>A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。ポイント：「面会の日時について相手の都合を聞く」「日時の確認→終わりのあいさつ」。</p> <p>4時間</p>

	ユニ電子のローランさんは新商品のカタログを紹介するために、懇意にしている取引先の北柴電気営業部の大木さんに電話して面会の約束を取りつけます——今回はこの流れに沿って実践会話を組み立ててみましょう。		
第3回	業務引継 (ロールプレイにチャレンジ) 城氏の出張や移動などで、仕事の引き継ぎを指示された場合、その指示にあいづちを内ながら、わからない点についてタイミング良く聞き返して確認したり、その場でポイントを絞って簡潔に質問したり、指示を仰いだりできる会話力が必要です。今回はそうした表現と戦略を学習します。	ポイント：「切り出す→事情説明→引き継ぎを指示する」「仕事の内容を順に指示する→あいづちを内ながら、確認・質問し、指示を仰ぐ」。	4時間
第4回	業務引継 (実践会話) ある機械メーカーの営業部課長のチンさんは、出張のため、部下の岡田さんに引き継ぎを指示する——今回はこの流れに沿って実践会話を組み立ててみましょう。	A4版ノート (ルーズリーフ不可) に今回の授業で (あるいはそれ以外の機会に) 学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。ポイント：「緊急時の連絡先を指示する→質問の有無を確認する→話を切り上げる」。	4時間
第5回	面会して交渉する (ロールプレイにチャレンジ) 交渉では押したり引いたり駆け引きが重要です。相手をたてながら意向をうかがい、自分に有利な方向に話を持って行くことが重要です。今回そうした表現と戦略を学習します。	A4版ノート (ルーズリーフ不可) に今回の授業で (あるいはそれ以外の機会に) 学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。ポイント：「訪問のあいさつ→世間話」「本第の切り出し→交渉 (お互いの立場を主張する)」。	4時間
第6回	面会して交渉する (実践会話) ムーン産業は、借り入れコスト圧縮のため、懇意にしている日東銀行から低い金利で借り入れ、馬あるウエスト銀行からの借入金を返済することを考えている——今回はこの流れに沿って実践会話を組み立ててみましょう。	A4版ノート (ルーズリーフ不可) に今回の授業で (あるいはそれ以外の機会に) 学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。ポイント：「相手の意向を探りながら譲歩する」「返事を留保する→終わりのあいさつ」。	4時間
第7回	個人客からの苦情 (ロールプレイにチャレンジ) 商品やサービスへの不満など個人客からの苦情 (クレーム) を受けた場合、相手の言いたいことを十分聞いて、一つ一つの言葉や言い方に最新の注意を払わなければなりません。今回はそうした表現と戦略を学習します。	A4版ノート (ルーズリーフ不可) に今回の授業で (あるいはそれ以外の機会に) 学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。ポイント：「電話で苦情を受ける」。	4時間
第8回	個人客からの苦情 (実践会話) 携帯電話会社EK社のお客様サービスセンター担当者のユンさんが、利用客 (小林) から苦情の電話を受け取る——今回はこの流れに沿って実践会話を組み立ててみましょう。	A4版ノート (ルーズリーフ不可) に今回の授業で (あるいはそれ以外の機会に) 学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。ポイント：「わびながら自社の立場を説明する」「回答を保留する」。	4時間
第9回	個人客からの苦情を上司に引き継ぐ (ロールプレイにチャレンジ) 商品やサービスへの不満など個人客からの苦情 (クレーム) を受けた場合、状況によっては上司に引き継ぐことも必要になってきます。今回はそうした表現と戦略を学習します。	A4版ノート (ルーズリーフ不可) に今回の授業で (あるいはそれ以外の機会に) 学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。ポイント：「苦情を言ってきた客を上司に引き継ぐ」「電話でのあいさつ→わびながら自社の立場を説明する」。	4時間
第10回	個人客からの苦情を上司に引き継ぐ (実践会話) ユンさんは利用客 (小林) から苦情の電話を受けたが、相手が納得しなかったので、課長のチェさんに事情を話して対応を頼む。課長はユンさんに代わって客の対応にあたる——今回はこの流れに沿って実践会話を組み立ててみましょう。	A4版ノート (ルーズリーフ不可) に今回の授業で (あるいはそれ以外の機会に) 学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。ポイント：「善後策を提示し、理解を求めると終わりのあいさつ」。	4時間
第11回	トラブル処理 (ロールプレイにチャレンジ) 取引先からのクレーム対応での基本は、相手の話を十分に聞いて、問題点を把握し、自社の事情も説明しながら速やかに解決を図ることです。今回はそうした表現と戦略を学習します。	A4版ノート (ルーズリーフ不可) に今回の授業で (あるいはそれ以外の機会に) 学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。ポイント：「電話でのあいさつ→トラブルの発生」「相手に配慮しながらトラブルの内容を尋ねる→問題の詳細を把握し、速やかに対応する」。	4時間
第12回	トラブル処理 (実践会話) みなと電機営業部の藤田さんは、取引先である北東設備工業のシュルツさんから、北東設備を通して東都セントラルに納入した空調設備の支払い延期について電話で依頼される——今回はこの流れに沿って実践会話を組み立ててみましょう。	A4版ノート (ルーズリーフ不可) に今回の授業で (あるいはそれ以外の機会に) 学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。ポイント：「おわび→困っている状況を聞く」「速やかな解決を約束する→終わりのあいさつ」。	4時間
第13回	トラブル処理を上司に報告する (ロールプレイにチャレンジ) 取引先とのトラブル解決にあたっては、上司へ報告しながら質問に答えたり、上司からの指示を仰ぐことが大切です。また、対応が不十分だった場合、上司から注意を受けることもあります。今回はそうした表現と戦略を学習します。	A4版ノート (ルーズリーフ不可) に今回の授業で (あるいはそれ以外の機会に) 学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。ポイント：「切り出す→上司に報告する」。	4時間

第14回	トラブル処理を上司に報告する（実践会話）	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。ポイント：「上司から注意・指示を受ける」。	4時間
	シュルツさんから空調設備の支払い延期について電話で依頼された藤田さんは、その後課長に報告するが、一連の対応について注意・指示される——今回はこの流れに沿って実践会話を組み立ててみましょう。		
第15回	謝絶する（ロールプレイにチャレンジ）	A4版ノート（ルーズリーフ不可）に今回の授業で（あるいはそれ以外の機会に）学んだ語彙や表現や文法事項をまとめてください。その際、必ず辞書や参考書を活用すること。毎週4ページ以上書くこと。ポイント：「訪問のあいさつ→本題を切り出し、謝絶の事情説明をする」「相手に配慮しながら今回の経緯について話す」「今後のつきあいを踏まえたやりとり→終わりのあいさつ」。	4時間
	取引先からの新しい取引を断る場合、何よりも大切なのは今後も良好な関係を維持するために誠意をもって対応することです。今回はそうした表現と戦略を学習します。		

授業科目名	英語基礎 I				
担当教員名	佐々木緑・藤本恵子・國方太司・竹内ニコール・高橋昌由				
学年・コース等	1年	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

本授業は、英語で他者とコミュニケーションをとるために、総合的な4技能（リスニング、リーディング、スピーキング、ライティング）を向上させることを目的とします。テーマについての知識や語彙だけでなく、英文から情報を読み取る・聞き取るスキルや、わかりやすく伝えるための文法や文章構成などについても学びます。「使える英語」の習得を目指して、場面に応じた会話練習や、英語でのスピーチ、プレゼンテーション、文章作成などに取り組みます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- DP1. 幅広い教養やスキル

汎用的な力

- DP8. 意思疎通
- DP10. 忠恕の心

具体的内容：

他者とコミュニケーションを取るための英語力

目標：

4技能を用いて、英語で情報の発信・受信ができる。

英語で他者との意思疎通ができる。

ペア、グループワークにおいて、他者を尊重しながら、自らの役割を遂行することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・ 協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・ 発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実習や実技に対して個別にコメントします
- ・ 実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。
語学の習得には継続した学習が大切です。
欠席した場合は各自で課題等を教員に確認してください。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

プレゼンテーション等のパフォーマンス課題	50%	授業内に実施するパフォーマンス課題（学生が英語でアウトプットするもの）について、内容、発音、発表態度、積極的に参加できたか等を総合的に評価します。
授業課題、積極的な授業活動への参加	25%	授業内および宿題として出された課題について、内容、分量等を評価します。
定期試験	25%	15回の授業で学んだ、テキストや言語活動の内容に関して出題される筆記試験の結果で評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
Jann Huizenga and Linda Huizenga	TOTALLY TRUE BOOK 2	OXFORD UNIVERSITY PRESS	2005年

参考文献等

授業で指示します。

履修上の注意・備考・メッセージ

- ・ 教科書、ノート、辞書を持参すること。
- ・ 授業には、積極的・意欲的に取り組むこと。
- ・ 携帯電話、スマートフォンは指示した時以外は使用を禁じます。
- ・ 授業は予習を前提として行われます。また、授業後は丁寧に復習しておいてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 佐々木（火4限）、國方（月4限）、高橋（水2限）

場所： 研究室・教室

備考・注意事項： 非常勤講師担当のクラス（藤本、竹内）については、授業の前後の時間に、教室や非常勤講師室で、また講義日以外にはEメールで質問を受け付けます。

授業計画

回	内容	授業準備課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	オリエンテーション 授業の進め方の説明、授業の約束事の確認	授業準備課題	1時間
第2回	リーディング&リスニング課題1（1） 語彙、内容確認、リスニング、精読とサマリー作成	予習・復習課題	1時間
第3回	リーディング&リスニング課題1（2） ディスカッションとミニレポート	予習・復習課題	1時間
第4回	リーディング&リスニング課題2（1）	予習・復習課題	1時間

	語彙、内容確認、リスニング、精読とサマリー作成		
第5回	リーディング&リスニング課題2(2) ディスカッションとミニレポート	予習・復習課題	1時間
第6回	リーディング&リスニング課題3(1) 語彙、内容確認、リスニング、精読とサマリー作成	予習・復習課題	1時間
第7回	リーディング&リスニング課題3(2) ディスカッションとミニレポート	予習・復習課題	1時間
第8回	ミニ・プレゼンテーション(1) 発表準備、発表(事前練習)	発表の準備/練習	1時間
第9回	ミニ・プレゼンテーション(2) 発表(本番)、分析、講評	予習・復習課題	1時間
第10回	リーディング&リスニング課題4(1) 語彙、内容確認、リスニング、精読とサマリー作成	予習・復習課題	1時間
第11回	リーディング&リスニング課題4(2) ディスカッションとミニレポート	予習・復習課題	1時間
第12回	リーディング&リスニング課題5(1) 語彙、内容確認、リスニング、精読とサマリー作成	予習・復習課題	1時間
第13回	リーディング&リスニング課題5(2) ディスカッションとミニレポート	予習・復習課題	1時間
第14回	テーマに基づくプレゼンテーション(1) 発表準備	発表の準備・練習	1時間
第15回	テーマに基づくプレゼンテーション(2) 発表、講評、まとめ	定期試験準備	1時間

授業科目名	英語基礎Ⅱ				
担当教員名	佐々木緑・藤本恵子・國方太司・竹内ニコール・高橋昌由				
学年・コース等	1・2	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

本授業は、英語で他者とコミュニケーションをとるために、総合的な4技能（リスニング、リーディング、スピーキング、ライティング）を向上させることを目的とします。テーマについての知識や語彙だけでなく、英文から情報を読み取る・聞き取るスキルや、わかりやすく伝えるための文法や文章構成などについても学びます。「使える英語」の習得を目指して、場面に応じた会話練習や、英語でのスピーチ、プレゼンテーション、文章作成などに取り組みます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- DP1. 幅広い教養やスキル

汎用的な力

- DP8. 意思疎通
- DP10. 忠恕の心

具体的内容：

他者とコミュニケーションを取るための英語力

目標：

4技能を用いて、英語で情報の発信・受信ができる。

英語で他者との意思疎通ができる。

ペア、グループワークにおいて、他者を尊重しながら、自らの役割を遂行することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・ 協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・ 発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実習や実技に対して個別にコメントします
- ・ 実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。
語学の習得には継続した学習が大切です。
欠席した場合は各自で課題等を教員に確認してください。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

プレゼンテーション等のパフォーマンス課題	50%	： 授業内に実施するパフォーマンス課題（学生が英語でアウトプットするもの）について、内容、発音、発表態度、積極的に参加できたか等を総合的に評価します。
授業課題、積極的な授業活動への参加	25%	： 授業内および宿題として出された課題について、内容、分量等を評価します。
定期試験	25%	： 15回の授業で学んだ、テキストや言語活動の内容に関して出題される筆記試験の結果で評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
Jann Huizenga and Linda Huizenga	TOTALLY TRUE BOOK 2	OXFORD UNIVERSITY PRESS	2005年

参考文献等

授業で指示します。

履修上の注意・備考・メッセージ

- ・ 教科書、ノート、辞書を持参すること。
- ・ 授業には、積極的・意欲的に取り組むこと。
- ・ 携帯電話、スマートフォンは指示した時以外は使用を禁じます。
- ・ 授業は予習を前提として行われます。また、授業後は丁寧に復習しておいてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 佐々木（火4限）、國方（月4限）、高橋（水5限）

場所： 研究室・教室

備考・注意事項： 非常勤講師担当のクラス（藤本、竹内）については、授業の前後の時間に、教室や非常勤講師室で、また講義日以外にはEメールで質問を受け付けます。

授業計画

回	授業内容	授業の予習課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	オリエンテーション 授業の進め方の説明、授業の約束事の確認	授業の予習課題	1時間
第2回	リーディング/リスニング課題6（1） 語彙、内容確認、リスニング、精読とサマリー作成	授業の復習・予習課題	1時間
第3回	リーディング/リスニング課題6（2） ディスカッションとミニレポート	授業の復習・予習課題	1時間
第4回	リーディング/リスニング課題7（1）	授業の復習・予習課題	1時間

語彙、内容確認、リスニング、精読とサマリー作成			
第5回	リーディング/リスニング課題7(2) ディスカッションとミニレポート	授業の復習・予習課題	1時間
第6回	ミニ・プレゼンテーション(1) 発表準備、発表(事前練習)	発表準備	1時間
第7回	ミニ・プレゼンテーション(2) 発表、講評	授業の予習課題	1時間
第8回	リーディング/リスニング課題8 内容確認、サマリー作成、ディスカッション	授業の復習・予習課題	1時間
第9回	リーディング/リスニング課題9 内容確認、サマリー作成、ディスカッション	授業の復習・予習課題	1時間
第10回	リーディング/リスニング課題10 内容確認、サマリー作成、ディスカッション	授業の復習・予習課題	1時間
第11回	リーディング/リスニング課題11(1) 内容確認、サマリー作成、ディベート準備	ディベート準備・練習	1時間
第12回	リーディング/リスニング課題11(2) ディベート	プレゼンテーションの準備	1時間
第13回	プレゼンテーション(1) プレゼンテーション準備(テーマの設定、発表のルールの確認、資料準備など)	プレゼンテーションの準備	1時間
第14回	プレゼンテーション(2) 発表(事前練習)	プレゼンテーションの練習	1時間
第15回	プレゼンテーション(3) 発表(本番)、講評、授業のまとめ	定期試験の準備	1時間

授業科目名	英語演習 I				
担当教員名	片山美穂・北村千絵・竹内ニコール				
学年・コース等	2年	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

本授業は、英語で他者とコミュニケーションをとるために、総合的な4技能（リスニング、リーディング、スピーキング、ライティング）を向上させることを目的とします。テーマについての知識や語彙だけでなく、英文から情報を読み取る・聞き取るスキルや、わかりやすく伝えるための文法や文章構成などについても学びます。「使える英語」の習得を目指して、場面に応じた会話練習や、英語でのスピーチ、プレゼンテーション、文章作成などに取り組みます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- DP1. 幅広い教養やスキル

汎用的な力

- DP8. 意思疎通
- DP10. 忠恕の心

具体的内容：

他者とコミュニケーションを取るための英語力

目標：

4技能を用いて、英語で情報の発信・受信ができる。

英語で他者との意思疎通ができる。

ペア、グループワークにおいて、他者を尊重しながら、自らの役割を遂行することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。
語学の習得には継続した学習が大切です。
欠席した場合は各自で課題等を教員に確認してください。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

プレゼンテーション等のパフォーマンス課題	50%	授業内に実施するパフォーマンス課題（学生が英語でアウトプットするもの）について、内容、発音、発表態度、積極的に参加できたか等を総合的に評価します。
授業課題、積極的な授業活動への参加	25%	授業内および宿題として出された課題について、内容、分量等を評価します。
定期試験	25%	15回の授業で学んだ、テキストや言語活動の内容に関して出題される筆記試験の結果で評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
Jann Huizenga and Linda Huizenga	Totally True Book 3	OXFORD UNIVERSITY PRESS	2005年

参考文献等

授業で指示します。

履修上の注意・備考・メッセージ

- ・教科書、ノート、辞書を持参すること。
- ・授業には、積極的・意欲的に取り組むこと。
- ・携帯電話、スマートフォンは指示した時以外は使用を禁じます。
- ・授業は予習を前提として行われます。また、授業後は丁寧に復習しておいてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜日4限（片山）

場所： 授業教室・研究室

備考・注意事項： 非常勤講師担当のクラス（北村、竹内）については、授業の前後の時間に、教室や非常勤講師室で、また講義日以外にはEメールで質問を受け付けます。

授業計画

回	内容	授業の復習・予習課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	オリエンテーション コミュニケーション活動 ・授業の進め方 ・授業の準備物、課題等について説明します この授業を受講する者は必ず当オリエンテーションに出席すること ・コミュニケーション活動	授業の復習・予習課題	1時間
第2回	リーディング・リスニング課題1（1） ・内容理解（Reading and Listening） ・内容要約（Speaking and Writing）	授業の復習・予習課題	1時間

第3回	リーディング・リスニング課題1 (2) ・内容に関する意見交換 (Speaking) ・内容/テーマに関する (Writing)	授業の復習・予習課題	1時間
第4回	リーディング・リスニング課題2 (1) ・内容理解 (Reading and Listening) ・内容要約 (Speaking and Writing)	授業の復習・予習課題	1時間
第5回	リーディング・リスニング課題2 (2) ・内容に関する意見交換 (Speaking) ・内容/テーマに関する (Writing) ・パフォーマンス課題 (1) の説明と準備	パフォーマンス課題の準備	1時間
第6回	パフォーマンス課題 (1) ・第2 - 5 回目の授業の内容に関連したパフォーマンス活動を行う ・発表後には簡単な質疑応答を行う ・相互評価と振り返り (他者からの評価を参考にし、自己評価を行い、今後の改善点を考える)	授業の予習課題	1時間
第7回	リーディング・リスニング課題3 (1) ・内容理解 (Reading and Listening) ・内容要約 (Speaking and Writing)	授業の復習・予習課題	1時間
第8回	リーディング・リスニング課題3 (2) ・内容に関する意見交換 (Speaking) ・内容/テーマに関する (Writing)	授業の復習・予習課題	1時間
第9回	リーディング・リスニング課題4 (1) ・内容理解 (Reading and Listening) ・内容要約 (Speaking and Writing)	授業の復習・予習課題	1時間
第10回	リーディング・リスニング課題4 (2) ・内容に関する意見交換 (Speaking) ・内容/テーマに関する (Writing) ・パフォーマンス課題 (2) の説明と準備	パフォーマンス課題 (2) の準備	1時間
第11回	パフォーマンス課題 (2) ・第7 - 10 回目の授業の内容に関連したパフォーマンス活動を行う ・発表後には簡単な質疑応答を行う ・相互評価と振り返り (他者からの評価を参考にし、自己評価を行い、今後の改善点を考える)	授業の復習・予習課題	1時間
第12回	リーディング・リスニング課題5 (1) ・内容理解 (Reading and Listening) ・内容要約 (Speaking and Writing)	授業の復習・予習課題	1時間
第13回	リーディング・リスニング課題5 (2) ・内容に関する意見交換 (Speaking) ・内容/テーマに関する (Writing) ・パフォーマンス課題 (3) の説明と準備	パフォーマンス課題 (3) の準備	1時間
第14回	パフォーマンス課題 (3) ・第1 - 14 回目の授業の内容に関連したパフォーマンス活動を行う ・発表後には簡単な質疑応答を行う ・相互評価と振り返り (他者からの評価を参考にし、自己評価を行い、今後の改善点を考える)	・授業の復習 ・期末試験に向けての学習	1時間
第15回	学期の復習と振り返り 学期の復習と振り返り	・英語演習 I 全体の復習 ・期末試験に向けての学習	1時間

授業科目名	英語演習Ⅱ				
担当教員名	片山美穂・長瀬慶来・片岡晴美・竹内ニコール				
学年・コース等	2年	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

本授業は、英語で他者とコミュニケーションをとるために、総合的な4技能（リスニング、リーディング、スピーキング、ライティング）を向上させることを目的とします。テーマについての知識や語彙だけでなく、英文から情報を読み取る・聞き取るスキルや、わかりやすく伝えるための文法や文章構成などについても学びます。「使える英語」の習得を目指して、場面に応じた会話練習や、英語でのスピーチ、プレゼンテーション、文章作成などに取り組みます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- DP1. 幅広い教養やスキル

汎用的な力

- DP8. 意思疎通
- DP10. 忠恕の心

具体的内容：

他者とコミュニケーションを取るための英語力

目標：

4技能を用いて、英語で情報の発信・受信ができる。

英語で他者との意思疎通ができる。

ペア、グループワークにおいて、他者を尊重しながら、自らの役割を遂行することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。
語学の習得には継続した学習が大切です。
欠席した場合は各自で課題等を教員に確認してください。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

プレゼンテーション等のパフォーマンス課題	50%	授業内に実施するパフォーマンス課題（学生が英語でアウトプットするもの）について、内容、発音、発表態度、積極的に参加できたか等を総合的に評価します。
授業課題、積極的な授業活動への参加	25%	授業内および宿題として出された課題について、内容、分量等を評価します。
定期試験	25%	15回の授業で学んだ、テキストや言語活動の内容に関して出題される筆記試験の結果で評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
Jann Huizenga and Linda Huizenga	Totally True Book 3	OXFORD UNIVERSITY PRESS	2005年

参考文献等

授業で指示します。

履修上の注意・備考・メッセージ

- ・教科書、ノート、辞書を持参すること。
- ・授業には、積極的・意欲的に取り組むこと。
- ・携帯電話、スマートフォンは指示した時以外は使用を禁じます。
- ・授業は予習を前提として行われます。また、授業後は丁寧に復習しておいてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	水曜日4限（片山）、水曜日3限（長瀬）
場所：	授業教室・研究室
備考・注意事項：	非常勤講師担当のクラス（片岡、竹内）については、授業の前後の時間に、教室や非常勤講師室で、また講義日以外にはEメールで質問を受け付けます。

授業計画

回	内容	授業の復習・予習課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	オリエンテーション コミュニケーション活動 ・授業の進め方 ・授業の準備物、課題等について説明します この授業を受講する者は必ず当オリエンテーションに出席すること ・コミュニケーション活動	授業の復習・予習課題	1時間
第2回	リーディング・リスニング課題6（1） ・内容理解（Reading & Listening） ・内容要約（Speaking & Writing）	授業の復習・予習課題	1時間

第3回	リーディング・リスニング課題6(2) ・内容に関する意見交換(Speaking) ・内容/テーマに関する(Writing)	授業の復習・予習課題	1時間
第4回	リーディング・リスニング課題7(1) ・内容理解(Reading & Listening) ・内容要約(Speaking & Writing)	授業の復習・予習課題	1時間
第5回	リーディング・リスニング課題7(2) ・内容に関する意見交換(Speaking) ・内容/テーマに関する(Writing) ・パフォーマンス課題(1)の説明と準備	パフォーマンス課題の準備	1時間
第6回	パフォーマンス課題(1) ・第2-5回目の授業の内容に関連したパフォーマンス活動を行う ・発表後には簡単な質疑応答を行う ・相互評価と振り返り(他者からの評価を参考にし、自己評価を行い、今後の改善点を考える)	授業の予習課題	1時間
第7回	リーディング・リスニング課題8(1) ・内容理解(Reading & Listening) ・内容要約(Speaking & Writing)	授業の復習・予習課題	1時間
第8回	リーディング・リスニング課題8(2) ・内容に関する意見交換(Speaking) ・内容/テーマに関する(Writing)	授業の復習・予習課題	1時間
第9回	リーディング・リスニング課題9(1) ・内容理解(Reading & Listening) ・内容要約(Speaking & Writing)	授業の復習・予習課題	1時間
第10回	リーディング・リスニング課題9(2) ・内容に関する意見交換(Speaking) ・内容/テーマに関する(Writing) ・パフォーマンス課題(2)の説明と準備	パフォーマンス課題(2)の準備	1時間
第11回	パフォーマンス課題(2) ・第7-10回目の授業の内容に関連したパフォーマンス活動を行う ・発表後には簡単な質疑応答を行う ・相互評価と振り返り(他者からの評価を参考にし、自己評価を行い、今後の改善点を考える)	授業の復習・予習課題	1時間
第12回	リーディング・リスニング課題10(1) ・内容理解(Reading & Listening) ・内容要約(Speaking & Writing)	授業の復習・予習課題	1時間
第13回	リーディング・リスニング課題10(2) ・内容に関する意見交換(Speaking) ・内容/テーマに関する(Writing) ・パフォーマンス課題(3)の説明と準備	パフォーマンス課題(3)の準備	1時間
第14回	パフォーマンス課題(3) ・第1-14回目の授業の内容に関連したパフォーマンス活動を行う ・発表後には簡単な質疑応答を行う ・相互評価と振り返り(他者からの評価を参考にし、自己評価を行い、今後の改善点を考える)	・授業の復習・期末試験に向けての学習	1時間
第15回	学期の復習と振り返り 学期の復習と振り返り	・英語演習II全体の復習・期末試験に向けての学習	1時間

授業科目名	英語表現 I				
担当教員名	藤本恵子				
学年・コース等	3年	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

本授業では、国際理解教育を念頭に置き、リーディング、リスニング、ライティング、スピーキングの4技能について、どんどんグローバル化する国際社会において、より効果的に他文化の人々と交流するために必要な英語表現力を身につけられることを目指します。授業ではペアワーク、グループワーク、ミニプレゼンテーション、グループプレゼンテーション、ディスカッション、レポート・エッセイライティングなどの発表を通して、様々な英語表現を身につけられるようにします。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

汎用的な力

- 1 . DP8. 意思疎通
- 2 . DP10. 忠恕の心

具体的内容：

他者とコミュニケーションを取るための英語力

目標：

4技能を用いて、英語で情報の発信・受信ができる。

英語で他者との意思疎通ができる。

ペア、グループワークにおいて、他者を尊重しながら、自らの役割を遂行することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実習や実技に対して個別にコメントします
- ・ 実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。
語学の習得には継続した学習が大切です。
欠席した場合は各自で課題等を教員に確認してください。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

プレゼンテーション等のパフォーマンス課題	50%	： 授業内に実施するパフォーマンス課題（学生が英語でアウトプットするもの）について、内容、発音、発表態度、積極的に参加できたか等を総合的に評価します。
授業課題、積極的な授業活動への参加	25%	： 授業内および宿題として出された課題について、内容、分量等を評価します。
定期試験	25%	： 15回の授業で学んだ、テキストや言語活動の内容に関して出題される試験の結果で評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
Saeko Noda	・ Read to Write - An Integrated Course for College Students -	・ Asahi Press	・ 2013年
Tamotsu Tanaka 他	・ Focus on Communication (1)	・ Asahi Press	・ 2007年

参考文献等

授業で指示します。

履修上の注意・備考・メッセージ

- ・ 教科書、ノート、辞書を持参すること。
- ・ 授業には、積極的・意欲的に取り組むこと。
- ・ 携帯電話、スマートフォンは指示した時以外は使用を禁じます。
- ・ 授業は予習を前提として行われます。また、授業後は丁寧に復習しておいてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 1回目の授業で連絡します。
場所： 非常勤講師室・教室

授業計画

回	内容	授業準備課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	オリエンテーション 授業の進め方の説明、授業の約束事の確認	授業準備課題	1時間
第2回	Lesson 1 Hi Jason (1) / Lesson 1 挨拶 (1) リーディング、語彙、英作文、リスニング問題	予習・復習課題	1時間
第3回	Lesson 1 Hi Jason (2) / Lesson 1 挨拶 (2) リーディング、語彙、英作文、リスニング問題	予習・復習課題	1時間
第4回	Lesson 2 Clash Closes Bridge during Storm (1) / Lesson 2 紹介 (1) リーディング、語彙、英作文、リスニング問題	予習・復習課題	1時間

第5回	Lesson 2 Clash Closes Bridge during Storm (2) / Lesson 2 紹介 (2) リーディング、語彙、英作文、リスニング問題	予習・復習課題、プレゼンテーション準備	1時間
第6回	ミニ・プレゼンテーション (1) 授業内容をもとにしたテーマで各自プレゼンテーションを行う。 レポートの提出。	予習・復習課題、プレゼンテーション復習	1時間
第7回	Lesson 3 Hightones Reunion Concert (1) / Lesson 3 質問 (1) リーディング、語彙、英作文、リスニング問題	予習・復習課題	1時間
第8回	Lesson 3 Hightones Reunion Concert (2) / Lesson 3 質問 (2) リーディング、語彙、英作文、リスニング問題	予習・復習課題	1時間
第9回	Lesson 4 Dear Sirs: A letter of Request (1) / Lesson 4 依頼 (1) リーディング、語彙、英作文、リスニング問題	予習・復習課題	1時間
第10回	Lesson 4 Dear Sirs: A letter of Request (2) / Lesson 4 依頼 (2) リーディング、語彙、英作文、リスニング問題	予習・復習課題、プレゼンテーション準備	1時間
第11回	ミニ・プレゼンテーション (2) 授業内容をもとにしたテーマで各自プレゼンテーションを行う。 レポートの提出。	予習・復習課題、プレゼンテーション復習	1時間
第12回	Lesson 5 Assembly Instructions for the XYZ (1) / Lesson 5 感謝 (1) リーディング、語彙、英作文、リスニング問題	予習・復習課題	1時間
第13回	Lesson 5 Assembly Instructions for the XYZ (2) / Lesson 5 感謝 (2) リーディング、語彙、英作文、リスニング問題	予習・復習課題	1時間
第14回	Lesson 6 The lesson of the Talking Fish / Lesson 6 約束 リーディング、語彙、英作文、リスニング問題	予習・復習課題、プレゼンテーション準備	1時間
第15回	ファイナル・プレゼンテーション 授業内容をもとにしたテーマで各自プレゼンテーションを行う。講評、まとめ。	復習課題、プレゼンテーション復習	1時間

授業科目名	英語表現 I				
担当教員名	高橋昌由				
学年・コース等	1年	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

本授業では、国際理解教育を念頭に置き、リーディング（多読も）、リスニング、ライティング、スピーキングの4技能について、どんどんグローバル化する国際社会において、より効果的に他文化の人々と交流するために必要な英語表現力を身につけられることを目指します。授業ではペアワーク、グループワーク、ミニプレゼンテーション、グループプレゼンテーション、ディスカッション、レポート・エッセイライティングなどの発表を通して、様々な英語表現を身につけられるようにします。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- DP1. 幅広い教養やスキル

汎用的な力

- DP8. 意思疎通
- DP10. 忠恕の心

具体的内容：

他者とコミュニケーションを取るための英語力

目標：

4技能を用いて、英語で情報の発信・受信ができる。

英語で他者との意思疎通ができる。

ペア、グループワークにおいて、他者を尊重しながら、自らの役割を遂行することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・ 協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・ 発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実習や実技に対して個別にコメントします
- ・ 実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。
語学の習得には継続した学習が大切です。
欠席した場合は各自で課題等を教員に確認してください。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

プレゼンテーション等のパフォーマンス課題	50%	授業内に実施するパフォーマンス課題（学生が英語でアウトプットするもの）について、内容、発音、発表態度、積極的に参加できたか等を総合的に評価します。多読が重視されます。
授業課題、積極的な授業活動への参加	25%	授業内および宿題として出された課題について、内容、分量等を評価します。多読が重視されません。
定期試験	25%	15回の授業で学んだ、テキストや言語活動の内容に関して出題される試験の結果で評価します。

使用教科書

指定する

著者

森田和子

タイトル

・ 新・保育の英語

出版社

・ 三修社

出版年

・ 2010年

参考文献等

授業で指示します。

履修上の注意・備考・メッセージ

- ・ 教科書、ノート、辞書(英和・和英)を持参すること。
- ・ 授業には、積極的・意欲的に取り組むこと。
- ・ 携帯電話、スマートフォンは指示した時以外は使用を禁じます。
- ・ 授業は予習を前提として行われます。また、授業後は丁寧に復習しておいてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 金曜日3限目

場所： 研究室

備考・注意事項： いつでもどうぞ！

授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	オリエンテーション ・ 授業の進め方の説明、授業の約束事の説明 ・ 英語の学び方、幼児教育・保育の英語、多読	授業準備課題 1時間
第2回	Lesson1、多読1 Lesson1:The School Year Begins 多読1：Book TALK1、Book Report1など	予習・復習課題、発表の準備・練習 1時間
第3回	Lesson2、多読2 Lesson2:Arrival 多読2：Book TALK2、Book Report2など	予習・復習課題、発表の準備・練習 1時間
第4回	Lesson3、多読3	予習・復習課題、発表の準備・練習 1時間

	Lesson3:Playtime in the Classroom 多読3 : Book TALK3、Book Report3など		
第5回	Lesson 4、多読4 Lesson4:In the sandbox 多読4 : Book TALK4、Book Report4など	予習・復習課題、発表の準備・練習	1時間
第6回	Lesson 5、多読5 Lesson5:In the playground 多読1 : Book TALK5、Book Report5など	予習・復習課題、発表の準備・練習	1時間
第7回	Lesson 6、多読6 Lesson6:Lunchtime 多読6 : Book TALK6、Book Report6など	予習・復習課題、発表の準備・練習	1時間
第8回	REVIEW : Lessons1-6、多読1-6 ・Listening, Reading, Speaking, Writing ・Reading extensively ・Speaking & Communication: Talking	予習・復習課題、発表の準備・練習	1時間
第9回	Lesson7、多読7 Lesson7:Changing Clothes and Story Time 多読6 : Book TALK7、Book Report7など	予習・復習課題、発表の準備・練習	1時間
第10回	Lesson8、多読8 Lesson8: Nap Time 多読6 : Book TALK8、Book Report8など	予習・復習課題、発表の準備・練習	1時間
第11回	Lesson9、多読9 Lesson9:Lunchtime 多読6 : Book TALK9、Book Report9など	予習・復習課題、発表の準備・練習	1時間
第12回	Lesson10、多読10 Lesson10:Lunchtime 多読6 : Book TALK10、Book Report10など	予習・復習課題、発表の準備・練習	1時間
第13回	REVIEW : Lessons7-10、多読7-10 ・Listening, Reading, Speaking, Writing ・Reading extensively ・Speaking & Communication: Talking	予習・復習課題、発表の準備・練習	1時間
第14回	REVIEW : Lessons1-10、多読1-10 (1) ・Listening, Reading, Speaking, Writing ・Reading extensively ・Speaking & Communication: Talking	予習・復習課題、発表の準備・練習	1時間
第15回	REVIEW : Lessons1-10、多読1-10 (2) ・Listening, Reading, Speaking, Writing ・Reading extensively ・Speaking & Communication: Talking	予習・復習課題、発表の準備・練習	1時間

授業科目名	英語表現Ⅱ				
担当教員名	藤本恵子				
学年・コース等	3年	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

本授業では、国際理解教育を念頭に置き、リーディング、リスニング、ライティング、スピーキングの4技能について、どんどんグローバル化する国際社会において、より効果的に他文化の人々と交流するために必要な英語表現力を身につけられることを目指します。授業ではペアワーク、グループワーク、ミニプレゼンテーション、グループプレゼンテーション、ディスカッション、レポート・エッセイライティングなどの発表を通して、様々な英語表現を身につけられるようにします。本授業は英語表現Iを引き続いて行われます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP1. 幅広い教養やスキル

汎用的な力

1. DP8. 意思疎通
2. DP10. 忠恕の心

具体的内容：

他者とコミュニケーションを取るための英語力

目標：

4技能を用いて、英語で情報の発信・受信ができる。

英語で他者との意思疎通ができる。

ペア、グループワークにおいて、他者を尊重しながら、自らの役割を遂行することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実習や実技に対して個別にコメントします
- ・ 実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。
語学の習得には継続した学習が大切です。
欠席した場合は各自で課題等を教員に確認してください。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

プレゼンテーション等のパフォーマンス課題	50%	授業内に実施するパフォーマンス課題（学生が英語でアウトプットするもの）について、内容、発音、発表態度、積極的に参加できたか等を総合的に評価します。
授業課題、積極的な授業活動への参加	25%	授業内および宿題として出された課題について、内容、分量等を評価します。
定期試験	25%	15回の授業で学んだ、テキストや言語活動の内容に関して出題される試験の結果で評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
Saeko Noda	Read to Write - An Integrated Course for College Students -	Asahi Press	2013年
Tamotsu Tanaka他	Focus on Communication (1)	Asahi Press	2007年

参考文献等

授業で指示します。

履修上の注意・備考・メッセージ

- ・ 教科書、ノート、辞書を持参すること。
- ・ 授業には、積極的・意欲的に取り組むこと。
- ・ 携帯電話、スマートフォンは指示した時以外は使用を禁じます。
- ・ 授業は予習を前提として行われます。また、授業後は丁寧に復習しておいてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 1回目の授業で連絡します。

場所： 非常勤講師室・教室

授業計画

回数	授業内容	授業準備課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	オリエンテーション 授業の進め方の説明、授業の約束事の確認	授業準備課題	1時間
第2回	Lesson 7 Stranded! Leaves Us Cold (1) / Lesson 7 読び(1) リーディング、語彙、英作文、リスニング問題	予習・復習課題	1時間
第3回	Lesson 7 Stranded! Leaves Us Cold (2) / Lesson 7 読び(2) リーディング、語彙、英作文、リスニング問題	予習・復習課題	1時間
第4回	Lesson 8 The Big Storm (1) / Lesson 8 提案 (1)	予習・復習課題	1時間

	リーディング、語彙、英作文、リスニング問題		
第5回	Lesson 8 The Big Storm (2) / Lesson 8 提案 (2) リーディング、語彙、英作文、リスニング問題	予習・復習課題、プレゼンテーション準備	1時間
第6回	ミニ・プレゼンテーション (1) 授業内容をもとにしたテーマで各自プレゼンテーションを行う。 レポートの提出。	予習・復習課題、プレゼンテーション復習	1時間
第7回	Lesson 9 This Is Your Captain (1) / Lesson 9 許可 (1) リーディング、語彙、英作文、リスニング問題	予習・復習課題	1時間
第8回	Lesson 9 This Is Your Captain (2) / Lesson 9 許可 (2) リーディング、語彙、英作文、リスニング問題	予習・復習課題	1時間
第9回	Lesson 10 Two Letters (1) / Lesson 10 勧誘 (1) リーディング、語彙、英作文、リスニング問題	予習・復習課題	1時間
第10回	Lesson 10 Two Letters (2) / Lesson 10 勧誘 (2) リーディング、語彙、英作文、リスニング問題	予習・復習課題、プレゼンテーション準備	1時間
第11回	ミニ・プレゼンテーション 授業内容をもとにしたテーマで各自プレゼンテーションを行う。 レポートの提出。	予習・復習課題、プレゼンテーション復習	1時間
第12回	Lesson 11 Japanese Youth: Can There Be Life without a Cellphone? (1) / Lesson 11 同意 (1) リーディング、語彙、英作文、リスニング問題	予習・復習課題	1時間
第13回	Lesson 11 Japanese Youth: Can There Be Life without a Cellphone? (2) / Lesson 11 同意 (2) リーディング、語彙、英作文、リスニング問題	予習・復習課題	1時間
第14回	Lesson 12 How Long Can People Live? / Lesson 12 不同意 リーディング、語彙、英作文、リスニング問題	予習・復習課題、プレゼンテーション準備	1時間
第15回	ファイナル・プレゼンテーション 授業内容をもとにしたテーマで各自プレゼンテーションを行う。 講評、まとめ。	復習課題、プレゼンテーション復習	1時間

授業科目名	英語表現Ⅱ				
担当教員名	高橋昌由				
学年・コース等	1年	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

本授業では、国際理解教育を念頭に置き、リーディング（多読も）、リスニング、ライティング、スピーキングの4技能について、どんどんグローバル化する国際社会において、より効果的に他文化の人々と交流するために必要な英語表現力を身につけられることを目指します。授業ではペアワーク、グループワーク、ミニプレゼンテーション、グループプレゼンテーション、ディスカッション、レポート・エッセイライティングなどの発表を通して、様々な英語表現を身につけられるようにします。本授業は英語表現I引き続いて行われます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- DP1. 幅広い教養やスキル

汎用的な力

- DP8. 意思疎通
- DP10. 忠恕の心

具体的内容：

他者とコミュニケーションを取るための英語力

目標：

4技能を用いて、英語で情報の発信・受信ができる。

英語で他者との意思疎通ができる。

ペア、グループワークにおいて、他者を尊重しながら、自らの役割を遂行することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・ 協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・ 発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実習や実技に対して個別にコメントします
- ・ 実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。
語学の習得には継続した学習が大切です。
欠席した場合は各自で課題等を教員に確認してください。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

プレゼンテーション等のパフォーマンス課題	50%	授業内に実施するパフォーマンス課題（学生が英語でアウトプットするもの）について、内容、発音、発表態度、積極的に参加できたか等を総合的に評価します。多読が重視されます。
授業課題、積極的な授業活動への参加	25%	授業内および宿題として出された課題について、内容、分量等を評価します。
定期試験	25%	15回の授業で学んだ、テキストや言語活動の内容に関して出題される試験の結果で評価します。多読が重視されます。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
森田和子	・ 新・保育の英語	・ 三修社	・ 2010年

参考文献等

授業で指示します。

履修上の注意・備考・メッセージ

- ・ 教科書、ノート、辞書（英和・和英）を持参すること。
- ・ 授業には、積極的・意欲的に取り組むこと。
- ・ 携帯電話、スマートフォンは指示した時以外は使用を禁じます。
- ・ 授業は予習を前提として行われます。また、授業後は丁寧に復習しておいてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 金曜日5限目
場所： 研究室
備考・注意事項： いつでもどうぞ！

授業計画

回	内容	授業準備課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	オリエンテーション ・ 授業の進め方の説明、授業の約束事の説明 ・ 英語の学び方、幼児教育・保育の英語、多読	授業準備課題	1時間
第2回	Lesson11、多読1 Lesson11: Preparation for the Sports Day 多読: Book Talk1、Book Report1など	予習・復習課題、発表の準備・練習	1時間
第3回	Lesson12、多読2 Lesson12: The Sports Day 多読: Book Talk2、Book Report2など	予習・復習課題、発表の準備・練習	1時間
第4回	Lesson13、多読3	予習・復習課題、発表の準備・練習	1時間

	Lesson13 : Going for a Walk 多読 : Book Talk3、Book Report3など		
第5回	Lesson 1 4、多読 4 Lesson14 : Discovering Autumn 多読 : Book Talk4、Book Report4など	予習・復習課題、発表の準備・練習	1時間
第6回	Lesson 1 5、多読 5 Lesson15 : Drawing and Letter Writing 多読 : Book Talk5、Book Report5など	予習・復習課題、発表の準備・練習	1時間
第7回	Lesson 1 6、多読 6 Lesson16 : A Snowy Day 多読 : Book Talk6、Book Report6など	予習・復習課題、発表の準備・練習	1時間
第8回	REVIEW : Lessons11-16、多読1-6 ・Listening, Reading, Speaking, Writing ・Reading extensively ・Speaking & Communication: Talking	予習・復習課題、発表の準備・練習	1時間
第9回	Lesson17、多読7 Lesson17 : Leaving for Home 多読 : Book Talk7、Book Report7など	予習・復習課題、発表の準備・練習	1時間
第10回	Lesson18、多読8 Lesson18 : School Diary 多読 : Book Talk8、Book Report8など	予習・復習課題、発表の準備・練習	1時間
第11回	Lesson19、多読9 Lesson19 : Bean-Throwing Day 多読 : Book Talk9、Book Report9など	予習・復習課題、発表の準備・練習	1時間
第12回	Lesson20、多読10 Lesson20 : With Thanks for a Wonderful School Year 多読 : Book Talk10、Book Report10など	予習・復習課題、発表の準備・練習	1時間
第13回	REVIEW : Lessons17-20、多読7-10 ・Listening, Reading, Speaking, Writing ・Reading extensively ・Speaking & Communication: Talking	予習・復習課題、発表の準備・練習	1時間
第14回	REVIEW : Lessons11-20、多読1-10 (1) ・Listening, Reading, Speaking, Writing ・Reading extensively ・Speaking & Communication: Talking	予習・復習課題、発表の準備・練習	1時間
第15回	REVIEW : Lessons11-20、多読1-10 (2) ・Listening, Reading, Speaking, Writing ・Reading extensively ・Speaking & Communication: Talking	予習・復習課題、発表の準備・練習	1時間

授業科目名	中国語入門 I				
担当教員名	鄭恵芳				
学年・コース等	1年	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

初心者にとって、中国語の学習は文法を理解した上で、一字一字の発音を正確に練習することによって、中国語の美しい音色を体得し、その上、コミュニケーションの喜びを覚えます。そうなるため、まず身近にいる中国人留学生に声をかけてみてはどうでしょうか。簡単な会話を通じて、中国語を学ぶ楽しさが増えます。「言葉は文化交流の第一歩」ですもの。この授業は、はじめて中国語を学ぶには「分かりやすく覚えやすい」初級レベルの中国語会話が中心の授業です。学習効果を高めるため事前予習が必要です。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP1. 幅広い教養やスキル	語学力を高めていくこと	語学力を高めることにより、専門的知識はさらに視野を広げることができる
2 . DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	専門的知識に関する学術的知識を広げるには、様々な側面的知識をもつことが重要です。語学力を高めることで、各国の人々と交流し知識を獲得できるようにする	語学力を高め、かつ各国の人々との交流ができる
汎用的な力		
1 . DP6. 行動・実践		積極的および創造力を養う
2 . DP8. 意思疎通		より優れた社会性とコミュニケーション力をもつことができる
3 . DP7. 完遂		何事も本気かつ誠実に取り組む力を養う

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業参加度	40%	： 授業態度：教師の指示に従い、積極的に活動をする。グループ、ペアで協力しながら活動するなどの項目において、5段階で評価する
授業内テストおよび課題の提出	30%	： 授業内テスト：毎回授業のあとに行う10問の小テスト。 課題提出：指示された範囲の教科書内のスキットを書き写す。
中間試験(2回)および期末試験	30%	： 中間試験：復習するために筆記試験(100点満点) + 自己紹介の発表 期末試験：所定した範囲の筆記試験(100点満点) + 各課本文の読み(発音なし)

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
本間史・孟広学	中国語ポイント55	白水社	2011年

参考文献等

授業中に配布

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	初回の授業で案内する
場所：	初回の授業で案内する

授業計画

回	内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	中国語のアプローチ(中国概要) 中国語を学ぶには、まず近代の中国の変化と発展を知る必要があります。さらに、日本の漢字と違ういわゆる「簡体字」は今、中国では一般的に使われていることや同じ漢字でも日本と意味がまったく違うことを勉強します。	1時間
第2回	発音篇 I 母音の仕組み&練習	2時間

	日本と違って漢字の一字一字には「抑揚頓挫」(高さ)があります。文章を読むと自然にイントネーションが作られて、まるでメロディーのように美しく感じられます。最初は少し不慣れかもしれませんが、歌の練習のように回を重ねていけば結構楽しいリズムが出てきます。 「何事も最初のひと踏ん張り！」が大事です。 最後に授業内テストをします		
第3回	発音篇Ⅱ 母音と声調の組み合わせ 37の母音を声調の高さをのせて発音練習しながら単独で使える母音の単語も一緒に練習します。そのほか、発音に関するルールを紹介し、そのルールのもとに正しい発音を練習して覚えていきます。	授業した内容を復習&発音練習、発音ルールを暗記する	3時間
第4回	発音篇Ⅲ 子音の練習と母音との組み合わせ 中国語の発音の中、37個の母音(単独に使える)と21個の子音が存在しています。子音は単独には使えませんが、子音は必ず母音と一緒に組み合わせさせて文字になります。子音を紹介したあとは繰り返し発音練習をして、簡単な家族の呼びかけ(家族表)も一緒に練習します。次回の復習テストのために概要、発音ルールと家族表と子音一覧を暗記	次回の復習テストのために概要、発音ルールと家族表と子音一覧を暗記	4時間
第5回	復習テスト&第1課 1. 復習テスト(テスト範囲:概要・発音ルール・家族表・子音一覧・P.11~13) 2. 発音ルールが覚えられなければ、正しく美しく中国語を発音できませんので、必ず覚えましょう。 第1課P.14~15の名詞文の文型を解説しながら発音練習します。	授業内容を復習してチャレンジ1(P.16)を書いてみよう	4時間
第6回	第1課 スキット「初めまして」 1. 名詞文の特徴や使い方を復習しながら、文型を使って置き換え練習していきます。 2. 会話を練習⇒隣同士とロールプレイ練習。 3. 授業内テスト	次回提出筆記レポート(第1課P.14~17書き写し)	4時間
第7回	第2課 動詞述語文の解説 1. ご飯を食べる、コーヒーを飲む…動詞述語文 2. あれは辞書ではありません…指示代名詞文 3. これは誰の本ですか…疑問詞文 4. これは父のメガネです…所有を表す「的」を解説&練習。 初歩的中国語文法は案外と日本語に似ているが、発音は別だと実感! 5. 授業内テスト	授業内容を復習してチャレンジ1(P.20)を書いてみよう。	4時間
第8回	第2課 あなたは何が好きですか 1. 動詞文の特徴や使い方を復習しながら、文型を使って置き換え練習していきます。 2. 会話を練習⇒学生二人でロールプレイします。 3. 授業内テスト	次回の課題提出(第2課P.18~21を書き写す)	4時間
第9回	「自己紹介」の練習 & 第3課 形容詞述語文 1. 自己紹介のモデル文章を学び、実際自分の自己紹介を講師と一緒に繰り返し練習します。 2. 彼は忙しい、今日はたいへん暑いです..形容詞述語文 3. 彼は時間がない、私はパソコンを持っている..所有の表現を解説&練習 4. 授業内テスト	次回に中間試験(1)のために所定範囲をテスト勉強	4時間
第10回	中間試験(1) / 第3課「今日は忙しいですか」 1. 中間試験(1)…筆記試験+自己紹介の発表(範囲は第9回授業内容に参照) 2. 今まで学んだ中国語の様々な述語文やセンテンス内の構造助詞の仕組みの理解度をチェックしながら第3課の会話を練習⇒学生二人でロールプレイします。	次回の課題提出(第3課の書き写しP.22~25)	4時間
第11回	おさらい&第4課 場所詞・さまざまな疑問詞 1. 今まで習ったところを見直して、積極的にロールプレイをします。 2. 第4課の文型を解説&置き換え練習⇒学生参加(文型にそって言葉を置き換えていく) 3. 授業内テスト	授業した内容を復習する&P.28チャレンジを書いてみよう	4時間
第12回	第4課「あなたはどこに住んでいる？」 1. 第4課スキットの会話を練習⇒学生二人でロールプレイします。 2. P.28チャレンジ4を授業内で書いてみよう&語句のリスニング練習 3. 授業内テスト 4. 次回は中間試験(2)を行います。筆記試験+リスニング 範囲:授業進度を調整するため新たに授業内で指示します。	次回の課題提出(第4課P.26~29を書き写す)	4時間
第13回	中間試験(2) 筆記+リスニング / 第5課 助数詞と応用 1. 中間試験(筆記試験+語句の聞き取り) 2. 第5課 数の発音&数える時の言い方、文型の置き換え練習⇒学生参加ロールプレイ 3. 数量の疑問詞疑問文を練習	授業内容を復習する&P.32チャレンジを書いてみよう	4時間
第14回	第5課「電子辞書はいくらですか」 / 総復習 1. 第5課スキットの会話を練習&学生二人でロールプレイします。 2. 中国語の基本文型(肯定文、否定文、形容詞、さまざまな疑問文など)を復習しながら置き換えの練習をします。 3. リスニング練習	総復習	4時間
第15回	期末総まとめ&発表(各種スキットの会話を読むおよび学習成果と課題の提出) 各種スキットの会話を発音なしで読ませ、学習の成果と課題をフィードバックすることにより、学生に今後の学習計画を考える機会を与える。	常に復習すること	4時間

授業科目名	中国語入門 I				
担当教員名	劉燕子				
学年・コース等	1年	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

この授業で勉強する中国語は北京語を基礎とした普通語と呼ばれる共通語です。国際化とともに中国の歴史、文化、観光に触れる機会も多くなります。中国語は漢字を使うことで日本語と共通し、他の外国語より親しみやすいです。中高校で学んだ漢詩などと「比較対照」しながら、これまでの知識を有効に活用します。発音が違うので「ピンイン」というローマ字表記を用います。「声調」という音の高低によって意味を区別します。文字を見、音を聞き複数のルートでよりよく記憶に残らせる視覚と聴覚を組み合わせた相乗効果で学習を進めます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	中国語の初級レベルの語学力	中国語で挨拶、名前や道を尋ねる、買い物をするなどに必要な基礎的な会話と読み書き計算の実践力を養う
汎用的な力		教養としての異文化理解、異文化コミュニケーション
1．DP8. 意思疎通		異文化を通して自国と自分自身を振り返り、理解を深める自己形成
2．DP6. 行動・実践		

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・問答法・コメントを求める
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・その他（以下に概要を記述）
授業中の質問、教科書の練習、トレーニングの回答に即してコメントします。

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

成績評価の方法・評価の割合

成績評価の方法	評価の基準
授業でのワーク	：音読、書写、練習やトレーニングに積極的に取り組んでいるか、指導を的確に理解しているかを評価します。
中間の小テスト	：教科書の指定された範囲を的確に理解しているかを評価します。
期末の小テスト	：教科書の指定された範囲を的確に理解しているかを評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
佐藤晴彦監修、徐送迎著	・ たのしくできる We Can! 中国語 初級 改訂版	・ 朝日出版社	・ 2016年

参考文献等

相原茂、石田知子、戸沼市子 共著 『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書』新訂版、同学社、2016年

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回2時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業終了後やメールで質問を受け付けます。
場所： 教室、及びYanzi@mta.biglobe.ne.jp

授業計画

回	中国語の発音（1）	中国語の発音の1を復習する。予習・復習では、自分の声を録音し、模範朗読と比較させ、発音の向上と暗誦の一石二鳥にします。滲刺と声を出し、生き生きとした雰囲気です。積極的に中国語を学びましょう。以下同様。	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	中国語の発音（1） 日本の漢字と中国語の簡体字の比較、ピンイン、声調（四声）の初歩的理解	教科書の発音編の1を復習する。予習・復習では、自分の声を録音し、模範朗読と比較させ、発音の向上と暗誦の一石二鳥にします。滲刺と声を出し、生き生きとした雰囲気です。積極的に中国語を学びましょう。以下同様。	4時間
第2回	中国語の発音（2） 軽声、短母音、子音の基礎的理解と活用	教科書の発音編の2、3、4を復習する	4時間
第3回	中国語の発音（3） 複母音、鼻母音の基礎的理解と活用	教科書の発音編の5、6を復習する	4時間
第4回	中国語の発音（4） 声調の変化などの基礎的理解と活用	教科書の発音編の7、8を復習する	4時間
第5回	中国語の語彙と文法（1） 挨拶、人称代名詞、疑問文など	教科書の第一課を復習する	4時間

第6回	語彙と文法（2） 中国語の基本的な語順、省略疑問文など	教科書の第二課を復習する	4時間
第7回	語彙と文法（3） 疑問詞疑問文、動詞「在」など	教科書の第三課を復習する	4時間
第8回	語彙と文法（4）中間の総復習、到達度の評価 所有を表す「有」、連動文など、これまでの総復習と中間の小テストおよび解説	教科書の第四課までを復習する	4時間
第9回	語彙と文法（5） 形容詞述語文など	教科書の第五課を復習する	4時間
第10回	語彙と文法（6） 存在を表す「有」、数量詞など	教科書の第六課を復習する	4時間
第11回	語彙と文法（7） 指示代名詞、名詞述語文など	教科書の第七課を復習する	4時間
第12回	語彙と文法（8） 語気助詞、比較文など	教科書の第八課を復習する	4時間
第13回	語彙と文法（9） 介詞、反復疑問文など	教科書の第九、十課を復習する	4時間
第14回	語彙と文法（10） 動態助詞、否定を表す副詞、助動詞、動詞の重ね型など	教科書の第十、十一課を復習する	4時間
第15回	総復習と到達度の評価 授業の総復習と期末の小テストおよび総括	教科書の発音編と本文編の第十一課までの総復習と再確認	4時間
第16回	授業の総復習と到達度の最終的なチェック 最終的な到達度の評価のために期末試験を実施する。	期末試験の自己評価を踏まえた総復習	4時間

授業科目名	中国語入門Ⅱ				
担当教員名	鄭恵芳				
学年・コース等	2年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

前期までの中国語（1）を習得済みであること。
「相手を知ることこそ、共存共栄ができる」のが目標とします。
13億の人口をもつ中国と中国以外の中国語圏の人々とのコミュニケーションを通じて、互いに手を取り共存共栄が実現できます。
この授業の最初の4回は、以前習った中国語の発音や発音に関する様々なルールを確認しながら練習し、第1課から第4課は復習の範囲とし、第5課はより進み、日常会話のレベルアップを目指します。
また、実践できるために、授業内での発表する機会を増やしていきます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP1. 幅広い教養やスキル	語学力を高めていくこと	語学力を高める、専門的知識を習得することにより、さらに視野を広げることができる。
2 . DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	専門的知識に関する学術的知識を広げるには、様々な側面的知識をもつことが重要です。語学力を高めることで、各国の人々と交流し知識を獲得できるようにする	語学力を高め、かつ各国の人々との交流できる
汎用的な力		
1 . DP6. 行動・実践		積極性および創造力を養う
2 . DP8. 意思疎通		よりよい社会性とコミュニケーション力をもつことができる
3 . DP7. 完遂		何事も本気かつ誠実に取り組む力を養う

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業参加度	40%	： 授業態度：教師の指示に従い、積極的に活動をする。グループ、ペアで協力しながら活動するなどの項目において、5段階で評価する
授業内テストおよび課題の提出	30%	： 授業内テスト：毎回授業のあとに行う10問の小テスト。 課題提出：指示された範囲の教科書内のスキットを書き写す。
中間試験(2回)および期末試験	30%	： 中間試験：復習するための筆記試験(100点満点) + 自己紹介の発表 期末試験：指定した範囲の筆記試験(100点満点) + 各課本文の読み(発音なし)

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
本間史・孟広学	中国語ポイント55	白水社	2011年

参考文献等

授業内で配布

履修上の注意・備考・メッセージ

本授業は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	初回授業で案内します
場所：	初回授業で案内します

授業計画

第1回	発音の復習&練習	学習した内容を復習し、単語部 分(P.11&P.13)を次回に発表するのに暗記。	授業外学修課題にかかる目安の時間 4時間
-----	----------	---	-------------------------

	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業前に授業範囲を必ず予習してきてください。 2. 発音ルールを確認しながら声調と組み合わせで積極的に声を出して練習します。 授業範囲：P.8～P.13 3. 授業内テストを行います。 		
第2回	第1課～第2課の復習 <ol style="list-style-type: none"> 1. 全員P.11とP.13を発表します 2. 第1課～第2課の文法、単語、スキットを読み、スキットの内容を自分と入れ替えてペアを組んで発表します。 3. 授業内テストを行います。(出てきた単語の漢字、発音記号と意味を書く) 	次回の課題提出 (P.17とP.21、日本語訳入れ) と第1～第2課のスキットを暗記。	4時間
第3回	第3課の復習 <ol style="list-style-type: none"> 1. 第1課と第2課のスキットを全員に暗唱発表 2. 第3課の文法、単語、スキットを読み、スキットの内容を自分と入れ替えてペアを組んで発表します。 3. 授業内テストを行います。(第2回授業と同じ方式です) 	次回の課題提出 (P.24～P.25、スキットは日本語訳入れ) と第3課スキットを暗記。	4時間
第4回	第4課の復習 <ol style="list-style-type: none"> 1. 第3課のスキットを全員に暗唱発表 2. 第4課の文法、単語、スキットを読み、スキットの内容を自分と入れ替えてペアを組んで発表します。 3. プリントを配り、「自己紹介」を練習し暗記します。 	次回の復習テストを行います(範囲：第1課～第4課) & 自己紹介を暗記。	4時間
第5回	自己紹介の発表&おさらい <ol style="list-style-type: none"> 1. 「自己紹介」の発表 2. 復習テスト(筆記) 3. これまでの学習内容をおさらいします。 	次回の課題提出 (P.26～P.29、スキットに日本語訳入れ) と第4課スキットを暗記。	4時間
第6回	第5課 「本屋さんで電子辞書を買う」 <ol style="list-style-type: none"> 1. 第4課のスキットを全員暗唱発表 2. 第5課の文法、単語、スキットを解説し、ペアを組んで練習します。 3. 授業内テストを行います。(今回の授業内容を範囲とします) 	次回の課題提出 (P.30～P.34、スキットに日本語訳入れ) と第5課スキットを暗記。	4時間
第7回	第6課 「いつ北京ダックを食べに行きますか？」 <ol style="list-style-type: none"> 1. 第5課のスキットを全員に暗唱発表。 2. ポイント21～24を解説してから各例文を置き換え練習します。 3. 授業内テストを行います。 	学習した内容を復習とともに第6課のスキットを予習する。	4時間
第8回	第6課 「いつ北京ダックを食べに行きますか？」 <ol style="list-style-type: none"> 1. 第6課のスキットを全員音読発表。 2. ペアを組んで練習します。(月日・曜日・時刻) 3. 授業内テストを行います。 	学習した内容を復習とともに第6課のスキットを暗記。	4時間
第9回	自由発表 <ol style="list-style-type: none"> 1. 第6課のスキットを全員暗唱発表。 2. プリント配布(自由発表) 	次回の中間試験のために所定範囲をテスト勉強する	4時間
第10回	中間試験 & 第7課に進む <ol style="list-style-type: none"> 1. 中間試験の結果発表&コメント 2. ポイント25～27を解説してから各例文を置き換え練習します。 	学習した内容を復習とともに第7課のスキットを予習する。	4時間
第11回	第7課 「道をたずねる」 <ol style="list-style-type: none"> 1. 第7課のスキットを全員音読発表します。 2. リスニングの練習(1)最初は単語から。 3. 授業内テストを行います(単語のリスニング) 	P.11、P.13、L.1～L.4のスキットをCDで練習する。	4時間
第12回	リスニングの練習(2) & 対話練習 <ol style="list-style-type: none"> 1. P.11～第4課まで習った単語、ひと言、文章を使ってリスニングの練習をします。 2. 上記の範囲に、新たな会話を想定して互いに対話をします。(習った言葉をしっかり覚えること) 3. 授業内テストを行います(短文のリスニング) 	L.5～L.7のスキットをCDで練習する。	4時間
第13回	リスニングの練習(3) & 対話練習 <ol style="list-style-type: none"> 1. L.5～L.7まで習った単語、ひと言、文章を使ってリスニングの練習をします。 2. 上記の範囲に、新たな会話を想定して互いに対話をします。(習った言葉をしっかり覚えること) 3. 授業内テストを行います(模擬検定試験のリスニング) 	L.8ポイント28～30を予習する。	4時間
第14回	第8課 「レストランにて料理を注文する」 <ol style="list-style-type: none"> 1. ポイント28～30を解説してから各例文を置き換え練習します。 2. スキットを練習します。 3. 期末発表(筆記+L.5～L.8各課スキットの音読)を準備 	次回の期末発表のための総復習をする。	4時間
第15回	期末総まとめ&発表(各種スキットの会話文を読むおよび学習成果と課題の提出) 各種スキットの会話文を発音なしで読ませ、学習の成果と課題をフィードバックとして与え、学生が今後の学習計画を考える機会を与える。	常に復習すること	4時間

授業科目名	フランス語入門 I				
担当教員名	東出加奈子／黒田恵梨子／渋谷直樹				
学年・コース等	1～2年	開講時期	前期／後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

はじめてのフランス語をはじめてフランス語を学ぶ人を対象とした授業。「クールジャパン」をテーマにした教科書を用い、ビデオを見ながら生きたフランス語を学習します。授業ではフランス語の発音、挨拶の仕方、初歩的な語彙や文法を学習するとともに、簡単な聞き取りや口頭練習なども行います。また随時、プリントやCD、DVDなどを用いて、フランスの文化や歴史、芸術、さらにフランス人の生活についての紹介も行ない、フランス文化についての理解も深めていきます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	語学力：フランス語に関する初歩的な知識を身につける	初歩的な発音、語彙、文法（仏検5級のテストで50点程度）
2．DP1. 幅広い教養やスキル	フランスの社会と文化についての初歩的な知識を身につける	フランスの歴史・地理、日常生活習慣や文化に触れ、国際的な感覚を養う
汎用的な力		
1．DP6. 行動・実践		新たな言語の習得を通じて新しい学びに挑戦する積極的な態度や粘り強い学習習慣を身につける
2．DP8. 意思疎通		外国語修得において言語コミュニケーションスキルを身につけることができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

到達確認前半テスト	30%	： 綴りと発音との関係、基本的な挨拶、基礎的な語彙や文法などを正確に理解し、また表現できるかどうか
到達確認後半テスト	30%	： 綴りと発音との関係、基本的な挨拶、基礎的な語彙や文法などを文字で、また音声で正確に理解し、また表現できるかどうか
授業内的小テストや口頭での演習	20%	： 継続的に予習、復習を重ねて、各回の授業内を着実に身につけているかどうかを筆記および口頭で確認する
期末レポート	20%	： 15回の授業終了後に授業を振り返り、基礎的な文法を理解しているかどうか、レポートにまとめることにより、到達度を確認する

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
藤田裕二	『パリのクール・ジャパン』	朝日出版社	2011年

参考文献等

授業内で必要に応じて適宜指示します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回2時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

フランス語は初習の外国語なので、授業に規則的に出席し、また授業外の時間にしっかり復習を行うことが絶対条件となります。フランス語の音に慣れ親しむために、日頃から教科書付属のCDを活用しましょう。また、フランス語の映画や音楽を積極的に見聞きしましょう。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項： 東出担当クラス：水曜4限、研究室（西館2階）
黒田担当クラス：質問等は、授業後に受け付ける。
渋谷担当クラス：質問等は、授業後に受け付ける。

授業計画

第1回	第0課 フランス語の音と文字	教科書pp.2～5 アルファベットと綴りを覚えてください	授業外学修課題にかかる目安の時間
	授業の説明 フランス語のアルファベットと発音の基本、初歩的なあいさつなどについて学びます。		2時間

第2回	第1課 二人の出会い（第1課・前半） 主語人称代名詞、動詞 être（～です）の活用について学びます。	教科書pp. 6～7の練習問題をしてください	2時間
第3回	第1課 二人の出会い（第1課・後半） 国籍の言い方について学びます。 第1課の練習問題に取り組みます。	第1課 復習用配布プリントで理解を深めてください	2時間
第4回	第2課 自己紹介をする（第2課・前半） 規則動詞の活用、形容詞について学びます。	教科書pp. 10～11の練習問題をしてください	2時間
第5回	第2課 自己紹介をする（第2課・後半） 名前の言い方について学びます。 第2課の練習問題に取り組みます。	第2課 復習用配布プリントで理解を深めてください	2時間
第6回	第3課 好きなものを言う（第3課・前半） 名詞の性・数と定冠詞、疑問文の作り方について学びます。	教科書pp. 14～17の練習問題をしてください	2時間
第7回	第3課 好きなものを言う（第3課・後半） 自分の好みの言い方、聞き方について学びます。 第3課の練習問題に取り組みます。	第3課 復習用配布プリントで理解を深めてください	2時間
第8回	スランス語の性・数について 前半の到達度確認テストと解説 男性名詞・女性名詞による動詞の活用と形容詞の特徴を理解します。学期前半の学習の到達度をワークシート演習により確認します。その解説を聞き、授業全体を振り返ることで、学習内容を確実に身につけます。	前半の復習（教科書p17まで）で理解度を確認してください	2時間
第9回	第4課 これは何ですか？（第4課・前半） 疑問代名詞、不定冠詞と指示代名詞について学びます。	教科書pp. 18～21の練習問題をしてください	2時間
第10回	第4課 これは何ですか？（第4課・後半） 目の前にあるものについて尋ねたり、答えたりする方法について学びます。 第4課の練習問題に取り組みます。	第4課 復習用配布プリントで理解を深めてください	2時間
第11回	第5課 ここはどこ？（第5課・前半） 否定文、疑問副詞について学びます。	教科書pp. 22～25の練習問題をしてください	2時間
第12回	第5課 ここはどこ？（第5課・後半） 場所の尋ね方、位置表現について学びます。 第5課の練習問題に取り組みます。	第5課 復習用配布プリントで理解を深めてください	2時間
第13回	第6課 年齢の話（第6課・前半） 動詞 avoir（持っている）の活用、職業を表す名詞について学びます。	教科書pp. 26～29の練習問題をしてください	2時間
第14回	第6課 年齢の話（第6課・後半） 年齢、職業の言い方について学びます。 第6課の練習問題に取り組みます。	第6課 復習用配布プリントで理解を深めてください	2時間
第15回	後半の到達度確認テストと解説 DVDによる聞き取り演習 学習の到達度を確認します。解説を聞き、授業全体を振り返ることで、学習内容を確実に身につけます。DVDを通して発音と聞き取りの理解度を確認し、リスニング力を高めます。	学期の総復習を行いレポートを作成してください	2時間

授業科目名	フランス語入門Ⅱ				
担当教員名	東出加奈子				
学年・コース等	1～2年	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

初級のフランス語「フランス語入門Ⅰ」の単位修得者を対象としたクラスです。ビデオ教材も活用しつつフランス語による生きたコミュニケーションのための基礎を固めていきます。授業では、聞き取りや口頭練習なども取り入れ、一歩進んだ語彙、文法などを確実に身につけていきます。実用フランス語技能検定(5級)に合格するレベルを目指します。また随時、プリントやCD、DVDなどを用いて、フランスの文化や歴史、芸術、さらにフランス人の生活についての紹介も行ない、フランス文化についての理解も深めていきます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	語学力：フランス語に関する初歩的な知識を身につける	初歩的な発音、語彙、文法（仏検5級合格程度）
2．DP1. 幅広い教養やスキル	フランスの社会と文化についての初歩的な知識を身につける	フランスの歴史・地理、日常生活習慣や文化に触れ、国際的な感覚を養う
汎用的な力		
1．DP6. 行動・実践		新たな言語の習得を通じて新しい学びに挑戦する積極的な態度や粘り強い学習習慣を身につける
2．DP8. 意思疎通		外国語修得において言語コミュニケーションスキルを身につけることができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
到達度確認前半テスト	： 綴りと発音との関係、基本的な挨拶、基礎的な語彙や文法などを正確に理解し、また表現できるかどうか
30%	
到達度確認後半テスト	： 綴りと発音との関係、基本的な挨拶、基礎的な語彙や文法などを文字で、また音声で正確に理解し、また表現できるかどうか
30%	
授業内の小テストや口頭での演習	： 継続的に予習、復習を重ねて、各回の授業内を着実に身につけているかどうかを筆記および口頭で確認する
20%	
期末レポート	： 15回の授業終了後に、授業全体を振り返り、基礎的な文法を理解しているかどうか、レポートにまとめることにより、到達度を確認する
20%	

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
藤田裕二	『パリのクールジャパン』	朝日出版社	2011年

参考文献等

授業内で必要に応じて適宜指示します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回2時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

「フランス語入門Ⅰ」単位修得者を対象としたクラスです。フランス語の音に慣れ親しむために、日頃から教科書付属のCDを活用しましょう。また、フランス語の映画や音楽を積極的に見聞きしましょう。授業では、最小限必要な文法事項の解説やテキストの訳読も行いますが、可能な限り、発音練習、音声の聞き取り、音読など、口頭での身体的なトレーニングに十分時間を割きたいと思います。継続的な学習によってのみ語学力はアップします。受講者には日常的なフランス語学習を義務づけます。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	水曜4限
場所：	研究室（西館2階）

授業計画

回数	内容	教科書pp.	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	Introduction 授業の説明、フランス語能力の現状を確認する フランスの地理、日本語の中のフランス語、発音を確認します。	教科書pp. 3～4の発音練習をしてください	2時間
第2回	第1課 フランス語初歩のおさらい(1) Leçon 1	教科書pp. 7～8の発音練習をしてください	2時間

	Lecon 1 - Je m'appelle Denis 国籍を言う、元気かどうかを聞く、アルファベット、数字(1~10)を確認します。 自己紹介します。		
第3回	第2課 第6課 フランス語初歩のおさらい(2) Lecon 2・6 Lecon 2 - Tu habites ou 職業、住んでいるところについて言う、数字(11~20)を確認します。 聞き取りで語彙を学びます。	教科書pp. 11~12の発音練習をしてください	2時間
第4回	第3課 第6課 フランス語初歩のおさらい(3) Lecon 3・6 Lecon 3 - Un panache, s'il vous plait 国籍と否定形、喫茶店の飲み物と食べ物、注文の仕方、数字(21~30)を確認します。 聞き取りで語彙を学びます。	教科書pp. 15~16、pp. 27~28の発音練習をしてください	2時間
第5回	第4課 第6課 フランス語初歩のおさらい(4) Lecon 4・6 Lecon 4 - Tu as une adresse e-mail ? 身の回りのもの、否定、兄弟、年齢を聞く、数字(31以上)を確認します。 聞き取りで語彙を学びます。	pp. 27~28の発音練習をしてください	2時間
第6回	第7課 日本料理店に行く(第7課・前半) Lecon 7 - Tu n'as pas faim? 冠詞の種類を理解し、部分冠詞と定冠詞を学びます。	教科書pp. 30~31の練習問題をしてください	2時間
第7回	第7課 日本料理店に行く(第7課・後半) 食べ物と飲み物の語彙を学びます。日本料理店、フランス料理店での会話を練習します。 第7課の練習問題に取り組みます。	第7課 復習用配布プリントで練習問題をしてください	2時間
第8回	フランス旅行を想定した会話 到達度確認前半テスト 口頭表現による会話の達成度を確認します。学期前半の学習の到達度を確認します。その解説を聞き、授業全体を振り返ることで、学習内容を確実に身につけます。	教科書p. 33までの理解度を確認してください	2時間
第9回	第8課 布団が好き Lecon 8 - Ma soeur dort dans un futon. 所有形容詞を学びます。 第8課の練習問題に取り組みます。	教科書pp. 34~36の練習問題をしてください	2時間
第10回	第9課 店で買い物をする(第9課・前半) Lecon 9 - Je voudrais acheter ~. 指示形容詞、名詞の性・数による変化を学びます。	教科書pp. 38~39の練習問題をしてください	2時間
第11回	第9課 店で買い物をする(第9課・後半) 疑問副詞 combien を学びます。 日用品の語彙を学び、買い物の会話を学びます。	第9課 復習用配布プリントで練習問題をしてください	2時間
第12回	第10課 私は行きたい Lecon 10 - Tu ne veux pas y aller? 中世代名詞 y を学びます。月、曜日を学びます。 第10課の練習問題に取り組みます。	教科書pp. 42~44の練習問題をしてください	2時間
第13回	第11課 天候の話 Lecon 11 - Il fait chaud! 非人称構文を学びます。天候、時刻の表現を学びます。 第11課の練習問題に取り組みます。	教科書pp. 46~48の練習問題をしてください	2時間
第14回	第12課 美術館に行く Lecon 12 - C'est magnifique, cet ukiyo-e! 美術館での会話を学びます。色の形容詞を学びます。 第12課の練習問題に取り組みます。	教科書pp. 30~56の発音を練習してください	2時間
第15回	後半の到達度確認テストと解説 フランス語でプレゼンテーション フランス語でプレゼンテーションを行うことにより達成度を確認します。学習の達成度を確認テストにより確認します。解説を聞き、授業全体を振り返ることで、学習内容を確実に身につけます。	学期の総復習を行いレポートを作成してください	2時間

授業科目名	韓国語入門 I				
担当教員名	李炫淨				
学年・コース等	1年	開講時期	前期／後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

本授業では、韓国語を初めて学ぶ学生を対象に、韓国語を読み、書き、聞き、話すための基礎的な運用能力を身につけることを目標とします。まず、文字と発音の学習から始まり、基礎的な語彙と文法の学習へと進みます。口頭での反復練習を中心に、基礎的な会話を学んでいきます。最終的には韓国語であいさつや簡単な自己紹介、旅行などで韓国に行ったとき簡単な会話ができるようになることを目指します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

韓国語の文字であるハングルの読み、書きに関しての勉強。

目標：

韓国語の文字であるハングルの読み、書きができるようになる。

汎用的な力

- DP8. 意思疎通

韓国語であいさつや簡単な自己紹介ができるようになる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- 課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- シミュレーション型学習（ロールプレイ、ゲーム型学習など）

課題や取組に対する評価・振り返り

- 提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

期末テスト	50%	: 15回行った授業の内容を基にテストを行う。その結果で評価する。
中間テスト	30%	: 教科書の内容を基にテストを行う。その結果で評価する。
課題及び授業態度	20%	: 課題の完成度と授業態度をもって評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
木内明	・ 基礎から学ぶ韓国語講座 初級 改定版	・ 国書刊行会	・ 2013年

参考文献等

特に無し。
韓日・日韓辞書があれば準備すること。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目では、韓国語を初めて学ぶ学生を対象に、韓国語を読み、書き、聞き、話すための基礎的な運用能力を身につけることを目標とします。まず、文字と発音の学習から始まり、基礎的な語彙と文法の学習へと進みます。口頭での反復練習を中心に、基礎的な会話を学んでいきます。最終的には韓国語であいさつや簡単な自己紹介、旅行などで韓国に行ったとき簡単な会話ができるようになることを目指します。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	一回目の授業の時に説明します。
場所：	一回目の授業の時に説明します。

授業計画

回	内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	イントロダクション：「韓国語」とは 授業の流れとこれから学ぼうとする言語について説明する。	これから学ぼうとする言語について自分なりに調べて、イメージを持っておく。 1時間
第2回	韓国語の仕組み(1) 韓国語の基本母音と子音について勉強する。	授業内容を復習しておく。 2時間
第3回	韓国語の仕組み(2) 複合母音とバッチムについて勉強する。	授業内容を復習しておく。 2時間
第4回	あいさつ表現及び発音の変化 簡単なあいさつ表現及び発音の変化について勉強する。	授業内容を復習しておく。 1時間
第5回	第1課：私は浅井ゆかりです。 日本語「名詞+です」に相当する韓国語表現について勉強する。	授業内容を復習しておく。 1時間
第6回	第2課：出身はソウルですか。 日本語「名詞+ですか」に相当する韓国語「ハムニダ体」表現について勉強する。	授業内容を復習しておく。 1時間
第7回	第3課：図書館ではありません。 日本語「名詞+ではありません」、「名詞+ではありませんか」に相当する韓国語「ハムニダ体」表現について勉強する。	授業内容を復習しておく。 1時間
第8回	第4課：時間がありますか。	授業内容を復習しておく。 1時間

	日本語「あります／ありません」に相当する韓国語「hamnida体」表現について勉強する。		
第9回	第1課～第4課までの復習 第1課から第4課までの総復習をする。	授業内容を復習しておく。	1時間
第10回	第5課：インターネットをしますか。 日本語「～します／しますか」に相当する韓国語「hamnida体」表現について勉強する。	授業内容を復習しておく。	1時間
第11回	第6課：貿易会社で働いています。 日本語「～します／しますか」に相当する韓国語「heyo体」表現について勉強する。	授業内容を復習しておく。	1時間
第12回	第7課：東大門市場に行きます。 「～する」以外の動詞について勉強する。	授業内容を復習しておく。	1時間
第13回	第8課：しょっちゅうスーパーで買います。 用言の「heyo体」について勉強する。	授業内容を復習しておく。	1時間
第14回	第5課～第8課までの総復習 第5課から第8課までの総復習をする。	授業内容を復習しておく。	1時間
第15回	前期のまとめ 前期に勉強した内容の復習をする。	期末テストに備えて勉強すること。	1時間

授業科目名	韓国語入門Ⅱ				
担当教員名	李炫淨				
学年・コース等	1年	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

この授業は、主に韓国語入門Ⅰを履修した学生を対象に、韓国語を読み、書き、聞き、話すための基礎的な運用能力を身につけることを目標とします。まずは文字と発音の学習から始まり、基礎的な語彙と文法の学習へと進みます。口頭での反復練習を中心に、基礎的な会話を学んでいきます。最終的には韓国語であいさつや簡単な自己紹介、旅行などで韓国に行ったとき簡単な会話ができるようになることを目指します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- DP1. 幅広い教養やスキル

汎用的な力

- DP8. 意思疎通

具体的内容：

韓国語の文字であるハングルを読み、書くことができるようにする。

目標：

あいさつや簡単な自己紹介ができるようになることを目指す。

受講者が韓国語で簡単なコミュニケーションができるようになることを目指す。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- 課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- シミュレーション型学習（ロールプレイ、ゲーム型学習など）

課題や取組に対する評価・振り返り

- 提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

期末テスト	50%	: 15回行った授業の内容を基にテストを行う。その結果で評価する。
中間テスト	30%	: 教科書の内容を基にテストを行う。その結果で評価する。
課題及び授業態度	20%	: 課題の完成度と授業態度をもって評価する。

使用教科書

指定する

著者
木内明

タイトル

・ 基礎から学ぶ韓国語講座 初級 改定版

出版社

・ 国書刊行会

出版年

・ 2013年

参考文献等

特に無し。
韓日・日韓辞書があれば準備すること。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回2時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 一回目の授業の時に説明します。
場所： 一回目の授業の時に説明します。

授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	前期の復習 前期の「基礎から学ぶ韓国語の講座」の第1課～第8課まで学んだ内容を中心に復習する。	2時間
第2回	第9課：それは1万ウォンです。 漢数字について勉強する。	2時間
第3回	第10課：今何時ですか。 固有数字と時計の読み方について勉強する。	2時間
第4回	第11課：日本語を話されますか。 敬語（尊敬形）について勉強する。	2時間
第5回	第12課：そんなに遠くありません。 用言の否定形について勉強する。	2時間
第6回	第9課～第12課までの復習。 第9課～第12課まで復習する。	2時間
第7回	第13課：いつ韓国にきましたか。 用言の過去形について勉強する。	2時間
第8回	第14課：民俗村に行きましょう。 勧誘表現について勉強する。	2時間

第9回	第15課：パーティーの準備をしています。 用言の現在進行形表現について勉強する。	授業内容を復習しておく。	2時間
第10回	第16課：何も食べませんでした。 可能／不可能表現について勉強する。	授業内容を復習しておく。	2時間
第11回	第13課～第16課までの復習。 第13課～第16課まで復習する。	授業内容を復習しておく。	2時間
第12回	第17課：陶磁器が見たいです。 日本語「～したい」に相当する韓国語表現について勉強する。	授業内容を復習しておく。	2時間
第13回	第18課：写真撮ってもいいですか。 禁止の表現について勉強する。	授業内容を復習しておく。	2時間
第14回	第19課：もう行かなければなりませんか。 義務の表現について勉強する。	授業内容を復習しておく。	2時間
第15回	第20課：手紙を書きます。 「意志・推量」を表す韓国語表現について勉強した後、後期のまとめをする。	期末テストに備えて勉強すること。	2時間

授業科目名	人間と文学／日本の文学				
担当教員名	藤田 大雪				
学年・コース等	1～4年	開講時期	前期／後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

優れた文学は、私たちに新しいものの見方を与えてくれるものです。この授業では異質な他者を理解し、共感する力を培いながら、最終的に一本の短編小説を完成させることを目指します。そのために、前半は物語の構造を理解し、人物、性格、感情、風景などを描写する技法を学びます。後半では、前半に学んだ創作の技法を生かしてフランツ・カフカの小説『変身』を分析し、カフカの他者を見るまなざしの深さを感じ取ってもらいます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

優れた観察力と表現力

目標：

鋭い感性を持ち、見たことや感じたことを文学的に表現できるようになる

汎用的な力

- 1 . DP10. 忠恕の心

寛容な心を持ち、異なる立場にいる他者の視点から物事を見られるようになる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

平常点	20%	: 授業への取り組み状況（グループでの話し合いへの参加状況、発言）などに基づき評価する
授業内課題	20%	: ワークシートの取り組み状況に基づき評価する
授業外課題（映画のレビュー）	20%	: 映画のレビューについて、①ストーリーの要点を捉えた要約ができているか、②映画の特色をとらえられているか、③自分の意見を表現できているか、を基準に評価する
試験（短編小説の執筆）	40%	: 短編小説について、①ストーリーに破綻がないか、②登場人物の行動に一貫性があるか、③描写は正確か、④誤字脱字・てにをはの間違いなどがなく、を基準に評価する

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
フランツ・カフカ（著）、丘沢静也（訳）	変身, 掟の前で 他2編	・ 光文社	・ 2007年

参考文献等

石黒圭（2017）『形容詞を使わない 大人の文章表現力』日本実業出版社
橋本陽介（2017）『物語論 基礎と応用』講談社選書メチエ
ウラジーミル・ナボコフ（著）、野島秀勝（訳）（2013）『ナボコフの文学講義 下』河出文庫

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をしてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日13:00～14:00
場所： 研究室にて実施します
備考・注意事項： 詳細は初回の授業時に指示します

授業計画

回数	内容	ワークシートを完成させる。	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	ガイダンス—文学の役割を考える— テレビやインターネットを通じて大量の情報が得られる時代に、あえて文学作品を読むことに何の意味があるのか。現代における文学の役割を考える。	ワークシートを完成させる。	4時間
第2回	物語の構造を理解する 人を惹きつける物語は、ある共通する構造を持っている。この構造を理解することで、物語の要約や創作の技法を学ぶ。	自分が好きな物語（小説、映画、マンガなど）の構造を分析する。	4時間
第3回	形容詞を使わずに描写する 「おいしそうなバンケーキ」よりも、「メープルシロップたっぷりの絶品ふわふわバンケーキ」の方がおいしそうに感じる。このような、形容詞を使わない描写のトレーニングを行う。	自分の好きな食べ物、飲み物などを形容詞を使わずに描写する。	4時間

第4回	人物／性格を描写する さまざまな文学作品に見られる人物描写を手掛かりに、外見や行動を通じて人物の特徴をとらえ、表現する技法を学ぶ。	自分の好きな人物／苦手な人物を描写する。	4時間
第5回	感情を描写する さまざまな文学作品に見られる感情描写を手掛かりに、1人称と3人称による感情表現の技法を学ぶ。	過去の体験を感情を交えて表現する。	4時間
第6回	風景を描写する さまざまな文学作品に見られる風景描写を手掛かりに、目で見えたものを描写する技法を学ぶ。	与えられた写真を言語的に描写する。	4時間
第7回	レビューを書く 良質な書評を読み比べ、分析しながら、レビューの基本的な型と要約の仕方を学ぶ。	自分が好きな物語（小説、映画、マンガなど）のレビューを書く。	4時間
第8回	映画「この世界の片隅に」を分析する 映画「この世界の片隅に」の前半を鑑賞しながら、ストーリーの構造、人物、感情の描写などを分析する。	映画の内容をワークシートにまとめる	4時間
第9回	映画「この世界の片隅に」のレビューを書く 映画「この世界の片隅に」の後半を鑑賞して、内容をワークシートにまとめ、ディスカッションを行った上でレビューを書く。	映画「この世界の片隅に」のレビューを完成させる。	4時間
第10回	カフカの『変身』を読む（その1）—物語の構造を分析する 『変身』を時間軸に沿って分析し、物語全体の構造を把握する。	読んだ内容をワークシートにまとめる。	4時間
第11回	カフカの『変身』（その2）—1人称の感情描写を分析する グレゴールが目覚まして、自分が巨大な毒虫に変身していることに気づき、あれこれと考えをめぐらせる場面を分析し、カフカの1人称による感情表現の特色を考える。	読んだ内容をワークシートにまとめる。	4時間
第11回	カフカの『変身』を読む（その3）—3人称の感情描写を分析する 『変身』の第2部はグレゴールと妹の関係性の変化を軸に進行する。この妹についての感情表現と、第3部の名高いバイオリン演奏の場面での3人の紳士の感情表現を分析し、カフカの3人称による感情表現の特色を考える。	読んだ内容をワークシートにまとめる。	4時間
第12回	カフカの『変身』を読む（その4）—グレゴールの家族の人間性を分析する グレゴールが毒虫に変身して以来、3人の家族は彼に対して三者三様の振る舞いをする。この3人の発言と行動を分析し、彼らの人間性を評価する。あわせてカフカの人物描写の特色を観察する。	読んだ内容をワークシートにまとめる。	4時間
第14回	カフカの『変身』を読む（その5）—物語の意味を考える 家族のために自分を犠牲にしてきたグレゴールだが、毒虫に変身してからは家族から厄介者として扱われ、ついには「始末されねばならない」存在となる。彼が死ぬことで家族は「解放」され、ザムザ家に平和が訪れる。この結末の意味についてディスカッションを行い、現代に『変身』を読むことの意義を考える。	読んだ内容をワークシートにまとめる。	4時間
第15回	短編小説のアウトラインを考える 最終レポートとして、『変身』へのオマージュとして「もしグレゴールが○○になったら」という設定で短編小説を書いてもらう。その下書きとして、人物設定やストーリーのアウトラインを考える。	短編小説のアウトラインを完成させる。	4時間

授業科目名	人間と宗教				
担当教員名	柴沼真				
学年・コース等	1～4年	開講時期	前期/後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

人間の歴史を振り返ってみると、宗教の存在を切り離すことはできない。宗教は時として、人々の心に寄り添うためのものという性格だけでなく、政治や教育と深く結びついてその信仰を絶対化した信者の再生産に力を注ぎ、結果としてそれが問題を引き起こすことも多くあった。それゆえ、本講義では、宗教について、その歴史と人々はなぜ宗教というものから離れられなかったのかという点について、様々な宗教を学ぶ中で学習することを目的とする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

宗教についての理解

目標：

宗教を偏見を持たずに理解することができる。

汎用的な力

- 1 . DP4. 課題発見

現代的な課題は何かを抽出することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

各授業で、授業ノートを配布しそれを記入し提出してもらい、それを基に最終的にレポートを作成していただきます。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

形成的評価を利用した期末レポート : 学習を通じて、どのような思考が形成されたか。
70%

授業ノート : 学習を通じて、どのような問いが形成されたか。
30%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

佐藤優『はじめての宗教論』NHK 2009

履修上の注意・備考・メッセージ

この授業では、学んだ内容を、自分がどのように考えたのかという点を重要視する授業でありますので、思考するという作業が授業の中で多くなるとしますので、対応できるようにしてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜日 3時限目

場所： 研究室

備考・注意事項： 授業に関係する質問などについては、随時メールなどでご連絡ください。連絡先は初回の授業で提示します。

授業計画

回数	授業内容	授業内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	オリエンテーション 問題の設定 現代人にとって宗教とはどのようなものかということを考える。	身近な宗教的な問題を考える。	4時間
第2回	世界の宗教 ① キリスト教 キリスト教について、その歴史と信仰を学ぶ	高校世界史の復習	4時間
第3回	世界の宗教② ユダヤ教 ユダヤ教について、その歴史と信仰を学ぶ	高校世界史の復習	4時間
第4回	世界の宗教③ イスラム教 イスラム教について、その歴史と信仰を学ぶ	高校世界史の復習	4時間
第5回	世界の宗教④ 仏教徒ヒンズー教 仏教とヒンズー教について、その歴史と信仰を学ぶ	高校世界史の復習	4時間
第6回	学びの総合化 ① 各宗教の信仰的特徴 5大宗教についてそれぞれの信仰的特徴などをまとめる。	ノートをまとめておくこと	4時間
第7回	宗教とは何か ① 西洋史の視点から 宗教の本質について特に前近代の様々な思想家の思想を学ぶ。	高校世界史の復習	4時間
第8回	宗教とは何か ② 日本史の視点から 宗教の本質について近代以降の様々な思想家の思想を学ぶ。	授業内で指示された情報の収集	4時間
第9回	宗教が引き起こす事件 日本で宗教が引き起こした現代的な事件について理解する。	授業内で指示された情報の収集	4時間
第10回	日本人と宗教 ① ～江戸時代 日本人にとって、宗教がどのような存在であったかを理解する。	高校日本史の復習	4時間

第11回	日本人と宗教 ② 明治～現代 日本人にとって、宗教がどのような存在であったかを理解する。	高校日本史の復習	4時間
第12回	プレゼンテーション 歴史からの考察① 日本史的視点 歴史から人間にとって宗教がどのような存在であったかを発表してもらう。	授業内で学んだ内容をまとめておく	4時間
第13回	プレゼンテーション 歴史からの考察② ヨーロッパ史的視点 歴史から人間にとって宗教がどのような存在であったかを発表してもらう。	授業内で学んだ内容をまとめておく	4時間
第14回	プレゼンテーション 歴史からの考察③ アメリカ史的視点 歴史から人間にとって宗教がどのような存在であったかを発表してもらう。	授業内で学んだ内容をまとめておく	4時間
第15回	総括 学びの総合化 人間にとって、宗教はどのようなものであるのかということ进行分析し、理解する。	授業内学んだ内容をまとめておく	4時間

授業科目名	比較宗教思想史				
担当教員名	柴沼真				
学年・コース等	1～4年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

宗教と聞くと、今の日本人は、何か胡散臭いと思いがちです。しかし、例えばクリスマスやバレンタインデーはキリスト教がなければ存在しなかったはずのイベントです。そしてそれらだけでなく、キリスト教は、日本人を含めて現在の世界において社会のあり方や経済の仕組みまで、いろいろなところに影響を与えている宗教なのです。このように宗教は世界の歴史上さまざまな影響を与えてきました。そこで本講義では、宗教が社会に与えた影響の歴史を検証します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

世界における宗教の地位を理解する。

目標：

宗教とは人間にとってどのようなものを理解する。

汎用的な力

- 1 . DP8. 意思疎通

他者の考えを理解できるようになる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

形成的評価を利用した期末レポート	70%	： 学習を通じてどのような思想が形成されたか。
授業ノート	30%	： 学習を通じてどのような問いが形成されたか。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

関 眞興『キリスト教から読む世界史』日本経済新聞社 2018

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜日3時限目

場所： 研究室

備考・注意事項： メール：shibanuma@g.osaka-seikei.ac.jp

授業計画

第1回	オリエンテーション 授業の方向性・宗教を学ぶ意義について	宗教とはなぜ存在するのかを多角的に考える。	授業外学修課題にかかる目安の時間
	この講義の目的を学びます。		4時間
第2回	実は身の回りにある宗教	日本人の宗教性についてシャトルシートへのコメントと本時の内容とをつなげて考える。	4時間
	無宗教に見える日本にも実は宗教的な存在があることを学びます。		
第3回	旧約聖書の世界① 世界誕生と神	ユダヤ-キリスト教の世界観シャトルシートへのコメントと本時の内容とをつなげて考える。	4時間
	ユダヤ-キリスト教における神の存在と世界の誕生について学びます。		
第4回	旧約聖書の世界② 契約思想の登場	ユダヤ-キリスト教契約観についてシャトルシートへのコメントと本時の内容とをつなげて考える。	4時間
	なぜユダヤ-キリスト教社会では、契約を重要視するのかを学びます。		
第5回	旧約聖書の世界③ 預言者とは？	ユダヤ教的救済観についてシャトルシートへのコメントと本時の内容とをつなげて考える。	4時間
	ユダヤ-キリスト教において重要な存在である預言者について学びます。		

第6回	イエスの登場 ユダヤ教との別離 イエス＝キリストと習う人がどんな人か学びます。	キリストの誕生についてシャトルシートへのコメントと本時の内容とをつなげて考える。	4時間
第7回	新約聖書の世界① キリスト教の誕生 「キリスト教」がなぜ誕生したのか学びます。	キリスト教の発生についてシャトルシートへのコメントと本時の内容とをつなげて考える。	4時間
第8回	新約聖書の世界② イエスの意味 イエスの意義について学びます。	キリスト教の歴史的意義についてシャトルシートへのコメントと本時の内容とをつなげて考える。	4時間
第9回	キリスト教史① 教会の成立 教会というのがどこなところか学びます。	グループマネジメントについてシャトルシートへのコメントと本時の内容とをつなげて考える。	4時間
第10回	キリスト教史② ローマ帝国とキリスト教 キリスト教がどのように広がっていったのかを学びます。	キリスト教の普及についてシャトルシートへのコメントと本時の内容とをつなげて考える。	4時間
第11回	キリスト教史③ 西欧文化への影響 なぜ、キリスト教が、西欧社会の精神史において重要なかを学びます。	キリスト教と世界史の関係についてシャトルシートへのコメントと本時の内容とをつなげて考える。	4時間
第12回	キリスト教史④ アメリカの誕生 アメリカ建国にまつわる宗教的な背景を学びます。	アメリカ史におけるキリスト教の意味についてシャトルシートへのコメントと本時の内容とをつなげて考える。	4時間
第13回	キリスト教と社会 政治思想史について 資本主義とキリスト教の関係について学びます。	資本主義の誕生についてシャトルシートへのコメントと本時の内容とをつなげて考える。	4時間
第14回	キリスト教と社会 政教分離と学校教育 政教分離と学校教育の宗教的中立性について学びます。	社会における宗教の存在についてシャトルシートへのコメントと本時の内容とをつなげて考える。	4時間
第15回	まとめ 宗教史を見ることから現代社会を理解する 現代から宗教史を見る中で、何が見えるのか学びます。	社会における宗教の意義についてシャトルシートへのコメントと本時の内容とをつなげて考える。	4時間

授業科目名	人間と哲学／哲学				
担当教員名	成瀬尚志				
学年・コース等	1～4年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

哲学は、基本的に私たち人間自身や私たちが経験する諸事象についてその根源に遡って思考・理解しようとする、人間や人間の関わる諸事象の本質・根拠を探究する学問です。人間とは何かという問題を中心に、徳、幸福、人格の尊厳、共同体、コミュニケーションなどの人間が生きていく上での重要な基本問題や、人間の本質的な特性を示す知識や思考の問題についてしっかりと探究し明らかにしていくのが、この授業の目的です。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

- 哲学に関する基礎的知識

目標：

- 哲学に関する基礎的知識を自分自身の言葉で説明できる

汎用的な力

- DP4. 課題発見
- DP8. 意思疎通

哲学上の立場に関して課題を発見し説明することができる

相手の意見を傾聴するとともに、自身の意見を的確に伝えることができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- 課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- 問答法・コメントを求める
- 振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- 協同学習（ペアワーク、グループワークなど）

課題や取組に対する評価・振り返り

- 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

毎回のコメントシート（3点×15回）	45%	： 授業の理解度に関して独自のルーブリックに基づいて4段階で評価します。
中間試験	25%	： 授業内容を理解しているか、また、自身の意見を吟味できているかどうかに関して評価します。
期末試験	30%	： 授業内容を理解しているか、また、自身の意見を吟味できているかどうかに関して評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』早川書房、2011

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後
場所： 研究室

授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<p>哲学とは何か</p> <p>哲学とはどのような学問であるかについて考えます。また、この授業でどのような問題に取り組むかについて解説します。</p>	4時間
第2回	<p>人間とは何か（1）人間と動物との違い</p> <p>人間は動物とはどのような点で異なるのでしょうか。人間とは何かについて考えるために動物との対比を通して考えます。</p>	4時間
第3回	<p>真理とは何か（1）無知を知ることと真理への愛ーソクラテス</p> <p>ソクラテスは哲学の祖と言われています。ソクラテスの「無知の知」と「知への愛」について検討し、真理とは何かについて考えます。</p>	4時間
第4回	<p>真理とは何か（2）アイデアが経験か？ープラトンとアリストテレス</p>	4時間

	<p>プラトンとアリストテレスは、現在でも参照されるほど典型的な哲学上の立場を打ち立てました。彼らの重視するアイデアと経験という2つの異なる観点から真理について考えます。</p>		
第5回	<p>真理とは何か（3）神の存在証明</p> <p>神の存在をいかにして証明するかは中世において活発に議論されました。そうした証明には哲学的な議論のエッセンスが含まれています。神の存在証明の議論を通して理性や真理について考えます。</p>	<p>前回の授業についてコメントシートを確認し、要点を再確認するとともに、今回の授業のキーワード（デカルト、方法論的懐疑）を調べてください。</p>	4時間
第6回	<p>真理とは何か（4）デカルトの方法的懐疑—疑うことだけは疑いようがない</p> <p>「我思う、ゆえに我あり」というデカルトの主張を通して、疑いようがない真理の存在について検討します。</p>	<p>前回の授業についてコメントシートを確認し、要点を再確認するとともに、今回の授業のキーワード（経験論、合理論）を調べてください。</p>	4時間
第7回	<p>真理とは何か（5）経験論と合理論</p> <p>われわれの認識や知識の源泉を経験に求めるか理性（合理性）に求めるかは哲学上重要な立場の違いになります。経験論と合理論の2つの立場を検討することで真理について考えます。</p>	<p>前回の授業についてコメントシートを確認し、要点を再確認するとともに、今回の授業のキーワード（カント、純粋理性批判）を調べてください。</p>	4時間
第8回	<p>真理とは何か（6）理性の探求—カント</p> <p>カントは人間の理性を探究することで、われわれ人間の認識の枠組みを浮き彫りにし、世界についての知識がどのように生み出されるかについて分析しました。こうしたカントの立場を検討し真理について検討します。</p>	<p>前回の授業についてコメントシートを確認し、要点を再確認するとともに、今回の授業のキーワード（功利主義、リベタリアニズム）を調べてください。</p>	4時間
第9回	<p>善とは何か（1）功利主義とリベタリアニズム</p> <p>現代の倫理的な問題を考える上で重要な功利主義とリベタリアニズムの立場について確認し、それぞれの立場の問題点について考えます。</p>	<p>前回の授業についてコメントシートを確認し、要点を再確認するとともに、今回の授業のキーワード（義務論）を調べてください。</p>	4時間
第10回	<p>善とは何か（2）道徳的に従うべき法則とは？—カント</p> <p>現代の倫理的な問題を考える上で重要なカントの義務論的な立場について確認し、その問題点について考えます。</p>	<p>前回の授業についてコメントシートを確認し、要点を再確認するとともに、今回の授業のキーワード（ロールズ、無知のベール）を調べてください。</p>	4時間
第11回	<p>善とは何か（3）分配の正義—ロールズ</p> <p>現代の倫理的な問題を考える上で重要なロールズの立場について確認し、その問題点について考えます。</p>	<p>前回の授業についてコメントシートを確認し、要点を再確認するとともに、今回の授業のキーワード（徳倫理）を調べてください。</p>	4時間
第12回	<p>善とは何か（4）徳倫理</p> <p>倫理的な問題を考える上で、これまでみてきた立場が「行為」に着目してきたのに対し、人そのもの（人の能力や性格）に着目して考える徳倫理の立場について確認し、その問題点について考えます。</p>	<p>前回の授業についてコメントシートを確認し、要点を再確認するとともに、今回の授業のキーワード（科学の境界設定問題）を調べてください。</p>	4時間
第13回	<p>人間とは何か（2）知識・言語・科学</p> <p>人間とは何かについて考える上で、われわれが知識・言語・科学をどのように活用し、それらがどのような意味を持っているかについて考えることは不可欠です。人間とそれらとの関係を通して人間とは何かという問いに取組みます。</p>	<p>前回の授業についてコメントシートを確認し、要点を再確認するとともに、今回の授業のキーワード（自由意志、リベットの実験）を調べてください。</p>	4時間
第14回	<p>人間とは何か（3）自由意志と責任</p> <p>わたしたちは自分で自分の行為を決定することができるのでしょうか。もしできないとするなら責任についてはどのように考えるべきでしょうか。自由意志と責任という観点から人間とは何かについて考えます。</p>	<p>前回の授業についてコメントシートを確認し、要点を再確認するとともに、今回の授業のキーワード（コミュニタリアニズム）を調べてください。</p>	4時間
第15回	<p>人間とは何か（4）コミュニケーションと共同体</p> <p>われわれは日々他者とコミュニケーションをとっていますが、コミュニケーションとは何か、また、我々が他者と構成している共同体とは何かという観点から人間とは何かについて考えます。</p>	<p>これまでの授業のコメントシートを再確認し期末試験の準備を行う。</p>	4時間

授業科目名	人間と芸術				
担当教員名	稲垣貴士・加藤隆文				
学年・コース等	1年～4年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	加藤は私立高校で教員をしていたという実務経験を持つ。特に教職志望の学生のニーズに応じ、教育現場と芸術文化の関わりを論じることができる。				

授業概要

芸術と人間社会の関わりを広く俯瞰するための授業です。絵画、インスタレーション、パフォーマンス・アート、音楽などの様々な芸術形態、ジャンル、スタイルの作品に映像・音響資料を通して触れながら、芸術の多様で豊かな展開を学びます。同時に、そうした展開の背景にある歴史的・社会的背景を知り、芸術と人間社会の関わりについて理解を深めてゆきます。こうした学びを通じて、受講生はそれぞれの関心に応じて自分自身の専門的な学修課題との接点を発見し、独自のものの見方を養うことができます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1. 幅広い教養やスキル	人間社会と芸術の関わりについての知識と理解	人間社会と芸術の関わりについて、歴史的な具体例や様々なジャンルの具体例を通して理解する。
2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	人間社会と芸術の関わりについての知識と実践	人間社会と芸術の関わりについて授業を通して得た知識を、現代社会での自らの実践に応用できるようになる。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		授業で紹介する具体的事例を通じた考察から着想を得て、自ら現代社会の問題に気づけるようになる。
2．DP6. 行動・実践		授業内容を着想源として活用し、自ら発見した課題の解決に役立てることができるようになる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

平常点	： 授業態度、毎回提出してもらったシャトルシートによって、授業への参加度、知識と理解度を評価する。 40%
試験（レポート）	： 15回の授業終了後、授業内容に基づくレポート試験を課す。授業内容を自分なりに消化して自分自身の実践に活かす態度が身についているかどうかを評価する。 60%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

壺屋めり著『ルネサンスの世渡り術』、芸術新聞社、2018年。
パブロ・エルゲラ著『ソーシャリー・エンゲイジド・アート入門：アートが社会と深く関わるための10のポイント』、アート&ソサエティ研究センター・SEA研究会【秋葉美知子／工藤安代／清水裕子】訳、フィルムアート社、2015年。
中条省平著『マンガの教養：読んでおきたい常識・必修の名作100』、幻冬社、2010年。
吉田憲司、ジョン・マック編『異文化へのまなざし』、NHKサービスセンター、1997年。
そのほか、授業中に適宜指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

授業の中では、多くの人名や専門的な用語が出てきます。毎回の授業内容を自分なりに消化し、普段の実践に活用する姿勢を持ってください。また、授業で得た知識を「生きたもの」にするため、普段から積極的に美術館やアートイベント等に出かけるなどして、現代社会における芸術の役割についての関心を高めるようにしてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 加藤：月曜2限、稲垣：水曜3限
場所： 南館2F 情報デザイン研究室
備考・注意事項： 加藤：授業中に指示するメールアドレスでも質問等を受け付ける。

授業計画

第1回	人間社会における芸術の役割	人間社会における芸術の役割についての配布資料とノートによる該当箇所の復習	授業外学修課題にかかる目安の時間
	人間社会において、これまで芸術がいかに多様な役割を担ってきたのか。そのことを俯瞰する意義について考える。		4時間

第2回	美術、越境する表現（インスタレーションとパフォーマンス・アート） オノ・ヨーコや内藤礼といった、現代の人間の営みへの批評的視点を持つ越境的な芸術表現について理解する。	美術、越境する表現についての配布資料とノートによる該当箇所の復習	4時間
第3回	パフォーマンス・アーツ（演劇とダンス） 一見すると不可解かもしれないが現代社会を鋭く切り取っている多様なパフォーマンス・アーツ、例えばベケットやチェルフィッチュの演劇、ピナ・バウシュのコンテンポラリー・ダンスなどについて理解する。	パフォーマンス・アーツについての配布資料とノートによる該当箇所の復習	4時間
第4回	テクノロジーと音楽 録音・再生技術が生まれたことにより、音楽聴取のあり方は大きく変容した。ロック、ジャズ、クラシック、あるいは20世紀後半の前衛音楽といった様々な音楽においてどのような変容が生じたのかを、具体例を通して理解する。	テクノロジーと音楽についての配布資料とノートによる該当箇所の復習	4時間
第5回	文学（小説、詩）とマンガ 今回は言語芸術をテーマとする。特に前衛的な試みがなされている詩を紹介し、言語芸術の世界の幅広さを理解する。さらに、小説のマンガ化の例などを通して、マンガという媒体の特性について考える。	配布資料とノートによる該当箇所の復習	4時間
第6回	異文化と芸術 「芸術」という概念はそもそも西洋近代の産物である。そのため、私たちが例えば浮世絵を「芸術」と言うとき、（西洋近代の視点を内在化させた上で）異文化に対して「芸術」のラベリングをしていると考えられる。こうした実践について、時間的・空間的にもっと広範囲の事例を取り上げつつ、反省的に考察する。	異文化と芸術についての配布資料とノートによる該当箇所の復習	4時間
第7回	美学について 哲学の一分野で「美学」と呼ばれる学問があります。時にこれは芸術学と同一視されることもありますが、独自の成立背景と問題意識を持っています。美学の基本的態度を理解し、各自の実践に応用してみましよう。	美学についての配布資料とノートによる該当箇所の復習	4時間
第8回	芸術に関連する言葉の使われ方 例えば「芸術的だ」という言葉を、スポーツ選手の見事な動作などに使うことがあります。芸術にまつわる言葉が社会の中でどのように使われているのかを、美学の議論を手掛かりにしながら、皆さんそれぞれに考えてもらいます。	芸術に関連する言葉の使われ方についての配布資料とノートによる該当箇所の復習	4時間
第9回	問題演習：社会の中の芸術概念 具体例の一つを取り上げ、皆さんの実生活に直結する社会の中で使われている芸術概念について反省的に考察する内容の問題演習に取り組んでもらいます。	社会の中の芸術概念についての配布資料とノートによる該当箇所の復習	4時間
第10回	ルネサンスの自己PR術 歴史を遡り、ルネサンスの時期（特に1500年前後の時期）の芸術と社会の関わりについて考えます。当時の芸術家も、もちろん当時の社会の一員でした。かれらが社会人として名を売ってゆくためにしていた自己PRの事例を紹介します。	ルネサンスの自己PR術についての配布資料とノートによる該当箇所の復習	4時間
第11回	ルネサンスの問題対処術 ルネサンスの時期の芸術家も、社会人として、様々な問題に直面してきました。困った注文主への対応、自分の立場が危うくなったときの対応など、具体例を紹介します。当時の社会における芸術の役割を理解するとともに、現代にも応用できる考えを見つけてください。	配布資料とノートによる該当箇所の復習	4時間
第12回	科学技術と芸術 19世紀から20世紀にかけて、科学技術が大いに発展してゆくのに呼応して、芸術にも革新的な試みが次々と現れます。写真技術の登場により絵画の社会的意義は大きく変わりました。あるいは、新印象派の点描画は当時の光学理論の発展と密接に関係しています。こうした事例を通して芸術と科学技術の関わりについて理解します。	科学技術と芸術についての配布資料とノートによる該当箇所の復習	4時間
第13回	広告と芸術 芸術は商業広告や政治的プロパガンダに利用されることがあります。こうした事実と向き合った批評的な芸術活動であると考えられるポップ・アートとソツツ・アートを取り上げ、それらの例から広告と芸術の関係について問い直します。	広告と芸術についての配布資料とノートによる該当箇所の復習	4時間
第14回	ソーシャリー・エンゲイジド・アートの理論的背景と歴史 芸術が人間社会と関わることについて自覚的に探究する営みであるソーシャリー・エンゲイジド・アート（SEA）が、昨今、注目を浴びています。SEAの理論的・歴史的背景について、基本的知識を得ます。	ソーシャリー・エンゲイジド・アートについての配布資料とノートによる該当箇所の復習	4時間
第15回	ソーシャリー・エンゲイジド・アートの実践 現代社会において実践されているソーシャリー・エンゲイジド・アートの具体的事例について学びます。世界各地の国際芸術展や地域アートだけでなく、大阪や京都で実施されている、芸術を活用したコミュニティ創成の身近な例も紹介します。	ソーシャリー・エンゲイジド・アートの実践についてのこれまでの配布資料とノートによる授業全体の復習・試験（レポート）準備	4時間

授業科目名	教育学入門				
担当教員名	赤沢真世				
学年・コース等	1年～4年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	私立中学校・高等学校英語科非常勤講師（1ヶ月×3年）の勤務経験（全15回）				

授業概要

教育とは何か。人間が大人になり、社会で活躍するためにはどのような教育が必要なのか。また学校で学ぶということとはどのような視点を大事に見ていかなければならないのだろうか。本講義では、こうした問いを深めるために、教育をまず発達や学習という面から捉えて理解する。さらにそうした学習の領域にとどまらず、教育を取り巻く現代的な問題にも目を向けて、あらためて「人を育てる教育とはどうあるべきか」の視点を持ち、教育実践のあるべき姿を問うことを目的とする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- DP1. 幅広い教養やスキル
- DP2. 専門的知識・技能、職業理解

汎用的な力

- DP4. 課題発見

具体的内容：

教職志望のものだけではなく、人を育てるといふ広義において教育の意義について知り、自分自身にひきつけて考える。
教育学の専門用語を理解し、教育的問題や議論を理解する。

目標：

教育の意義を捉えるとともに、現代的な教育問題に関心をもち、知識を踏まえた自らの意見を持つことができる。

教育をとりまく様々な視点や知識をもとに、教育的問題や議論について、分析的に考えることができる。

現代における様々な教育的問題の背景にある文化的・経済的な理由、また国際的な動向などをつかみ、本質的な課題を設定することができる。そしてそれを解決するための案を自らが考えることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・eラーニング、反転授業
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として、毎回出席すること。
規程回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価しません。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

定期レポート	50%	： もっとも興味をもったテーマや領域について、教育的な問題を一つ取り上げ、レポートにまとめる。内容の妥当性や論理的構成、批判的思考等について、全学ルーブリックや独自ルーブリックで評価する。
ミニレポート	20%	： 指定された論題について、自分自身でより個別具体のテーマを定めて、自分自身の調査を踏まえて意見を書く。独自ルーブリックで評価する。
提出物（シャトルシート）・受講態度含む	30%	： 毎回の授業で振り返りシートを課します。授業内容を理解し、自分で考えられているか、受講態度が好ましいものかを評価します。（2点×15回＝30点分。1点は理解不足や受講態度が好ましくない場合。）

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

広田照幸（2010）教育問題はなぜまちがって語られるのか？ 日本図書センター
植上一希・寺崎里水 編（2018）わかる・役立つ教育学入門、大月書店

そのほか、授業中に適宜紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。また、毎回の授業においては、ミニ議論やグループでの検討を入れたり、事前に意見を書いてくるなどの積極的な参加が必要である。また、日々のニュースなどで教育に関する話題について興味・関心を持ち、積極的に学ぶこと。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項： オフィスアワーや場所については、初回授業時に周知します。

授業計画

第1回

オリエンテーション

本講義の概要やスケジュール、評価方法などを確認します。また、本講義を通じて持つて欲しい問いを確認し、変化が求められている教育、教育学を学ぶ意味の多様性について理解します。

第2回のテーマに即した文献を読み、自分の意見をまとめてくる。

授業外学修課題にかかる目安の時間

4時間

第2回	2. 発達と教育・学習 (1) 発達と教育 幼児教育でのあそびと発達の関係性や、「環境か遺伝か」の議論を整理します。またすぐれた幼児教育の実践事例から、幼児期の学習・学びに大切な視点を理解します。	幼児期の遊びを一つとりあげ、それが発達にどのように関連するか自分の意見をまとめてくる。	4時間
第3回	2. 発達と教育・学習 (2) 学習指導要領の変遷 (戦後) 戦後の教育課程を形作ってきた学習指導要領の変遷を概観することを通して、日本のゆとり教育に至る教育の変遷を理解する。	第3回の内容の配布資料を読み、ポイントをまとめてくる。	4時間
第4回	2. 発達と教育・学習 (3) 経験主義の学び 生活から学ぶことの重要性について、生活経験主義を主張したJ. デューイの考え方や、きのくにこどもの村学園やサマーヒル・スクール、サドベリースクールなどのオルタナティブスクールの紹介や、総合学習の取り組みについて、その意義と課題を検討します。	指定された動画を見て、感想をまとめる。	4時間
第5回	2. 発達と教育・学習 (4) 系統主義の学び アメリカの現代化の流れや、1960年代の日本における民間教育研究団体の研究成果（主に仮説実験授業を取り上げる）について学修し、学問を教えることの重要性や教科書・教材の系統性について検討します。	教科書の分析を行い、まとめてくる。	4時間
第6回	2. 発達と教育・学習 (5) 発問・教材の工夫 教授法に関する歴史的人物や教育実践を紹介するとともに、日本における教育実践ですぐれた発問研究、教材研究を行った有田の実践を紹介する。学習に必要な教師の支援のポイントについて検討する。	実践例の資料を読み、ポイントをまとめてくる。	4時間
第7回	2. 発達と教育・学習 (6) 【議論】 「ゆとり教育の是非」に関する資料を読み、「アクティブ・ラーニング」やよりよい学習方法について議論する。またその議論を踏まえて、【ミニレポート】を作成する。	教育・学習について【ミニレポート】を作成する。	4時間
第8回	3. 現代的な教育問題について考える (1) 教育と貧困 現代的な教育問題の一つである、貧困と教育の関係性を知り、学校や地域として何ができるかを考える。その際には、山科こどものひろばの実践や、志水宏吉らによる「力のある学校」の研究を紹介する。また、歴史的な視点として、夜間中学校についても触れる。	指定された動画を見て、感想をまとめてくる。	4時間
第9回	3. 現代的な教育問題について考える (2) 性とジェンダー 現代的な教育問題の一つとして、近年やっとな議論の俎上にあがった性とジェンダーの問題について、「隠れたカリキュラム」の視点から問い直すこと、また学校現場でLGBTへの配慮をどのように行えばよいのか、そして授業実践としてLGBTを取り扱う実践の紹介を行うことによって、学校現場におけるジェンダーの問題について、理解を深める。	第9回あるいは第10回について、自分自身の体験談をまとめてくる。	4時間
第10回	3. 現代的な教育問題について考える (3) いじめ・不登校という問題 社会問題化しているいじめ・不登校の問題について、現状を押さえるとともに、学校や地域として、あるいは大人としてどのような支援・対応が必要なのかを検討する。また、その背景にあるスクールカーストや集団の力についても、吟味する。	第11回のテーマに関する資料を読み、意見をまとめる。	4時間
第11回	3. 現代的な教育問題について考える (4) 学校文化 学校の管理的性格について、制服や校則から考える。また、教育に関わる教師文化の「当たり前」を問い直す視点を持つ（組体操の問題、二分の一成人式の問題）。	第12回に向けて、教育時事問題を新聞やウェブで検索し、自分の意見をまとめてくる。	4時間
第12回	3. 現代的な教育問題について考える (5) 【議論】時事問題の交流 新聞記事や、これまでの授業でのテーマについて、あらかじめ調べてきたこととの交流を行う。また、外国籍の子ども（沖縄アメリカンスクールなど）の学びの状況、実態について知る。これらのことを通して、学校や地域、教師がすべきことを理解する。	【ミニレポート】を作成する。	4時間
第13回	4. これからの教育 (1) 小学校外国語教育の展開 新学習指導要領で導入される教科「外国語」や3年生、4年生での「外国語活動」の内容と実践を具体的に体験するほか、そこでの議論を知り、意義と課題を整理する。	資料（PISAテストの問題）を解き、求められる学力について考える。	4時間
第14回	4. これからの教育 (2) 外国の教育から学ぶこと これから求められる教育について、とくに北欧の教育実践（フィンランドの自律学習、オランダの個別化された教育・イエナプラン）や、ICT教育、欧米ですすめられる理数教育（STEM）について紹介し、これからの教育の方向性や日本のあるべき教育の方向性について議論を深める。	定期レポートについてできるところを作成してくる。	4時間
第15回	5. まとめ 授業を通して学んだことを振り返る。授業を総括し、定期レポート案の交流を行う。他者からの意見を踏まえて、定期レポートへと反映させる。	定期レポートの作成、改訂。	4時間

授業科目名	現代倫理				
担当教員名	徳永正直				
学年・コース等	1年～4年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

倫理学の基本問題である善論（善悪の基準、善とは何か）、徳論（人間として身につけるべき美德とは何か、たとえば勇気とは何か）そして義務論（道徳的行為の原則）が、現代社会の中でどのように扱われているのか解説し、科学技術の急激な発達をもたらした倫理学上の新しい問題について考える。特に安楽死や代理母などの生命倫理と地球温暖化問題に象徴される環境倫理の原則が決定的に対立することを確認し、教育と倫理の関係についても考察する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

現代社会の中で新たに生じている倫理的問題の理解

目標：

生命倫理や環境倫理また教育と倫理の関係について自分自身の意見をまとめて発表することができる。

汎用的な力

- 1 . DP8. 意思疎通
- 2 . DP4. 課題発見

他の人の意見を踏まえて自分自身の意見を伝えることができる。

科学技術の発達が人間の基本的なあり方の重大な変化をもたらしていることに気づくことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行いません。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

期末レポート	55%	： 授業内容の理解および問題意識に基づいた論述の内容及び学術レポートに相応しいかどうかによって、100点満点で評価します。
各回の授業内の小レポート	45%	： 授業で示すキーワードの理解に基づいて、自分自身の意見を述べてもらい、論理的整合性があり独自の見解が示されているれば3点、独自の見解はないが正しく理解されているれば2点、許容範囲の誤りは1点で評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

講義中に適宜指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 後で指示する
場所： 徳永研究室

授業計画

回数	内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	ガイダンス：シラバスの確認と授業全体の概要説明。 倫理学における善論、徳論、義務論を解説し、科学技術の急激な発達によって従来の考え方には対処できない状況が生まれていることを確認します。特に生命倫理の分野で生じている問題について解説します。また、戦前の教育勅語と戦後の教育基本法を比較し、道徳の内容が時代とともに変化していることを確認します。	4時間
第2回	道徳と法律と宗教の立場の違いを理解する。 和辻哲郎の著書『人間の学としての倫理学』（1933年）に基づいて、倫理とは何かを確認し、道徳の辞書的定義との相違を確認します。その上で、同じ行為であっても法律と道徳と宗教の世界では異なる解釈になることを説明し、アメリカの心理学者コーンバーグの有名な心理テスト「ハインツのジレンマ」で議論します。	4時間
第3回	性善説と性悪説	4時間

	人間本性の根源的な善を信頼するルソー（J. J. Rousseau）の立場とカント（I. Kant）の根本悪を解説し、パスカル（B. Pascal）の人間観の妥当性を確認します。特にカントの根本悪を深く理解するために、いくつかの事例に即して考えます。		
第4回	カントの義務倫理学とシラー（J. Ch. Fr. Schiller）の立場からの批判 「私は何をなすべきか」という義務論の代表者であるカントの道徳律について説明し、それに対するシラーの批判を紹介した後で、カントによって確立された道徳的行為の原則の妥当性を現代社会の中で考えます。	道徳律、真に美しき魂などのキーワードを含んだ授業内容のまとめを作成する。	4時間
第5回	倫理学における功利主義の原理 「最大多数の最大幸福」を原理とする功利主義の意義と問題点について解説し、加藤尚武の著書『現代倫理学入門』（講談社学術文庫）第2章に基づいて議論します。具体的に「サバイバル・ロッタリー」（生存籤制度）について議論します。	授業中の議論を踏まえて加藤尚武『現代倫理学入門』第2章に対する自分自身の意見をまとめる。	4時間
第6回	安楽死問題を考える。 安楽死の概念整理をした後で、高橋昌一郎著『哲学ディベート』（日本放送出版協会）第5章の資料に基づいて議論します。フランスで実際にあったヴァンサン・アンペール事件を取り上げます。	本日の授業を参考にして安楽死問題に対する各自の見解をまとめレポートとして報告する。	4時間
第7回	代理母問題を考える（1）人工授精 人工授精（顕微授精）、体外受精などの生殖医療技術が可能にした赤ちゃんを「作る」という問題を考えます。精子銀行や卵子の売買などがビジネスとして行われているアメリカでは、「商業的代理母」の存在がありますが、それに対して赤ちゃんを売買することと同じではないかと厳しく批判する立場があります。高橋昌一郎著『哲学ディベート』（日本放送出版協会）第2章の資料に基づいて議論します。	議論の内容をまとめ、自分自身の見解を報告する。	4時間
第8回	代理母問題を考える（2）金銭の授受を伴う代理母契約 第7回に取り上げた代理母問題に関連して、「生殖医療の商業化」に伴う倫理的問題をさらに検討します。さらに、人体の医療資源化やドナー・ベビーの問題を考えます。	生殖医療の商業化が現在のどの程度進んでいるのか？ また、代理母によって赤ちゃんを授かる行為が法律でどのように規制されているのかを調べる。日本に限らず諸外国の代理母問題への対応を比較することが望ましい。	4時間
第9回	環境倫理を考える（1）アル・ゴアの提言 地球温暖化がもたらす環境問題を告発した元アメリカ副大統領アル・ゴアのプレゼンテーション『不都合な真実』をDVDで視聴します。	『不都合な真実』に対する感想をまとめて次の授業で報告する。また、アル・ゴアに批判的な立場の意見についても調べておくこと。	4時間
第10回	環境倫理を考える（2）ラディカル・ヒューマンイズム 前回のDVDに対する感想を報告した後、そもそも環境問題が何故生じるのかを人間の基本的なあり方から説明し、環境問題の歴史をたどりながら、環境問題解決に向けたいくつかの提案を紹介します。たとえば、フロム（E. Fromm）のラディカル・ヒューマンイズムの主張について解説します。	二回にわたる環境倫理の授業内容をレポートにまとめる。	4時間
第11回	教育と倫理（1）体罰問題 近年「指導力不足教員」や「不適格教員」に対するマスコミのバッシングが激しくなっていますが、「教育」や「躾」の美名の下でも許されることと許されないことがあります。まず教員による体罰事件を手がかりにして、教師の懲戒権について解説し、体罰肯定論と体罰否定論の立場に分かれてディベートを行います。	各自具体的な体罰事件を調べ、それに対する自分自身の意見を報告する。ディベートの主張を補強するための根拠を明確にすること。	4時間
第12回	教育と倫理（2）児童虐待を考える。 児童虐待の定義を確認し、虐待が起こる原因について考えます。特に「教育」や「躾」の美名の下に子どもの人権を抑圧したり侵害してはならないという立場を強く打ち出しているアリス・ミラー（Alice Miller）の思想を解説します。「真の自己」「偽りの自己」「闇教育」「光の教育」が彼女の思想を理解するためのキーワードです。	キーワードを必ず含んで授業内容をまとめること。	4時間
第13回	教育と倫理（3）「道徳」授業を考える。 コールバーグの3水準6段階の道徳性発達理論にもとづくモラルジレンマ授業の意義と問題点を解説し、「道徳」授業ほど不道徳な授業はない、と厳しく批判する宇佐美寛の思想を克服することが出来るのかを考えます。	授業内容を要約すること。	4時間
第14回	「技術的に可能であっても別の観点からしてしない」という命題の意義を検討する。 これまでに取り上げた生命倫理学の諸問題（臓器移植、安楽死、代理母、クローン技術、遺伝子操作など）は、科学技術の激的な発達が人間にもたらした新たな倫理学的問題です。人間がその人間性を維持していくためには、新しい技術に対してどのようにかかわっていくべきか？ この問題をブーバーの「我と汝」の思想に基づいて考えてみます。	ブーバーの「我と汝」の思想を要約する。	4時間
第15回	レポート報告会 生命倫理や環境倫理、そして「教育と倫理」についてレポートを作成してもらった中から、優れたレポートを報告してもらい、質疑応答を行います。	現代倫理の授業全体を通じて、特に興味を持つことができた問題についてまとめること。	4時間

授業科目名	現代倫理				
担当教員名	成瀬尚志				
学年・コース等	1～4年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

この授業では倫理学上の問題を考える上で基礎となる立場について概説します。さまざまな倫理学上の立場を学ぶことで、倫理学の基礎的知識を習得するとともに、現代の倫理的な問題について自分自身の意見を持つことができるようになることを目標とします。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

- ・倫理学に関する基礎的知識
- ・現代社会における問題の倫理的な分析

目標：

- ・倫理学に関する基礎的知識を自分自身の言葉で説明できる
- ・現代社会における問題を倫理的な観点から分析し、自分自身の意見を持つことができる

汎用的な力

- DP4. 課題発見
- DP8. 意思疎通

現代社会における諸問題に関して倫理的な観点から課題を発見し説明することができる

相手の意見を傾聴するとともに、自身の意見を的確に伝えることができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

毎回のコメントシート（3点×15回）	45%	： 授業の理解度に関して独自のルーブリックに基づいて4段階で評価します。
中間試験	25%	： 授業内容を理解しているか、また、自身の意見を吟味できているかどうかに関して評価します。
期末試験	30%	： 授業内容を理解しているか、また、自身の意見を吟味できているかどうかに関して評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』早川書房、2011
伊勢田 哲治他編『科学技術をよく考えるークリティカルシンキング練習帳』名古屋大学出版会、2013

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後
場所： 研究室

授業計画

回	内容	授業外学修課題にかかる目安の時間	
第1回	イントロダクション：倫理と正義 ・この授業の進め方について（授業の目標、きまり、評価の仕方など） ・倫理とは？ ・相対主義とは？ ・善と正義との違い ・善と正義についてのペアワーク ・倫理と正義	倫理学について自身が持っているイメージをまとめるとともに、倫理学について調べてください。	4時間
第2回	正義とは？1：最大多数の最大幸福こそが正義である（功利主義） ・功利主義とはどのような立場か？ ・ベンサム功利主義とミルの功利主義との違い ・功利主義の問題点について考えるペアワーク ・功利主義にはどのような問題があるか？	前回の授業についてコメントシートを確認し、要点を再確認するとともに、次回の授業のキーワード（リパタリアニズム）を調べてください。	4時間
第3回	正義とは？2：自由の尊重こそが正義である（リパタリアニズム）	前回の授業についてコメントシートを確認し、要点を再確認するとともに、次回の授業のキーワード（カント、定言命法と仮言命法）を調べてください。	4時間

	<ul style="list-style-type: none"> ・リバタリアニズムとはどのような立場か？ ・自己所有権と自由 ・所得税を課すことは奴隷労働を強いることか？ ・リバタリアニズムの問題点について考えるペアワーク ・リバタリアニズムにはどのような問題があるか？ 		
第4回	<p>正義とは？3：欲求に従うことは自由であるのか（カントの立場）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コーヒーを飲みたい時にコーヒーを飲むのは自由な意志決定だと言えるのか？ ・自由とは何か？ ・定言命法と仮言命法 ・カントの立場の問題点について考えるペアワーク ・カントの立場にはどのような問題があるか？ 	<p>前回の授業についてコメントシートを確認し、要点を再確認するとともに、今回の授業のキーワード（ルールズ、無知のベール）を調べてください。</p>	4時間
第5回	<p>正義とは？4：社会の制度をどのように決めるべきか？（ロールズの立場）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・完璧な契約とは？—ロールズの「無知のベール」 ・分配の正義 ・頑張ったからといって偉くない？—道徳的功績を否定する ・ロールズの立場の問題点について考えるペアワーク ・ロールズの立場にはどのような問題があるか？ 	<p>前回の授業についてコメントシートを確認し、要点を再確認するとともに、今回の授業のキーワード（地球温暖化、倫理のグローバル化）を調べてください。</p>	4時間
第6回	<p>環境問題・地球温暖化から考える倫理のグローバル化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地球温暖化に対してどのように対処すべきか？ ・世界のゴミの流れ ・誰が環境問題に対処すべきかについて考えるペアワーク ・環境問題を考えるための倫理のグローバル化 	<p>前回の授業についてコメントシートを確認し、要点を再確認するとともに、今回の授業のキーワード（地球温暖化、世代間倫理）を調べてください。</p>	4時間
第7回	<p>環境問題・地球温暖化から考える世代間倫理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在の世代は未来の世代に対して責任を負うべきか？ ・契約ができない、未来、過去、現在の世代でどのように倫理観を打ち立てるべきかについてのペアワーク ・世代間倫理から考える環境問題 	<p>前回の授業についてコメントシートを確認し、要点を再確認するとともに、今回の授業のキーワード（人工生殖・代理出産・中絶の倫理的問題）を調べてください。</p>	4時間
第8回	<p>現代医療の問題から考える合意と同意 1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人工生殖の倫理的問題 ・代理出産の倫理的問題 ・中絶の倫理的問題 ・現代医療における合意と同意の倫理的問題について考えるペアワーク ・現代医療における合意と同意の倫理的問題とは？ 	<p>前回の授業についてコメントシートを確認し、要点を再確認するとともに、今回の授業のキーワード（臓器売買・安楽死の倫理的問題、インフォームドコンセント）を調べてください。</p>	4時間
第9回	<p>現代医療の問題から考える合意と同意 2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臓器売買の倫理的問題 ・安楽死の倫理的問題 ・インフォームドコンセントとは？ ・現代医療における合意と同意の倫理的問題について考えるペアワーク ・現代医療における合意と同意の倫理的問題とは？ 	<p>前回の授業についてコメントシートを確認し、要点を再確認するとともに、今回の授業のキーワード（遺伝子組み換え作物の倫理的問題）を調べてください。</p>	4時間
第10回	<p>遺伝子組み換え作物から考えるリスク論 1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遺伝子組み換え作物は未知の技術か？ ・食料問題と害虫抵抗性作物 ・害虫抵抗性作物の安全性 ・遺伝子組み換え作物の問題点について考えるペアワーク ・遺伝子組み換え作物を導入することは問題か？ 	<p>前回の授業についてコメントシートを確認し、要点を再確認するとともに、今回の授業のキーワード（予防原則）を調べてください。</p>	4時間
第11回	<p>遺伝子組み換え作物から考えるリスク論 2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遺伝子組み換え作物は必要か？ ・安全性は本当に確かめられているのか？ ・環境への影響を考える ・企業との関係 ・予防原則について ・遺伝子組み換え作物は導入すべきか？ 	<p>前回の授業についてコメントシートを確認し、要点を再確認するとともに、今回の授業のキーワード（動物の権利）を調べてください。</p>	4時間
第12回	<p>動物を食べることは倫理的に問題か？ 1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人と動物を区別できるか？ ・事実と価値との関係 ・動物に権利を認めるべきかについてのペアワーク ・動物に権利を認めるべきか？ 	<p>前回の授業についてコメントシートを確認し、要点を再確認するとともに、今回の授業のキーワード（動物実験、動物の福利、ケアの倫理）を調べてください。</p>	4時間
第13回	<p>動物を食べることは倫理的に問題か？ 1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動物実験と動物の福利 ・肉食主義とは？ ・ケアの倫理から考える ・われわれは動物をどのように扱うべきかについてのペアワーク ・我々は動物をどのように扱えばよいのか？ 	<p>前回の授業についてコメントシートを確認し、要点を再確認するとともに、今回の授業のキーワード（責任主体、道徳的配慮の対象）を調べてください。</p>	4時間
第14回	<p>ロボットに権利はあるか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロボットに責任を帰することは可能か？ ・ロボットは責任の主体になれるか？ ・ロボットは道徳的配慮の対象になり得るか？ ・ロボットに権利はあるかについてのペアワーク ・ロボットと倫理 	<p>前回の授業についてコメントシートを確認し、要点を再確認するとともに、今回の授業のキーワードを調べてください。</p>	4時間
第15回	<p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・倫理学上の立場の確認 ・現代倫理における様々な問題の確認 ・現代における倫理についてペアワーク ・現代における倫理とは？ 	<p>これまでの授業のコメントシートを再確認し期末試験の準備を行う。</p>	4時間

授業科目名	心理学概論／心理学				
担当教員名	米田薫				
学年・コース等	1～4年	開講時期	前期/後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

心のはたらきやしくみを対象とする科学である心理学は、幅広い領域で相互に関連しながら発展しています。心理学とは何かを明らかにし、「認知心理学」や「社会心理学」、「発達心理学」、「教育心理学」、「学習心理学」、「臨床心理学」等の様々な領域の心理学の知見に触れることを通じて、心理学が人間や人間の心をどのようにとらえ、どのように研究して明らかにしてきたかを学ぶことで、受講者の人間に対する見方を広げ、社会の中で生きる自己への理解を深めていきます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

心理学に関する基本的知識

目標：

心理学の基本的な事項について理解し、説明することができる。

汎用的な力

- DP4. 課題発見

自らの心を見つめ、その成長や課題を自己理解することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業内のテスト	14%	授業内に実施する基礎的事項に関するテストにより評価する。
各回のワークシート	65%	各回に提出するワークシートによって評価する。
課題レポートとプレゼンテーション	11%	与えられた課題に関するレポートと、そのプレゼンテーションのパフォーマンスにより評価する。
期末レポート	10%	最終回に示す課題に関するレポートを、定期試験期間中に提出する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

『心理学』武藤隆・森敏昭・遠藤由美・玉瀬耕治編著 有斐閣 2004年
『心理学概論』京都大学心理学連合編 2011年
他は授業中に紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。
事後に復習するだけでなく、自分で学んだ事項をまとめておくことを求める。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 木曜日2時間目
場所： 中央館5階127研究室
備考・注意事項： 質問は、Eメール（アドレス：yoneda@osaka-seikei.ac.jp）でも対応する。件名に「心理学質問：〇〇（送信者の氏名）」とした上で、本文に送信者の所属学部、学籍番号、名前を明記すること。

授業計画

回	授業内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	オリエンテーション 心理学とは 心理学の定義、領域や歴史について概説し、この講義の進め方等について説明します。	4時間
第2回	感覚と知覚の心理学 感覚と知覚の違いや、それらの仕組みについて学びます。	4時間
第3回	発達の心理学 生まれてから死ぬまでの人間の心の発達について学びます。	4時間
第4回	認知や記憶の心理学 人間の認知のはたらきや記憶について学びます。	4時間

第5回	学習の心理学 学習について、心理学的視点から学びます。	本時の学習内容について追加学習し、ワークシートにまとめる。	4時間
第6回	パーソナリティの心理学 パーソナリティについて、心理学的視点から学びます。	本時の学習内容について追加学習し、ワークシートにまとめる。	4時間
第7回	動機づけや感情の心理学 人間の基本的欲求や動機づけ、感情について学びます。	本時の学習内容について追加学習し、ワークシートにまとめる。	4時間
第8回	判断や意思決定の心理学 判断と意思決定に関する心理学を学びます。	本時の学習内容について追加学習し、ワークシートにまとめる。テキストで次時の予習を行い、ワークシートにまとめる。グループで与えられた課題について学習する。	4時間
第9回	コミュニケーションの心理学 人間の用いる言語やコミュニケーションについて、心理学の視点から学びます。	本時の学習内容について追加学習し、ワークシートにまとめる。	4時間
第10回	人間関係の心理学（1）対人認知 対人認知に関する心理学を学びます。	本時の学習内容について追加学習し、ワークシートにまとめる。	4時間
第11回	人間関係の心理学（2）対人関係 対人魅力や人間関係のあり方を心理学の視点から学びます。	本時の学習内容について追加学習し、ワークシートにまとめる。	4時間
第12回	人間関係の心理学（3）態度変容 人間の態度の変容や社会的影響に関する心理学を学びます。	本時の学習内容について追加学習し、ワークシートにまとめる。	4時間
第13回	社会生活の心理学 集団や家族に関する心理学を学びます。	本時の学習内容について追加学習し、ワークシートにまとめる。	4時間
第14回	臨床の心理学 心理支援 ストレスへの対処やカウンセリングについて学びます。	本時の学習内容について追加学習し、ワークシートにまとめる。	4時間
第15回	総括 本科目を受講して、得たものと今後の学修のあり方について考えます。	本時の学習内容について追加学習し、ワークシートにまとめる。	4時間

授業科目名	心理学概論／心理学				
担当教員名	羽野ゆつ子				
学年・コース等	1～4年	開講時期	前期/後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

心理学入門として、心のしくみについて基礎的な内容を学びます。身体を動かすこと、見たり聞いたりすること、ものをつくりたり考えたりすること、人と関わること。私たちが日常の中で行っていることなみについて、その基礎となる心理メカニズムを学びます。また、生を受けて誕生し、子どもから大人になって、老いていき、死を迎えるという、人の一生を視野に入れて、人が人と交わり、自分を育てていく、その心理メカニズムの基礎も学びます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

人間の心のしくみについての知識

目標：

人間の心のしくみについて、心理学の知見にもとづいて理解できる。

汎用的な力

- 1 . DP4. 課題発見

日常の出来事を心理学の知見と結びつけてとらえることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

チャトルシートと授業内ワークシート	45%	： 毎授業ごとにチャトルシートの提出を求め、評価の対象とします。チャトルシートは、授業内容が的確にまとめられているか、授業内容に対する自分の意見が記述できているかを評価します。
中間課題	25%	： 心理学で学んだことを日常生活に結びつけて考える課題です。心理学の基礎知識を正しく理解しているかどうかという観点から評価します。
まとめ	30%	： 心理学の基礎知識を用いて自身の意見を述べる課題に取り組みます。心理学の基礎知識を正しく理解し、日常生活と結びつけて考察しているかどうかという観点から評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業中に紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水・木・金の昼休み（12:20～12:50）
場所： 研究室 中央館2階研究室80

授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	オリエンテーション 一心へのアプローチ 19世紀後半から20世紀初頭に、物理学や生理学などに学び、科学として始まった心理学研究を紹介します。	授業の内容をふりかえり、受講の目的を明確にする。 4時間
第2回	知覚のしくみ（1） 目でものを見ること 知覚の中でも「目でものを見ること」すなわち「視覚」に関する研究から、「知覚」が心の働きの出発点であることを紹介します。	授業の内容を復習し、錯視図形を探す。 4時間
第3回	知覚のしくみ（2） 味わうということ 知覚の中でも「味わうということ」すなわち「味覚」に関する研究から、「味覚」に「味覚」以外の知覚が働いていることを紹介します。	授業の内容を復習し、日常の学習や生活に活用する。 4時間
第4回	認知（1） 記憶のしくみ 新しいことを覚えること、覚えていることを思い出すこと。どちらにも人のエラーはつきものです。このような「人間の記憶」について、心理学の研究で明らかになってきた特徴を紹介します。	授業の内容を復習し、日常場面の出来事に照らす。なぜなぜを探す。 4時間
第5回	認知（2） 思考の方法 コミュニケーションの手段であると同時に、私たちが世界についての理解を高めたり、新しい理解を生み出したりする思考方法の一つである、メタファーについて、なぜなぜを事例に考えます。	授業の内容を復習し、日常の中にあるメタファーを探す。 4時間

第6回	認知（3） 身体と認知 考えたり選んだりといった私たちの思考に感覚や動作といった身体の働きが関わっていることを紹介します。	ここまでの授業の内容を復習し、心理学と日常場面のつながりを探す。	4時間
第7回	心理学の視点から自分を見つける：第1～6回のふりかえり 第1回から第6回までの学習内容をふりかえり、自分の日常生活についてみつめます。	第1回から第6回までの復習と定着	4時間
第8回	発達（1） 乳児期 乳児期にみられる、人の心の発達について考えます。	授業の内容を復習し、乳幼児期の発達について理解を深める。	4時間
第9回	発達（2） 幼児期・児童期 幼児期・児童期にみられる、人の心の発達について考えます。	授業の内容を復習し、幼児期・児童期の発達について理解を深める。	4時間
第10回	発達（3） 青年期 青年期にみられる、人の心の発達について考えます。	授業の内容を復習し、青年期の発達について理解を深める。	4時間
第11回	社会（1） 社会の中で人をどのようにとらえるか 社会心理学の研究で明らかにされてきた、他者への理解や働きかけについて紹介します。	授業の内容を復習し、対人認知について理解を深める。	4時間
第12回	社会（2） 社会の中でのコミュニケーション 社会心理学の研究で明らかにされてきた、他者への理解や働きかけについて紹介します。	授業の内容を復習し、対人認知について理解を深める。	4時間
第13回	臨床（1） 心の不調をどう理解するか 心の不調について、どのような手だてをとることができるのかという理解と、心の不調のもつ意味について紹介します。	授業の内容を復習し、自己を見つける。	4時間
第14回	臨床（2） 心の不調とどう向き合うか 心の不調と向き合う生き方について学びます。	授業の内容を復習し、様々な心の不調を抱える人々への共感的理解を深める。	4時間
第15回	まとめと課題 心理学の授業全体をふりかえります。	授業全体をふりかえり、心のしくみや働きについて理解を深める。	4時間

授業科目名	民族学				
担当教員名	内海涼子				
学年・コース等	1～4年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

世界の民族の形成について学びます。われわれ現生人類はどのように生まれ、どのようなルートをたどって地球全体に広がり、多様な文化を形成していったかを知る。「民族」が必ずしも固定したものではないことや、民族の言語や文化の変容や消失の現状にも触れ、異文化理解の基礎とする。また、各自が新聞記事から異文化にかかわる記事を見つけて、独自の分析を加えて発表する、民族学博物館での観察から比較研究など、能動的学習もおこなう。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

世界の民族や異文化について理解する。

目標：

人類の起源と拡散について理解し、異文化に対する差別や偏見の意識をとりはらう。

汎用的な力

- 1 . DP4. 課題発見

新聞から授業に関連する記事を見つけて、それに対する自分の考えをまとめることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。単位取得には以下の条件の全てを満たすこと

- 1) 小テストの点数合計が40%以上。
- 2) 400字レポート課題4つをそれぞれの締め切り日以内に提出。
- 3) 学外見学に参加し、研修課題レポートを期限内に提出。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業内容の理解	70%	： 授業内容の振り返り小テストを授業冒頭に10回程度おこない、授業内容の理解度をはかる。獲得点数が全小テストの満点総合計の40%以上必須条件。
400字レポート（4回）	15%	： 授業に関連する新聞記事を各自選び、自分の意見や感想を400字にまとめたレポートを4回提出し、その内容で問題への関心や理解度を判断する。4つのレポート全てをそれぞれの期限までに提出すること。
期末レポート	15%	： 学外見学と授業の内容を合わせ、十分な観察をもとに異文化を独自の視点で比較分析しているか

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

ほぼ毎回、授業冒頭に復習テストを実施するので、遅刻厳禁。出席の不正・小テストのカンニング、レポートの代筆など発覚した場合、1回でも単位不可とする。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 金曜日4限
場所： 南館3F第2研究室

授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	オリエンテーション。「ヒト」の起源 世界の様々な言語や文化がどのように形成されてきたかを考える予備知識としてヒトの起源について考えます。	レポート1のための新聞記事を探す。ヒトの起源に関する授業内容の復習。 4時間
第2回	現生人類の出現 現在、地球上に生きているヒトをネアンデルタール人などそれまでのヒトと区別して、現生人類といいます。わたしたち以前のヒトと、わたしたちはどのように関連し、また現生人類の特徴は何かを学びます。	レポート1を執筆する。現生人類の出現について復習。 4時間
第3回	遺伝子でわかるヒトの系譜 世界の様々な民族の関連性について、ヒトのDNAから分かってきた事を学ぶ。 レポート1の提出と、数名によるミニプレゼン。	人類の系譜とDNAの関係について復習。 4時間
第4回	現生人類の拡散1（アフリカからオーストラリアへ）	レポート2のための記事を探す。人類の拡散について復習。 4時間

	現生人類が数万年前にアフリカを出て、はるか遠くのオーストラリアまでたどりついた旅について学ぶ		
第5回	現生人類の拡散2（アフリカからアジア、ヨーロッパへ） ヨーロッパ、アジア、南北アメリカへの現生人類の拡散について、諸説や新説を紹介する。ホモサピエンスとの接触についても。	レポート2を執筆する。人類の拡散と旧人類との関係について復習。	4時間
第6回	アメリカ大陸へのヒトの拡散。 東アジアの極北に住んでいたヒトの一部が、15000年ほど前に氷河期で陸地となっていたベーリング海峡（ベーリンジア）をとって、アラスカへと移動し、その後、北アメリカ、南アメリカへと拡散した。その経緯について学ぶ。シベリア極北に住む牧民の生活について。レポート2の提出とミニプレゼン。	チュクチ族の生活を含む授業内容の復習。	4時間
第7回	オーストロネシア語族の拡散 現生人類の多様性：肌の色・言語 台湾からハワイ、ニュージーランド、マダガスカルを結ぶ地域に広がるオーストロネシア語族について。太平洋からアフリカにおよぶ広範な地域に、どのような経路でいつ広がったかを学ぶ。	レポート3のための記事を探す。オーストロネシア語族の拡散について復習。	4時間
第8回	国立民族学博物館見学研修 11月の土曜日に国立民族学博物館で見学研修を行う。異なる地域や民族の物質文化を中心に観察をおこない、各自テーマを決めて比較研究をする。期末のレポート課題に結びつけること。	見学研修の内容を期末レポート用にまとめておく。	4時間
第9回	世界の言語と民族 世界には多様な言語があるが、言語学上それらはいくつかの言語グループにわけられている。遠くはなれて居住する民族も、同じ言語グループの言葉をはなしていたりする。アジアを中心に言語グループの分布状況と歴史を学ぶ。	レポート3の執筆。世界の言語について復習する。	4時間
第10回	日本人と日本語 日本にはいつ頃からヒトが住んでいるのだろうか。それらの古代人と我々現代人はどのようにつながっているのだろうか。レポート3の提出とミニプレゼン。	レポート4の執筆。日本人と日本語の形成について復習する。	4時間
第11回	南米アマゾンの熱帯雨林に住む民族の伝統的な生活と現代化 南米アマゾンの熱帯雨林には、20世紀末まで、現代文化をほとんど受容することなく、独自の生活を送ってきた民族グループがいた。自然と一体化して生きていた彼らの生活について学ぶ。	レポート4の為の記事を探す。アマゾンの少数民族について復習する。	4時間
第12回	ヨーロッパ人と南北アメリカ先住民 15世紀にヨーロッパ人がアメリカに到達し侵略と移住をはじめ、先住民はようになったのか。アメリカ先住民はなぜヨーロッパ人によって植民地支配をうけるようになったのか。	レポート4の執筆。南北アメリカの植民地化について復習する	4時間
第13回	大航海時代のはじまりと民族文化の変容 15世紀以降、ヨーロッパはアメリカだけでなく、インド、日本や東南アジア地域にも進出してくる。その目的の一つは、インドネシアの東の端の小さな島でしか産出していなかったクローブやナツメグなどの香辛料であった。スパイス取引をとりあげ、東西の文化・モノが互いに影響をあたえるようになった歴史について学ぶ。	15世紀以降のグローバリゼーションによる文化の変容について復習する	4時間
第14回	失われゆく民族文化 日本のアイヌの言葉は、すでに生まれつき母語として話す人が存在せず、絶滅に瀕する言語である。同様に世界の多くの言語が消滅しようとしている。また、生活の現代化にともない、伝統的な技術や工芸など、さまざまな文化が失われつつある。民族文化の多様性をいかに存続させればよいたろう。レポート4の提出とミニプレゼン。	絶滅危機言語について、復習し、自分でも調べてみる	2時間
第15回	インドネシア パプア州の森林に住む人々。授業のまとめ。 インドネシアのパプア州の森林に、樹上家屋を作って生活してきた民族グループがいた。かれらの生活と現代のわれわれの生活を比較する。	授業全体を振り返り、ノートを整理する。	2時間
第16回	期末レポート提出 15回の授業の内容をふまえたうえで、学外見学における研究テーマにそったレポートを提出する。 10点以上の作品の比較研究をおこなうこと。詳細は授業内で指示する。		8時間
第16回			時間

授業科目名	比較文化論				
担当教員名	松野敬文				
学年・コース等	1～4年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	〔講義科目〕講義が中心となります。講義を踏まえた小レポートを、授業中に複数回書きます。				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

〔「アニメーション映画」を通じて、文化の多様性と相対性を学ぶ〕
 文学や芸術・地域文化といった世界の多様な文化現象を、総合的な観点に立ち、クロス・ジャンルの比較研究する学問が、「比較文化(学)」です。この授業では、19世紀末以降、幅広い国籍の作家によって制作されてきた映像作品、特に「アニメーション映画」を題材にして、文化の多様性を講義形式で学びます。それは、自国の文化に対する相対化の作業であり、自分の価値観をあらためて問い直す試みでもあります。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP1. 幅広い教養やスキル	「多文化主義」の考え方に基づく社会知識	世界の映像作品の比較研究を通して「多文化主義」の考え方を学び、民族や国家の枠組にとられない、幅広い社会知識を身につけられます。
2 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	美学・芸術学・映像学に関する基礎的な専門知識	芸術の諸分野を領域横断的に扱う講義により、美学・芸術学・映像学に関する基礎的な専門知識を得られます。
汎用的な力		
1 . DP4. 課題発見		「情報リテラシー」の向上。インターネット上の学術データベースを利用した先行研究の調査方法、図版資料の収集方法等を学ぶことができます。
2 . DP6. 行動・実践		「記述力」の向上。決められた形式（論文形式）に従って、400字程度の小レポート、4000字程度のレポート課題を執筆することができます。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

授業では、短時間で書ける簡単なレポート、「小レポート（ミニッツペーパー）」を提出します。「小レポート（ミニッツペーパー）」は文章だけでなく、図解やイラスト・マンガなど、授業内容に関するものであれば自由に書いて（描いて）かまいません。

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席してください。
 規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行いません。

授業内の課題（60%）とレポート課題（40%）によって評価します。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業内の課題（小レポート）	60%	： 授業内の課題（10回程度の小レポート。各回6点程度、合計60点）は、内容の妥当性について、独自のルーブリックに基づいて4段階で評価します。
レポート課題（期末レポート）	40%	： 最終的に提出されたレポート課題（期末レポート）について、独自のルーブリックに基づいて評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

西川長夫『増補 国境の越え方 国民国家論序説』（平凡社ライブラリー、2001年）

四方田犬彦『映画はもうすぐ百歳になる』（筑摩書房、1986年）
 岩本憲児、高村倉太郎監修『世界映画大事典』（日本図書センター、2008年）

ツェーラム『映画の考古学』（月尾嘉男訳、フィルムアート社、1977年）
 ローゼンブラム『写真の歴史』（飯沢耕太郎監修、美術出版社、1998年）
 ジアネッティ『映画技法のリテラシー（全2巻）』（堤和子ほか訳、フィルムアート社、2003年）
 ボードウェル、トンプソン『フィルム・アート 映画芸術入門』（藤木秀朗監訳、名古屋大学出版会、2007年）

山口且訓、渡辺泰『日本アニメーション映画史』（有文社、1978年）
 伴野孝司、望月信夫『世界アニメーション映画史』（ばるぶ、1986年）
 昼間行雄、権藤俊司編『ユーロ・アニメーション』（フィルムアート社、2002年）
 五味洋子『アニメーションの宝箱』（ふゅーじょんぷろだくと、2004年）

『世界と日本のアニメーション ベスト150』（同上、2003年）

その他の参考文献については、授業内で適宜指示します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。
 その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をしてください。

また、期末レポートは「論文形式」で執筆します。
 論文の書き方については、授業内で説明します。ですが、事前に以下のウェブサイトを目を通しておくことを、おすすめします。

佐藤守弘「学術論文を書くために（2012年改訂版）」『洛中蒼猴軒』
<http://web.kyoto-inet.or.jp/people/b-monkey/howto.html>

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業の教室
備考・注意事項： 質問は、授業の前後に答えます。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<p>はじめに 「比較文化」とは？</p> <p>最初の授業では、「比較文化」の理念と基本的な方法論について触れます。また「比較文化」の対象として、なぜ「アニメーション映画」を取り上げるのか、といった前提となる事項を確認します。詳しくは、以下の通り。</p> <p>〈なぜ「比較文化」の対象として、「アニメーション映画」を取り上げるのか？〉 そうした問いに対しては、「アニメーション映画」こそ現代において重要な共通言語のひとつになりうるものだから、と答えることができます。絵画や彫刻、詩や音楽といった芸術は古来より、異なる出自と価値観の人々を繋ぐ、共通言語として機能してきました。そのことは、芸術の諸領域のなかでは新参者の、映画においても同様です。そして現在、インターネット時代では、「アニメーション映画」は製作国での公開からほとんど間を空けず、多様な言語によって吹き替えられ、あるいは字幕をつけられて、ほとんどあらゆる民族、国籍の人々を楽しませています。世界の「アニメーション映画」を読み解くことは、国際化する社会を理解するための一助となりましょう。</p>	<p>授業内で題名をあげた書籍を、実際に読んでみましょう。例えば、西川長夫『増補 国境の越え方 国民国家論序説』（平凡社ライブラリー、2001年）など。</p>	4時間
第2回	<p>「アニメーション映画」の創生 写真と映画、そしてアニメーション（1）メディアの根源</p> <p>私たちが生まれてからずっと、あたりまえのように触れてきた「アニメーション映画」とは、いったいどこで、どのようにして生まれたものなのでしょうか。その歴史は写真術や映画術の発明以前にさかのぼる、と考える人もいます（何万年も前であっても、私たちの祖先は松明の炎さえあれば、洞窟内で影絵アニメを上映することができたはずです）。しかし、より現実的には、アニメーションは19世紀末のヨーロッパにおいて、映画術の発明に前後（！）して、この世に生を受けました。第2回と第3回の授業では、写真史と映画史そしてアニメーション史（その大部分は映画の歴史と重なります）を紐解きながら、このメディアの根源を探ります。</p>	<p>同上。例えば、四方田犬彦『映画はもうすぐ百歳になる』（筑摩書房、1986年）、ゴダール『映画史（全）』（奥村昭夫訳、ちくま学芸文庫、2012年）など。</p>	4時間
第3回	<p>「アニメーション映画」の創生 写真と映画、そしてアニメーション（2）歴史</p> <p>第2回の内容から引き続き、写真と映画そしてアニメーションの歴史を簡潔に紹介します。</p>	<p>同上。例えば、蓮實重彦編『リュミエール元年』（筑摩書房、1995年）、マドレーヌ・マルテット・メリエス『魔術師メリエス 映画の世紀を開いたわが祖父の生涯』（古賀太訳、フィルムアート社、1994年）など。</p>	4時間
第4回	<p>「アニメーション映画」の作品研究〔以下「作品研究」〕（1）ウォルト・ディズニー製作『白雪姫』（1937年、アメリカ）</p> <p>第4回から第14回までは、「アニメーション映画」の個別的な「作品研究」をおこないます。具体的には、毎週ひとつの「アニメーション映画」（主に長編）を取り上げて、その内容を制作（製作）者の歩み（バイオグラフィーとフィルモグラフィ）や作品の成立状況（それぞれの国の近現代史と、そのなかでの映画産業・アニメ産業の状況）等とあわせて、多角的に検討します。</p> <p>最初に取り上げる作品は、ウォルト・ディズニー製作、デヴィッド・ハンド監督の『白雪姫』（1937年、アメリカ）を予定しています。以降の作品は、特に明記のない場合セル・アニメーションです（課題作品は、変更するかもしれません。タイトル横の年号は本国での公開年、国名は製作国です）。</p>	<p>授業内で名前をあげた作家や作品について、自主的に学習しましょう（作品をみる、文献を読む、先行研究を調査する等。レンタルDVD店や公共図書館、インターネット等を活用すれば、大半の作品はみることが可能です。作家や作品について書かれた文献も、図書館で探せます。研究論文は「Cinii」等のWEBデータベースを使用すれば、手軽に読むことができます）。</p>	4時間
第5回	<p>作品研究（2） デイヴ・フライシャー監督『バッタ君町に行く』（1941年、アメリカ）</p> <p>「アニメーション映画」の個別的な「作品研究」をおこないます。</p> <p>取り上げる作品は、デイヴ・フライシャー監督の『バッタ君町に行く』（1941年、アメリカ）です。</p>	同上。	4時間
第6回	<p>作品研究（3） ポール・グリモー監督『やぶにらみの暴君（王と鳥）』（1953/1980年、フランス）</p> <p>「アニメーション映画」の個別的な「作品研究」をおこないます。</p> <p>取り上げる作品は、ポール・グリモー監督の『やぶにらみの暴君（王と鳥）』（1953/1980年、フランス）です。</p>	同上。	4時間
第7回	<p>作品研究（4） レフ・アタマーノフ監督『雪の女王』（1957年、ソ連）</p> <p>「アニメーション映画」の個別的な「作品研究」をおこないます。</p> <p>取り上げる作品は、レフ・アタマーノフ監督の『雪の女王』（1957年、ソ連）です。</p>	同上。	4時間
第8回	<p>作品研究（5） ロッテ・ライニガー監督『アクメッド王子の冒険』（1926年、ドイツ）</p> <p>「アニメーション映画」の個別的な「作品研究」をおこないます。</p> <p>以降の数は、前回までのセル・アニメーション（セルと呼ばれる透明なシートを用いたアニメーション）とは見た目の異なる、特殊な技法のアニメーションを紹介します。</p> <p>取り上げる作品は、ロッテ・ライニガー監督の『アクメッド王子の冒険』（1926年、ドイツ）。影絵（シルエット）を用いたアニメーションです。</p>	同上。	4時間
第9回	<p>作品研究（6） イジー・トルンカ監督『バヤヤ王子』（1950年、チェコ）</p> <p>「アニメーション映画」の個別的な「作品研究」をおこないます。</p> <p>取り上げる作品は、イジー・トルンカ監督の『バヤヤ王子』（1950年、チェコ）。人形を用いたアニメーションです。</p>	同上。	4時間
第10回	<p>作品研究（7） ルネ・ラルー監督『ファンタスティック・プラネット』（1973年、フランス・チェコ）</p> <p>「アニメーション映画」の個別的な「作品研究」をおこないます。</p> <p>取り上げる作品は、ルネ・ラルー監督の『ファンタスティック・プラネット』（1973年、仏・チェコ）。切り紙（カットアウト）を用いたアニメーションです。</p>	同上。	4時間

第11回	<p>作品研究(8) フレデリック・バック監督『木を植えた男』(1987年、カナダ) 「アニメーション映画」の個別的な「作品研究」をおこないます。</p> <p>取り上げる作品は、フレデリック・バック監督『木を植えた男』(1987年、カナダ)。 色鉛筆画を用いたアニメーションです。</p>	同上。	4時間
第12回	<p>作品研究(9) ジョージ・ダニング監督『イエロー・サブマリン』(1968年、イギリス) 「アニメーション映画」の個別的な「作品研究」をおこないます。</p> <p>この回からは、再びセル・アニメーションに戻ります。しかし、その様相は前半の作品(ディズニー流のフル・アニメーション)とは異なります。これらの作品は、リミテッド・アニメーションと呼ばれることもあります。</p> <p>取り上げる作品は、ジョージ・ダニング監督の『イエロー・サブマリン』(1968年、イギリス)です。</p>	同上。	4時間
第13回	<p>作品研究(10) 王樹忱・厳定憲・徐景達監督『ナーザの大暴れ』(1979年、中国) 「アニメーション映画」の個別的な「作品研究」をおこないます。</p> <p>取り上げる作品は、王樹忱・厳定憲・徐景達監督の『ナーザの大暴れ』(1979年、中国)です。</p>	同上。	4時間
第14回	<p>作品研究(11) 芹沢有吾監督『わんぱく王子の大蛇退治』(1963年、日本) 「アニメーション映画」の個別的な「作品研究」をおこないます。</p> <p>取り上げる作品は、芹沢有吾監督の『わんぱく王子の大蛇退治』(1963年、日本)です。</p>	同上。また、期末レポートを準備します。	4時間
第15回	<p>おわりに 「比較文化」の展望 これまでの講義内容を踏まえて、「比較文化」の展望を語ります。</p>	期末レポートを準備します。	4時間

授業科目名	考古学				
担当教員名	渡邊 貴亮				
学年・コース等	1～4年	開講時期	前後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

「考古学」、聞いたことのある言葉だが具体的にどのような学問であろうか。考古学者とは、人類が残したあらゆる痕跡を手掛かりとして、生活していたヒトの暮らしや社会、環境を知ろうとする。時として遺跡を発掘調査し、そこから掘り出されたものを様々な手段を用いて分析する。本講義では、まず考古学がどのような学問であるのかを概観し、次に実際に発掘調査で得られる「石器」や「土器」といった資料の扱い方と、そこからいかに情報を引き出し、研究するのかといった方法を学ぶ。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1.幅広い教養やスキル	人類の歴史とその発展の理解	人類の歴史とその発展の経過を、学問的手順を経て理解することができる。
2．DP2.専門的知識・技能、職業理解	考古学の理解	考古学とはどのような学問なのかを理解することができる。考古資料の取り扱い方法を身に付けている。
汎用的な力		
1．DP4.課題発見		考古学的な調査方法や研究から、課題発見とその解決のための自己目標設定を学ぶことができる。
2．DP10.忠恕の心		授業を通じて集団で実施する調査・研究の方法を学び、他者の立場にたった思考を身につける。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・見学、フィールドワーク

授業内において、実際の資料に触れる機会を設けることで、より深く考古資料の取り扱いを学ぶ。それらの資料について受講生にコメントを求める。また、博物館において学外学習を実施し、実際に資料を見学する機会やスケッチする機会を設けて、考古学的な資料の観察方法などを学ぶ。

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

コメントシート	30%	： 「授業の内容を理解し、自身の言葉で簡潔にまとめることができるか」「キーワードを理解しているか」という観点から評価する。学外授業の課題については「講義内での要点を理解しているか」の観点から評価する。
中間レポート	20%	： 第1回から第8回までの範囲について、「授業内容を正しく理解し、自身の言葉でまとめることができるか」という観点から評価する。
期末試験(レポート)	50%	： 15回の授業を通じて「授業内容を正しく理解できているか」「学問的な思考方法を身につけているか」「学問的な手順を経て作成されているか」という観点から評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

松藤和人・門田誠一編著 『よくわかる考古学』ミネルヴァ書房 2010年
近藤義郎ほか編著 『岩波講座 日本考古学<1>研究の方法』岩波書店 1991年
その他の参考文献については講義の単元ごとに適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。シラバスに記載の参考文献の他にも授業の単元ごとに参考文献等を紹介するため、それらを用いて予復習するとより効果的な学習となる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後
場所： 授業の教室
備考・注意事項： 授業の前後以外で質問したい場合は、メールにて受け付けます。
watanab@jm.kansai-u.ac.jp
メールには必ず件名、氏名、所属を明記してください。

授業計画

第1回	考古学とは何か	講義の内容を配布資料および参考文献等で復習する。また、これから学ぶ「考古学」が今まで受講生各自が持っていたイメージとどのように異なるのかを考える。	授業外学修課題にかかる目安の時間 4時間
	この講義の流れや出席の取り方、成績評価の方法などをガイドする。また、この授業では何を学び、何を身につけることを目標とするのかを説明する。その後、考古学とはどのようなものかを概説する。		

第2回	考古学とはどのような学問なのか	講義の内容を配布資料および参考文献等で復習する。講義で解説した以外の専門用語などについて、気になったものは自身で調べて理解を深める。	4時間
	初回の概説を踏まえ、より詳細に考古学がどのような学問なのかを学ぶ。考古学の基本理念や目的、方法について学ぶ。今後本講義で頻出する専門用語などについても解説する。		
第3回	考古学の歴史	講義の内容を配布資料および参考文献等で復習する。日本考古学はどのようにして持ち込まれ、どのように発展してきたのかについて理解を深める。	4時間
	日本における考古学がどのような歴史をたどってきたのかを概説する。また、日本(東アジア)における考古学の扱いと欧米における考古学の扱いについてどのように異なるかを説明する。		
第4回	考古学の方法(1) - 考古学における図・写真 -	考古学では「図」や「写真」といった資料化された情報がとても重要になる。これらが「何故重要なのか」や、考古学における図や写真の「読み解き方」などを中心に学ぶ。	4時間
	考古学では「図」や「写真」といった資料化された情報がとても重要になる。これらが「何故重要なのか」や、考古学における図や写真の「読み解き方」などを中心に学ぶ。		
第5回	考古学の方法(2) - 発掘調査について -	講義の内容を配布資料および参考文献等で復習する。発掘調査のメリット・デメリットについて理解する。また、「遺跡」にはどのような法律や法令が適用されるのかについて理解を深める。	4時間
	考古学では時として「発掘調査」という手法を用いる。「発掘調査」とはどのような意味があり何を目的として行うものなのか。どのようなルールが定められているのか。これらの内容について授業担当者の実際の経験を踏まえて学ぶ。		
第6回	考古学の方法(3) - 年代の推定について -	講義の内容を配布資料および参考文献等で復習する。考古学における資料の新旧関係や年代の推定方法について理解を深める。特に自然科学的手法と人文科学的手法との違いについて理解を深める。	4時間
	考古学ではどのようにして遺跡や資料の「新旧」を決めているのか、具体的な年代が発表されているものについてはどのようにその年代を推定(決定)しているのかを学ぶ。		
第7回	「デザイン」を用いた研究	講義の内容を配布資料および参考文献等で復習する。考古学の方法論について理解を深める。特に「デザイン」を手掛かりとする「形式」「型式」「様式」についての理解を深める。	4時間
	考古学では人類が残した痕跡を手掛かりとして、様々な研究をおこなう。考古資料には、その資料の製作や使用にかかわった人が残した「デザイン」を留めるものがある。これらの資料に残された「デザイン」を手掛かりとする研究方法について学ぶ。		
第8回	石器を用いた研究	講義の内容を配布資料および参考文献等で復習する。石器研究のメリット・デメリットについて理解を深める。石器とはどのような資料であるのか理解を深める。	4時間
	石器」とは人類がこれまでもっとも長く使い続けている道具の一つである。「石器研究」とはどのようなものであり、なぜ石器を用いて研究するのかを学ぶ。		
第9回	土器を用いた研究	講義の内容を配布資料および参考文献等で復習する。土器の性質や研究の方法について理解を深める。	4時間
	「土器」とは人類のみが用いる道具であり、人類の進化の上でも大きな変化の一つである。「土器研究」とはどのようなものであり、なぜ土器を用いて研究するのかを学ぶ。		
第10回	遺構を用いた研究	講義の内容を配布資料および参考文献等で復習する。「遺構」とは「遺跡」や「遺物」と何が異なるのかについて理解を深める。また、人々が地面に残した印からどのようにして情報を読み解くのかについて理解を深める。	4時間
	「遺構」とは人類が残した不動産的な痕跡をあらわす。昔の人々が残した「持ち運びできない資料」とはどのようなもので、それらを用いた研究とはどのようにしておこなわれるのかを学ぶ。		
第11回	博物館・資料館における考古資料について	講義の内容を配布資料および参考文献等で復習する。博物館における考古学の役割について理解を深める。	4時間
	現代社会において、考古資料は博物館や資料館で目にする機会が多い。博物館における考古資料とはどのようなものなのか。また、博物館の資料とはどのようにして観覧者に届けられるのか。考古学が博物館において担う役割について学ぶ。		
第12回	学外学習 - 博物館における考古資料の実際 -	博物館で実際に図化した資料について、自身で調べて理解を深めておく。見学施設における考古資料の役割について、これまで受講生各自が訪れた館園とどのように異なるのかを考えてみる。	4時間
	実際に博物館におもむき、授業担当者の説明をふまえて考古資料とはどのようなものであり、博物館ではどのように扱われているのかを学ぶ。また、資料の展示・保管方法を見学して学ぶとともに、これまでに学んだ考古資料の観察方法についてもスケッチすることによって実践する。		
第13回	現代社会における遺跡の活用方法	講義の内容を配布資料および参考文献等で復習する。世界遺産に指定されることのメリット・デメリットについて理解を深める。現代社会における遺跡のあり方について理解を深める。	4時間
	過去の人々が残した「遺産」であり「財産」でもある遺跡を、現代社会においてどのように扱うべきなのか、今後遺跡はどのようにして残されていくのかを学ぶ。近年頻繁に目にする「世界遺産」や「文化遺産」とはどういったものなのか。そのメリット・デメリットについて学ぶ。		
第14回	考古学の最前線	講義の内容を配布資料および参考文献等で復習する。現代社会における考古学の役割について理解を深める。	4時間
	現在、考古学ではどのような研究がおこなわれているのか。授業担当がおこなっている研究を含め、新聞発表や報道などがおこなわれていない最新の研究状況を知ること、より深く現在の考古学の在り方について学ぶ。		
第15回	考古学とは何か	これまでの講義の内容を配布資料および参考文献等で復習する。第1回目と第15回目の講義テーマである「考古学とは何か」について、これまでの講義をふり振り返りながら受講生各自の答えを見つけ出す。	4時間
	本講義をふり振り返り、考古学ひいては歴史学という学問が現代社会にとってどのような意味を持つものであるのかを考えるとともに、期末試験に向けたまとめとする。		

授業科目名	日本国憲法				
担当教員名	千代原 亮一				
学年・コース等	1～4年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

具体的な事例の分析を通じて憲法や人権の考え方、統治機構の仕組みに関する知識を身につけることを目的とします。憲法というと、自分には関係がないと思っている方も少なくないかもしれませんが、実際には身の回りの様々な出来事が憲法に関わっています。講義を通じて、少しでも憲法を身近なものとして感じてもらいたいと考えています。憲法の規定のうち基本的人権と統治機構を中心に講義を進めます。単に知識を学ぶということではなく、受講者と一緒に議論しながら憲法的な考え方を身につけることができる講義にしたいと考えています。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	人権保障と統治システムについての理解	基本判例を正確に理解し、その当否を考察できる。人権保障と統治システムを正確に理解し、具体的な問題の検討にあたり、その知識を用いることができる。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		複雑な事象の中から解決すべき課題を抽出し、真の原因を見出し、その解決策を提示することができる。
2．DP8. 意思疎通		他人の意見や主張を正確に把握し、他人との意見や主張の違いを理解した上で、自分の意見や主張を他人に対して正確に伝えることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。

<評価基準（定期試験・授業中課題）>

S評価：到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果を収めている。

A評価：到達目標を十分に達成している。

B評価：到達目標を達成している。

C評価：到達目標を最低限達成している。

D評価：到達目標を達成していない。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

定期試験	60%	： 定期試験の答案により問題発見力と実践力を評価する。講義内容を踏まえた上で、一定程度のレベルを超えた試験答案の内容を合格とする。単にテキストや講義資料の内容を丸写しした内容では、合格とはしない。
授業中課題	30%	： 授業中に配布する課題の内容により理解力を評価する。講義内容を踏まえた上で、一定程度のレベルを超えた課題答案の内容を合格とする。単にテキストや講義資料の内容を丸写しした内容では、合格とはしない。
授業貢献	10%	： 討議などでの発言内容により授業貢献度を評価する。教員との質疑応答、他の受講生とのグループ討議及びディベートへの参加態度について、積極的に発言し、主体的に議論に参加する態度を示した場合に合格とする。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
上田健介・尾形健・片桐直人	『START UP 憲法判例50!』	・ 有斐閣	・ 2016年

参考文献等

- ① 芦部信喜著（高橋和之補訂）『憲法（第6版）』（岩波書店、（2015年））、② 渋谷秀樹・赤坂正浩著『憲法1 人権（第5版）』（有斐閣、2013年3月）、③ 高橋和之著『立憲主義と日本国憲法（第3版）』（有斐閣、2013年）、④ 毛利透・小泉良幸・浅野博宣・松本哲治著『憲法II 人権』（有斐閣、2013年）、⑤ 長谷部恭男・石川健治・宍戸常寿編著『憲法判例百選I（第6版）』（有斐閣、2013年）

履修上の注意・備考・メッセージ

- 本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。
- ・やむを得ず授業を欠席する場合は、文書にて速やかに届け出ること。
 - ・授業中は、ディスカッションや質疑にも積極的に参加すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	月曜5時限目
場所：	西館3階個人研究室
備考・注意事項：	メールアドレスは、chiyohara@osaka-seikei.ac.jp

授業計画

第1回	外国人の人権保障と国際法・国際協調主義	授業外学修課題にかかる目安の時間
	テキストの01判例を読み、事実の概要、判旨のポイントをまとめておくように。	4時間

	マクリーン事件判決を題材に、外国人の人権保障（特に、参政権・社会権の保障）について学ぶ。		
第2回	私人間における人権保障 三菱樹脂事件判決を題材に、私人間における人権保障の原理について学ぶ。	テキストの03判例を読み、事実の概要、判旨のポイントをまとめておくように。	4時間
第3回	人間の尊厳原理と幸福追求権 京都府学連事件判決を題材に、憲法13条の幸福追求権の内容、プライバシー権の保障と制約、自己決定権の保障と制約について学ぶ。	テキストの04判例を読み、事実の概要、判旨のポイントをまとめておくように。	4時間
第4回	法の下での平等と平等権 婚外子相続分違憲決定、再婚禁止期間違憲判決を題材に、「法の下での平等」の内容について学ぶ。	テキストの07・09判例を読み、事実の概要、判旨のポイントをまとめておくように。	4時間
第5回	思想良心の自由 国旗国歌起立斉唱強制事件判決を題材に、思想良心の自由の保障の意義について学ぶ。	テキストの11判例を読み、事実の概要、判旨のポイントをまとめておくように。	4時間
第6回	信教の自由と政教分離 神戸高専剣道実技履修拒否事件判決を題材に信教の自由の保障と、その制約について学ぶ。津地鎮祭事件判決を題材に政教分離の原理と判断基準について学ぶ。	テキストの12・13判例を読み、事実の概要、判旨のポイントをまとめておくように。	4時間
第7回	表現の自由①（表現内容着目規制） チャタレー事件判決を題材に、わいせつ表現規制について学ぶ。北方ジャーナル事件判決を題材に、名誉毀損表現の規制について学ぶ。	テキストの16判例を読み、事実の概要、判旨のポイントをまとめておくように。	4時間
第8回	表現の自由②（表現内容中立規制） 吉祥寺駅構内ビラ配布事件判決を題材に、表現内容中立規制について学ぶ。	テキストの20判例を読み、事実の概要、判旨のポイントをまとめておくように。	4時間
第9回	経済的自由権①（職業選択の自由） 小売市場事件判決および薬局距離制限違憲判決を題材に、職業選択の自由および営業の自由について学ぶ。	テキストの25・26判例を読み、事実の概要、判旨のポイントをまとめておくように。	4時間
第10回	経済的自由権②（財産権） 森林法違憲判決を題材に、財産権の保障とその制約について学ぶ。	テキストの27判例を読み、事実の概要、判旨のポイントをまとめておくように。	4時間
第11回	生存権 朝日訴訟判決および堀木訴訟判決を題材に、生存権の保障とその限界について学ぶ。	テキストの28・29判例を読み、事実の概要、判旨のポイントをまとめておくように。	4時間
第12回	立法権としての国会 病院長自殺国賠訴訟判決を題材に、立法権の意味と権能について学ぶ。	テキストの40判例を読み、事実の概要、判旨のポイントをまとめておくように。	4時間
第13回	行政権としての内閣 ロッキード事件判決を題材に、行政権の意味と権能について学ぶ。	テキストの42判例を読み、事実の概要、判旨のポイントをまとめておくように。	4時間
第14回	司法権としての裁判所 板まんだら事件判決を題材に、司法権の意味と限界について学ぶ。覚せい剤取締法等違反事件を題材に、裁判員制度の合憲性について学ぶ。	テキストの43判例を読み、事実の概要、判旨のポイントをまとめておくように。	4時間
第15回	国際協調主義と憲法9条 砂川事件判決を題材に、日米安保条約と憲法9条の関係について学ぶ。	テキストの50判例を読み、事実の概要、判旨のポイントをまとめておくように。	4時間

授業科目名	日本国憲法				
担当教員名	則武立樹				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

日本国憲法は我が国の最高法規であり、国のあり方を定める基本的なルールである。この講義では、日本という国家と不可分の存在であり、「人権保障」の点で私たちとも密接な関係にある日本国憲法という法がどれほどの重要性を帯びた法であるのかを知ることを目的として、その基本構造、全体像および具体像について、法学の理論的な観点だけでなく、具体的な事例に即して検討する。簡潔で抽象的な憲法の具体的な意味内容を探る上での「生きた教材」としての憲法判例の分析を中心に、授業を進めていく。

養うべき力と到達目標

<p>確かな専門性</p> <p>1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解</p>	<p>具体的内容：</p> <p>日本国憲法の基本構造や理念に関する知識</p>	<p>目標：</p> <p>日本国憲法とはいかなる法であるのかについて、自らの考えを述べることができる。</p>
<p>汎用的な力</p> <p>1 . DP4. 課題発見</p>		<p>日本国憲法の理念、法解釈を正しく理解した上で、日本社会の抱える現代的課題について、事実概要を整理し、批判的に検討することができる。</p>

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業への参加度	30%	： 教員との授業中のやり取り、及び授業内で提出を求めるコメントカード等について、科目独自のループブックによって評価します。
期末試験	70%	： 日本国憲法の構造、理念、法解釈などについて正しく理解をしているか、そして、自らの意見を論理的に述べられるかという観点から評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

『憲法第6版』、芦部信喜著、高橋和之補訂（岩波書店、2015年）
『憲法学読本 第3版』安西文雄、巻美矢紀、宍戸常寿著（有斐閣、2018年）
『憲法判例集第11版』、野中俊彦、江橋崇編著、渋谷秀樹補訂（有斐閣新書、2016年）
『ポケット六法平成30年度版』、山下友信、宇賀克也編集代表（有斐閣、2017年）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。まず予習として、教科書の該当する箇所を読んでおくこと。そして、受講後には当該授業内容の復習を行うこと。また、日常生活での心構えとして、憲法に関する新聞記事やニュースに積極的に触れることも重要である。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	授業の前後
場所：	授業の教室
備考・注意事項：	授業の前後以外で質問がある場合には、メールにて受け付けます(ritsukinoritake@gmail.com)。メールには必ず氏名と所属を明記してください。

授業計画

回数	テーマ	予習として以下のキーワードの意味を調べる	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	ガイダンス、人権とは何か	予習として以下のキーワードの意味を調べる。1：基本的的人権、2：国家からの自由、3：国家による自由、4：公共の福祉。また、授業後には講義内容を自分の言葉で再整理すること。	4時間
第2回	人権の享有主体	予習として以下のキーワードの意味を調べる。1：外国人の人権、2：団体の人権、3：私人間効力。また、授業後には講義内容を自分の言葉で再整理すること。	4時間
第3回	日本国民の定義と国籍、個人の尊重、幸福追求権	予習として以下のキーワードの意味を調べる。1：国籍、2：個人の尊重、3：幸福追求権、4：自己決定権、5：プライバシー権。また、授業後には講義内容を自分の言葉で再整理すること。	4時間

第2回講義で触れた外国人の人権享有主体性と関連して、日本国民の定義と国籍の関連性を学ぶ。また、日本国憲法の根幹を成す第13条前段の「個人の尊重」の重要性や同後段の「幸福追求権」といった新しい人権についても概説する。

第4回	法の下での平等—こども、女性、性的マイノリティに対する差別—	予習として以下のキーワードの意味を調べる こと。1：尊属殺人、2：嫡出性、3：再婚 禁止期間、4：夫婦別姓、5：同性愛者の家 族形成。また、授業後には講義内容を自 分の言葉で再整理すること。	4時間
	「この社会ではあらゆる人間が平等に扱われているのか」とい う根源的な問いを出発点として、尊属殺人、非嫡出子差別、再婚 禁止期間、夫婦別姓、同性婚などの諸問題について解説する。		
第5回	精神的自由①—思想・良心の自由、信教の自由—	予習として以下のキーワードの意味を調べる こと。1：思想・良心の自由、2：信教の自 由、3：政教分離、4：目的効果基準。ま た、授業後には講義内容を自分の言葉で再整 理すること。	4時間
	精神的自由に分類される基本的人権のうち、思想・良心の自 由と信教の自由を取り上げ、両自由が憲法において保障される に至った歴史的経緯とその意義について学ぶ。		
第6回	精神的自由②—表現の自由、集会・結社の自由—	予習として以下のキーワードの意味を調べる こと。1：わいせつ表現、2：名誉毀 損、3：危険回避措置。また、授業後には講 義内容を自分の言葉で再整理すること。	4時間
	精神的自由に分類される基本的人権のうち、表現の自由と集 会・結社の自由を取り上げ、その規制（方法/程度）に焦 点を絞り概説する。		
第7回	精神的自由③—学問の自由—	予習として以下のキーワードの意味を調べる こと。1：学問の自由、2：大学の自 治、3：天皇機関説、4：旭川学力テスト事 件、5：東大ボロボロ事件。また、授業後 には講義内容を自分の言葉で再整理すること。	4時間
	精神的自由に分類される基本的人権のうち、学問の自 由を取り上げ、国家権力による学問の自由の侵害について、判 例を通じて検討する。		
第8回	経済的自由—職業選択の自由、財産権—	予習として以下のキーワードの意味を調べる こと。1：職業選択の自由、2：営業の自 由、3：私有財産制度。また、授業後には講 義内容を自分の言葉で再整理すること。	4時間
	個人の生き方に直結する「職業選択の自由」の重要性につい て、どのような憲法解釈の変遷があったかについて学ぶ。また、 私有財産制度に裏打ちされた「財産権」についても概説す る。		
第9回	社会権—生存権、労働権—	予習として以下のキーワードの意味を調べる こと。1：健康で文化的な最低限度の生 活、2：生活保護、3：労働三権。また、授 業後には講義内容を自分の言葉で再整理す ること。	4時間
	「生存権」として、憲法第25条が規定する「健康で文化的な最 低限度の生活」とはどういった生活を指すのか。近年問題提起が なされている「生活保護」と関連して、その実態を探る。また、 「労働権」として、「労働三権」を主軸に概説する。		
第10回	国民主権	予習として以下のキーワードの意味を調べる こと。1：国民主権、2：象徴天皇制。ま た、授業後には講義内容を自分の言葉で再整 理すること。	4時間
	日本国憲法の基本原理のひとつである「国民主権」について、明 治憲法時代からの歴史的変遷を見ることで、主権とは何か を知る。		
第11回	国会	予習として以下のキーワードの意味を調べる こと。1：立法院、2：法律、3：衆議院/参 議院。また、授業後には講義内容を自分の言 葉で再整理すること。	4時間
	国の唯一の立法機関である「国会」について、どのように制度 化され、どのように機能しているのかを概説する。		
第12回	内閣	予習として以下のキーワードの意味を調べる こと。1：内閣、2：行政権。また、授業 後には講義内容を自分の言葉で再整理す ること。	4時間
	行政府を担う憲法上の国家機関である「内閣」について、その歴 史的変遷と仕組みを見る。		
第13回	裁判所	予習として以下のキーワードの意味を調べる こと。1：司法権、2：違憲審査制。ま た、授業後には講義内容を自分の言葉で再整 理すること。	4時間
	立法、行政と並ぶ、国家の三大権能のひとつである「司法 権」を司る「裁判所」について、その仕組みと機能につい て学ぶ。		
第14回	日本国憲法が抱える現代的課題 - 在日朝鮮人・韓国人を巡るヘイトスピーチ -	予習として以下のキーワードの意味を調べる こと。1：ヘイトスピーチ、2：特別永住 者、3：対抗言論、4：ヘイトスピーチ対策 法。また、授業後には講義内容を自分の言 葉で再整理すること。	4時間
	第6回講義で触れた「表現の自由」が人権の中でも優越的地位 を占めるがゆえに、ヘイトスピーチ規制が実効性を担保でき ない現状において、在日朝鮮人・韓国人を巡る人権侵害がど のような状況にあり、人権の観点からどういった立法を講ずる必 要があるのかを概説する。		
第15回	総括—憲法とはどのような法なのか—	予習として以下のキーワードの意味を調べる こと。1：国家三要素説、2：硬性憲 法、3：最高法規性、4：憲法改正、5：平 和主義。また、授業後には講義内容を自 分の言葉で再整理すること。	4時間
	日本という国家と不可分の存在である日本国憲法という法がどれ ほどの重要性を帯びた法であるのか。本科目の総括として、そ の答えを探る。		

授業科目名	国際関係論				
担当教員名	平賀富一				
学年・コース等	1年～4年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	大手損保企業にて国際事業戦略・海外でのM&A等、外務省にて政府開発援助（ODA）、調査機関（シンクタンク）にて各国の政治経済分析、格付会社にて世界各国、世銀等国際機関や大手企業の格付等、本授業に関連する各種の業務を担当（全15回）。				

授業概要

国際情勢や国際関係は大きな転換期を迎えており、私たちの日々の暮らしや将来のあり方も、国際的な状況と密接に関連しています。この授業では、国際政治経済を中心に、社会の変化も含め、分かりやすいテキストを用いて、世界の主要地域、国家、国際機関などの概要や国際的に重要な諸課題についての基本的な情報・知識を学び理解します。今後受講生がどのような分野に進んでも、世界や国際的な問題を理解し考える基礎となるように、重要な事項や視点を分かりやすく説明し、受講生一人一人に興味を持って参画してもらえるように努めます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性 1 . DP1. 幅広い教養やスキル	具体的内容： 国際関係に関連する事項の重要事項、理論、論点を理解する。	目標： 国際関係に関する重要事項、理論、論点について理解し説明できる。
汎用的な力 1 . DP4. 課題発見		国際関係に関わる重要な問題を、自分なりの見解やアイデアで発見・理解し考えることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。私語・居眠り等授業態度に問題ある場合は都度注意するが、改善が見られない場合はイエローカードを渡し減点（1点/枚）対象とすることがあります。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

小レポート（授業時間内）	30%	： 授業内容を踏まえた記述であれば1点とし、そこに「論理性」と「簡潔性」を備えていれば2点とします。また、授業内容に関係のない記述の場合は0点とします。
期末試験	70%	： 国際政治経済に関連する重要事項を問う問題を出題し、その理解度と、的確な記述や説明ができていないかを基準にして評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
眞淳平	・ 地図で読む「国際関係」入門	・ 筑摩書房	・ 2015年

参考文献等

佐渡友哲・信夫隆司・柑本英雄（2018）『国際関係論（第3版）』弘文堂
 澤喜司郎（2018）『世界を読む国際政治経済学入門（2訂版）』成山堂書店
 野林健・大芝亮・納屋政嗣・山田敦・長尾悟（2007）『国際政治経済学入門（第3版）』有斐閣

その他は適宜紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。授業時間内にも伝達しますが、授業に関連する資料は、原則として、各回の授業日の前日までにLドライブの講師名・科目名のフォルダーに掲示しますので、それを参照したり適宜印刷して予習・復習を行ってください。また、本講義の内容を深く理解する上で、国際政治・国際経済・国際社会などの動きに関心を持つことが重要です。新聞・雑誌・テレビやインターネット等の記事・ニュースに注目するよう心掛けてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	水曜日3限
場所：	44研究室（西館3階）

授業計画

回数	タイトル	内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	ガイダンス、国際関係論とは何か	テキストの目次や、その中で興味を持った箇所を読んで授業に臨み、授業の終了後は、その復習と次回分のテキストの予習をして下さい。	4時間
第2回	日本と国際関係	日本が抱える国際課題の復習と次回講義のテキストの予習を行ってください。	4時間
第3回	アメリカ	アメリカの政治経済や課題の重要点を復習し、次回講義のテキストの予習を行ってください。	4時間
第4回	新興国（概論）	新興国に係る重要点を復習し、次回講義のテキストの予習を行ってください。	4時間

	新興国とは何か、その発展や世界における位置付けの変化・増大化、多くの新興諸国に共通する課題などについて学びます（テキスト第3章）。		
第5回	中国 急速な経済発展により世界第二の経済大国となり、国際的な影響力も増している中国の政治経済の状況や主要課題について学びます（テキスト第3章）。	中国の政治経済の重要点や課題を復習し、次回講義のテキストの予習を行ってください。	4時間
第6回	インド 近い将来に中国を抜き世界最大の人口大国となると見られているインドの政治経済の状況や主要な課題について学びます（テキスト第3章）。	インドの政治経済の重要点や課題を復習し、次回講義のテキストの予習を行ってください。	4時間
第7回	ロシア・ブラジル 中国、インドと共に、いわゆるBRICsの一角を占め、その発展や動向が注目される重要新興国であるロシア、ブラジルの政治経済の状況や主要な課題について学びます（テキスト第3章）。	ロシア・ブラジルの政治経済の重要点や課題を復習し、次回講義のテキストの予習を行ってください。	4時間
第8回	東南アジア諸国とアセアン(東南アジア諸国連合) 貿易・投資、人材交流など様々な局面で我が国との関係が深く、経済発展を遂げている東南アジア諸国の政治経済の状況や主要な課題、それら諸国による重要な地域機構であるアセアン（東南アジア諸国連合）について学びます（テキスト第3章）。	東南アジアの諸国の政治経済の重要点や課題、およびアセアンについて復習し、次回講義のテキストの予習を行ってください。	4時間
第9回	EU(欧州連合) 米国、アジアと共に、世界の3極の一つとして重要な位置づけにあるEUについて、歴史、組織・機構と役割を含む重要点・課題を学びます（テキスト第4章）。	EUの概要や重要点・課題を復習し、次回講義のテキストの予習を行ってください。	4時間
第10回	英国・ドイツ・フランス 欧州を代表する主要国である英国・ドイツ・フランスについて政治経済の状況や主要な課題について学びます（テキスト第4章）。	欧州3カ国の政治経済の重要点や課題を復習し、次回講義のテキストの予習を行ってください。	4時間
第11回	発展途上国の重要課題 発展途上国（開発途上国）の発展のあり方、貧困問題および国際的な援助などの問題について学びます（テキスト第5章）。	発展途上国の重要課題について復習し、次回講義のテキストの予習を行ってください。	4時間
第12回	グローバリゼーション 自由貿易協定、地域統合、金融自由化などグローバル化の動向と、それに反する自国中心主義の動きなどについて学びます（テキスト第6章）。	グローバリゼーションや自国中心主義の重要点について復習し、次回講義のテキストの予習を行ってください。	4時間
第13回	国際機関と非政府組織 国際連合やその他の主要国際機関の概要と役割、非政府組織（NGO）について学びます（テキスト第7章）。	主要な国際機関と非政府組織の概要について復習し、次回講義のテキストの予習を行ってください。	4時間
第14回	国際社会における新たな重要課題 人口問題、宗教対立や環境問題など近年注目される重要課題について学びます（テキスト第8章）。	国際的な新たな重要課題について復習し、次回講義のテキストの予習を行ってください。	4時間
第15回	今後の国際関係・国際情勢と日本 本講義で取り上げた重要事項について振り返り、より理解を深め、今後の日本のあり方を考えます。	今回の講義の内容を含め、本講義で学んだ重要事項を復習してください。	4時間

授業科目名	人権と社会				
担当教員名	榎井縁				
学年・コース等	1～2年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

民主主義社会は何よりも人権重視の社会でなければならないと言われるが、この建前が十分実現されているとは言い難い。こうした現状を打破するには、各人が「人権」についての十分な認識を持つことが肝要である。そこで本講義では、社会思想史的な視点を踏まえながら、人権についての基本的認識を得させる。また、これと並行して、マイノリティの人権を擁護する国際人権法を取り上げながら、現代社会における様々な具体的人権問題について考える。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

「人権」とは何かを歴史的な文脈を踏まえて理解できる。国際人権の中で擁護されている「マイノリティの人権」を理解できる。

目標：

「人権」を歴史を踏まえた上で、国際的な視点から捉えることができる

汎用的な力

- 1 . DP4. 課題発見
- 2 . DP6. 行動・実践

現代社会の諸課題を人権の視点で捉えることができる

社会的に構築されたマイノリティの人権課題解決のため具体的態度や行動に結びつけることができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

コミュニケーションカードの毎回の提出	40%	： 受講者に向けて自分が気づいたこと、深めたいこと、疑問に思う事、対話してみたい内容を記入し、それが授業内容に沿っているかを評価する
中間試験・後半の課題提出	30%	： 中間試験あるいは後半の課題提出のどちらか高得点の方を評価する
最終レポートの提出	30%	： 授業終了後に与えられたいくつかの課題からテーマを選択し、最終レポートとして提出されたものを評価する

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
横藤田誠、中坂恵美子	・ 人権入門 憲法/人権/マイノリティ [第3班]	・ 法律文化社	・ 2017年

参考文献等

人権の精神と差別・貧困 内野正幸 明石書店
 現代社会と人権 安部頼孝 粹出版社
 地球市民の人権教育 肥下彰男 阿久澤麻理子 解放出版社
 よくわかる国際社会学 樽本英樹 ミネルヴァ書房
 レイシズム・スタディーズ序説 鶴飼哲ほか 以文社

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項： 氏名、学籍番号を必ず記載し、メールを送って下さい。
 アドレス：yuenoi@respect.osaka-u.ac.jp

授業計画

回数	タイトル	内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	オリエンテーション	授業内容と評価基準についてのガイダンスを行う	4時間
第2回	「人権」に関する意識の共有	各人が今まで学校教育その他の体験を通して自分の中で培われてきた「人権」を振り返る	4時間
第3回	人権とは何か	イギリスのホップズ、ロックとフランスのルソーの社会契約説について、調べる	4時間

	民主主義の原理と人権思想の発展①欧米編		
第4回	人権とは何か 民主主義の原理と人権思想の発展②欧米編	資本主義の発展の中で生まれてきた社会権（生存権）について、調べる	4時間
第5回	人権とは何か 人権とその歴史①近代日本編	日本における明治以降の自由民権運動から大日本帝国憲法時代まで人権の流れについて、調べる	4時間
第6回	人権とは何か 人権とその歴史②日本国憲法	日本国憲法についての基礎的な事柄について、調べる	4時間
第7回	人権の普遍性について 普遍的といわれた人権を、権力の視点から見る	階級、人種、ジェンダーの視点から初期の人権思想を検証する	4時間
第8回	国際人権を学ぶ 人権を国際基準で考える	国連が中心になって作成した戦後の人権諸条約にどのようなものがあるか調べる	4時間
第9回	世界人権宣言 世界中のすべての人が有する権利のカatalogを知る	世界人権宣言、日本国憲法第3条を読み、数えられる具体的な権利について書きだす	4時間
第10回	子どもの権利 子どもの権利条約の内容を理解し、現代社会における権利の主体としての子どもについてどのような課題があるかを考える	子どもの権利条約を読み、子どもの権利と関係するようなニュース（記事）をピックアップしてくる	4時間
第11回	女性の権利 女性差別撤廃条約の内容を理解し、ジェンダーに潜む差別について具体的に考える	女性差別撤廃条約を読み、日本の男女平等が世界的にどのように評価されているか調べる	4時間
第12回	障がい者の権利 障がい者が同じ「権利」を実現するために条約に書かれていることを知り、障害者の差別や不平等を社会的なものとして捉える	障害者権利条約の設立の経緯と、その内容について調べる	4時間
第13回	民族的少数者の権利とヘイトクライム 人種差別撤廃条約の内容を理解し、世界で起きている移民排斥や日本でのヘイトスピーチと人権について考える	人種差別撤廃条約の成立の経緯と、その内容について調べる	4時間
第14回	性的少数者（LGBT）の権利 性的少数者（LGBT）およびかれらが社会の中で抱える課題について理解し、性的少数者（LGBT）の子どもたちの権利を守るためにできることを立場を明確にした上で考える	人種概念の変容と人種差別の現代的	4時間
第15回	「社会と人権」総括 これまでの授業を振り返り、最終レポートの内容を決める。	今まで受けた授業の教科書やノートや自分の提出したコミュニケーションカードを読み直してくる	4時間

授業科目名	人権と社会				
担当教員名	石井基博				
学年・コース等	1～4年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

人権思想は、現代社会を生きる上で基礎的・良識的な知識・教養です。人権についての基本的な考え方を理解することは、様々な社会生活を営む上で不可欠の前提条件となります。この重要な知識・教養についてその出発点や実際の現実社会での諸問題を取り上げながら、人間の尊厳や自由・平等に関する人間として持つべき知識・教養を身につけることがこの科目の目的です。受講生各人が様々な人権問題を考えながら、社会の一員として差別のない社会を実現すべく、主体的・自律的に思考し、行動できるようになることを目指します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

人権に関する社会思想史の知識および現実社会における人権問題

目標：

人権に関する思想的背景を理解することができるとともに、現実の人権問題についての知識・教養を修得できる。

汎用的な力

- 1 . DP4. 課題発見
- 2 . DP9. 役割理解・連携行動
- 3 . DP6. 行動・実践

人権に関して自分なりの意見を持つことができる。

差別のない社会の実現に向けて個人的・社会的な役割を果たすことができる。

差別のない社会実現のためにできることから実践することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業内小レポート	15%	： 授業の最後に授業を振り返ってコメントを作成します。（100字以上。）
授業外中間レポート	25%	： 人権についての資料を読んで1200字程度のレポートを2回作成します。（1回目：12点、2回目：13点）
期末試験	60%	： 講義全体をふり振り返り、授業内容についての理解を評価します。また、人権問題についての自分の考え・意見も述べてもらいます。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

横藤田誠・中坂恵美子著『人権入門〔第3版〕—憲法／人権／マイノリティ—』（法律文化社、2017年）
 穴戸常寿『18歳から考える人権』（法律文化社、2015年）
 田中浩『ホップズ リヴァイアサンの哲学者』（岩波新書、2016年）
 その他の参考文献は授業中にその都度紹介します。また、適宜授業のテーマについての資料を配布します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習するとともに、レポート課題の熟読・作成を2回行います。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後
 場所： 授業教室
 備考・注意事項： 授業の前後に教室で質問に答えます。
 Eメールでの質問は、zumwoh175@yahoo.co.jp（冒頭はゼット、hの後はエル）に送付する。
 氏名と学籍番号を記入のこと。また、毎回提出するコメントペーパーも活用してください。

授業計画

第1回	現代社会と人権	20世紀における人権問題の取り組みの伸長と人権侵害との問題について理解します。	授業外学修課題にかかる目安の時間 4時間
第2回	「人権」とはどういうことを言うのか	人権の基本的な意味についての内容を整理し、復習する。また、授業中に配布した資料を熟読する。	4時間
	人権の基本的な意味について確認するとともに、その由来についても理解します。（1回目の中間レポート資料配布。）		

第3回	人権思想の出発点①人権概念の出発点 ヨーロッパで始まった人権という考え方について出発点に遡ってその基本的な意味を考えます。	ヨーロッパで始まった人権という考え方についての内容を整理し、復習する。また、授業中に配布した資料を熟読する。	4時間
第4回	人権思想の出発点②民主主義の出発点 現在の民主主義の考え方の出発点に遡ってその基本的な意味を考えます。	現在の民主主義の考え方の出発点についての内容を整理し、復習する。また、授業中に配布した資料を熟読する。	4時間
第5回	日本国憲法における人権①日本国憲法における人権規定 日本国憲法における基本的な人権規定の内容について理解します。	日本国憲法における基本的な人権規定の内容を整理し、復習する。また、授業中に配布した資料についてのレポートを作成する。	4時間
第6回	日本国憲法における人権②人権規定の実態(自由権の現状) 日本国憲法における基本的な人権規定の内容のうち、自由権の現状について考えます。	日本国憲法における基本的な人権規定の内容のうち、自由権の現状について整理し、復習する。また、授業中に配布した資料についてのレポートを作成する。	4時間
第7回	日本国憲法における人権③人権規定の実態(平等権と生存権) 日本国憲法における基本的な人権規定の内容のうち、平等権と生存権の現状について考えます。	日本国憲法における基本的な人権規定の内容のうち、平等権と生存権の現状について整理し、復習する。また、授業中に配布した資料についてのレポートを完成させる。	4時間
第8回	現代の様々な人権(1)子どもの人権①「いじめ」 学校での子どもの人権、特に「いじめ」の問題について、そのタイプと特性や解決策などについて考えます。(1回目の中間レポート提出。)(2回目の中間レポート資料配布。)	学校での子どもの人権、特に「いじめ」のタイプと特性や解決策などについての内容を整理し、復習する。また、授業中に配布した資料を熟読する。	4時間
第9回	現代の様々な人権(1)子どもの人権②体罰 学校での子どもの人権のうち、体罰の問題について考え、検討します。	学校での体罰の問題について整理し、復習する。また、授業中に配布した資料を熟読する。	4時間
第10回	現代の様々な人権(1)子どもの人権③校則 学校での子どもの人権のうち、校則の問題について考え、検討します。	学校での校則の問題について整理し、復習する。また、授業中に配布した資料についてのレポートを作成する。	4時間
第11回	人権問題を考える(DVDビデオ鑑賞・グループディスカッション) 人権問題(障がい者の人権)についてのDVDビデオを鑑賞して、その後内容についてグループディスカッション(討論)と発表を行います。	人権問題(障がい者の人権)についてのDVDビデオ鑑賞のグループディスカッション(討論)とその後のグループ発表を振り返って整理し、復習する。また、授業中に配布した資料についてのレポートを作成する。	4時間
第12回	現代の様々な人権(2)障がい者の人権①障がい者の人権の歴史 障がい者の人権の歴史を振り返って、その取り組みについて考えます。	障がい者の人権の歴史やその取り組みの意義について整理し、復習する。また、授業中に配布した資料についてのレポートを完成させる。	4時間
第13回	現代の様々な人権(2)障がい者の人権②障がいとは何か 障がい者の人権問題について、障害とは何かという観点から考えます。(2回目の中間レポート提出。)	障がい者の人権問題について、障害とは何かという観点からその問題を整理し、復習する。また、これまでの授業を振り返って試験の準備をする。	4時間
第14回	現代の様々な人権(3)部落差別問題①被差別身分の歴史的起源 被差別身分の歴史的起源について考える。	被差別身分の歴史的起源についてその内容を整理し、復習する。また、これまでの授業を振り返って試験の準備をする。	4時間
第15回	現代の様々な人権(3)部落差別問題②近代社会と被差別部落 近代社会における部落差別問題の解決への取り組みについて考える。	近代社会における部落差別問題の解決への取り組みについてその内容を整理し、復習する。また、これまでの授業を振り返って試験の準備をする。	4時間

授業科目名	社会学概論				
担当教員名	鈴木勇				
学年・コース等	1～4年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

本科目では、主に、教育に関する社会学である「教育社会学」について講義します。つまり、今日の教育をめぐる諸問題について、教育社会学の視点から検討します。教育社会学では、教育事象を広く社会とのかかわりの中でとらえ、その意味を考察するため、扱うテーマは多岐にわたります。例えば、近代学校制度、家族、教師集団、ジェンダー、教育格差、教育改革などが挙げられます。これらの教育や学校に関する様々なテーマを色々な角度から見ていきたいと思ひます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	教育社会学に関する知識。	教育課題を説得的に論じることができる。
汎用的な力		
1 . DP4. 課題発見		教育に関する課題を発見することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

毎回の小レポート	40%	： 内容に応じて4段階で評価する。正しく授業内容を理解し、かつ、自分の考えが説得的に示されていればA、正しく授業内容を理解していればB、授業内容の理解が不十分ならばC、それ以外はDとします。
定期試験（筆記）	60%	： 授業でとり上げたテーマについての理解度を評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業中に適宜提示します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
※教育学部外の学生の履修については、教職員を目指している者が望ましい。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	火曜2限
場所：	研究室（西館4階）

授業計画

回数	テーマ	内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	ガイダンス：教育社会学について	教育社会学が扱うテーマにはどのようなものがあるのか整理してください。	4時間
第2回	近代学校制度	近代の学校制度について要点を整理し、近代の学校制度と近代家族との関係をまとめてください。	4時間
第3回	家族	近代家族について要点を整理したうえで、今回の授業に向けて日本の学校の教師と生徒の関係について諸外国との違いをまとめてください。	4時間
第4回	教師—生徒の関係	教師と生徒の関係について要点を整理し、今日求められる教師の専門性についてまとめてください。	4時間
第5回	教師集団	教師集団について要点を整理したうえで、今回の授業に向けて近年の若者の特徴と学校・教育との関係についてまとめてください。	4時間
第6回	若者文化	若者について要点を整理し、近代の学校制度が若者の進路選択に果たす役割についてまとめてください。	4時間

第7回	移行システム 学校から社会への移行について、その歴史や課題を考えます。	若者の進路について要点を整理したうえで、次の授業に向けて近代家族の子育ての特徴についてまとめてください。	4時間
第8回	子育て 近代家族の子育て戦略について考えます。	家族の子育てについて要点を整理したうえで、「女性らしさ」「男性らしさ」が家族や学校や社会でどのようにとらえられているかについてまとめてください。	4時間
第9回	ジェンダー ジェンダーによって私たちの生活がどれほど規定されているかについて考えます。	ジェンダーについて要点を整理したうえで、次の授業に向けて私たちが主体的に社会に関わるためにはどのような方法があるのかまとめてください。	4時間
第10回	市民社会 日本における市民教育の現状と課題について考えます。	市民社会について要点を整理したうえで、次の授業に向けて社会にある格差とその格差と教育がどのような関係にあるのかまとめてください。	4時間
第11回	文化的再生産 教育格差や階層の再生産について考えます。	格差の再生産について要点を整理したうえで、次の授業に向けて教育と国家の関係について歴史を振り返りながらまとめてください。	4時間
第12回	国民国家と教育 国民国家と教育の関係について考えます。	国と教育の関係について要点を整理したうえで、「グローバル社会」とはどのような社会をさしているかをまとめてください。	4時間
第13回	多文化教育 ニューカマーと日本の教育について、その歴史と課題を考えます。	多文化教育について要点を整理したうえで、差別やいじめがなぜ起きるのか、それらをなくすためにはどのような教育が必要なのかについてまとめてください。	4時間
第14回	ラベリング ラベリングによる差別や偏見について考えます。	差別や偏見について要点をまとめたうえで、これまで授業で扱ったテーマについて整理してください。	4時間
第15回	まとめ：今期の整理と課題発見 今期の授業内容を整理し、言及できなかった点を補足します。	これまでの授業で扱った個々のテーマの関係性を整理するとともに、いくつかのテーマについては自分で考察を深めてください。	4時間

授業科目名	社会学概論				
担当教員名	数田直子				
学年・コース等	1～4年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

社会学は身近な問題を理解したり、調査したりする際に大変有効な学問です。本授業では、私たちにとって身近な学校、家族、職場という集団や、そこにあらわれる人間関係や構造について、社会学の歴史や知見から、アカデミックに読み解いていきます。そこにはどんな問題があるでしょうか。まずは、身の回りの日常から研究の課題を見つける方法を学んでいきましょう。本授業では、論文を読み説くための社会学の基礎的な知識を紹介することに加えて、社会調査法などについても触れます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1. 幅広い教養やスキル	現代社会への関心や社会学という学問に関する知識	社会学の知識をもとにしながら量的、質的なデータの内容を把握し、理解することができる。
汎用的な力		現代社会に関心を持ち、社会問題を他人事とせず、自分の課題として捉え直すことができる。
1．DP4. 課題発見		
2．DP8. 意思疎通		現代社会が抱える課題について、ディスカッションを通じて様々な視点から考えることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ、放棄とみなし、成績評価は「不可」（不合格）となります。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業内小レポート	45%	： 各回0点から3点で採点し、全15回授業で45点満点とする。毎回、授業内容を問う小テストを実施する。
期末レポート	55%	： 評価については、以下の2点を重視する。 ①「学んだ内容を活かしながら、さらに情報を収集したり、発展的な考えに至っているか」 ②「誤字脱字や形式など、提出するに足りるルールやマナーを遵守しているか」

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業内で適宜、指示します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後
場所： 教室
備考・注意事項： 授業に関する質問があれば、原則授業内か授業の前後に教室で行ってください。

授業計画

回	授業の進め方について（オリエンテーション）・社会学について	授業前までに：履修状況を確認しておくこと。授業後：オリエンテーションで配布された資料を復習し、疑問点が無いかどうか確認しておくこと。	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	基本的な社会学の考え方、社会学の始まりや歴史について学ぶ。また15回の講義の流れや、成績の評価について詳細を説明します。		4時間
第2回	家族をめぐる社会学	「家族のイメージ」、および「家族の定義」という視点から自分の意見を構成し、授業内ディスカッションに備えること。授業後は、上記の視点がどのように変化してきたかを中心に、自分の中で考えをまとめ直すしておくこと。次回テーマ「教育」について、自分の経験を思い出したり、大学教育について今の考えを整理しておくこと。	4時間

	<p>家族の捉え方は、社会や文化、時代によって変化してきた。現代においては、婚姻、子育て、介護など様々な形態が選択されるようになってきている。社会の最小単位とも言われる「家族」について、学び、現代の家族のあり方について考えます。</p>		
第3回	<p>教育の社会学</p> <p>「学力低下」や「ゆとり教育」など日本の教育界はさまざまなキーワードであふれている。そもそも学校は、どんな場所なのだろうか。学校教育の歴史や機能に着目しながら、教育の役割について考えます。</p>	<p>「教育・学校の役割」、「いい教育とは」という視点から自分の意見を構成し、授業内ディスカッションに備えること。授業後は、上記の視点がどのように変化したかを中心に、自分の中で考えをまとめ直すしておくこと。次回テーマ「メディア」について、テレビやネット、新聞などで自分の論点を組み立てておくこと。</p>	4時間
第4回	<p>メディアと社会学</p> <p>人間社会は、技術の発展とともに、狩猟社会から農業社会、工業社会を経て、情報社会の時代を迎えた。情報メディアは社会のコミュニケーションのあり方も変化させている。マスメディアだけでなく、ソーシャルメディアが発展している現代において、その課題や「ネット社会」という新たな社会について考察します。</p>	<p>メディアリテラシーについて自分の意見を構成し、授業内ディスカッションに備えること。授業後は、他の受講者の意見や経験と自分の意見との違いに着目し、議論を整理しておくこと。</p>	4時間
第5回	<p>「性」にまつわる社会学</p> <p>社会には男性と女性がいると考えられてきた。私たちはいつ「男」となり、いつ「女」となったのだろうか。そしてまたそれは、だれによって決定されたのだろうか。個人のものと思われがちな「性」について、社会的に考えてみます。</p>	<p>「ジェンダー」という言葉の意味を自分なりに調べておくこと。授業を通して初めて知ったこと、印象に残ったことを自分の中でまとめ直すしておくこと。また授業の中で疑問に思ったこと、新たに湧きあがった質問、意見などを書き留めておき、授業担当者やディスカッショングループへ提案すること。授業への意見やコメントも、もちろん歓迎します。</p>	4時間
第6回	<p>社会学とは何か・社会調査法</p> <p>社会学とは日常の社会、つまり私たちにとっての「当たり前」を考察することである。社会学を進める上での調査法を学び、その歴史、方法、注意点を学ぶ。また第5回までの授業について、各ディスカッショングループの議論を共有したり、個人の授業に対する意見を振り返ることで、「家族」「教育」「メディア」「性差」について授業担当者と受講者全員で考えを深めていく。</p>	<p>第5回までの授業の配布資料や、参考資料を復習し、疑問が無い確認しておくこと。</p>	4時間
第7回	<p>社会をつくる・社会運動と市民社会</p> <p>昨今、インターネットでデモ活動への参加が呼びかけられたり、社会に参加する方法は変化している。また災害時には、「ボランティア」の活動や存在が大きな関心を集める。社会を変える、社会に参加するとはどのようなことか、市民社会について考えます。</p>	<p>「NPO」、「NGO」という言葉の意味を自分なりに調べておくこと。また「ボランティア」のあり方について、自らの経験や、ニュース、新聞記事などから自分の考えをまとめておくこと。次回テーマ「コミュニティ」について、自分のイメージするものや印象をまとめておくこと。</p>	4時間
第8回	<p>地域をめぐる社会学</p> <p>大都市では当然、多くの人が行き交い、関りを持ちながら生活している。人間にとって都市とは何か。多くの人と集団をなして生活していく中で、社会にはどんな変化が訪れたのでしょうか、ここではコミュニティの歴史と可能性について考えます。</p>	<p>「コスモポリタン」という言葉の意味を自分なりに調べ、授業内ディスカッションに備えること。次回テーマ「階層」について、テレビやネット、新聞などで報道されている「格差の問題」などに注目しておくこと。</p>	4時間
第9回	<p>階級・階層をめぐる社会学</p> <p>日本は長らく、格差が目立たない平等な社会だと捉えられてきた。しかし、「負け組」や「中流崩壊」といった言葉に象徴されるように、日本社会は格差問題と無縁ではない。社会から排除されること、社会に包摂されることとは具体的にどのようなことか、未来へのアイデアも含めて考察します。</p>	<p>社会において「平等」「公正」「公平」とはどのようなことか、またそれらは、具体的に同じなのか違いがあるのかという視点から自分の意見を構成し、授業内ディスカッションに備えること。授業後は、上記の視点がどのように変化したかを中心に、自分の中で考えをまとめ直すしておくこと。次回テーマ「国際化」について、テレビやネットのニュース、新聞記事などから、現代社会の課題を想像しておくこと。</p>	4時間
第10回	<p>国際社会の社会学</p> <p>社会学は、国民国家を単位としてその分析を行う傾向がある。国境や、国民の再定義、多国籍・多文化な政治経済の様相を見ると、国家の枠組みにとられない社会学の視点の重要性が増しているだろう。世界の状況を理解しながら、グローバルとナショナルについて考えます。</p>	<p>「エスニシティ」という言葉の意味を自分なりに調べ、授業内ディスカッションに備えること。また授業内では「エスノセントリズム」、「オリエンタリズム」についても触れます。他の授業などで既に知識や資料を持っている受講者は、思い出ししておくこと。</p>	4時間
第11回	<p>医療をめぐる社会学</p> <p>近代医療の発展は、人間社会の大きな進歩の証であるだろう。また医療は人間の「生」や「死」にも関わる重大な問題である。社会学では、医療とそれを施す医師の権力について多くの分析をしてきた。病になること、また病によって社会的な偏見を受けることについて社会的に考える。</p>	<p>「医者と患者の関係性」、「医療を受けるのは誰の権利か」という視点から自分の意見を構成し、授業内ディスカッションに備えること。授業後は、上記の視点がどのように変化したかを中心に、自分の中で考えをまとめ直すしておくこと。次回テーマ「少年犯罪」について、テレビやネットのニュース、新聞記事などから情報を集めておくこと。</p>	4時間

第12回	逸脱をめぐる社会学	「犯罪者・逸脱者は誰がきめるのか」という視点から自分の意見を構成し、授業内ディスカッションに備えること。授業後は、上記の視点がどのように変化したかを中心に、自分の中で考えをまとめ直しておくこと。次回テーマ「シンクレティズム」について、自分なりに調べておくこと。	4時間
	社会から、はみ出すこと「逸脱」について考察する。人は自分にとっての迷惑をどのような過程で捉えているのか。逸脱や犯罪の定義を社会学的な視点で見直すことで、公共性について考えます。		
第13回	宗教にまつわる社会学	「宗教の社会性（社会的機能）」、「スピリチュアリティと宗教」というキーワードから自分の意見を構成し、授業内ディスカッションに備えること。授業後は、上記のテーマに対する自分の考えがどのように変化したかを、自分の中で整理しておくこと。次回テーマ「アイデンティティ」について、これまでの自分の知識を整理しておくこと。	4時間
	宗教社会学では、何々教という宗教の種類を扱うわけではなく、人間の宗教的な行為すべてを分析する。お守りや願掛け、結婚式やクリスマス、私たちの日常生活には「宗教的」なものがあふれている。ここでは、宗教社会学の知見とともに、宗教の融合（混沌）現象、シンクレティズムにも着目する。		
第14回	自己（自我）をめぐる社会学	授業内で学んだ自己に対する社会学の知見が、日常生活の中でどのように活用されるか想像してみること。また15回の授業を振り返り、疑問点や意見をまとめておくこと。	4時間
	私たちは「自分」と「他人」をどのように分けているのだろうか。また「私たち」とはどんな概念なのだろうか。もつとも身近なはずの「自己」について、社会学の視点から考えてみます。		
第15回	まとめ・社会学とは何か・社会学の実践に向けて	「社会学とは何か」という問いに対して自分の意見を整理し、授業内ディスカッションに備えること。	4時間
	本講義を振り返り、社会学の特徴を授業担当者、受講者全員で議論し、まとめる。また授業内小レポートで上がった質問や意見、コメントへの応答を行う。		

授業科目名	社会学総論（2015入学～）				
担当教員名	鍛冶致				
学年・コース等	1～4年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

社会学は「偶然である」と思われているところに法則を発見したり「自然である」と思われているところに恣意を発見したりする、そういう「へそまがり」な学問である。本講義では、毎回身近で具体的な題材を取り上げつつも、それなりに一般化された抽象的な議論もおこなう。社会的思考作法の会得を目指す。と同時に、一般的かつ包括的な内容を満たす社会学の専門科目という本科目の位置づけを踏まえ、本講義では社会学が得意としてきた分析手法や社会学がその射程に収めてきた社会事象をできるだけ幅広く紹介していく。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	社会学に関する知識	学んだ知識を用いながら社会的な視点から身近な問題を改めてとらえなおすことができる。
汎用的な力		論理的な思考に基づきながら質問紙調査を進めていくことができる。
1 . DP4. 課題発見		

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

グループワークの取り組み状況	40%	： グループワーク形式で行う質問紙調査活動の取り組み状況を、正確な集計（20点）、結果の正しい読み取り（10点）、結果の合理的な説明（10点）の観点から40点満点で評価する。
小テスト	50%	： ワークシートを兼ねた小テストを用いながら各回授業への積極的参加、受講態度、理解度を独自のルーブリックを基に総合的に評価する。
試験（レポート）	10%	： 15回の授業で学んだことを独自の視点から整理・要約した上で、そのうち最も興味を持ったテーマを一つ設定して調べ、整理・要約し、考察し、結論を導き出す（1600字）。独創性5点+形式5点=合計10点で評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

『社会統計学』／片瀬一男／放送大学教育振興会(放送大学教材)／2007 『階級社会日本』／橋本健二／青木書店／2001年 『近代家族の曲がり角』／落合恵美子／角川書店(角川叢書)／2000 『歴史人口学で見た日本』／速水融／文藝春秋(文春新書)／2001年 『はじめて学ぶ社会学：思想家たちとの対話』／土井文博・嵯峨一郎・萩原修子／ミネルヴァ書房／2007年 『社会学の歴史』／奥井智之／東京大学出版会／2010年 『脱常識の社会学第二版：社会の読み方入門』／ランドル＝コリンズ／岩波書店(岩波現代文庫)／2013年 『社会学入門』／井上俊・大村英昭／放送大学教育振興会／1993年 『14歳からの社会学』／宮台真司／世界文化社／2008年 『反社会学講座』／パオロ＝マツァリーノ／筑摩書房(ちくま文庫)／2007年

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。授業中に誤答の訂正をしてもらうことがあるので、必ず赤ペンを持参すること（蛍光ペン等のマーカーは不可）。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	木曜14:30～16:10
場所：	鍛冶研究室（西館2階）

授業計画

回数	授業内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<p>社会調査の方法（仮説の構築）</p> <p>みなさんはアンケート調査に協力したことがありますか。アンケート調査で決定的に重要なのは目の付け所（問題設定と仮説）の面白さです。今回は社会調査の方法（調査票作成の実際）について学習することを通じて社会的思考作法の会得を目指します。</p>	<p>今回新しく学んだ概念（質的調査、量的調査、独立変数、従属変数など）をリストアップし、その意味をネット等で調べ、整理しておきましょう。</p> <p>4時間</p>
第2回	<p>社会調査の方法（調査票作成の実際）</p> <p>せっかく面白いテーマや仮説を思いついても、質問したいことが相手に正しく伝わらなかったのでは意味がありません。今回は社会調査の方法（調査票作成の実際）について学習することを通じて社会的思考作法の会得を目指します。</p>	<p>今回新しく学んだ概念（ワーディングなど）をリストアップし、その意味をネット等で調べ、整理しておきましょう。</p> <p>4時間</p>

第3回	<p>社会調査の方法（調査票配布・回収の実際）</p> <p>せっかく苦勞して作成したアンケートも、いいかげんに回答されたり、提出してもらえなかったのでは意味がありません。今回は社会調査の方法（調査票配布・回収の実際）について学習することを通じて社会学的思考作法の会得を目指します。</p>	今回新しく学んだ概念（サンプリング、回収率、有効回答率など）をリストアップし、その意味をネット等で調べ、整理しておきましょう。	4時間
第4回	<p>社会調査の方法（調査票集計の実際）</p> <p>回収した調査票を、より速く、より正確に、みんなで集計するには、どのような工夫が必要だと思いますか。今回は社会調査の方法（調査票集計の実際）について学習することを通じて社会学的思考作法の会得を目指します。</p>	今回新しく学んだ概念（コーディングなど）をリストアップし、その意味をネット等で調べ、整理しておきましょう。	4時間
第5回	<p>社会調査の方法（調査票分析の実際）</p> <p>男は賛成が34%、女は賛成が38%——このような結果をどう評価しますか。男女間に差がある——そう言い切ってもいいですか。今回は社会調査の方法（調査票分析の実際）について学習することを通じて社会学的思考作法の会得を目指します。</p>	今回新しく学んだ概念（クロス表、カイ二乗検定、有意確率、有意差、オッズ比など）をリストアップし、その意味をネット等で調べ、整理しておきましょう。	4時間
第6回	<p>階級の社会学（マルクスの階級闘争史観）</p> <p>社会集団間の争いが社会全体を新しい時代に向かって変動させていくという葛藤モデルは社会学がマルクスから受け継いだ遺産です。今回は階級の社会学（マルクスの階級闘争史観）について学習することを通じて社会学的思考作法の会得を目指します。</p>	今回新しく学んだ概念（ブルジョアジー、プロレタリアート、階級闘争など）をリストアップし、その意味をネット等で調べ、整理しておきましょう。	4時間
第7回	<p>階級の社会学（職業をどう分類するのか）</p> <p>みなさんは将来どのような職業に就きたいですか。世の中に職業はいったいどれだけあるのでしょうか。今回は階級の社会学（職業をどう分類するのか）について学習することを通じて社会学的思考作法の会得を目指します。</p>	今回新しく学んだ概念（産業、職業、階級、階層など）をリストアップし、その意味をネット等で調べ、整理しておきましょう。	4時間
第8回	<p>階級の社会学（階級の再生産）</p> <p>みなさんの親はどのような職業に就いていますか。みなさんは親と同じ職業に就きたいですか。経営者の子は経営者になりやすいというのは本当でしょうか。今回は階級の社会学（階級の再生産）について学習することを通じて社会学的思考作法の会得を目指します。</p>	今回新しく学んだ概念（階級移動など）をリストアップし、その意味をネット等で調べ、整理しておきましょう。	4時間
第9回	<p>歴史と人口の社会学（江戸時代の家族：近代家族について考える）</p> <p>みなさんは江戸時代の家族に対してどのようなイメージを持っていますか。結婚年齢は？ 家族構成は？ 平均寿命は？ ——今回は人口の社会学（江戸時代の家族）について学習することを通じて社会学的思考作法の会得を目指します。</p>	今回新しく学んだ概念（近代、前近代、歴史人口学など）をリストアップし、その意味をネット等で調べ、整理しておきましょう。	4時間
第10回	<p>歴史と人口の社会学（人口の都鄙間移動と階層間移動：近代家族について考える）</p> <p>江戸時代の人口は増えも減りもしなかったといわれていますが、人口はどのように調整されていたのでしょうか。今回は人口の社会学（人口の都鄙間移動と階層間移動）について学習することを通じて社会学的思考作法の会得を目指します。</p>	今回新しく学んだ概念（構造機能主義、都市蟻地獄説など）をリストアップし、その意味をネット等で調べ、整理しておきましょう。	4時間
第11回	<p>歴史と人口の社会学（多産多死から少産少死へ：少子高齢化について考える）</p> <p>人口の年齢構造と経済成長率の間には深い関係があり、人口構造を見れば次にどの国が経済発展するかが分かるといわれます。今回は人口の社会学（多産多死から少産少死へ）について学習することを通じて社会学的思考作法の会得を目指します。</p>	今回新しく学んだ概念（人口転換、生産年齢人口、少子高齢化など）をリストアップし、その意味をネット等で調べ、整理しておきましょう。	4時間
第12回	<p>メディアと文化の社会学（ヒップホップの歴史）</p> <p>日本の音楽シーンにおけるヒップホップ全盛期は00年代でしたが、ヒップホップはどのようにして本場アメリカで生まれ育ったのでしょうか。今回はメディアが表象する社会（ヒップホップの歴史）について学習することを通じて社会学的思考作法の会得を目指します。</p>	今回新しく学んだ概念（ハイカルチャー、ポップカルチャー、カウンターカルチャーなど）をリストアップし、その意味をネット等で調べ、整理しておきましょう。	4時間
第13回	<p>メディアと文化の社会学（エスニシティとジェンダー）</p> <p>アメリカのテレビや映画には黒人や女性を描く際の決まりごとのようなものがあります。今回はメディアが表象する社会（エスニシティとジェンダー）について学習することを通じて社会学的思考作法の会得を目指します。</p>	今回新しく学んだ概念（エスニシティ、ジェンダー、ステレオタイプ、ポリティカル・コレクトネスなど）をリストアップし、その意味をネット等で調べ、整理しておきましょう。	4時間
第14回	<p>メディアと文化の社会学（若者の恋愛観はどう変わったか）</p> <p>昔の流行歌を聴いて「今どきこんな奴いないよ」と思ったことはありませんか。流行歌にはその時代の社会のあり方が反映されているのです。今回はメディアが表象する社会（恋愛観はどう変わったか）について学習することを通じて社会学的思考作法の会得を目指します。</p>	今回新しく学んだ概念（社会史、ジェンダーの非対称性、メディアリテラシーなど）をリストアップし、その意味をネット等で調べ、整理しておきましょう。	4時間
第15回	<p>社会学とは何か</p> <p>社会学を一番困らせる質問は「社会学って何ですか」という質問ですが、ここまで学んできたみなさんは既に社会学がどのような学問なのかなんとなく分かっていることでしょう。今回は社会学とは何かについて学習することを通じて社会学的思考作法の会得を目指します。</p>	今回新しく学んだ概念（社会集団、家族、階級、エスニシティ、ジェンダー）をリストアップし、その意味をネット等で調べ、整理しておきましょう。	4時間

授業科目名	多文化共生社会				
担当教員名	藪田直子				
学年・コース等	1～4年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

本授業では、多文化共生社会の今の姿と未来の姿を考察する。「文化」や「共生」という言葉の意味を探求したり、理解することから、多文化共生社会のあり方や課題を見つけていく。授業の後半では、日本の多文化状況に焦点化していく。様々な文化を持つ人びとが、どのようにして「ともに」暮らしている・いくのかを、身近な社会問題から考えていきます。また本授業で扱う「文化」は常に「異国」や「外国」を想定しているのではなく、言葉や習慣、価値をも含み込んでいます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1. 幅広い教養やスキル	多文化共生社会に関する知識理解	さまざまな文化的集団についての知識や理解を高め、社会の構成員として捉えることができる。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		社会的なマイノリティの包摂についての視点をもつことができる。
2．DP6. 行動・実践		多様な価値の存在を認め、自らの価値観を捉え直すことができる。
3．DP8. 意思疎通		多文化共生社会の課題や成果について自らの意見を表現することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・ディベート、討論
- ・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ、放棄とみなし、成績評価を「不可」（不合格）とします。また、本授業では授業内活動（アクティビティ）を多教行っていく。受講生同士でのディスカッションや、プレゼンテーション等があることで、授業への積極的な参加が求められる。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業内小レポート	45%	： 毎回、授業内容に関して各自が小レポートを提出すること。内容については、授業毎にテーマに応じたレポート課題が指定される。また授業内活動については、ワークシート等を提出することで、授業への参加を評価する。
期末レポート	55%	： 評価については、以下の2点を重視する。 ①「学んだ内容を活かしながら、さらに情報を収集したり、発展的な考えに至っているか」 ②「誤字脱字や形式など、提出するに足るルールやマナーを遵守しているか」

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
額賀美紗子・芝野淳一・三浦綾希子	グローバル時代における国際移動と教育 ISBN978-4-7795-1369-5	ナカニシヤ出版	2019年

参考文献等

本授業で指定した教科書を中心として、授業内で適宜指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後
場所： 教室
備考・注意事項： 授業に関する質問があれば、原則授業内か授業の前後に教室で行ってください。

授業計画

第1回	オリエンテーション・多文化共生社会のイメージ	配布資料を復習し、授業の進め方や成績評価について疑問点がないか確認しておくこと。自分なりの「多文化共生社会」をイメージしておくこと。	授業外学修課題にかかる目安の時間
	<p>授業者の自己紹介と、授業の進め方を説明する。また使用する教科書の使い方と進め方を説明する。「多文化共生社会」のイメージを受講生同士で伝える、グループワークを行う。</p>		4時間

第2回	文化とはなにか	次回授業に向けて教科書の該当箇所を読んでおくこと。「多文化」という状態をイメージし、授業内ディスカッションで伝えられるように準備しておくこと。授業内小レポートで、不正解だった箇所を復習しておくこと。	4時間
	とても身近なはずの「文化」という言葉について、さまざまな学問の視点から整理する。同時に「多文化であること」とはどんな状態か、議論を通して学んでいく。		
第3回	多文化主義の成立と現在	次回授業に向けて教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業内小レポートで、不正解だった箇所を復習しておくこと。	4時間
	世界には多文化主義という、方針をとっている数多く国がある。そこで起こる異文化同士の摩擦や葛藤はどのように捉えられてきたのか。ここではアメリカ、オーストラリアとカナダを例に、多文化な国家の誕生やそのあり方について考察します。 【教科書】第11章：アメリカの多文化状況について理解を深め、その歴史と現代的課題について考える。		
第4回	共生とはなにか	次回授業に向けて教科書の該当箇所を読んでおくこと。また第2回「文化とはなにか」の授業内配布資料も復習し、内容を思い出ししておくこと。授業内小レポートで、不正解だった箇所を復習しておくこと。	4時間
	「共生」、つまり共に生きるとはどういうことなのか。具体的な「共生」状態について、授業担当者と受講者全員が議論し、考えを深めていきます。主には、文化人類学の知見から「共同」や「共在」との違いを中心に議論を組み立てます。 【教科書】第12章、第13章：日本の多文化共生政策について考える。		
第5回	日本の多文化共生（1） 理念と政策	日本の「多文化共生」状況に関して、テレビやネットのニュース、新聞記事などで情報を収集し、そこから自分の論点を組み立てておくこと。	4時間
	日本における「多文化共生」とはどのようなものか。何が目指されているのかという理念を、政策と関連付けて紹介する。またより身近なこととして、関西の特徴的ないくつかの自治体での取り組みから学ぶ。 【教科書】第1章、第2章：「オールドカマー（オールドタイマー）」、「ニューカマー」という言葉の意味や使われ方を理解する。		
第6回	日本の多文化共生（2） 民族文化ー琉球・アイヌー	次回授業に向けて教科書の該当箇所を読んでおくこと。日本の「多文化共生」状況に関して、テレビやネットのニュース、新聞記事などで情報を収集し、そこから自分の論点を組み立てておくこと。授業内小レポートで間違った箇所を復習しておくこと。	4時間
	アイヌ文化、琉球文化を手掛かりに、日本の多文化状況について考察する。文化と同化主義の歴史について知識を得ることで、異文化への、日本社会からのまなざし（価値づけ）を捉え直す。		
第7回	日本の多文化共生（3） 外国人ー歴史ー	次回授業に向けて教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業内小レポートで、不正解だった箇所を復習しておくこと。	4時間
	「日本」の国境が定められていく過程や歴史を概観しながら、どのように「外国」がつくられていったかを考察する。また戦前・戦中・戦後、日本で暮らすことになった「外国人」について、文化、法制度の両面から当時の社会状況を捉える。 【教科書】第9章、第10章：「移民」にまつわる歴史について知識を得る。		
第8回	日本の多文化共生（4） 外国人ー現代・未来ー	次回授業に向けて教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業内小レポートで、不正解だった箇所を復習しておくこと。	4時間
	現在日本で暮らす外国籍者の総数を概観し、国籍や出身地が多様化している状況を捉え直す。また「外国人」が多く訪れるようになった契機を、日本の経済状況や歴史から探求する。ここでは、外国籍者の権利についても考察していく。 【教科書】第7章、第8章：日本に暮らしている人びとの多様性について考察し、労働や地域活動の現状について理解を深める。		
第9回	日本の多文化共生（5） 教育ー日本の外国人学校ー	次回授業に向けた文献資料（授業内で配布予定）を読んでおくこと。授業内小レポートで、不正解だった箇所を復習しておくこと。	4時間
	日本で暮らす「外国人」のうち、学齢期にある子どもは、どのような教育を受けて育っているのだろうか。ここでは特に歴史の長い民族学校（韓国学校、朝鮮学校、中華学校）を中心に、国境を超える多文化な教育機関について紹介する。文化を継承する、文化を教わるとはどのような営みののだろうか。 【教科書】第6章、第14章：日本の公立学校や「外国人学校」で学ぶことの教育戦略や、現状について理解を深める。		
第10回	日本の多文化共生（6） 文字文化ー点字・手話ー	次回授業に向けた文献資料（授業内で配布予定）を読んでおくこと。授業内小レポートで、不正解だった箇所を復習しておくこと。	4時間
	コミュニケーションの手段は様々あるが、文字や音声の言葉を用いない手段とは、どんなものだろうか。学校では板書やノートテイクなど、文字による伝達が多く見られるが、点字や手話はどうか。ここでは日常と捉えがちな文字文化について、考察する。		
第11回	日本の多文化共生（7） まとめ	次回授業に向けて教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業内小レポートで、不正解だった箇所を復習しておくこと。第5回の授業から第10回の授業までの授業内配布資料、映像資料を振り返って、自分がもっとも印象に残ったテーマを選んでおくこと。選んだテーマに関する意見やコメントをグループ内ディスカッションで発言できるよう、まとめておくこと。	4時間
	第5回から第10回までの授業を振り返り、受講者の授業内小レポートをもとに、討議内容を決定する。日本の多文化状況に関する統計データを示した後、それぞれの受講者で小グループをつくり、グループディスカッションを行う。ディスカッションの内容は、授業内で発表され、共有される。		
第12回	家族のなかの多文化共生 ー国際結婚ー	次回授業に向けて教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業内小レポートで、不正解だった箇所を復習しておくこと。	4時間
	多文化が同時に存在するのは、社会ばかりではない。ここでは家族や個人を取り上げて、言語や習慣、価値観といった文化がせめぎ合う状況について考察する。具体的に国際結婚や移民に着目し、「ハーフ」（ダブル）の子どもたちの多文化状況を捉え直す。 【教科書】第3章、第5章：海外子女教育や国際結婚などの動向を学びながら、イメージと現状の齟齬を理解し、課題を発見する。		

第13回	大学のなかの多文化共生 ー実践を探るー	次回授業に向けた文献資料（授業内で配布予定）を読んでおくこと。授業内小レポートで、不正解だった箇所を復習しておくこと。	4時間
	身近な多文化共生を考える題材として、大阪成蹊大学の多文化状況を議論する。 さまざまな性別、人種、言語、宗教、習慣、多様な人が共に学んでいるであろうキャンパスに目を向け、現実を捉える。 グループでまとめられた情報はプレゼンテーション形式で授業内に発表し、共有する。 【教科書】第4章、第15章：大学や学校現場での多文化共生状況を概観し、課題を話し合う。		
第14回	世界の多文化共生	授業内小レポートで、不正解だった箇所を復習しておくこと。	4時間
	世界人権宣言などをもとに、多様であること・いることの権利を捉え直す。 授業内では、世界人権宣言を理解するためのグループ・アクティビティ（授業内活動）を行う。		
第15回	まとめ・多文化共生社会のこれから	14回までの授業資料と、最終期末レポートの内容を復習し、授業内ディスカッショングループで自分の考えが表現できるように準備しておくこと。自分なりの「多文化共生社会」をイメージし、初回のイメージとの変化を述べられるように、整理しておくこと。	4時間
	本講義を振り返り、多文化共生社会の実現に向けて、それぞれ何が必要か議論する。		

授業科目名	多文化共生社会				
担当教員名	芝野淳一				
学年・コース等	1～2年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

現代は、グローバル化の時代である。日本にはたくさんの外国人が移り住むようになり、外国に移り住む日本人も増えている。本講義では、まず、多様な文化をもつ人々が私たちの身近な場所で生活するようになった経緯について概観する。次に、日本に住む外国人の子どもや、海外に住む日本人の子どもを中心に、出生地とは違う国で生活する子どもの成長を支える地域や社会の姿を紹介し、日本における多文化共生社会の在り方について考える。最後に、多様な文化をもつ人々同士が「共に生きる」ために地域や社会、学校ができることを探る。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP1. 幅広い教養やスキル	多文化共生に関する知識	日本に住む外国人及び海外に住む日本人の教育問題を身近な問題としてとらえ、教職に役立てることができる。
汎用的な力		
1 . DP6. 行動・実践		日本に住む外国人及び海外に住む日本人の教育問題をエビデンスに基づいて理解し、具体的な実践を構想することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、不合格とする。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

シャトルシート	30%	： 「授業内容を的確にまとめ理解できているか」という観点から評価する。
中間レポート	35%	： 第1回から第7回までの範囲について、「授業で得た知識と自らの考えを結びつけ、的確に表現できているか」という観点から評価する。評価の際、本学共通のルーブリックを用いる。
期末レポート	35%	： 第9回から第15回までの範囲について、「授業で得た知識と自らの考えを結びつけ、的確に表現できているか」という観点から評価する。評価の際、本学共通のルーブリックを用いる。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

- 『顔の見えない定住化』/梶田孝道・丹野清人・樋口直人/名古屋大学出版会/2005年
- 『外国人生徒のためのカリキュラム』/清水睦美・児島/明暁岬書院/ 2006年
- 『異文化間教育』/佐藤郡衛/明石書店/ 2010年
- 『「多文化共生」は可能か』/馬淵仁編/勁草書房/ 2011年
- 『共に生きる』/塩原良和/弘文堂/ 2012年

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。毎回の講義を効果的に復習できるように、書き込み形式の授業ノートと資料を配布する。また、適宜映像資料も用意する。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	火曜5限（16：30～18：00）
場所：	中央館5F

授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間	
第1回	多文化共生とは何か 講義の流れと成績評価を説明した後、「多文化共生社会」という概念が構築された歴史的な文脈や理論的背景を学ぶ。キーワードは、多文化共生、移民、教育。	「多文化共生社会」という概念が構築された歴史的な文脈や理論的背景を復習し、以降の授業に備える。	4時間
第2回	日本に住む外国人（1）—歴史的背景と法制度 日本における外国人について、歴史的背景と法制度を中心に学ぶ。キーワードは、単一民族神話、ニューカマー、オールドカマー。	講義の内容を配布資料を用いて復習し、日本に住む外国人の歴史的背景と法制度について理解を深める。	4時間
第3回	日本に住む外国人（2）—ニューカマーの生活世界 ニューカマー外国人の生活世界について、労働環境や移住者コミュニティを中心に学ぶ。キーワードは、出入国管理及び難民認定法、労働市場、コミュニティ。	講義の内容を配布資料及び映像資料を用いて復習し、ニューカマーの生活世界について理解を深める。	4時間

第4回	日本に住む外国人 (3) —ニューカマーの子どもと教育 ニューカマーの子どもの教育問題について、言語・学力、文化葛藤、アイデンティティ、進路選択といった問題を取り上げながら学ぶ。 キーワードは、ニューカマーの子ども、教育問題、学校文化。	講義の内容を配布資料及び映像資料を用いて復習し、ニューカマーの子どもの教育問題について理解を深める。	4時間
第5回	日本に住む外国人 (4) —ニューカマーの子どもを支援する取り組み ニューカマーの子どもの教育問題を解決する方途を探るために、学校や地域において実施されている支援活動について学ぶ。 キーワードは、学校変革、NPO、ボランティア。	講義の内容を配布資料及び映像資料を用いて復習し、ニューカマーの子どもを取り巻く学校・地域の状況について理解を深める。	4時間
第6回	日本に住む外国人 (5) —日本の民族学校 (中華学校編) オールドカマーが設立した教育機関である中華学校を取り上げ、その実態と教育課題について理解を深める。 キーワードは、中華学校、華僑・華人、オールドカマー。	講義の内容を配布資料及び映像資料を用いて復習し、日本の中華学校に関する理解を深める。	4時間
第7回	日本に住む外国人 (6) —日本の民族学校 (朝鮮学校編) オールドカマーが設立した教育機関である朝鮮学校を取り上げ、その実態と教育課題について理解を深める。 キーワードは、朝鮮学校、在日コリアン、オールドカマー。	講義の内容を配布資料及び映像資料を用いて復習し、日本の朝鮮学校に関する理解を深める。	4時間
第8回	多様な「文化」を理解するために—エスノセントリズムについて 前半と後半の中間ポイント。エスノセントリズム (自民族中心主義) という考え方を批判的に検討し、多様な「文化」を認め合い尊重するための視座を身につける。 キーワードは、エスノセントリズム、オリエンタリズム、多文化主義。	講義の内容を配布資料を用いて復習し、エスノセントリズムについて理解を深める。	4時間
第9回	海外に住む日本人 (1) —歴史的背景と法制度 海外に住む日本人について、歴史的背景と法制度を中心に学ぶ。 キーワードは、日系移民、企業移民、ライフスタイル移民、国際結婚。	講義の内容を配布資料を用いて復習し、日本人移民に関わる歴史や法制度について理解を深める。	4時間
第10回	海外に住む日本人 (2) —戦前・戦中の海外移住 (日系移民について) 戦前・戦中の海外移住について、日系移民の歴史と現代の動向を中心に学ぶ。 キーワードは、日系移民、官約移民、日系コミュニティ。	講義の内容を配布資料及び映像資料を用いて復習し、日系移民について理解を深める。	4時間
第11回	海外に住む日本人 (3) —戦後の海外移住1 (企業移民・ライフスタイル移民について) 戦後の海外移住について、企業移民及びライフスタイル移民に着目しながら学ぶ。 キーワードは、日本人移民、グローバル化、移住の多様化。	講義の内容を配布資料及び映像資料を用いて復習し、企業移民・ライフスタイル移民について理解を深める。	4時間
第12回	海外に住む日本人 (4) —戦後の海外移住2 (国際結婚について) 戦後の海外移住について、国際結婚に着目しながら学ぶ。 キーワードは、国際結婚、ジェンダー、移住の多様化。	講義の内容を配布資料を用いて復習し、国際結婚による移住について理解を深める。	4時間
第13回	海外に住む日本人 (5) —日本人学校・補習授業校 海外に住む日本人の子どもの教育について、在外教育施設としての日本人学校・補習授業校の現状と課題を通じて理解を深める。 キーワードは、在外教育施設、多様化、トランスナショナルナリズム。	講義の内容を配布資料を用いて復習し、日本人学校・補習授業校について理解を深める。	4時間
第14回	海外に住む日本人 (6) —帰国した子どもたち 海外に住む日本人の子どもの教育について、日本に帰国した子どもたちの教育問題を通じて理解を深める。 キーワードは、海外子女教育、帰国子女教育、トランスナショナルナリズム。	講義の内容を配布資料を用いて復習し、日本に帰国した子どもたちについて理解を深める。	4時間
第15回	多文化共生社会の実現にむけて 本講義を振り返り、多文化共生社会の実現に向けて何ができるのかを考える。 キーワードは、多文化共生社会の構想、他者理解、創造性。	講義の内容を配布資料や映像資料とともに振り返り、自分なりの「多文化共生社会」を構想する。	4時間

授業科目名	現代と社会福祉／日本の社会福祉				
担当教員名	福永英彦				
学年・コース等	1～4年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

現代社会に社会保障、社会福祉は欠かせない制度となっている。本講義では、社会福祉とは何か、その捉え方、考え方を学ぶ。まず、社会福祉の意味、定義、全体像、目的と実体、制度と実践などの概要を学ぶ。また、福祉の問題を当事者視点から理解する。資本主義社会での人間の生活、生活問題としての福祉問題を、普遍的な自立と依存、利己性や利他性、社会的連帯に照らして考える。福祉の実践的価値を学ぶほか、日本の社会福祉の歩みから現状を理解し課題を解決する土台を築く。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1. 幅広い教養やスキル	社会福祉、社会保障の現状を知り、考え方を考える。	自らの生活、自他の自立と依存について理解し、自らと社会の課題をリンクさせる。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		社会の維持と成長、格差と保障の問題を知り、課題を理解する
2．DP8. 意思疎通		様々な立場、異なる価値観、意志を理解し、コミュニケーションする力をつける
3．DP10. 忠恕の心		新たな公共性を理解し自らを生かす力をつける

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・eラーニング、反転授業

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

中間レポート	40%	：前半の課題について、授業内容を踏まえた自らの考えを的確に述べられているかを評価する。またそのユニークさを評価する。
期末レポート	50%	：後半の課題について、授業内容を踏まえた自らの考えを的確に述べられているかを評価する。またその独自性を評価する。
コメントシート	10%	：予習復習を含め授業への熱心で積極的な関心を示すコメント内容を評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

【教科書】書名／著者名／出版社名 なし
【参考文献】書名／著者名／出版社名 ①『社会福祉原論』社会福祉士養成講座、へるす出版、②『よくわかる社会福祉』山縣文治ら編著、ミネルヴァ書房、③『厚生労働白書』厚生労働省、④『国民の福祉と介護の動向』厚生労働省統計協会、その他の参考文献は各授業で提示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。予習は、本授業のベースである参考文献、①の通読を勧める。また、②は復習で授業に触れた概念、制度体系、事業等の簡潔な解説として確認しておく。④は、公的福祉制度の推移や統計を確認できる。予習・復習とも授業配布プリントを熟読し初見の用語等を調べる。復習では特に、授業で述べた考え方のロジックを何度も復習、整理し、理解しておく。その他、授業で紹介した文献や映画、小説、音楽等も授業外学修で積極的に視聴しておくことを推奨する。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	授業教室
場所：	授業前後
備考・注意事項：	社会福祉に広い視野、関心からアプローチする授業になります。各分野の事業、サービスを詳しく扱うことはしません。福祉への就職や実践に関心のある人も、そのための実践的知識スキルを扱うことはしませんので、関心のある人は、別途、質問やコミュニケーションカードで示してください。

授業計画

第1回	オリエンテーション 社会福祉の問題	社会福祉の問題を思いっただけすべて挙げておく。福祉の語源と意味を整理しておく。	授業外学修課題にかかる目安の時間
	授業の概要、成績評価の確認、出欠と受講上の注意点と規則の確認 社会福祉問題と言われるものにはどのようなものがあるか、福祉問題の発生と社会化、社会的対応の行われる過程、営みとしての社会福祉という言葉について考える。		4時間
第2回	社会福祉援助の視点 生活問題・人間の尊厳の保持	国連の社会福祉の定義、国際ソーシャルワーク連盟のソーシャルワークの定義を調べておく。	4時間

	社会福祉が社会福祉問題をどのように捉えるか、を確認する。人間と社会、社会関係、生活の全体性、ライフモデル、それらをキーワードとして、ソーシャルワークの基本視点を学ぶ。		
第3回	社会福祉実体と制度 現代の福祉国家は、公的な社会保障、社会福祉の公共施策を行う。税と社会保険料徴収による所得再分配を基本とする。制度は、法制、行政、財政により行われる。政府の政策に基づき中央官庁が施策を企画し、地方自治体が実施する。サービスの供給のためには、さらに別途、公的社会福祉事業の規定、福祉事業のサービス提供主体、サービス提供、利用の仕組みが作られている。	参考文献、平成28年厚生労働白書を読んでおく。行政ホームページ等で内容を確認しておく。	4時間
第4回	社会福祉理念の発展 貧民救済から最低生活保障（ウェルフェア）へ、基本的人権から生存権へ、ノーマライゼーションから共生、ユニバーサルデザイン、社会的包摂へ、ウェルビーイングと生活の質、自己実現、エンパワメント・プロフェッションへ。	最低生活保障、基本的人権からエンパワメントまでの意味を調べておくこと。	4時間
第5回	個人の自由と幸福追求 現代社会は、個人が自由に幸福追求する社会である。雇用と労働、競争、そこに自立と依の問題が現れる。適者生存、自立自助、自己責任、利己と利他、愛他性、利他性。社会的公正と平等、それら社会福祉はどのようにかわるのか、幸福と社会福祉、社会連帯と社会福との関係などのテーマを考える。	自由、幸福、利己性と利他性、社会ダーウィニズム、優生思想、共感と社会的連帯などの語句の意味を調べておく。	4時間
第6回	当事者に聞く自立と幸福追求、学業、就労 聴覚障がい者の学生の手記をもとに幸福追求の意思、夢、保育士資格取得と就労の夢について、その障壁、現実について考える。また、福祉理念をもとにどのような意識変革、文化変動が必要かを考える。また、障がい者の就労状況を概説する。	事例に福祉理念のロジックを当てはめて考えられること。	4時間
第7回	戦後日本の復興と生活保護の歩み戦後社会福祉は何を求めてきたか（豊かさとの格差） 戦後を証言でつづる記録番組の映像から、戦後の復興と生活保護の導入、反動を通じ、社会福祉の歩みの現代史を学ぶ。戦後を証言でつづる記録番組の映像から社会福祉の歩みを知る。現在も社会構造因の貧困が残存維持されている。企業の雇用の調整弁としての下請け、孫請けによる日雇い労働などである。格差の広がる社会の中で、どのように「健康で文化的な最低限度の生活を保障する」考え方を勧めることができるのか、考える。	視聴内容について文章でまとめる。	4時間
第8回	生活保護制度（日本の公的扶助の特徴） 生活保護制度の理念、原理と原則、扶助の種類、受給世帯数、受給理由などの基本統計を概説する。また、利用率、捕捉率、不正受給件数などを外国との比較から理解する。生活保護の不正受給の問題、パッシングの問題、受給者の自立に向けた支援の乏しさなどの問題を考える。	生活保護の資料を読んでおく。	4時間
第9回	子どもの貧困と児童虐待 18歳未満の子どもの相対的貧困率は、16.3%を記録した。格差社会のなかで未来ある子どもに公正な競争を保障し、夢と信頼のある社会とすることができるか。また生活保護世帯の子どもへの支援が貧困の再生産、世代連鎖をとり除く鍵になれるか。また、子どもの最たる困窮は、児童虐待である。その現状と取り組みの動向、問題点を考える。	児童福祉法、児童虐待について調べておく。	4時間
第10回	虐待防止と子育て支援、社会的養護の課題 児童虐待の現状、普遍的な子育て支援の必要性、社会的養護の実際と課題を概説する。	児童相談所、児童養護施設について調べておく。	4時間
第11回	歴史的元型に比較する「社会福祉」の本質 社会福祉の成立まで長い前史があった。飢餓救済、慈善、施与、救済事業などの元型と社会福祉の違いは何か。社会福祉の5つの元型から考える。	それぞれの元型と現代社会福祉とのつながり、関係をまとめること。	4時間
第12回	日本の社会福祉の歩み 歴史的変遷、戦前、戦後の福祉の成立、歩みを概観する。戦前日本の社会体制には救済事業の発達が見られなかった。その意味、理由を現在の課題を通して考える。	日本の戦前の国家体制、国民生活について調べておく。	4時間
第13回	社会福祉実践の価値（コミュニティソーシャルワーカーに学ぶ） 豊中市社会福祉協議会で行われるコミュニティソーシャルワーク。ドキュメンタリー番組を通じて社会福祉実践のもつ価値観、実践の意義を学ぶ。	市社会福祉協議会、CSWについて調べておく。視聴内容を文章でまとめる。	4時間
第14回	障がい者とアールブリュット 滋賀県近江八幡市にあるボーダレスアートミュージアムN OーMa。その活動から、障害者の表現活動をおして見えてくることを学ぶ。	視聴内容を文章でまとめること。	4時間
第15回	社会福祉の全体地図、国際比較 多次的な社会福祉の全体地図を提示する。これを見取り図に社会福祉の全体の広がりや多元構造を視覚的に理解する。また、社会システムと社会福祉システムとの関係を理解する。社会保障、公的社会保険、社会手当、公的扶助、社会福祉六法、民間非営利活動、ボランティアなどの意味を理解する。	福祉と人間生活、経済、政治、文化、社会と国家の関係をまとめること。	4時間

授業科目名	現代と社会福祉／日本の社会福祉				
担当教員名	潮谷 光人				
学年・コース等	1～4年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

この授業は、その時々で問題となっている様々な社会福祉の現状をトピックとして取り上げ、現代の社会福祉をめぐる現状と課題について理解を深めるものである。また、社会福祉課題の背景となっている制度、地域実情、歴史、構造などについても考えていきたい。社会福祉とは、対応すべきニーズに対し、問題解決のために様々な社会資源を結びつける活動である。この授業でも問題解決の視点を重視し、積極的な学生の自己学習や意見交換などを通して、自分なりの社会福祉への関心、問題意識を醸成していくことを大事にしていきたい。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	社会福祉を理解するうえで基礎的知識を身につけ、今日的課題を説明できる。また、社会福祉に関わる社会資源や専門職の支援を理解し、その実際について説明できる。	
2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力		
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		社会福祉に関する法制度や社会資源の現状を理解し、課題について整理することができる。
2．DP6. 行動・実践		福祉に関わる社会資源の存在と機能を理解し、説明できる。また積極的に地域にある社会資源との関係性を構築する。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ディベート、討論
- ・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

講義内提出物	30%	： 授業を踏まえた内容の妥当性と論理的構成について評価します。
期末レポート課題	50%	： 15回の授業を踏まえた課題の設定の妥当性と問題解決への論理的構成について評価します。
授業内の発表・議論	20%	： 授業内の発表や議論について積極的な姿勢を評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

子ども家庭福祉 (共著) 浦田 雅夫 保育出版
わたしたちの暮らしとソーシャルワーク 2ー相談援助の理論と方法ー (編著) 高井由紀子 教育情報出版

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業開始前後。
場所： 授業教室。

授業計画

回	授業内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<p>社会福祉の基本的考え方</p> <p>社会福祉の基本的理解を行っていく。社会福祉の概念について、個人及び社会におけるニーズとは何か、社会資源とは何かについて理解を行い、それらを結び付けていく活動が社会福祉であることを理解する。キーワードは、顕在的ニーズ、潜在的ニーズ、社会資源の適合・不適合、岡村重夫の社会福祉ニーズ。</p>	4時間
第2回	<p>社会福祉を取り巻く状況を理解する</p> <p>様々な社会福祉領域における課題を抽出し、その現状について検討を行う。幅広い社会福祉の多少領域を知るとともに、今身近に起きている福祉課題について、把握を行う。キーワードは、高齢社会、障がい者の権利、児童虐待、社会保障費。</p>	4時間
第3回	<p>社会福祉の実施体制と人 I ～子ども家庭福祉分野～</p>	4時間

	様々な社会福祉の実施体制を紹介し、地域実態について把握を行っていく。児童分野を中心に新たに施策として動いている子育て支援の社会資源について理解し、虐待や発達への支援としてどのような機能を有しているか理解する。		
第4回	社会福祉の実施体制と人Ⅱ～障がい者分野～ 様々な社会福祉の実施体制を紹介し、地域実態について把握を行っていく。障がい者分野を中心に障がい者総合支援法や障がい者雇用の社会資源について理解する。	授業で把握した地域の障がい者施設など支援の現場に足を運び見学し、その活動を理解する。また理解したことをレポートとしてまとめる。	4時間
第5回	社会福祉の実施体制と人Ⅲ～高齢者分野～ 様々な社会福祉の実施体制を紹介し、地域実態について把握を行っていく。高齢者分野を中心に地域包括支援センターや介護の社会資源について理解する。	授業で把握した地域の高齢者支援の現場に足を運び見学し、その活動を理解する。また理解したことをレポートとしてまとめる。	4時間
第6回	社会福祉の実施体制と人Ⅳ～家族支援～ 様々な社会福祉の実施体制を紹介し、地域実態について把握を行っていく。家族支援の分野を中心にDVの課題や社会手当、生活保護制度などについて理解する。	家族支援と実際の自分生活との関連性について考え、これまで利用してきた制度や支援について考察する。	4時間
第7回	児童虐待の現状と対応Ⅰ～実態と対応の枠組み～ 児童虐待の実態と法的な枠組みについて理解をする。現在問題となっている児童虐待がどのような社会背景から生じ、制度や地域における機能がどのような課題を有しているのかについて学ぶ	児童虐待の法的な枠組みについて理解する	4時間
第8回	児童虐待の現状と対応Ⅱ～事例から虐待の状況を把握する～ 児童虐待やDVの事例を通して、虐待の傾向や対応上の課題について把握する。児童虐待の要因として、どのような家族機能や社会の課題を有しているのかについて学ぶ。また、事例における対応の可能性についても検討を行っていく。	様々な児童虐待の要因について理解をする。児童虐待のニュースについて目を通しておく。	4時間
第9回	児童虐待の現状と対応Ⅲ～大阪で起こった虐待死の事例について考える～ 大阪で起きた2人の子どもの虐待によって餓死した事例を取り上げ、児童虐待の課題について把握する。事例から学ぶべき課題、マスコミや報道の問題についても検討を行っていく。	様々な児童虐待の要因について理解をする。児童虐待のニュースについて目を通しておく。授業内レポートについて提出できない場合は、授業外学修課題とする。	4時間
第10回	障がい者福祉の現状と対応Ⅰ～障がい者の生活について考える～ 障がい者の生活と基本的な法制度について理解をする。より身近な存在として障がいを感じ、現在の日本における課題について理解をしていく。	配布物を通して障がい者の生活上の困難や社会における問題について理解する。	4時間
第11回	障がい者福祉の現状と対応Ⅱ～ノーマライゼーションの広がり～ 障がい者福祉の基本的理念となるノーマライゼーションの思想の背景を理解する。また、ノーマライゼーションから派生した様々な思想について把握をしていく。理念と日本の現状を比較しながら、今後の障がい者福祉のあり方を検討する。	配布物を通して障がい者福祉の基本的理念について理解する。	4時間
第12回	高齢者福祉の現状と対応Ⅰ～高齢者社会の現状と課題について考える～ 高齢者の生活と基本的な法制度について理解をする。介護保険についての理解を行い、その現状について考える。	配布物や授業を通して高齢者の生活上の困難や社会における問題について理解する。	4時間
第13回	高齢者福祉の現状と対応Ⅱ～高齢者の生活について考える～ 高齢者の生活と基本的な介護や家族での関わり、認知症などについて理解をする。	配布物や授業を通して認知症や家族での関わりについて理解する。	4時間
第14回	日本における貧困について考える 社会福祉における貧困への支援について考える。特に生活保護制度やひとり親家庭への支援、子どもへの支援について、法的な支援と実態について理解をしていく。	配布物や授業を通して日本における貧困について理解する。	4時間
第15回	現代と社会福祉の関係性について整理する これまでの授業内容を総括し、自分自身が興味のあるテーマを設定して、課題やその対応方法について検討を行う。社会福祉における様々な領域について振り返りを行い、自己理解の確認をする。	レポートとして、これまでの授業内容を総括し、自分自身が興味のあるテーマを設定して、課題やその対応方法についてまとめる。	4時間

授業科目名	ジェンダー論／女性学・男性学				
担当教員名	倉橋耕平				
学年・コース等	1～4年	開講時期	前期/後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

社会において、性別をもとにどれくらい「線」が引かれているだろうか。「女性学」「男性学」は、フェミニズムという性差別にかかわる女性の解放運動や平等要求思想から生まれてきた学問分野である。とりわけ、近年は「ジェンダー（社会的・文化的に構築されている性規範）」という言葉がキーワードとして社会が分析されている。この授業では、データや社会学の知見を用いて、ジェンダー規範によって構築されている社会の現状や基礎知識を習得することを目標としている。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

ジェンダー論に関する知識

目標：

- ①フェミニズムの基本発想を身につけること。
- ②ジェンダー規範によって構築されている社会の現状や基礎知識を習得する。
- ③ジェンダー規範を土台とする社会の仕組みを理解し、権力構造を読み解けるようになる。

汎用的な力

- DP4. 課題発見

性別を基準に作られている社会の問題を発見し、自己の振る舞いを見つめ直すことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

期末試験（講義全体の到達度確認と論述）	： 一問一答式、概念解説、論述などで試験を構成する予定。採点基準は、問題に応じて講義で紹介する。	60%
中間小テスト（到達度確認の小テスト）	： 一問一答式で、持ち込みなし。	20%
その他、ミニッツペーパーなどを総合的に評価。	： 5回の提出で満点。その他は、提出回数に応じて減点。	20%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

講義内で各テーマに沿って参考文献を提示。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業後、またはメール
 場所： 授業終了時、授業後の教室、非常勤講師控え室、メール
 備考・注意事項： kohei.kmt@gmail.comにメール。
 必ず受講授業名、氏名、学生番号を記述してメールすること。

授業計画

回	テーマ	内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	ガイダンス 性別間格差はどれくらいあるのか？	日常生活の中にある性別間の格差を認識するために、さまざまな雑誌・新聞・インターネットに現れる女性問題・男性問題を見つけてみる。	4時間
第2回	フェミニズムの基礎知識	「ジェンダー」概念を理解し、社会の中で構築されているジェンダー観を分析する。	4時間
第3回	ジェンダーと社会① 労働とジェンダー	子育て支援やイクメン、女性の家事労働について考えてみる。	4時間
第4回	ジェンダーと社会② 教育とジェンダー	教育課程でどのような「ジェンダー化」が施されるのか検討する。	4時間

	かくれたカリキュラム・教育の男女格差・ジェンダーフリーをテーマに公的空間におけるジェンダー差を考える。		
第5回	ジェンダーと社会③ 家族とジェンダー 近代家族と恋愛結婚（ロマンチック・ラブ・イデオロギー）	近代家族はどのようなジェンダー規範のもとで生まれているのか、家族を問い直す。	4時間
第6回	ジェンダーと社会④ 国家とジェンダー 国民国家・人権とジェンダー、戦争・徴兵と性暴力、参政権と政治参加における男女格差。	国家が女性をどのように考えているのか（女性・女系天皇はなぜダメなのか？少子化対策の内実、自衛隊はなぜ男中心の世界なのか）考え直す。	4時間
第7回	ジェンダー、セクシュアリティと映像作品① ジェンダーやセクシュアリティを話題にした映像作品は数多くある。『ハッシュ』『ヒステリア』『私がクマにくれた理由』『ヘルプ』『ミルク』『人生サイコー!』など。いずれかの作品を見ながらジェンダーに関わるテーマに言及する。	上映する作品についてインターネットで予備知識を得ておく。	4時間
第8回	ジェンダー、セクシュアリティと映像作品② 作品解説と中間テスト	中間テストのために、これまでの内容の要点をまとめ、復習しておく。	4時間
第9回	ジェンダー論の新展開① ゲイスタディーズ アメリカで展開されたゲイスタディーズとそこで生まれてきた理論（ホモフォビアや性的指向性など）を紹介する。	LGBT差別やLGBTの権利運動についてニュースなどで現状を把握しておく。	4時間
第10回	ジェンダー論の新展開② レズビアンスタディーズ ゲイスタディーズによるセクシュアルマイノリティ運動への批判としてレズビアンスタディーズやクィアスタディーズが論じてきたことを解説する。	LGBT差別やLGBTの権利運動についてニュースなどで現状を把握しておく。	4時間
第11回	ジェンダー論の新展開③ 男性学の新展開 1990年代に登場した男性学による社会学の調査や、男性性を論じた理論を紹介する。	「男性」という性はどのようにジェンダー化（社会化）されているのか、（特に男子学生は）過去の経験を整理しておく。	4時間
第12回	ジェンダー論の新展開④ 男性不妊 男性原因の不妊とそれがもたらす社会的な負の烙印について議論を紹介する。	男性をめぐる医学についての基礎的な知識を学んでおく。例えば、男性更年期障害、薄毛治療、勃起不全への処方など。	4時間
第13回	ジェンダー論の新展開⑤ 私的領域の暴力 男性によるセクシュアル・ハラスメント、ドメスティック・バイオレンス、デートレイプのように私的空間におけるジェンダー間の問題を扱う。	DV法など、法律の概要を知っておく。	4時間
第14回	ジェンダー論の新展開⑥ 多文化主義、グローバリゼーションとジェンダー 多様化・多元化するジェンダー問題と周辺領域における人権問題との関連性を持たせながら第三波フェミニズム以降の課題を整理する。	ジェンダーとその他の差別が結びつく事例（複合差別）の事例を調べる。	4時間
第15回	講義のまとめ 全講義の要点をまとめ、かつ試験対策、試験の採点基準などを紹介する。	これまでの復習を行う。特に、分からなかった点を明確にしておく。	4時間

授業科目名	現代社会と政治				
担当教員名	中井 歩				
学年・コース等	1年～4年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

「現代日本の政治をどう見るか」をテーマにして、「ちゃんとした社会人」になるために必要な社会を見る知識と政治学的なものの見方を身につけることを目指す。具体的には、現代の日本政治について、1回につき1つのテーマを取り上げて通常の講義形式で紹介していく。テーマの順番と内容は、変更されることがある。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

現代社会の中で「政治」が果たしている機能、しくみを理解するための基礎的な知識と教養を修得し、政治に参加する主体としての判断力をもつ。

目標：

現代社会における「政治」にかかわる現象を、「政治学的に」理解して説明が出来るようになることを目指す。

汎用的な力

- 1 . DP4. 課題発見

現代社会におけるさまざまな現象や課題を「政治」的にとらえて考えることができるようになる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

講義が行われる「教室」も「現代社会」の1つであるので、講義自体も実践の1つであると講義担当者はとらえている。このため、講義形式ながら一定程度の双方向性のある授業を目指すので、受講生には「大学生らしい」授業態度を求める。それに反すると判断をした場合には、授業出席の回数にかかわらず、成績評価を「不可」とすることがある。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

学期末の試験による

： 政治学的なものの見方ができるようになったのかについて、論述式を中心とした学期末試験において評価する。政治学的な概念を使って、政治的な現象を分析することが出来ているかを問う問題となる。

95%

ミニッツペーパーの内容による

： 各回のテーマについての疑問・質問を発することができているかをもって、興味・関心を持って授業に向かい合っているかを評価する。

5%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

北山俊哉・久米郁夫・真淵勝『はじめて出会う政治学—構造改革の向こうに—第3版』2009年、有斐閣

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。また、定期試験の前にはそれまでの学修内容を確認するとともに、最終回までに（できるだけ早いうちの方が良い）質問をすることで分からないところをなくすように努めること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業終了後

場所： 授業教室

備考・注意事項： 簡単な質問については授業終了後や、上記に設定されたオフィスアワーにおいて対応する。長時間を要すると考えられる場合には、事前にメール等でアポイントを取るようにすることが望ましい。アドレスは初回授業時に提示する。

授業計画

第1回目	イントロダクション：「公共財」と「市場の失敗」	事前：「政治」という言葉を聞いて連想するものについて考えておく。 事後：授業の内容を振り返り、確認をする。授業の全体像と試験・評価の方法についても確認をする。	授業外学修課題にかかる目安の時間
	「公共財」と「市場の失敗」をキーワードにして、「政治とは何か」を考える。あわせて、この授業の全体像について説明すると同時に、受講に当たっての心構えや注意事項、試験の形式と評価基準、授業外学修の方法について説明し、伝達する。この授業を受講するつもりの方は、必ず第1回の授業に出席すること。		4時間
	「権力とは何か? : のび太はなぜジャイアンのリサイタルに行くのか?」	事前：「権力」という言葉について辞書を引いたりして自分なりに調べておき、さらにこの言葉から連想するものについて考えておく。 事後：授業の内容を振り返り、確認をする。新聞やニュースなどを通じて、「権力」にかかわる現象を見つけ出し、理解した概念をもとに分析ができるようになっておくことが望ましい。	4時間
	「権力」をキーワードにして、社会を政治的に考察する。権力の概念、権力の資源、正統性などを説明していく。		

第3回	国家の歴史的展開：政府は大きい方が良い？ 小さい方が良い？	事前：「大きな政府」「小さな政府」という言葉について辞書を引いたりして自分なりに調べておき、さらにこの言葉から連想するものについて考えておく。 事後：授業の内容を振り返り、確認をする。新聞やニュースなどを通じて、「大きな政府・小さな政府」にかかわる現象を見つけ出し、理解した概念をもとに分析ができるようになっておくことが望ましい。	4時間
	近代以降の国家の歴史的展開について、「小さな政府」「大きな政府」の概念を用いて、説明・検討をしていく。		
第4回	選挙と民主制：あなたの一票で日本は変わる？	事前：「投票」「棄権」という言葉について辞書を引いたりして自分なりに調べておき、さらにこの言葉から連想するものについて考えておく。 事後：授業の内容を振り返り、確認をする。新聞やニュースなどを通じて、「投票」にかかわる現象を見つけ出し、理解した概念をもとに分析ができるようになっておくことが望ましい。	4時間
	民主制における選挙の機能や意義について、一票の格差、投票行動と棄権などのテーマを通じて、説明をしていく。		
第5回	選挙制度：ルールが変われば結果が変わる	事前：「小選挙区制」「比例代表制」という言葉について辞書を引いたりして自分なりに調べておき、さらにこの言葉から連想するものについて考えておく。 事後：授業の内容を振り返り、確認をする。新聞やニュースなどを通じて、「選挙」にかかわる現象を見つけ出し、理解した概念をもとに分析ができるようになっておくことが望ましい。	4時間
	「小選挙区制」「比例代表制」などの基本的な選挙制度の基本的な仕組みと考え方を解説したのち、現代の日本で行われている選挙制度を中心に説明する。		
第6回	議院内閣制：総理大臣はなぜ日本の「最高権力者」なのか？	事前：「議院内閣制」という言葉について辞書を引いたりして自分なりに調べておき、さらにこの言葉から連想するものについて考えておく。 事後：授業の内容を振り返り、確認をする。新聞やニュースなどを通じて、「議院内閣制」「総理大臣」にかかわる現象を見つけ出し、理解した概念をもとに分析ができるようになっておくことが望ましい。	4時間
	統治構造の基本としての「議院内閣制」のしくみと考え方について解説し、国会と内閣の関係について説明する。		
第7回	国会と立法過程：法律ができるまで	事前：「会期制」という言葉について辞書を引いたりして自分なりに調べておき、さらにこの言葉から連想するものについて考えておく。 事後：授業の内容を振り返り、確認をする。新聞やニュースなどを通じて、「国会の立法」にかかわる現象を見つけ出し、理解した概念をもとに分析ができるようになっておくことが望ましい。	4時間
	日本の国会における立法過程について、その特徴について解説することを通じて、説明する。		
第8回	官僚制：東京から日本を動かす公務員？	事前：「官僚」という言葉について辞書を引いたりして自分なりに調べておき、さらにこの言葉から連想するものについて考えておく。 事後：授業の内容を振り返り、確認をする。新聞やニュースなどを通じて、「官僚」にかかわる現象を見つけ出し、理解した概念をもとに分析ができるようになっておくことが望ましい。	4時間
	行政活動のみならず立法活動でも大きな役割を果たしている、中央省庁の国家公務員の組織と機能について説明する。		
第9回	鉄の三角形：日本の支配者は誰？	事前：「鉄の三角形」という言葉について辞書を引いたりして自分なりに調べておき、さらにこの言葉から連想するものについて考えておく。 事後：授業の内容を振り返り、確認をする。新聞やニュースなどを通じて、「鉄の三角形」にかかわる現象を見つけ出し、理解した概念をもとに分析ができるようになっておくことが望ましい。	4時間
	政治家・官僚・利益団体の連携による政策決定過程のあり方について、その変化とともに説明する。		
第10回	冷戦 1：「恐怖の中の平和」	事前：「冷戦」という言葉について辞書を引いたりして自分なりに調べておき、さらにこの言葉から連想するものについて考えておく。 事後：授業の内容を振り返り、確認をする。新聞やニュースなどを通じて、「軍拡競争」にかかわる現象を見つけ出し、理解した概念をもとに分析ができるようになっておくことが望ましい。	4時間
	第2次世界大戦以後の米ソ冷戦について、その歴史的展開を説明する。		
第11回	冷戦 2：合理的選択と核兵器	事前：「合理的選択」という言葉について辞書を引いたりして自分なりに調べておき、さらにこの言葉から連想するものについて考えておく。 事後：授業の内容を振り返り、確認をする。新聞やニュースなどを通じて、「囚人のジレンマ」にかかわる現象を見つけ出し、理解した概念をもとに分析ができるようになっておくことが望ましい。	4時間
	合理的選択理論（囚人のジレンマ）を解説し、米ソ冷戦がこうした「合理的選択」に基づいたジレンマ状況であったことを説明する。		
第12回	から騒ぎの20年（1）：安全保障政策	事前：「吉田ドクトリン」「日米安全保障条約」という言葉について辞書を引いたりして自分なりに調べておき、さらにこの言葉から連想するものについて考えておく。 事後：授業の内容を振り返り、確認をする。新聞やニュースなどを通じて、「日本の安全保障」にかかわる現象を見つけ出し、理解した概念をもとに分析ができるようになっておくことが望ましい。	4時間
	主に90年代以後の安全保障政策の展開と課題について、それ以前の時期と比べて説明する。		
第13回	から騒ぎの20年（2）：経済構造改革	事前：「経済構造改革」「新自由主義」という言葉について辞書を引いたりして自分なりに調べておき、さらにこの言葉から連想するものについて考えておく。 事後：授業の内容を振り返り、確認をする。新聞やニュースなどを通じて、「日本の経済構造改革」にかかわる現象を見つけ出し、理解した概念をもとに分析ができるようになっておくことが望ましい。	4時間

<p>主に90年代以後の経済構造改革の展開と課題について、それ以前の時期と比べて説明する。</p>		
<p>第14回回 から騒ぎの20年（3）：政治改革</p>	<p>事前：「政治改革」「行政改革」という言葉について辞書を引いたりして自分なりに調べておき、さらにこの言葉から連想するものについて考えておく。 事後：授業の内容を振り返り、確認をする。新聞やニュースなどを通じて、「政治主導」にかかわる現象を見つけ出し、理解した概念をもとに分析ができるようになっておくことが望ましい。</p>	<p>4時間</p>
<p>主に90年代以後の政治改革・行政改革の展開と課題について、それ以前の時期と比べて説明する。</p>		
<p>第15回回 「現代社会と政治」のまとめ</p> <p>事前の質問に答えることを中心にして、全体のまとめと振り返りを行う。</p>	<p>事前：現代社会と政治についてのこれまでの学修内容を振り返り、理解を深めておく（テストに向けた勉強）。 事後：現代社会と政治についてのこれまでの学修内容を振り返り、理解を深めていく（社会の構成員としての勉強）。</p>	<p>4時間</p>

授業科目名	現代社会と経済				
担当教員名	藤森 梓				
学年・コース等	1～4年	開講時期	前期/後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

この講義では、初学者を対象として経済学の基本的な概念を学んだ上で、私たちの日常生活や社会の諸問題について経済学という視点から考察します。皆さんは経済学について、難解かつ抽象的な学問というイメージをお持ちかも知れません。しかし、経済学的思考を身に付けることができれば、世の中の諸現象について、非常に論理的なものの見方ができるようになります。この講義では、できるだけ平易かつ具体的に経済学のエッセンスについて解説します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

経済学の基本概念を習得する。経済に関するテクニカル・タームを正しく理解する。

目標：

世の中経済現象の本質を正しく理解し、自分なりの見解を持つことができるようになる。

汎用的な力

- DP4. 課題発見

自らの専門分野（マネジメント学部、芸術学部）に関連した問題を経済学的視から分析できるようにする。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- 問答法・コメントを求める
- 振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- 実技・実習後、全体に向けてコメントします
- 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

期末試験

：世の中の経済の動きについて基本的な知識を有し、かつ本質的な問題点をきちんと理解しているかどうかを評価します。

70%

小レポート

：原則、毎回の授業で提出を求めます。授業内容を踏まえた上で、きちんと内容が記述されているかを評価します。

30%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

教科書は使わず講義資料は毎回用意します。初回の授業でリーディングリストを配布します。また、講義内でも適宜紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をして下さい。本講義では、現実社会の問題を取り上げるために、時事問題に関する知識は必須です。そのために、新聞購読、ニュースを見る習慣を身に付けて下さい。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日3限

場所： 研究室（西館2階）

備考・注意事項： 授業に関する質問は、授業の前後、または研究室でのオフィスアワー（水曜日3限）にて受け付けます。

授業計画

回数	タイトル	内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	ガイダンス～経済学への導入～	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。 (社会科学における経済学の位置づけを理解する)	4時間
第2回	経済学はどのような学問なのか	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。 (経済学の究極の目標とは何なのかを理解する)	4時間
第3回	経済学の基礎(1)～経済活動と市場～	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。 (市場原理がなぜ合理的なシステムと言えるのか、その要因を考える)	4時間
第4回	経済学の基礎(2)～市場原理と価格決定のしくみ～	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。 (価格調整メカニズムについて理解する)	4時間
第5回	経済学の基礎(3)～市場の失敗～	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。 (市場原理がうまく機能しない要因について考える)	4時間

	市場原理の限界について、市場の失敗という概念について学びます。		
第6回	日本の経済と産業（１）～日本の産業構造～ 日本における経済政策と産業発展について学びます。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。 (明治以降の日本の産業政策について、経済学的な視点から分析する)	4時間
第7回	日本の経済と産業（２）～規制緩和・自由化・民営化～ 日本における産業政策の変化と規制緩和の進展について学びます。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。 (規制緩和・自由化・民営化のメリット・デメリットについて考える)	4時間
第8回	日本経済の現状と課題（１）～失業について考える～ マクロ経済の観点から失業問題について考える。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。 (なぜ失業が生じるのかを考える)	4時間
第9回	日本経済の現状と課題（２）～日本経済と景気変動～ 景気循環が発生する要因、および戦後の日本経済と景気循環について学びます。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。 (景気変動の要因について考える)	4時間
第10回	日本経済の現状と課題（３）～日本経済と財政政策～ 財政政策のしくみについて理解する。財政政策の効果について学びます。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。 (財政政策のしくみについて理解を深める)	4時間
第11回	日本経済の現状と課題（４）～日本経済と金融政策～ 金融政策のしくみについておよび中央銀行の役割について学びます。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。 (金融政策のしくみについて理解を深める)	4時間
第12回	日本経済の現状と課題（５）～日本の財政問題～ 日本の財政状況および財政赤字の問題について学びます。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。 (日本の財政状況を改善させる施策を考える)	4時間
第13回	日本経済の現状と課題（６）～失われた20年と日本経済の再興～ 失われた20年の経済状況およびアベノミクスの概要と問題点について学びます。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。 (アベノミクスについて理解を深め、その成果を検証する)	4時間
第14回	日本経済の現状と課題（７）～地域経済の現状と課題～ 日本の地方経済をめぐる問題について関西・大阪をケースに学びます。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。 (大阪都構想の要点および問題点を理解する)	4時間
第15回	まとめ 講義全体を振り返り、重要なポイントについて復習します。	講義内で配布する、復習ノートに取り組む。 (講義全体を振り返る)	4時間

授業科目名	現代社会と法				
担当教員名	中井 歩				
学年・コース等	1年～4年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

現代社会におけるさまざまな「法」にまつわる現象や事例をトピックとして、「ちゃんとした社会人」になるための法的なものの方、考え方を身につけることを目指す。具体的には、社会におけるさまざまな法律・ルールについて、1回につき1つのテーマを取り上げて通常の講義形式で紹介していく。テーマの順番と内容は、変更されることがある。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

現代社会の中で「法律」「ルール」が果たしている機能、しくみを理解するための基礎的な知識と教養を修得し、社会に参加する主体としての判断力をもつ。

目標：

現代社会における「法律・ルール」にかかわる現象を、「法学的に」理解して説明が出来るようになることを目指す。

汎用的な力

- 1 . DP4. 課題発見

現代社会におけるさまざまな現象や課題を「法的に」とらえて考えることができるようになる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

講義が行われる「教室」も「現代社会」の1つであるので、講義自体も実践の1つであると講義担当者はとらえている。このため、講義形式ながら一定程度の双方向性のある授業を目指すので、受講生には「大学生らしい」授業態度を求める。それに反すると判断をした場合には、授業出席の回数にかかわらず、成績評価を「不可」とすることがある。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

学期末の試験による

： 法学的なものを見方ができるようになったのかについて、論述式を中心とした学期末試験において評価する。法的な概念を使って、法的な現象を分析することが出来るかを問う問題となる。

95%

ミニッツペーパーの内容による

： 各回のテーマについての疑問・質問を発することができているかをもって、興味・関心を持って授業に向かい合っているかを評価する。

5%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

吉永一行・編『法学部入門〔第2版〕：はじめて法律を学ぶ人のための道案内』2017年、法律文化社

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。また、定期試験の前にはそれまでの学修内容を確認するとともに、最終回までに（できるだけ早いうちの方が良い）質問をすることで分からないところをなくすように努めること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の後、あるいは火曜日の2限目終了後

場所： 授業教室

備考・注意事項： 簡単な質問については授業終了後や、上記に設定されたオフィスアワーにおいて対応する。長時間を要すると考えられる場合には、事前にメール等でアポイントを取るようにすることが望ましい。アドレスは初回授業時に提示する。

授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間	
第1回目	<p>イントロダクション：「ルール」についての2つの考え方と「法律を憶える学問」？</p> <p>ルールについての2つの見方について説明し、「法律・ルールとは何か」を考える。あわせて、この授業の全体像について説明すると同時に、受講に当たっての心構えや注意事項、試験の形式と評価基準、授業外学修の方法について説明し、伝達する。この授業を受講するつもりの方は、必ず第1回の授業に出席すること。</p>	<p>事前：「法律」という言葉を聞いて連想するものについて考えておく。 事後：授業の内容を振り返り、確認をする。授業の全体像と試験・評価の方法についても確認をする。</p>	4時間
第2回目	<p>社会とはなにか？：人はなぜ「社会」を作るのか？</p> <p>人が構成する「社会」とは何かについて、説明する。</p>	<p>事前：「社会」という言葉について辞書を引いたりして自分なりに調べておき、さらにこの言葉から連想するものについて考えておく。 事後：授業の内容を振り返り、確認をする。新聞やニュースなどを通じて、「社会」にかかわる現象を見つけ出し、理解した概念をもとに分析ができるようになっておくことが望ましい。</p>	4時間

第第3回	ルールによる解決：先に決めておきましょう	事前：「道徳」と「法」という言葉について辞書を引いたりして自分なりに調べておき、さらにこの言葉から連想するものについて考えておく。 事後：授業の内容を振り返り、確認をする。新聞やニュースなどを通じて、「ルールによる解決」にかかわる現象を見つけ出し、理解した概念をもとに分析ができるようになっておくことが望ましい。	4時間
	道徳と法の違いについて解説をして、社会における紛争を解決するためのルールという考え方について説明する。		
第第4回	「正義」の考え方：実体的正義と手続的正義と形式的正義	事前：「正義」と「公正」という言葉について辞書を引いたりして自分なりに調べておき、さらにこの言葉から連想するものについて考えておく。 事後：授業の内容を振り返り、確認をする。新聞やニュースなどを通じて、「正義」「公正」にかかわる現象を見つけ出し、理解した概念をもとに分析ができるようになっておくことが望ましい。	4時間
	「正義」や「公正」について解説し、3つの種類の正義・公正さについて説明する。		
第第5回	法的なものの考え方：要件—効果モデルと法的三段論法	事前：「要件と効果」という言葉について辞書を引いたりして自分なりに調べておき、さらにこの言葉から連想するものについて考えておく。 事後：授業の内容を振り返り、確認をする。新聞やニュースなどを通じて、「要件効果モデル」にかかわる現象を見つけ出し、理解した概念をもとに分析ができるようになっておくことが望ましい。	4時間
	「要件効果モデル」と「法的三段論法」をテーマにして、法的なものの方の見方、解決にむけた考え方を説明する。		
第第6回	憲法の考え方：国家と自由についての歴史的展開	事前：「憲法」という言葉について辞書を引いたりして自分なりに調べておき、さらにこの言葉から連想するものについて考えておく。 事後：授業の内容を振り返り、確認をする。新聞やニュースなどを通じて、「憲法」「基本法」にかかわる現象を見つけ出し、理解した概念をもとに分析ができるようになっておくことが望ましい。	4時間
	「基本法」としての憲法の考え方と構成について説明をする。		
第第7回	民法の考え方：契約と不法行為	事前：「契約」と「不法行為」という言葉について辞書を引いたりして自分なりに調べておき、さらにこの言葉から連想するものについて考えておく。 事後：授業の内容を振り返り、確認をする。新聞やニュースなどを通じて、「民法」にかかわる現象を見つけ出し、理解した概念をもとに分析ができるようになっておくことが望ましい。	4時間
	契約と契約自由の原則、不法行為と過失責任などを取り上げ、民法の基本的な考え方を説明する。		
第第8回	刑法の考え方：犯罪と刑罰	事前：「犯罪」と「刑罰」という言葉について辞書を引いたりして自分なりに調べておき、さらにこの言葉から連想するものについて考えておく。 事後：授業の内容を振り返り、確認をする。新聞やニュースなどを通じて、「刑法」にかかわる現象を見つけ出し、理解した概念をもとに分析ができるようになっておくことが望ましい。	4時間
	犯罪の概念、罪刑法定主義などを取り上げ、刑法の基本的な考え方を説明する。		
第第9回	行政法の考え方：ルールに基づく行政活動	事前：「行政」という言葉について辞書を引いたりして自分なりに調べておき、さらにこの言葉から連想するものについて考えておく。 事後：授業の内容を振り返り、確認をする。新聞やニュースなどを通じて、「行政」にかかわる現象を見つけ出し、理解した概念をもとに分析ができるようになっておくことが望ましい。	4時間
	事前規制のルールとしての行政法の基本的なしくみや考え方について、具体的な業界法などを用いて説明する。		
第第10回	裁判のしくみ：民事裁判、刑事裁判、三審制	事前：「民事裁判」「刑事裁判」「三審制」という言葉について辞書を引いたりして自分なりに調べておき、さらにこの言葉から連想するものについて考えておく。 事後：授業の内容を振り返り、確認をする。新聞やニュースなどを通じて、「裁判」にかかわる現象を見つけ出し、理解した概念をもとに分析ができるようになっておくことが望ましい。	4時間
	民事裁判と刑事裁判の違い、三審制など、日本の裁判制度の基本的なしくみについて説明する。		
第第11回	法律と社会での仕事との関わり：公務員と法律をつかう専門家たち	事前：「法曹」という言葉について辞書を引いたりして自分なりに調べておき、さらにこの言葉から連想するものについて考えておく。 事後：授業の内容を振り返り、確認をする。新聞やニュースなどを通じて、「法律の専門家」にかかわる現象を見つけ出し、理解した概念をもとに分析ができるようになっておくことが望ましい。	4時間
	主に法律に関わるさまざまな専門家たち。そして一般の社会人たちとの法律との関わりについて解説し、社会の中でどのように「法」が活かされているのかを説明する。		
第第12回	裁判員制度：「評議」	事前：「裁判員」という言葉について辞書を引いたりして自分なりに調べておき、さらにこの言葉から連想するものについて考えておく。 事後：授業の内容を振り返り、確認をする。新聞やニュースなどを通じて、「裁判員裁判」にかかわる現象を見つけ出し、理解した概念をもとに分析ができるようになっておくことが望ましい。	4時間
	裁判員制度のしくみについて裁判員制度の公式web動画を用いて説明する。		
第第13回	投票と政治参加の制度：有権者として知っておくべきルール	事前：「選挙」と「住民投票」という言葉について辞書を引いたりして自分なりに調べておき、さらにこの言葉から連想するものについて考えておく。 事後：授業の内容を振り返り、確認をする。新聞やニュースなどを通じて、「選挙と投票」にかかわる現象を見つけ出し、理解した概念をもとに分析ができるようになっておくことが望ましい。	4時間
	日本の政治参加に関わる制度について、直接民主制、間接民主制のそれぞれについて説明する。		

第14回回 労働法の考え方：働く人として知っておくべきルール	事前：「労働法」「最低賃金」という言葉について辞書を引いたりして自分なりに調べておき、さらにこの言葉から連想するものについて考えておく。 事後：授業の内容を振り返り、確認をする。新聞やニュースなどを通じて、「労働法」にかかわる現象を見つけ出し、理解した概念をもとに分析ができるようになっておくことが望ましい。	4時間
労働にかかわるルールの基本的な考え方について説明をする。		
第15回回 「現代社会と法」のまとめ	事前：現代社会と法についてのこれまでの学修内容を振り返り、理解を深めておく（テストに向けた勉強）。 事後：現代社会と法についてのこれまでの学修内容を振り返り、理解を深めていく（社会の構成員としての勉強）。	4時間
事前の質問に答えることを中心にして、全体のまとめと振り返りを行う。		

授業科目名	日本史概説				
担当教員名	松本望				
学年・コース等	1～4年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	近世大阪における教育や出版について研究している。また大阪市域の史料を収集・調査し、史料集や雑誌を刊行する団体に勤務している。				

授業概要

古代から現代に至る日本の歴史において、大阪は重要な地域であり、政治・経済・文化の拠点となった。本授業では、古代から近現代に至る大阪の歴史、特に江戸時代の大阪の政治・経済・文化を中心に講義する。各回の授業では、大阪に残されてきた史跡・文化財を取り上げ、それに関わる歴史について講義する。毎回内容を示した資料を配付し、具体例を紹介するが、概説的な内容となる場合が多いため、復習等の参考として適宜文献や関連作品を紹介する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1.幅広い教養やスキル	大阪の歴史・文化に関する知識	大阪の歴史・文化に関する基本的な知識を正しく理解できる。
2．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	大阪の歴史・文化に関する知識の利用	授業を通じて得た大阪の歴史・文化に関する知識を自分の専門分野に取り入れることができる。
汎用的な力		
1．DP4.課題発見		大阪の歴史・文化に対して広く関心を持ち、文献を読んだり、史跡や博物館等の施設を見学したりすることによって、大阪の歴史・文化に対する独自の観点を育むことができる。
2．DP8.意思疎通		大阪の歴史・文化に関する知識を自分の言葉で説明できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)
- ・見学、フィールドワーク

授業中、視聴覚教材を鑑賞したり、江戸時代の和本や引札を実際に読む機会を設けます。その際400字程度の感想を求めるので主体的に取り組むこと。また各回の授業内容に関連した史跡や博物館等を紹介するので、自身が興味・関心を持った場所に積極的に見学に行くこと。

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

希望者は、各回の授業の中で興味を持ったテーマについて、400字程度で論述し、提出すること。①内容が適切にまとめられているか、②学生固有の見解が述べられているか、などの観点から添削し、返却します。

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

定期試験	70%	： 授業の内容に即した穴埋め問題と論述問題を出題。論述問題は、授業の内容に、独自の観点が加わった解答を積極的に評価する。
課題レポート	15%	： 授業の内容に即した課題について、800～1200字程度の小論文を求める。内容描写に加えて、独自の観点が加わった論述を積極的に評価する。
授業内小レポート	10%	： 視聴覚教材鑑賞後の感想や、授業の内容に即したアンケートを求める。自身の生活や経験による素直な記述を積極的に評価する。
受講態度	5%	： 私語、及びスマートフォンや音楽再生機器等の使用など、他の受講生に迷惑をかける行為をしていないかを判断の基準とする。あまりにひどい場合、減点評価を行う。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

- ・大阪市史編纂所編『大阪市の歴史』創元社 1999年。その他の参考文献は授業中に随時紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

- ・本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
- ・座席指定を行う。
- ・私語及びスマートフォン・携帯電話やipod等の音楽再生機器の使用は禁止とし、厳正に対処する。注意してもやめない場合、退席を求める。また現代まで残されてきた歴史史料に触れる機会を設けているので、授業には集中して臨むこと。
- ・現代社会と歴史の関わりを様々な形で言及するため、各種のメディアを通じて、時事問題を常に追いかけていることが望ましい。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	授業の前後
場所：	授業の教室

授業計画

⋮

⋮ 授業外学修課題にかかる目安の時間

第1回	大阪の歴史・文化を学ぶということ	配付資料と講義で得た知識をもとに、ノートを作成する。またテーマに関わる文献を読んだり、史跡・文化財に触れたりすることにより、知識を深めること。理解のためのキーワード：高校日本史の教科書に見える大阪	4時間
	大阪の歴史や文化を学び、現代の生活にどのように生かすかを考える。		
第2回	四天王寺	配付資料と講義で得た知識をもとに、ノートを作成する。またテーマに関わる文献を読んだり、史跡・文化財に触れたりすることにより、知識を深めること。理解のためのキーワード：厩戸王（聖徳太子）の事績、仏教の受容をめぐる対立	4時間
	古代の大阪を代表する史跡である四天王寺と、建立した厩戸王（聖徳太子）について、学習する。		
第3回	難波宮跡	配付資料と講義で得た知識をもとに、ノートを作成する。またテーマに関わる文献を読んだり、史跡・文化財に触れたりすることにより、知識を深めること。理解のためのキーワード：大化の改新、聖武天皇	4時間
	古代大阪に遷都された難波宮について、特徴と遷都に至る経緯を学習する。		
第4回	平安～鎌倉時代の大阪	配付資料と講義で得た知識をもとに、ノートを作成する。またテーマに関わる文献を読んだり、史跡・文化財に触れたりすることにより、知識を深めること。理解のためのキーワード：西行、江口君、渡辺覚	4時間
	皇族・貴族の四天王寺や住吉への寺社参詣や源平合戦と大阪について、学習する。		
第5回	南北朝～室町時代の大阪	配付資料と講義で得た知識をもとに、ノートを作成する。またテーマに関わる文献を読んだり、史跡・文化財に触れたりすることにより、知識を深めること。理解のためのキーワード：承久の乱、楠木正成、室町幕府	4時間
	南北朝期に活躍した楠木正成について学習する。また室町幕府の成立と大阪についても言及する。		
第6回	大阪城 ～江戸幕府と大坂城～	配付資料と講義で得た知識をもとに、ノートを作成する。またテーマに関わる文献を読んだり、史跡・文化財に触れたりすることにより、知識を深めること。理解のためのキーワード：豊臣期の大坂城、徳川期の大坂城、幕藩体制、幕府直轄領、大坂城代	4時間
	豊臣秀吉が築城した大坂城は大坂夏の陣により落城する。その後江戸幕府が行った再築工事について学習する。また、江戸幕府にとって大坂城がどのような役割を果たしたのかについて学習する。		
第7回	近世大坂の私塾	配付資料と講義で得た知識をもとに、ノートを作成する。またテーマに関わる文献を読んだり、史跡・文化財に触れたりすることにより、知識を深めること。理解のためのキーワード：懐徳堂…中井竹山、泊園書院…藤沢東ガイ、荻生徂徠、適塾…緒方洪庵、除痘館、『虎狼痢治準』	4時間
	江戸時代の大坂の代表的な漢学塾である懐徳堂と泊園書院について、創設の経緯や授業内容、門人などの観点から、比較し、考察する。また大坂の蘭学塾・適塾の業績について、学習する。		
第8回	近世大坂の和本や引札	配付資料と講義で得た知識をもとに、ノートを作成する。またテーマに関わる文献を読んだり、史跡・文化財に触れたりすることにより、知識を深めること。理解のためのキーワード：『増補頭書 訓蒙図彙大成』、暁鐘成、長谷川貞信、正月引札	4時間
	近世大坂の出版文化について学習する。江戸時代の書物（和本）の中で、『増補頭書 訓蒙図彙大成』という、現在の百科事典を取り上げ、読んでみる。また江戸時代のちらし（引札）を考察する。		
第9回	天保山	配付資料と講義で得た知識をもとに、ノートを作成する。またテーマに関わる文献を読んだり、史跡・文化財に触れたりすることにより、知識を深めること。理解のためのキーワード：ロシア船ディアナ号、プチャーチン	4時間
	幕末期、異国船の来航により、様相が一変した天保山について、学習する。		
第10回	明治維新期の大阪	配付資料と講義で得た知識をもとに、ノートを作成する。またテーマに関わる文献を読んだり、史跡・文化財に触れたりすることにより、知識を深めること。理解のためのキーワード：大久保利通、五代友厚、大阪商法会議所、大阪会議	4時間
	明治政府による政策と大阪に与えた影響について学習する。特に大久保利通と五代友厚の動向を中心に学習する。		
第11回	日清・日露戦争	配付資料と講義で得た知識をもとに、ノートを作成する。またテーマに関わる文献を読んだり、史跡・文化財に触れたりすることにより、知識を深めること。理解のためのキーワード：治外法権、関税自主権、与謝野晶子	4時間
	日本が初めて経験した近代戦争である日清・日露戦争と、不平等条約の改正について学習する。また日露戦争への反戦詩を発表した与謝野晶子についても言及する。		
第12回	第五回内国勸業博覧会と通天閣	配付資料と講義で得た知識をもとに、ノートを作成する。またテーマに関わる文献を読んだり、史跡・文化財に触れたりすることにより、知識を深めること。理解のためのキーワード：内国勸業博覧会、新世界ルナパーク、通天閣	4時間
	大阪で開催され、最後にして最大と称された第五回内国勸業博覧会と、閉幕後建設された通天閣について、学習する。		
第13回	大大阪～大阪市長・関一による政策と近代洋風建築～	配付資料と講義で得た知識をもとに、ノートを作成する。またテーマに関わる文献を読んだり、史跡・文化財に触れたりすることにより、知識を深めること。理解のためのキーワード：第二次市域拡張、御堂筋、地下鉄、大阪市中央公会堂、大阪府立中之島図書館	4時間
	第七代大阪市長・関一が進めた都市整備と、大阪が「大大阪」と称された時期に建設された、洋風建築について、学習する。		
第14回	太平洋戦争と大阪大空襲	配付資料と講義で得た知識をもとに、ノートを作成する。またテーマに関わる文献を読んだり、史跡・文化財に触れたりすることにより、知識を深めること。理解のためのキーワード：第1回大阪大空襲、救難列車	4時間
	太平洋戦争では、東京や大阪、名古屋など200を超える都市が空襲で焼き尽くされた。このうち大阪で8度にも及んだ「大阪大空襲」について学習する。		

第15回

日本万国博覧会（大阪万博）

日本万国博覧会（大阪万博）について学習し、大阪府が目指している2025年国際博覧会（万博）誘致について考える。

配付資料と講義で得た知識をもとに、ノートを作成する。またテーマに関わる文献を読んだり、史跡・文化財に触れたりすることにより、知識を深めること。理解のためのキーワード：日本万国博覧会（大阪万博）、国際花と緑の博覧会（花博）、2025年万博誘致

4時間

授業科目名	外国史概説				
担当教員名	東出加奈子				
学年・コース等	1～4年	開講時期	前期／後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

本講義では、外国史ならびに国際関係について、幅広い教養を身に着けます。諸外国の歴史は、地理的境界線や民族、言語、宗教などから独自の文化が形成され、相互の関わりによって展開されてきました。ヨーロッパの歴史を中心にアジアとの関係をふまえて、政治、文化、社会を取り上げながら、古代から現代に至るまでを学びます。歴史的知識を覚えるだけでなく、諸外国との関係に視野を広げながら論じることができるように修得します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

世界史ならびに国際関係の全般的な知識

目標：

今日の国や社会がどのような経緯を経て成立したのか概略を理解する

汎用的な力

- DP4. 課題発見
- DP8. 意思疎通

授業内容を踏まえ、今日の世界情勢を把握するための分析力、ならびに比較史的な視野を会得できる。

世界の歴史を学んだ知識について、自分の言葉で伝えることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- 問答法・コメントを求める
- 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- 実技・実習後、全体に向けてコメントします
- 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

定期試験	60%	： 授業内容の正確な把握、ならびに自らの考えを正確かつ簡潔に表現する能力。
小テスト	20%	： 授業内容とその重要な点の正確な把握。
授業内レポート	20%	： 授業に取り組む姿勢、ならびに内容の理解。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

『詳説世界史研究』山川出版社、2017年。
そのほか関連文献については随時紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習すること。また授業中の私語は慎むこと。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	水曜 4 限
場所：	研究室（西館 2 階）

授業計画

回数	単元名	内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	古代文明①オリентと地中海	古代オリент文明について調べてください 文明の起源から外国史を学びます。オリент文明とギリシャ文明について、気候や地理などの自然環境との関連から独自の文明を築き上げていった過程を理解します。	4時間
第2回	古代文明②アジア	文明の出現から古代文明について調べてください 南アジア、東アジアなどの各地域世界の成立を理解します。	4時間
第3回	イスラーム世界の形成	宗教と歴史の関係について調べてください 世界史において宗教戦争と称される対立が各地で続いてきたことは、宗教が私的な信仰にとどまることなく公的な領域や政治にも及び、人文主義や啓蒙思想が成立していったことを理解します。	4時間
第4回	ヨーロッパ世界の形成と発展	中世ヨーロッパの形成について調べてください 5世紀から16世紀にかけてユーラシアの各地に成立した歴史的世界を理解します。西ヨーロッパと東ヨーロッパの成立について知識を深めます。	4時間
第5回	大交易時代	大交易時代における東インド会社について調べてください	4時間

	15世紀以降に世界が会場交易のネットワークでつながり交易規模が拡大していった大交易時代について知識を深めます。東インド会社が設立され国際商品が取引された流通を理解します。		
第6回	フランス・イギリスの植民地時代 ヨーロッパ各地での工業化が進むなか、その製品市場として植民地が必要となったことを理解します。世界各地への進出のなかで植民地をめぐる具体的な動きを把握します。	ヨーロッパの植民地について調べてください	4時間
第7回	ヨーロッパ近世から近代化へ 近世ヨーロッパにおける重商主義について知識を深めます。国家が経済・社会に介入する経済政策が行われた背景を学びます。	重商主義と啓蒙専制主義を調べてください	4時間
第8回	産業革命 18世紀後半のイギリスに始まった産業革命の概要を整理し、ヨーロッパ列国を比較するとともに、現代社会にも通じる具体例を取り上げつつ、人びとの生活の変化にも着目します。	産業革命の経緯と成果について調べてください	4時間
第9回	アメリカ合衆国の成立と拡大 アメリカ革命によりイギリスからの分離独立を経て、連邦共和国が創出された過程について知識を深めます。	アメリカの成立と南北の発展について調べてください	4時間
第10回	フランス革命とナポレオン 絶対王政によるアンシャン・レジームの封建的特権に対して不満が勃発し、近代市民社会が誕生した経緯を理解します。	フランス革命がもたらした近代社会について調べてください	4時間
第11回	ナショナリズムの発展 ウィーン体制に対して自由主義の高まりの展開を理解します。国民国家の思想のもとヨーロッパの再編と新統一国家の広がりを学びます。	「国民国家」が生まれる背景とそれが残した影響を調べてください	4時間
第12回	ヨーロッパとアジアの変革 18世紀から19世紀にかけてヨーロッパ諸国は経済的にも政治的にも発展していくなか、アジア諸国は崩壊していき国家が変革していくなか、一部の国が植民地となっていった過程を理解します。	ヨーロッパ諸国がアジア進出を展開した時代について調べてください	4時間
第13回	二つの世界大戦 第一次世界大戦から第二次世界大戦までの国境をめぐる小戦争や内戦、民族解放・独立運動を取り上げ、両大戦が与えた衝撃について学びます。	世界大戦について調べてください	4時間
第14回	グローバリゼーション 社会主義の変容と地域協力、地域統合の進展について知識を深めます。EUの成立によるヨーロッパの通貨や統一市場における背景を考えます。	第二次世界大戦後の世界について調べてください	4時間
第15回	まとめ 世界の現状と課題 現代における地域紛争の激化を理解します。内外格差を背景とした地域・宗教戦争や国際テロ活動の多発について考えます。	全体的復習と世界の課題を考えをまとめてください	4時間

授業科目名	地理学概論 I				
担当教員名	金子直樹				
学年・コース等	1～4年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

地理学は地域 (region) や空間 (space)、景観 (landscape)、場所 (place) など規定される対象の特徴および一般性を明らかにするという目的のもと、広範な人文・自然の両科学において研究がなされてきた。本講義では、このうち主にその基本的資料となってきた地図の歴史と特徴、および地図の中で特に精緻な地形図から確認される村落地域と自然環境との関わりや、地域の歴史の変遷などに注目する。各事例を概説しながら、地理学の特徴や視点などを確認していく。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	地理学的視点や考え方	地図資料の読み方や特徴、村落の形態やその立地に関連する地形、地域における歴史的痕跡を理解できる。
汎用的な力		様々な地域や地図について、自分でその地理的特徴を理解することができる。
1 . DP4. 課題発見		

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 振り返り (振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

毎回の講義への意見・感想および小課題 : 内容の妥当性と論理的構成について、独自のルーブリックに基づいて4段階で評価します。
30%

期末試験 : 地図資料の読み方や特徴、村落の形態やその立地に関連する地形、地域における歴史的痕跡等を理解できているかを、定期試験によって判断する。
70%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業中に適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： メールで受付ける
場所： メールで受付ける
備考・注意事項： 質問・問い合わせはメールにて受け付ける。 nk8513@yahoo.co.jp
ただし、学籍番号と氏名を明示すること。

授業計画

回	内容	復習・確認事項	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	ガイダンス：地理学の特徴と教職過程との関連 地理学の概要および授業構成、成績評価などについて説明する。	復習：近代地理学の区分および大阪成蹊大学の教職過程と教育職員免許法等との直接的関連を文部科学省のホームページで確認する。	4時間
第2回	地図の歴史 地理的世界の図化とそれに関連する地理的知識の拡大や理解について理解する。	復習：講義で紹介した絵地図類について、講義中に紹介するデジタル・アーカイブ（国土地理院の古地図コレクションなど）のサイトで各自確認する。	4時間
第3回	地図の政治性 正確性を意図している地図の背後にある政治や軍事との関連について理解する。	復習：講義中に紹介する外国の地図サイトで国境の書き方や使用地名の状況を確認する。	4時間
第4回	地形図の歴史と読み方 地形図作成の歴史とその読図の特徴（縮尺・等高線・記号など）について理解する。	復習：講義中に紹介する地図閲覧サイト（今昔マップ・地理院地図など）で地形図・記号の変遷を確認する。	4時間
第5回	村落の立地と地形と関係1：「水」を必要とする村落 扇状地における村落立地の特徴をから水の有無の重要性を理解する。	復習：講義中に紹介する地図閲覧サイト（今昔マップ・地理院地図など）で講義で取り上げた以外の扇状地を見つけ、村落立地などの特徴を確認する。	4時間

第6回	村落の立地と地形と関係2：「水」を避ける村落 氾濫原における村落立地の特徴から洪水との関係性を理解する。	復習：講義中に紹介する地図閲覧サイト（今昔マップ・地理院地図など）で講義で取り上げた以外の氾濫原を見つけ、村落立地などの特徴を確認する。	4時間
第7回	村落形態の諸相 様々な村落の形態的特徴を確認し、地形との関連や歴史的背景を理解する。	復習：講義中に紹介する地図閲覧サイト（今昔マップ・地理院地図など）で講義で取り上げた以外の地域における村落形態を確認する。	4時間
第8回	散村の特徴と背景1：散村の特徴と気象現象 日本の典型的とされる砺波平野の散村について、その特徴や立地の背景を理解する。	復習：講義中に紹介する地図閲覧サイト（今昔マップ・地理院地図など）で講義で取り上げた以外の散村を見つけ、村落立地や地域の地形図などの特徴を確認する。	4時間
第9回	散村の特徴と背景2：散村立地の起源をめぐって 砺波の散村について、その歴史的背景（加賀藩や集村化）や地形（扇状地）との関連を理解する。	復習：講義中に紹介する地図閲覧サイト（今昔マップ・地理院地図など）や散村の概説本などから講義で取り上げた散村の特徴を確認する。	4時間
第10回	農地に残る古代の開発の痕跡 古代に行われた農地区画整備（条里制）およびその痕跡の特徴を理解する。	復習：講義中に紹介する地図閲覧サイト（今昔マップ・地理院地図など）の特に空中写真から条里制の痕跡を各自で確認する。	4時間
第11回	道路から見る歴史 古代に整備され、その後変容した道路（古代官道とその名残）の特徴や痕跡を理解する。	復習：講義中に紹介する地図閲覧サイト（今昔マップ・地理院地図など）の特に空中写真から各自で古代官道の痕跡を確認する。	4時間
第12回	古代都市の特徴とその痕跡 平城京や平安京などの古代都市（都城）の特徴やその痕跡を理解する。	復習：講義中に紹介する地図閲覧サイト（今昔マップ・地理院地図など）の特に空中写真から各自で古代都市の痕跡を各自で確認する。	4時間
第13回	古代都市の変容とその痕跡 平安京であった京都の変容について、特に豊臣秀吉との関連を理解する。	復習：講義中に紹介する地図閲覧サイト（今昔マップ・地理院地図など）などから秀吉による京都や伏見、大阪などの都市開発の痕跡を各自で確認する。	4時間
第14回	近世城下町の特徴とその痕跡 城郭を中心とする近世都市（城下町）の特徴やその痕跡を理解する。	復習：講義中に紹介する地図閲覧サイト（今昔マップ・地理院地図など）や絵図のデジタルアーカイブから城下町の特徴を各自で確認する。	4時間
第15回	城下町の変容 近現代の開発等による変貌した城下町の特徴を理解する。	復習：講義中に紹介する地図閲覧サイト（今昔マップ・地理院地図など）や絵図のデジタルアーカイブなどから城下町の変容について各自で確認する。	4時間

授業科目名	地理学概論Ⅱ				
担当教員名	金子直樹				
学年・コース等	1～4年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

地理学は地域や空間など規定される対象の特徴および一般性を明らかにするという目的のもと、広範な人文自然の両科学において研究がなされてきた。本講義では、このうち主に都市の構造や機能（その画定・都市化・機能の地区別分化・郊外の開発）、人口と社会の変動（世界・日本の人口推移およびそれともなう種々の問題等）、様々な文化景観（歴史的景観の保全と活用など）への理解などに注目する。各事例を概説しながら、地理学の特徴や視点などを確認していく。

養うべき力と到達目標

確かな専門性 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	具体的内容： 地理学的視点や考え方	目標： 都市の変容や構造、人口の変動による社会へのインパクト、環境や政治経済現象と地域文化の状況を理解できる。
汎用的な力 1 . DP4. 課題発見		都市や地域文化の諸相について、自分でその地理的特徴を理解することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

毎回の講義への意見・感想および小課題 : 内容の妥当性と論理的構成について、独自のルーブリックに基づいて4段階で評価します。
30%

期末試験 : 地図資料の読み方や特徴、村落の形態やその立地に関連する地形、地域における歴史的痕跡等を理解できているかを、定期試験によって判断する。
70%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業中に適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項： 質問・問い合わせはメールにて受け付ける。 nk8513@yahoo. co. jp

授業計画

回	内容	復習・確認事項	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	ガイダンス：地理学の説明と講義の進め方 地理学の概要および授業構成、成績評価などについて説明する。	復習：講義中に紹介・配布する日本の大都市（政令指定都市）の種々の統計データや写真から、その特徴が一律でない実態を各自で確認する。	4時間
第2回	都市の特徴 都市の概念や画定についての様々な基準（人口・人口密度・景観・機能など）を理解する。	復習：講義中に紹介する関連サイト（総務省統計局やグーグルマップなど）から都市の特徴を各自で確認する。	4時間
第3回	都市の発展 都市化による都市域の拡大およびその実像について理解する。	復習：講義中に紹介する関連サイト（地理院地図・今昔マップなど）から都市化の推移を各自で確認する	4時間
第4回	都市の衰退・再生 都市の人口減少や社会経済的衰退およびその再生の実像について理解する。	復習：講義中に紹介する関連サイト（総務省統計局・グーグルマップなど）から都市の衰退・再生の状況を各自で確認する。	4時間
第5回	都市構造の諸相 同心円モデルとセクターモデルなどの大都市の構造モデルについて理解する。	復習：講義中に紹介する関連サイト（グーグルマップなど）で、指示した都市エリアを各自で確認し、都市機能が地区ごとに分化している状況を確認する。	4時間

第6回	都市近郊地域の開発 鉄道の整備と近郊地域の開発について理解する。	復習：講義中に紹介する関連サイト（地理院地図・今昔マップなど）から鉄道と郊外の開発の関連性を確認する。	4時間
第7回	郊外住宅地の誕生 鉄道会社を中心にした住宅地開発について理解する。	復習：講義中に紹介する関連サイト（地理院地図・今昔マップなど）から鉄道整備と北摂地域の開発の関連性を確認する。	4時間
第8回	世界の人口 人口の世界的分布と歴史的推移、および関連する問題について理解する。	復習：講義中に紹介する関連サイト（総務省統計局：世界の人口）から世界人口の推移を各自で確認する	4時間
第9回	日本の人口 日本の人口推移、およびそれに関連する地域の変容について理解する。	復習：講義中に紹介する関連サイト（総務省統計局）から日本の人口の推移を各自で確認する。	4時間
第10回	人口と都市問題 都市への人口移動、およびそれに関連する都市問題について理解する。	復習：講義中に紹介する都市問題の具体的状況を関連サイト（グーグルマップなど）から各自で確認する。	4時間
第11回	文化景観と地域 文化景観には自然環境および政治社会経済的背景が複雑に関係していることを理解する。	復習：講義中に紹介する関連サイト（グーグルマップなど）から	4時間
第12回	歴史的景観の保存と活用 古い町並みや集落が保存され、それらが観光化していることを理解する。	復習：講義中に紹介する関連サイト（グーグルマップなど）から関連する町並み・集落の様子を具体的に確認する。	4時間
第13回	農村および周辺地域の保存と活用 棚田や里山などの景観が注目され、その維持と活用が図られていること理解する。	復習：講義中に紹介する関連サイト（グーグルマップなど）から関連する棚田の様子を具体的に確認する。	4時間
第14回	文化景観に関する社会的背景 1960～70年代における景観をめぐる動向（古都法やディスカバージャパンなど）について理解する。	復習：講義中に紹介するディスカバージャパンキャンペーンにかんする小論を各自で熟読する。	4時間
第15回	サブカルチャーと景観 サブカルチャーが現代の景観に与える影響（形成や意味付け）について理解する。	復習：講義中に紹介する関連サイト（グーグルマップなど）から秋葉原などの状況を各自で確認する。	4時間

授業科目名	生命と科学				
担当教員名	伴みずほ				
学年・コース等	1～4年	開講時期	前期/後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

DNAが発見されてきてから半世紀がたち、生命科学はさまざまなことを明らかにしてきました。また、生命科学の応用技術は、社会から大きな期待が寄せられています。遺伝子による差別や遺伝子操作の危険性など、新たに生まれる問題も指摘されています。この授業では、教科書に沿って各テーマ毎に、生命科学が明らかにしてきたこと、まだわからないこと、そして応用技術など、生命科学が生み出す倫理の問題とも関連させながら学びます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1. 幅広い教養やスキル	幅広い教養・品格	生命科学の技術について必要な情報を、収集・整理し、テーマに合わせ簡潔に説明することができる。
2．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	専門的な力	生命科学の技術について簡潔に要点をまとめ、伝えることができる。
汎用的な力		
1．DP8. 意思疎通		生命倫理の問題に関して、グループ内で相手の考えを確認しながら、学びあい、対話を進めることができる。
2．DP10. 忠恕の心		生命倫理についてのさまざまな問題点から自分に置き換え考えることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。
規定回数以上の出席が無ければ放棄とみなし成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

課題レポート	40%	： 内容の妥当性と論理的構成について生命倫理に関する課題を理解し適切にまとめられているか、課題や問題点を自分に置き換え考えることができているか、指示された文字数を満たしているかの点から3段階で評価します。
授業内小テスト	20%	： 授業で学んだキーワード等の理解度を評価します。（ワークシートおよびサイマスを使用）
期末テスト	40%	： 生命がどのように維持されているか、しくみの理解度を評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
鈴木孝仁 監修	・ フォトサイエンス 生物図録	・ 数研出版	・ 2018年

参考文献等

- 【参考資料】
必要に応じて授業内で紹介します。
- 【参考図書】
畑山智充、小田達編著、はじめて学ぶ生命科学の基礎、化学同人

履修上の注意・備考・メッセージ

- ・本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。
- ・レポートは教科書をよく読み内容を引用し、授業中に提示した事例について自分の考えを述べてください。レポート提出はHDの共有フォルダを使用するためログインが出来るよう準備しておいてください。
- ・生命科学が生み出す問題に関連する映画やドラマを積極的に鑑賞しておくことで、色々な考え方を知る機会を増やすようにしてください。
- ・授業の内容や順番を変更する場合があります。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	水曜4時間目
場所：	研究室（西館2階）
備考・注意事項：	質問は授業の前後も応じますが、メール（ban-m@osaka-seikei.ac.jp）でも対応します。 <タイトルには必ず氏名、学籍番号、コース名、学部名を記入>

授業計画

回	単元名	内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	生命の特徴	生物と非生物の違いを箇条書きでまとめておく	4時間
		生命を持つものと生命を持たないものが何によって区別されるかを学ぶ	
第2回	生命の単位	ミトコンドリアの働きについて調べる	4時間
		生命の基本となる細胞の構造と働きについて学ぶ	
第3回	ヒトをかたちづくる細胞	運動時の信号の伝わり方について調べる	4時間

	細胞の種類と、各種の細胞にはどのような形態的・機能的特徴があるのかを学ぶ		
第4回	生命を構成する成分 食品を構成する成分とヒトを構成する細胞の成分との違いを学ぶ	食品を構成する成分に期待する体内での働きについて調べる	4時間
第5回	生命を維持するはたらき①<成分> 生命を維持するための材料について学ぶ	ミトコンドリアの中で利用される材料について調べる	4時間
第6回	生命を維持するはたらき②<代謝> 生命を維持するために細胞の中で行われている合成と分解について学ぶ	ミトコンドリアの中で利用される材料について調べどのように異化されるのかを調べる	4時間
第7回	生命を維持するはたらき③<代謝異常> 合成と分解のバランスが崩れた場合に起こりうる病気について学ぶ	合成と分解のバランスが崩れた場合に起こりうる病気を1つ選び調べる	4時間
第8回	生命の連続性①<遺伝> 遺伝の決まりについて学ぶ	エンドウマメの遺伝例の復習を行う	4時間
第9回	生命の連続性②<特異性> DNAの構造と遺伝情報の記載のされ方について学ぶ	DNAの構造と遺伝情報の記載のされ方について復習する	4時間
第10回	生命の連続性③<変異> 遺伝情報のながれについて理解し、遺伝子の異常により引き起こされる（遺伝性）疾患について学ぶ	遺伝情報のながれ、特に遺伝子からタンパク質の生成までの過程を調べる	4時間
第11回	生命の連続性④<生殖> 着床前診断の方法や目的を復習し、現状ならびに今後の法的・倫理的問題点について考える	着床前診断の方法についてインターネットで検索し最新の方法を調べる	4時間
第12回	生命の連続性⑤<移植> 細胞工学、遺伝子工学、ES細胞およびiPS細胞の用語と意味を理解し、これらを用いて現在どのようなことが行われているのかを理解する	iPS細胞に関する最近のニュースのネット検索しておく	4時間
第13回	生命を守るはたらき①<機序> 体内の内部環境を一定に保つ仕組みにどのようなしくみがあるのか学ぶ	運動時における体温上昇の抑えられ方を調べる	4時間
第14回	生命を守るはたらき②<免疫> 疫病（病気）を免れるしくみを免疫という。風邪（異物侵入）を例に私たちのからだの防御システムについて学ぶ	免疫が後天的に低下する病気について調べる	4時間
第15回	生命を守るはたらき③<免疫反応> からだの防御システムが過剰に働くことでおこる食物アレルギーについて学ぶ	小学校の給食現場で起こりうる食物アレルギー関連事故についてネット検索しておく	4時間

授業科目名	地球環境問題／環境と科学				
担当教員名	伊与田昌慶・武蔵野實				
学年・コース等	1～4年	開講時期	前期・後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	伊与田昌慶：2011年より気候変動・エネルギー政策の調査研究・政策提言等の業務に従事。2007年より、国連気候変動枠組条約締約国会議（COP）にオブザーバーとして参加。2011年のCOP17、2018年のCOP24には、日本政府代表団メンバーとして国際会議に参加。（13回担当）				

授業概要

現在、気候変動、生物多様性の減少、オゾン層の劣化、大気汚染、化学物質汚染といった地球環境問題が発生している。政府、企業、メディア、市民社会・NGOといった様々な主体が対策をとり、前進したものもあるが、いまだ解決は遠い。この講義では、気候変動（地球温暖化）を中心に、地球環境問題の原因と影響、対策と課題について学ぶ。しかし、知識の習得のみをめざすものではない。複雑な地球環境問題について、自ら信頼できる情報を集め、読み解き、議論するスキルを高めることをめざすものである。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1. 幅広い教養やスキル		地球環境問題の最新動向やニュースを理解するための基礎知識とリテラシーを身につける
汎用的な力		授業内のディスカッションを通じて、論理的かつ説得的にコミュニケーションを行う技術を高める
1．DP8. 意思疎通		地球環境問題の被害を受けた人々の立場を慮る倫理観を養う
2．DP10. 忠恕の心		

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として講義には毎回出席すること。10回以上の出席がなければ成績評価を「不可」とします。出席回数は振り返りシートで記録します。

<試験（小レポート）の評価基準>

課題を的確に理解した上で書かれているか、質量ともに必要十分な参考文献・データを適切に参照したか、論理的に記述したかどうかを評価する（小レポートのテーマや期限については授業内でアナウンスする）。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

試験（小レポート）	50%	： 上記 注意事項等欄に記載する。
定期試験	50%	： 出題された問いを的確に理解し、講義で紹介した基礎知識を踏まえた上で、論理的に回答したかどうかを評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

・井田徹治（2012）『環境負債 次世代にこれ以上ツケを回さないために』ちくまプリマー新書
一長年にわたって地球環境問題取材した新聞記者が、地球環境問題のメカニズムや現状、対策と課題をわかりやすくまとめています。定期試験までに一読することをおすすめします。

その他、各回のテーマに関連する文献を授業内で紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

- ・本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
- ・地球環境問題に関する新聞・ニュース記事を日々読むこと。特に、英語のニュースを読む習慣をつけることを推奨する。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項： 授業内で案内するメールアドレス宛に質問を送ってください。基本的に、回答は授業時間中に行う予定です。

授業計画

回数	授業内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	イントロダクション：地球環境問題 現代社会において重要性を増している地球環境問題を概観するとともに、現在世代と将来世代の公平性について考える。また、地球環境問題と、マネジメント、教育、芸術との関わりについて考える。 <キーワード：地球環境問題、世代間公平性、環境マネジメント、環境教育、環境芸術>	4時間
第2回	地球環境問題への国際的対応 ・授業前に、地球環境問題に関する新聞記事をひとつ選んで読んでおき、自分の言葉で説明できるようにしておくこと。・講義内容を復習すること。	4時間

	地球環境問題が、国際社会で取り上げられるようになった歴史を振り返る。現代の世界における地球環境問題の意味について考える。 <キーワード: 国連人間環境会議、国連環境開発会議、持続可能な開発、NGO、SDGs>	
第3回	気候変動と科学 現代社会において、最も重要な地球環境問題のひとつとされる気候変動（地球温暖化）について、これまでに科学者がとりまとめた研究成果を紹介する。さらに、それを社会がどのように受け止めるべきかを考える。 <キーワード: 気候変動、科学、IPCC、温室効果ガス>	・授業前に、環境省がIPCCを紹介したウェブページを一読のこと。 URL: http://www.env.go.jp/earth/ondanka/ipccinfo/ ・講義内容を復習すること。
第4回	気候変動と国際交渉① 気候変動枠組条約と京都議定書 気候変動問題に対して国際社会がどのように対応してきたか、国連の条約交渉の過程を中心に振り返るとともに、重要な国際条約である京都議定書の意義と課題について考える。国連会議の現場の雰囲気も紹介する。 <キーワード: 気候変動枠組条約、京都議定書、共通だが差異ある責任>	・授業前に、京都議定書の内容について予習すること。・講義内容を復習すること。
第5回	気候変動と国際交渉② 2013年以降の枠組み交渉とパリ協定 気候変動問題に対して国際社会がどのように対応してきたか、国連の条約交渉の過程を振り返るとともに、重要な国際条約であるパリ協定の意義と課題について論じる。パリ協定に合意した国連会議（COP21）の現場の雰囲気も紹介する。 <キーワード: パリ協定、1.5℃目標、排出ギャップ>	・授業前に、パリ協定の内容について予習しておくこと。・講義内容を復習すること。
第6回	気候変動と脱炭素経済 気候変動の主原因である化石燃料に依存しない「脱炭素経済」をめざして、再生可能エネルギー100%をめざす宣言をする国、自治体、企業などが相次いでいる。このトレンドについて紹介するとともに、「脱炭素」が今後の経済・産業に与える影響について考える。 <キーワード: 脱炭素、座礁資産、ダイベストメント、ジャスト・トランジション>	・授業前に、CO2排出削減に取り組む企業の実例について調べ、自ら説明できるように準備しておくこと。・講義内容を復習すること。
第7回	気候変動とエネルギー問題 気候変動と密接に関係するエネルギー問題について紹介し、今後の望ましいエネルギー利用のあり方を考える。 <キーワード: 化石燃料、原子力、省エネルギー、再生可能エネルギー>	・授業前に、化石燃料、原子力、省エネルギー、再生可能エネルギーのそれぞれのメリットとデメリットについて調べ、自ら説明できるように準備しておくこと。・講義内容を復習すること。
第8回	気候変動と政策 国及び自治体の気候変動政策について概観し、今後の望ましい政策のあり方を考える。 <キーワード: 緩和、適応、地球温暖化対策計画、温室効果ガス排出削減目標、カーボン・プライシング、自主的取組>	・授業前に、日本政府の気候変動政策について調べ、対策が十分か、不十分かについて意見をもっておくこと。その理由も説明できるようにしておくこと。・講義内容を復習すること。
第9回	自然現象としての環境問題① 巨大地震（武蔵野担当） 地震の起こるメカニズムについて理解し、近畿地方に多大な被害を与える可能性のある「南海トラフ巨大地震」について考える。 <キーワード: 地震断層、プレート境界型地震、都市直下型（内陸）地震、東北地方太平洋沖地震、熊本地震>	・授業前に、日本付近の巨大地震の発生確率について調べておくこと・講義内容を復習すること。
第10回	自然現象としての環境問題② 巨大噴火（武蔵野担当） 日本列島に将来発生する破局噴火について過去の事例を知り、破局噴火への備えをどうすればよいかを考える。 <キーワード: マグマの生成、島弧の火山活動、火山爆発指数（VEI）、カルデラ噴火>	・授業前に、日本列島のカルデラの分布について調べておくこと・講義内容を復習すること。
第11回	地球環境問題とG20大阪サミット 2019年6月開催のG20大阪サミットでの地球環境問題の議論や結果を振り返り、今後の地球環境問題の課題を考える。 <キーワード: G20サミット、政策提言、政策評価、プラスチック>	・授業前に、G20大阪サミットでの地球環境問題に関する議論や結果を、ニュースや外務省のウェブサイトなどから調べておく、自ら説明できるようになっておく。・講義内容を復習すること。
第12回	オゾン層の破壊 オゾン層の破壊の問題のメカニズム、影響と、これに対する国際社会の対応、日本における対策状況について紹介した上で、日本の今後の課題について考える。 <キーワード: フロン、オゾン、ウィーン条約、モントリオール議定書、キガリ改正>	・授業前に、オゾン層の破壊について調べ、自ら説明できるように準備しておくこと。・講義内容を復習すること。
第13回	生物多様性の減少 種の多様性、遺伝子の多様性、生態系の多様性を含む生物多様性をめぐる問題と、これに対する国際的な対応状況を紹介し、今後の課題を考える。 <キーワード: レッドリスト、生態系サービス、生物多様性条約、名古屋議定書、愛知目標>	・授業前に、生物多様性の保全に取り組む企業の実例について調べ、自ら説明できるように準備しておくこと。・講義内容を復習すること。
第14回	地球環境問題と公害① 四大公害が問いかけるもの 日本の高度経済成長期に発生した四大公害の歴史を振り返るとともに、現代の地球環境問題への教訓を考える。 <キーワード: 四大公害、公害裁判、公害対策基本法、調和条項>	・授業前に、四大公害について調べ、自ら説明できるように準備しておくこと。・講義内容を復習すること。
第15回	地球環境問題と公害② 大阪の大気汚染公害と現在 日本の高度経済成長期に大阪で発生した大気汚染公害の歴史を振り返るとともに、現代の地球環境問題への教訓を考える。 <キーワード: 西淀川公害、環境再生>	・授業前に、西淀川の大気汚染公害について調べ、自ら説明できるように準備しておくこと。・講義内容を復習すること。

授業科目名	現代と科学／現代科学論				
担当教員名	本田隆行				
学年・コース等	1～4年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

(田中) 心理学が科学であるためには、様々な手法でデータをとる必要があります。古典的な実験研究から最新の脳イメージング研究まで、心理学の重要なテーマの一つである記憶を中心テーマに紹介します。(武蔵野) 私たちの住む大地・地球の成り立ちと46年にわたる変化を概観し、火山活動や地震活動などの日本列島に起こる自然災害の原因や対応について考えます。(小路) 直接触ったり実験したりすることが困難な宇宙について、現代科学はどのように知見を得ているのか。最近の天文現象やイベントも紹介します

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

現代の生命科学・地球科学・宇宙科学のトピックス

目標：

知識基盤社会における現代科学の素養を身に着ける

汎用的な力

- DP4. 課題発見

現代科学と社会との関わりの課題を見出す

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合

課題レポート 期末レポート

評価の基準

： 課題に対して適切な調べ学習がされており、的確で明瞭なレポートが書かれていること。

60%

授業中の発言や態度

： 授業マナーを守っているか。応答を求められた場合や、討議において発言しているか。

10%

シャトルシートへの記載内容

： 講義に対して、興味関心を持ち、自分や身の回りの環境とのかかわりで豊かな発想を示しているか。

30%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業内で紹介する

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。なお、本授業は現代科学の現状に触れるものであるため、新聞やテレビなどでの現代科学のトピックスを扱った記事やドキュメンタリー番組に関心を持ち学びを深めること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業後

場所： 授業の教室

備考・注意事項： (田中・小路) 講義後に直接質問するほか、レポートに質問を記入してくれば、次回以降の講義で適宜回答します。(武蔵野) 講義後に直接質問するほか、シャトルシートに質問を記入してくれば、次回以降の講義で適宜回答します。

授業計画

回	内容	授業内のレジュメや紹介する書籍・ホームページなどを参考にすることで、授業内容の理解を深めます。	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	心理学とは何か？—心のはかり方— (田中) 心理学において「心をどのように測定するか」「なぜ測定する必要があるのか」について解説します。	授業内のレジュメや紹介する書籍・ホームページなどを参考にすることで、授業内容の理解を深めます。	4時間
第2回	記憶の仕組み—古典的実験を通じて— (田中) 皆さんの記憶力がどのような実験を通じて測定されるのかについて解説します。	授業内のレジュメや紹介する書籍・ホームページなどを参考にすることで、授業内容の理解を深めます。	4時間
第3回	脳を調べる—記憶と脳のかかわり— (田中) 人間の記憶が脳の中でどのように働いているのか、脳損傷患者の実例を通じて解説します。	授業内のレジュメや紹介する書籍・ホームページなどを参考にすることで、授業内容の理解を深めます。	4時間
第4回	脳を調べる—心と脳のかかわり2— (田中) 記憶に関する脳イメージング研究に加え、様々な心理学的トピックを脳科学の観点から紹介します。	授業内のレジュメや紹介する書籍・ホームページなどを参考にすることで、授業内容の理解を深めます。	4時間

第5回	大地の成り立ちを知る1 太陽系と地球の形成（武蔵野） 星間ガスから星の形成について 原始太陽系星雲から惑星の形成について 海洋の誕生と地球大気の変化	レジュメの振り返りを行い、課題について調べレポートを作成する	4時間
第6回	大地の成り立ちを知る2 地球史事件（武蔵野） 地球史の中で起きた事件と地球の環境変化 生物絶滅事件の原因	レジュメの振り返りを行い、課題について調べレポートを作成する	4時間
第7回	プレート境界の地震（武蔵野） 地震と津波の原因について 東日本太平洋沖地震から熊本地震へ 南海トラフ地震に備える	レジュメの振り返りを行い、日本列島の地震活動について意見をまとめレポートを作成する	4時間
第8回	火山活動と災害（武蔵野） マグマの発生と噴火 について 日本列島の火山災害・破局噴火	レジュメの振り返りを行い、破局噴火への備えをどうすればよいかレポートにまとめる	4時間
第9回	宇宙の名前—天体の種類（小路） 今後の講義の前提知識として、天体にはどんなものがあるのかを確認します。	紹介する参考サイトで、学んだ内容の理解を深め、広げる	4時間
第10回	もっと光を—望遠鏡の役割（小路） 世界各地に建設される巨大望遠鏡。色と光について学び、望遠鏡の仕組みと役割を解説します。	紹介する参考サイトで、学んだ内容の理解を深め、広げる	4時間
第11回	重力が決める運命—星の一生とブラックホール（小路） 重力について学び、それが星の一生をどのように決めるのかを見ていきます。また、ブラックホールは実在するのか、どのようにできるのかを解説します。	紹介する参考サイトで、学んだ内容の理解を深め、広げる	4時間
第12回	宇宙の始まりと果て—現代宇宙論（小路） 宇宙はどのようにして始まったのか。今後はどうなるのか。現在どこまで分かっているのかを学びます。	紹介する参考サイトで、学んだ内容の理解を深め、広げる	4時間
第13回	計算機の中の宇宙—シミュレーションの世界（小路） 実験の代わりとして使われるコンピュータシミュレーション。その仕組みと事例、限界を学びます。	紹介する参考サイトで、学んだ内容の理解を深め、広げる	4時間
第14回	やっぱり本物を見たい—探査機の挑戦（小路） 太陽系内の天体については、実際に近くから観察することで多くの情報を得ることができます。これまでの主な成果を紹介しします。	紹介する参考サイトで、学んだ内容の理解を深め、広げる	4時間
第15回	宇宙人はいるか—SETIの現状（小路） 地球以外に生物は、特に知的生命体は存在するのか。その答を求める取り組みを紹介しします。	紹介する参考サイトで、学んだ内容の理解を深め、広げる	4時間

授業科目名	大阪の風土と文化				
担当教員名	彦坂真一郎				
学年・コース等	1～4年	開講時期	前期/後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

伝統芸能である「落語」を教材に、滑稽なストーリーの底流にある大阪の歴史や文化の実相を探究する。落語に登場する地名や人名、出来事は、歴史的な事実を踏まえた内容を含んでおり、それらのゆかりの場所を訪ねた記録を基に解説することで、大阪の歴史に親しむ。具体的には、長屋の暮らしを描いた演目からみた「庶民」の生活と、「身分社会」の実相や、米相場をはじめとした大阪の経済発展史、大和川や淀川の付け替えによる治水の記録などに関連付けて解説し、多角的に大阪の文化をとらえる。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- DP1. 幅広い教養やスキル

汎用的な力

- DP10. 忠恕の心

具体的内容：

伝統芸能の中に織り込まれた大阪の文化、歴史の諸相を読み解き、「笑い」の文化が多角的な教養に支えられていることを理解する。

目標：

日常的に接する「街並み」の中に埋もれた歴史エピソードに気づき、大阪の歴史、文化を理解する。

一人で何役も演じ分ける落語を聴き、理解、追体験することで、様々な立場を理解できる人間性を養う。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- 問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

- 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

各回の授業の小レポート	60%	： 毎回の授業の終了時に、小レポートを提出する。授業内容を理解できているか、そこに独自の見方や意見が示されているか、記された内容に不足や誤りがないかどうかについて4点/1回×15回で評価する。
定期試験 学期末のレポート提出	40%	： 歴史上のエピソードや伝承を採集し、自身の解釈を加えて報告する。手法は参考文献のやインターネット資料の引用、現地訪問、インタビューなど手法は自由だが、必ず出典を示すこと。内容の独自性を評価基準とする。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
狐狸窟彦兵衛	笑福亭純瓶と行く 上方噺三十六景 落語散策そぞろ歩き	レベール	2018年

参考文献等

桂米朝著 米朝ばなし 上方落語地図 (講談社文庫) 2002年
 本渡章著 大阪名所むかし案内 絵とき「摂津名所図会」(創元社) 2006年、大阪古地図むかし案内:読み解き大坂大絵図 (創元社) 2010年、続・大阪古地図むかし案内一明治～昭和初期編 (創元社) 2011年、続々・大阪古地図むかし案内:戦中・昭和中期編 (創元社) 2013年
 牧村史陽編 大阪ことば事典 (講談社学術文庫) 1987年
 丸田勲著 江戸の卵は1個400円! モノの値段で知る江戸の暮らし (光文社新書) 2011年
 三谷一馬著 江戸商売図会 (中公文庫) 2008年
 宮本又次著 人物叢書 鴻池善右衛門 (吉川弘文館) 1995年
 藪田貫著 武士の町 大坂 (中公新書) 2010年
 吉村智博著 かくれスポット大阪 (解放出版) 2013年、続かくれスポット大阪 (解放出版) 2015年
 他、教科書の巻末参考文献を参照のこと

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。その回の授業の内容を復習しておくこと。伝統芸能の中に息づく人々の歴史に注目して、「物語」を通じて「史実」に近づこうとする内容を目指す。授業外でも、身の回り存在する伝承地や記念碑、名所解説などに注目して、これまで見逃してきた「歴史の現場」に気付くよう心掛けてほしい。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

- 時間： 授業の前後 メールでも受け付ける。
 場所： 授業の教室
 備考・注意事項： 質問は、授業の前後に答える。メールアドレスは、最初の講義で明示する。

授業計画

第1回	「時うどん」江戸時代の時間とお金について	授業を復習する。滑稽話の中に含まれる史実を読み解き、経済や生活の変遷を理解する。	授業外学修課題にかかる目安の時間
	授業ガイダンスで、なぜ落語を教材とするかを説明し、古典芸能の「笑い」と「歴史」の関係を解説する。その後「時うどん」の映像を視聴し、江戸時代の時間や貨幣価値について説明する。		4時間

第2回	<p>「米揚げ箆（いかき）」世界に先駆けて開設された米先物市場</p> <p>落語映像「米揚げ箆」を視聴し、登場する「相場師」とは何かを解説。大阪に世界に先駆けて近代的な先物市場が開設された歴史について説明する。</p>	授業を復習する。滑稽話の中に含まれる史実を読み解き、経済や生活の変遷を理解する。大阪が「天下の台所」と言われたのはなぜかなどを考察する。	4時間
第3回	<p>「住吉駕籠」住吉大社は古代の国際港</p> <p>落語映像「住吉駕籠」を視聴し、遣隋使、遣唐使の出港地ともなった古代の国際港「すみのえ」の地の地理的、歴史的意味を解説。古代の大阪の地形などについて言及する。</p>	授業を復習する。滑稽話の中に含まれる史実を読み解き、経済や生活の変遷を理解する。	4時間
第4回	<p>「へっつい幽霊」庶民の暮らしを考える</p> <p>落語映像「へっつい幽霊」を視聴、長屋の構造や身分社会について解説する。「貧乏長屋」と「豪商」「家主（いえぬし）」など落語主人公たちの人間関係を解明する。さらに江戸時代の社会がリサイクル社会であったことなど庶民の暮らしのあり方を考察する。</p>	授業を復習する。滑稽話の中に含まれる史実を読み解き、経済や生活の変遷を理解する。	4時間
第5回	<p>「野崎詣り」水郷地帯だった河内の歴史と風土</p> <p>落語映像「野崎詣り」を視聴し、かつて大和川が生駒山西麓を北上し、水郷地帯を形成していた歴史を振り返り、新田開発などによって干拓され、街づくりが行われた歴史を考える。また「お染久松の悲恋」の演劇化した「新版歌祭文」に触れ、と江戸時代の情報媒体「歌祭文」と演劇の関係を紹介する。</p>	授業を復習する。滑稽話の中に含まれる史実を読み解き、経済や生活の変遷を理解する。	4時間
第6回	<p>「鴻池の犬」豪商は如何に形成されたか</p> <p>落語「鴻池の犬」を聞き、戦国時代から江戸時代に続く豪商の形成史を理解し、鴻池新田など河内地方の干拓と新田開発に取り組んだ足跡を考察する。大阪市中央区の今橋通は「豪商」が軒を連ねた「長者通り」として知られる。大阪に富が蓄積された経緯を考察する。</p>	授業を復習する。滑稽話の中に含まれる史実を読み解き、経済や生活の変遷を理解する。大阪が「天下の台所」と言われたのはなぜかなどを考察する。	4時間
第7回	<p>「いらち俵」大大阪時代とは何か</p> <p>落語映像「いらち俵」を視聴し、「人力車」の活躍した時代の大阪の近代化を読み解く。人力車、路面電車、巡航船など近代の交通機関の変遷を追いながら、「大大阪時代」と呼ばれた大阪の市域拡大と町の変遷を考える。</p>	授業を復習する。滑稽話の中に含まれる史実を読み解き、経済や生活の変遷を理解する。大大阪と呼ばれ、躍進した「大阪」の姿を理解する。	4時間
第8回	<p>「代書屋」近代の庶民の暮らし</p> <p>落語映像「代書屋」を視聴し、明治から昭和初期の庶民の生活を垣間見る。落語家が実際に経験した光景を落語にした作品で、その歴史的背景などを解説する。</p>	授業を復習する。滑稽話の中に含まれる史実を読み解き、経済や生活の変遷を理解する。	4時間
第9回	<p>「天王寺詣り」崇仏論争にさかのぼる四天王寺の歴史</p> <p>落語映像「天王寺詣り」を視聴し、ストーリーに沿って伽藍配置などを解説。創建の由来、浄土信仰とのかかわりなどを解説する。四天王寺の本来の正門は南大門だが、浄土思想の伸展にともない西門（さいもん）が重要な意味を持つようになる。夕日礼拝の聖地としての上町台地の地理的、歴史的意味を検討する。</p>	授業を復習する。滑稽話の中に含まれる史実を読み解き、経済や生活の変遷を理解する。古代にさかのぼる大阪の歴史や文化を考える。	4時間
第10回	<p>「あみだ池」難波の堀江の物語</p> <p>落語映像「あみだ池」を視聴し、善光寺の縁起にある伝承の地「難波の堀江」と、和光寺の「あみだ池」の関係を解説する。仏教伝来の古代史にさかのぼる伝承と史実の違いなどを考察する。また大阪市西部の埋め立てと市街地形成などの推移を検討する。</p>	授業を復習する。滑稽話の中に含まれる史実を読み解き、経済や生活の変遷を理解する。大阪の街の形成史を考察する。	4時間
第11回	<p>「まめだ」芝居の町、道頓堀</p> <p>落語映像「まめだ」を視聴し、芝居の町道頓堀の形成史を考える。成安道頓による道頓堀開削と、大坂の陣の後の徳川氏による大阪復興の歴史を振り返る。文楽や歌舞伎など演劇、芸能の発信地だった道頓堀の変遷を考察して、「大阪文化」「上方文化」とは何かを考える。</p>	授業を復習する。滑稽話の中に含まれる史実を読み解き、経済や生活の変遷を理解する。庶民文化、娯楽の変遷を理解する。	4時間
第12回	<p>「佐々木裁き」奉行所はどこにあったか</p> <p>落語映像「佐々木裁き」を視聴し、江戸時代の行政、司法の長だった町奉行の役割や、商人の町大阪における「侍」の姿を考察する。</p>	授業を復習する。滑稽話の中に含まれる史実を読み解き、経済や生活の変遷を理解する。	4時間
第13回	<p>「初天神」天神信仰と菅原道真の足跡</p> <p>落語映像「初天神」を視聴し、菅原道真の足跡と「天神信仰」について解説する。もと難波宮の守護神だった「大將軍社」の存在に触れ、「神社」の信仰の意味の変遷をたどる。また、庶民に開放されていた「城の馬場」について解説する。</p>	授業を復習する。滑稽話の中に含まれる史実を読み解き、経済や生活の変遷を理解する。	4時間
第14回	<p>「天神山」葛葉伝説と人形浄瑠璃を取り入れた笑いの世界</p> <p>落語映像「天神山」を視聴する。幽霊や狐が活躍する荒唐無稽な話だが、人形浄瑠璃にもなった「葛葉伝説」が下敷きになっている。パロディが形成される文化的な背景などについて解説する。また舞台の一心寺、安居神社が大坂の陣の古戦場としてさまざまな伝承があることを解説する。</p>	授業を復習する。滑稽話の中に含まれる史実を読み解き、経済や生活の変遷を理解する。	4時間
第15回	<p>「池田の猪買い」大阪から池田は「旅」だった</p> <p>落語「池田の猪買い」を聴き、能勢街道を往来した文物を検討する。古代から近現代にかけての淀川の風景の変遷や古代における大陸からの文化伝承などを考察する。</p>	授業を復習する。滑稽話の中に含まれる史実を読み解き、経済や生活の変遷を理解する。	4時間

授業科目名	京都の文化と芸術				
担当教員名	原山詠子				
学年・コース等	1～4年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	美術館学芸員として勤務。日本美術史を専門とし、展覧会の企画や研究、作品の管理を担当。（全15回）				

授業概要

京都は千年の歴史がはぐくんだ様々な文化遺産を有する都市です。京都の文化遺産の伝統と創造のありようを再確認し、現代に残された文化や芸術を知ること目指します。美術、宗教、文学などの諸分野、それらが複合的に見られる場としての社寺や美術館などについて、毎回テーマを定めて講義を進めます。対象に直接ふれる機会として、授業で取り上げる複数の社寺・美術館のうちの一つの見学を課題（指定された見学先の中から一つを自分で選び、各自で見学、レポートを提出）とします。

養うべき力と到達目標

確かな専門性 1 . DP1. 幅広い教養やスキル	具体的内容： 京都と深くかかわる伝統文化、諸芸術などについて基礎知識を習得し、それらを楽しむヒントを得る。	目標： 京都についてより親しみと理解を深め、基礎的な事項が説明できるようになる。
汎用的な力 1 . DP6. 行動・実践		授業内容を踏まえて自身で見学を行い、それを通じた学習をレポートにまとめる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。指定された京都府内の社寺・美術館を見学し、期末レポートを提出すること。提出がなかった場合は放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

成績評価の方法・評価の割合

各回の授業の小レポート

評価の基準

： 毎回の授業で小レポートを提出。講義内容の理解、関心、記入内容に誤りがないかどうかなどについて、4点満点×15回で評価します。

60%

期末レポート

： 指定された見学先の中から一つを選び、各自見学を行ってレポートを作成。講義の内容を理解し、見学の実践によって得た知見が反映されているかを評価します。

40%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。講義では、多くの文化財や作品、資料を紹介し、より深い理解と知識獲得のために、配布資料や講義で紹介した参考文献などを適宜利用し、最終課題である期末レポートにおいて、その復習の成果を反映できるように努めてください。また、日頃から関連ニュースに注目したり展覧会に出かけるなど、積極的に文化財に親しむよう心がけてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業の教室

備考・注意事項： 授業の前後に受け付ける。また授業時に配布するシートに質問を記入することもできる。（翌週に回答）

授業計画

回	授業の目標、すすめ方	復習として、配布資料を基に京都の文化と芸術を学ぶ目標と意義について整理しておく。予習として、次回講義テーマである源氏物語と平安貴族についてネットなどで調べ、自分なりのイメージを持っておく。	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	[ガイダンス]授業の目標、すすめ方 シラバスの確認と授業の方針について／京都の文化と芸術を学ぶ目標と意義		4時間
第2回	[古代]源氏物語と平安貴族 源氏物語とは／平安時代の貴族と京都の文化、芸術	復習として、配布資料を基に源氏物語と平安貴族について整理し、適宜参考文献も閲覧しながら知識を深める。予習として、次回講義テーマである京都の年中行事と祭礼についてネットなどで調べ、自分なりのイメージを持っておく。	4時間
第3回	[中世～現代]京都の年中行事と祭礼 季節や生活、まちに根差した京都の年中行事について／京都の三代祭	復習として、配布資料を基に京都の年中行事と祭礼について整理し、適宜参考文献も閲覧しながら知識を深める。予習として、次回講義テーマである平等院鳳凰堂と阿弥陀信仰についてネットなどで調べ、自分なりのイメージを持っておく。	4時間

第4回	[中世] 平等院鳳凰堂と阿弥陀信仰	復習として、配布資料を基に平等院鳳凰堂と阿弥陀信仰について整理し、適宜参考文献も閲覧しながら知識を深める。平等院は見学先の対象であるので、学期末のレポート課題とすかどうかを選定する。予習として、次回講義テーマである三十三間堂と仏像の基礎知識についてネットなどで調べ、自分なりのイメージを持っておく。	4時間
	☆平等院（見学対象の一つ）を当時の仏教思想との関わりから見る		
第5回	[中世～近世] 三十三間堂と仏像の基礎知識	復習として、配布資料を基に三十三間堂と仏像の基礎知識について整理し、適宜参考文献も閲覧しながら知識を深める。三十三間堂は見学先の対象であるので、学期末のレポート課題とすかどうかを選定する。予習として、次回講義テーマである五山文学と禅宗についてネットなどで調べ、自分なりのイメージを持っておく。	4時間
	☆三十三間堂（見学対象の一つ）と豊臣秀吉の関わり／仏像鑑賞の基礎知識		
第6回	[中世～近世] 五山文学と禅宗	復習として、配布資料を基に五山文学と禅宗について整理し、適宜参考文献も閲覧しながら知識を深める。銀閣寺は見学先の対象であるので、学期末のレポート課題とすかどうかを選定する。予習として、次回講義テーマである二条城と徳川政権についてネットなどで調べ、自分なりのイメージを持っておく。	4時間
	☆銀閣寺（見学対象の一つ）など、京都に多数ある禅宗寺の歴史と文化的役割／禅宗寺院と水墨画の関わり		
第7回	[近世] 二条城と徳川政権	復習として、配布資料を基に二条城と徳川政権について整理し、適宜参考文献も閲覧しながら知識を深める。二条城は見学先の対象であるので、学期末のレポート課題とすかどうかを選定する。予習として、次回講義テーマである明治時代の京都についてネットなどで調べ、自分なりのイメージを持っておく。	4時間
	☆二条城（見学対象の一つ）建設の目的と室内装飾／京都と徳川政権の関わり		
第8回	[近代～現代] 明治時代の京都	復習として、配布資料を基に明治時代の京都について整理し、適宜参考文献も閲覧しながら知識を深める。京都市学校歴史博物館は見学先の対象であるので、学期末のレポート課題とすかどうかを選定する。予習として、次回講義テーマである洛中洛外図についてネットなどで調べ、自分なりのイメージを持っておく。	4時間
	近代化される京都の街並みと学校教育（見学先の一つとして☆京都市学校歴史博物館）		
第9回	[近世] 洛中洛外図	復習として、配布資料を基に洛中洛外図について整理し、適宜参考文献も閲覧しながら知識を深める。予習として、次回講義テーマである茶の湯についてネットなどで調べ、自分なりのイメージを持っておく。学期末レポートの準備、作成。	4時間
	洛中洛外図とは／京都の名所		
第10回	[近世～現代] 茶の湯1	復習として、配布資料を基に茶の湯の歴史について整理し、適宜参考文献も閲覧しながら知識を深める。予習として、次回講義テーマである千利休についてネットなどで調べ、自分なりのイメージを持っておく。学期末レポートの準備、作成。	4時間
	茶の湯の歴史と京都／茶の湯とは		
第11回	[近世～現代] 茶の湯2	復習として、配布資料を基に千利休と京都との関係について整理し、適宜参考文献も閲覧しながら知識を深める。予習として、次回講義テーマである歌舞伎についてネットなどで調べ、自分なりのイメージを持っておく。学期末レポートの準備、作成。	4時間
	千利休とは／茶道具の産地としての京都と茶会		
第12回	[近世～現代] 歌舞伎	復習として、配布資料を基に歌舞伎について整理し、適宜参考文献も閲覧しながら知識を深める。予習として、次回講義テーマである落語についてネットなどで調べ、自分なりのイメージを持っておく。学期末レポートの準備、作成。	4時間
	歌舞伎発祥の地としての京都／現在の京都と歌舞伎		
第13回	[近世～現代] 落語	復習として、配布資料を基に落語について整理し、適宜参考文献も閲覧しながら知識を深める。予習として、次回講義テーマである花街についてネットなどで調べ、自分なりのイメージを持っておく。学期末レポートの準備、作成。	4時間
	落語発祥の地としての京都／上方落語で表現される京都		
第14回	[近現代] 花街	復習として、配布資料を基に花街について整理し、適宜参考文献も閲覧しながら知識を深める。予習として、これまでの講義を総復習し、自分にとっての京都とはどのようなものであるかイメージを持っておく。学期末レポートの準備、作成。	4時間
	京都の五花街の歴史と現在／舞妓とは		
第15回	[まとめ] 京都の文化と芸術のこれから	配布資料を基にこれまでの講義全体を整理し、学期末レポートの準備、作成をする。	4時間
	現代と伝統／自分にとっての京都		

授業科目名	スポーツ演習 I (ヨガ・ピラティス)				
担当教員名	橋元真央				
学年・コース等	1～4年	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

現代人の健康法として人気の高まっているヨガやピラティスの実践の中で、自分の内側に目を向け、心と身体を整えるための課題をみつける。ヨガでは、ポーズ（アーサナ）や呼吸法（ブラーナヤマ）などを通じて、自らの心身のバランスを保ちコントロールしていくこと、また他者を受け入れ、他者とのコミュニケーション能力を高めていくことを習得する。ピラティスでは、基本動作を理解習得しながら、しなやかで強く美しい身体づくりの方法を学び、日頃抱えている身体問題（腰痛・肩こり・冷え性など）の解消や身体機能の向上を目指す。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

ヨガ・ピラティスの基本理念・動作を理解習得し、自らの心身の健康保持に繋げる。

目標：

ヨガ・ピラティスの基本理念・動作の理解習得を目指す。

汎用的な力

- 1 . DP6. 行動・実践

運動学習での気づきを、主体的に生活にいかし、自らの身体課題を設定・克服できる実践力の育成

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

実技	20%	： ヨガ・ピラティスに関する基礎的・基本的理念や動作を身につけているかを評価する。
取り組み姿勢、協力度、授業態度	50%	： 積極的に授業に参加し、協力して活動できているか評価する。
学習記録、レポート	15%	： 授業毎の学習記録から評価する。
試験（レポート）	15%	： 授業期間終了後に課す当初目標に対する到達状況の自己判定、レポートから評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業中に適宜配布する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項： 授業前後に声を掛けてください。時間を調整します。

授業計画

回	内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	オリエンテーション（授業内容・注意事項など）と学習記録シートの作成 授業の展開方法や注意事項などを説明する。 ヨガ・ピラティスの特徴について紹介する。	1時間
第2回	ヨガとは ヨガの歴史、ヨガの効用とヨガセラピー療法について紹介する。	1時間
第3回	ヨガの種類について 瞑想に趣をもつヨガ、ポーズに趣をもつヨガを紹介する	1時間
第4回	ヨガの呼吸法について ヨガの重要なポイントの一つである呼吸法（ブラーナヤマ）を紹介する。	1時間
第5回	ヨガのポーズ（アーサナ）について ヨガの重要なポイントの一つであるポーズ（アーサナ）を紹介する。	1時間

第6回	身体問題とヨガ処方 歪み、腰痛、肩凝り等の身体問題について症状別対応動作を紹介する。	基礎体力づくり（授業で紹介した動作の日常実践、ストレッチやトレーニング）	1時間
第7回	アーユルヴェーダとヨガ 予防医学の一つであるアーユルヴェーダを紹介する。	基礎体力づくり（授業で紹介した動作の日常実践、ストレッチやトレーニング）	1時間
第8回	ピラティスの原則 トレーニングを行う際の原則を紹介する。	基礎体力づくり（授業で紹介した動作の日常実践、ストレッチやトレーニング）	1時間
第9回	体幹に関わる筋肉 骨盤、背骨を中心に体幹に関わるトレーニングを紹介する。	基礎体力づくり（授業で紹介した動作の日常実践、ストレッチやトレーニング）	1時間
第10回	基本動作の実践（基本姿勢、仰向け） 主に基本姿勢、仰向けでのトレーニングを紹介する。	基礎体力づくり（授業で紹介した動作の日常実践、ストレッチやトレーニング）	1時間
第11回	基本動作の実践（座位、うつ伏せ） 主に座位、うつ伏せでのトレーニングを紹介する。	基礎体力づくり（授業で紹介した動作の日常実践、ストレッチやトレーニング）	1時間
第12回	基本動作の実践（横向き、立位） 主に横向き、立位でのトレーニングを紹介する。	基礎体力づくり（授業で紹介した動作の日常実践、ストレッチやトレーニング）	1時間
第13回	リラクゼーションマッサージ セルフ及びペアで行うリラクゼーションマッサージを紹介する。	基礎体力づくり（授業で紹介した動作の日常実践、ストレッチやトレーニング、マッサージ）	1時間
第14回	セルフプログラム作成 自分の身体問題を理解し生活習慣を見直しながら、運動習慣の構築として取り入れられそうな自分の運動プログラムを検討する。	基礎体力づくり（授業で紹介した動作の日常実践、ストレッチやトレーニング、マッサージ）	1時間
第15回	学習記録シートのまとめ 当初目標に対する自己評価を含め、学習記録シートを記入し、授業全体のまとめを行なう。	基礎体力づくり（授業で紹介した動作の日常実践、ストレッチやトレーニング）授業全体を振り返る。	1時間

授業科目名	スポーツ演習Ⅱ(卓球)				
担当教員名	中村泰介				
学年・コース等	1～4年	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

本演習は卓球の実践を通じて、プレイするための基礎的なスキル習得及び、生涯スポーツとして実践できるスキルの習得を目指す。種目のルール、試合(ゲーム)に必要な技能、審判、指導法を理解し、シングルス、ダブルスのそれぞれのスタイルの特徴と面白さを実践を通じて学んでいく。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	卓球に関する知識及び実践できるスキル	卓球に関する知識及び実践のためのスキルを習得し、指導方法について理解できる。
汎用的な力		
1 . DP6. 行動・実践		卓球における身体運動のメカニズムを理解する

学外連携学修

無し

授業方法(アクティブラーニングを促す方法について)

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
- ・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業への取り組み	50%	： (1)授業中に個人で設定した到達目標に向け積極的に実践を行うことができたか。(2)教員を目指す者としてスポーツへの関心が深まり、種目の特性を理解し、運動を行うことができたか。
実技能力	20%	： 1) 卓球のルールを理解している。 2) 実践(シングルス、ダブルスの試合)できるスキルを習得している。 3) 卓球の競技性を理解し、大まかな説明や指導ができる。
定期試験(レポート)	30%	： 授業終了後(試験期間中)のレポートにより、毎授業のテーマと課題の理解度を評価する。参考文献等を用いて論述されているか、文字数や提出期限を守れているか、以上を総合的に評価し採点する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

必要に応じて指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回2時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	授業の前後
場所：	授業の実施場所
備考・注意事項：	初回の授業時にアナウンスします

授業計画

回数	内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	ガイダンス(卓球の説明、授業のすすめ方、評価方法) 本実技の進め方、実施する競技の説明、ルール、卓球に必要なスキル等の説明を行う。	2時間
第2回	ラケットの種類、握り方、フォアハンド・バックハンドの基本的な打ち方 基礎的スキルの習得・ルールの理解	2時間
第3回	フォアハンド・バックハンドの打ち方の練習、サーブの練習、ゲーム 基礎的スキルの習得・ルールの理解(審判)	2時間
第4回	連続ラリーの練習、サーブ、カットの打ち方、ゲーム ・基本ストローク(サーブを中心)・カットの打ち方・ルールの理解(審判と試合運営)・試合の展開	2時間
第5回	連続ラリーの練習、様々なサーブの練習、試合	2時間

	・試合におけるスキルの習得(戦術) ・ルール理解③(審判と試合運営) ・試合の展開		
第6回	連続ラリーの練習、様々なサーブの練習、スマッシュの練習、試合 ・安定した連続ラリーの練習 ・フットワーク ・スマッシュの練習 ・ルール理解 ・試合方法の理解 ・試合の展開	安定した連続ラリーとそれに必要なフットワークの練習を行っておくこと。	2時間
第7回	試合の展開、シングルス(リーグ戦) ・ルール理解(審判) ・シングルス試合運営	卓球の試合運営(シングルス)を行う上で必要となるルール理解、審判の方法を理解しておくこと。	2時間
第8回	試合の展開、シングルス(リーグ戦) ・卓球に必要なスキルの習得(シングルスにおける試合戦術) ・ルール理解③(審判と試合運営) ・試合の展開(シングルス)	卓球の試合運営(シングルス)を行う上で必要となるルール理解、審判の方法を理解しておくこと。	2時間
第9回	試合の展開、シングルス(レベル別の対戦形式) ・卓球に必要なスキルの習得(シングルスにおける試合戦術) ・ルール理解③(審判と試合運営) ・試合の展開(シングルス)	卓球の試合運営(シングルス)を行う上で必要となるルール理解、審判の方法を理解しておくこと。	2時間
第10回	試合の展開、ダブルス(リーグ戦) ・卓球に必要なスキルの習得(ダブルスにおける試合戦術) ・ルール理解③(審判と試合運営) ・試合の展開(ダブルス)	卓球の試合運営(ダブルス)を行う上で必要となるルール理解、審判の方法を理解しておくこと。	2時間
第11回	試合の展開、ダブルス(リーグ戦) ・卓球に必要なスキルの習得(ダブルスにおける試合戦術) ・ルール理解③(審判と試合運営) ・試合の展開(ダブルス)	卓球の試合運営(ダブルス)を行う上で必要となるルール理解、審判の方法を理解しておくこと。	2時間
第12回	試合の展開、ダブルス(レベル別の対戦形式) ・卓球に必要なスキルの習得(ダブルスにおける試合戦術) ・ルール理解③(審判と試合運営) ・試合の展開(ダブルス)	卓球の試合運営(ダブルス)を行う上で必要となるルール理解、審判の方法を理解しておくこと。	2時間
第13回	試合の展開、ダブルス(レベル別の対戦形式) ・卓球に必要なスキルの習得(ダブルスにおける試合戦術) ・ルール理解③(審判と試合運営) ・試合の展開(ダブルス)	試合(ダブルス)を展開運営する上で必要となるルール理解、審判の方法を理解しておくこと。	2時間
第14回	団体戦 団体戦を実施	卓球の団体戦のルールを理解しておくこと。	2時間
第15回	団体戦・まとめ 団体戦を実施	卓球の団体戦のルールを理解した上でチーム戦術を検討しておくこと。	2時間

授業科目名	スポーツ演習 I <トレーニング>				
担当教員名	村田正夫				
学年・コース等	1～4年	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	本実技を担当（全15回）				

授業概要

トレーニングの基礎とゴルフを学ぶ。トレーニングではコーディネーション7つの能力を高めながら運動神経の向上を図ると共に、様々なスポーツ活動を実践し、個々のスキルやパフォーマンスについて改善することを目的に進めていく。また、ゴルフではゴルフ練習場にてテキストを使用し、ゴルフの歴史、マナー、スイング理論などの講義と合わせ、実技研修を行ないながらスイングやショートゲームの基礎を学び、ゴルフを理解、体験する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

運動神経の向上を図るための知識

目標：

定位、識別、反応、変換、連結、リズム、バランスの重要性を理解し、各自がトレーニングを組み立てることができる。

汎用的な力

- 1 . DP6. 行動・実践

人への接し方、身の回りの環境整備などコミュニケーションの充実やマナーを遵守し、授業を能動的に実践する。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

- ①他者との協力・尊重を図り、積極的なスポーツ活動を実践する。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

期末レポート	30%	： 授業期間終了後に期末レポートを実施する。内容の妥当性について独自のルーブリックを用いて5段階で評価する。
積極的なグループ活動（PDCA）	40%	： 各グループで検討し作成したPDCAサイクルの内容の妥当性、実行力の度合いについて独自のルーブリックに基づいて5段階で評価する。
実技習熟度	30%	： 技術の習熟度合いについて独自のルーブリックに基づいて5段階で評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

使用しない。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎日2時間の授業外学修が求められる。実技科目であるため、日ごろより身体のコンディショニングを整え、スポーツの実践をこころがけること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	火曜日2限目
場所：	研究室（西館2階 No.13）

授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	オリエンテーション 授業概要、授業計画、授業形態、評価方法、履修上の注意などについて説明する。	2時間
第2回	「定位能力」に着目したトレーニングと球技スポーツ 物や人などの位置関係を把握する能力を高める。	2時間
第3回	「識別能力」に着目したトレーニングと球技スポーツ 手や足、道具を使う能力を高める。	2時間
第4回	「反応能力」に着目したトレーニングと球技スポーツ 合図などにすばやく反応する能力を高める。	2時間
第5回	「変換能力」に着目したトレーニングと球技スポーツ 状況に応じて適切に対処できる能力を高める。	2時間

第6回	「連結能力」に着目したトレーニングと球技スポーツ 体を無駄なくスムーズに動かす能力を高める。	スポーツ活動でパフォーマンスが向上するように肉体系、健康面などから状態を整えること。	2時間
第7回	「リズム能力」に着目したトレーニングと球技スポーツ 動作のタイミングなどをうまく合わせる能力を高める。	スポーツ活動でパフォーマンスが向上するように肉体系、健康面などから状態を整えること。	2時間
第8回	「バランス能力」に着目したトレーニングと球技スポーツ 崩れた体勢でもバランスをうまく保てる能力を高める。	スポーツ活動でパフォーマンスが向上するように肉体系、健康面などから状態を整えること。	2時間
第9回	ゴルフの歴史、エチケット、スイング ゴルフの基礎知識を学ぶ。	スポーツ活動でパフォーマンスが向上するように肉体系、健康面などから状態を整えること。	2時間
第10回	グリップ・エイム・ポジション 正しい握り方と構え方を習得する。	スポーツ活動でパフォーマンスが向上するように肉体系、健康面などから状態を整えること。	2時間
第11回	飛球のメカニズム 飛球のメカニズムについて理解する。	スポーツ活動でパフォーマンスが向上するように肉体系、健康面などから状態を整えること。	2時間
第12回	スイングセオリー メカニズムとセオリーの関係性について学ぶ。	スポーツ活動でパフォーマンスが向上するように肉体系、健康面などから状態を整えること。	2時間
第13回	コントロールスイング 振り幅のコントロールと距離について学ぶ。	スポーツ活動でパフォーマンスが向上するように肉体系、健康面などから状態を整えること。	2時間
第14回	コントロールスイング (チップ他) ワンレバーとツーレバーについて学ぶ。	スポーツ活動でパフォーマンスが向上するように肉体系、健康面などから状態を整えること。	2時間
第15回	スイングチェック スイングについての総復習を実施する。	スポーツ活動でパフォーマンスが向上するように肉体系、健康面などから状態を整えること。	2時間

授業科目名	スポーツ演習 I <バドミントン>				
担当教員名	胡山喬				
学年・コース等	1～4年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	ジュニアバドミントンを普及させるため、大阪中心に全国各地域で技術講習を20年余り行っている。(全15回)				

授業概要

本授業では、バドミントン競技について実体験を通じて、その理論と実践的背景について学習する。

まず、バドミントンの基本的な技術の習得とゲームを楽しむことを目指す。

授業時間はおおむね二つに分かれ、それぞれ目的を定める。
授業の前半は、リズムフットワークを習得。また、対人スポーツの特徴として、脳トレーニングの視点で対人フットワーク、ノック練習する。
授業の後半は、初級テクニックを覚えて、ゲームの方法を学ぶ。

そして、試合に対応できる多要素のメンタル面のコントロールも学習する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

まず、バドミントンを通して、スポーツ教養を身につける。そして、バドミントン競技に関する各種の技術要素や試合ルールに指導を行う。

目標：

実技の特徴を理解し、積極的にコートに入る、体を動かしながら技術や競技ルールを覚えていくこと。

汎用的な力

- DP6. 行動・実践

バドミントン競技におけるスポーツの役割と競技についての基礎的能力及び専門に関する知識と理解、また、連携行動を身につける。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

試験(レポート)	40%	： 15回の授業終了後、試験(レポート)を行う。授業内の活動に対する、主体性、積極性に関して5段階で評価する。
試験(実技テスト)	40%	： 各種技術要素の把握、3種目の試合ルールの把握、チームの団結力と個人の行動力を図る。
課題レポート提出	20%	： 毎回授業に関する内容について事前学習と事後課題レポート提出。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

「バドミントン必勝法3時間の練習で強くなる」
(株) ベースボール・マガジン
監修者：胡山喬 出版社2000年12月14日

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日3限目
場所： 個人研究室 西棟 2階 NO 09

授業計画

回	内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	オリエンテーションとバドミントンの歴史を知る ① バドミントン競技に関する専門知識を説明する。 ② 実技講義の特徴を説明する。 ③ 全講義のプリントやスケジュール表を配布する。	「バドミントン競技」についての資料を調べる。 4時間
第2回	バドミントンの基礎・初級 「2種類のサーブの打ち方とグリップの握り方」 ① フォアハンドのサーブ（ロングとショット）の打ち方 ② バックハンドのサーブ（ロングとショット）の打ち方 ③ グリップの握り方	当日受けた授業内容を理論的にまとめてから課題レポート作成。次回授業内容「オーバーストローク編」についての資料調べる。 4時間
第3回	バドミントンの基礎・初級 「オーバーストローク編～クリアーの打ち方」 ① 前回授業の復習「2種類のサーブの打ち方とグリップの握り方」 ② 本日授業の内容「クリアーの打ち方」	当日受けた授業内容を理論的にまとめてから課題レポートの作成。次回授業内容「スマッシュの打ち方」についての資料調べる。 4時間

第4回	バドミントンの基礎・初級 「オーバーストローク～スマッシュの打ち方」 ① 前回授業の復習「クリアーの打ち方」 ② 本日授業の内容「スマッシュの打ち方」	当日受けた授業内容を理論的にまとめてから課題レポートの作成。また、次回授業内容「カットとドロップ」についての資料を調べる。	4時間
第5回	バドミントンの基礎・初級 「オーバーストローク編～カットとドロップの打ち方」 ① 前回授業の復習「スマッシュの打ち方」 ② 本日授業の内容「カットとドロップの打ち方」	当日受けた授業内容を理論的にまとめ、課題レポート作成。また、次回授業内容「シングルス試合とその競技ルール」についての資料調べる。	4時間
第6回	バドミントンの基礎・初級 「3種目の試合とそれぞれの競技ルール・シングル」 前回授業の復習「カットとドロップの打ち方」 本日の授業内容「シングルス試合の仕方とその競技ルールの学習」 「シングルス試合」	当日受けた授業内容を理論的にまとめ、課題レポート作成。	4時間
第7回	バドミントンの基礎・初級 「3種目の試合とそれぞれの競技ルール・ダブルス」 前回授業の復習「シングルス試合の仕方とその競技ルール」 本日の授業内容「ダブルス試合の仕方とその競技ルール」 「ダブルス試合」	当日受けた授業内容を理論的にまとめ、課題レポート作成。	4時間
第8回	バドミントンの基礎・初級 「3種目の試合とそれぞれの競技ルール・ミックスダブルス」 前回授業の復習「ダブルス試合の仕方とその競技ルール」 本日の授業内容「ミックスダブルス試合の仕方とその競技ルール」	当日受けた授業内容を理論的にまとめ、課題レポート作成。	4時間
第9回	バドミントンの基礎・初級 「アンダーストローク編～ロビングの打ち方」 前回授業の復習「ミックスダブルスの仕方とその競技ルール」 本日の授業内容「ロビングの打ち方」	当日受けた授業内容を理論的にまとめ、課題レポート作成。	4時間
第10回	バドミントンの基礎・初級 「アンターストローク編～ドライブの打ち方」 前回授業の復習「ロビングの打ち方」 本日の授業内容「ドライブの打ち方」	当日受けた授業内容を理論的にまとめ、課題レポート作成。	4時間
第11回	バドミントンの基礎・初級 「アンターストローク編～ヘアピンの打ち方」 前回授業の復習「ドライブの打ち方」 本日の授業内容「ヘアピンの打ち方」	当日受けた授業内容を理論的にまとめ、課題レポート作成。	4時間
第12回	バドミントンの基礎・初級 「アンダーストローク編～スマッシュレシーブの打ち方」 前回授業の復習「ヘアピンの打ち方」 本日の授業内容「スマッシュレシーブの打ち方」	当日受けた授業内容を理論的にまとめ、課題レポート作成。	4時間
第13回	バドミントンの基礎 「団体戦のリーグ式の組み合わせ」 試合を通して、団体戦のリーグ式の組み合わせ練習。 また、試合のオーダー用紙記録方法と審判用紙記録方法の学習。	当日受けた授業内容を理論的にまとめ、課題レポート作成。	4時間
第14回	実技テストと実技の総まとめ トーナメント形式のダブルス試合 ゲームを通じてバドミントンの技術要素と競技ルール把握。	次回の授業内容「筆記小テストためのプリント」の予習	4時間
第15回	筆記小テストと授業全体の総まとめ 実践と理論を通して授業全体の総まとめ。	実践と理論を通して授業全体の総まとめ。	4時間

授業科目名	スポーツ演習 I (卓球)				
担当教員名	大沼 勇人				
学年・コース等	1～4年	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

スポーツは、人生をより豊かにし、充実したものとする世界共通の人類の文化のひとつである。心身の健全な発達に必要不可欠なものであり、人々が生涯にわたってスポーツに親しむことは、大きな意義がある。卓球の競技特性を踏まえ、個人技能を身につけるとともに、ダブルスによって養われる判断力や協調性といった集団技能を身につけ、対戦相手との駆け引きができ、スポーツをより楽しむことができるようになることを目的とします。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

卓球に関する基礎的・専門的な知識と技能を、ゲームを中心に身に付ける。

目標：

卓球に関する知識、個人および集団技能を身に付け、スポーツをより楽しむことができることを目指す。

汎用的な力

- DP9. 役割理解・連携行動

積極的に取り組むとともに、個々の技能をもとに互いに協力し、チームプレーを行うことを目指す。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業態度	30%	： 本講義に関する活動に対しての、積極性・主体性・協同性について評価する
実技	30%	： 卓球に関する基礎的・専門的な知識と技能を身に付けているか評価する。
定期試験（課題・レポート）	40%	： 講義内で指定した課題・レポートについて評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業時間前後
 場所： 授業場所
 備考・注意事項： 授業開始前後に声をかけてください。

授業計画

回数	授業内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	オリエンテーション、学習ノートの作成 卓球の特性やルールを振り返るとともに、授業計画や注意点など、本講義の概要を説明する。	2時間
第2回	卓球の基礎 グリップと構え、サービス、フォア・バックハンドの打ち方について学習する。	2時間
第3回	卓球の基本技術 サーブを中心とした基本的なストローク技術について学習する。	2時間
第4回	卓球の基本技術 ラリー、スマッシュを中心とした基本的なストロークについて学習する。	2時間
第5回	卓球の応用技術	2時間

	フリック、カットなどの応用的なストロークについて学習する。		
第6回	シングルスゲーム 1 シングルスゲームのルールを理解し、ゲーム展開を学習する。	日常生活において運動による身体活動量を増やすとともに、講義内で扱った内容について振り返る。	2時間
第7回	シングルスゲーム 2 対戦相手への対策を練りながらのゲーム展開を学習する	日常生活において運動による身体活動量を増やすとともに、講義内で扱った内容について振り返る。	2時間
第8回	シングルスゲーム 3 これまで学んだ基本技術を活かし、シングルのゲーム展開を学習する。	日常生活において運動による身体活動量を増やすとともに、講義内で扱った内容について振り返る。	2時間
第9回	シングルスゲーム 4 これまで学んだ基本技術を活かし、シングルのゲーム展開を学習する。	日常生活において運動による身体活動量を増やすとともに、講義内で扱った内容について振り返る。	2時間
第10回	ダブルスゲーム 1 ダブルスゲームのルールを理解し、ゲーム展開を学習する。	日常生活において運動による身体活動量を増やすとともに、講義内で扱った内容について振り返る。	2時間
第11回	ダブルスゲーム 2 対戦相手への対策を練りながらのゲーム展開を学習する	日常生活において運動による身体活動量を増やすとともに、講義内で扱った内容について振り返る。	2時間
第12回	ダブルスゲーム 3 これまで学んだ基本技術・シングルスゲームの展開を活かし、ダブルスのゲーム展開を学習する。	日常生活において運動による身体活動量を増やすとともに、講義内で扱った内容について振り返る。	2時間
第13回	団体戦 1 これまで学んだ基本技術・シングルスゲームの展開を活かし、ダブルスのゲーム展開を学習する。	日常生活において運動による身体活動量を増やすとともに、講義内で扱った内容について振り返る。	2時間
第14回	団体戦 2 シングルス・ダブルスのゲーム展開をもとに、団体戦のゲーム展開を学習する。	日常生活において運動による身体活動量を増やすとともに、講義内で扱った内容について振り返る。	2時間
第15回	学習ノートの総括 これまでの講義で取り扱った内容について、学習ノートを使って、学習成果を振り返る。	日常生活において運動による身体活動量を増やすとともに、講義内で扱った内容について振り返る。	2時間

授業科目名	スポーツ演習Ⅱ<トレーニング>				
担当教員名	村田正夫				
学年・コース等	1～4年	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	本実技を全15回担当				

授業概要

トレーニングの基礎とゴルフを学ぶ。トレーニングではコーディネーション7つの能力を高めながら運動神経の向上を図ると共に、様々なスポーツ活動を実践し、個々のスキルやパフォーマンスについて改善することを目的に進めていく。また、ゴルフではゴルフ練習場にてテキストを使用し、ゴルフの歴史、マナー、スイング理論などの講義と合わせ、実技研修を行ないながらスイングやショートゲームの基礎を学び、ゴルフを理解、体験する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

運動神経の向上を図るための知識

目標：

定位、識別、反応、変換、連結、リズム、バランスの重要性を理解し、各自がトレーニングを組み立てることができる。

汎用的な力

- DP6. 行動・実践

人への接し方、身の回りの環境整備などコミュニケーションの充実やマナーを遵守し、授業を能動的に実践する。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

- ①他者との協力・尊重を図り、積極的なスポーツ活動を実践する。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

期末レポート	30%	： 授業期間終了後に期末レポートを実施させる。内容の妥当性について独自のルーブリックを用いて5段階で評価する。
積極的なグループ活動（P D C A）	40%	： 各グループ活動において独自のルーブリックに基づいて5段階で評価する。
実技習熟度	30%	： 技術の習熟度合いについて独自のルーブリックに基づいて5段階で評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

使用しない。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎日2時間の授業外学修が求められる。
実技科目であるため、日ごろより身体コンディショニングを整え、スポーツの実践をこころがけること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	火曜日2限目
場所：	研究室（西館2階 No.13）

授業計画

回数	タイトル	内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	オリエンテーション	スポーツ活動でパフォーマンスが向上するように肉体系、健康面などから状態を整えること。 授業概要、授業計画、授業形態、評価方法、履修上の注意などについて説明する。	2時間
第2回	「定位能力」に着目したトレーニングと球技スポーツ	スポーツ活動でパフォーマンスが向上するように肉体系、健康面などから状態を整えること。	2時間
第3回	「識別能力」に着目したトレーニングと球技スポーツ	スポーツ活動でパフォーマンスが向上するように肉体系、健康面などから状態を整えること。	2時間
第4回	「反応能力」に着目したトレーニングと球技スポーツ	スポーツ活動でパフォーマンスが向上するように肉体系、健康面などから状態を整えること。	2時間
第5回	「変換能力」に着目したトレーニングと球技スポーツ	スポーツ活動でパフォーマンスが向上するように肉体系、健康面などから状態を整えること。	2時間
第6回	「連結能力」に着目したトレーニングと球技スポーツ	身体コンディショニング及びスポーツの実践	2時間

	体を無駄なくスムーズに動かす能力を高める。		
第7回	「リズム能力」に着目したトレーニングと球技スポーツ 動作のタイミングなどをうまく合わせる能力を高める。	スポーツ活動でパフォーマンスが向上するように肉体力、健康面などから状態を整えること。	2時間
第8回	「バランス能力」に着目したトレーニングと球技スポーツ 崩れた体勢でもバランスをうまく保てる能力を高める。	スポーツ活動でパフォーマンスが向上するように肉体力、健康面などから状態を整えること。	2時間
第9回	ゴルフの歴史、エチケット、スイング ゴルフの基礎知識を学ぶ。	スポーツ活動でパフォーマンスが向上するように肉体力、健康面などから状態を整えること。	2時間
第10回	グリップ・エイム・ポジション 正しい握り方と構え方を習得する。	スポーツ活動でパフォーマンスが向上するように肉体力、健康面などから状態を整えること。	2時間
第11回	飛球のメカニズム 飛球のメカニズムについて理解する。	スポーツ活動でパフォーマンスが向上するように肉体力、健康面などから状態を整えること。	2時間
第12回	スイングセオリー メカニズムとセオリーの関係性について学ぶ。	スポーツ活動でパフォーマンスが向上するように肉体力、健康面などから状態を整えること。	2時間
第13回	コントロールスイング 振り幅のコントロールと距離について学ぶ。	スポーツ活動でパフォーマンスが向上するように肉体力、健康面などから状態を整えること。	2時間
第14回	コントロールスイング（チップ他） ワンレバーとツーレバーについて学ぶ。	スポーツ活動でパフォーマンスが向上するように肉体力、健康面などから状態を整えること。	2時間
第15回	スイングチェック スイングについての総復習を実施する。	スポーツ活動でパフォーマンスが向上するように肉体力、健康面などから状態を整えること。	4時間

授業科目名	スポーツ演習Ⅱ（卓球）				
担当教員名	大沼 勇人				
学年・コース等	1～4年	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

スポーツは、人生をより豊かにし、充実したものとする世界共通の人類の文化のひとつである。心身の健全な発達に必要不可欠なものであり、人々が生涯にわたってスポーツに親しむことは、大きな意義がある。卓球の競技特性を踏まえ、個人技能を身につけるとともに、ダブルスによって養われる判断力や協調性といった集団技能を身につけ、対戦相手との駆け引きができ、スポーツをより楽しむことができるようになることを目的とします。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

卓球に関する基礎的・専門的な知識と技能を、ゲームを中心に身に付ける。

目標：

卓球に関する知識、個人および集団技能を身に付け、スポーツをより楽しむことができることを目指す。

汎用的な力

- DP9. 役割理解・連携行動

積極的に取り組むとともに、個々の技能をもとに互いに協力し、チームプレーを行うことを目指す。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業態度	30%	： 本講義に関する活動に対しての、積極性・主体性・協同性について評価する
実技	30%	： 卓球に関する基礎的・専門的な知識と技能を身に付けているか評価する。
定期試験（課題・レポート）	40%	： 講義内で指定した課題・レポートについて評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業時間前後
 場所： 授業場所
 備考・注意事項： 授業開始前後に声をかけてください。

授業計画

回数	授業内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	オリエンテーション、学習ノートの作成 卓球の特性やルールを振り返るとともに、授業計画や注意点など、本講義の概要を説明する。	2時間
第2回	卓球の基礎 グリップと構え、サービス、フォア・バックハンドの打ち方について学習する。	2時間
第3回	卓球の基本技術 サーブを中心とした基本的なストローク技術について学習する。	2時間
第4回	卓球の基本技術 ラリー、スマッシュを中心とした基本的なストロークについて学習する。	2時間
第5回	卓球の応用技術	2時間

	フリック、カットなどの応用的なストロークについて学習する。		
第6回	シングルスゲーム 1 シングルスゲームのルールを理解し、ゲーム展開を学習する。	日常生活において運動による身体活動量を増やすとともに、講義内で扱った内容について振り返る。	2時間
第7回	シングルスゲーム 2 対戦相手への対策を練りながらのゲーム展開を学習する	日常生活において運動による身体活動量を増やすとともに、講義内で扱った内容について振り返る。	2時間
第8回	シングルスゲーム 3 これまで学んだ基本技術を活かし、シングルのゲーム展開を学習する。	日常生活において運動による身体活動量を増やすとともに、講義内で扱った内容について振り返る。	2時間
第9回	シングルスゲーム 4 これまで学んだ基本技術を活かし、シングルのゲーム展開を学習する。	日常生活において運動による身体活動量を増やすとともに、講義内で扱った内容について振り返る。	2時間
第10回	ダブルスゲーム 1 ダブルスゲームのルールを理解し、ゲーム展開を学習する。	日常生活において運動による身体活動量を増やすとともに、講義内で扱った内容について振り返る。	2時間
第11回	ダブルスゲーム 2 対戦相手への対策を練りながらのゲーム展開を学習する	日常生活において運動による身体活動量を増やすとともに、講義内で扱った内容について振り返る。	2時間
第12回	ダブルスゲーム 3 これまで学んだ基本技術・シングルスゲームの展開を活かし、ダブルスのゲーム展開を学習する。	日常生活において運動による身体活動量を増やすとともに、講義内で扱った内容について振り返る。	2時間
第13回	団体戦 1 これまで学んだ基本技術・シングルスゲームの展開を活かし、ダブルスのゲーム展開を学習する。	日常生活において運動による身体活動量を増やすとともに、講義内で扱った内容について振り返る。	2時間
第14回	団体戦 2 シングルス・ダブルスのゲーム展開をもとに、団体戦のゲーム展開を学習する。	日常生活において運動による身体活動量を増やすとともに、講義内で扱った内容について振り返る。	2時間
第15回	学習ノートの総括 これまでの講義で取り扱った内容について、学習ノートを使って、学習成果を振り返る。	日常生活において運動による身体活動量を増やすとともに、講義内で扱った内容について振り返る。	2時間

授業科目名	スポーツ演習Ⅱ<バドミントン>				
担当教員名	胡山喬				
学年・コース等	1～4年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	ジュニアバドミントンを普及させるため、大阪中心に全国各地域で技術講習を20年余り行っている。(全15回)				

授業概要

本授業では、バドミントン競技について実体験を通じて、その理論と実践的背景について学習する。

先ず、バドミントンの基本的な技術の習得とゲームを楽しむことを目指す。

授業時間はおおむね二つに分かれ、それぞれ目的を定める。

授業の前半は、リズムフットワークを習得。また、対人スポーツの特徴として、脳トレーニングの視点で対人フットワーク、ノック練習をする。

授業の後半は、中級テクニックを覚えて、ゲームの方法を学ぶ。

そして、試合に対応出来る多要素のメンタル面のコントロールも学習する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

まず、バドミントンを通して、スポーツ教養を身につけましょう。そして、バドミントン競技に関する各種の技術要素や試合ルールの指導を行う。

目標：

実技の特徴を理解し、積極的にコートに入る、体を動かしながら技術や競技ルールを覚えていくこと。

汎用的な力

- DP6. 行動・実践

バドミントン競技におけるスポーツの役割と競技についての基礎的能力及び専門に関する知識と理解、また、連携行動力を身につける。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

試験(レポート)	40%	: 15回の授業終了後、試験(レポート)を行う。授業内の活動に対する、主体性、積極性に関して5段階で評価する。
試験(実技テスト)	40%	: 各種の技術要素。3種目の試合ルールの把握。チームの団結力と行動力を図る。
課題レポート提出	20%	: 毎回授業に関する内容について事前学習と事後課題レポート提出。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

参考文献は「バドミントン必勝法3時間の練習で強くなる」
監修者：胡山喬 出版社：(株) ベースボール・マガジン
2000年12月14日 発行発売

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の実技講義の科目であるため、毎回4時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日3限目

場所： 個人研究室 西棟2階 NO 09

授業計画

回数	授業内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	オリエンテーションとバドミントンの歴史を知る ①バドミントン競技に関する専門知識を説明する。 ②実技講義の特徴を説明する。 ③全講義のプリントやスケジュール表を配布する。	「バドミントン競技」についての資料を調べる。 4時間
第2回	バドミントンの基礎・中級 「2種類のサーブの打ち方とグリップの握り方」 フォアハンドサーブ（ロークとショット）の打ち方 バックハンドサーブ（ロークとショット）の打ち方 グリップの握り方	当日受けた授業内容を理論的にまとめ、課題レポート作成。 4時間
第3回	バドミントンの基礎・中級 「オーバーストローク編～クリアーの打ち方」 前回の復習「2種類サーブの打ち方とグリップの握り方」 本日の授業「クリアーの打ち方」	当日受けた授業内容を理論的にまとめ、課題レポート作成。 4時間
第4回	バドミントンの基礎・中級 「オーバーストローク編～スマッシュの打ち方」	当日受けた授業内容を理論的にまとめ、課題レポート作成。 4時間

	<p>前回授業の復習 「クリアーの打ち方」 本日の授業内容 「スマッシュの打ち方」</p>		
第5回	<p>バドミントンの基礎・中級 「オーバーストローク編～カットとドロップの打ち方」 前回授業の復習 「スマッシュの打ち方」 本日の授業内容 「カットとドロップの打ち方」</p>	当日受けた授業内容を理論的にまとめ、課題レポート作成。	4時間
第6回	<p>バドミントンの基礎・中級 「3種目の試合とそれぞれの競技ルール・シングルス」 前回授業の復習 「カットとドロップの打ち方」 本日の授業内容 「シングルス試合の仕方とその競技ルールの学習」 「シングルス試合」</p>	当日受けた授業内容を理論的にまとめ、課題レポート作成。	4時間
第7回	<p>バドミントンの基礎・中級 「3種目の試合とそれぞれの競技ルール・ダブルス」 前回授業の復習 「シングルス試合の仕方とその競技ルール」 本日の授業内容 「ダブルス試合の仕方とその競技ルールの学習」 「ダブルス試合」</p>	当日受けた授業内容を理論的にまとめ、課題レポート作成。	4時間
第8回	<p>バドミントンの基礎・中級 「3種目の試合とそれぞれの競技ルール・ミックスダブルス」 前回授業の復習 「ダブルス試合の仕方とその競技ルール」 本日の授業内容 「ミックスダブルス試合の仕方とその競技ルールの学習」 「ミックスダブルス試合」</p>	当日受けた授業内容を理論的にまとめ、課題レポート作成。	4時間
第9回	<p>バドミントンの基礎・中級 「アンターストローク編～ロビングの打ち方」 前回授業の復習 「ミックスダブルスの仕方とその競技ルール」 本日の授業内容 「ロビングの打ち方」</p>	当日受けた授業内容を理論的にまとめ、課題レポート作成。	4時間
第10回	<p>バドミントンの基礎・中級 「アンターストローク編～ドライブの打ち方」 前回授業の復習 「ロビングの打ち方」 本日の授業内容 「ドライブの打ち方」</p>	当日受けた授業内容を理論的にまとめ、課題レポート作成。	4時間
第11回	<p>バドミントンの基礎・中級 「アンターストローク編～ヘアピンの打ち方」 前回授業の復習 「ドライブの打ち方」 本日の授業内容 「ヘアピンの打ち方」</p>	当日受けた授業内容を理論的にまとめ、課題レポート作成。	4時間
第12回	<p>バドミントンの基礎・中級 「アンダーストローク編～スマッシュレシーブの打ち方」 前回授業の復習 「ヘアピンの打ち方」 本日の授業内容 「スマッシュレシーブの打ち方」</p>	当日受けた授業内容を理論的にまとめ、課題レポート作成。	4時間
第13回	<p>バドミントンの基礎・中級 「アンダーストローク編～スマッシュドライブの打ち方」 前回授業の復習 「ヘアピンの打ち方」 本日の授業内容 「スマッシュドライブの打ち方」</p>	当日受けた授業内容を理論的にまとめ、課題レポート作成。	4時間
第14回	<p>実技テストと実技の総まとめ トーナメント式のダブルス試合 ゲームを通じてバドミントンの技術要素と競技ルール把握の確認。</p>	次回の授業内容「筆記小テストためのプリント」の予習	4時間
第15回	<p>筆記小テストと授業全体の総まとめ 実践と理論を通して授業全体の総まとめ。</p>	実践と理論を通して授業全体の総まとめ。	4時間

授業科目名	スポーツ演習 I (グラウンド)				
担当教員名	大沼 勇人				
学年・コース等	1～4年	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

スポーツは、人生をより豊かにし、充実したものとする世界共通の人類の文化のひとつである。心身の健全な発達に必要不可欠なものであり、人々が生涯にわたってスポーツに親しむことは、大きな意義がある。サッカー・アルティメットの競技特性を踏まえ、個人技能を身につけるとともに、チームプレーによって養われる判断力や協調性といった集団技能を身につけ、対戦相手との駆け引きができ、スポーツをより楽しむことができるようになることを目的とします。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

サッカー・アルティメットに関する基礎的・専門的な知識と技能を、ゲームを中心に身に付ける。

目標：

サッカー・アルティメットに関する知識、個人および集団技能を身に付け、スポーツをより楽しむことができることを目指す。

汎用的な力

- DP9. 役割理解・連携行動

積極的に取り組むとともに、個々の技能をもとに互いに協力し、チームプレーを行うことを目指す。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業態度	30%	： 本講義に関する活動に対しての、積極性・主体性・協同性について評価する
実技	30%	： サッカー・アルティメットに関する基礎的・専門的な知識と技能を身に付けているか評価する。
課題・レポート	40%	： 講義内で指定した課題・レポートについて評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業時間前後
 場所： 授業場所
 備考・注意事項： 授業開始前後に声をかけてください。

授業計画

回数	授業内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	オリエンテーション、学習ノートの作成 サッカーのルールを振り返るとともに、授業計画や注意点など、本講義の概要を説明する。	2時間
第2回	サッカーの基礎技能 サッカーの基礎であるパス、ドリブル、シュートなどに関する個人技能を習得する	2時間
第3回	サッカーの応用技能 これまでのサッカーにおける個人技能を活かし、セットプレーに関する技能を修得する	2時間
第4回	サッカー ゲーム ゲームを通じて、これまでの個人・集団技能を活かし、サッカーを楽しむ	2時間

第5回	サッカー ゲーム ゲームを通じて、これまでの個人・集団技能を活かし、サッカーを楽しむ	日常生活において運動による身体活動量を増やすとともに、講義内で扱った内容について振り返る。	2時間
第6回	サッカー ゲーム ゲームを通じて、これまでの個人・集団技能を活かし、サッカーを楽しむ	日常生活において運動による身体活動量を増やすとともに、講義内で扱った内容について振り返る。	2時間
第7回	サッカー ゲーム ゲームを通じて、これまでの個人・集団技能を活かし、サッカーを楽しむ	日常生活において運動による身体活動量を増やすとともに、講義内で扱った内容について振り返る。	2時間
第8回	アルティメットのルール アルティメットを含むフライングディスクの特性やルールを学ぶ。	日常生活において運動による身体活動量を増やすとともに、講義内で扱った内容について振り返る。	2時間
第9回	アルティメットの基礎技能 フライングディスクの基礎であるディスクの投げ方、パスワークに関する個人技能を習得する	日常生活において運動による身体活動量を増やすとともに、講義内で扱った内容について振り返る。	2時間
第10回	アルティメットの応用技能 これまでのフライングディスクにおける個人技能を活かし、アルティメットのオフense・ディフェンスプレーに関する技能を修得する	日常生活において運動による身体活動量を増やすとともに、講義内で扱った内容について振り返る。	2時間
第11回	アルティメット ゲーム ゲームを通じて、これまでの個人・集団技能を活かし、アルティメットを楽しむ	日常生活において運動による身体活動量を増やすとともに、講義内で扱った内容について振り返る。	2時間
第12回	アルティメット ゲーム ゲームを通じて、これまでの個人・集団技能を活かし、アルティメットを楽しむ	日常生活において運動による身体活動量を増やすとともに、講義内で扱った内容について振り返る。	2時間
第13回	アルティメット ゲーム ゲームを通じて、これまでの個人・集団技能を活かし、アルティメットを楽しむ	日常生活において運動による身体活動量を増やすとともに、講義内で扱った内容について振り返る。	2時間
第14回	アルティメット ゲーム ゲームを通じて、これまでの個人・集団技能を活かし、アルティメットを楽しむ	日常生活において運動による身体活動量を増やすとともに、講義内で扱った内容について振り返る。	2時間
第15回	学習ノートの総括 これまでの講義で取り扱った内容について、学習ノートを使って、学習成果を振り返る。	日常生活において運動による身体活動量を増やすとともに、講義内で扱った内容について振り返る。	2時間

授業科目名	健康科学				
担当教員名	臼井達矢				
学年・コース等	1～4年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

近年、大きな社会問題となっている生活習慣病に関する基礎知識とその改善方法（運動、食事、休養）について理解を深める。特に肥満やメタボリックシンドローム、ロコモティブシンドローム、ストレスが及ぼす身体への影響などに関する最近の論文や知見、社会状況を踏まえて学習する。さらにスポーツ医科学（熱中症、過換気症候群、スポーツ貧血、オーバートレーニング、減量）に関する知識の理解と習得から、自己の健康管理や生活習慣改善に関する基礎知識を修得する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1. 幅広い教養やスキル	スポーツ医科学に関する基礎知識	健康とスポーツ、運動と生活習慣病に対する理解とその予防方法を学び、実践することができる。
汎用的な力		自己のライフスタイルを見つめ直し、生活習慣病予防のための方法を理解し、説明できる。
1．DP4. 課題発見		
2．DP6. 行動・実践		生活習慣病の予防方法を理解し、正しい健康管理を実践することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業内課題	45%	： 授業内容を踏まえてワークシートを完成できていれば2点とし、さらに自己の考えや具体的事例などを示していれば3点、誤りや内容不足の場合は0点または1点とする。これを全15回実施する。
振り返りシート	15%	： 振り返りシートを記入し、自己の考えや具体的事例などを示していれば1点とする。内容不足または未提出の場合は0点とする。これを全15回実施する。
受講態度	10%	： 各回授業への積極的参加（発言や質問）や授業態度（受講マナー、私語や携帯電話の使用など、授業の妨げになる場合は減点）を独自のルーブリックを基に総合評価する。
期末試験	30%	： 健康管理の重要性および疾病予防の理解とその具体的予防法、実践的具体策について理解を求める問題から評価する。15回授業終了後（定期試験期間）に実施（提出）する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業中に適宜配布する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後
 場所： 授業の教室
 備考・注意事項： 授業日以外の対応に関しては、授業開始時に説明する。

授業計画

回数	授業概要と目的のガイダンス	振り返りシートの作成（自己の生活習慣を見つめ直す）	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	「健康」という観点から自己のライフスタイルを見つめ直し、生活習慣の課題や問題を発見し、なぜ生活習慣が乱れているのかをグループで話し合い、健康のための生活習慣について考える。さらに運動やスポーツの必要性についても理解を深める。	振り返りシートの作成（自己の生活習慣を見つめ直す）	4時間
第2回	体力とは何か？健康とは何か？ 生きていくために必要な「体力」や「健康」とは何か、その概念や定義について理解を深め、どのようにすれば体力を高めたり、健康を増進することができるのかを考える。	振り返りシートの作成（体力や健康の増進方法を考える）	4時間
第3回	スポーツ指導に必要なこととは？	振り返りシートの作成（現代のスポーツが抱える諸問題を考える）	4時間

	<p>スポーツを子どもに指導する場合、何をどのように教えるのか、指導者は哲学を持つことが必要である。近年のスポーツ問題として挙げられる勝利至上主義、バーンアウト、体罰、保護者の過干渉など、さまざまな問題が子どもに与える影響を考える。</p>		
第4回	<p>スポーツ中に起こりうる外傷・障害</p> <p>誤ったトレーニングや過度な運動に伴い、スポーツ障害で悩む場合も多いとされている。特に発育発達の途上である幼児期や児童期において、スポーツ中に起こりやすい外傷や障害を理解することは重要である。さらにスポーツ外傷に対する応急処置などについても考える。</p>	<p>振り返りシートの作成（スポーツ中に起こりうる外傷や障害を考える）</p>	4時間
第5回	<p>心肺蘇生法とAEDの活用</p> <p>スポーツ指導をするうえで、安全管理や安全教育が重要とされている。特にスポーツ中の突然死は問題とされており、その対処方法の理解が求められている。そこで心臓の構造や機能を理解し、正しい心肺蘇生法の方法やAEDの正しい活用について考える。</p>	<p>振り返りシートの作成（心肺蘇生法の実際）</p>	4時間
第6回	<p>ストレスと社会環境</p> <p>現代社会において健康を阻害している社会環境を具体的に考える。特に運動不足、食習慣の乱れ、栄養バランスの乱れ、睡眠不足、ストレス過多に関して考える。</p>	<p>振り返りシートの作成（身の回りのストレスを挙げる）</p>	4時間
第7回	<p>骨の健康と筋肉について</p> <p>生活習慣病の1つとされる骨粗鬆症について学ぶ。具体的に骨の構造や働きを理解し、骨を丈夫にするための運動方法や食事、栄養バランスを学び、具体的な骨密度を高める方法を考える。また、筋肉の構造についても学ぶ。</p>	<p>振り返りシートの作成（骨と筋肉の名称・機能について）</p>	4時間
第8回	<p>高血圧と虚血性心疾患について</p> <p>死亡原因の上位である心疾患について学ぶ。具体的には心臓の構造と機能、血管の仕組み、血液の働き、血圧のメカニズムなどを学び、心疾患や高血圧の予防方法を考える。</p>	<p>振り返りシートの作成（心臓、血管、血液の構造）</p>	4時間
第9回	<p>脳血管疾患について</p> <p>死亡原因の上位である脳血管疾患について学ぶ。具体的には脳の構造と機能について理解を深め、さらに脳機能を高めるための運動や栄養、脳の病気を予防する方法を考える。</p>	<p>振り返りシートの作成（脳の構造）</p>	4時間
第10回	<p>肥満について</p> <p>肥満は血管系の病気を招く危険因子でもある。肥満になるメカニズムを理解し、その予防方法を学ぶ。具体的には、肥満になる生活習慣や内臓脂肪が病気を引き起こす理由を学ぶ。</p>	<p>振り返りシートの作成（脂肪細胞の働きと作用）</p>	4時間
第11回	<p>正しい睡眠習慣とは</p> <p>現代社会は睡眠不足に陥りやすい環境と言われており、睡眠不足が身体に及ぼす影響について学ぶ。具体的には、睡眠不足と肥満の関係、睡眠不足と生活習慣病との関係、効果的な睡眠を知るための睡眠メカニズムについて学ぶ。</p>	<p>振り返りシートの作成（睡眠の質を高めるための方法）</p>	4時間
第12回	<p>ロコモ、サルコペニアとは</p> <p>超高齢社会の日本では、運動器の障害のために移動機能の低下をきたした状態であるロコモ（ロコモティブシンドローム：運動器症候群）や、サルコペニアが大きな問題となっている。そのメカニズムや具体的な予防法について考える。</p>	<p>振り返りシートの作成（日常生活において下肢筋力を高める工夫を考える）</p>	4時間
第13回	<p>効果的な運動やトレーニング</p> <p>健康の維持増進のためにスポーツクラブやフィットネスクラブに通い運動する者が増加してきている。さらにメディアを通じて様々な健康情報が取り上げられているが、その中には誤った方法や健康を害する内容も含まれている。そこで、効果的かつ安全に筋力、筋量を高めるトレーニングや脂肪燃焼や持久力を高めるトレーニングについて学ぶ。</p>	<p>振り返りシートの作成（実践できるトレーニング計画を考える）</p>	4時間
第14回	<p>生活習慣病を予防する運動方法とは</p> <p>これまでの授業を通して生活習慣病の成り立ちや病理学的理解が身に付いているが、それを基に生活習慣病予防に必要な運動方法や健康管理について学ぶ。さらに過度な運動やトレーニングに関する弊害に関しても最近の知見を基に理解を深める。</p>	<p>振り返りシートの作成（ダイエットの弊害）</p>	4時間
第15回	<p>生活習慣病と運動、食事、休養</p> <p>これまでの授業の総括を行い、生活習慣病や疾病予防のための生活習慣確立に向けて、具体的手法を学ぶ。最終的に自己の生活習慣を良くするための具体的な実践方法を作成する。</p>	<p>振り返りシートの作成（生活習慣病を予防するための生活習慣を考える）</p>	4時間

授業科目名	健康科学				
担当教員名	羽藤文彦				
学年・コース等	1～4年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	受講生参加型の講義を行う。				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

スポーツの実践は個人が健康で豊かな社会生活を営む上で極めて重要な要素となっている。スポーツへの参加は社会性・協調性等の人格形成に寄与するのみならず、適度な運動を継続することにより生活習慣病の発症予防や改善が可能であり、心身の健康維持に極めて重要である。本科目では、正常な身体機能とともにスポーツ活動に伴う身体の生理的反応とその意義を講義し、健康の維持・向上のためのスポーツの意義を学習する。また、スポーツに伴う障害や疾病についても講義し、予防や対応の方法も学習する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	身体活動に伴う身体の変化や傷病について理解し、適切な対応ができる。	スポーツ活動に伴う身体的トラブルへの対応策を提示できる。
2．DP1. 幅広い教養やスキル	現代の社会背景をふまえて健康の維持・増進におけるスポーツの意義を理解する。	健康の維持・増進におけるスポーツの意義について説明できる。
汎用的な力		
1．DP8. 意思疎通		質問を理解し、適切な回答が出来る。
2．DP10. 忠恕の心		受講に適した行動を取ることが出来る。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

受講態度	25%	： 授業での問いかけに対する積極性と論理性の2点から評価する。
授業内課題	25%	： 期日が守られているか、論理性のある内容になっているかの観点から評価する。
期末レポート	50%	： レポートの形式、期日が守られているか、また内容に関しては引用文献、理論構築が適切にされているかの観点から評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

スポーツと法 三村寛一編著 嵯峨野書院：健康・スポーツの科学 三村寛一編著 嵯峨野書院：スポーツ・ヘルスツーリズム 原田宗彦・木村和彦編著 大修館書店

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日4時限
 場所： 西館2階研究室
 備考・注意事項： 下記のメールアドレスに質問を送って頂いても結構です。
 大学のメールアドレス： hato@osaka-seikei.ac.jp

授業計画

回数	授業内容	社会環境と身体活動強度の変遷について調べる。	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	健康の維持・増進におけるスポーツの意義 健康の概念ならびに社会環境と身体活動の変化について説明し、現代社会での健康の維持・増進に対するスポーツの意義を概説する。	社会環境と身体活動強度の変遷について調べる。	4時間
第2回	体力とは 体力の分類とその内容について概説する。	一般的に（狭義の）体力という言葉が表す意味と広義の体力の意味を調べる。	4時間
第3回	身体発育とその特性 乳幼児期から老年期の身体発育・老化について概説し、各年齢層に適切な活動様式、スポーツ種目などについて説明する。	各年齢層での身体機能の発育・老化の特性について調べる。	4時間
第4回	身体運動の機構 身体運動がどのようにして行われるかを神経系、筋骨格系ならびに感覚器系の関連について概説する。	筋肉・骨格・関節の働き、大脳・小脳・脊髄の部位と感覚の種類について調べる。	4時間
第5回	身体運動と循環 心血管系と運動との関連について説明する。	心臓の構造と血液の成分・役割について調べる。	4時間

第6回	身体運動と呼吸 呼吸器系と運動との関連について説明する。	気体の特性、呼吸器系の構造について調べる。	4時間
第7回	身体運動と代謝 身体運動においてどのような代謝が行われるかを説明する。	栄養素とエネルギー産生機構について調べる。	4時間
第8回	有酸素運動と無酸素運動 有酸素運動と無酸素運動における身体活動の相違を説明する。	エネルギー産生と酸素の関連について調べる。	4時間
第9回	スポーツと栄養 スポーツにおける栄養補給の重要性について説明する。	栄養素と身体の構成・機能の関連について調べる。	4時間
第10回	筋力と技巧性 筋力の分類について説明し、技巧性と神経系や感覚器系の関連について概説する。	身体運動の機構について復習し、小脳と感覚について調べる。	4時間
第11回	トレーニングの分類と特徴 トレーニングの分類について説明し、トレーニングの原理・原則と各種トレーニングの特徴を概説する。	トレーニングの種類とそれぞれの特性を調べる。	4時間
第12回	成人のスポーツ活動中に多いケガや病氣 事故の発生要因について説明し、潜在的危険の存在について説明し、運動中に起こり易い病氣や怪我とその予防策を概説する。	各自が経験あるいは居合わせた怪我や事故についての状況を授業内で発表できるようにまとめる。	4時間
第13回	発育発達期に多い怪我や病氣 成人と異なり、乳児期から青年期にかけての発育発達期に起こりやすい怪我や病氣について、身体発育の特性を踏まえて概説する。	身体の発達発育の特性について復習し、まとめを作成する。	4時間
第14回	救急処置 意識の確認、呼吸の確認について説明し、心臓マッサージや人工呼吸法ならびにAEDの使用法について概説する。	緊急時に冷静に救急処置が出来るようにイメージトレーニングによる復習を充分に行う。	4時間
第15回	健康の維持・増進に対する施策の現状と今後の課題 健康の維持・増進に対する施策の現状について概説し、今後の課題について意見交換を行う。	健康の維持・増進のため実施されている施策について調べ、その実施状況や問題点についてまとめる。	4時間

授業科目名	スポーツ演習Ⅰ				
担当教員名	熊野陽人・松尾貴司				
学年・コース等	3年	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

近年「運動不足」「体力の低下」「身体活動量の低下」が各年代の生活習慣病の原因であると多くの研究で明らかにされ、改善しなければいけない問題とされています。また初等教育の観点からは、「運動が嫌い」・「スポーツが苦手」な幼児・児童が増加しており、初等教育として運動を指導だけではなく、楽しさを伝える指導力が重要となってきました。体育実技では体力強化・身体づくりはもちろんのこと、運動やスポーツの楽しさを体感し、子ども達に楽しさを伝えられる人間を形成します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

バレーボールなどの一般的なスポーツだけではなく、キンボールなどのニュースポーツも行うことで、新しいスポーツに親しむ。さらにルールを理解し、学んだ知識を生かすために汎用的な技能や実践能力を磨く。

目標：

教育者として、自身の体力の維持増進を図ると同時に、様々な運動の特性を知り、運動技能の向上を図る。

汎用的な力

- 1 . DP6. 行動・実践
- 2 . DP8. 意思疎通
- 3 . DP9. 役割理解・連携行動

健康や体力の維持増進、技術上達等を各人が体験する。

様々な種目を通してコミュニケーション能力を育てる。

実技を通し考える力を体得する。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業への取り組み状況	60%	： 各回授業への積極的参加（作戦・立案の積極性や試合中の動き）や授業態度（受講マナー、携帯電話の使用や集合時に集まらないなど授業の妨げになる行為は減点）などをもとに総合評価する。
授業中の課題レポート	20%	： 指定された内容に沿い、正確な文書表現および容易に理解できるよう、まとめられているかにより評価する。
期末レポート	20%	： 15回の授業終了後にレポートを実施する。指定された内容に沿い、正確な文書表現および容易に理解できるよう、まとめられているかにより評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

適宜資料を配布する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。
なお、教育学部指定のトレーニングウェアとシューズを着用し、授業開始までに更衣を済ませておくこと。
また、腕時計やピアスなどの装飾品（眼鏡含む）は実技中に大きな損傷を招く恐れがあるため、全て取り外すこと。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業の教室

備考・注意事項： 必要に応じて声を掛けて下さい。時間調整をします。

授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	講義目的と評価法についてオリエンテーション 授業の進め方や成績評価の方法、受講マナーについてガイダンスを行う。また、近年において何故運動が重要視されているのか、さらに、子ども達になぜ運動が必要なのか、といった運動を何故するのかという根本を理解する。	ドッジボールのルールを理解する 1時間
第2回	ドッジボール 授業の始めに、ストレッチの大切さおよびその簡単なストレッチの方法を学ぶ。様々な形式のドッジボールを楽しみながら、ボールを投げる動作や周囲を見渡す力を養う。また、ルールを守る態度やチームで運動を行う楽しさを実感する。	バスケットボールのルールを理解する 1時間
第3回	バスケットボール（1）基礎的技能	ルールを再確認する、さらに戦術について調べる 1時間

	<p>ルールの概略を説明し、理解を促す。また、ボールコントロール、ハンドリング技術の向上を目的にパス・ドリブル・リバウンドなどの基礎的な動きを練習する。講義の後半からは班対抗のゲームを行う。試合前に各班で戦略の構築時間を設け、プレイ中動きの意識や協調性・主体性を養う。</p>		
第4回	<p>バスケットボール（２）ミニゲーム 再度ルール説明を行う。シュート技術の向上を目的に、レイアップシュート・バックシュート・ジャンプシュート・セットシュートなどの練習を行う。講義の後半からは班対抗のゲームを行う。試合前に各班で戦略の構築時間を設け、プレイ中動きの意識や協調性・主体性を養う。</p>	バレーボールのルールを理解する	1時間
第5回	<p>バレーボール（１）基礎的技能 ルールの概略を説明し、理解を促す。また、バレーボールの基本技術の向上を目的にオーバーハンドパス・アンダーハンドパス・スパイク・サーブなどの動きを練習する。講義の後半からは班対抗のゲームを行う。試合前に各班で戦略の構築時間を設け、プレイ中動きの意識や協調性・主体性を養う。</p>	ルールを再確認する、さらに戦術について調べる	1時間
第6回	<p>バレーボール（２）ゲーム 再度ルール説明を行う。チーム戦術の体験を目的に、フォーメーションの確認やコンビネーションの練習を行う。講義の後半からは班対抗のゲームを行う。試合前に各チームで戦略の構築時間を設け、プレイ中動きの意識や協調性・主体性を養う。</p>	フットサルのルールを理解する	1時間
第7回	<p>フットサル（１）基礎的技能 ルールの概略を説明し、理解を促す。また、基本技術の向上を目的にキックの仕方（インサイド・トゥー）・ドリブル・などの基礎的な動きを練習する。さらに、2対1、3対2のときのシュートパスといった攻撃基本戦術を知る。講義の後半からは班対抗のゲームを行う。試合前に各班で戦略の構築時間を設け、プレイ中動きの意識や協調性・主体性を養う。</p>	ルールを再確認する、さらに戦術について調べる	1時間
第8回	<p>フットサル（２）ゲーム 再度ルール説明を行う。攻撃のフォーメーションや防御のフォーメーションなどの説明を行いチームごとの戦術を工夫する一助とする。講義の後半からは5対5でのゲームを行う。試合前に各チームで戦略の構築時間を設け、プレイ中動きの意識や協調性・主体性を養う。</p>	バドミントンのルールを理解する	1時間
第9回	<p>バドミントン（１）基礎的技能 ルールの概略を説明し、理解を促す。ストローク技術の向上を目的にスマッシュ・クリア・ドライブ・ドロップなどの練習を行う。講義の後半からはダブルスでのゲームを行う。試合前に各チームで戦略の構築時間を設け、プレイ中動きの意識や協調性・主体性を養う。</p>	ルールを再確認する、さらに戦術について調べる	1時間
第10回	<p>バドミントン（２）ゲーム 再度ルール説明を行う。ストローク技術の向上を目的に、ドロップ・カット・ヘアピンロブなどの練習を行う。講義の後半からはダブルスでのゲームを行う。試合前に各チームで戦略の構築時間を設け、プレイ中動きの意識や協調性・主体性を養う。</p>	キンボールのルールを理解する	1時間
第11回	<p>キンボール スポーツが楽しいと思ったことがない学生や体力差がある人とスポーツを一緒に楽しむ方法を知らない学生に誰でも楽しめるニュースポーツであるキンボールを紹介し、楽しさと達成感を体験してもらう。また、仲間と行うことで得られる喜びを体験する。</p>	ドッジビーのルールを理解する	1時間
第12回	<p>ドッジビー スポーツが楽しいと思ったことがない学生や体力差がある人とスポーツを一緒に楽しむ方法を知らない学生に誰でも楽しめるニュースポーツであるドッジビーを紹介し、楽しさと達成感を体験してもらう。また、仲間と行うことで得られる喜びを体験する。</p>	アルティメットのルールを理解する	1時間
第13回	<p>アルティメット ルールの概略を説明し、理解を促す。また、ディスクの投げ方の向上を目的にバックハンドスロー・オーバーハンドスロー・カーブなどの動きを練習する。講義の後半からは班対抗のゲームを行う。試合前に各班で戦略の構築時間を設け、プレイ中動きの意識や協調性・主体性を養う</p>	卓球のルールを理解する	1時間
第14回	<p>卓球 ルールの概略を説明し、理解を促す。また、卓球の基本技術の向上を目的にフォアハンド・バックハンドドライブなどの動きを練習する。講義の後半からはダブルス対抗のゲームを行う。試合前に各ペアで戦略の構築時間を設け、プレイ中動きの意識や協調性・主体性を養う。</p>	授業を振り返り、これまでの内容についてまとめる	1時間
第15回	<p>総括と質疑応答 自身の体力と健康意識について振り返る。</p>	自身の体力向上について考察する	1時間

授業科目名	スポーツ演習Ⅱ				
担当教員名	熊野陽人・松尾貴司				
学年・コース等	4年	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

近年「運動不足」「体力の低下」「身体活動量の低下」が各年代の生活習慣病の原因であると多くの研究で明らかにされ、改善しなければいけない問題とされています。また初等教育の観点からは、「運動が嫌い」・「スポーツが苦手」な幼児・児童が増加しており、初等教育として運動を指導だけではなく、楽しさを伝える指導力が重要となってきました。体育実技では体力強化・身体づくりはもちろんのこと、運動やスポーツの楽しさを体感し、子ども達に楽しさを伝えられる人間を形成します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

バレーボールなどの一般的なスポーツだけではなく、キンボールなどのニュースポーツも行うことで、新しいスポーツに親しむ。さらにルールを理解し、学んだ知識を生かすために汎用的な技能や実践能力を磨く。

目標：

教育者として、自身の体力の維持増進を図ると同時に、様々な運動の特性を知り、運動技能の向上を図る。

汎用的な力

- 1 . DP6. 行動・実践
- 2 . DP8. 意思疎通
- 3 . DP9. 役割理解・連携行動

健康や体力の維持増進、技術上達等を各人が体験する。

様々な種目を通してコミュニケーション能力を育てる。

実技を通し考える力を体得する。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業への取り組み状況	60%	： 各回授業への積極的参加（作戦・立案の積極性や試合中の動き）や授業態度（受講マナー、携帯電話の使用や集合時に集まらないなど授業の妨げになる行為は減点）などをもとに総合評価する。
授業中の課題レポート	20%	： 指定された内容に沿い、正確な文書表現および容易に理解できるよう、まとめられているかにより評価する。
期末レポート	20%	： 15回の授業終了後に、指定された内容に関するレポートを実施する。レポート内容に沿い、正確な文書表現および容易に理解できるよう、まとめられているかにより評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

適宜資料を配布する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。
なお、教育学部指定のトレーニングウェアとシューズを着用し、授業開始までに更衣を済ませておくこと。
また、腕時計やピアスなどの装飾品（眼鏡含む）は実技中に大きな損傷を招く恐れがあるため、全て取り外すこと。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業の教室

備考・注意事項： 必要に応じて声を掛けて下さい。時間調整をします。

授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	講義目的と評価法についてオリエンテーション 授業の進め方や成績評価の方法、受講マナーについてガイダンスを行う。また、近年において何故運動が重要視されているのか、さらに、子ども達になぜ運動が必要なのか、といった運動を何故するのかという根本を理解する。	ドッジボールのルールを理解する 1時間
第2回	ドッジボール 授業の始めに、ストレッチの大切さおよびその簡単なストレッチの方法を学ぶ。様々な形式のドッジボールを楽しみながら、ボールを投げる動作や周囲を見渡す力を養う。また、ルールを守る態度やチームで運動を行う楽しさを実感する。	バスケットボールのルールを理解する 1時間
第3回	バスケットボール（1）基礎的技能	ルールを再確認する、さらに戦術について調べる 1時間

	<p>ルールの概略を説明し、理解を促す。また、ボールコントロール、ハンドリング技術の向上を目的にパス・ドリブル・リバウンドなどの基礎的な動きを練習する。講義の後半からは班対抗のゲームを行う。試合前に各班で戦略の構築時間を設け、プレイ中動きの意識や協調性・主体性を養う。</p>		
第4回	<p>バスケットボール（２）ミニゲーム 再度ルール説明を行う。シュート技術の向上を目的に、レイアップシュート・バックシュート・ジャンプシュート・セットシュートなどの練習を行う。講義の後半からは班対抗のゲームを行う。試合前に各班で戦略の構築時間を設け、プレイ中動きの意識や協調性・主体性を養う。</p>	バレーボールのルールを理解する	1時間
第5回	<p>バレーボール（１）基礎的技能 ルールの概略を説明し、理解を促す。また、バレーボールの基本技術の向上を目的にオーバーハンドパス・アンダーハンドパス・スパイク・サーブなどの動きを練習する。講義の後半からは班対抗のゲームを行う。試合前に各班で戦略の構築時間を設け、プレイ中動きの意識や協調性・主体性を養う。</p>	ルールを再確認する、さらに戦術について調べる	1時間
第6回	<p>バレーボール（２）ゲーム 再度ルール説明を行う。チーム戦術の体験を目的に、フォーメーションの確認やコンビネーションの練習を行う。講義の後半からは班対抗のゲームを行う。試合前に各チームで戦略の構築時間を設け、プレイ中動きの意識や協調性・主体性を養う。</p>	フットサルのルールを理解する	1時間
第7回	<p>フットサル（１）基礎的技能 ルールの概略を説明し、理解を促す。また、基本技術の向上を目的にキックの仕方（インサイド・トゥー）・ドリブル・などの基礎的な動きを練習する。さらに、2対1、3対2のときのシュートパスといった攻撃基本戦術を知る。講義の後半からは班対抗のゲームを行う。試合前に各班で戦略の構築時間を設け、プレイ中動きの意識や協調性・主体性を養う。</p>	ルールを再確認する、さらに戦術について調べる	1時間
第8回	<p>フットサル（２）ゲーム 再度ルール説明を行う。攻撃のフォーメーションや防御のフォーメーションなどの説明を行いチームごとの戦術を工夫する一助とする。講義の後半からは5対5でのゲームを行う。試合前に各チームで戦略の構築時間を設け、プレイ中動きの意識や協調性・主体性を養う。</p>	バドミントンのルールを理解する	1時間
第9回	<p>バドミントン（１）基礎的技能 ルールの概略を説明し、理解を促す。ストローク技術の向上を目的にスマッシュ・クリア・ドライブ・ドロップなどの練習を行う。講義の後半からはダブルスでのゲームを行う。試合前に各チームで戦略の構築時間を設け、プレイ中動きの意識や協調性・主体性を養う。</p>	ルールを再確認する、さらに戦術について調べる	1時間
第10回	<p>バドミントン（２）ゲーム 再度ルール説明を行う。ストローク技術の向上を目的に、ドロップ・カット・ヘアピンロブなどの練習を行う。講義の後半からはダブルスでのゲームを行う。試合前に各チームで戦略の構築時間を設け、プレイ中動きの意識や協調性・主体性を養う。</p>	キンボールのルールを理解する	1時間
第11回	<p>キンボール スポーツが楽しいと思ったことがない学生や体力差がある人とスポーツを一緒に楽しむ方法を知らない学生に誰でも楽しめるニュースポーツであるキンボールを紹介し、楽しさと達成感を体験してもらう。また、仲間と行うことで得られる喜びを体験する。</p>	ドッジビーのルールを理解する	1時間
第12回	<p>ドッジビー スポーツが楽しいと思ったことがない学生や体力差がある人とスポーツを一緒に楽しむ方法を知らない学生に誰でも楽しめるニュースポーツであるドッジビーを紹介し、楽しさと達成感を体験してもらう。また、仲間と行うことで得られる喜びを体験する。</p>	アルティメットのルールを理解する	1時間
第13回	<p>アルティメット ルールの概略を説明し、理解を促す。また、ディスクの投げ方の向上を目的にバックハンドスロー・オーバーハンドスロー・カーブなどの動きを練習する。講義の後半からは班対抗のゲームを行う。試合前に各班で戦略の構築時間を設け、プレイ中動きの意識や協調性・主体性を養う。</p>	卓球のルールを理解する	1時間
第14回	<p>卓球 ルールの概略を説明し、理解を促す。また、卓球の基本技術の向上を目的にフォアハンド・バックハンドドライブなどの動きを練習する。講義の後半からはダブルス対抗のゲームを行う。試合前に各ペアで戦略の構築時間を設け、プレイ中動きの意識や協調性・主体性を養う。</p>	授業を振り返り、これまでの内容についてまとめる	1時間
第15回	<p>総括と質疑応答 自身の体力と健康意識について振り返る。</p>	自身の体力向上について考察する	1時間

授業科目名	●キャリアデザイン2				
担当教員名	門脇英純・福本章・亀田峻宣・山本幸一				
学年・コース等	2年	開講時期	前期+集中	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	門脇：コンサルティング会社でプランナーとして、企業からの依頼を受けて事業開発、製品企画、広報戦略、市場調査を担当。（全15回）				

授業概要

社会で実践する力、協働できる力を養い、学生から社会人に意識改革を図り、社会人としての姿勢を身につける。企業や地域が提供する課題に受講者全体が取り組む。学修活動を通し、学びの手法、分析方法、課題解決法、マネジメント、チームワーク、コミュニケーション、プレゼンテーションなど、キャリアに必要な基礎的能力を能動的に学ぶ。芸術学部に対応した専門に特化したPBL (Project-Based Learning) として、専門知識と技能を応用し、現実の課題に活かすことで、知識や技能を定着させ、専門性と実社会とのつながりを体験的に学ぶ。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

クリエイティブな仕事に必要な社会人基礎力を身につける

目標：

集団やチームの中で固有の役割を果たすことができる。
論理的な考え、課題を明らかにすることができる。
主体性を持ち、積極的に行動することができる。
困難な課題にも望み、最後までやり遂げることができる。

汎用的な力

- DP4. 課題発見
- DP5. 計画・立案力
- DP6. 行動・実践
- DP9. 役割理解・連携行動
- DP10. 忠恕の心

提示された問題点を洗い出し解決の目標を定めることができる
独自性・創造性があり実行可能な企画書を作成することができる
チーム活動の内容を理解し主体的に取り組むことができる
場の流れを理解し、適切に協働することができる
相手が伝えたいことを共感的に理解し、自分の考えや思いを伝えることができる

学外連携学修

有り（連携先：西日本旅客鉄道㈱、㈱ジェイコム関西支社）

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・見学、フィールドワーク
- ・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

個人評価	ミニッツペーパー	20%	： 毎回の授業終了時の振り返りレポート。KPT法を使う（KEEP：今回できてよかったこと、PROBLM：今回できなかったこと、課題だと感じたこと、TRY：今後に向けてチャレンジすること）が適切に記載されているか。
個人評価	フィードバックシート	15%	： グループメンバーに対するコメントを記述する。メンバーの活動を理解しコミュニケーションが取れているかを評価する。
個人評価	課題発見レポート	10%	： 必要なデータを読み取り、的確にまとめ、問題点を洗い出し解決の目標を定めることができるかを評価する。
グループ評価	企画提案シート	20%	： 独自性・創造性があり実行可能な企画書であるか。状況や場面に応じ、計画変更・修正の必要性に気づき、指導者の承諾を得て、変更・修正できたか。グループ全員対象
グループ評価	プレゼンテーション	25%	： 最終プレゼンテーションにおいて、問題解決企画案を論理的で説得力のある内容と、効果的なスライドと演出で提示し、聴衆の理解と共感を得ることができた。グループ全員対象
最終：	課題レポート	10%	： 最終プレゼンテーションを終了し、振り返りとしてレポートを課す。評価の視点は、①PBLとしての学びに視点、②気付いた課題、③今後のアクションプランについて具体的な視点があれば加点とする。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

なるほどデザイン エムディエヌコーポレーション
デザインマネジメント 日経BP社
経営とデザインの幸せな関係 日経BP社

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
原則すべての授業に出席することが前提です。欠席した場合は理由を教員に連絡してください。開始時は着席が基本です。配布されるテキストは毎回持参してください。マナーを重視します。授業態度の悪い学生には退出を命じます。この授業はチームで考え、自分達で行動する授業です。受ける教育から参画する教育へ頭を切り替えてください。積極的に授業に関わりながら「学ぶ楽しさ」を知る授業にしてください。企業訪問、最終プレゼンテーションはスーツで参加すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜日 2限
場所： 南館 1階学部長室
備考・注意事項： 火2限（門脇）、水3限（福本）をオフィスアワーとしている。授業前後の質問も歓迎する。その他の連絡の取り方としてEメールで対応する。門脇 (kadowaki@g.osaka-seikei.ac.jp) 福本 (hukumoto-a@osaka-seikei.ac.jp) Eメール件名としては「キャリアデザイン2について（氏名、学籍番号、グループNO）」とすること。

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間	
第1回	プログラムの目的の説明&チームづくり&PBLにおける研究倫理 第1回から第3回は、土曜日に連続で行います。 この授業の目的/企業側からテーマを提示する。13:00~14:30 チーム作り/企業に関する情報・データを提示する。 PBL授業での研究倫理について学ぶ。	インターネットで大学のPBL学修事例3つ以上調べて、本授業で必要な能力、技術を考えてください。	4時間
第2回	企業に関する情報提示&課題の把握 企業に関する情報・データを提示する/問題の本質を知る。株式会社ケイテックよりミッション発表 14:40~16:10 ①各企業代表者によるプレゼンテーション実施 ②希望ミッションの選択と希望から各チームのミッション選考	連携企業の企業情報を調べ学修してください。	4時間
第3回	【座学】 企画の基礎を学ぶ 企画の考え方・作り方を学ぶ。(基本のフレームを作成)、必要な情報を洗い出し、役割を決める。16:20~17:50 企業上から、各チームが遂行するミッションを決定(ワークショップ開始) ①企画の考え方・作り方を学ぶ(基本フレームワークを作成) ②必要な情報を洗い出し、役割を決める	チームで行った企画の考え方・作り方を自身で復習してください。考えた企画で、調査すべき点を5点以上あげてください。	4時間
第4回	リサーチ・調査 役割を分担し課題を調査する。 チーム内で役割を分担し課題を調査する。 (ここで企業訪問・店舗訪問、競合店舗訪問などができる事が望ましい)	現場で見たこと感じたことを文章化してください	4時間
第5回	リサーチ・調査 役割を分担し課題を調査する チーム内で役割を分担し課題を調査する。 (ここで企業訪問・店舗訪問、競合店舗訪問などができる事が望ましい)	現場で感じた課題点、改善点を書き出してください。次回の授業でプレゼンテーションできるようにまとめておいてください。	4時間
第6回	結果の報告 プランの作成 各自が調べた情報を基に基礎となるプランを作成する。	チーム内で出た課題が実効性、新規性がある企画なのかを、インターネットなどで情報を検索し、同様な事例を調査してください	4時間
第7回	企画作成 情報収集 各自が調べた情報を基にプランを作成する (企画の根拠となる情報やデータを洗い出し役割を決める)	連携企業から出されているテーマを再度、確認して新規性、実効性、コストを考えられている企画であるか検証してください。	4時間
第8回	【座学】 プレゼンテーションを学ぶ ①プレゼンテーションの基礎を学ぶ ②自分たちの企画をアウトプットする方法をまとめる	論理的にプレゼンテーションする方法を使い身の回りのもので5回練習を行ってください。	4時間
第9回	企画書作成& プレゼンテーション準備 企画書を完成し、プレゼンテーションの準備を行う。	中間報告を前に、パワーポイントが見やすく設計されているか工夫してください	4時間
第10回	中間報告1 企画の学内中間プレゼンテーションを行う。(6分)、アイデアの不足部分や課題を明確にする。 講師、他チームの学生からフィードバックを受けます。フィードバックを受けた内容を改善することで、企画、プレゼンテーションが大幅に改良することができます。	教員より指摘された問題点を改善するためにチームで話し合いを行ってください。	4時間
第11回	中間報告2 企画の学内中間プレゼンテーションを行う。(6分)、アイデアの不足部分や課題を明確にする。 中間発表を行うことで、プレゼンテーションに慣れ、本番のプレゼンテーションの質を向上させることができます	企画の問題点を明確にして、チームで意見が言えるように文章でまとめてください	4時間
第12回	企画の課題の発見と企画修正 成果発表に向け、プランを修正し必要な情報を集める。 講師、他チームから受けたフィードバックの内容を記入してください。	企画の改善点、プレゼンテーションの問題点をチームで話し合い最終発表に向けて準備を行う。	4時間
第13回	最終プレゼンテーション1 成果発表 ①企画のプレゼンを行う(8分1組)、成果発表、審査委員会 ②ルーブリックを活用し相互評価を行う。チームの学修振り返り(PDCAを知る) ③今後の課題を整理	各チームの発表の良かった点(アイデア、発表内容、発表資料)見学メモで学修の振り返りを行ってください	4時間
第14回	最終プレゼンテーション2 成果発表 ①企画のプレゼンを行う(8分1組)、成果発表、審査委員会 ②ルーブリックを活用し相互評価を行う。チームの学修振り返り(PDCAを知る) ③今後の課題を整理	各チームの発表の良かった点(アイデア、発表内容、発表資料)見学メモで学修の振り返りを行ってください。	4時間
第15回	最終プレゼンテーション3、ルーブリック 相互評価&総括 今後の課題を整理、チーム学修、個人学修の振り返りシート作成 チーム学修振り返り/PDCAを知る。今後の課題を整理 ①企画のプレゼンを行う(8分1組)、成果発表、審査委員会 ②ルーブリックを活用し相互評価を行う。チームの学修振り返り(PDCAを知る) ③今後の課題を整理	各チームの発表の良かった点(アイデア、発表内容、発表資料)見学メモで学修の振り返りを行ってください。	4時間

授業科目名	キャリアデザイン2				
担当教員名	山崎哲弘・島雅則・田村匡・大島博文・和足憲明・小田勇樹・亀田峻宣・山本幸一				
学年・コース等	2年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

社会で実践する力、協働できる素養を踏まえて学生から社会人に意識改革を図り、社会人としての姿勢を身につける。企業や地域が提供する課題に受講者全体が取り組む。学習活動を通し学生は学習手法、分析方法、課題解決法、マネジメント、チームワーク、コミュニケーション、プレゼンテーションなどキャリアに必要なコンピテンシーを能動的に学ぶ。マネジメント学部に対応した専門に特化したPBL (Project-Based Learning) として、専門知識を応用し現実の課題に生かすことで、その知識を定着させ専門知識と実社会とのつながりを学ぶ。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	仕事に必要な社会人基礎力を身につける。	集団やチームの中で固有の役割を果たすことができる。
汎用的な力		
1 . DP4. 課題発見		提示された問題点を洗い出し解決の目標を定めることができる。
2 . DP5. 計画・立案力		独自性・創造性があり実行可能な企画書を作成することができる。
3 . DP6. 行動・実践		チーム活動の内容を理解し主体的に取り組むことができる。
4 . DP9. 役割理解・連携行動		場の流れを理解し、適切に協働することができる。
5 . DP10. 忠恕の心		相手が伝えたいことを共感的に理解し、自分の考えや思いを伝えることができる。

学外連携学修

有り (連携先：2社の企業)

授業方法 (アクティブラーニングを促す方法について)

- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・見学、フィールドワーク
- ・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
個人評価 ミニツペーパー	： 毎回の授業終了時の振り返りレポートです。KPT法を使う。KEEP：今回できてよかったこと、PROBLM:今回できなかったこと、課題だと感じたこと、TRY:今後に向けてチャレンジしている。
10%	
個人評価 フィードバックシート	： 受講生から受講生全体に対してコメントするものである。メンバーの活動を理解しコミュニケーションを取っている。
15%	
個人評価 課題発見レポート	： 必要なデータを読み取り的確にまとめ、問題点を洗い出し解決の目標を定めることができる。
10%	
期末レポート	： レポート内容は授業時間内に通知する。記述内容の充実度と論理性、説得性の観点から評価する。
20%	
グループ評価 企画提案シート	： 独自性・創造性があり実行可能な企画書を作成することができる。状況や場面に応じ、計画変更・修正の必要性に気づき、指導者の承諾を得、変更・修正できる。
20%	
グループ評価 プレゼンテーション	： シナリオの状況に適した、妥当な最終解決策を提案している。解決策をより効果的に実行するために、追加情報の必要性に気付いている。
25%	

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

発想法入門 (日経文庫)、企画の立て方 (日経文庫)
 コトラーのマーケティング・コンセプト フィリップ・コトラー (著)
 コトラーのマーケティング3.0 ソーシャル・メディア時代の新法則 フィリップ・コトラー (著)

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
 原則すべての授業に出席することが前提である。欠席した場合は理由を教員に連絡してください。開始時は着席が基本である。配布されるテキストは毎回持参してください。マナーを重視する。この授業は協働を重視するため、授業態度の悪い学生には退席を命じる。この授業はチームで考え、自分達で行動する授業である。受ける教育から参画する教育へ頭を切り替えてください。積極的に授業に関わりながら「学ぶ楽しさ」を知る授業にしてください。企業訪問、最終プレゼンテーションはスーツで参加すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 金曜日 2限
 場所： 西館2階研究室

備考・注意事項： 金曜日2限をオフィスアワーとしているが、授業前後の質問も歓迎する。その他の連絡の取り方としてEメールで対応する。(yamasaki-t@osaka-seikei.ac.jp) Eメール件名としては「キャリアデザイン2について(氏名、学籍番号、グループNO)」とすること。

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<p>プログラムの目的の説明&チームづくり</p> <p>この授業の目的および進め方について、全体説明を行い、学科横断によるチーム編成を実施する。 ・全体説明：300教室</p>	<p>インターネット等で、大学のPBL授業の事例を調べ、必要な能力や行動を考える。また課題提供企業に関する情報・データを調べる。</p> <p>4時間</p>
第2回	<p>課題提供事業者からの課題の提示</p> <p>課題提供事業者からプレゼンテーションを受ける。 提示されたミッションから希望ミッションを選択する。 ・全体説明：300教室</p>	<p>課題提供企業から提示されたミッションについて、先進的に取り組んでいる企業事例を調べ、取り組み内容をまとめる。</p> <p>4時間</p>
第3回	<p>【座学】 企画の基礎を学ぶ</p> <p>①企画の基本的な考え方や立案の仕方を学ぶ(基本のフレームワークの作成)。 ②取り組みの方向性を決め、チーム内での役割分担を行う。 ・300教室</p>	<p>チームで取り組む企画案について、その全体像を再確認するとともに、自身の担当する分野について必要な情報を収集する。</p> <p>4時間</p>
第4回	<p>事前調査① 役割を分担し課題を調査する</p> <p>チーム内で役割を分担し、担当する課題について、インターネット等で調査する。 ・テーマごとに各教室に分かれる。</p>	<p>現地調査やヒアリング調査において気を付けなければならない点、準備しておかなければならない点を事前に調べ、まとめておく。</p> <p>4時間</p>
第5回	<p>事前調査② 調査項目を設定する</p> <p>現地調査での調査項目またはヒアリング項目を設定する。 ・テーマごとに各教室に分かれる。</p>	<p>現地調査やヒアリング調査において気を付けなければならない点、準備しておかなければならない点を事前に調べ、まとめておく。</p> <p>4時間</p>
第6回	<p>現地調査① 役割を分担し課題を調査する</p> <p>チーム内で役割を分担し、担当する課題について調査する【学外授業】。</p>	<p>現地で見えたこと、感じたこと、また課題点や改善点をまとめる。</p> <p>4時間</p>
第7回	<p>現地調査② 役割を分担し課題を調査する</p> <p>チーム内で役割を分担し、担当する課題について調査する【学外授業】。</p>	<p>現地で見えたこと、感じたこと、また課題点や改善点をまとめる。</p> <p>4時間</p>
第8回	<p>調査結果の共有と企画骨子の作成</p> <p>プレゼンテーションの基本を学ぶ【座学】 各自が調査した内容をもとに、企画の基礎となる骨子案を作成する。 (ここまでに企業訪問・店舗訪問などの現地調査を終了することが望ましい) ・300教室</p>	<p>チームで共有された骨子案について、新規性や実現性があるか、インターネット等で先行事例を調べる。</p> <p>4時間</p>
第9回	<p>企画書の作成</p> <p>企画書の作成を行う。 ・テーマごとに各教室に分かれる。</p>	<p>企画に不足している点についてインターネット等で調査する。</p> <p>4時間</p>
第10回	<p>プレゼンテーション準備</p> <p>企画書を完成させ、プレゼンテーションの準備を行う。 ・テーマごとに各教室に分かれる。</p>	<p>プレゼンテーション用のパワーポイントが見やすく、伝わりやすくなっているかを確認し、プレゼンの練習を行う。</p> <p>4時間</p>
第11回	<p>企画提案①</p> <p>課題提供事業者に対し企画案のプレゼンテーションを実施する【学外授業】。</p>	<p>課題提供事業者より指摘された問題点を改善するためにチームで話し合いをする。</p> <p>4時間</p>
第12回	<p>企画提案②</p> <p>課題提供事業者に対し企画案のプレゼンテーションを実施する【学外授業】。</p>	<p>課題提供事業者より指摘された問題点を改善するためにチームで話し合いをする。</p> <p>4時間</p>
第13回	<p>最終企画案の修正</p> <p>課題提供事業者からの指摘をもとに、成果発表に向け、プランを修正し、また必要な情報を集める。 ・テーマごとに各教室に分かれる。</p>	<p>企画の改善点、プレゼンテーションの問題点をチームで話し合いを行う。</p> <p>4時間</p>
第14回	<p>最終プレゼンテーション1</p> <p>成果発表 ①各ミッション別に企画プレゼンを行う(5分1組) ②チームの学修振り返り(PDCAを知る) ③今後の課題を整理</p>	<p>各チームの発表の良かった点(アイデア、発表内容、発表資料)見学メモで学修の振り返りを行ってください。</p> <p>4時間</p>
第15回	<p>最終プレゼンテーション2&総括 今後の課題を整理</p> <p>チーム学習振り返り/PDCAを知る。今後の課題を整理：300教室 ①優秀チーム企画のプレゼンを行う(8分1組)、成果発表、審査委員会 ②チームの学修振り返り(PDCAを知る) ③今後の課題を整理</p>	<p>各チームの発表の良かった点(アイデア、発表内容、発表資料)見学メモで学修の振り返りを行ってください。</p> <p>4時間</p>

授業科目名	★キャリアデザイン3				
担当教員名	門脇英純・福本章・亀田峻宣・山本幸一				
学年・コース等	3年	開講時期	後期+集中	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	門脇：コンサルティング会社で、企業からの依頼を受けて事業開発、製品企画、広報戦略、市場調査を担当。京都府長岡京総合計画策定委員、宮津リゾート構想（国交相）、愛媛県今治地場産業振興センター認定事業アドバイザーなど行政の政策立案業務を務めた。（全15回）				

授業概要

社会で実践する力、協働できる力を養い、学生から社会人に意識改革を図り、社会人としての姿勢を身につける。行政が提供する課題に受講者全体が取り組む課題解決型学習。PBLに取り組むことで、調査法、分析方法、課題解決法、マネジメント、チームワーク、コミュニケーション、プレゼンテーションなどを能動的に学ぶ。芸術学部の特長に特化したPBL（Problem-based learning）、企画を実現させるため資金獲得（クラウドファンディング）実践方法など、専門知識を応用し現実の課題に活かすことで、知識を定着させる。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	仕事に必要な社会人基礎力を身につけ、課題を発見し解決に向けて進んで取り組む力	集団やチームのなかで自分の役割を果たすことができる。 論理的な考え、課題を明らかにすることができる。 主体性を持ち、積極的に行動することができる。 困難な課題にも望み、最後までやり遂げることができる。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		問題点を洗い出し解決の目標を定めることができる
2．DP5. 計画・立案力		独自性、創造性があり、実行可能な企画書を作成することができる
3．DP6. 行動・実践		チーム活動の内容を理解し、主体的に取り組むことができる
4．DP9. 役割理解・連携行動		場の流れを理解し、適切に協働することができる
5．DP10. 忠恕の心		相手が伝えたいことを共感的に理解し、自分の考えや思いを伝えることができる

学外連携学修

有り（連携先：大阪市東淀川区）

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）
- ・ディベート、討論
- ・シミュレーション型学習（ロールプレイ、ゲーム型学習など）
- ・見学、フィールドワーク
- ・課題解決学習（PBL）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

個人評価	ミニッツペーパー	20%	： 毎回の授業終了時の振り返りレポート。KPT法（KEEP：今回できてよかったこと、PROBLEM：今回できなかったこと、課題だと感じたこと、TRY：今後に向けてチャレンジすること）が適確にしているか。授業全体をととし
個人評価	フィードバックシート	15%	： チームのメンバーに対するコメント。メンバーの活動を理解しコミュニケーションが取れているか。
個人評価	課題発見レポート	10%	： 必要なデータを読み取り的確にまとめ、問題点を洗い出し解決の目標を定めることができているか。
グループ評価	企画提案シート	20%	： 企画が独自性・創造性があり実行可能な内容か。状況や場面に応じ、計画変更・修正の必要性に気づき、指導者の承諾を得、変更・修正できたか。グループ全員対象
グループ評価	プレゼンテーション	25%	： 最終プレゼンテーションにおいて、問題解決企画案を論理的で説得力のある内容と、効果的なスライドと演出で提示し、聴衆の理解と共感を得ることができた。グループ全員対象
最終課題レポート		10%	： 最終プレゼンテーションを終了し、振り返りとしてレポートを課す。評価の視点は、①PBLとしての学びに視点、②気付いた課題、③今後のアクションプランについて具体的な視点があれば加点とする。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

なるほどデザイン エムディエヌコーポレーション
デザインマネジメント 日経BP社
経営とデザインの幸せな関係 日経BP社

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。
授業内で企画・制作した著作物を行政の事業推進や本学の広報活動等に活用する際、著作権譲渡証書を取り交わし、本学に著作権を譲渡してもらう。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜日 2限

場所： 南館 1階研究室

備考・注意事項： 月2限目をオフィスアワーとしているが、授業前後の質問も歓迎する。その他の連絡の取り方としてEメールで対応する。
(kadowaki@g.osaka-seikei.ac.jp) Eメール件名としては「キャリアデザイン3について(氏名、学籍番号、グループNO)」とすること。

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	PBLプログラムの目的、行政側からテーマを提示 ①この授業の目的の説明。 ②チーム分け。チームワークの質向上を目的とするワークショップ。 ③PBLミッション発表。	インターネットで大学のPBL学修事例を2つ以上調べ、本授業に必要な能力、技術を考える。 4時間
第2回	ミッションに関する情報提示&課題の把握 ①行政担当者によるミッションに関するプレゼンテーションを聞く。(60分) ②ミッション提示に対して質疑応答 ③リサーチ・調査 役割を分担し課題を調査	ミッションに関する類似事例をインターネットで検索し、集めた情報をプリントアウトして次回授業に持参する。 4時間
第3回	リサーチ・調査結果の共有化&ミッションに対するQA ①課題発見グループワーク ミッションに対する課題をチームで話し合う。(20分) ②課題の整理グループワーク 出てきた課題を整理。(20分) ③課題の共有化 各チームごとに課題を発表。(40分)	チームで調査した結果を調査報告書として文章と写真でまとめる。 4時間
第4回	アイデア出し&企画の作成 プレーンストーミング形式でチームで話し合いを行う 可能な限り多くのアイデアを出す。ただし、実効性を考慮した検討も必要。	チーム内で出た課題が実効性、新規性がある企画なのかチームで検討してください。検討内容を各自、文章でまもってください。 4時間
第5回	企画書作成 各自が調べた情報を基に企画を作成する。企画の根拠となる情報やデータを洗い出し役割を決める。 企画書の作成、情報やデータの収集などチームで役割を決めて作業を行う。	チームで話し合ったアイデアを基に実効性のある企画を考えてください。 4時間
第6回	企画書完成とプレゼンテーションの準備 企画書を完成し、プレゼンテーションの準備をおこなう。	企画書作成にあたり自分が担当することを授業外で学修する。中間報告会を前に、チームで話し合いの時間を2〜3回持ちプレゼンテーションの備えましょう。 4時間
第7回	中間審査 第7回と8回は2コマを使って、企画の中間審査のプレゼンテーションを行う。 アイデアの不足部分や課題を明確にすることを目的にしている。	中間報告会を前に、チームで話し合いの時間を2〜3回持ちプレゼンテーションの備えましょう。 4時間
第8回	中間審査 第7回と8回は2コマを使って、企画の中間審査のプレゼンテーションを行う。 アイデアの不足部分や課題を明確にすることを目的にしている。	中間報告会を前に、チームで話し合いの時間を2〜3回もち、プレゼンテーションに備える。 4時間
第9回	企画のブラッシュアップ 最終の発表会を目標に企画のブラッシュアップ ①パワーポイントは見やすいか。 ②発表原稿に論理性、新規性があるのか。 ③費用対効果の検証も再度確認。	講師より指摘された課題を明確にして改善点を記述報告してください。 4時間
第10回	予選審査会 本審査に向けて学内予備審査を行う。 チーム学修振り返り/PDCAを知る。今後の課題を整理 ①企画のプレゼンを行う(6分1組) 成果発表 ②チームの学修振り返り(PDCAを知る) ③今後の課題を整理	指摘された課題を明確にして改善点を記述する。 4時間
第11回	予選審査会 本審査に向けて学内予備審査を行う。 チーム学修振り返り/PDCAを知る。今後の課題を整理 ①企画のプレゼンを行う(6分1組) 成果発表 ②チームの学修振り返り(PDCAを知る) ③今後の課題を整理	最終の発表会を目標にパワーポイントが見やすいか、発表原稿に論理性があるか、新規性があるかを確認。 4時間
第12回	予選審査会 本審査に向けて学内予備審査を行う。 チーム学修振り返り/PDCAを知る。今後の課題を整理 ①企画のプレゼンを行う(6分1組) 成果発表 ②チームの学修振り返り(PDCAを知る) ③今後の課題を整理	最終の発表会を目標にパワーポイントが見やすいか、発表原稿に論理性があるか、新規性があるかを確認。 4時間
第13回	最終発表会 1 チーム学修振り返り/PDCAを知る。今後の課題を整理 ①企画のプレゼンを行う(8分1組)、成果発表、審査委員会 ②チームの学修振り返り(PDCAを知る) ③今後の課題を整理	プレゼンテーション評価表を基に、他チームと自身のチームとの違いを考察する。レポートにまとめる。 4時間
第14回	最終発表会 2 チーム学修振り返り/PDCAを知る。今後の課題を整理 ①企画のプレゼンを行う(8分1組)、成果発表、審査委員会 ②チームの学修振り返り(PDCAを知る) ③今後の課題を整理	プレゼンテーション評価表を基に、他チームと自身のチームとの違いを考察する。レポートとしてまとめる。 4時間
第15回	最終発表会 3 & 総括「今後の課題を整理」 チーム学修振り返り/PDCAを知る。今後の課題を整理 ①企画のプレゼンを行う(8分1組)、成果発表、審査委員会 ②チームの学修振り返り(PDCAを知る) ③今後の課題を整理	授業の振り返り。今後の課題を整理し記述する。 4時間

授業科目名	キャリアデザイン3				
担当教員名	山崎哲弘・島雅則・田村匡・大島博文・和足憲明・小田勇樹・亀田峻宣・山本幸一				
学年・コース等	2年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

社会で実践する力、協働できる素養を踏まえて学生から社会人に意識改革を図り、社会人としての姿勢を身につける。行政が提供する課題に受講者全体が取り組む課題解決型学習。学習活動を通し学生は学習手法、分析方法、課題解決法、マネジメント、チームワーク、コミュニケーション、プレゼンテーションなどを能動的に学ぶ。マネジメント学部に対応した専門に特化したPBL (Problem-based learning) として、専門知識を応用し現実の課題に生かすことで、知識を定着させる。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

仕事に必要な社会人基礎力を身につけ、課題を発見し解決に向けて進んで取り組む力

目標：

集団やチームの中で固有の役割を果たすことができる。
論理的な考え、課題を明らかにすることができる。
主体性を持ち、積極的に行動することができる。
困難な課題にも望み、最後までやり遂げることができる。

汎用的な力

- 1 . DP4. 課題発見
- 2 . DP5. 計画・立案力
- 3 . DP6. 行動・実践
- 4 . DP9. 役割理解・連携行動
- 5 . DP10. 忠恕の心

問題点を洗い出し解決の目標を定めることができる。

独自性、創造性があり、実行可能な企画書を作成することができる。

チーム活動の内容を理解し、主体的に取り組むことができる。

場の流れを理解し、適切に協働することができる。

相手が伝えたいことを共感的に理解し、自分の考えや思いを伝えることができる。

学外連携学修

有り (連携先：大阪市東淀川区など)

授業方法 (アクティブラーニングを促す方法について)

- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論
- ・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
- ・見学、フィールドワーク
- ・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

個人評価	ミニッツペーパー	10%	： 毎回の授業終了時の振り返りレポートである。KPT法を使う。KEEP：今回できてよかったこと、PROBLM：今回できなかったこと、課題だと感じたこと、TRY：今後に向けてチャレンジしている。
個人評価	フィードバックシート	15%	： 受講生から受講生全体に対してコメントするものである。メンバーの活動を理解しコミュニケーションを取っている。
個人評価	課題発見レポート	10%	： 必要なデータを読み取り的確にまとめ、問題点を洗い出し解決の目標を定めることができる。
期末レポート		20%	： レポート内容は授業時間内に通知する。記述内容の充実度と論理性、説得性の観点から評価する。
グループ評価	企画提案シート	20%	： 独自性・創造性があり実行可能な企画書を作成することができる 状況や場面に応じ、計画変更・修正の必要性に気づき、指導者の承諾を得、変更・修正できる。
グループ評価	プレゼンテーション	25%	： シナリオの状況に適した、妥当な最終解決策を提案している。解決策をより効果的に実行するために、追加情報の必要性に気付いている。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

発想法入門 (日経文庫)、企画の立て方 (日経文庫)
コトラーのマーケティング・コンセプト フィリップ・コトラー (著)
コトラーのマーケティング3.0 ソーシャル・メディア時代の新法則 フィリップ・コトラー (著)
誰のためのデザイナー認知科学者のデザイン原論 (新曜社認知科学選書)

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 金曜日 2 限
 場所： 西館 2 階研究室
 備考・注意事項： 金曜日 2 限目をオフィスアワーとしているが、授業前後の質問も歓迎する。その他の連絡の取り方としてEメールで対応する。(yamasaki-t@osaka-seikei.ac.jp) Eメール件名としては「キャリアデザイン3について (氏名、学籍番号、グループNO) とすること。

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間	
第1回	PBLプログラムの目的、行政側からテーマを提示 ①この授業の目的の説明 ②チーム分けを行います。チームワークづくりを目的にワークショップを行う。 ③PBLミッションを発表する。 ・300教室	インターネットで大学のPBL学修事例2つ以上調べて、本授業に必要な能力、技術を考えてください。	4時間
第2回	ミッションに関する情報提示&課題の把握 ①行政担当者によるミッションに関するプレゼンテーションを開く。(60分) ②ミッション提示に対してし質疑応答 ③リサーチ・調査 役割を分担し課題を調査	ミッションに関する同時例の情報をインターネットで検索してください。集めたデータはプリントアウトして次回授業に持参してください。	4時間
第3回	リサーチ・調査結果の共有化 ①課題発見グループワーク ミッションに対する課題をチームで話し合う。(20分) ②課題の整理グループワーク 出てきた課題を整理する。(20分) ③課題の共有化 各チームごとに課題を発表する。(40分)	チームで調査した結果を調査報告書として文章、写真でまとめてください。	4時間
第4回	リサーチ・調査 役割を分担し課題を調査する。 現場で調査を行う【学外授業】 チームで役割を分担し課題を調査する。	現場で見たこと感じたことを文章化してください。次回の授業で発表できるように文章でまとめておいてください。	4時間
第5回	調査報告&ミッションに対するQA 各自が調べた情報を基に基本となるプランを作成する。調査の報告を行います。調査からミッションに関する質疑応答(QA)	チーム内で出た課題が実効性、新規性がある企画なのかチームで検討してください。検討内容を各自、文章でまとめてください。	4時間
第6回	アイデア出し&企画の作成 プレゼンテーション形式でチームで話し合いを行う。いくつものアイデアを出しましょう。実効性を考慮した検討を行う。	チームで話し合ったアイデアを基に実効性のある企画を考えてください。	4時間
第7回	企画書作成 各自が調べた情報を元にプランを作成する。企画の根拠となる情報やデータを洗い出し役割を決める。企画書の作成、情報やデータの収集などチームで役割を決めて作業を行う。	企画書作成にあたり自分が担当することを授業外で学修する。	4時間
第8回	企画書作成 プレゼン準備 企画書を完成し、プレゼンテーションの準備を行う。	中間報告会を前に、チームで話し合いの時間を2~3回持ちプレゼンテーションの備えましょう。	4時間
第9回	中間報告会 (前半) 企画の学内中間プレゼンテーションを行う。(1班：8分) アイデアの不足部分や課題を明確にすることが目的である。	講師より指摘された課題を明確にして改善点を文章化してください。	4時間
第10回	中間報告会 (後半) 企画の学内中間プレゼンテーションを行う。(1班：8分) アイデアの不足部分や課題を明確にすることを目的とする。	指摘された課題を明確にして改善点を文章化してください。	4時間
第11回	企画のブラッシュアップ 発表に向けて企画のブラッシュアップを図る。	最終の発表会を目標にパワーポイントを見やすく、発表原稿に論理性があるのか、新規性があるのかを確認してください。	4時間
第12回	企画のブラッシュアップ 最終の発表会を目標に企画のブラッシュアップ ①パワーポイントを見やすくなっているのか。 ②発表原稿に論理性、新規性があるのか。 ③費用対効果の検証も再度確認する。	最終の発表会を目標にパワーポイントを見やすく、発表原稿に論理性があるのか、新規性があるのかを確認してください。	4時間
第13回	最終発表会 1 グループ学習振り返り/PDCAを知る 今後の課題を整理 【学外授業】	プレゼンテーション評価表を基に、他チームと自身のチームとの違いを考察してください。レポートとしてまとめてください。	4時間
第14回	最終発表会 2 グループ学習振り返り/PDCAを知る 今後の課題を整理 【学外授業】	プレゼンテーション評価表を基に、他チームと自身のチームとの違いを考察してください。レポートとしてまとめてください。	4時間
第15回	最終発表会 3 & 総括「今後の課題を整理」 グループ学習振り返り/PDCAを知る 今後の課題を整理	授業の振り返りを行いましょう。今後の課題の整理を文章化してください。	4時間

授業科目名	★キャリアデザイン4				
担当教員名	福本章・山中コ〜ジ・石田直美・野山知子				
学年・コース等	3年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	福本：生保業界（営業管理・人事労務管理；5年）、教育業界（広報企画、人事労務、経営管理；21年）（全15回）				

授業概要

この授業では、卒業後の進路決定に向けて必要な知識と実践的な能力を獲得する。演習やグループワークを通して、社会を生き抜くための思索の機会をもち、社会で求められる自己表現力や課題解決能力を体験的に養う。実際の社会の第一線で活躍する企業人やOBを招き、実社会での現場の話を聴く機会を設けている。また、先輩を交えたグループワークも行うなど、双方向で意見交換が出来る機会も設定している。授業は、個人ワーク、チーム学習を主体としてアクティブラーニングが中心。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	就職活動に関し、企業・業界、職業についての理解	自己分析、自己理解が出来ており、業界の方向性、問題点、改善点を考えることができる。
汎用的な力		
1．DP5. 計画・立案力		自分の専門的知識と技能を、社会に発信し活かす意思とスキルを有し、行動計画を立てられる。
2．DP6. 行動・実践		自身の知識と技能を効果的に発揮し、実践できる行動力を備えている。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

リフレクションシート（取り組み姿勢）	40%	： 随時提出する振り返りシート（K：上手く出来た事、P：出来なかった事、T：これから活かす事）及び、その他提出物に関する評価する。
中間レポート（業界・企業研究報告書）	20%	： 3種類の企業または業界の研究報告書を、企業訪問や文献等から情報を収集し、3C分析の視点で報告書にまとめていること。また、独自の視点で論述ができていないかを評価。
課題レポート提出	20%	： テキスト・学修ポートフォリオに準じたレポートの提出により評価する。授業内容の理解度を基準に評価し、独自の視点で捉えた見解をもって加点項目とする。
最終レポート（提出課題）	20%	： 授業内容を踏まえた学修ポートフォリオ②大阪成蹊50の質問に関する論述③企業情報・担当者から得た独自の知見に関する報告書④就職活動に関する内定者への加点項目とする。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

「就職ガイドブック（Placement Guide）」大阪成蹊大学・大阪成蹊短期大学 就職部 編
「組織の成果に直結する問題解決法ソリューションフォーカス」ポール・Z・ジャクソン・マカーゴウ著：青木安輝 訳、（ダイヤモンド社）
「20歳のときに知っておきたかったこと」ティナーシーリング著、（阪急コミュニケーションズ社）
「これからの思考の教科書」酒井穰 著、（ビジネス社）
その他の文献については、授業中に随時紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	福本クラス：水曜3限／山中クラス：初回授業連絡
場所：	福本クラス：南館2F研究室／山中クラス：東館2F研究
備考・注意事項：	・福本クラス：水曜3限 南館2F情報デザイン研究室 （非常勤の先生のクラス（石田先生、野山先生）は、授業中に案内しますが、福本が代行として随時対応します。） その他の連絡方法：Eメールアドレス福本（fukumoto-a@g.osaka-seikei.ac.jp） ・山中クラス：初日授業にて連絡、東館2F研究室

授業計画

：

：授業外学修課題にか
かる目安の時間

第1回	オリエンテーション：講座の目的と就職戦線の現状把握 ①就職活動の流れと社会を理解する。 ②進路について考える。 ③授業の概要と目的を理解し、授業計画を共有する。	授業における目標設定と自身の大学生活における目標設定について考え、具体的な行動計画を立てる。	4時間
第2回	企業と仕事：社会の中の自己理解 ①実社会における企業と、それぞれの業界を探求し、自身のやりたいこと、出来ること、やらなければならないことを明確にする。 ②グループワークで共有。	企業、業界の情報を収集し、アプローチの為の行動計画を立てる。	4時間
第3回	業界研究：実践①（OBから話を聴く） ①業界で活躍するOBゲストに招き、ワークショップを行う。 ②質疑応答が出来る形式での双方向授業。	授業の振り返りをもう一度行い、次回以降の業界研究、志望動機の作成に活用する。	4時間
第4回	自己分析①適性検査の体験と理解 ①性格適性検査・自己分析シートの結果を踏まえ、個人ワークと、グループワークを実施。 ②ペアワーク。ミニプレゼンを実施。	授業の復習として、自己分析のシートを熟考、記載する。	4時間
第5回	自己分析②エントリーシート ①転機となった経験、本気でチャレンジした体験などを振り返る。 ②様々な面で、自身の転機と思われる、キャリア・トランジションを探求する。 ③ペアワークを実施。自己分析	学生時代の振り返り企業と接点を持つための様々な手法について考察し、そのために準備が必要な事を明確にする。	4時間
第6回	自己理解：適性検査の体験と理解 ①性格適性検査の実例を取り上げ、内容を理解する。 ②そこで明らかにされる結果を踏まえ、自己分析を深める。 ③グループワーク、個人作業を伴うワークショップを実施。	授業で学んだ知識とノウハウを実際に行動に移す準備をする。	4時間
第7回	自己理解：自分の強みの理解 ①親和力・協働力・統率力・感情抑制力・自信創出力・行動持続力・課題発見力・計画立案力・実践力といったキャリアに必要なコンピテンシーを理解し、自身の強みを表現するための具体的な手法を学ぶ。 ②グループワーク。振り返りによる研鑽。	次回の授業の予習として、自己PRの題材を整理してください。	4時間
第8回	自己PRの作成：書く・話す ①学生時代の振り返り、キャリア・トランジションを包括した表現手法を学ぶ。 ②個人ワーク、ペアワーク、グループワークを行う。	授業内容を踏まえ、自己PRの文章を作成する。	4時間
第9回	業界研究：実践②（企業人事から話を聴く） ①企業の人事担当者をゲストに招き、人事の視点を学ぶ。 ②質疑応答が出来る形式での双方向授業。	授業の振り返りをもう一度行い、次回以降の業界研究、志望動機の作成に活用する。	4時間
第10回	筆記試験の考察：事例研究 ①企業の求める教養試験について理解する。 ②適性検査からSPI試験など様々な試験の求める基準について。 ③個人ワークによる演習。	就職業者が主催するインターネット上の試験などを調べる。	4時間
第11回	業界研究：企業分析 ①具体的に企業を取り上げ、個別の企業についての考察する。 ②個人ワーク、グループワークを実施。	授業で上手くいかなかった点を課題とし、次回までの情報をまとめる。	4時間
第12回	業界研究：ビジネス・業界の考察 ①業界、業種、職種を考察する。 ②情報収集の仕方から、求人票の見方を学び、労務に関する専門的な用語について理解を深める。	合同面接会やインターンシップなど企業との接点を持つための手法を調べる。	4時間
第13回	業界研究：ケーススタディ① ①企業合同説明会、採用面接等を想定した、社会人として求められる立ち振る舞いを実践的に学ぶ。	合同面接会など、企業へのアプローチをするための準備をする。	4時間
第14回	業界研究：ケーススタディ② ①グループワークについての実践演習、グループディスカッションまで、実践と求められる視点について考察する。	企業と接点を持つための実践と、行動計画を立ててみましょう。	4時間
第15回	総括・演習 ①PDCAに基づく行動計画の作成を行い、目標を明確にする。 ②コンピテンシー理論を理解し、自己PR文の完成と、働く目的を明確にする。	就職活動を行うための計画と、その問題点を明確にする。	4時間

授業科目名	キャリアデザイン4				
担当教員名	高畑能久・東出加奈子・中野毅・金蘭正・和足憲明・岩田慎太郎				
学年・コース等	3年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

この授業では、進路決定に向けて必要な知識と能力を身につけます。就業選考検査から自らの強み弱みを理解し、将来へのビジョンを描きます。ビジネスマナー、企業選考プロセス、自己紹介文書の作成などを学び、企業人や先輩（4年生）の話聞く機会を活用し、双方向で意見交換する場をもち、将来に必要な実践的なスキルを身につけます。社会人として必要な、知識、教養、働き方を学び、自ら目標設定を行い、後期からの具体的な就業選考準備に結びつけることを目指します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

自己分析による強み弱みの理解、ビジネスマナー、業界研究、自己紹介文書の作成などスキルを身につける。

目標：

自ら進むべき業界を選び、就業選考に前向きに取り組めるようになる。

汎用的な力

- DP4. 課題発見
- DP5. 計画・立案力
- DP6. 行動・実践
- DP8. 意思疎通
- DP10. 忠恕の心

就業選考検査によって、自らの強み弱みを理解し、啓発課題をつかむ。
企業選考プロセスを学び、具体的なアクションプランを策定する。
業界研究などに取り組み、主体的にアクションプランを考え実践する。
教員やゲストスピーカーとの質疑応答など双方向コミュニケーションを図る。
誠実で思いやりのある人、周囲から頼りにされる人になることを目指す。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- 問答法・コメントを求める
- 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- 実技・実習後、全体に向けてコメントします
- 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業中のワーク（就業選考検査含む）	30%	： 授業に継続的に参加し、積極的に課題（ワーク）に取り組んでいるかどうかを評価します。
毎回のレポート	50%	： 授業内容を踏まえ、独自の見解や今後の取り組みなど定められた文字数で具体的に論述できているかどうかを評価します。
中間レポート	10%	： 中間レポートにより、授業で学んだことに関して理解できているかを評価します。
期末レポート	10%	： 指定された日時までに提出された期末レポートにより、授業で学んだことに関して理解できているかを評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
大阪成蹊大学	・ キャリアデザイン4	・ ㈱モーリス	・ 2019年

参考文献等

必要に応じて、適宜紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	高畑：水曜2限
場所：	研究室（西館2階）
備考・注意事項：	授業の前後以外で質問したい場合は、メールにて受け付けます（takahata@osaka-seikei.ac.jp）。件名には必ず、氏名・学籍番号・所属を明記してください。

授業計画

第1回	ガイダンスおよび就業選考体験（1）	体験談のポイントテキストにまとめておいてください。	授業外学修課題にかかる目安の時間
	授業の目的と進め方についてガイダンスを行います。また、現在の就職活動事情について、先輩（4年生）の体験談を通して具体的なイメージを形成します。		4時間

第2回	就業選考検査（1）実施 就業選考検査を体験し、自分自身の強み・弱みについて理解を深めます。	選考検査を参考に課題を考えてしてください。	4時間
第3回	ビジネスマナーの基礎（電話・メール・訪問時） ビジネスマナーの基礎について学ぶとともに、企業への電話やメール、訪問時のビジネスマナーについて学びます。	テキストで当日学習したことを復習してください。	4時間
第4回	企業選考プロセス（1）概要 就職活動における選考過程の概要や求められる知識や能力について理解を深めます。	テキストで当日学習したことを復習してください。	4時間
第5回	就業選考検査（2）フィードバック 第2回の実業選考検査結果を考察し、自分自身の強み・弱みについて理解を深めます。	フィードバックを参考に改善策を考えてしてください。	4時間
第6回	情報収集力を高める 就職情報ツールの活用方法、企業説明会に参加する際の注意点などについて学びます。	テキストで当日学習したことを復習してください。	4時間
第7回	企業選考プロセス（2）採用試験の注意点 採用試験で求められる知識がビジネスの現場でどのように生かされているのかを学びます。	正しいあいさつ、おじぎのマナーを練習してください。	4時間
第8回	企業選考プロセス（3）採用の段階 自らが興味がある業界や企業に就職するには、どのようなステップがあるのかを学びます。	夏季休暇中に参加できるインターンシップを調べてください。	4時間
第9回	業界研究（1）ポイントと方法 これまで学んだ内容を踏まえ、中間レポートを提出します。業界研究をどのように行えばよいか、そのポイントや具体的な方法について学びます。	テキストで当日学習したこと、および中間レポートを復習してください。	4時間
第10回	現代社会と多様な企業活動、働き方を理解する ゲストスピーカー（企業人）を招いて特別授業を開催し、社会におけるビジネスの実情について学びます。	特別授業のレポートを作成してください。	4時間
第11回	業界研究（2）各業界の実情 前回のゲストスピーカーの講演内容を踏まえ、製造業や流通業、情報産業などの各業界の実情やBtoC、BtoB企業の特徴などについて学びます。	テキストで当日学習したことを復習してください。	4時間
第12回	自己紹介文書作成（1）原文作成 各自で自己紹介文書の作成に取り組み、文章表現力を強化します。	テキストで当日学習したことを復習し、自己紹介文書を作成してください。	4時間
第13回	自己紹介文書作成（2）ブラッシュアップ 作成した自己紹介文書をペアで読み合わせ、ブラッシュアップすることで文章表現力を強化します。	テキストで当日学習したことを復習し、自己紹介文書をブラッシュアップしてください。	4時間
第14回	自己紹介文書作成（3）完成・発表 自己紹介文書を完成させ、お互いに発表することで良い点、改善点などを学びます。	テキストで当日学習したことを復習し、自己紹介文書を完成してください。	4時間
第15回	まとめおよび就業選考体験（2） 先輩（4年生）の体験談を参考にし、今後の課題を設定します。夏休みの有意義な過ごし方についても考えます。授業の最後に期末レポートの課題を提示します。	期末レポートは指定された日時までに提出してください。前期で学んだことを踏まえ、各自で夏休みのアクションプランを立ててください。	4時間

授業科目名	★キャリアデザイン5				
担当教員名	福本章・由良泰人・榎 秀樹・中西直紀				
学年・コース等	4年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	福本：25年（営業管理・人事労務管理・経営企画・組織開発）（全15回）				

授業概要

就職活動において成功する実践力を身に付けることはもとより、就職した後、社会で活躍できる人材としての能力を身に付ける事に主眼を置いた授業としています。業界・企業研究、OB・OGとの交流を重視し、実践的な活動を授業の中でも推進します。正課の授業時間内、時間外の活動を問わず、企業訪問に関する行動に関しては報告書を提出して頂くことにより評価へ反映させます。また、外部からゲストを招き、企業人として、取り組んできた仕事や、転機となった経験談等から学ぶことで、働き方・生き方について考える機会も作ります。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	企業・業界、職業についての理解	業界の方向性、問題点、改善点を考察し、自身の置かれている内的環境と、外的な環境の分析を可能とする知見を備えている。
2 . DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	社会で活躍できる人材になるための素養	単に就職し、社会人になるのではなく、主体的に物事に取り組み、困難な課題に対しても諦めることなく、最後までやり遂げることが出来る人材となっている。
汎用的な力		
1 . DP5. 計画・立案力		専門的知識と技能に関し、アウトプットしていくための意思と技能を有し、その行動計画を立案できる。
2 . DP6. 行動・実践		自身の知識と技能を効果的に発揮し、実践していくことが出来る行動力を備えている。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

「マッキンゼー流入社1年目の問題解決の教科書」(著)大島祥誉、SBクリエイティブ。
「論理的思考力を鍛える33の思考実験」(著)北村良子、彩図社。
「MBA生産性をあげる100の基本」(著)グロービス・(執筆)嶋田毅、東洋経済新報社。
「アクティブラーニングで学ぶキャリアデザイン就活編」(著)福本章・佐々木公之、学術研究出版。

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

「マッキンゼー流入社1年目 問題解決の教科書」(著)大島祥誉、SBクリエイティブ。
「論理的思考力を鍛える33の思考実験」(著)北村良子、新図社。
「MBA生産性をあげる100の基本」(著)グロービス・(執筆)嶋田毅、東洋経済新報社。
「アクティブラーニングで学ぶキャリアデザイン・就活編」(著)福本章・佐々木公之、学術研究出版。

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

リフレクションシート（取り組み姿勢）	40%	： 随時提出する振り返りシート（K：上手く出来た事、P：出来なかった事、T：これから活かす事）及び、その他提出物に関する評価する。
課題レポート提出	20%	： テキスト・学修ポートフォリオに準じたレポートの提出により評価する。授業内容の理解度を基準に評価し、独自の視点で捉えた見解をもって加点項目とする。
中間レポート（企業訪問等、報告書）	20%	： ①就職活動等の企業訪問における活動報告書を3C分析の視点で記載。②活動についての振り返りをPDCAの視点で記載。③業界・企業の採用情報の収集と分析。独自の視点で論述が出来ていることを加点要素とする。
最終レポート	20%	： 授業内容を踏まえた学修ポートフォリオ②大阪成蹊50の質問に関する論述③企業情報・担当者から得た独自の知見に関する報告書④就職活動に関する内定者への加点項目とする。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

「マッキンゼー流入社1年目の問題解決の教科書」(著)大島祥誉、SBクリエイティブ。
「論理的思考力を鍛える33の思考実験」(著)北村良子、彩図社。
「MBA生産性をあげる100の基本」(著)グロービス・(執筆)嶋田毅、東洋経済新報社。
「アクティブラーニングで学ぶキャリアデザイン就活編」(著)福本章・佐々木公之、学術研究出版

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	福本章：水曜3限／由良泰人：月曜4限
場所：	南館2F情報デザイン研究室
備考・注意事項：	・福本章：水曜3限 南館2F情報デザイン研究室 (非常勤講師：授業時に案内しますが、随時、福本が代行で対応します。) ・由良泰人：月曜4限 南館2F情報デザイン研究室

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間	
第1回	オリエンテーション（講座の目的と就職戦線の現状把握） ①この授業の目的の説明を行います。 ②大学生の就職戦線の現状を理解します。 ③現状把握を行い、本授業の目的と到達目標を共有します。 ④業界、職種について理解します。	就職戦線における本科目が担う役割を明確にし、自身の目標を具現化するための行動計画を立ててください。	4時間
第2回	グループディスカッションと面接対策 ①大阪成蹊大学50の就職に関する質問を考察します。 ②履歴書・自己PR文を見直し、自己理解に関するワークを行います。 ③企業選考や社員研修における「グループディスカッション」について基本的な方法を理解し実践できるように目指します。	企業、業界の情報を収集し、アプローチの為の行動計画を立てましょう。	4時間
第3回	業界・企業・職種に関する理解 ①就業希望企業の理解を深めます。 ②それに応じた自己紹介や関連資料の記述を行います。 ③企業勤務の経験者から、社会人に求められる能力を理解します。	自身の就職活動、就職先企業に関する情報を整理する。	4時間
第4回	企業アプローチ（ビジネス文書①） ①メールの基本を理解します。 ②カバーレターの重要性を理解します。 ③就職活動、社会人として必要となるビジネス文書の書き方について実践を行います。	就職セミナーや企業説明会への参加 就職先企業の情報を整理する。	4時間
第5回	企業アプローチ（ビジネス文書②） ①御礼状の重要性を理解します。 ②就職活動、社会人として必要となるビジネス文書の書き方について実践を行います。	就職セミナーや企業説明会への参加 就職先企業の情報を整理する。	4時間
第6回	企業アプローチ（マナー・作法） ①ビジネスパーソンに求められるマナーを理解します。 ②ビジネスにおける取引先とのコミュニケーションについて学びます。 ③電話のマナー、名刺の取り扱いなどの実践を行います。	就職セミナーや企業説明会への参加 就職先企業の情報を整理する。	4時間
第7回	企業へのアプローチ（ロールプレイング） ①就職セミナー、合同面接会以外に出来る就職活動 ②グループワーク ③ペアワーク・演習：ロールプレイング	就職セミナーや企業説明会への参加 就職先企業の情報を整理する。	4時間
第8回	コンピテンシーの理解とケーススタディ ①コンピテンシーの理解。 ②グループワークと演習を行います。 ③就職活動における成功と社会人としての成功を考えます。	授業の復習と、就職セミナーや企業説明会への参加 就職先企業の情報を整理する。	4時間
第9回	社会で求められるコンピテンシーの理解 ①高業績者の行動特性に関し、深掘りしコンピテンシーの理解を深めます。 ②就職試験および、社員研修で実施される実践演習 ③就職試験および、社員研修で実施される実践演習 ④グループワークと振り返りによる研鑽	ワークショップの研鑽を独自におこない、実践で活用できる技能を身に付けてください。	4時間
第10回	グループワーク実践 ①就職試験および社員研修で実施される実践演習を行います。 ②振り返りにより知識を深めます。	グループディスカッションの振り返りを行ってください。	4時間
第11回	企業理解と業界理解 ①就職希望先、就業内定企業について理解を深めます。 ②企業勤務の経験者から、社会人に求められる能力を理解します。 ③学生と社会人の違いについて個人で考え、グループワークを行います。	社会人としての行動について実践できるところから始めてみましょう。	4時間
第12回	学生と社会人の意識の違い（ケーススタディ） ①社会人に求められる9つの意識を理解します。 ②9つの意識についてのケーススタディを行います。	グループワークに関する振り返りを行い、次の機会にはより上手に振舞えるような準備をしておいて下さい。	4時間
第13回	SWOT分析、目標設定 ①企業や組織で利用されるSWOT分析とは？ ②SWOT分析による自己分析と自己理解。 ③自身のキャリアに関する目標設定を行います。	授業の復習としての振り返りと、授業時間外での行動の変革を行ってください。	4時間
第14回	ライフプランニングと資金計画 ①社会や企業、個人のお金の流れについて理解します。 ②給与の仕組みについて知識を深めます。 ③社会保険と税金について学びます。 ④社会や企業、個人のお金の流れについて理解した上で、自身の資金計画を立てます。 ⑤ライフプランニングがシミュレーションできるように知識を深めます。	就職セミナーや企業説明会への参加 就職先企業の情報を整理する。	4時間
第15回	総括、ふりかえり ①目標設定の行動計画を作成します。 ②目標と目的の違いを考えます。 ③本授業が終了した後の行動計画とキャリアビジョンを描きます。 ④課題の最終レポートを課します。	授業終了後がスタートのつもりでキャリアビジョンを現実のものにしてください。	4時間

授業科目名	キャリアデザイン5				
担当教員名	児山俊行・東出加奈子・柴沼 真・中野 毅・岩田慎太郎・島 雅則・金 蘭正				
学年・コース等	3年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

この授業では、進路決定に向けて必要な知識と能力を身につけます。適正検査から自らの強み弱みを理解し、将来へのビジョンを描きます。ビジネスマナー、業界研究、口頭表現力、自己PR文書の作成などを学び、企業人や先輩（4年生）の話聞く機会を活用し、双方向で意見交換する場をもち、将来に必要な実践的な知識を身につけます。社会人として必要な、知識、教養、行動指針を学び、短期・中期的な目標設定を行い、本格化する就職活動に結びつけることを目指します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

自己分析による強み弱みの理解、ビジネスマナー、業界研究、口頭表現力、自己PR文書の作成などのスキルを身につける。

目標：

自ら進むべき業界や職種を選び、就業選考を実践できるようになる。

汎用的な力

- 1 . DP4. 課題発見
- 2 . DP5. 計画・立案力
- 3 . DP6. 行動・実践
- 4 . DP8. 意思疎通
- 5 . DP10. 忠恕の心

各種の適正検査によって、自らの強み弱みを理解し、啓発課題をつかむ。
業界や職種を研究し、具体的なアクションプランを策定する。
志望する企業などの説明会に参加し、実際にエントリーしていく。
志望する企業などの人事担当者との双方向コミュニケーションを図る。
誠実で思いやりのある人、周囲から頼りにされる人になることを目指す。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・その他(以下に概要を記述)
適性検査（キャリアアプローチテスト）など

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします
- ・その他(以下に概要を記述)
適性検査（キャリアアプローチテスト）フィードバックなど

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業内のワーク	30%	： 授業に継続的に参加し、積極的に課題（ワーク）に取り組んでいるかどうかを評価します。
毎回のレポート	50%	： 授業内容を踏まえ、独自の見解や今後の取り組みなど定められた文字数で具体的に論述できているかどうかを評価します。
中間・期末レポート	20%	： 中間レポートおよび最終レポートにより、授業で学んだことに関する理解度を評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
大阪成蹊大学	・ キャリアデザイン5	・ 憐モーリス	・ 2018年

参考文献等

就職部より配布される「就職ガイドブック」を使用するので、持参してください。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。また、受講の際はリクルートスーツを着用すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 児山：金曜 4限 東出：水曜 3限 島：金曜 3限
場所： 研究室（西館3階児山・西館2階・東出）
備考・注意事項： 授業の前後以外で質問したい場合は、メールにて受け付けます（koyama_t@osaka-seikei.ac.jp）。タイトルには必ず、氏名・学籍番号・所属を明記してください。

授業計画

第1回	就業選考体験（1）および行動計画の作成	聞いた体験談の要点をまとめ、作成した行動計画を見直す。	授業外学修課題にかかる目安の時間 4時間
-----	---------------------	-----------------------------	-------------------------

	夏休みの振り返りを通して、後期の目標設定を行います。また、先輩（4年生）の体験談を通して、具体的な後期の行動計画を作成します。		
第2回	適正検査（1）実施 適正検査を受け、自己PRと志望動機の根拠となる基礎データの把握を行いません。	自己PRと志望動機についてポイントを整理する。	4時間
第3回	業界研究（1）業界を理解 具体的にどのような業界や職種があるのかについて理解を深めます。	研究した業界内容の特徴について整理する。	4時間
第4回	業界研究（2）職種を理解 前回の講義内容を踏まえ、自分が進みたい業界や職種について理解を深めます。	それぞれの業界や職種の特徴について整理する。	4時間
第5回	情報収集力を高める 就職情報ツールの活用方法、企業説明会に参加する際の注意点などについて学びます。	就職情報ツール活用と企業説明会参加時の注意点を整理する。	4時間
第6回	適正検査（2）フィードバック 第2回の適正検査結果を考察し、自身の適性について理解を深めます。	自己PR文書の下書きを作成する。	4時間
第7回	自己PR文書作成（1）作成 自己PR文書の書き方について学び、実際に作成します。	自己PR文書を修正する。	4時間
第8回	自己PR文書作成（2）ブラッシュアップ 自己PR文書の書き方について学び、実際に作成します。	自己PR文書を完成させる。	4時間
第9回	ビジネスマナー（1）電話・メール これまで学んだ内容を踏まえ、中間レポートを提出します。企業への電話やメールなどを想定したビジネスマナーについて学びます。	企業への電話・メールのポイントについて整理する。	4時間
第10回	ビジネスマナー（2）面接 企業訪問や面接などを想定したビジネスマナーについて学びます。	企業訪問や面接のポイントについて整理する。	4時間
第11回	口頭表現力（1）ビジネスコミュニケーション実践トレーニング 就業選考場面で重要な口頭表現方法について学びます。なお、クラス分けする場合があります。	就業選考での口頭表現についてポイントを整理する。	4時間
第12回	口頭表現力（2）集団面接 就業選考場面での実践体験を積み、自分の強み弱みを把握します。なお、クラス分けする場合があります。	就業選考での面接の自身の強み弱みについて整理する。	4時間
第13回	口頭表現力（3）グループディスカッション 就業選考場面での強み弱みを再度見直し、自分の課題を克服する方法を考えます。なお、クラス分けする場合があります。	就業選考での自身の課題と克服方法について整理する。	4時間
第14回	就業選考研究 最近の就職選考の傾向と対策について理解を深めます。	最近の就職選考の傾向と対策についてポイントを整理する。	4時間
第15回	就業選考体験（2）おびまとめ 後期で学んだ内容を踏まえ、最終レポートを提出します。また、先輩（4年生）の体験談やアドバイスを通して、今後の心構えについても考えます。	後期で学んだことを踏まえ、各自で春休みの計画を立ててください。	4時間

授業科目名	ビジネス・インターンシップ1/ビジネス・インターンシップ2				
担当教員名	山中コ〜ジ/桐原一史				
学年・コース等	2年/3年	開講時期	通年	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	山中：GENETOという建築設計、家具デザインに関する企業経営をしていることから、その経験を活かした授業。 桐原：SONYという大手電機メーカーに永年勤務し、そこでの就労経験を活かした授業。（全15回）				

授業概要

課題と目標が設定された、企業やデザイン事務所などのクリエイティブ系企業に一定期間就業体験を行います。社会の基本的なルール・マナーはもとより、「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」社会人基礎力を事前授業で修得して研修に入ります。就業体験は原則として夏季休業中に行い、研修期間は、10～16日（1日8時間を10日間以上）を目安としています。教員により中間チェック、振り返り、研修後の報告会を行います。クリエイター職に関する意識を形成することを目的としています。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

クリエイティブ系会社の職業理解

目標：

クライアントの求める事を的確に理解する能力が求められます。その為には、インターンシップの実践的な授業を通して、チームで働く力を養い、創造力と柔軟な企画力、表現力を身に付ける事の重要性を理解します。

汎用的な力

- 1 . DP4. 課題発見
- 2 . DP6. 行動・実践
- 3 . DP9. 役割理解・連携行動
- 4 . DP10. 忠恕の心

提示された問題点を洗い出し解決の目標を定めることができる

チーム活動の内容を理解し主体的に取り組むことができる

場の流れを理解し、適切に協働することができる

相手が伝えたいことを共感的に理解し、自分の考えや思いを伝えることができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

授業の中間段階および最終段階において、ルーブリックを用いて、学修到達状況を確認し、学生へフィードバックを行います。文章での振り返りも行います。これによって学生たちは自分の成長の度合いを自分で知ることができます。演習授業の制作物は、学修成果ポートフォリオにまとめていきます。以上を総合して評価を行います。

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

振り返りシート	15%	： 振り返りシート1回3点（15点）授業を理解し自分の言葉に置き換え書かれているかを評価する。
志願書	10%	： 研修先を理解し、自身が取り組みたい事柄・主張・事実などが独自の視点で書かれているを評価する。
研修先での研修評価	30%	： 基礎知識、協働力、研修態度、遂行力を4段階で評価する。
研修中間チェック	15%	： 主体的に取り組み、出来状況や場面に応じ、計画変更・修正の必要性に気づき実行することができる。
事後レポート・研修報告プレゼンテーション、期末試験	30%	： 研修で、出来てよかったこと、今回出来なかったこと、今後に向けてのチャレンジをレポートにまとめているか。デザイン的に視覚効果のある発表データーができていないかを評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

『発想法入門』（日経文庫）『企画の立て方』（日経文庫）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 山中（水6）、桐原（火5）

場所： 各研究室

備考・注意事項： 水6限目をオフィスアワーとしているが、授業前後の質問も歓迎する。その他の連絡の取り方としてEメールで対応する。（yamanaka-k@g.osaka-seikei.ac.jp）Eメール件名としては「インターンシップについて（氏名、学籍番号）」とすること。

授業計画

授業外学修課題にかかる目安の時間

第1回	研修先行の紹介と研修体制の説明	自身がインターンシップを希望する企業を3社選び、それぞれの企業についてリサーチをおこなう。具体的には会社概要/経営者名(創業者名)/業態の専門分野など、他にも各企業毎に詳しく調べA4用紙(枚数は適宜)にて書類を作成すること。	4時間
	課題と目標が設定された、企業やデザイン事務所などのクリエイティブ系企業に一定期間就業体験を行います。社会の基本的なルール、マナーはもとより、「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」社会人基礎力を事前授業で修得して研修に入ります。就業体験は原則として夏季休業中に行い、研修期間は、10～16日(1日8時間を10日間以上)を目安としています。教員により中間チェック、振り返り、研修後の報告会を行います。クリエイター職に関する意識を形成することを目的としています。		
第2回	面接選考・マッチング(正装、志望動機の確認)	リサーチ内容の指導を元に、指導にしたがい更に詳しいリサーチをおこなうと同時に、A4用紙(ページ数は適宜とする)にて再度作成すること。	4時間
	研修に派遣する人数は30～35名。書類選考、面接で選考します。選考方法は学生自身がどれだけ熱心に学ぶ気持ちがあるか、具体的にはしっかりと希望企業のリサーチが予め出来ているか。論理的に企業の選定理由が考慮されているかを考慮します。また、リサーチ結果を元にした面談から、各学生毎にリサーチ内容を指導します。		
第3回	決定者へのインターンシップ事前研修1(人権配慮についての事前教育)	研修内容の振り返りをおこなうこと。履歴書の作成を指導にしたがいおこなうこと。	4時間
	面接選考合格者を対象とした決定者事前研修1を行います。事前研修1では履歴書の作成方法の指導を行います。リサーチ書類の提出と内容をチェックします。		
第4回	事前研修2(グループ・ディスカッション&プレゼンテーション演習)	事前研修2でおこなった授業内容の振り返りと、事前研修3でおこなう課題に対するリサーチを行い各自の書面化すること。	4時間
	事前研修2では、実社会で就労することとは何か、社会人基礎力やルールについて講義形式で授業を行います。グループ・ディスカッション&プレゼンテーションもおこなう。		
第5回	事前研修3(グループ・ディスカッション&プレゼンテーション演習)	事前研修3でおこなった授業内容の振り返りをおこなう。	4時間
	事前研修3では問題解決型の課題として、実際の事例リサーチを元にしたグループ・ディスカッションと解決策の提案を発表する。		
第6回	事前研修4(*就活サポートプログラム:マナー講習1)	事前研修4で配布されたビジネスマナーの冊子を元にした復習、特に「気付き」の整理をおこなう。	4時間
	ビジネスマナー講座を開講。(外部講師によるもの、全員スーツ着用)挨拶の仕方、立ち居振る舞い、会話の方法について、社会人としてのビジネスマナーの基礎を学ぶ。		
第7回	事前研修5(*就活サポートプログラム:マナー講習2)	事前研修5の振り返り。授業内で指摘された内容の整理。	4時間
	事前研修4で学んだマナー講座で得たことの振り返りをします。具体的には挨拶の仕方、立ち居振る舞い、会話の方法について、また、実際にインターンシップへ行く企業へのアポイントメントをとる方法等、より具体的な設定での練習などをおこないます。中間ルーブリックの実施、学生へフィードバック。		
第8回	直前ミーティング	インターンへ行く企業へのアポイントメントの準備と、アポイントメントを電話にておこないます。契約書の作成をおこないます。	4時間
	これまでの事前研修で学んだ目標課題の明確化、「契約書」の記入指導をおこないます。準備物や注意事項の確認を確認します。		
第9回	【研修先が指定】インターン研修事前訪問	事前訪問報告書の作成(所定の用紙)をおこないます。	4時間
	「誓約書」持参すること。具体的な研修イメージの把握等をおこないます。		
第10回	【研修先が指定】インターン研修	研修日毎に報告書の作成をおこないます。	4時間
	研修期間:10～16日以上 8時間(80時間以上) 研修先での実習 前半 中間指導:研修9日目を終了した段階で、担当教員による訪問指導およびヒアリングします。		
第11回	【研修先が指定】インターン研修:中間訪問指導	研修の課題、後半の研修の目標設定を書面化し、より具体的に良好な研修がおこなえる準備をします。	4時間
	中間指導:研修9日目を終了した段階で、担当教員による訪問指導およびヒアリングします。 科目担当教員と研修担当者で研修生の研修状況の確認。研修生、科目担当教員、研修担当者の三者で、研修の課題、後半の研修の目標の設定を行う。		
第12回	【研修先が指定】インターン研修	研修日毎に報告書の作成と、過去分も含めた清書をおこない出力して提出準備をおこないます。	4時間
	研修期間:10～16日以上 8時間(80時間以上) 研修先での実習 後半		
第13回	【9月上旬】研修の振り返り、グループ・ディスカッション	研修報告プレゼンテーションの作成(パワーポイントにて)をおこないます。	4時間
	研修先でのことを振り返り他学生との共有化をする。研修報告プレゼンテーションについてガイダンスをおこないます。		
第14回	研修報告報告プレゼンテーションの準備	研修報告プレゼンテーションの内容指導を元にしたプレゼンテーション作成と完成。	4時間
	研修報告プレゼンテーションの内容指導をおこないます。		
第15回	【9月中旬】研修報告プレゼンテーション(総括)	自身や他学生のプレゼンテーションを元にした、振り返りをおこないます。	4時間
	研修報告プレゼンテーションの実施をおこないます。研修で問題点を明確にし、今後の課題の発見し書き留めましょう。最終ルーブリックの実施、振り返りシートの作成、学修成果の可視化(ポートフォリオ)(期末試験として評価する)		

授業科目名	インターンシップ1				
担当教員名	島雅則・中野毅・小田勇樹・坂中勇亮				
学年・コース等	2年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

本科目は、1. 大学における学修と社会での経験とを結びつけることで、大学における学修を深化させ新たな学習意欲を喚起すること、2. 自己の職業適性や将来設計について考える機会を得て主体的な職業選択の意識を育むこと、を目的としています。事前学習では、実習先企業・団体の概要調査や業界研究、マナー研修などを行います。実習先企業・団体では、受け入れ先企業・団体のプログラムに従って、約10日間の実習に取り組みます。事後学習では、研修結果を振り返り履修生同士での意見交換を行うとともに、報告会にて発表を行います。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1. 幅広い教養やスキル	基本的マナー	社会において働く上で必要なマナーを身につける。
2. DP2. 専門的知識・技能、職業理解	職業知識	実習先の職業についての基本的な知識を身につける。
汎用的な力		
1. DP4. 課題発見		企業や団体の情報を正確に調べることができる。
2. DP6. 行動・実践		基本的なマナーを身につけ、企業や団体において休むことなく実習に参加できる。
3. DP8. 意思疎通		企業や団体の担当者、及び大学の担当教員との適切な報告・連絡・相談を行うことができる。
4. DP8. 意思疎通		大人数の前での約10分の報告をわかりやすく行うことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行いません。特に、実習中及び報告会の欠席は厳禁です。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
事前・事後レポート	10% ： 受け入れ企業への就業体験の目的観の把握の具合、および受け入れ企業や関連業界への事前調査の内容。就業体験内容の整理と、習得した知識・技能並びに自らの課題の明確化。目的観の成長度合い。
受け入れ企業による評価表	60% ： 受け入れ企業での就業態度や業務の理解と遂行、その際の自己の役割認識や協同・連携の度合い。
発表会での発表	15% ： 自身の学習内容と課題をインターンシップでの活動内容を結び付けた形で、分かりやすく伝えているかどうか。
期末レポート	15% ： レポートテーマは授業時間内に通知する。記述の充実度と論理性及び説得性という観点から3段階で評価を行う。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

- ・『会社四季報 業界地図』（東洋経済新報）や『日経業界地図』（日本経済新聞）などの業界地図
- ・各企業のウェブサイトや有価証券報告書

履修上の注意・備考・メッセージ

1. 本科目は2単位の科目であるため、全体で90時間の学修が求められます。
2. 実習参加にあたっては、アドバイザー教員の推薦を得るとともに、学内選考（書類・面接）を通過する必要があります。場合によっては、受入先企業等の面接等が実施されることもあります。
3. 事後学修集中講義は夏季休暇中や土曜日にも実施されます。あらかじめ日程を確認し、必ず出席してください。
4. インターンシップ報告会で報告を行わなかった場合、原則として成績評価を行いません。
5. マナー研修やインターンシップ報告会、及びそのリハーサルはスーツ着用です。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 担当によって異なる（初回授業で案内）
 場所： 担当教員の研究室
 備考・注意事項： 担当教員のオフィスアワーにおいて質問・相談などを受け付けます。

授業計画

第1回	ガイダンスーインターンシップの意義 インターンシップの歴史について学び、自分がインターンシップに参加する目的について考えます。	体験希望先の企業について調べ、学内面接の準備を行う	授業外学修課題にかかる目安の時間 4時間
-----	---	---------------------------	-------------------------

第2回	企業研究 企業の強み・弱みや企業を取り巻く環境について考えます。	実習体験先企業の強みについて、競合他社と比較しながらまとめる	4時間
第3回	他者に見せる自分 自分をどのような者として他者に紹介するかを考えます。また、その検討を踏まえた名刺を作成します。 ※この日、事前学修レポート課題について発表します。	事前学修レポートを作成し、提出する	4時間
第4回	マナー研修 1 社会人マナーの意義 社会人としての基本的マナーについて学び、その意義を考えます。(スーツ着用) ※この授業は講師のスケジュールにより日程が変更されることがあります。	学んだマナーについて振り返るとともに、日常的に実践する	4時間
第5回	マナー研修 2 社会人マナーの実践 社会人としての基本的マナーを実践する際の心構えやポイントについて学びます。(スーツ着用) ※この授業は講師のスケジュールにより日程が変更されることがあります。	学んだマナーについて振り返るとともに、日常的に実践する	4時間
第6回	情報のやり取りのポイント 企業人とやり取りを行うためのメールの書き方や、情報のまとめ方について学びます。 また、企業の事前訪問について学びます。	自己紹介の練習(授業内で撮影したビデオも参照しながら)	4時間
第7回	就業体験(実習) 1 就業体験(実習)を行います。	就業体験日誌を記入し、受け入れ先の担当の方からコメントをいただく	4時間
第8回	就業体験(実習) 2 就業体験(実習)を行います。	就業体験日誌を記入し、受け入れ先の担当の方からコメントをいただく	4時間
第9回	就業体験(実習) 3 就業体験(実習)を行います。(合計で原則70時間)	就業体験日誌を記入し、受け入れ先の担当の方からコメントをいただく。お礼状の下書きを担当教員のチェックを受け、就業体験後5日以内に送付する	4時間
第10回	就業体験の共有(事後学修 1) 各自の就業体験について、学生同士で共有しディスカッションを通じて相互検討を行います。	授業での検討とアドバイスに基づき、自身の就業体験を整理し、報告書作成のための骨子をまとめる	4時間
第11回	報告書の作成(事後学修 2) 就業体験報告書の案についてグループで共有、相互に評価しあい、体験について総合的に振り返ります。	担当教員の個別指導を受け、就業体験報告書を完成、提出する	4時間
第12回	発表の準備と練習 1 回目 担当教員のアドバイスを受けながら、発表用のスライドを作成する。	発表用スライドを完成させ、プレゼン練習に取りかかる	4時間
第13回	発表の準備と練習 2 回目 プレゼン資料の再確認後、1回目のリハーサルを行い、学生相互にアドバイスを出し合います。	指摘された点を修正するとともに、改めて発表練習を行う	4時間
第14回	報告会リハーサル 本番を想定した報告会の最終リハーサルを行い、教員のコメントとともに、学生相互でもアドバイスを出し合います。(スーツ着用)	報告会に向けての準備(時間を計って発表練習を複数回行うこと。また、適宜スライドを修正すること)	4時間
第15回	インターンシップ報告会 学部1・2回生の前でインターンシップの体験報告を行います。また、他の学生の発表を聞き、自らの経験と関連させ、学びを深めます。(スーツ着用)	担当教員の個別指導のもと、インターンシップ全体の振り返りを行う	4時間

授業科目名	インターンシップ2				
担当教員名	島雅則・中野毅・小田勇樹・坂中勇亮				
学年・コース等	3年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

本科目は、1. 大学における学修と社会での経験とを結びつけることで、大学における学修を深化させ新たな学習意欲を喚起すること、2. 自己の職業適性や将来設計について考える機会を得て主体的な職業選択の意識を育むこと、を目的としています。事前学習では、実習先企業・団体の概要調査や業界研究、マナー研修などを行います。実習先企業・団体では、受け入れ先企業・団体のプログラムに従って、約10日間の実習に取り組みます。事後学習では、研修結果を振り返り履修生同士での意見交換を行うとともに、報告会にて発表を行います。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1. 幅広い教養やスキル	基本的マナー	社会において働く上で必要なマナーを身につける。
2. DP2. 専門的知識・技能、職業理解	職業知識	実習先の職業についての基本的な知識を身につける。
汎用的な力		
1. DP4. 課題発見		企業や団体の情報を正確に調べることができる。
2. DP6. 行動・実践		基本的なマナーを身につけ、企業や団体において休むことなく実習に参加できる。
3. DP8. 意思疎通		企業や団体の担当者、及び大学の担当教員との適切な報告・連絡・相談を行うことができる。
4. DP8. 意思疎通		大人数の前での約10分の報告をわかりやすく行うことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行いません。特に、実習中及び報告会の欠席は厳禁です。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
事前・事後レポート	： 受け入れ企業への就業体験の目的観の把握の具合、および受け入れ企業や関連業界への事前調査の内容。就業体験内容の整理と、習得した知識・技能並びに自らの課題の明確化。目的観の成長度合い。
受け入れ企業による評価表	： 受け入れ企業での就業態度や業務の理解と遂行、その際の自己の役割認識や協同・連携の度合い。
発表会での発表	： 自身の学習内容と課題をインターンシップでの活動内容を結び付けた形で、分かりやすく伝えているかどうか。
期末レポート	： レポートテーマは授業時間内に通知する。記述の充実度と論理性及び説得性という観点から3段階で評価を行う。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

- ・『会社四季報 業界地図』（東洋経済新報）や『日経業界地図』（日本経済新聞）などの業界地図
- ・各企業のウェブサイト並びに有価証券報告書

履修上の注意・備考・メッセージ

1. 本科目は2単位の科目であるため、全体で90時間の学修が求められます。
2. 実習参加にあたっては、アドバイザー教員の推薦を得るとともに、学内選考（書類・面接）を通過する必要があります。場合によっては、受入先企業等の面接等が実施されることもあります。
3. 事後学修集中講義は夏季休暇中や土曜日にも実施されます。あらかじめ日程を確認し、必ず出席してください。
4. インターンシップ報告会で報告を行わなかった場合、原則として成績評価を行いません。
5. マナー研修やインターンシップ報告会、及びそのリハーサルはスーツ着用です。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 担当によって異なる（初回授業で案内）
 場所： 担当教員の研究室
 備考・注意事項： 担当教員のオフィスアワーにおいて質問・相談などを受け付けます。

授業計画

第1回	ガイダンスーインターンシップの意義 インターンシップの歴史について学び、自分がインターンシップに参加する目的について考えます。	体験希望先の企業について調べ、学内面接の準備を行う	授業外学修課題にかかる目安の時間 4時間
-----	---	---------------------------	-------------------------

第2回	企業研究 企業の強み・弱みや企業を取り巻く環境について考えます。	実習体験先企業の強みについて、競合他社と比較しながらまとめる	4時間
第3回	他者に見せる自分 自分をどのような者として他者に紹介するかを考えます。また、その検討を踏まえた名刺を作成します。 ※この日、事前学修レポート課題について発表します。	事前学修レポートを作成し、提出する	4時間
第4回	マナー研修 1 社会人マナーの意義 社会人としての基本的マナーについて学び、その意義を考えます。(スーツ着用) ※この授業は講師のスケジュールにより日程が変更されることがあります。	学んだマナーについて振り返るとともに、日常的に実践する	4時間
第5回	マナー研修 2 社会人マナーの実践 社会人としての基本的マナーを実践する際の心構えやポイントについて学びます。(スーツ着用) ※この授業は講師のスケジュールにより日程が変更されることがあります。	学んだマナーについて振り返るとともに、日常的に実践する	4時間
第6回	情報のやり取りのポイント 企業人とやり取りを行うためのメールの書き方や、情報のまとめ方について学びます。 また、企業の事前訪問について学びます。	自己紹介の練習(授業内で撮影したビデオも参照しながら)	4時間
第7回	就業体験(実習) 1 就業体験(実習)を行います。	就業体験日誌を記入し、受け入れ先の担当の方からコメントをいただく。	4時間
第8回	就業体験(実習) 2 就業体験(実習)を行います。	就業体験日誌を記入し、受け入れ先の担当の方からコメントをいただく。	4時間
第9回	就業体験(実習) 3 就業体験(実習)を行います。(合計で原則70時間)	就業体験日誌を記入し、受け入れ先の担当の方からコメントをいただく。お礼状の下書きを担当教員のチェックを受け、就業体験後5日以内に送付する	4時間
第10回	就業体験の共有(事後学修 1) 各自の就業体験について、学生同士で共有しディスカッションを通じて相互検討を行います。	授業での検討とアドバイスに基づき、自身の就業体験を整理し、報告書作成のための骨子をまとめる	4時間
第11回	報告書の作成(事後学修 2) 就業体験報告書の案についてグループで共有、相互に評価しあい、体験について総合的に振り返ります。	担当教員の個別指導を受け、就業体験報告書を完成、提出する	4時間
第12回	発表の準備と練習 1回目 担当教員のアドバイスを受けながら、発表用のスライドを作成する。	発表用スライドを完成させ、プレゼン練習に取りかかる	4時間
第13回	発表の準備と練習 2回目 プレゼン資料の再確認後、1回目のリハーサルを行い、学生相互にアドバイスを出し合います。	指摘された点を修正するとともに、改めて発表練習を行う	4時間
第14回	報告会リハーサル 本番を想定した報告会の最終リハーサルを行い、教員のコメントとともに、学生相互でもアドバイスを出し合います。(スーツ着用)	報告会に向けての準備(時間を計って発表練習を複数回行うこと。また、適宜スライドを修正すること)	4時間
第15回	インターンシップ報告会 学部1・2回生の前でインターンシップの体験報告を行います。また、他の学生の発表を聞き、自らの経験と関連させ、学びを深めます。(スーツ着用)	担当教員の個別指導のもと、インターンシップ全体の振り返りを行う	4時間

授業科目名	キャリア演習1				
担当教員名	東出加奈子・島雅則・大島博文・岩田慎太郎				
学年・コース等	4	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	就業活動・ビジネススキルの実践的な講義と演習の組み合わせを通してキャリア教育を図る。				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

ビジネススキル・ヒューマンスキル向上に役立つよう、文書の書き方、グループ討議などのコミュニケーションスキルの修得を目的とします。また、就職活動や社会人に求められるビジネスマナーについても修得するとともに、法律や社会の規範、ルールを守ることの重要性を理解します。社会の変化に対応できるよう情報を分析し活用するスキルを身につけ、積極性かつ自主性が発揮できるよう、社会的にも職業的にも自立したキャリア形成を目指します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

ビジネススキルの実践力

目標：

社会人に求められるコミュニケーション、ビジネス文書、基礎的能力を身につけることができる。

汎用的な力

- DP6. 行動・実践
- DP8. 意思疎通
- DP9. 役割理解・連携行動
- DP10. 忠恕の心

企業や学外の人と積極的に関わることができる。

言語・非言語のコミュニケーションスキルを向上することができる。

チームやグループの活動における役割を果たすことができる。

道徳と思いやりを持ち、真剣に取り組む姿勢を身につけることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。
規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

毎回のワークシート	30%	： 内容の妥当性と、独自の見解で事例を示すなどで論じられているかどうか評価します。
中間・期末小テスト	40%	： 社会人に必要なビジネススキルの修得に基づき評価します。
特別講義のレポート	10%	： 内容の妥当性と論理的構成について、独自の視点で述べられているかどうか評価します。
試験（レポート）	20%	： 授業で学んだことに関する理解度を評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

就職部で配布される「就職ガイドブック」を使用するので、持参すること。
そのほか、授業内で適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 東出：水曜4限、島：月曜2限、岩田：授業の前後
場所： 東出、島：研究室（西館2階）、岩田：授業の教室
備考・注意事項： どちらの教員に相談してもかまわない。

授業計画

回数	授業内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	オリエンテーションと就職活動について キャリア演習1の進め方についてガイダンスを行います。 就業活動の流れとスケジュールを確認します。 業界、職種について理解します。	就職希望先の企業に関する情報を整理してください 4時間
第2回	業界研究① 情報収集 就業希望企業の理解を深めます。 それに応じた自己紹介や関連資料の記述を行います。 企業勤務の経験者からの説明により、社会人に求められる能力を理解します。	自身の就職活動、就職先企業に関する情報を整理してください 4時間
第3回	グループディスカッションの実践	配布資料の復習とコミュニケーションについて調べてください 4時間

	企業選考や仕事につながる「グループディスカッション」について基本的な方法を理解し実践できるように目指します。		
第4回	SWOT分析 自身のSWOT分析から、卒業後の目標設定までを考えます。ケーススタディから社会で活躍するための実践を学びます。	就職活動、就職先企業に関する情報を整理してください	4時間
第5回	ビジネス文書① 就業活動、社会人として必要となるビジネス文書の書き方について実践を行います。文書と封筒について学びます。	ビジネス文書用語を調べてください	4時間
第6回	企業理解① 実務 企業経験の方から会社の実務についてお話を聞きます。社会人に求められるスキルを学びます。	業界研究、企業の情報を収集してください	4時間
第7回	ビジネス文書②メール ビジネスにおけるメールの基本を学びます。ビジネスで活かせる文章力、表現力を学びます。	自身で文書を書いて読み直してください	4時間
第8回	ビジネスマナー実践 中間レポート これまで学んだビジネスパーソンに求められる内容について中間レポートを提出します。電話のマナー、名刺の取り扱いなどの実践を学びます。	業界研究、企業の情報を整理してください	4時間
第9回	会社関係でのコミュニケーション 取引先とのコミュニケーションを理解します。コンピテンシー理論によるケーススタディを通してビジネスでの実践を学びます。	就職セミナーや企業説明会への参加を通してビジネスマナーを実践してください	4時間
第10回	業界研究② 取引先の理解 就職希望先、就業内定企業について理解を深めます。企業勤務の経験者からの説明により、社会人に求められる能力を理解します。	就職セミナーや企業説明会への参加により企業の情報を整理してください	4時間
第11回	グループワーク実践 グループワークを自ら実践することで、自身の役割を理解し、他者とのコミュニケーション能力の向上を目指します。	自身のコンピテンシーを振り返り確認してください	4時間
第12回	企業理解② 特別講義 企業の方を招聘してお話を聞きます。企業の実態について学びます。特別講義を通して考えたことを自身の言葉でレポートに書きます。	就職セミナーや企業説明会への参加により企業の情報を整理してください	4時間
第13回	ライフプランニングと資金計画 社会や企業のお金の流れについて理解します。自身の資金計画をたてます。ライフプランニングがシミュレーションできるように知識を深めます。	どのようなライフスタイルを選択するのか考えてください	4時間
第14回	社会保険と税金・労働基準法 社会保障制度における社会保険を理解します。税金の種類と給与のしくみについて学びます。労働基準法を理解して働き方を考えます。	給与から何が引かれるのか調べてください	4時間
第15回	まとめおよび卒業後のキャリアを考える 卒業後のキャリアビジョンを考えます。授業全体を通して、自立した社会人になるために、仕事で実践する力、協働できる素養が修得できたかどうか、最終レポートにまとめ提出します。	復習とふりかえりを行ってください	4時間

授業科目名	企業インターンシップ I				
担当教員名	米田 薫				
学年・コース等	2年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	演習、学内での事前学習を経て、インターンシップ生として実際の企業等の現場において就業体験を積む。体験活動終了後は事後指導において体験を基にして成果発表を行う。				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

本科目は、企業就職をめざす学生を対象に、企業の有り方やその仕事の仕組みや流れ、組織の関係等に関する理解を、企業の現場での業務の実体験を通じて深めることを目的とする。事前事後学習でキャリア形成の課題を明確にし、就職に対する心構えを高めたい。事前学で各自の実習目標を明らかにすると共に、社会人に求められるマナーやスキルについて学ぶ。事後学習では体験レポート作成と報告会を通して総括し、今後の課題の明確化を図る。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	実際に企業現場に身を置くことによって、求められる専門的な知識や技能を理解し、また日常的な業務内容にも理解を深める。	社会人として求められる専門的な知識や技能を的確に述べることができ、そして実際に活用できる。
汎用的な力		
1 . DP4. 課題発見		求められる専門的な知識や技能について、自身の課題を見出すことができる。
2 . DP8. 意思疎通		他者の意見を尊重しながら積極的にコミュニケーションを図ることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

取り組みの状況	30%	： 授業への意欲・態度、課題に対する成果内容、就業日誌の記入内容の各観点から評価する。
成果発表内容	30%	： 就業体験が真摯に総括され、今後の課題が明確になっているかという観点から評価する。
期末レポート	40%	： 自身の課題を明確化している、課題克服のための方法を把握している、今後の学修に展望を持つことができている、の各観点から評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業時に適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	木曜2講時
場所：	中央館5階127研究室
備考・注意事項：	質問は、Eメール（アドレス：yoneda@osaka-seikei.ac.jp）でも対応する。件名に「企業インタ I 質問：〇〇（送信者の氏名）」とした上で、本文に送信者の所属学部、学籍番号、名前を明記すること。

授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	ガイダンスー本授業の目標・内容・評価等について 本授業の目標・内容・評価等を確認する。	各自の目標を明確にする。 4時間
第2回	事前学習（1）ーインターンシップ先の研究 これから実習を行うインターンシップ先（業界や企業概要等）についてリサーチし、発表する。	インターンシップ先の調査を行う。 4時間
第3回	事前学習（2）ー社会人に求められる力とは① 経済産業省の示す社会人基礎力について、特に定義づけに至る経緯と意義を理解する。	社会人基礎力の概略について調べておく。 4時間
第4回	事前学習（3）ー社会人に求められる力とは② 社会人基礎力を構成する3つの能力と12の能力要素を理解し、これらを基にして各自の課題を明確にする。	社会人基礎力の具体的な内容について調べておく。 4時間
第5回	事前学習（4）ー集中ビジネスマナー講習①	特に事後学習として、日常的にマナーを意識して生活する。 4時間

	社会人に必要なマナーを習得する。		
第6回	事前学習（5）－集中ビジネスマナー講習② 社会人に必要なマナーを習得する。	特に事後学習として、日常的にマナーを意識して生活する。	4時間
第7回	事前学習（6）－ディスカッション（テーマ：インターンシップの目標） 各自がインターンシップでの目標や課題を発表し、相互に課題意識を高める。	これまでの事前学習をもとにして、実習での目標を明確にしておく。	4時間
第8回	インターンシップ実習（1） 各インターンシップ先での実習に取り組む。	インターンシップ先で指示された課題に取り組む。	4時間
第9回	インターンシップ実習（2） 各インターンシップ先での実習に取り組む。	インターンシップ先で指示された課題に取り組む。	4時間
第10回	インターンシップ実習（3） 各インターンシップ先での実習に取り組む。	インターンシップ先で指示された課題に取り組む。	4時間
第11回	インターンシップ実習（4） 各インターンシップ先での実習に取り組む。	インターンシップ先で指示された課題に取り組む。	4時間
第12回	インターンシップ実習（5） 各インターンシップ先での実習に取り組む。	インターンシップ先で指示された課題に取り組む。	4時間
第13回	インターンシップ実習（6） 各インターンシップ先での実習に取り組む。	インターンシップ先で指示された課題に取り組む。	4時間
第14回	事後学習（1）－実習の振り返り（レポート作成） 社会人基礎力の各能力及び各要素を基にして実習の振り返りを行う。	実習体験を真摯に振り返り、得られた成果及び課題を明確にしておく。	4時間
第15回	事後学習（2）－成果発表とディスカッション（テーマ：今後の学生生活における私の課題） 実習での成果及び見出した課題を交流し、今後へ向けて課題意識を高める。	他の受講生の発表内容を参考にして、今後の課題をさらに明確にする。	4時間

授業科目名	企業インターンシップⅡ				
担当教員名	米田 薫				
学年・コース等	3年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	演習、学内での事前学習を経て、インターンシップ生として実際の企業等の現場において就業体験を積む。体験活動終了後は事後指導において体験を基にして成果発表を行う。				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

本科目は、企業インターンシップⅠを受講した学生を対象に、Ⅰでの学びを基に、さらに企業の有り方やその仕事の仕組みや流れ、組織の関係等に関する理解を深めることを目的とする。実習の事前事後学習でキャリア形成の課題を明確にし、就職に対する心構えを高めたい。事前学習で各自の実習目標を明らかにすると共に、社会人に求められるマナーやスキルについて学ぶ。事後学習では体験レポート作成と報告会を通して総括し、今後の課題の明確化を図る。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	実際に企業現場に身を置くことによって、求められる専門的な知識や技能を理解し、また日常的な業務内容にも理解を深める。	社会人として求められる専門的な知識や技能を的確に述べることができ、そして実際に活用できる。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		求められる専門的な知識や技能について、自身の課題を見出すことができる。
2．DP8. 意思疎通		他者の意見を尊重しながら積極的にコミュニケーションを図ることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

取り組みの状況	40%	： 授業への意欲・態度、課題に対する成果内容、就業日誌の記入内容の各観点から評価する。
成果発表内容	30%	： 就業体験が真摯に総括され、今後の課題が明確になっているかという観点から評価する。
期末レポート	30%	： 自身の課題を明確化している、課題克服のための方法を把握している、今後の学修に展望を持つことができている、の各観点から評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業時に適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	木曜2講時
場所：	中央館5階127研究室
備考・注意事項：	質問は、Eメール（アドレス：yoneda@osaka-seikei.ac.jp）でも対応する。件名に「企業インタⅡ質問：〇〇（送信者の氏名）」とした上で、本文に送信者の所属学部、学籍番号、名前を明記すること。

授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	ガイダンス—本授業の目標・内容・評価等について 本授業の目標・内容・評価等を確認する。	各自の目標を明確にしておく。 4時間
第2回	事前学習（1）—インターンシップ先の研究 これから実習を行うインターンシップ先（業界や企業概要等）についてリサーチし、発表する。	インターンシップ先の調査を行っておく。 4時間
第3回	事前学習（2）—社会人に求められる力とは① 経済産業省の示す社会人基礎力について、特に定義づけに至る経緯と意義を理解する。	社会人基礎力の概略について調べておく。 4時間
第4回	事前学習（3）—社会人に求められる力とは② 社会人基礎力を構成する3つの能力と12の能力要素を理解し、これらを基にして各自の課題を明確にする。	社会人基礎力の具体的な内容について調べておく。 4時間
第5回	事前学習（4）—集中ビジネスマナー講習①	特に事後学習として、日常的にマナーを意識して生活する。 4時間

	社会人に必要なマナーを習得する。		
第6回	事前学習（5）—集中ビジネスマナー講習② 社会人に必要なマナーを習得する。	特に事後学習として、日常的にマナーを意識して生活する。	4時間
第7回	事前学習（6）—ディスカッション（テーマ：インターンシップの目標） 各自がインターンシップでの目標や課題を発表し、相互に課題意識を高める。	これまでの事前学習をもとにして、実習での目標を明確にしておく。	4時間
第8回	インターンシップ実習（1） 各インターンシップ先での実習に取り組む。	インターンシップ先で指示された課題に取り組む。	4時間
第9回	インターンシップ実習（2） 各インターンシップ先での実習に取り組む。	インターンシップ先で指示された課題に取り組む。	4時間
第10回	インターンシップ実習（3） 各インターンシップ先での実習に取り組む。	インターンシップ先で指示された課題に取り組む。	4時間
第11回	インターンシップ実習（4） 各インターンシップ先での実習に取り組む。	インターンシップ先で指示された課題に取り組む。	4時間
第12回	インターンシップ実習（5） 各インターンシップ先での実習に取り組む。	インターンシップ先で指示された課題に取り組む。	4時間
第13回	インターンシップ実習（6） 各インターンシップ先での実習に取り組む。	インターンシップ先で指示された課題に取り組む。	4時間
第14回	事後学習（1）—実習の振り返り（レポート作成） 社会人基礎力の各能力及び各能力要素を基に振り返りを行う。	実習体験を真摯に振り返り、得られた成果及び課題を明確にしておく。	4時間
第15回	事後学習（2）—成果発表とディスカッション（テーマ：今後の学生生活における私の課題） 実習での成果及び見出した課題を交流し、今後へ向けて課題意識を高める。	他の受講生の発表内容を参考にして、今後の課題をさらに明確にする。	4時間